

令和2年度における環境調査の結果等について
【長野県】

令和3年6月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
1 概要	1-1-1
1-1 本書の概要	1-1-1
1-2 事業の実施状況	1-2-1
2 事後調査	2-1-1
2-1 水資源（山岳トンネル）	2-1-1
2-1-1 調査方法	2-1-1
2-1-2 調査地点	2-1-1
2-1-3 調査期間	2-1-11
2-1-4 調査結果	2-1-11
2-2 動物	2-2-1
2-2-1 希少猛禽類の生息状況	2-2-1
2-2-2 照明漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況	2-2-3
2-3 植物	2-3-1
2-3-1 調査項目	2-3-1
2-3-2 調査方法	2-3-1
2-3-3 調査地点	2-3-1
2-3-4 調査期間	2-3-2
2-3-5 移植後の生育状況	2-3-2
2-4 その他（発生土置き場等）	2-4-1
2-4-1 大鹿村内発生土仮置き場	2-4-1
2-4-2 豊丘村内発生土置き場（本山）	2-4-3
2-4-3 大鹿村内発生土置き場（旧荒川荘）	2-4-8
2-4-4 大鹿村内発生土置き場（青木川）	2-4-10
2-4-5 豊丘村内発生土置き場（戸中）	2-4-20
3 モニタリング	3-1-1
3-1 大気質	3-1-1
3-1-1 調査項目	3-1-1
3-1-2 調査方法	3-1-1
3-1-3 調査地点	3-1-1
3-1-4 調査期間	3-1-4
3-1-5 調査結果	3-1-5

3-2	水質	3-2-1
3-2-1	調査項目	3-2-1
3-2-2	調査方法	3-2-1
3-2-3	調査地点	3-2-2
3-2-4	調査期間	3-2-8
3-2-5	調査結果	3-2-9
3-3	水底の底質	3-3-1
3-3-1	調査項目	3-3-1
3-3-2	調査方法	3-3-1
3-3-3	調査地点	3-3-2
3-3-4	調査期間	3-3-4
3-3-5	調査結果	3-3-5
3-4	水資源（切土工等）	3-4-1
3-4-1	調査項目	3-4-1
3-4-2	調査方法	3-4-1
3-4-3	調査地点	3-4-1
3-4-4	調査期間	3-4-3
3-4-5	調査結果	3-4-3
3-5	水資源（山岳トンネル）	3-5-1
3-5-1	調査項目	3-5-1
3-5-2	調査方法	3-5-1
3-5-3	調査地点	3-5-2
3-5-4	調査期間	3-5-14
3-5-5	調査結果	3-5-15
3-6	土壌汚染	3-6-1
3-6-1	調査項目	3-6-1
3-6-2	調査方法	3-6-1
3-6-3	調査地点	3-6-1
3-6-4	調査期間	3-6-3
3-6-5	調査結果	3-6-3
3-7	その他（発生土置き場等）	3-7-1
3-7-1	大鹿村内発生土仮置き場A、B、E	3-7-1
3-7-2	大鹿村内発生土置き場（青木川）	3-7-20
3-7-3	豊丘村内発生土置き場（本山）	3-7-35
3-7-4	豊丘村内発生土仮置き場（坂島）	3-7-39
3-7-5	豊丘村内発生土置き場（戸中）	3-7-49
3-7-6	喬木村内発生土置き場（堰下）	3-7-50

4 環境保全措置の実施状況	4-1-1
4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置.....	4-1-1
4-1-1 南アルプストンネル（長野工区）	4-1-1
4-1-2 伊那山地トンネル（青木川工区）	4-1-10
4-1-3 伊那山地トンネル（坂島工区）	4-1-18
4-1-4 伊那山地トンネル（戸中・壬生沢工区）	4-1-23
4-1-5 天竜川橋りょうほか.....	4-1-26
4-1-6 中央アルプストンネル（松川）外.....	4-1-29
4-1-7 中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）	4-1-34
4-1-8 中央アルプストンネル（尾越）	4-1-39
4-1-9 発生土置き場・仮置き場	4-1-42
4-1-10 仮置き場（遮水型）	4-1-47
4-2 代替巢の設置	4-2-1
4-3 重要な種の移設	4-3-1
4-4 重要な種の移植・播種	4-4-1
5 その他特に実施した調査	5-1-1
5-1 希少猛禽類の継続調査	5-1-1
5-1-1 調査項目	5-1-1
5-1-2 調査方法	5-1-1
5-1-3 調査地点	5-1-1
5-1-4 調査期間	5-1-2
5-1-5 調査結果	5-1-2
6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績	6-1-1
6-1 廃棄物等	6-1-1
6-1-1 集計項目	6-1-1
6-1-2 集計方法	6-1-1
6-1-3 集計対象箇所	6-1-1
6-1-4 集計期間	6-1-1
6-1-5 集計結果	6-1-1
6-2 温室効果ガス	6-2-1
6-2-1 集計項目	6-2-1
6-2-2 集計方法	6-2-1
6-2-3 集計対象箇所	6-2-1
6-2-4 集計期間	6-2-1
6-2-5 集計結果	6-2-1

7 業務の委託先	7-1
参考資料1：騒音・振動の簡易計測	参1-1
参考資料2：事業の実施状況	参2-1
2-1 トンネルの施工状況	参2-1
2-2 トンネル湧水等の状況	参2-2
2-3 建設発生土の主な搬出先と土量	参2-6
非公開版	(別冊)

1 概要

1-1 本書の概要

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【長野県】平成26年8月（以下、「評価書」という。）」及び「『評価書』に基づく事後調査計画書（平成26年11月）（以下、「事後調査計画書」という。）」に基づいて、令和2年度に実施した事後調査、モニタリング及び環境保全措置の実施状況について取りまとめ、報告するものである。

1-2 事業の実施状況

令和2年度における、長野県内の事業の実施状況は以下のとおりである。

大鹿村の南アルプストンネル（長野工区）については、除山非常口及び釜沢非常口から非常口トンネル、小渋川非常口から先進坑の掘削を施工した。県道253号赤石岳公園線の改良及び国道152号の迂回路の新設については、工事が完了した。また、伊那山地トンネル（青木川工区）については、青木川非常口から非常口トンネルの掘削を施工したほか、国道152号の改良工事を施工した。

豊丘村の伊那山地トンネル（坂島工区）については、坂島非常口の工事施工ヤードの整備工事を施工した。発生土置き場（本山）については、準備工事を施工した。また、伊那山地トンネル（戸中・壬生沢工区）については、戸中非常口の工事施工ヤードの整備工事、発生土置き場（戸中）の準備工事を施工した。村道佐原線及び村道中央横断線等については、改良工事を施工した。

喬木村の地上部において用地取得を進めた。また、天竜川橋りょうほか新設工事については、豊丘村、喬木村、高森町及び飯田市において準備工事を施工した。

飯田市の地上部において用地取得を進めるとともに、風越山トンネル（上郷）^注については、3月に工事契約を行った。また、中央アルプストンネル（松川）外^注については、引き続き工事施工ヤード及び工事用道路の整備工事を施工するとともに、県道飯田南木曾線の拡幅工事及び市道大休妙琴線の待避所整備工事を施工し、黒田非常口については3月に工事説明会を実施した。

阿智村の中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）^注のうち萩の平非常口については、道路改良（準備工）を施工した。

南木曾町の中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）^注のうち広瀬非常口については、工事施工ヤードの整備及び町道棚橋線の改良工事を施工した。また、中央アルプストンネル（尾越）^注については、町道起線の改良工事を施工した。

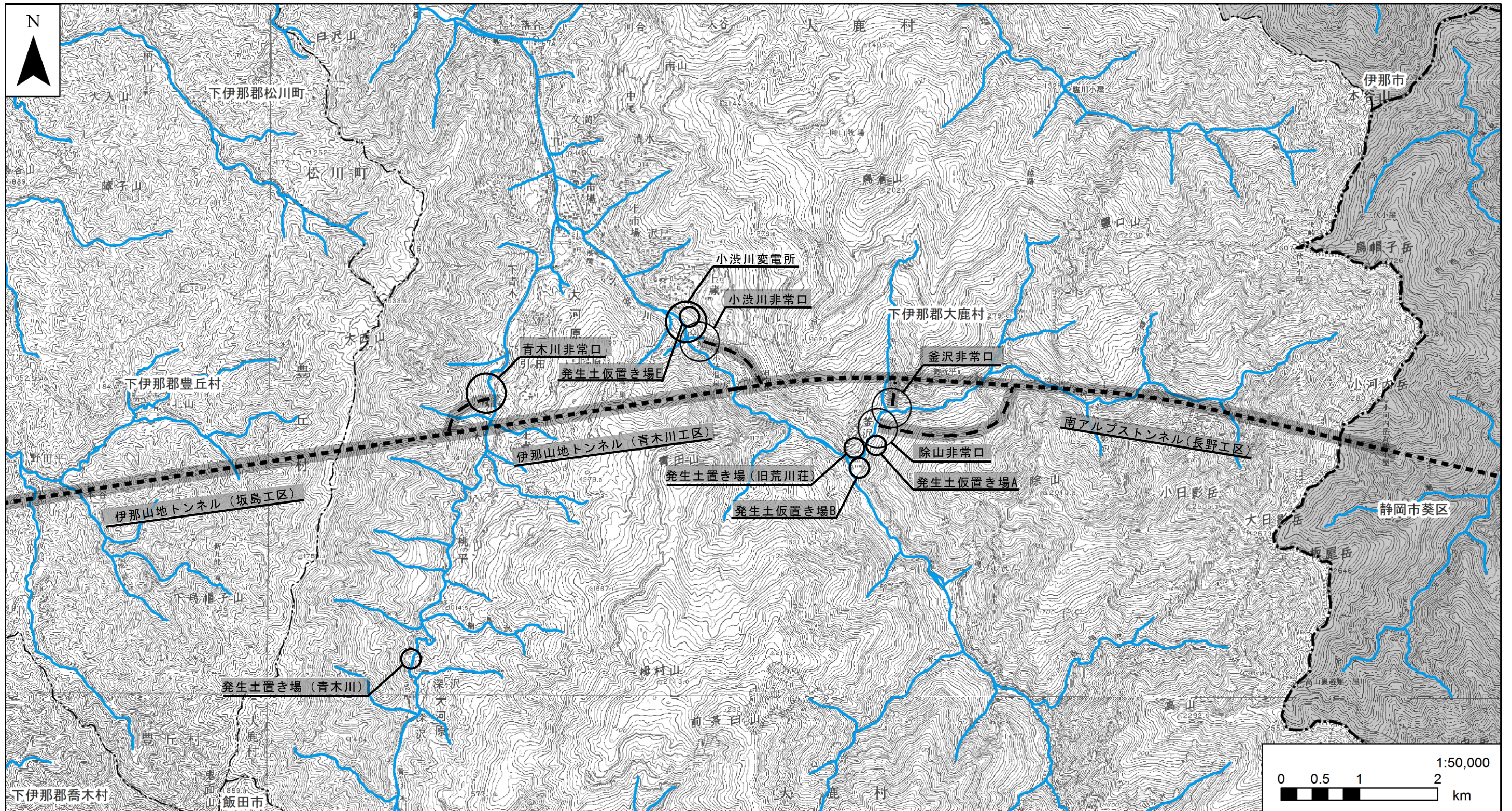
建設発生土については、公共事業等として、飯田市が実施している代替地整備事業及び喬木村が実施している工場団地造成事業に活用した。また、当社が計画・設置する主な発生土置き場（発生土仮置き場を含む）として、大鹿村内の発生土置き場（青木川）、豊丘村内の発生土置き場（本山）及び喬木村内の発生土置き場（堰下）に活用したほか、大鹿村内の発生土仮置き場A、B、E及び豊丘村内の発生土置き場（本山）仮置きヤードに存置している。

令和2年度の工事の実施状況を表1-2-1に示す。また、工事の実施箇所を図1-2-1に示す。南アルプストンネル（長野工区）における詳細を図1-2-2に示す。

注：本工事は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、「鉄道・運輸機構」という。）に委託し、鉄道・運輸機構が実施する。

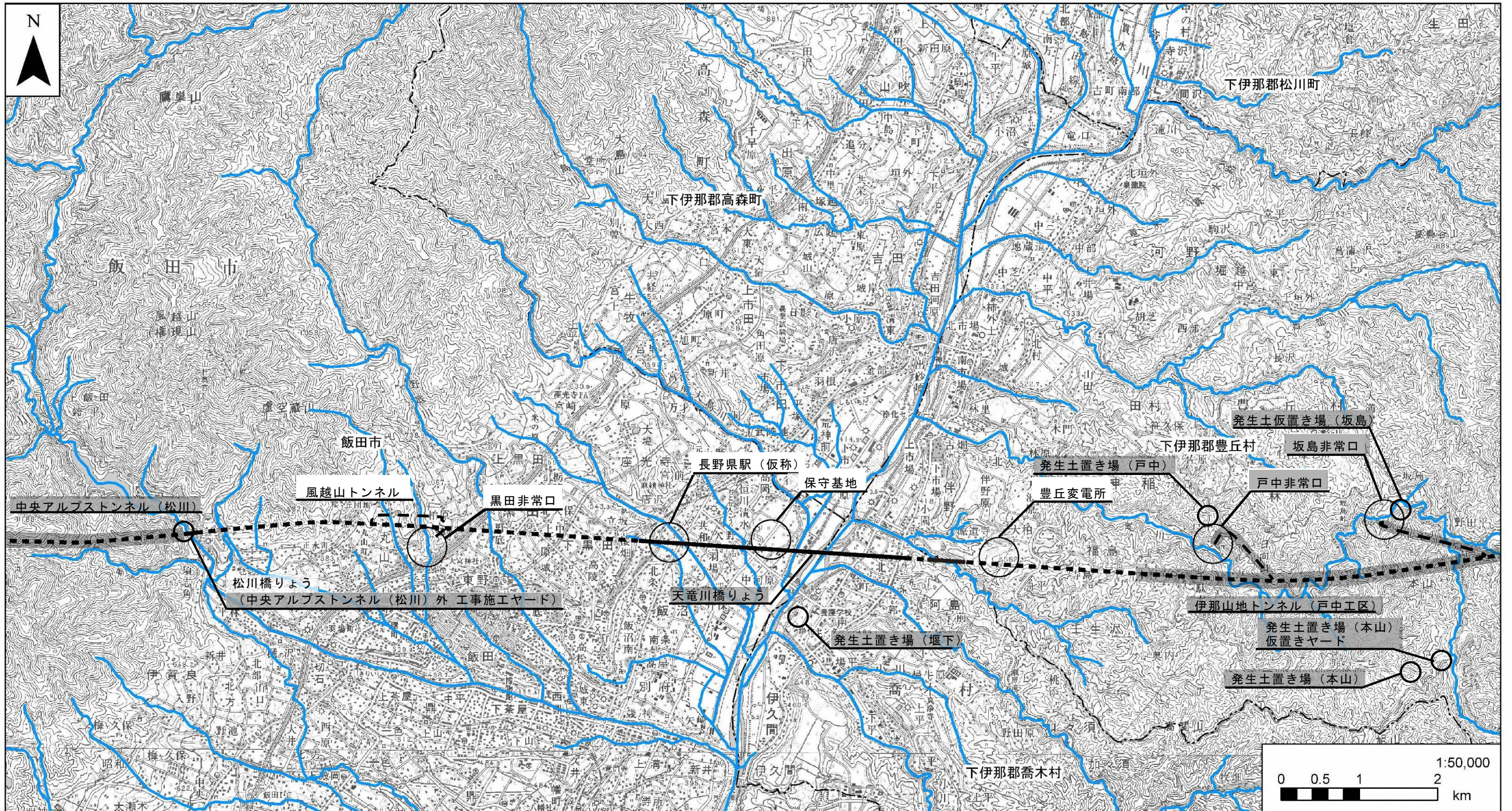
表 1-2-1 令和2年度の工事の実施状況

実施箇所	実施状況
南アルプストンネル (長野工区)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除山非常口トンネルの掘削を施工した。 ・ 釜沢非常口トンネルの掘削を施工した。 ・ 小渋川非常口トンネルの掘削を完了した。(令和元年度) ・ 小渋川非常口トンネル接続部から釜沢非常口トンネル接続部の間の先進坑トンネルの掘削を施工した。 ・ 県道253号赤石岳公園線の改良工事が完了した。 ・ 国道152号の迂回路の新設工事が完了した。 ・ 令和2年7月の豪雨災害に伴い、工事用車両が通行する県道赤石岳公園線の釜沢地区で地すべりが発生したため、除山・釜沢非常口トンネルの掘削作業を休止した。長野県と協力し、復旧作業を進めた結果、令和3年1月から両非常口からのトンネル掘削作業を再開した。
伊那山地トンネル (青木川工区)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青木川非常口トンネルの掘削を施工した。 ・ 国道152号の改良工事を施工した。
伊那山地トンネル (坂島工区)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 坂島非常口の工事施工ヤードの整備工事を施工した。 ・ 令和2年7月の豪雨災害に伴い、工事用車両が通行する林道大島蛇川線が被災したため、豊丘村と協議した上で災害復旧工事を実施し、発生土置き場(本山)の準備工事を令和2年12月から着手した。
伊那山地トンネル (戸中・壬生沢工区)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸中非常口の工事施工ヤードの整備工事を施工した。 ・ 村道佐原線及び村道中央横断線等の改良工事を施工した。
天竜川橋りょうほか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路改良工事、伐採工及び瀬替工を施工した。
中央アルプストンネル (松川) 外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事施工ヤード及び工事用道路の整備工事を施工した。 ・ 県道飯田南木曾線の拡幅工事及び市道大休妙琴線の待避所整備工事を施工した。
中央アルプストンネル (萩の平・広瀬)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 萩の平非常口の道路改良(準備工)を施工した。 ・ 広瀬非常口の工事施工ヤードの整備工事及び町道棚橋線の改良工事を施工した。
中央アルプストンネル (尾越)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町道起線の改良工事を施工した。



- 凡例
- 計画路線(トンネル区間) ——— 計画路線(地上区間) - - - 県境 - - - 市町村境 — 河川
 - 非常口トンネル(斜坑) ■ 工事の実施箇所

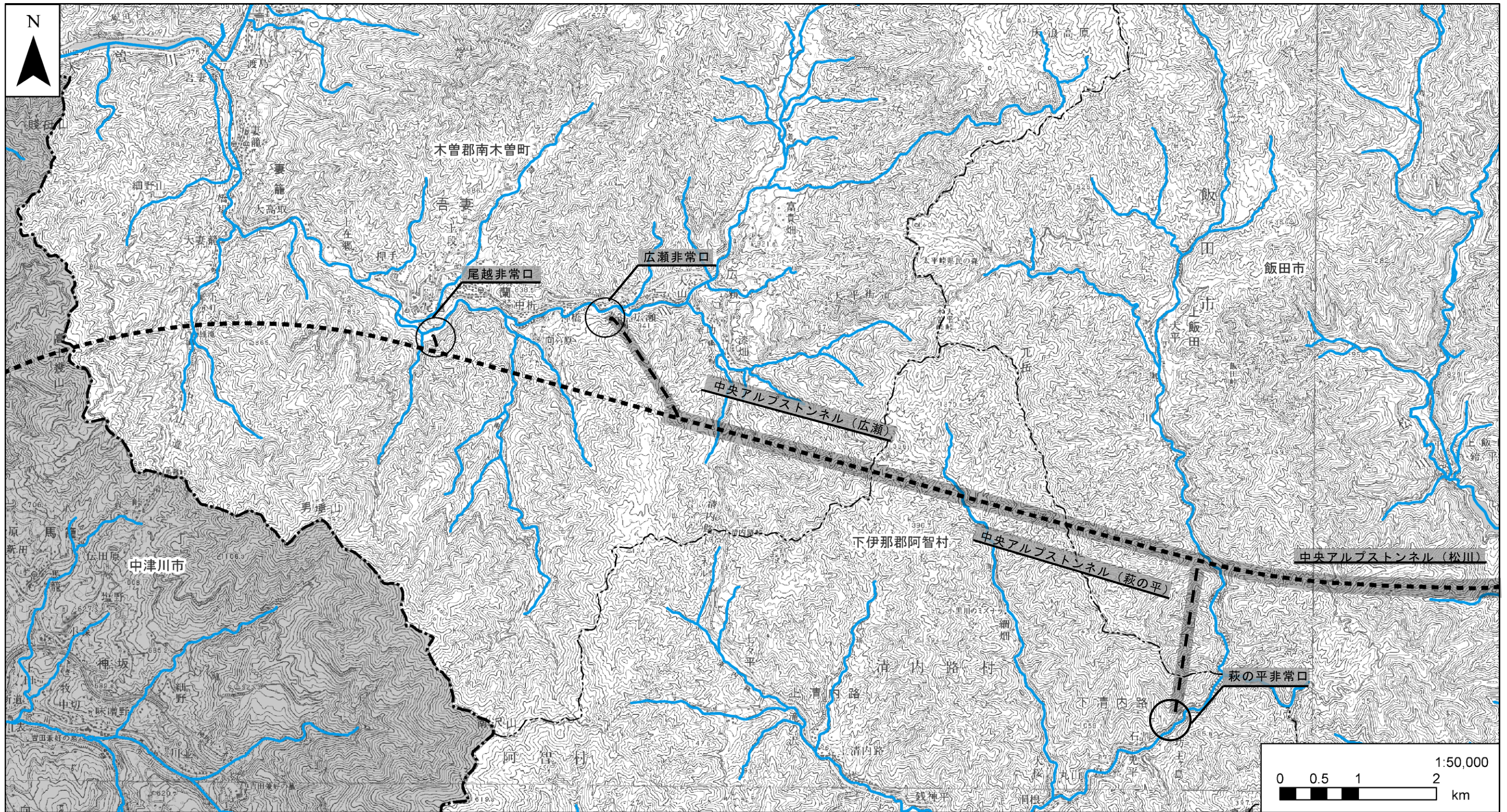
図1-2-1 (1) 工事の実施箇所



凡例

- 計画路線（トンネル区間） — 計画路線（地上区間） - - - 市町村境 川 河川
- - - 非常口トンネル（斜坑） ■ 工事の実施箇所

図1-2-1 (2) 工事の実施箇所



凡例

- 計画路線 (トンネル区間) — 計画路線 (地上区間) - - - 県境 - - - 市町村境 — 河川
- 非常口トンネル (斜坑) ■ 工事の実施箇所

図1-2-1 (3) 工事の実施箇所

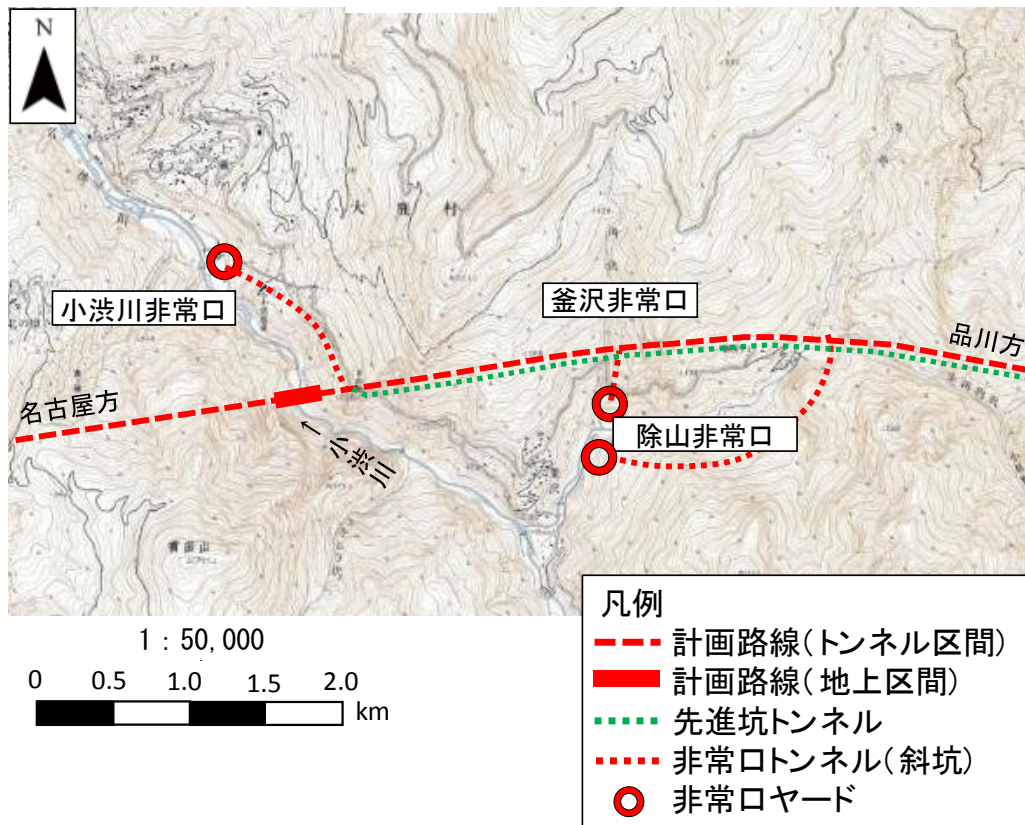


図 1-2-2(1) 南アルプストンネル（長野工区）（拡大図）

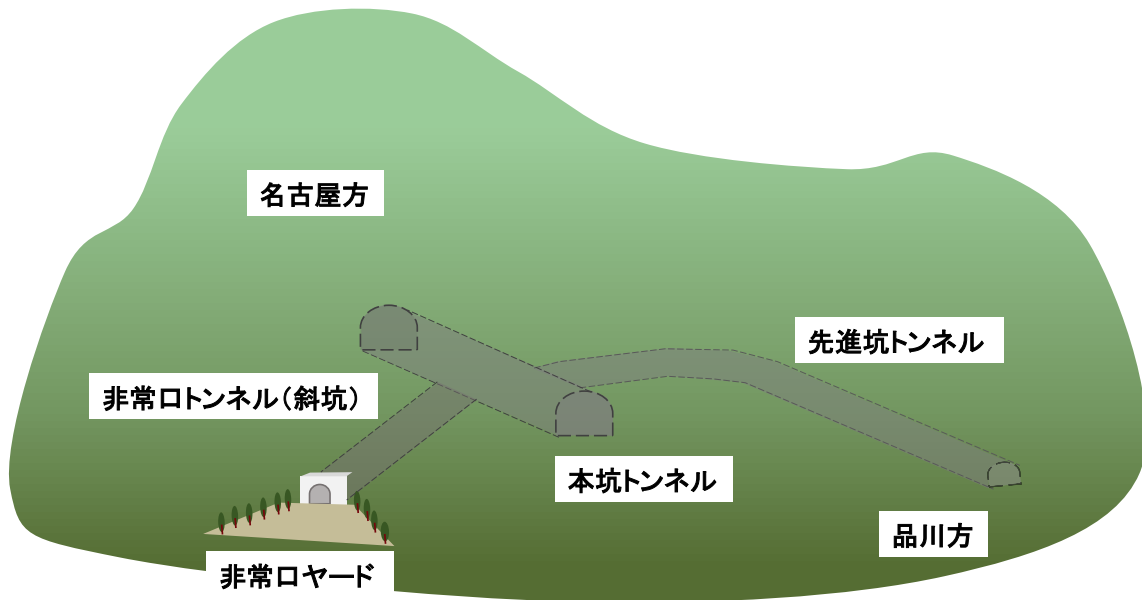


図 1-2-2(2) 南アルプストンネル（長野工区）（先進坑のイメージ）

2 事後調査

令和2年度は、水資源（山岳トンネル）、動物、植物について事後調査を実施した。また、評価書公告以降に新たに当社が計画した発生土置き場等について、環境保全措置の内容を詳細にするための調査及び影響検討を事後調査として実施した。加えて、影響検討において検討結果や環境保全措置の効果等に不確実性がある環境要素についても、事後調査を実施した。

なお、動物、植物については、専門家等の助言を受けて、希少種の保護の観点から詳細な周辺状況等について非公開とした。

2-1 水資源（山岳トンネル）

地下水の水位について、水資源に与える影響の予測に不確実性があることから事後調査を実施した。なお、本報告に関わる事後調査計画については、工事計画や評価書における地下水の予測検討範囲、既存文献資料、自治体並びに予測検討範囲に係る地区の自治会等への聞き取り調査の結果を踏まえ策定している。

2-1-1 調査方法

調査項目及び調査方法は、表 2-1-1-1 に示すとおりである。

表 2-1-1-1 水資源の現地調査方法

区分	調査項目	調査方法
井戸の水位 湧水の水量	井戸の水位及び湧水の水量、 水温、水素イオン濃度（pH）、 電気伝導率、透視度	「地下水調査および観測指針（案）」 （平成5年、建設省河川局）に準拠した。
地表水の流量	地表水（河川）の流量、水温、 水素イオン濃度（pH）、 電気伝導率	「地下水調査および観測指針（案）」 （平成5年、建設省河川局）に準拠した。

2-1-2 調査地点

現地調査地点は、表 2-1-2-1 及び図 2-1-2-1 に示すとおりである。

表 2-1-2-1 (1) 井戸の水位及び湧水の水量の現地調査地点

地点番号	市町村名	地点	評価書 現地 調査	調査項目	記事
9	大鹿村	釜沢水源（湧水）	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 井戸の水位、湧水の水量 ・ 水温 ・ pH ・ 電気伝導率 ・ 透視度(温泉を除く) 	平成24年より調査
10		荒川温泉	○		平成24年より調査
11		三正坊温泉	○		平成24年より調査
17		公共水源（湧水）			
19		上青木水源（湧水）	○		平成24年より調査
20		個人水源（湧水）			
21		個人水源（湧水）			
22		公共水源（湧水）			
24		生津の湯	○		平成24年より調査
26		大河原水源（湧水） ※1	○		平成24年より調査
27		個人水源 （井戸：深さ約50m）	○		平成24年より調査
30	個人水源 （井戸：深さ約65m）				
3	豊丘村	個人水源（横井戸）			図 2-1-2-1(2)(3)参照
6		個人水源（横井戸）			
7		個人水源（湧水）			
9		個人水源（縦井戸）			
3	飯田市	事業者水源			図 2-1-2-1(3)(4)参照
5		押洞水源※2	○		
7		個人水源（湧水）			
9		正永寺原水源※3	○		
11		個人水源（湧水）			
12		事業者水源（湧水）		所有者事情により測定不可	

注 1 : 「※1」は伊那山地における水収支解析の予測地点番号01に対応

注 2 : 「※2」は評価書p. 8-2-3-14における現地調査地点番号31に対応

注 3 : 「※3」は評価書p. 8-2-3-14における現地調査地点番号34に対応

注 4 : 地点番号については「大鹿村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成26年12月）」、「豊丘村・喬木村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年4月）」、「飯田市（野底川以西）における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成29年10月）」と同様としている

表 2-1-2-1 (2) 井戸の水位及び湧水の水量の現地調査地点

地点 番号	市町 村名	地点	評価書 現地 調査	調査項目	記事	
3	南 木 曾 町	個人水源（湧水）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 井戸の水位、 湧水の水量 ・ 水温 ・ pH ・ 電気伝導率 ・ 透視度(温泉を除く) 		図 2-1- 2-1(5) 参照
5		事業者水源（湧水）				
9		妻籠簡易水道水源				
10		妻籠簡易水道水源				

注：地点番号については「南木曾町における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年10月）」と同様としている

表 2-1-2-1 (3) 地表水の流量の現地調査地点

地点番号	市町村名	地点	評価書 現地 調査	調査項目	記事
1	大鹿村	小河内沢川（本流 上流部）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地表水の流量 ・ 水温 ・ pH ・ 電気伝導率 	平成24年より調査
2		小河内沢川（支流 小日影沢）			平成24年より調査
3		小河内沢川（支流）			平成24年より調査
4		寺沢（支流）			平成24年より調査
5		寺沢（本流 上流部）			平成24年より調査
6		小河内沢川（本流 下流部）※1	○		平成19年より調査
7		寺沢（本流 下流部）※1	○		平成19年より調査
8		所沢※2	○		平成19年より調査
12		小渋川（支流）			
13		板屋沢※3	○		平成19年より調査
14		小渋川（本流）※3	○		平成19年より調査
15		小渋川（支流）※3	○		平成19年より調査
16		ツガムラ沢			平成19年より調査
18		小渋川（支流）			平成24年より調査
23		青木川（支流）			平成24年より調査
25		青木川（支流）			平成24年より調査
28		青木川（支流）			平成24年より調査
29		青木川（支流）※4			平成24年より調査
31		青木川（支流）			平成24年より調査
32		青木川（支流）			平成24年より調査
33		青木川（支流）			平成24年より調査
34		青木川（支流）			平成24年より調査
35		青木川（支流）			平成24年より調査
51	青木川（本流）※5				

図 2-1-2-1(1)(2) 参照

注1：「※1」は評価書p.8-2-4-36における予測地点番号02に対応

注2：「※2」は評価書p.8-2-4-36における予測地点番号03に対応

注3：「※3」は評価書p.8-2-4-36における予測地点番号01に対応

注4：「※4」は伊那山地における水収支解析の予測地点番号02に対応

注5：「※5」は伊那山地における水収支解析により平成28年度より追加。なお、水収支解析の予測地点番号03に対応

注6：地点番号については「大鹿村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成26年12月）」と同様としている

表 2-1-2-1 (4) 地表水の流量の現地調査地点

地点番号	市町村名	地点	評価書 現地調査	調査項目	記事	
1	豊丘村	虻川（本流 上流部）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地表水の流量 ・ 水温 ・ pH ・ 電気伝導率 	図 2-1-2-1(2)(3) 参照	
2		虻川（支流）				
4		虻川（本流 下流部）※1				
5		本村川（支流）				
8		場知沢川				
10		壬生沢川※2				
11		地藏沢川				
1	飯田市	野底川下流			<ul style="list-style-type: none"> ・ 地表水の流量 ・ 水温 ・ pH ・ 電気伝導率 	図 2-1-2-1(3)(4) 参照
2		松洞川下流※3	○			
4		王竜寺川下流				
6		滝の沢川下流				
8		阿弥陀沢川下流				
10		西の原沢川下流				
13		円悟沢川下流				
14		松川下流※4	○			
15		清水沢水源				
1	南木曾町	中の沢（高区水源）			<ul style="list-style-type: none"> ・ 地表水の流量 ・ 水温 ・ pH ・ 電気伝導率 	図 2-1-2-1(5) 参照
2		向ヶ原水源				
4		蘭川本流※5	○			
6		ドンガメ沢下流				
7		男埴川下流				
8		三十沢下流				
11		権現沢				

注 1 : 「※1」は伊那山地における水収支解析の予測地点番号04に対応

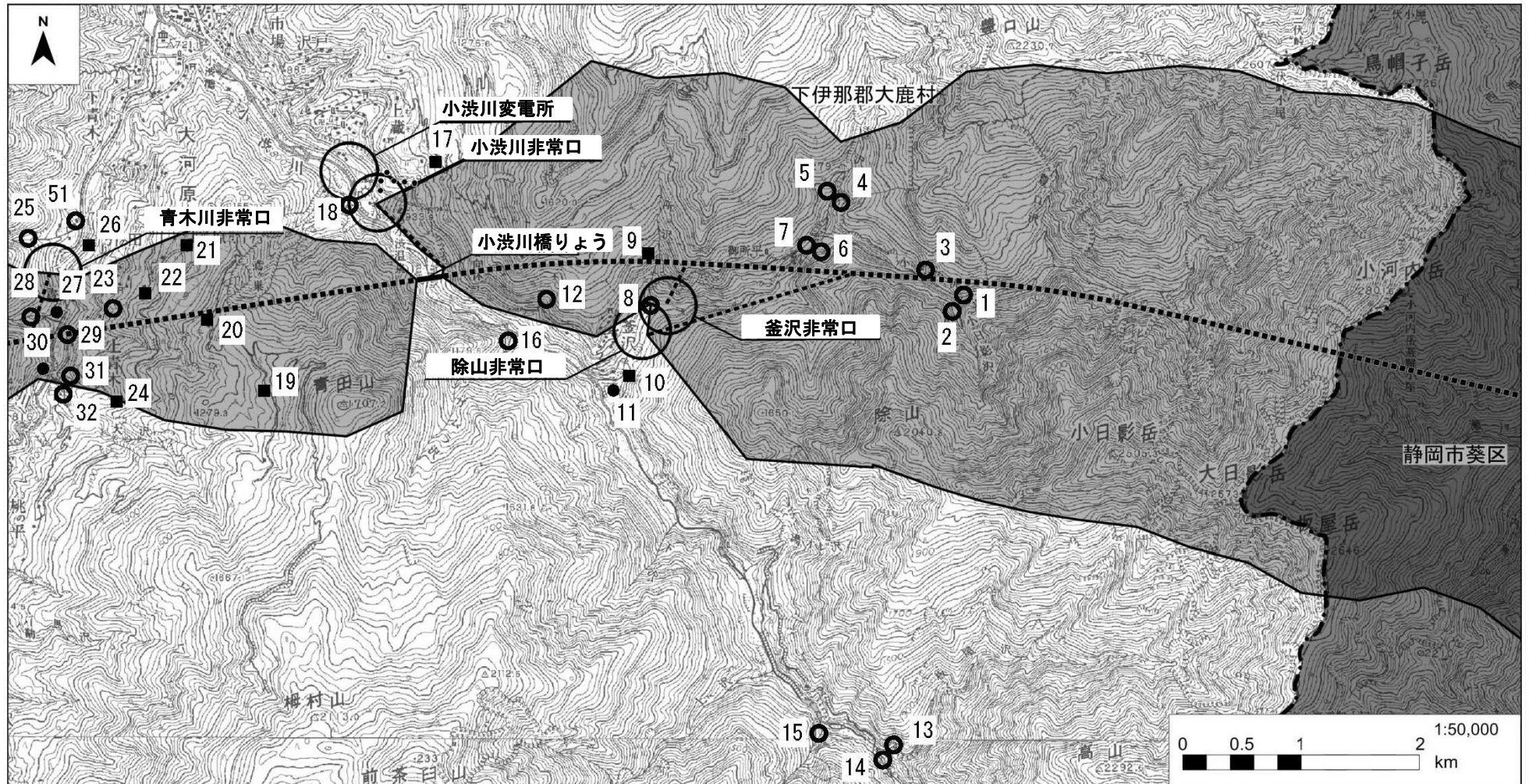
注 2 : 「※2」は伊那山地における水収支解析の予測地点番号05に対応

注 3 : 「※3」は評価書p. 8-2-1-3における現地調査地点番号14に対応

注 4 : 「※4」は評価書p. 8-2-1-3における現地調査地点番号15に対応

注 5 : 「※5」は評価書p. 8-2-1-3における現地調査地点番号18に対応

注 6 : 地点番号については「豊丘村・喬木村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年4月）」、「南木曾町における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年10月）」、「飯田市（野底川以西）における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成29年10月）」と同様としている



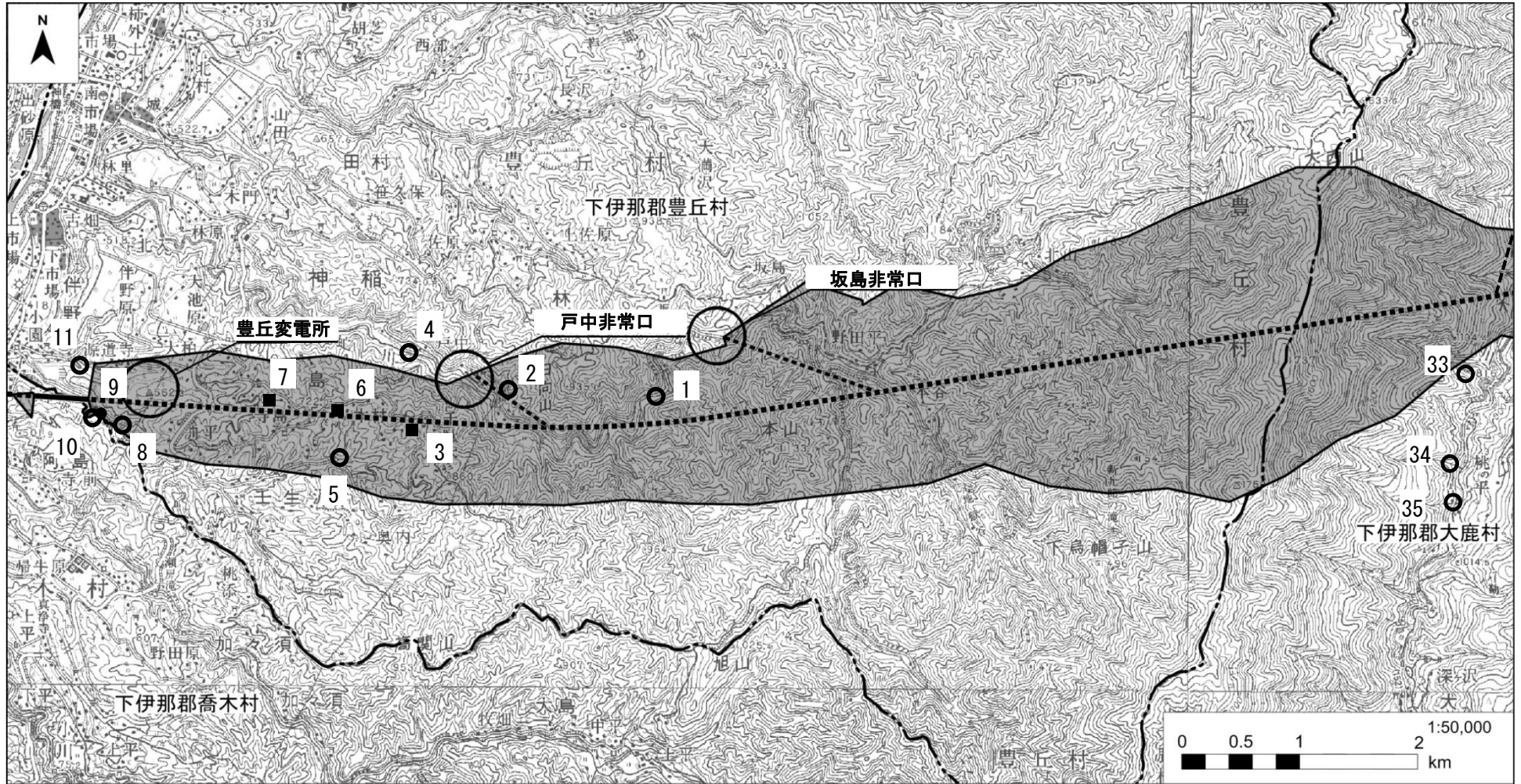
凡例

- 計画路線(トンネル区間) ■■■ 予測検討範囲
- 計画路線(地上区間) - - - 非常口トンネル(斜坑)
- 工事用道路
- 県境
- - - 市町村境

凡例

- 井戸の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

図 2-1-2-1 (1) 現地調査地点図(井戸の水位及び湧水の水量、地表水の流量)【大鹿村】



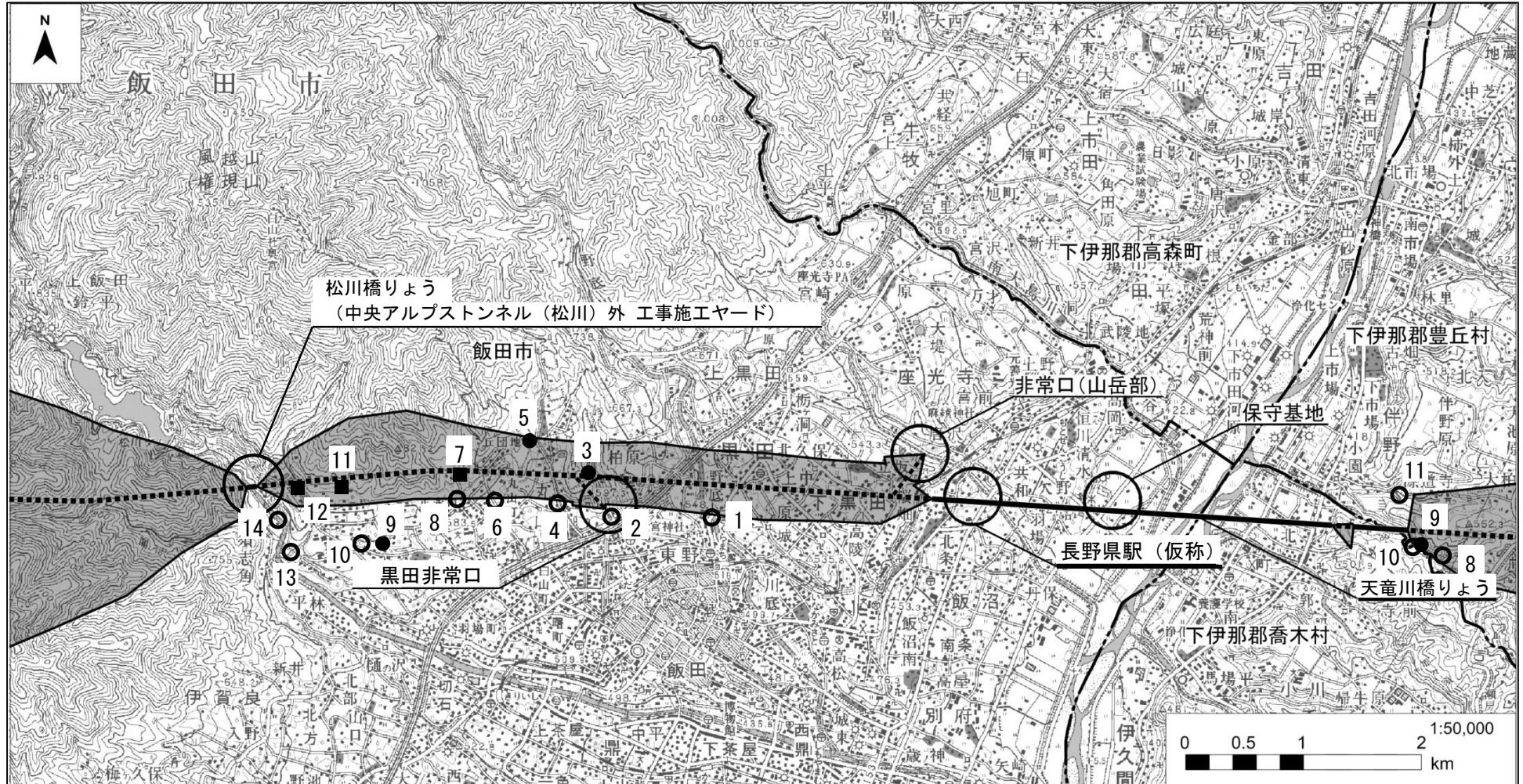
凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 計画路線(地上区間)
- · - · 市町村境
- 予測検討範囲
- 非常口トンネル(斜坑)

凡例

- 井戸の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

図 2-1-2-1 (2) 現地調査地点図(井戸の水位及び湧水の水量、地表水の流量)【豊丘村、大鹿村】



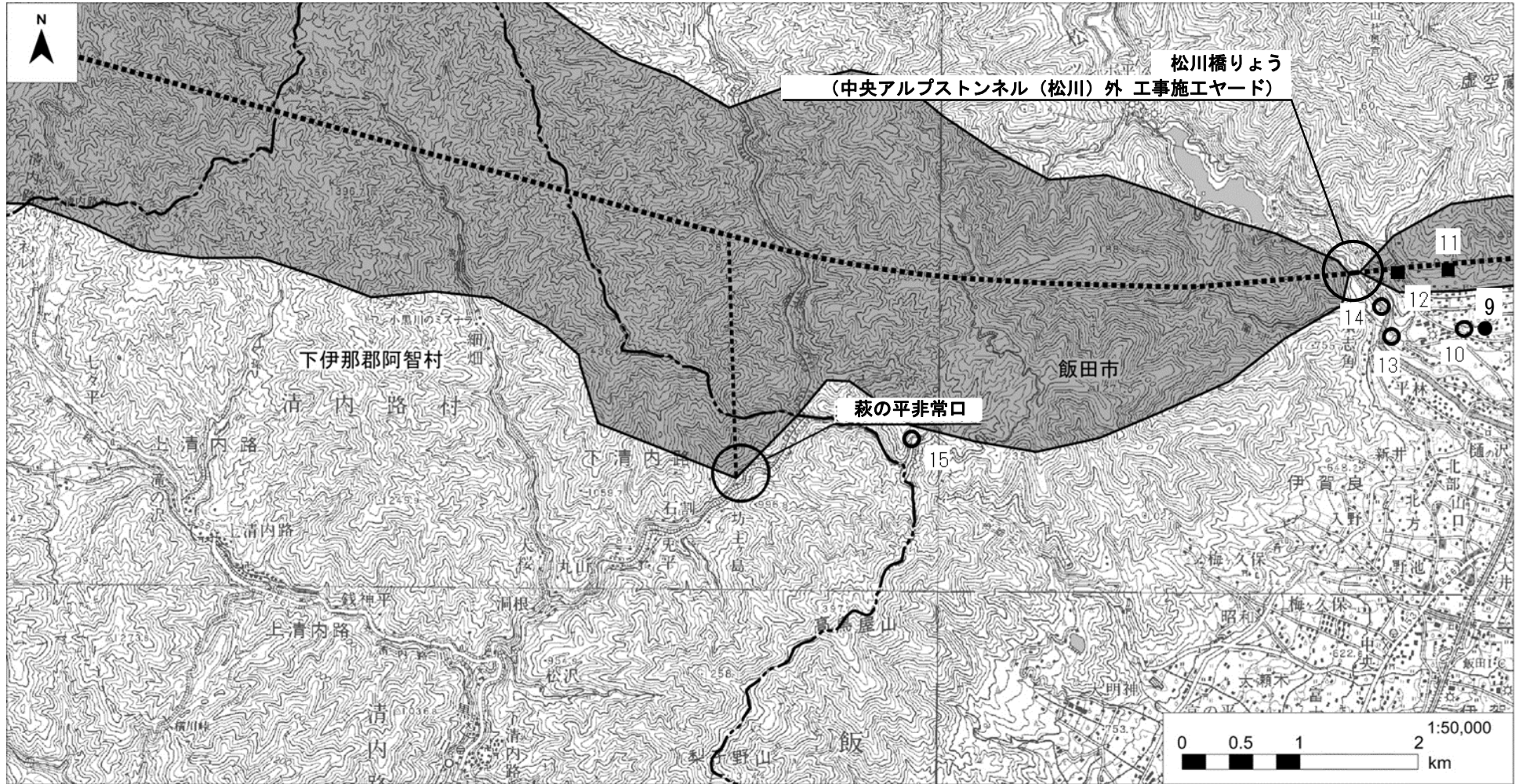
凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 予測検討範囲
- 計画路線(地上区間)
- 非常口トンネル(斜坑)
- 市町村境

凡例

- 井戸の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

図 2-1-2-1 (3) 現地調査地点図(井戸の水位及び湧水の水量、地表水の流量)【飯田市、豊丘村】



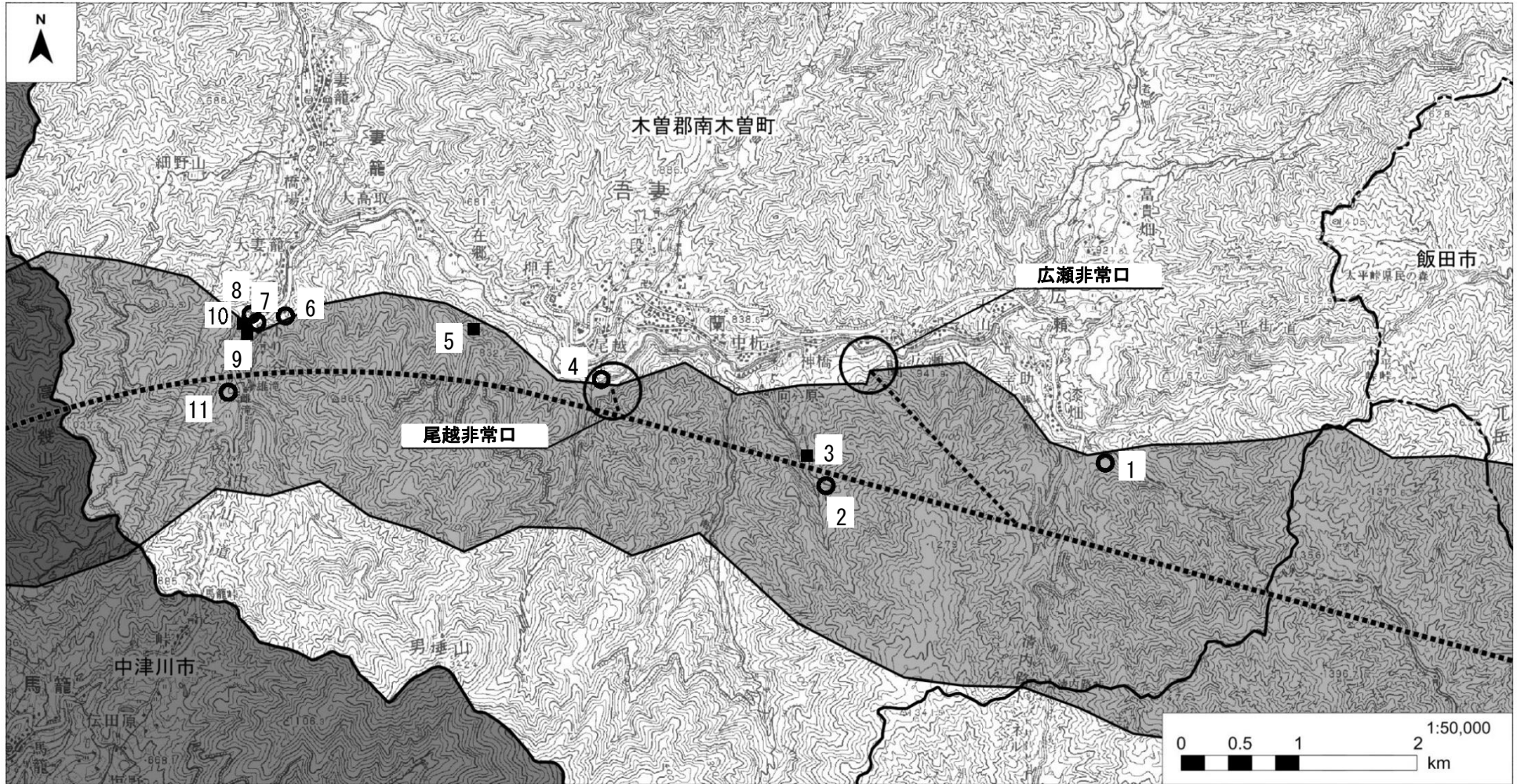
凡例

- 計画路線(トンネル区間) ■■■ 予測検討範囲
- 計画路線(地上区間) - - - - 非常口トンネル(斜坑)
- - - - 市町村境

凡例

- 井戸の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

図 2-1-2-1 (4) 現地調査地点図(井戸の水位及び湧水の水量、地表水の流量)【飯田市】



凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 予測検討範囲
- 計画路線(地上区間)
- 非常口トンネル(斜坑)
- 県境
- - - 市町村境

凡例

- 井戸の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

図 2-1-2-1 (5) 現地調査地点図(井戸の水位及び湧水の水量、地表水の流量)【南木曾町】

2-1-3 調査期間

現地調査の期間は、表 2-1-3-1 に示すとおりである。

表 2-1-3-1(1) 井戸の水位及び湧水の水量の現地調査期間

調査項目	調査期間	頻度
水位又は水量、水温、pH、電気伝導率、透視度（温泉を除く）	令和2年 4月7～10日、15日、17日、20～22日 令和2年 5月12日、15日、18～22日 令和2年 6月3～5日、8～9日、15～18日 令和2年 7月14～17日、20～22日 令和2年 8月4日、7日、13日、17日、20日、24～26日 令和2年 9月3～5日、9～11日、23～25日 令和2年 10月6～7日、14日、16日、19～20日 令和2年 11月5日、11～12日、16～17日、20～21日、24～25日 令和2年 12月2～5日、14～15日、17日 令和3年 1月7日、9日、13～14日、20日、25～26日 令和3年 2月3日、5日、9日、15～18日 令和3年 3月9～12日、15～17日、19日	月1回

表 2-1-3-1(2) 地表水の流量の現地調査期間

調査項目	調査期間	頻度
流量、水温、pH、電気伝導率	令和2年 4月6～10日、14～17日、21～23日 令和2年 5月11～15日、18～22日 令和2年 6月2～5日、8～9日、18日、20～24日 令和2年 7月16～17日、19～22日、26～27日、30日 令和2年 8月3～4日、6～7日、11日、17日、19～20日、23～26日 令和2年 9月3～5日、9～11日、22～24日、26日 令和2年 10月1日、5～7日、14～16日、20～22日、24日、26日 令和2年 11月5～6日、10～12日、14日、17日、19日、21日、23～26日 令和2年 12月2～5日、16～18日、20～22日 令和3年 1月7～9日、12～15日、20～22日、24～26日 令和3年 2月2～4日、8～9日、16～19日、21日 令和3年 3月9～11日、15～19日、24日	月1回

2-1-4 調査結果

調査結果は、表 2-1-4-1 及び図 2-1-4-1 に示すとおりである。なお、図 2-1-4-1 で示す平成 28 年度の結果は「平成 28 年度における環境調査の結果等について（平成 29 年 6 月）」に、平成 29 年度の結果は「平成 29 年度における環境調査の結果等について（平成 30 年 6 月）」に、平成 30 年度の結果は「平成 30 年度における環境調査の結果等について（令和元年 6 月）」に、令和元年度の結果は「令和元年度における環境調査の結果等について（令和 2 年 8 月）」に記載している。

表 2-1-4-1 (1) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
9	大鹿村	釜沢水源 (湧水)	水温 (°C)	9.3	10.4	10.7	-	11.8	11.0	10.2	9.9	9.8	8.3	8.6	9.5
			pH	7.9	7.8	7.8	-	7.9	7.9	8.0	8.2	7.8	7.5	8.2	8.2
			電気伝導率 (mS/m)	11.8	12.0	11.3	-	10.1	10.4	11.1	11.4	11.2	11.5	12.2	11.9
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	-	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	217.8	266.4	235.2	-	469.2	318.0	226.8	203.4	165.6	135.0	122.4	112.8
10	大鹿村	荒川温泉	水温 (°C)	8.2	10.1	12.4	-	14.4	14.8	13.5	10.9	9.0	6.5	5.9	7.2
			pH	7.8	7.9	7.8	-	7.8	7.7	7.9	7.9	7.9	8.0	8.0	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	46.4	47.6	46.0	-	44.5	45.6	50.4	47.2	47.6	50.7	47.2	44.2
			透視度 (cm)												
			水量 (L/min)	1.7	1.9	1.2	-	1.4	1.0	0.7	1.4	1.0	0.7	1.4	1.4

注1: 地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

注2: 「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3: 温泉水は、透視度は対象外。

「-」: 豪雨災害によりアクセスできなかったため、欠測。

表 2-1-4-1 (2) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
11	大鹿村	三正坊温泉	水温 (°C)	15.3	17.8	16.9	-	17.3	16.5	16.7	15.8	14.1	14.9	13.3	16.4
			pH	8.5	8.6	8.3	-	8.3	8.3	8.2	8.3	8.3	8.3	8.4	8.4
			電気伝導率 (mS/m)	263	287	287	-	278	281	278	293	287	287	299	293
			透視度 (cm)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
			水位 (m) 注4	-16.3	-0.1	-0.1	-	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1
17	大鹿村	公共水源 (湧水)	水温 (°C)	8.8	9.4	9.5	-	9.3	9.8	9.6	8.6	8.5	8.6	8.2	8.6
			pH	7.9	7.9	7.9	-	7.5	7.7	7.9	7.3	7.8	8.0	7.8	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	9.7	10.0	9.9	-	9.0	9.3	9.7	9.5	9.6	9.9	9.5	9.8
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	-	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	150.0	240.0	216.0	-	840.0	450.0	288.0	246.0	144.0	90.0	132.0	36.0

注1：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：温泉水は、透視度は対象外。

注4：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

「-」：豪雨災害によりアクセスできなかったため、欠測。

表 2-1-4-1 (3) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
19	大鹿村	上青木水源 (湧水)	水温 (°C)	8.9	9.1	9.9	9.8	9.7	9.6	9.8	8.3	9.0	8.2	8.1	8.7
			pH	7.4	7.4	7.3	6.9	7.1	7.7	7.6	8.0	7.3	7.6	7.4	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	9.2	8.0	8.1	7.0	7.1	7.4	7.8	8.2	7.7	8.2	7.5	7.9
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	192.0	106.2	99.6	300.0	82.8	58.8	88.2	52.3	32.8	31.0	40.1	40.2
20	大鹿村	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	8.1	9.5	9.6	10.7	10.4	10.1	10.0	8.6	7.4	8.2	7.2	8.4
			pH	7.9	7.4	7.5	7.6	7.5	7.6	7.6	7.7	7.5	7.7	7.5	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	7.6	7.5	7.7	8.0	8.2	8.9	9.1	9.2	8.7	9.1	8.3	7.9
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	35.4	44.4	39.0	37.2	55.2	22.8	33.0	26.4	13.2	22.8	13.2	16.2

注1：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

表 2-1-4-1 (4) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
21	大鹿村	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	10.9	11.2	11.1	12.1	11.4	11.8	11.4	10.8	9.5	7.9	9.9	10.2
			pH	8.0	7.7	7.8	7.9	7.8	7.7	7.8	7.7	8.1	8.0	7.9	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	28.3	26.9	26.6	24.7	24.7	25.7	25.0	27.6	28.6	25.2	24.8	24.5
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	60.0	68.4	59.4	33.0	27.6	13.4	67.8	24.0	5.3	1.8	12.3	9.6
22	大鹿村	公共水源 (湧水)	水温 (°C)	7.0	10.6	12.5	13.5	14.2	14.5	12.9	9.5	6.9	4.2	4.5	5.9
			pH	8.4	8.2	7.9	8.1	7.9	8.0	8.0	8.2	8.1	8.6	8.5	9.0
			電気伝導率 (mS/m)	14.8	15.6	16.0	18.0	16.5	16.3	16.9	16.3	14.7	14.6	15.9	14.6
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	156.0	150.0	138.0	204.0	180.0	150.0	174.0	126.0	60.0	58.8	60.0	96.0

注1：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

表 2-1-4-1 (5) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点 番号	市 町村 名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
24	大 鹿 村	生津の湯	水温 (°C)	8.5	10.6	12.4	14.8	14.4	14.6	13.1	9.7	7.0	6.4	6.2	8.0
			pH	11.6	11.5	11.5	11.5	11.4	11.4	11.5	11.6	11.6	11.7	11.7	11.8
			電気伝導率 (mS/m)	67.4	69.7	71.5	67.3	67.3	68.0	66.3	68.1	69.4	69.1	71.7	69.2
			透視度 (cm)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
			水量 (L/min)	0.7	0.8	0.8	0.7	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
26	大 鹿 村	大河原水源 (湧水)	水温 (°C)	10.8	12.4	12.6	14.8	12.4	13.2	12.4	10.4	10.1	10.3	10.2	11.6
			pH	9.1	8.9	9.0	9.1	9.0	8.9	8.9	8.5	9.1	9.0	9.0	8.9
			電気伝導率 (mS/m)	25.8	25.9	25.9	26.3	25.5	25.4	25.3	24.9	25.5	23.7	25.9	24.5
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	223.8	306.0	204.0	3,066.0	480.0	210.0	222.0	258.0	155.4	150.1	138.0	138.0

注1：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：温泉水は、透視度は対象外。

表 2-1-4-1 (6) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27	大鹿村	個人水源 (井戸：深さ約50m)	水温 (°C)	11.7	14.5	14.5	16.3	13.9	14.6	14.5	12.4	12.1	12.2	12.8	12.6
			pH	8.1	8.0	8.1	8.1	8.1	8.0	8.3	7.6	8.1	7.9	8.0	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	19.3	20.9	18.7	17.2	16.8	19.6	14.6	15.5	16.0	15.5	15.4	14.8
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-18.2	-18.1	-18.1	-18.0	-18.4	-18.5	-18.6	-18.2	-18.9	-18.4	-18.9	-18.7
30	大鹿村	個人水源 (井戸：深さ約65m)	水温 (°C)	10.6	12.6	15.0	14.5	14.6	14.5	13.9	11.9	11.9	11.8	12.1	11.2
			pH	8.5	8.5	8.5	8.7	8.5	8.4	8.6	8.5	8.4	8.6	8.5	8.4
			電気伝導率 (mS/m)	26.2	27.3	27.1	27.5	25.3	26.6	25.8	26.1	26.2	25.1	25.7	25.6
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-18.0	-17.8	-17.9	-17.6	-18.1	-18.2	-18.0	-18.0	-18.4	-18.3	-18.2	-18.1

注1：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 2-1-4-1 (7) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	豊丘村	個人水源 (横井戸)	水温 (°C)	10.9	16.3	20.5	-	24.8	22.6	15.4	12.7	3.0	-	-	-
			pH	6.9	6.7	6.6	-	6.6	6.6	6.5	6.5	7.0	-	-	-
			電気伝導率 (mS/m)	11.4	11.1	11.2	-	8.3	9.7	9.8	10.5	11.9	-	-	-
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	-	>100	>100	>100	>100	>100	-	-	-
			水量 (L/min)	1.7	1.5	1.4	0	1.6	1.5	0.9	0.2	0.2	0	0	0
6	豊丘村	個人水源 (横井戸)	水温 (°C)	10.1	13.5	17.9	17.6	18.3	18.8	15.7	13.6	7.1	5.5	5.0	9.0
			pH	7.1	6.8	6.7	6.1	6.6	6.4	6.8	6.7	7.3	7.0	7.3	7.2
			電気伝導率 (mS/m)	9.4	9.4	8.9	8.4	8.7	9.3	9.3	9.4	10.2	9.4	9.7	9.5
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	0.9	1.1	1.2	3.0	2.4	1.3	0.9	0.7	0.5	0.4	0.4	0.4

注1：地点番号は図 2-1-2-1(2)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

「-」：水量がないためデータなし。

表 2-1-4-1 (8) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7	豊丘村	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	-	16.0	19.3	-	-	-	-	14.8	12.8	12.8	11.6	12.9
			pH	-	6.4	6.4	-	-	-	-	6.4	6.5	6.5	7.0	6.6
			電気伝導率 (mS/m)	-	26.1	26.6	-	-	-	-	26.6	28.0	26.8	27.5	29.4
			透視度 (cm)	-	>100	>100	-	-	-	-	>100	89.0	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	0	0.6	0.3	0	0	0	0	2.7	2.3	1.7	1.2	0.9
9	豊丘村	個人水源 (縦井戸)	水温 (°C)	14.6	14.8	18.4	16.8	16.3	16.5	17.6	17.6	16.1	15.0	12.7	13.0
			pH	6.6	6.4	6.8	6.5	6.6	6.8	5.9	6.5	6.6	6.4	7.1	6.8
			電気伝導率 (mS/m)	8.7	9.9	10.7	10.2	10.9	10.8	10.6	10.5	9.2	8.2	8.5	8.6
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-3.1	-3.0	-3.1	-2.7	-2.8	-2.9	-2.9	-2.8	-2.9	-3.0	-2.9	-3.0

注1：地点番号は図 2-1-2-1(2)、(3)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

「-」：水量がないためデータなし。

表 2-1-4-1 (9) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	飯田市	事業者水源	水温 (°C)	12.2	15.4	16.0	14.0	20.6	16.2	15.5	14.5	13.9	13.1	12.7	12.4
			pH	6.5	6.5	6.6	6.6	6.6	6.5	6.6	6.5	6.7	6.5	6.8	6.9
			電気伝導率 (mS/m)	6.7	6.7	6.9	8.9	7.6	7.5	7.7	7.6	7.4	6.9	6.9	6.8
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-3.4	-3.4	-3.3	-3.1	-3.6	-3.2	-3.2	-3.3	-3.3	-3.2	-3.3	-3.3
5	飯田市	押洞水源	水温 (°C)	15.7	16.3	15.9	16.5	16.9	15.5	14.5	14.8	13.8	15.0	14.2	14.2
			pH	6.4	6.4	6.4	6.5	6.5	6.5	6.4	6.5	6.3	6.3	6.3	6.4
			電気伝導率 (mS/m)	11.0	10.3	10.3	10.2	9.9	10.3	10.8	11.3	10.8	10.9	10.8	10.8
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-35.7	-35.4	-35.2	-34.3	-31.6	-34.8	-35.3	-35.5	-35.2	-35.7	-	-

注1：地点番号は図 2-1-2-1(3)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

「-」：所有者事情により測定できなかったため欠測。

表 2-1-4-1 (10) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点 番号	市 町村 名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7	飯 田 市	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	11.3	12.7	11.7	12.7	13.5	12.9	12.5	12.3	11.6	10.8	11.0	11.7
			pH	6.1	6.1	6.1	6.0	6.1	6.1	6.0	6.0	6.0	6.1	5.9	6.0
			電気伝導率 (mS/m)	7.9	6.8	6.9	4.5	5.3	5.3	6.0	6.5	6.0	6.3	6.1	5.8
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	36.6	36.6	28.8	36.6	72.0	42.6	57.6	28.8	23.4	12.6	13.8	10.2
9	飯 田 市	正永寺原 水源	水温 (°C)	14.8	15.8	15.3	15.9	15.8	14.8	13.4	13.4	12.8	13.5	12.5	13.8
			pH	6.3	6.2	6.4	6.4	6.2	6.4	6.4	6.3	6.2	6.2	6.2	6.5
			電気伝導率 (mS/m)	11.7	12.0	11.7	10.4	9.8	11.7	13.8	12.6	12.5	13.4	12.6	12.4
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-13.3	-13.4	-13.2	-12.0	-12.3	-12.5	-12.5	-12.8	-25.2	-13.5	-13.3	-13.6

注1：地点番号は図 2-1-2-1(3)、(4)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 2-1-4-1 (11) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点 番号	市 町村 名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
11	飯 田 市	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			pH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			電気伝導率 (mS/m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			透視度 (cm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			水量 (L/min)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1：地点番号は図 2-1-2-1(3)、(4)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

「-」：水量がないためデータなし。

表 2-1-4-1 (12) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	南木曾町	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	9.9	10.3	10.8	11.5	11.8	13.2	12.2	11.0	8.0	-	8.9	9.6
			pH	6.9	6.8	7.0	6.3	6.7	6.8	6.9	6.9	6.4	-	6.8	6.8
			電気伝導率 (mS/m)	2.4	2.3	2.5	2.8	2.1	2.9	3.3	3.0	3.0	-	2.5	2.7
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	70	-	>100	>100
			水量 (L/min)	1.7	1.8	1.0	12.0	8.4	2.4	0.7	0.2	0.2	0	0.8	0.6
5	南木曾町	事業者水源 (湧水)	水温 (°C)	13.4	17.1	17.5	19.1	19.6	17.7	15.9	11.7	8.8	5.1	5.1	9.0
			pH	7.1	7.6	7.3	7.3	7.2	7.3	7.3	7.1	7.0	7.6	7.7	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	4.9	5.1	5.1	4.6	4.4	4.9	5.3	5.5	5.1	5.1	4.9	4.9
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	16.2	11.4	12.0	12.0	12.0	16.2	4.2	5.9	4.7	4.4	3.9	1.6

注1：地点番号は図 2-1-2-1(5)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

「-」：水量がないためデータなし。

表 2-1-4-1 (13) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

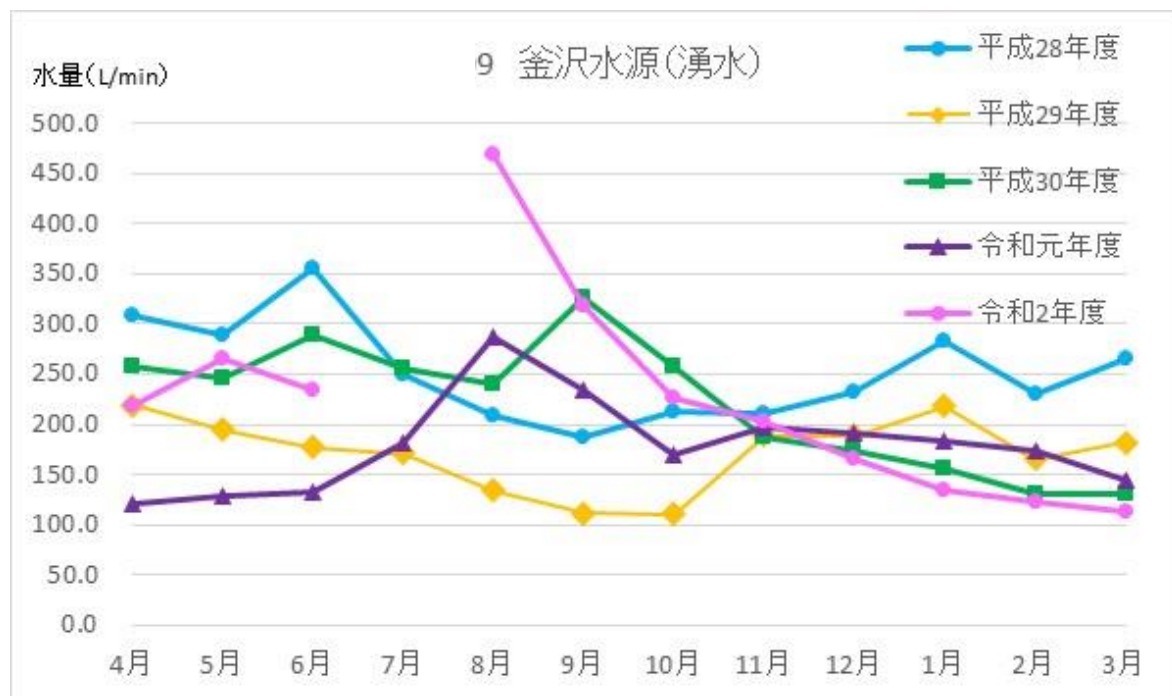
地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
9	南木曾町	妻籠簡易水道水源	水温 (°C)	10.8	11.2	12.1	13.4	14.6	16.4	15.0	10.8	10.0	5.9	5.3	7.1	
			pH	6.9	7.6	6.9	7.1	7.2	7.2	7.2	6.7	6.6	7.1	7.1	6.7	
			電気伝導率 (mS/m)	6.9	6.4	6.6	9.6	7.4	6.3	6.8	6.0	5.7	6.1	6.6	6.3	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	1.0	1.0	0.7	1.2	1.0	1.0	1.1	0.9	0.7	0.5	0.8	0.8	
10	南木曾町	妻籠簡易水道水源	水温 (°C)	11.6	12.0	12.5	13.4	14.5	14.6	15.4	12.5	12.0	10.9	10.3	10.4	
			pH	7.1	7.6	7.1	6.8	6.8	7.0	6.9	6.6	6.5	7.1	7.1	6.8	
			電気伝導率 (mS/m)	9.4	8.4	8.4	14.1	10.6	7.5	8.3	7.5	7.4	7.7	7.7	8.0	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	
			水位 (m) 注3	0.8	0.8	0.7	1.1	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.8	0.8	

注1：地点番号は図 2-1-2-1(5)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は集水升底面からの高さ。

測定方法：容器法



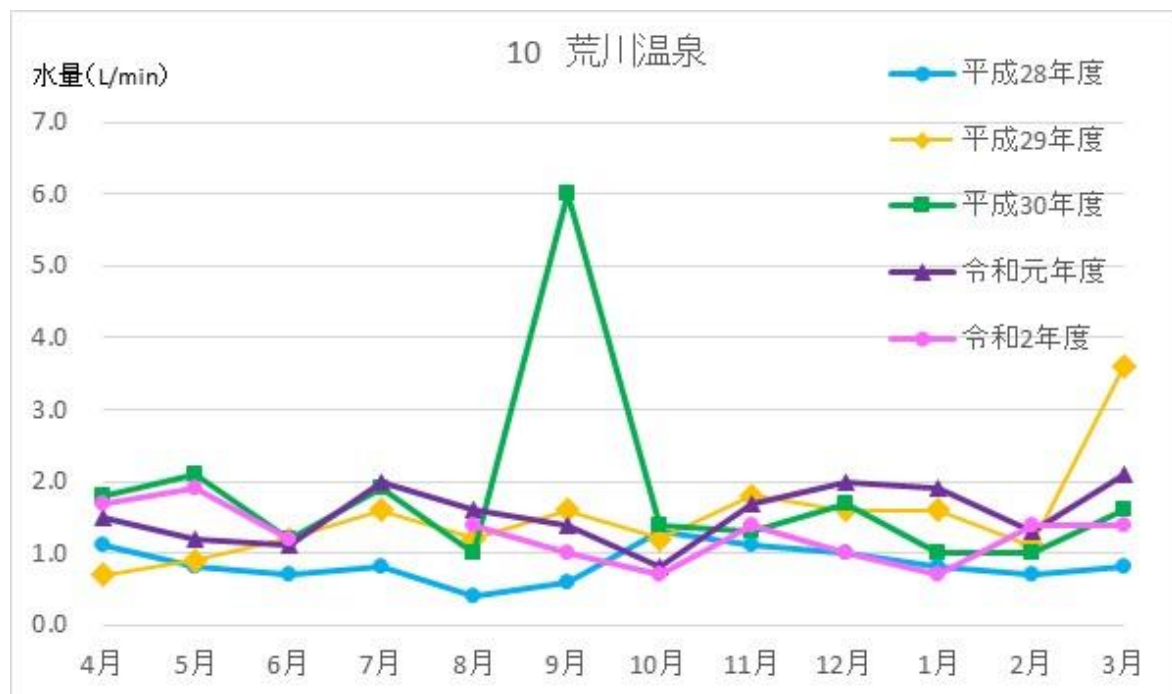
注1：平成29年度1～9月期の降水量は前年及び前々年の同期間と比較して約60%の降水量であった。

注2：令和2年度7月期は、豪雨災害によりアクセスできなかったため、欠測。

注3：令和2年度8月期は、7月の降雨の影響により増水した。

図 2-1-4-1(1) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(9 大鹿村 釜沢水源 (湧水))

測定方法：容器法



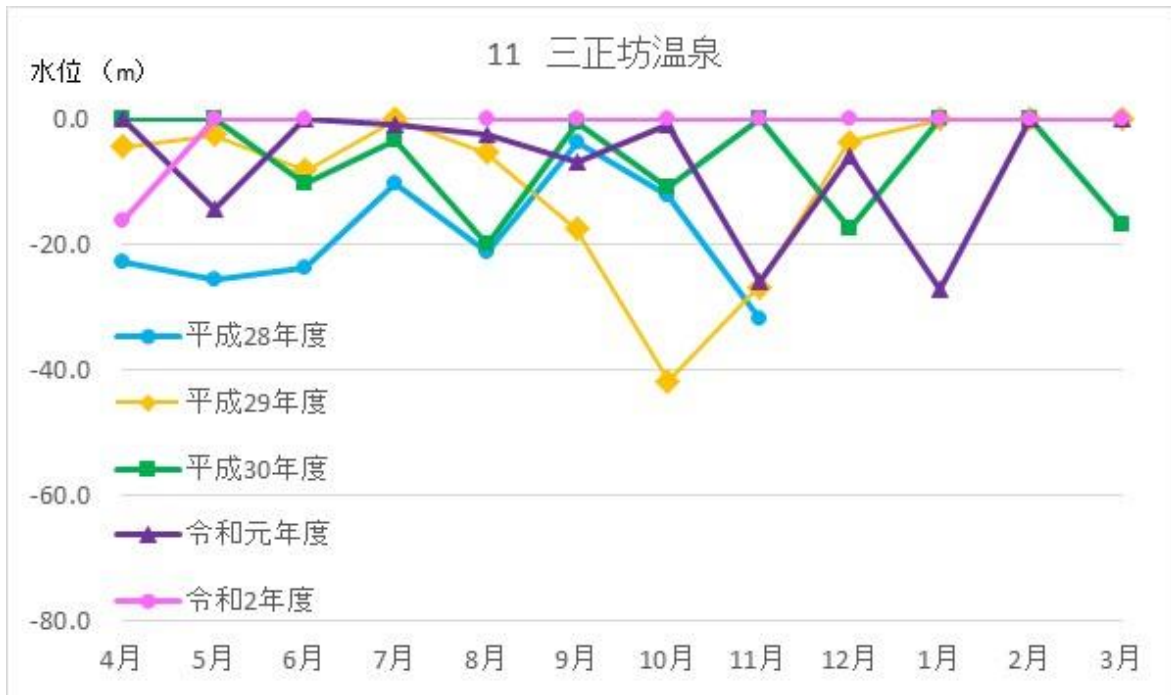
注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。

注2：平成30年度9月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は、豪雨災害によりアクセスできなかったため、欠測。

図 2-1-4-1(2) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(10 大鹿村 荒川温泉)

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

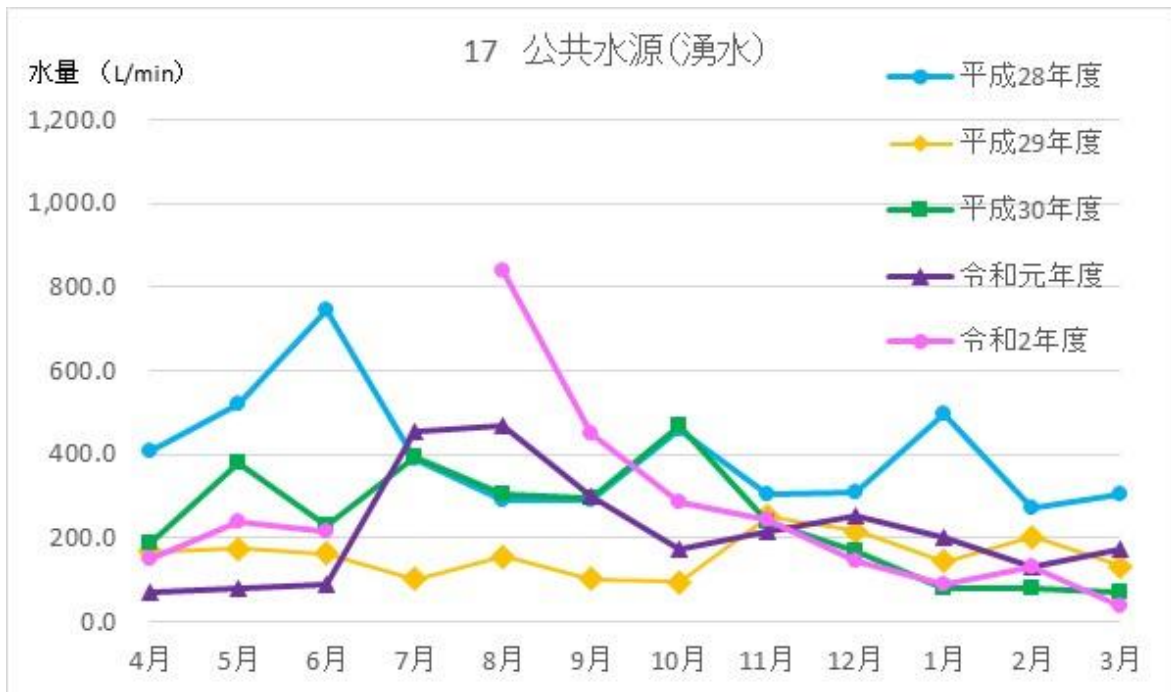


注1：平成28年度12月～3月期はバルブ故障のため漏水しており、水位が測定できなかったため、欠測。

注2：令和2年度7月期は、豪雨災害によりアクセスできなかったため、欠測。

図 2-1-4-1(3) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(11 大鹿村 三正坊温泉)

測定方法：流速計測法



注1：平成29年度1～9月期の降水量は前年及び前々年の同期間と比較して約60%の降水量であった。

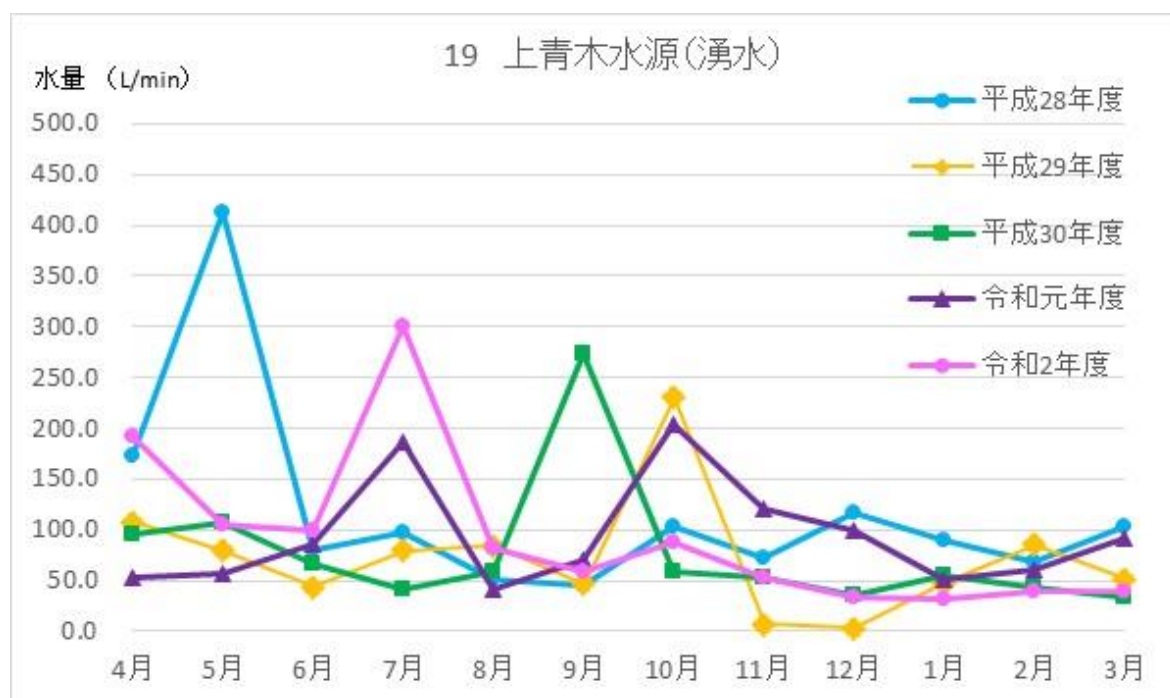
注2：平成31年度1～3月期の降水量は平成27～30年の同期間と比較して約70%の降水量であった。

注3：令和2年度7月期は、豪雨災害によりアクセスできなかったため、欠測。

注4：令和2年度8月期は、7月の降雨の影響により増水した。

図 2-1-4-1(4) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(17 大鹿村 公共水源(湧水))

測定方法：流速計測法及び容器法



注1：平成28年度5月期は測定日の前々日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：平成29年度10月期は測定日の3日前から前日にかけてまとまった降雨があった。
 注3：平成30年度9月期は測定日の4日前から前日にかけてまとまった降雨があった。
 注4：令和2年度7月期は測定日の3日前から前々日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1(5) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
 (19 大鹿村 上青木水源(湧水))

測定方法：容器法

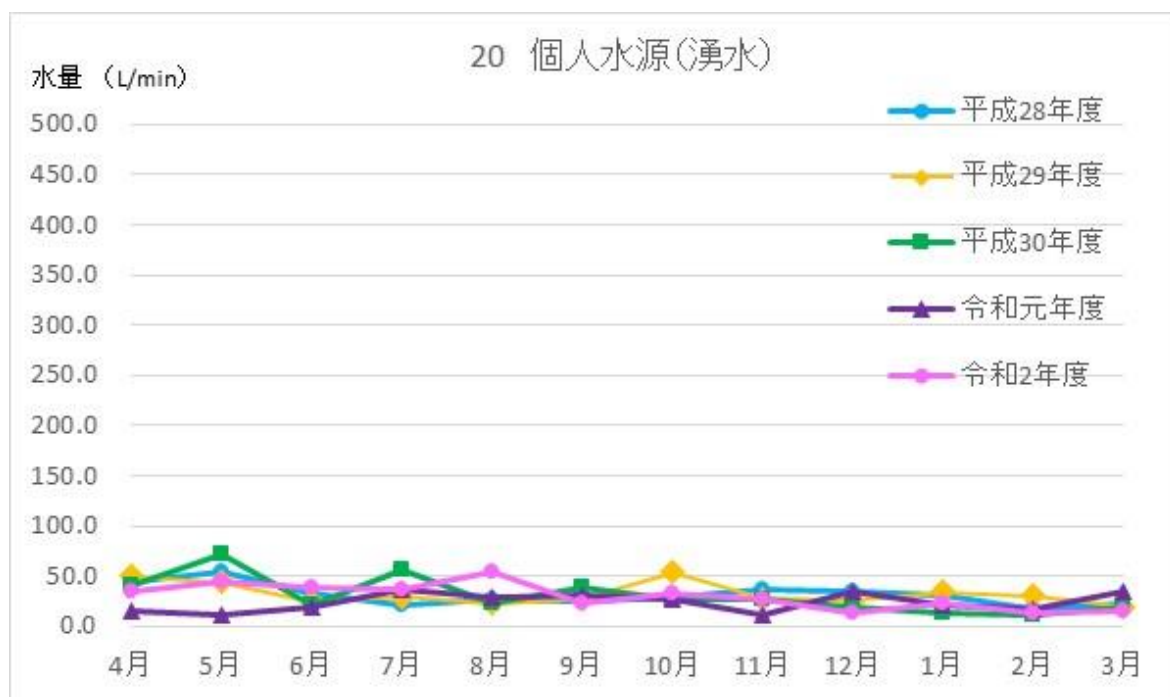


図 2-1-4-1(6) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
 (20 大鹿村 個人水源(湧水))

測定方法：容器法

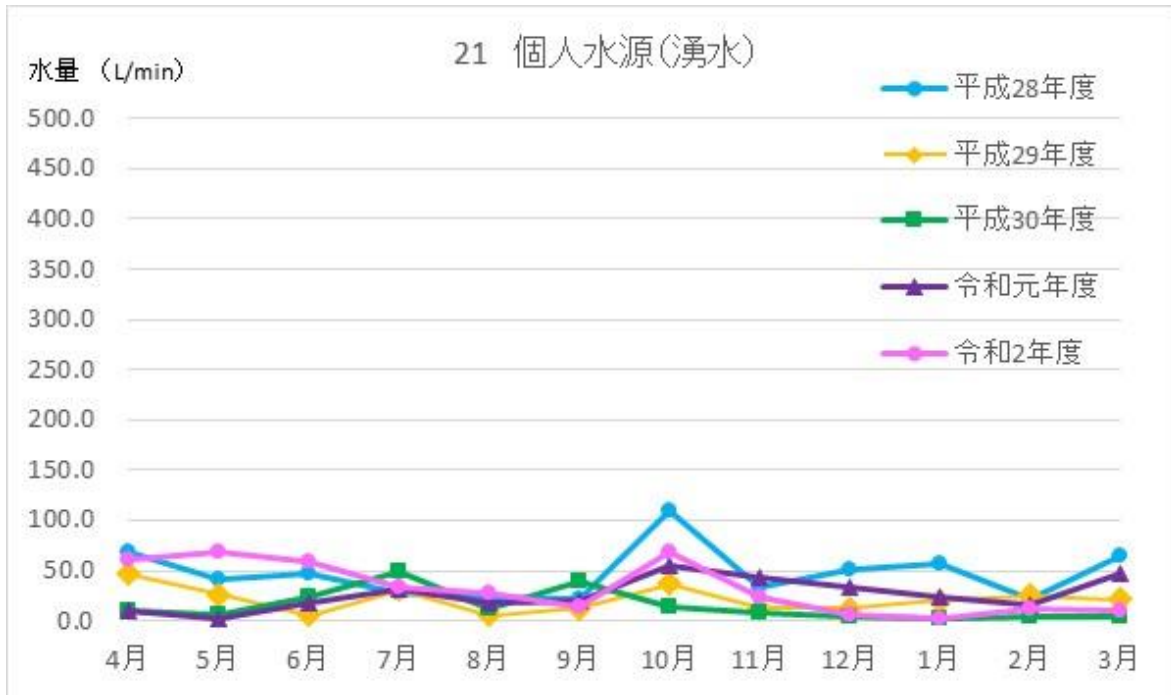
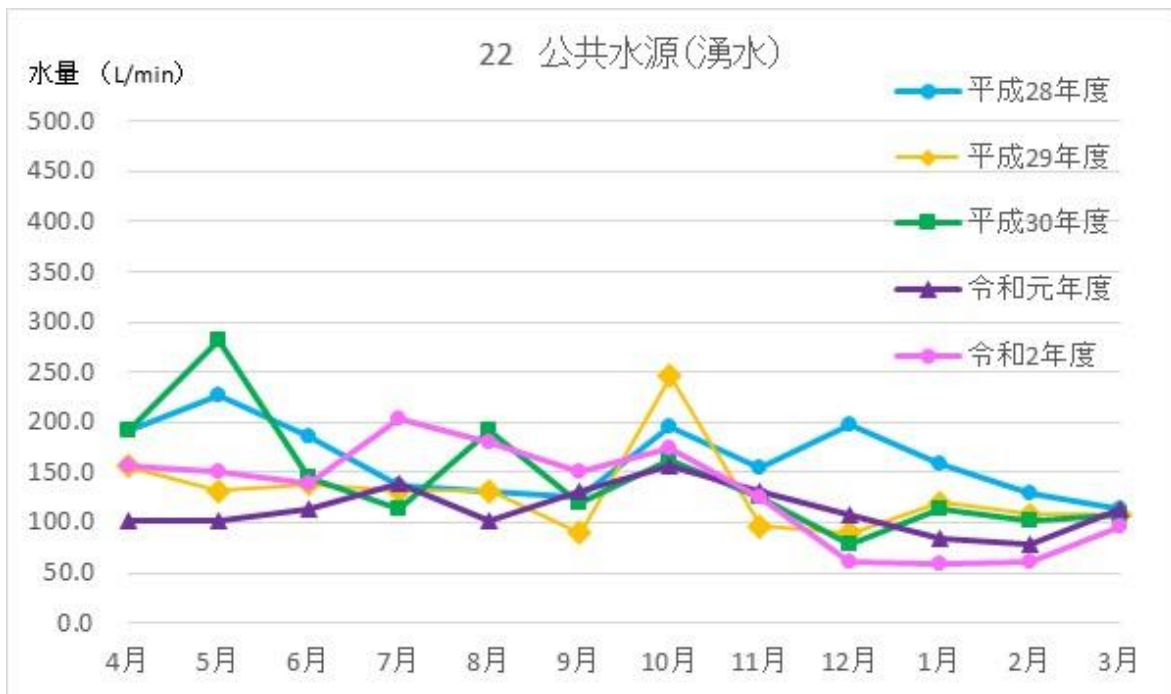


図 2-1-4-1 (7) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(21 大鹿村 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法



注：平成29年度10月期は測定日の3日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (8) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(22 大鹿村 公共水源 (湧水))

測定方法：容器法

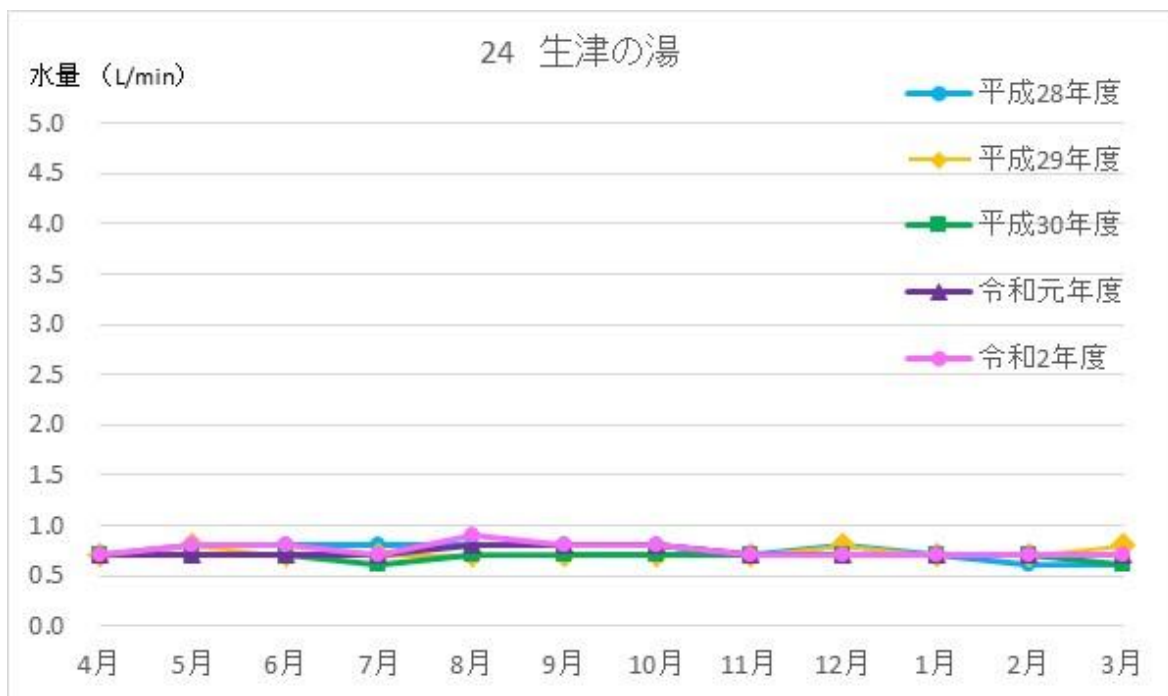
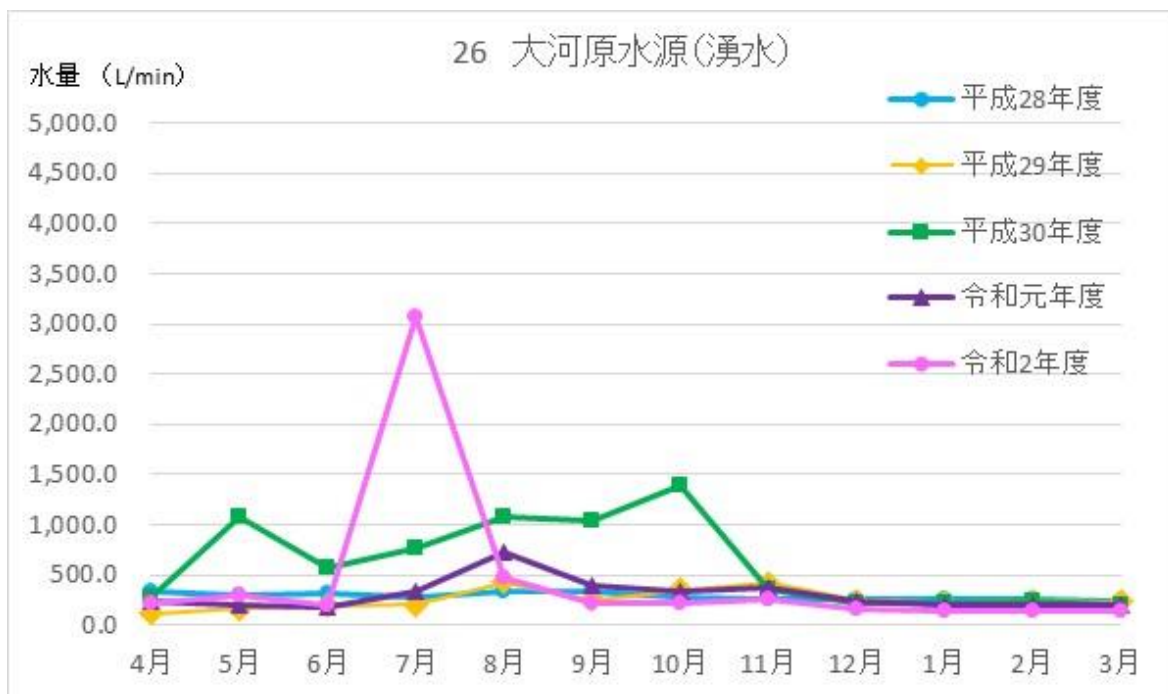


図 2-1-4-1(9) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(24 大鹿村 生津の湯)

測定方法：流速計測法及び容器法



注1：平成30年度10月期は前月の降雨の影響により増水した。

注2：令和2年度7月期は当月の降雨の影響により増水した。

図 2-1-4-1(10) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(26 大鹿村 大河原水源(湧水))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。



図 2-1-4-1(11) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(27 大鹿村 個人水源 (井戸：深さ約50m))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

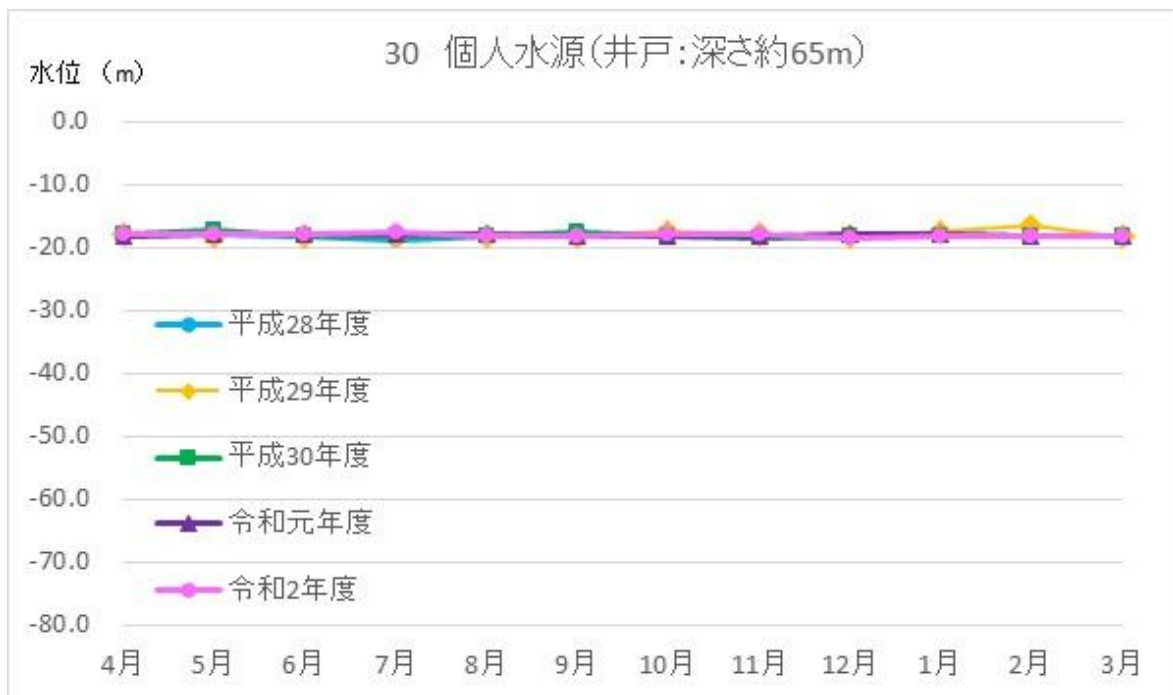


図 2-1-4-1(12) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(30 大鹿村 個人水源 (井戸：深さ約65m))

測定方法：容器法

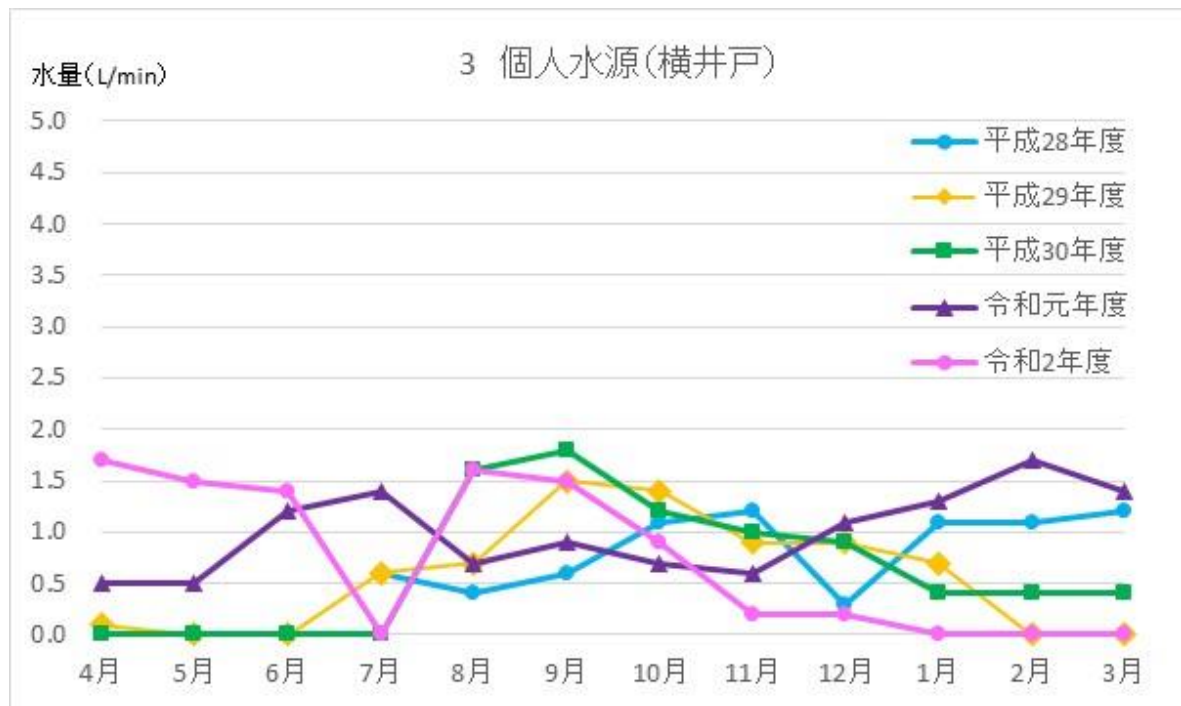
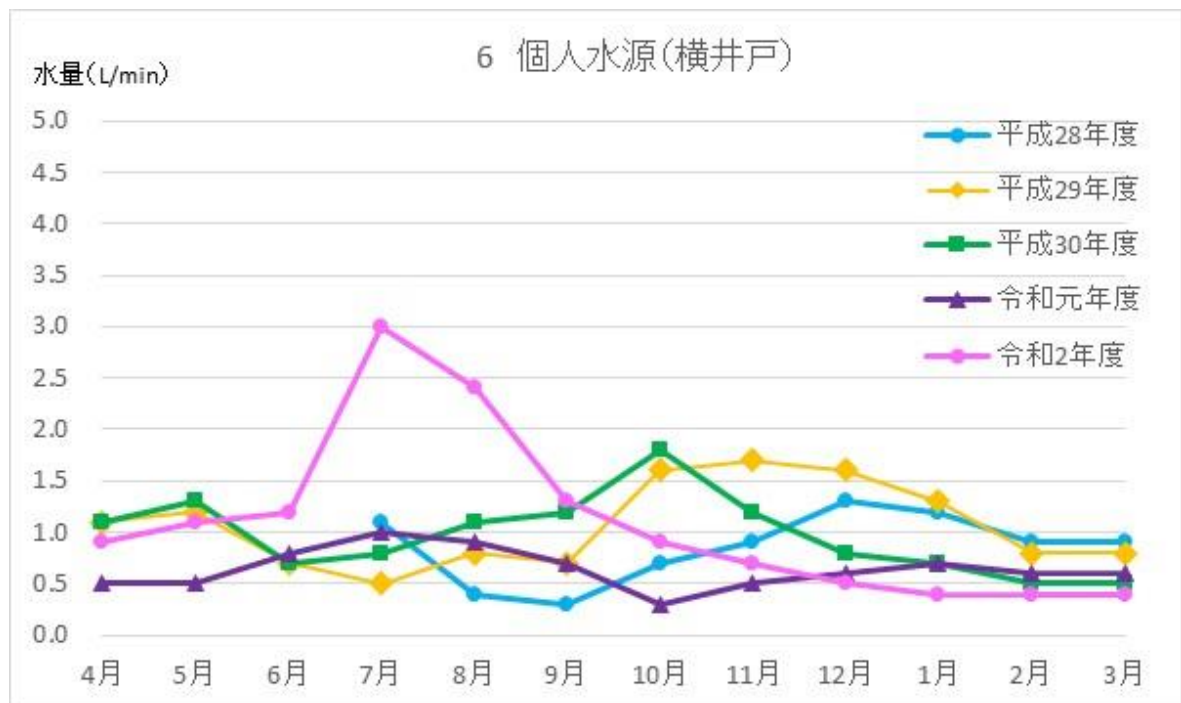


図 2-1-4-1 (13) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(3 豊丘村 個人水源 (横井戸))

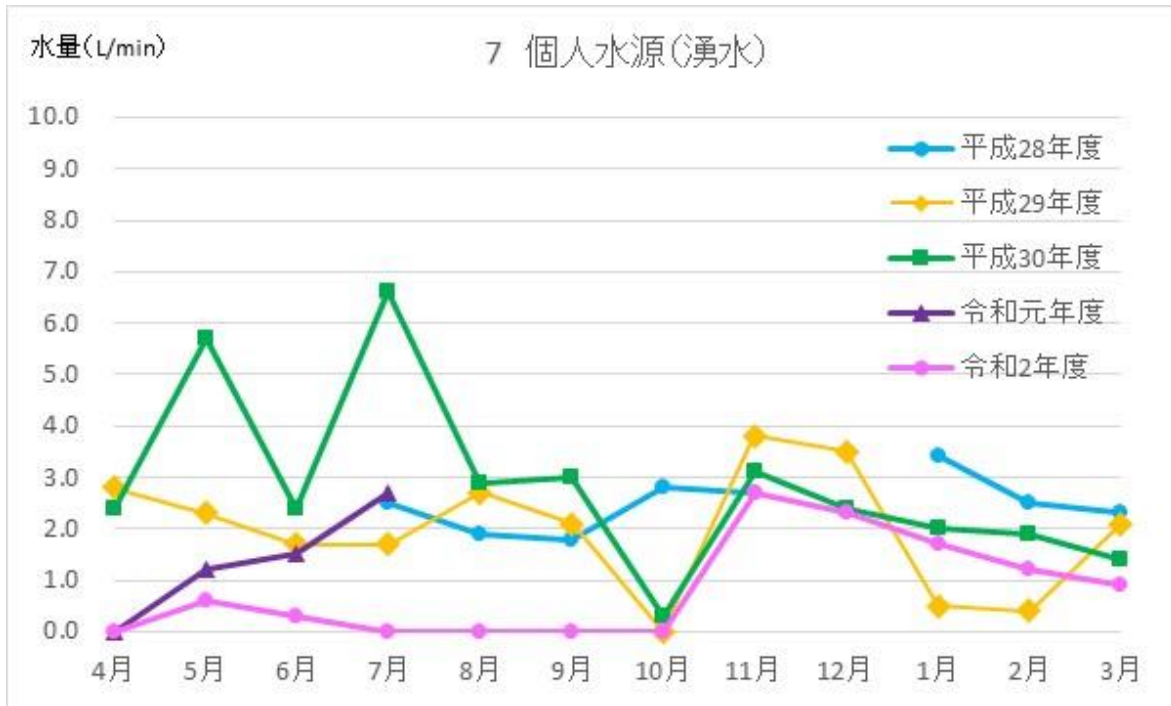
測定方法：容器法



注：令和2年度7～8月期は7月の降雨の影響により増水した。

図 2-1-4-1 (14) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(6 豊丘村 個人水源 (横井戸))

測定方法：容器法



注1：平成28年度12月期は所有者事情により、測定できなかったため欠測。

注2：令和元年度4月期の降水量は平成29～30年の同期間と比較して約50%の降水量であった。

令和元年度8月期～令和2年度3月期は取水管の破損により、測定できなかったため欠測。

図 2-1-4-1(15) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

(7 豊丘村 個人水源 (湧水))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

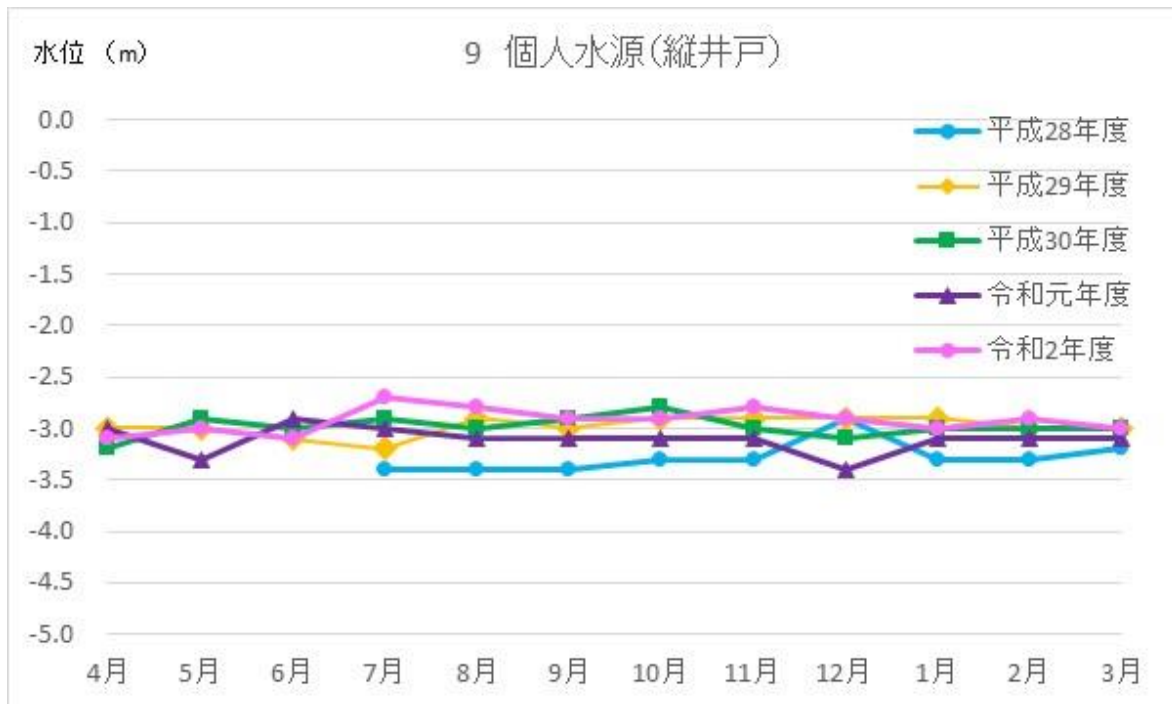


図 2-1-4-1(16) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果

(9 豊丘村 個人水源 (縦井戸))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

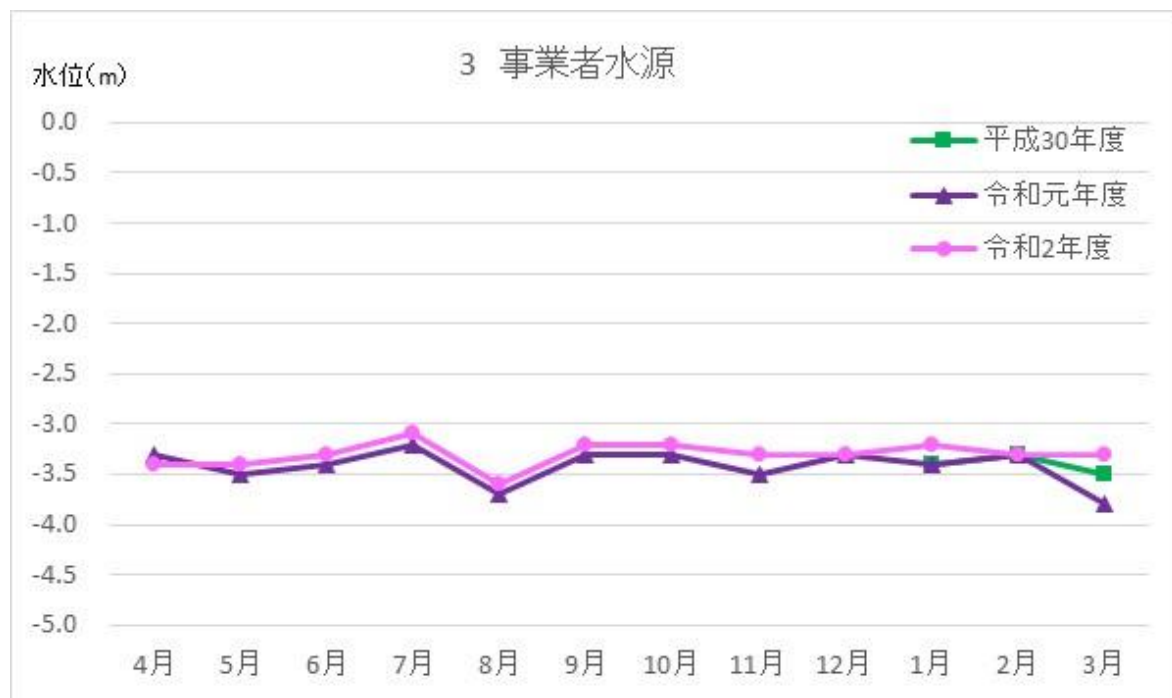
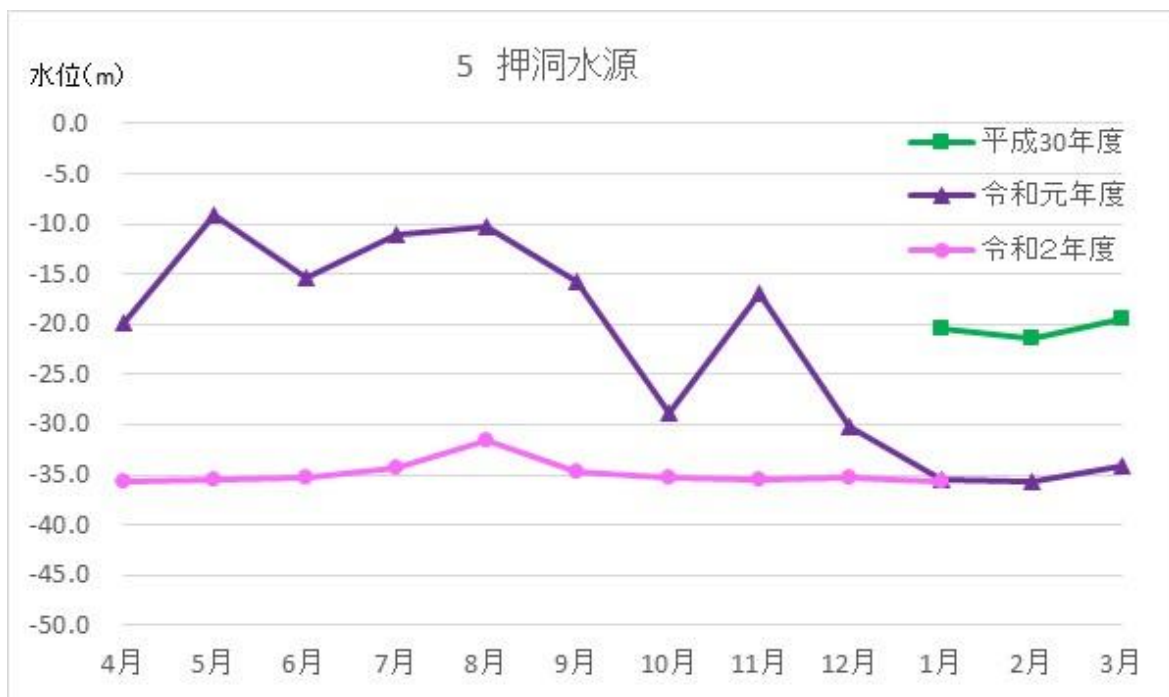


図 2-1-4-1 (17) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(3 飯田市 事業者水源)

測定方法：触針式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。



注：令和2年度2～3月期は所有者事情により、測定できなかったため欠測。

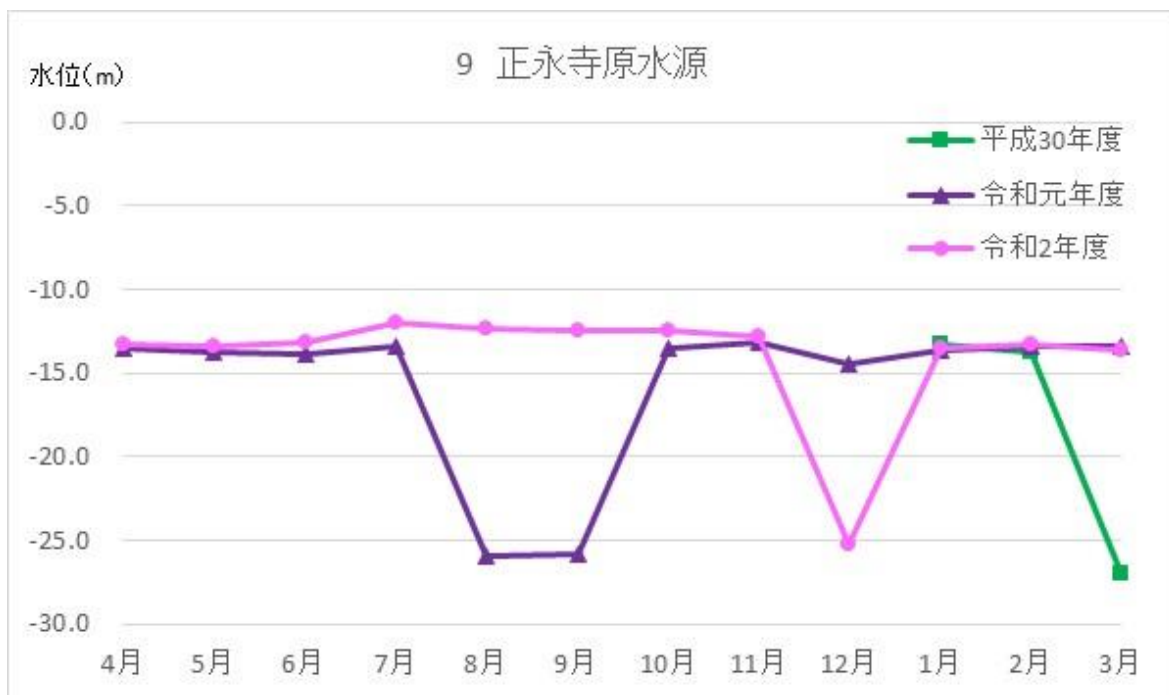
図 2-1-4-1 (18) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(5 飯田市 押洞水源)

測定方法：容器法



図 2-1-4-1(19) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(7 飯田市 個人水源 (湧水))

測定方法：触針式水位計 水位は孔口 (GL) からの深さを示す。



注：平成30年度3月期、令和元年度8～9月期、令和2年度12月期は、測定日にポンプが作動していたため、水位が低下。

図 2-1-4-1(20) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(9 飯田市 正永寺原水源)

測定方法：容器法



図 2-1-4-1 (21) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(11 飯田市 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法

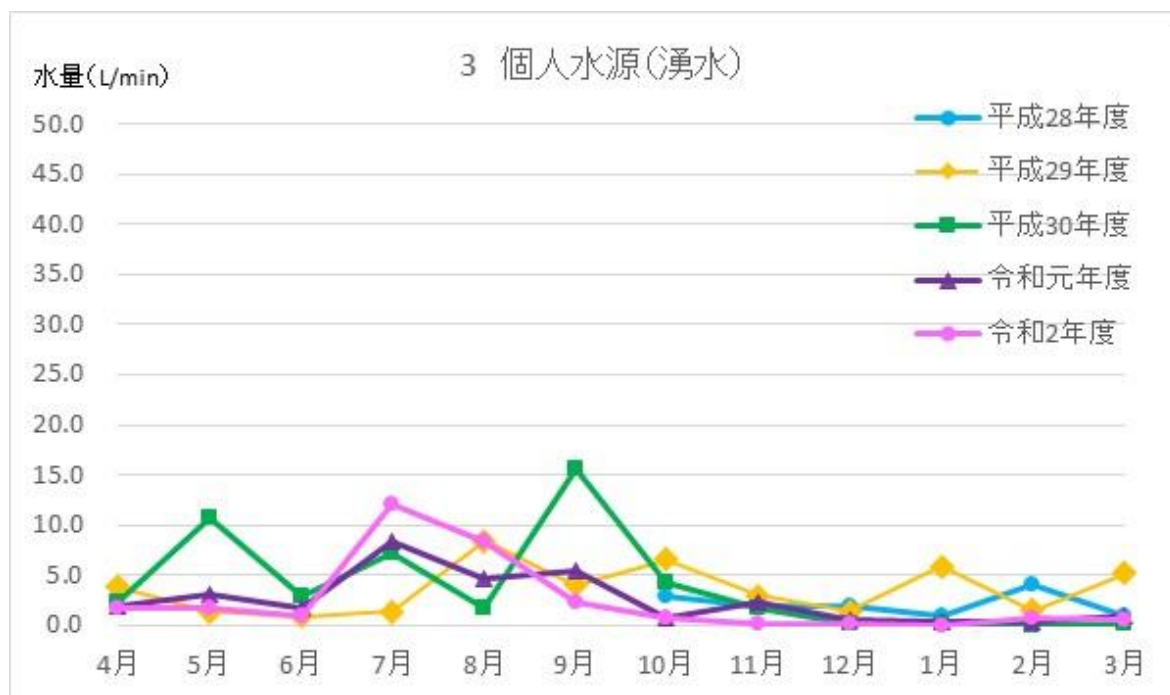


図 2-1-4-1 (22) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(3 南木曾町 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法

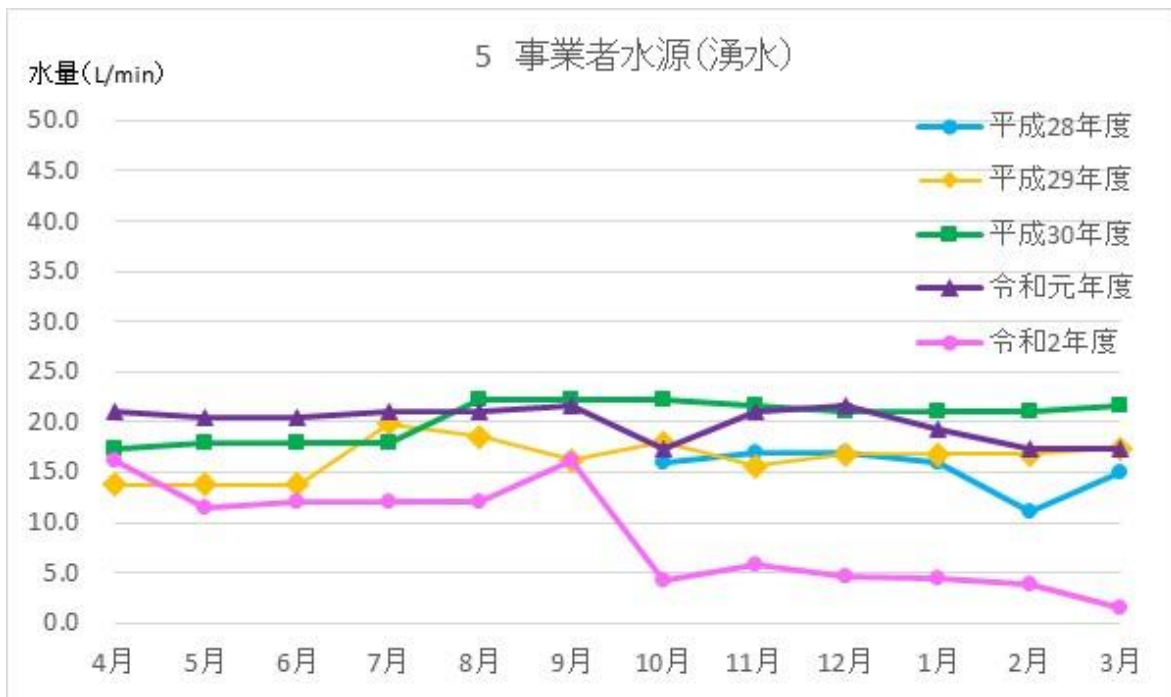


図 2-1-4-1(23) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(5 南木曾町 事業者水源 (湧水))

測定方法：接触式水位計 水位は集水升底面からの高さ。

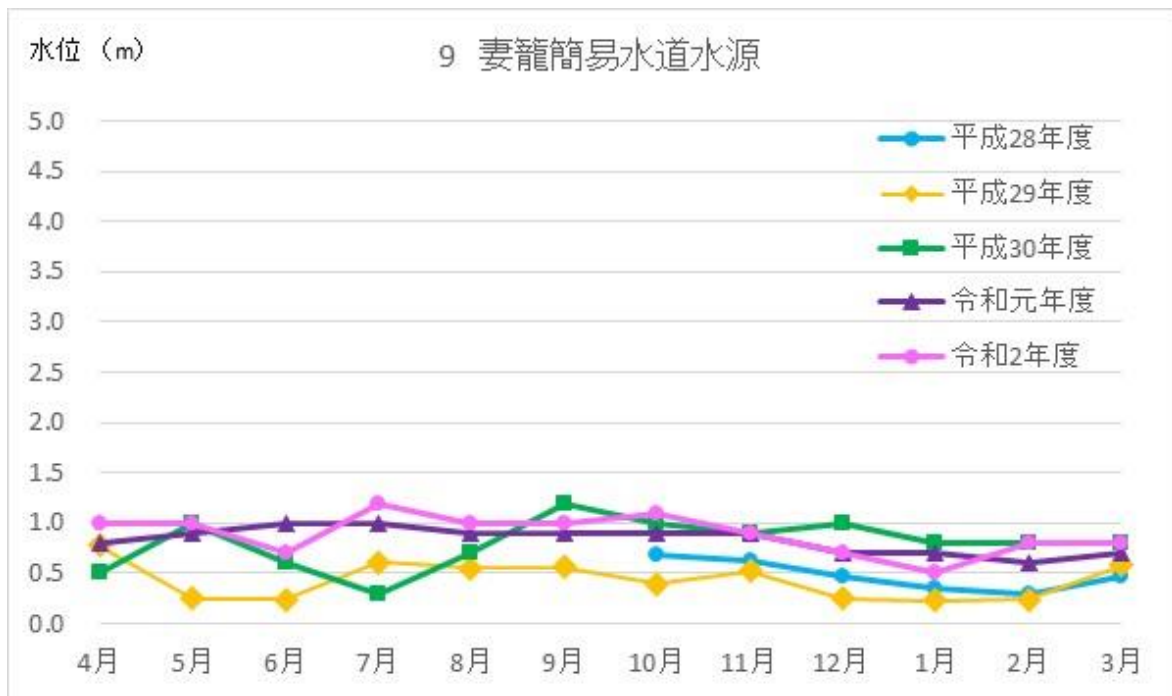


図 2-1-4-1(24) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(9 南木曾町 妻籠簡易水道水源)

測定方法：接触式水位計 水位は集水升底面からの高さ。

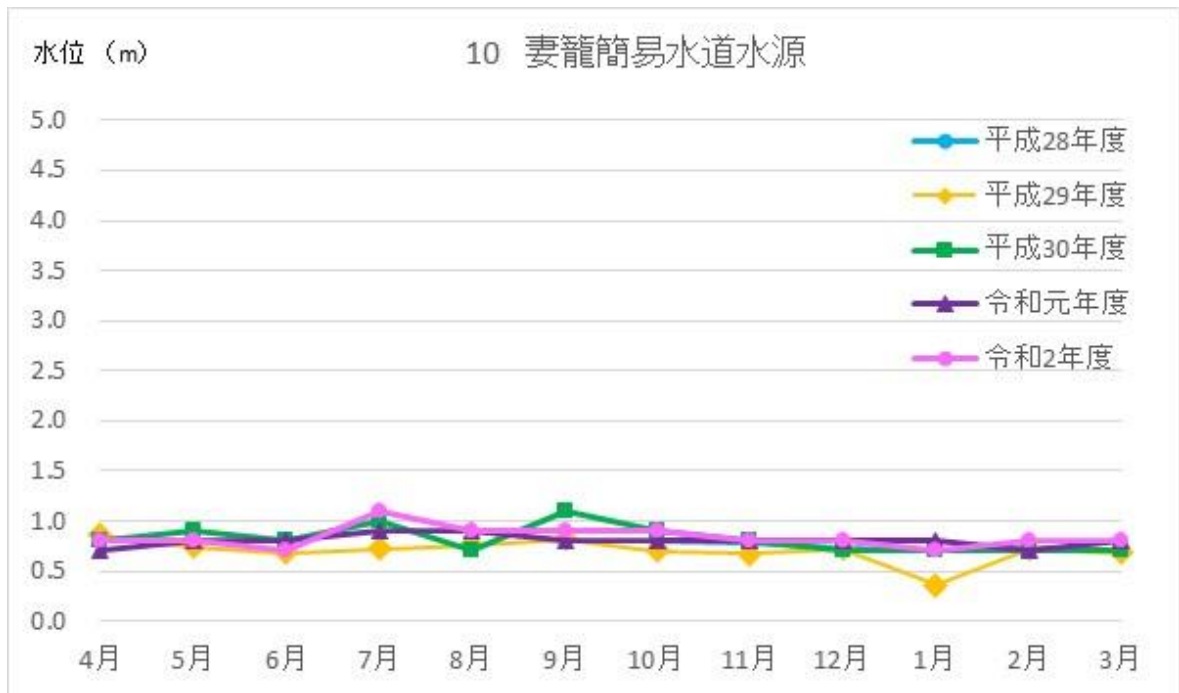


図 2-1-4-1(25) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(10 南木曾町 妻籠簡易水道水源)

表 2-1-4-1(14) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	大 鹿 村	小河内沢川 (本流 上流部)	水温 (°C)	4.8	8.6	11.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			pH	8.0	8.0	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			電気伝導率 (mS/m)	17.0	13.6	15.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			流量 (m ³ /min)	27.7	81.3	31.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2		小河内沢川 (支流 小日影沢)	水温 (°C)	4.4	8.5	10.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			pH	8.0	8.1	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			電気伝導率 (mS/m)	16.2	13.5	17.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			流量 (m ³ /min)	5.9	9.0	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3		小河内沢川 (支流)	水温 (°C)	4.3	9.1	12.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			pH	8.1	8.2	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			電気伝導率 (mS/m)	20.9	21.2	21.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			流量 (m ³ /min)	0.5	0.3	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

「-」：7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

表 2-1-4-1(15) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
4	大 鹿 村	寺沢 (支流)	水温 (°C)	5.6	10.7	12.4	-	-	-	-	6.8	6.5	2.2	0.8	2.5		
			pH	7.8	8.0	8.1	-	-	-	-	8.0	8.1	8.0	8.0	8.0		
			電気伝導率 (mS/m)	12.2	12.3	14.4	-	-	-	-	14.6	15.6	18.3	13.7	13.7		
			流量 (m ³ /min)	0.51	0.34	0.13	-	-	-	-	0.12	0.07	0.03	0.08	0.15		
5		大 鹿 村	寺沢 (本流 上流部)	水温 (°C)	7.5	11.1	13.3	-	-	-	-	8.0	7.0	1.6	1.2	4.7	
				pH	7.8	7.9	8.1	-	-	-	-	8.0	8.1	7.7	7.9	8.1	
				電気伝導率 (mS/m)	11.9	12.5	12.6	-	-	-	-	14.6	14.2	14.6	14.8	14.6	
				流量 (m ³ /min)	8.5	7.4	4.2	-	-	-	-	3.0	2.6	2.9	3.6	3.7	
6			大 鹿 村	小河内沢川 (本流 下流部)	水温 (°C)	5.5	9.8	12.5	-	-	-	6.2	6.1	3.7	0.6	0.1	2.7
					pH	7.9	8.1	7.9	-	-	-	8.1	8.1	8.1	8.1	8.2	8.1
					電気伝導率 (mS/m)	16.8	13.8	15.9	-	-	-	17.4	18.3	18.4	21.4	20.5	20.3
					流量 (m ³ /min)	42.8	86.8	45.3	-	-	-	43.2	23.2	15.2	15.3	14.9	14.1

注：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

「-」：7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、地点番号4、5の8～10月期、及び地点番号6の8～9月期は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

表 2-1-4-1(16) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7	大鹿村	寺沢 (本流 下流部)	水温 (°C)	7.3	11.1	12.6	-	-	-	8.8	8.5	7.2	3.4	1.2	6.5
			pH	8.0	8.0	7.9	-	-	-	8.1	8.1	8.0	8.0	8.1	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	12.3	12.5	13.4	-	-	-	15.2	15.4	15.4	15.6	15.6	15.5
			流量 (m³/min)	9.3	9.3	6.1	-	-	-	7.3	3.3	3.6	2.4	3.3	2.7
8		所沢	水温 (°C)	6.6	10.9	12.1	-	16.8	16.9	11.9	8.2	5.8	1.9	0.9	6.1
			pH	7.7	8.0	7.6	-	7.9	8.0	8.2	8.0	8.0	7.9	8.0	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	8.8	8.8	9.3	-	8.6	9.6	11.1	9.9	10.3	10.4	11.6	10.5
			流量 (m³/min)	8.3	7.8	4.4	-	8.0	8.2	4.2	3.4	2.8	4.7	2.6	2.9
12		小渋川 (支流)	水温 (°C)	8.1	10.6	11.7	-	15.0	14.0	11.4	8.4	7.2	2.5	2.7	6.3
			pH	7.8	7.6	8.0	-	7.9	7.9	8.2	8.4	8.1	8.2	7.9	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	7.6	8.2	8.1	-	8.1	8.7	8.5	8.3	8.0	7.7	7.8	8.0
			流量 (m³/min)	0.5	0.4	0.3	-	0.4	0.6	0.3	0.1	0.1	0.3	0.1	0.1

注：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

「-」：7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、地点番号7の8~9月期は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

表 2-1-4-1(17) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
13	大 鹿 村	板屋沢	水温 (°C)	4.5	9.4	11.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			pH	7.7	7.8	7.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			電気伝導率 (mS/m)	13.0	11.6	13.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			流量 (m³/min)	19.1	42.5	17.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14		小 渋 川 (本 流)	水温 (°C)	6.1	8.2	10.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			pH	8.0	7.8	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			電気伝導率 (mS/m)	16.4	14.4	14.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			流量 (m³/min)	86.4	238.1	93.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
15			小 渋 川 (支 流)	水温 (°C)	-	8.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				pH	-	7.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				電気伝導率 (mS/m)	-	8.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				流量 (m³/min)	0	0.3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

「-」：4月、6月期は流量がないためデータなし。7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

表 2-1-4-1(18) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	大鹿村	ツガムラ沢	水温 (°C)	7.3	9.6	12.3	-	16.8	15.6	11.7	4.6	0.5	1.3	0.1	4.0
			pH	8.0	7.7	7.9	-	8.1	8.1	7.8	7.9	8.1	7.9	7.4	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	9.1	9.1	9.1	-	10.0	10.5	10.7	10.4	10.4	10.9	11.8	11.0
			流量 (m³/min)	13.6	30.2	21.2	-	14.4	14.2	11.7	9.7	6.8	5.4	4.7	7.7
18		小渋川 (支流)	水温 (°C)	7.9	11.6	16.4	-	17.5	19.5	14.4	6.4	3.2	2.1	0.9	4.8
			pH	8.4	8.0	8.3	-	8.4	8.5	8.4	8.4	8.2	8.7	8.0	8.3
			電気伝導率 (mS/m)	13.2	13.0	13.8	-	17.0	17.1	15.7	16.6	17.2	19.3	17.3	15.3
			流量 (m³/min)	1.5	3.5	2.8	-	1.8	1.8	1.5	0.9	0.5	0.8	0.5	0.8
23		青木川 (支流)	水温 (°C)	7.6	10.7	12.7	15.5	17.1	17.0	14.6	9.6	6.7	3.6	4.5	7.1
			pH	8.3	8.2	8.1	8.2	8.2	8.1	8.2	7.8	8.2	8.3	8.3	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	38.0	35.6	36.9	31.5	39.4	42.3	37.5	41.5	44.7	57.5	42.3	43.4
			流量 (m³/min)	0.024	0.041	0.032	0.089	0.013	0.013	0.025	0.012	0.005	0.006	0.005	0.005

注：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

「-」：豪雨災害に伴う増水により欠測。

表 2-1-4-1(19) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
25	大 鹿 村	青木川 (支流)	水温 (°C)	7.1	11.2	13.6	18.2	19.6	20.1	13.6	4.9	0.5	0.1	0.4	5.1		
			pH	8.0	7.7	7.6	8.1	8.1	8.2	8.2	7.5	7.8	7.8	8.3	8.1		
			電気伝導率 (mS/m)	11.4	10.7	11.3	9.9	11.7	14.0	11.1	13.6	14.5	11.4	14.3	13.9		
			流量 (m ³ /min)	0.72	0.01	1.14	3.88	0.50	0.16	0.50	0.31	0.29	0.27	0.38	0.41		
28		大 鹿 村	青木川 (支流)	水温 (°C)	7.4	11.0	12.7	15.1	17.5	17.2	13.7	6.4	1.8	1.6	0.7	5.2	
				pH	8.2	7.9	8.1	7.8	7.9	8.1	7.9	8.2	7.7	8.2	8.0	8.0	
				電気伝導率 (mS/m)	8.3	7.9	8.4	6.9	8.5	9.4	8.8	8.3	9.5	9.9	9.9	10.3	
				流量 (m ³ /min)	2.7	4.8	3.0	6.8	3.1	1.5	1.6	0.9	0.8	0.5	0.5	0.6	
29			大 鹿 村	青木川 (支流)	水温 (°C)	7.9	11.7	14.4	17.8	19.6	18.2	14.7	7.0	2.1	1.8	0.3	4.3
					pH	8.0	7.9	8.4	8.3	8.3	8.2	8.3	8.3	7.9	8.0	7.5	8.0
					電気伝導率 (mS/m)	14.8	15.7	16.3	13.2	15.8	16.2	17.6	17.5	17.2	17.8	17.7	16.9
					流量 (m ³ /min)	3.2	3.9	3.4	10.8	4.1	3.3	2.3	1.5	1.0	2.2	1.2	1.4

注：地点番号は図 2-1-2-1(1)を参照。

表 2-1-4-1(20) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
31	大 鹿 村	青木川 (支流)	水温 (°C)	8.5	12.1	13.8	16.6	19.1	17.7	15.0	9.0	4.4	3.8	4.1	7.4
			pH	8.3	8.1	8.8	8.4	8.9	8.5	8.3	8.5	8.4	8.3	8.5	8.4
			電気伝導率 (mS/m)	21.6	22.1	22.9	19.1	18.3	20.8	23.1	22.7	23.1	22.9	22.7	22.3
			流量 (m³/min)	0.9	1.3	0.8	2.9	2.8	1.2	0.7	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5
32		青木川 (支流)	水温 (°C)	7.4	11.3	13.4	16.1	22.1	16.7	14.0	7.1	2.5	2.6	2.2	6.4
			pH	8.2	8.0	8.3	8.1	8.2	8.1	8.3	8.4	8.7	8.2	8.3	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	12.3	12.3	12.5	11.0	11.9	12.2	13.5	13.2	13.7	13.3	13.4	13.4
			流量 (m³/min)	5.3	6.3	5.3	28.7	10.3	8.5	4.0	3.2	2.3	3.4	2.5	2.9
33		青木川 (支流)	水温 (°C)	6.4	11.6	14.1	16.9	19.2	18.1	14.3	7.7	4.2	2.1	2.4	5.6
			pH	7.6	7.7	7.5	7.8	7.9	7.8	7.8	8.0	7.5	7.9	7.8	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	7.4	7.5	7.8	6.4	7.6	8.0	8.2	8.2	7.8	8.2	8.5	8.4
			流量 (m³/min)	1.1	1.8	2.4	10.2	3.4	1.5	0.8	0.6	0.1	0.4	0.4	0.3

注：地点番号は図 2-1-2-1(1)、(2)を参照。

表 2-1-4-1(21) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
34	大鹿村	青木川 (支流)	水温 (°C)	6.1	11.9	14.5	17.2	19.1	18.4	14.3	7.0	2.7	0.9	1.3	5.1		
			pH	7.8	7.6	7.6	7.7	7.8	8.0	7.9	7.9	7.6	7.9	7.8	7.6		
			電気伝導率 (mS/m)	7.5	7.9	8.4	6.4	8.1	8.6	8.3	8.3	8.0	8.4	8.7	8.9		
			流量 (m ³ /min)	1.5	1.7	1.5	5.9	2.3	1.4	0.8	0.6	0.4	1.4	0.5	0.6		
35		大鹿村	青木川 (支流)	水温 (°C)	6.9	11.2	13.3	15.8	18.5	17.5	14.0	6.6	1.7	1.3	0.8	6.0	
				pH	7.9	7.6	7.4	7.7	7.6	7.8	7.9	7.9	7.6	8.1	8.0	7.9	
				電気伝導率 (mS/m)	5.5	5.4	5.6	4.8	5.8	6.1	5.8	6.2	6.4	6.6	6.3	5.5	
				流量 (m ³ /min)	1.5	2.0	2.0	6.7	2.0	2.3	0.9	0.8	0.4	0.7	0.7	1.1	
51			大鹿村	青木川 (本流)	水温 (°C)	10.4	13.2	16.8	-	20.7	18.7	15.9	10.2	4.3	4.5	4.8	9.6
					pH	8.2	8.2	8.3	-	8.3	8.2	8.2	8.6	8.1	7.9	8.0	8.1
					電気伝導率 (mS/m)	12.5	12.1	12.5	-	13.9	15.2	16.4	14.6	15.8	16.8	15.6	15.2
					流量 (m ³ /min)	123.1	157.6	157.2	-	100.6	94.5	101.4	80.6	42.9	43.7	50.5	62.2

注：地点番号は図2-1-2-1(1)、(2)を参照。

「-」：豪雨災害に伴う増水により測定不可。

表 2-1-4-1(22) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	豊 丘 村	虻川 (本流 上流部)	水温 (°C)	5.6	10.7	15.0	16.5	20.7	-	13.2	10.6	2.4	0.8	2.2	4.4
			pH	7.3	7.6	7.4	7.4	7.5	-	7.5	7.6	7.1	7.6	7.3	7.3
			電気伝導率 (mS/m)	3.5	3.6	4.0	2.9	3.8	-	4.0	4.1	4.8	4.5	4.2	3.9
			流量 (m ³ /min)	36.0	28.7	17.7	122.0	27.9	-	24.3	18.4	10.3	6.8	13.4	25.1
2		虻川 (支流)	水温 (°C)	9.1	12.2	15.3	15.9	18.2	17.9	14.0	12.8	5.1	2.7	4.9	6.3
			pH	7.6	7.6	7.4	7.5	7.4	7.3	7.3	7.4	7.3	7.3	7.7	7.2
			電気伝導率 (mS/m)	6.0	6.2	6.6	5.0	6.0	6.2	6.4	6.3	6.5	6.7	6.2	6.3
			流量 (m ³ /min)	0.029	0.020	0.020	0.354	0.057	0.028	0.029	0.014	0.011	0.008	0.004	0.005
4		虻川 (本流 下流部)	水温 (°C)	9.7	13.0	17.7	18.2	23.7	20.9	13.7	11.6	2.8	0.5	2.9	7.1
			pH	7.4	7.5	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.7	7.8	7.6	7.2	7.2
			電気伝導率 (mS/m)	3.8	3.9	4.4	3.2	4.2	4.8	4.3	4.5	5.1	4.9	4.5	4.2
			流量 (m ³ /min)	35.0	42.6	12.8	149.6	33.0	25.6	33.7	17.4	11.8	10.4	18.7	31.1

注：地点番号は図 2-1-2-1(2)を参照。

「-」：豪雨災害の復旧工事に伴う道路通行止めにより欠測。

表 2-1-4-1(23) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
5	豊 丘 村	本村川 (支流)	水温 (°C)	7.8	10.7	17.9	17.9	19.7	21.4	14.4	10.5	2.7	0.2	4.3	6.5
			pH	7.6	7.7	7.8	7.6	7.7	7.8	7.8	7.4	7.8	7.2	7.6	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	11.7	9.9	12.9	7.9	9.4	11.2	10.9	12.7	12.9	13.3	12.7	11.4
			流量 (m³/min)	0.10	0.13	0.08	0.76	0.34	0.24	0.22	0.22	0.22	0.15	0.18	0.19
8		場知沢川	水温 (°C)	7.9	11.5	17.5	18.7	21.4	21.0	14.4	10.9	4.4	1.4	4.8	6.1
			pH	7.8	7.7	7.8	7.7	7.7	7.7	7.8	7.4	7.8	7.2	7.3	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	15.0	15.1	16.2	12.3	13.5	14.3	15.8	15.7	16.0	15.9	15.4	14.5
			流量 (m³/min)	0.5	0.5	0.4	1.9	0.7	0.9	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4
10		壬生沢川	水温 (°C)	7.5	12.7	18.7	19.2	22.4	21.9	14.3	10.8	3.5	0.7	4.9	5.6
			pH	7.8	7.8	8.0	7.7	7.8	7.8	8.0	7.5	7.8	7.3	7.4	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	9.7	9.7	11.8	7.9	9.5	10.1	10.1	10.7	10.9	11.2	11.2	12.3
			流量 (m³/min)	5.1	5.7	4.6	24.8	7.8	9.3	6.2	3.8	3.0	3.9	4.0	3.2

注：地点番号は図 2-1-2-1(2)、(3)を参照。

表 2-1-4-1(24) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
11	豊 丘 村	地蔵沢川	水温 (°C)	8.3	11.9	16.7	19.7	21.2	21.4	-	-	-	-	-	-
			pH	7.6	7.4	7.3	7.4	7.4	7.7	-	-	-	-	-	-
			電気伝導率 (mS/m)	14.5	11.8	13.2	10.3	11.8	12.9	-	-	-	-	-	-
			流量 (m ³ /min)	0.003	0.070	0.060	0.484	0.016	0.022	0	0	0	0	0	0

注：地点番号は図 2-1-2-1(2)、(3)を参照。

「-」：流量がないためデータなし。

表 2-1-4-1 (25) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	飯 田 市	野底川下流	水温 (°C)	11.4	13.7	17.1	-	19.1	17.8	11.8	12.1	2.6	5.2	6.9	8.6
			pH	7.7	7.3	7.6	-	7.6	7.4	7.3	7.3	6.8	7.5	7.6	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	4.7	5.2	5.3	-	4.4	5.0	4.9	5.1	5.2	5.0	4.8	5.3
			流量 (m³/min)	30.9	19.4	28.7	-	49.6	36.8	34.7	19.3	14.8	21.8	17.4	7.1
2		松洞川下流	水温 (°C)	10.5	14.4	18.3	20.6	22.3	20.1	15.5	12.4	5.6	3.5	10.5	10.5
			pH	7.8	7.5	8.0	7.8	7.6	7.8	7.6	7.4	7.9	7.2	7.7	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	10.4	8.7	12.2	10.2	10.6	12.6	11.2	13.4	13.1	13.7	13.1	10.4
			流量 (m³/min)	1.3	1.9	0.9	3.7	2.7	0.6	1.5	0.8	0.6	0.6	0.5	1.2
4		王竜寺川下流	水温 (°C)	13.6	19.6	22.4	20.0	26.5	20.1	13.4	12.1	5.4	5.5	3.5	10.8
			pH	8.1	7.9	7.9	7.7	7.8	7.7	7.4	7.6	7.6	7.5	7.4	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	10.3	9.3	8.7	7.8	6.7	8.9	8.8	8.7	7.7	9.2	8.9	8.4
			流量 (m³/min)	3.1	0.4	1.2	8.6	1.2	1.4	1.4	1.3	1.1	0.3	0.8	1.0

注：地点番号は図 2-1-2-1(3)を参照。
「-」：豪雨災害に伴う増水により欠測。

表 2-1-4-1(26) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6	飯 田 市	滝の沢川下流	水温 (°C)	12.8	14.3	15.5	16.4	19.6	18.2	12.9	10.5	3.5	5.4	2.0	11.9	
			pH	8.0	7.4	7.6	7.4	7.7	7.7	7.6	7.5	7.3	7.6	7.4	8.0	
			電気伝導率 (mS/m)	5.8	5.4	5.5	4.8	4.8	5.7	5.4	5.6	5.6	5.6	8.8	5.6	
			流量 (m³/min)	0.05	0.38	0.44	4.60	0.97	0.24	0.36	0.08	0.10	0.08	0.16	0.11	
8		阿弥陀沢川下流	水温 (°C)	10.4	13.9	15.1	15.4	18.1	15.8	12.6	9.7	5.3	2.8	3.0	7.3	
			pH	7.5	7.5	7.5	7.2	7.2	7.2	7.4	7.1	7.4	7.4	7.3	7.8	
			電気伝導率 (mS/m)	6.1	6.3	6.8	5.4	5.4	6.1	5.7	5.7	5.7	6.2	5.8	5.8	
			流量 (m³/min)	0.6	1.0	1.4	5.6	1.1	0.6	0.8	0.6	0.7	0.5	0.5	0.4	
10			西の原沢川下流	水温 (°C)	-	-	17.3	18.9	20.4	-	12.4	-	-	-	-	-
				pH	-	-	7.6	7.6	7.5	-	7.0	-	-	-	-	-
				電気伝導率 (mS/m)	-	-	10.4	5.0	5.2	-	4.9	-	-	-	-	-
				流量 (m³/min)	0	0	0.002	0.987	0.142	0	0.055	0	0	0	0	0

注：地点番号は図 2-1-2-1(3)、(4)を参照。

「-」：流量がないためデータなし。

表 2-1-4-1(27) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
13	飯 田 市	円悟沢川下流	水温 (°C)	8.0	12.1	15.3	16.0	17.4	17.3	12.4	9.8	3.7	5.2	3.2	8.6		
			pH	7.2	7.3	7.3	7.2	7.4	7.3	7.1	7.5	7.2	7.4	7.7	7.8		
			電気伝導率 (mS/m)	5.3	4.6	5.7	3.9	6.7	8.5	5.0	4.9	5.0	5.0	4.7	4.6		
			流量 (m³/min)	1.9	3.4	2.3	19.9	2.2	2.9	5.7	4.8	4.8	3.7	4.1	6.2		
14		飯 田 市	松川下流	水温 (°C)	6.2	12.6	14.5	15.7	20.5	18.2	12.7	9.5	1.3	3.3	3.4	2.4	
				pH	7.2	7.0	7.4	7.2	7.5	7.3	7.3	7.3	7.2	7.3	7.4	7.3	
				電気伝導率 (mS/m)	4.0	3.5	3.6	3.1	3.7	4.2	3.7	4.4	4.2	4.1	5.1	3.8	
				流量 (m³/min)	366.9	235.0	368.5	-	228.8	144.2	265.7	193.7	67.1	183.9	88.8	182.4	
15				清水沢水源	水温 (°C)	8.4	12.3	12.1	-	-	14.3	8.7	10.4	2.9	3.3	0.6	3.3
					pH	7.3	7.2	7.2	-	-	7.2	7.6	7.4	7.7	7.3	7.5	7.3
					電気伝導率 (mS/m)	2.7	2.8	2.4	-	-	2.7	2.5	2.6	2.9	2.9	2.9	2.6
					流量 (m³/min)	1.6	2.0	3.2	-	-	1.4	2.3	1.6	1.0	1.3	1.4	1.8

注：地点番号は図 2-1-2-1(3)、(4)を参照。

「-」：地点番号 14 の 7 月期は、豪雨災害による増水により流量のみ欠測。地点番号 15 の 7～8 月期は、豪雨災害に伴う道路通行止めにより欠測。

表 2-1-4-1 (28) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	南木曾町	中の沢 (高区水源)	水温 (°C)	5.4	11.2	13.2	15.0	16.5	17.1	12.3	6.3	4.8	1.4	2.2	3.8
			pH	7.5	7.4	7.4	7.5	7.1	7.7	7.5	7.8	7.8	7.5	7.5	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	2.9	3.2	2.3	2.5	2.9	3.4	3.5	3.3	3.3	3.3	3.0	3.3
			流量 (m ³ /min)	6.9	2.9	9.3	38.0	3.8	2.6	1.9	2.8	2.2	1.3	6.5	3.9
2		向ヶ原水源	水温 (°C)	6.0	8.9	10.3	13.3	14.5	16.7	12.9	8.9	6.8	2.1	3.7	4.8
			pH	7.6	7.4	7.4	7.2	7.8	7.5	7.8	7.7	7.7	7.7	7.7	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	2.3	2.4	2.5	2.0	1.7	2.7	2.5	2.5	2.6	2.3	2.2	2.2
			流量 (m ³ /min)	0.8	0.9	0.5	12.0	2.1	0.7	0.3	0.5	0.4	0.2	2.1	1.1
4		蘭川本流	水温 (°C)	7.9	12.4	15.3	-	18.7	19.6	14.0	7.7	4.6	1.3	1.3	4.8
			pH	7.6	7.6	7.4	-	7.5	7.4	7.5	6.9	7.2	7.6	6.9	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	3.0	3.1	3.3	-	2.9	3.5	3.5	3.5	3.4	3.9	3.7	3.0
			流量 (m ³ /min)	106.9	109.5	81.2	-	189.3	109.2	58.1	84.8	67.8	75.2	94.0	109.0

注：地点番号は図 2-1-2-1(5)を参照。

「-」：豪雨災害に伴う増水により欠測。

表 2-1-4-1(29) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6	南木曾町	ドンガメ沢下流	水温 (°C)	7.0	13.4	14.8	15.8	17.5	19.2	15.4	8.1	6.1	2.5	2.7	6.5
			pH	6.8	7.4	7.5	7.0	7.3	7.2	7.4	6.7	7.0	7.1	7.0	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	4.3	4.5	3.1	3.2	2.8	3.6	4.5	4.4	4.8	4.9	4.7	4.6
			流量 (m³/min)	0.6	0.6	1.8	5.4	4.2	2.5	0.5	0.5	0.4	0.3	1.0	0.5
7		男埴川下流	水温 (°C)	8.7	13.4	16.0	-	17.3	19.4	16.7	9.5	6.5	1.0	2.2	7.5
			pH	7.4	7.2	7.5	-	6.9	7.4	7.6	7.4	7.0	7.3	7.3	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	4.7	4.8	4.1	-	4.1	4.5	4.7	4.8	4.8	5.2	5.2	5.5
			流量 (m³/min)	18.9	11.4	5.0	-	48.5	19.3	7.4	8.7	6.4	3.7	7.2	7.9
8		三十沢下流	水温 (°C)	10.1	14.0	18.3	17.3	16.6	18.4	15.6	7.9	7.2	2.1	1.7	6.4
			pH	7.6	7.6	7.8	7.3	7.7	7.4	7.5	7.1	7.2	7.1	7.0	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	4.3	5.2	5.6	3.8	3.8	5.0	5.9	5.2	5.5	5.5	5.1	5.3
			流量 (m³/min)	4.1	1.2	0.3	11.3	12.1	3.2	1.1	1.8	0.5	0.4	1.5	0.8

注：地点番号は図 2-1-2-1(5)を参照。

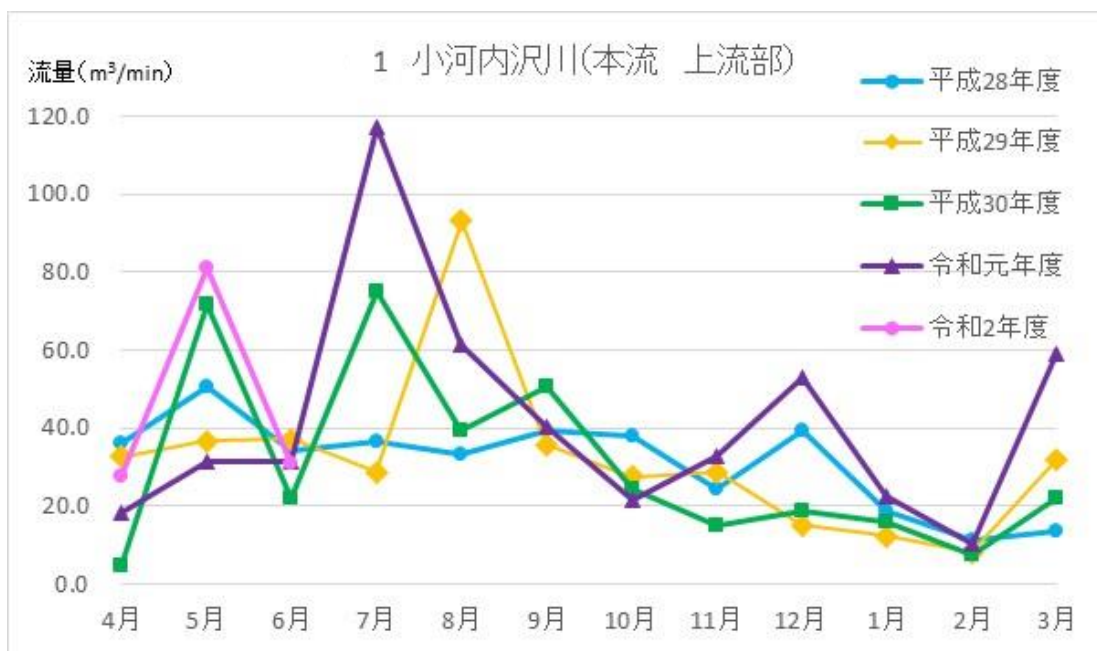
「-」：豪雨災害に伴う増水により欠測。

表 2-1-4-1(30) 地表水の流量の調査結果

地点 番号	市町 村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
11	南木曾町	権現沢	水温 (°C)	8.1	12.8	15.1	15.6	18.1	18.6	13.5	7.8	6.6	0.4	2.4	6.4
			pH	7.7	7.7	7.6	7.6	7.3	7.6	7.5	7.4	7.2	7.2	7.5	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	4.2	5.0	4.5	3.7	4.3	4.8	4.9	4.6	4.7	4.8	4.3	4.8
			流量 (m ³ /min)	2.04	0.50	0.02	6.65	1.23	1.27	0.26	0.47	0.29	0.13	0.51	0.56

注：地点番号は図 2-1-2-1(5)を参照。

測定方法：流速計測法



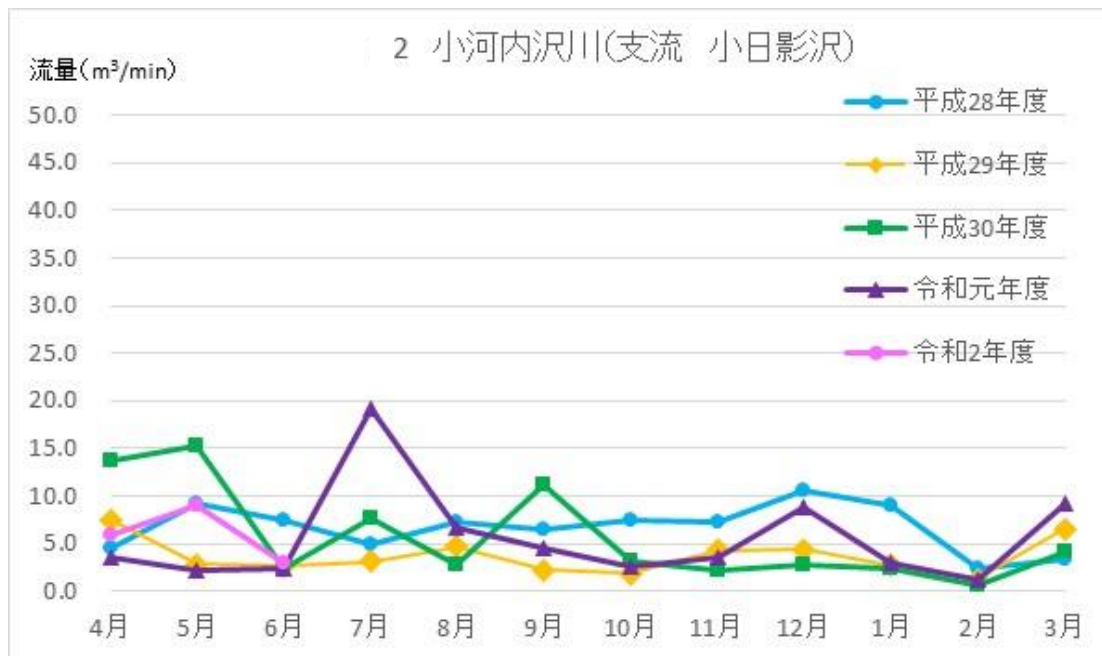
注1:平成29年度8月期は測定日の前々日から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2:令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3:令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (26) 地表水の流量の調査結果
(1 大鹿村 小河内沢川(本流 上流部))

測定方法：流速計測法

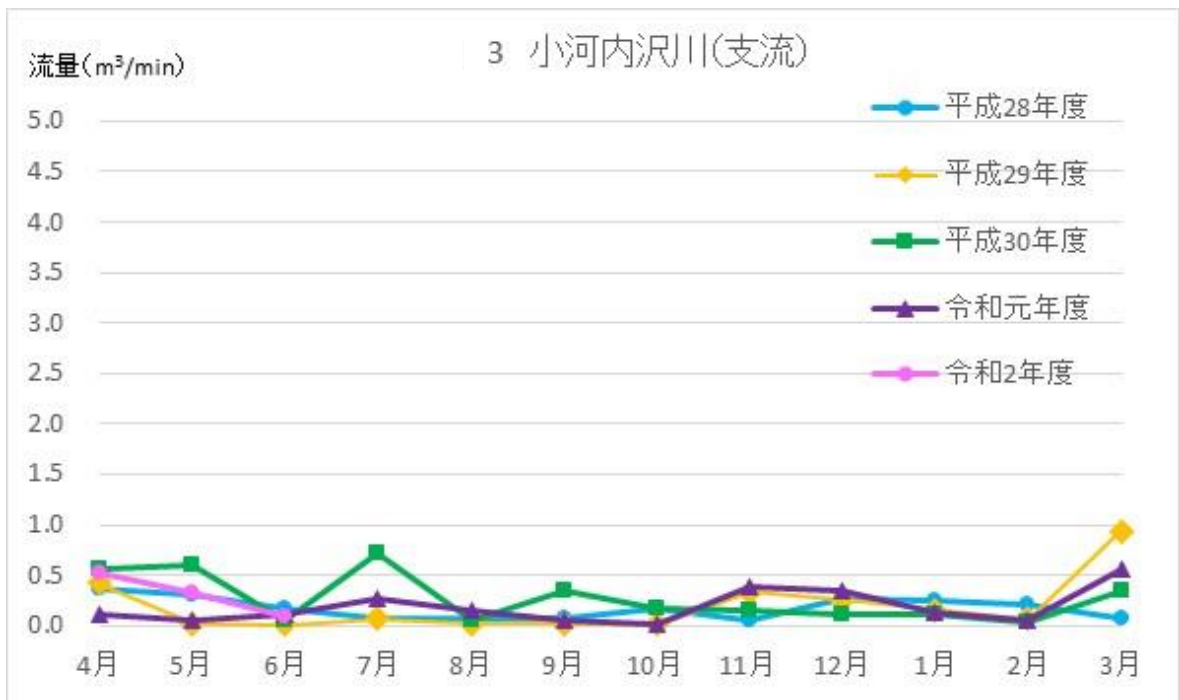


注1:令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注2:令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (27) 地表水の流量の調査結果
(2 大鹿村 小河内沢川(支流 小日影沢))

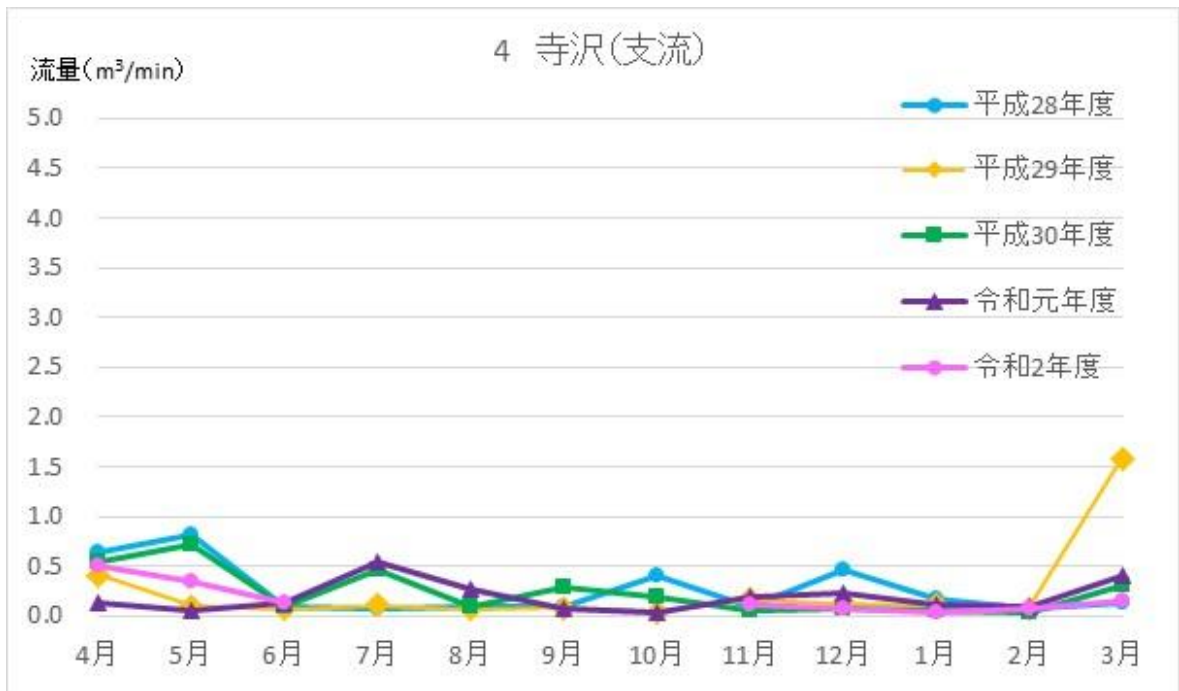
測定方法：流速計測法及び容器法



注:令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (28) 地表水の流量の調査結果
(3 大鹿村 小河内沢川(支流))

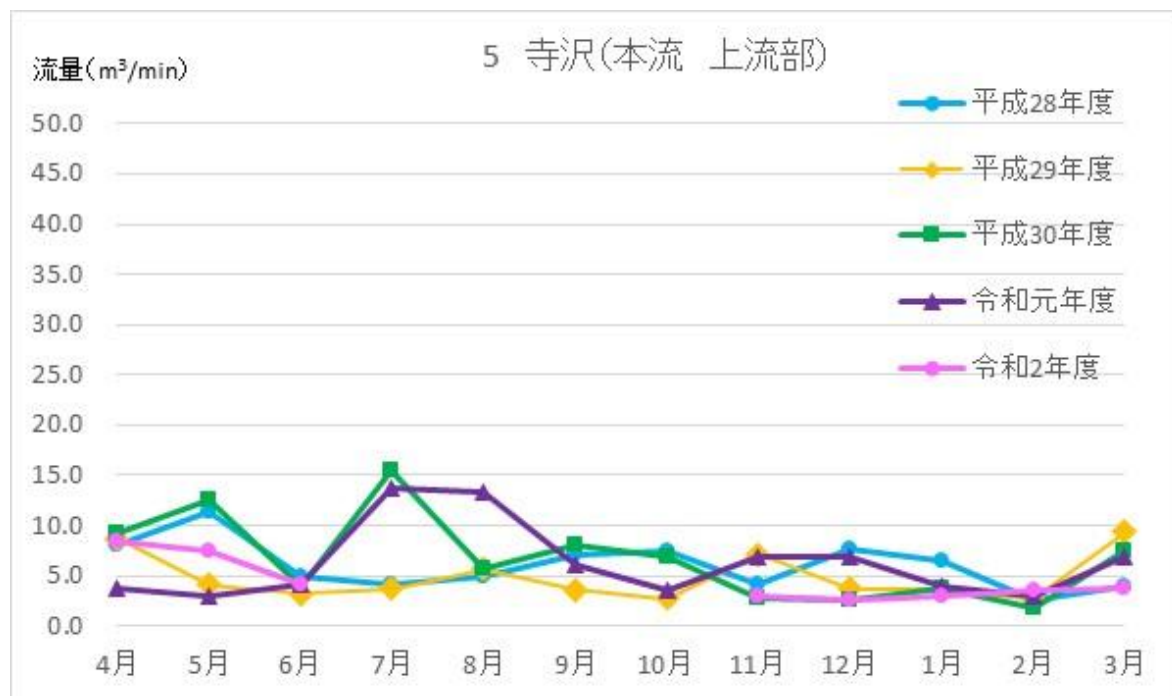
測定方法：流速計測法及び容器法



注:令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8~10月期は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (29) 地表水の流量の調査結果
(4 大鹿村 寺沢(支流))

測定方法：流速計測法



注: 令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8~10月期は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (30) 地表水の流量の調査結果
(5 大鹿村 寺沢(本流 上流部))

測定方法：流速計測法



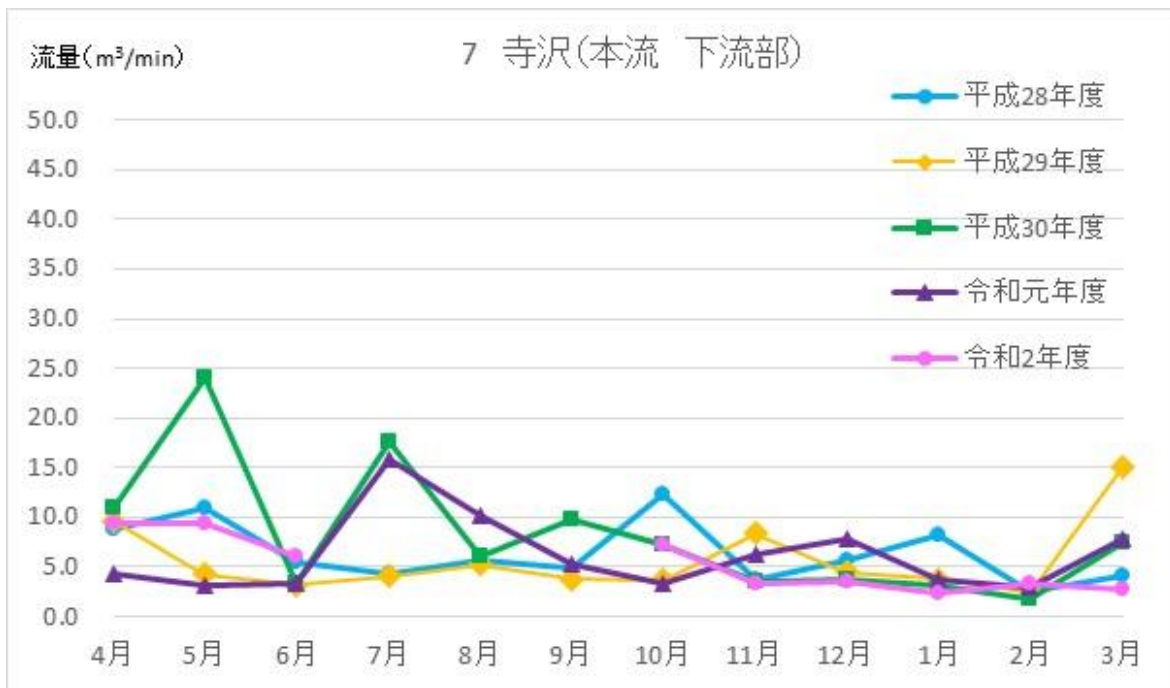
注1：平成28年度10月期は測定日の前々日から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8~9月期は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (31) 地表水の流量の調査結果
(6 大鹿村 小河内沢川(本流 下流部))

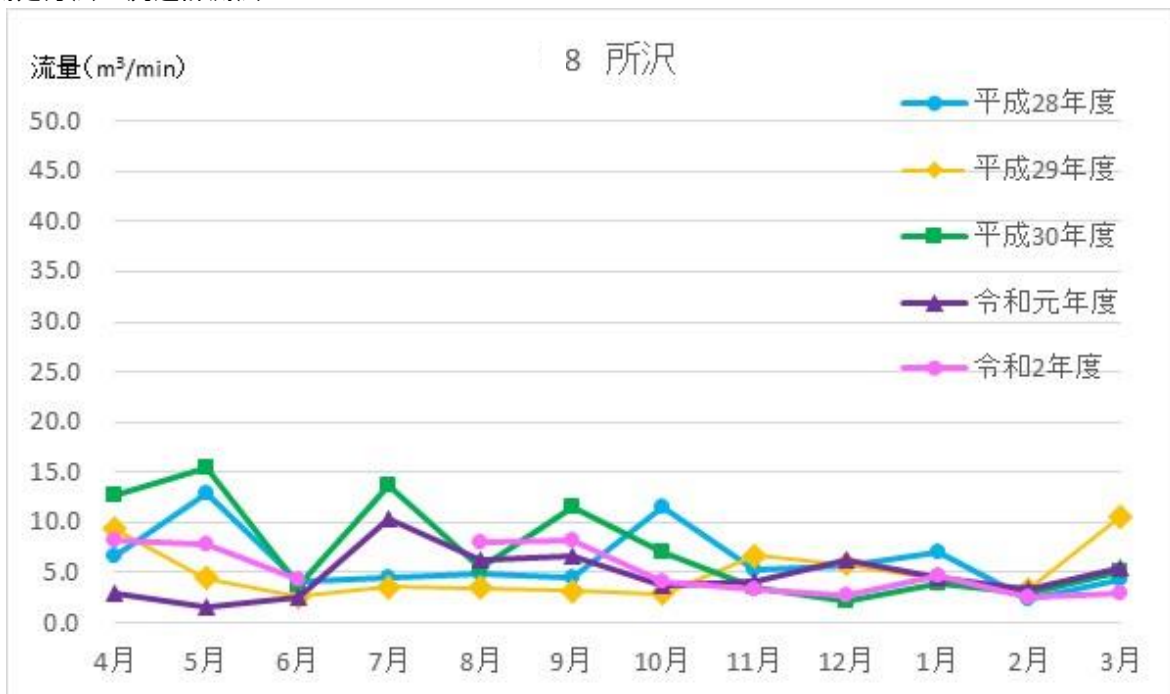
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8～9月期は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (32) 地表水の流量の調査結果
(7 大鹿村 寺沢 (本流 下流部))

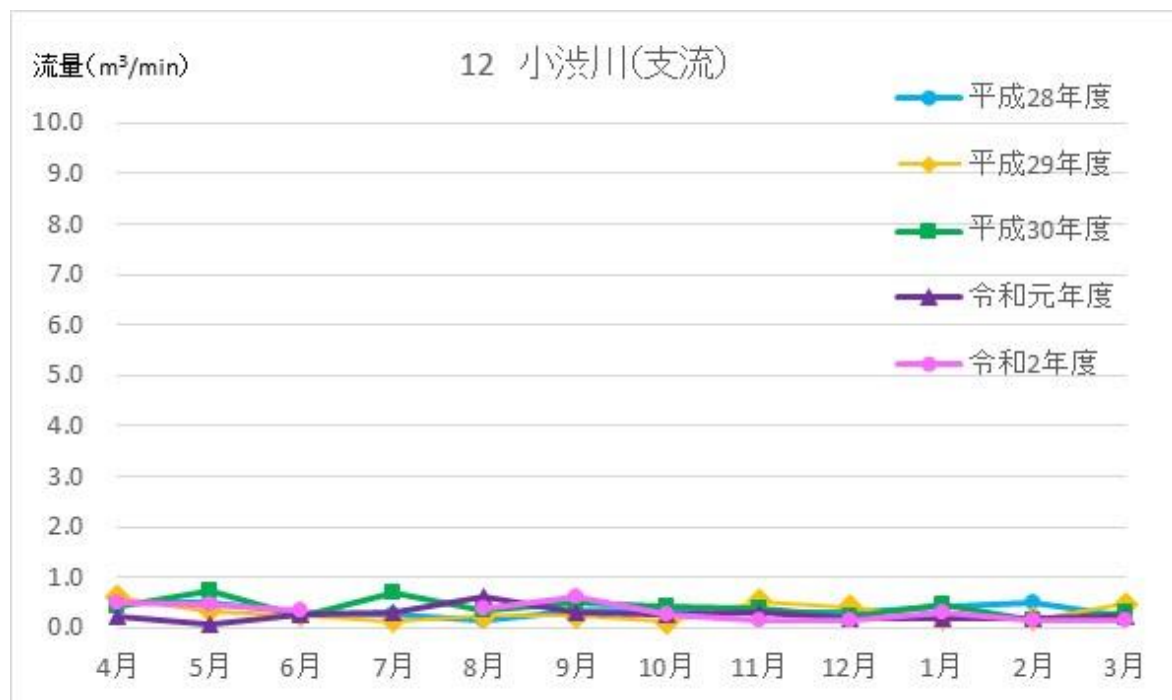
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。

図 2-1-4-1 (33) 地表水の流量の調査結果
(8 大鹿村 所沢)

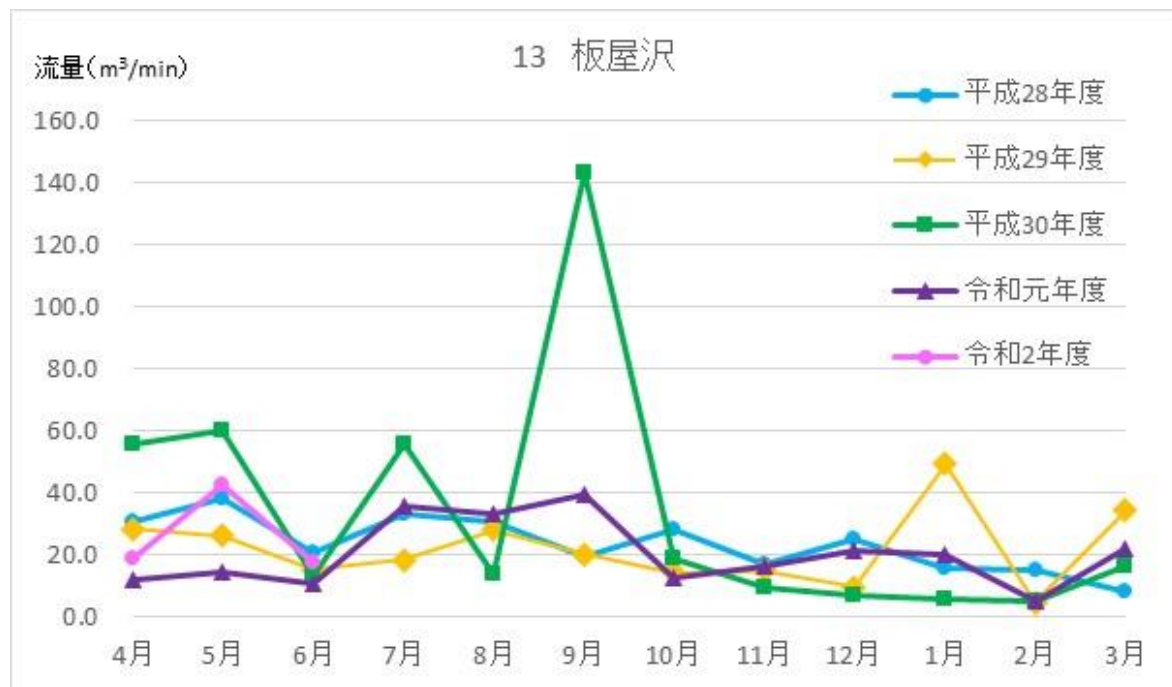
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。

図 2-1-4-1 (34) 地表水の流量の調査結果
(12 大鹿村 小渋川(支流))

測定方法：流速計測法

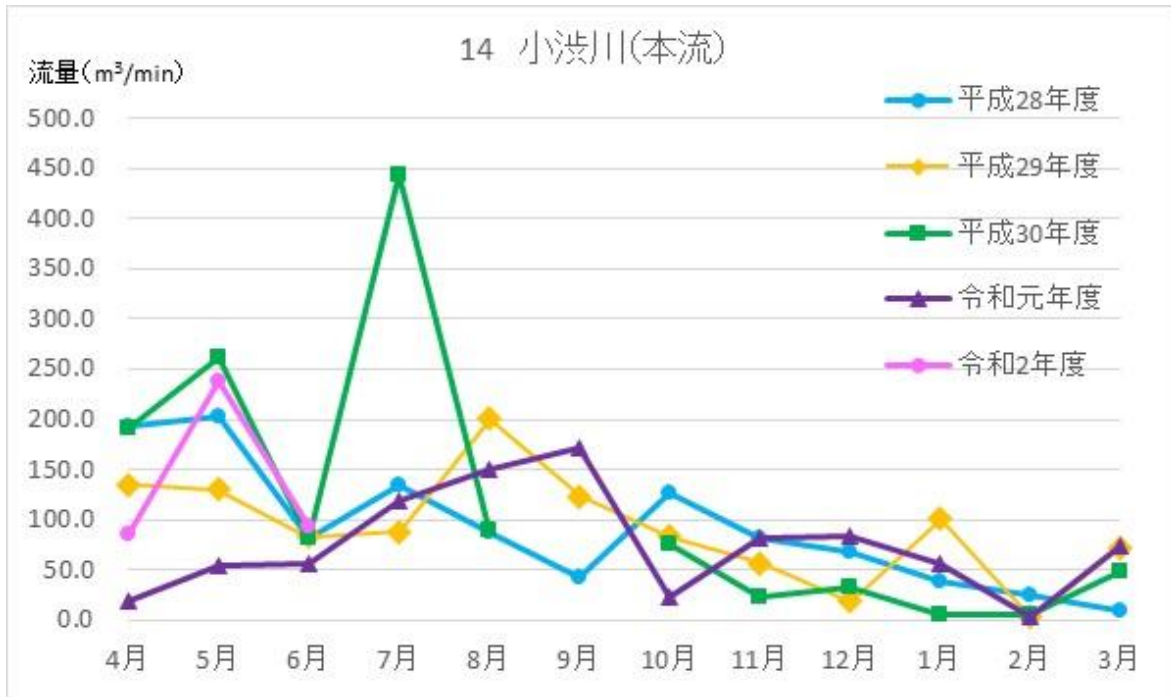


注1：平成30年度9月期は測定日の前々日から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (35) 地表水の流量の調査結果
(13 大鹿村 板屋沢)

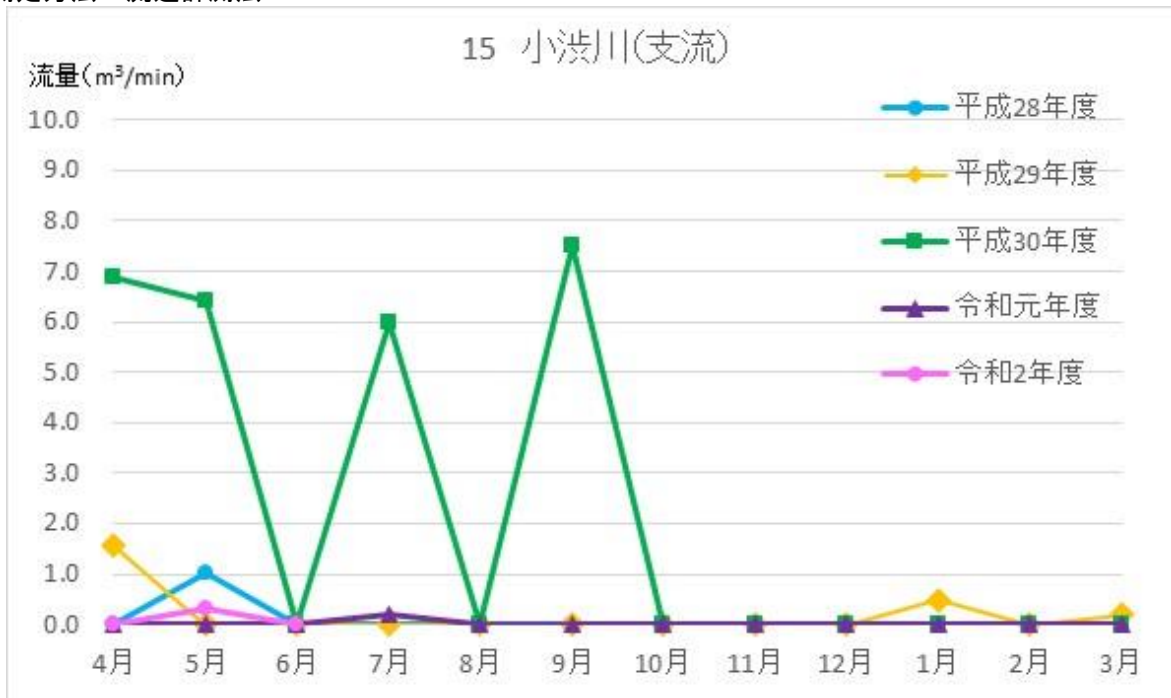
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度7月期は測定日の8日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：平成30年度9月期については、増水の影響により計測が困難なため、欠測。
 注3：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (36) 地表水の流量の調査結果
(14 大鹿村 小渋川(本流))

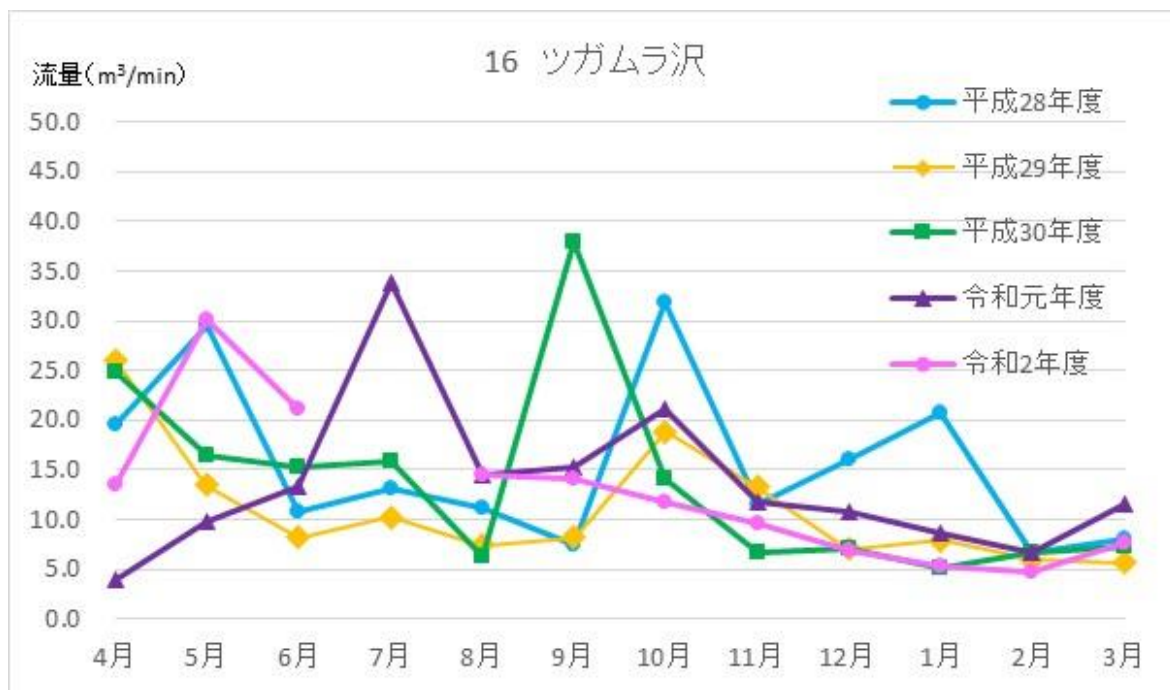
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度4、5、7、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測、8月期以降は豪雨災害によりアクセスできないため、欠測。

図 2-1-4-1 (37) 地表水の流量の調査結果
(15 大鹿村 小渋川(支流))

測定方法：流速計測法



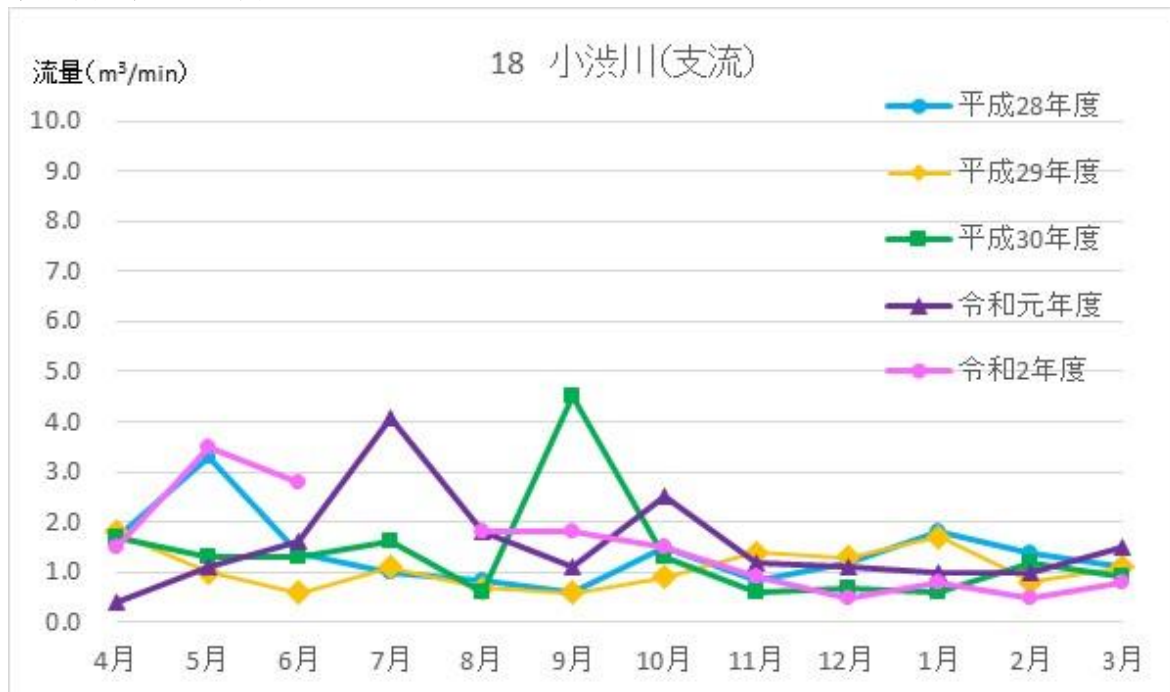
注1：平成30年度9月期は測定日の3日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。

図 2-1-4-1 (38) 地表水の流量の調査結果
(16 大鹿村 ツガムラ沢)

測定方法：流速計測法



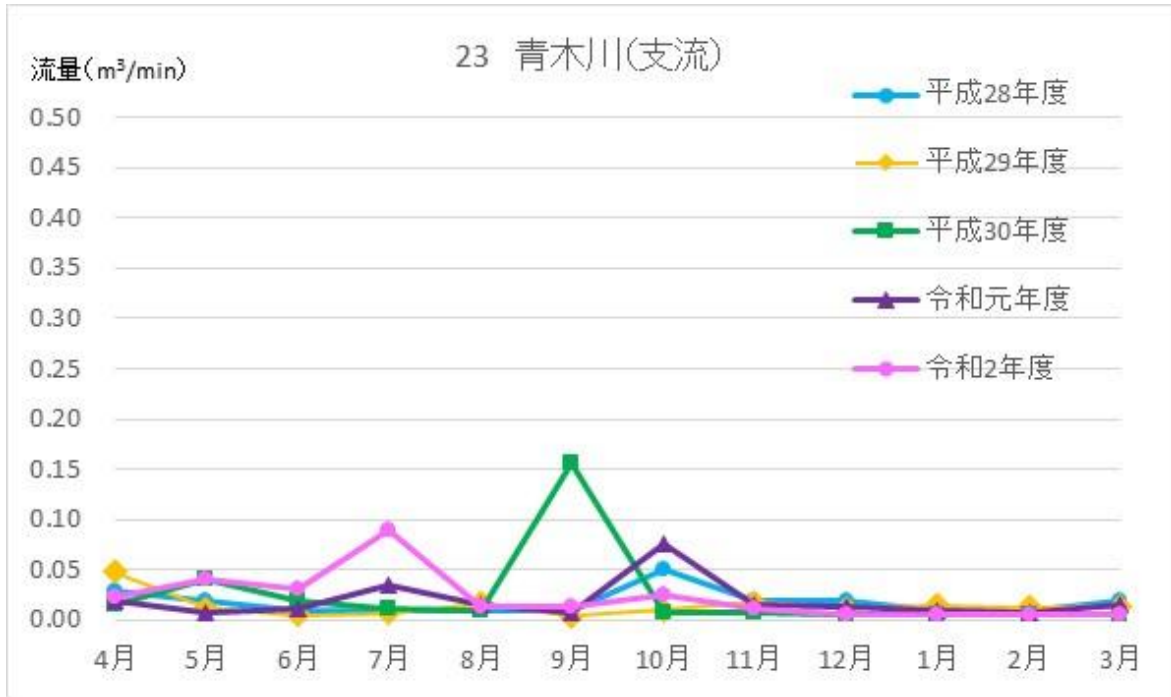
注1：平成30年度9月期は測定日の3日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。

図 2-1-4-1 (39) 地表水の流量の調査結果
(18 大鹿村 小渋川(支流))

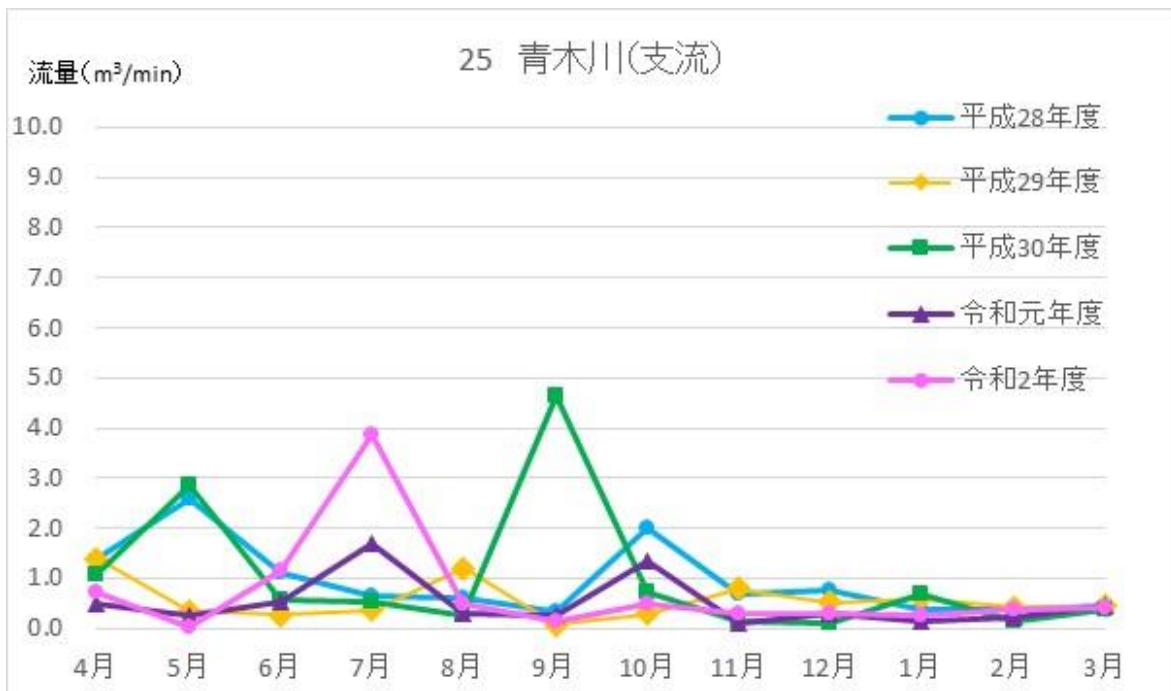
測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (40) 地表水の流量の調査結果
(23 大鹿村 青木川 (支流))

測定方法：流速計測法

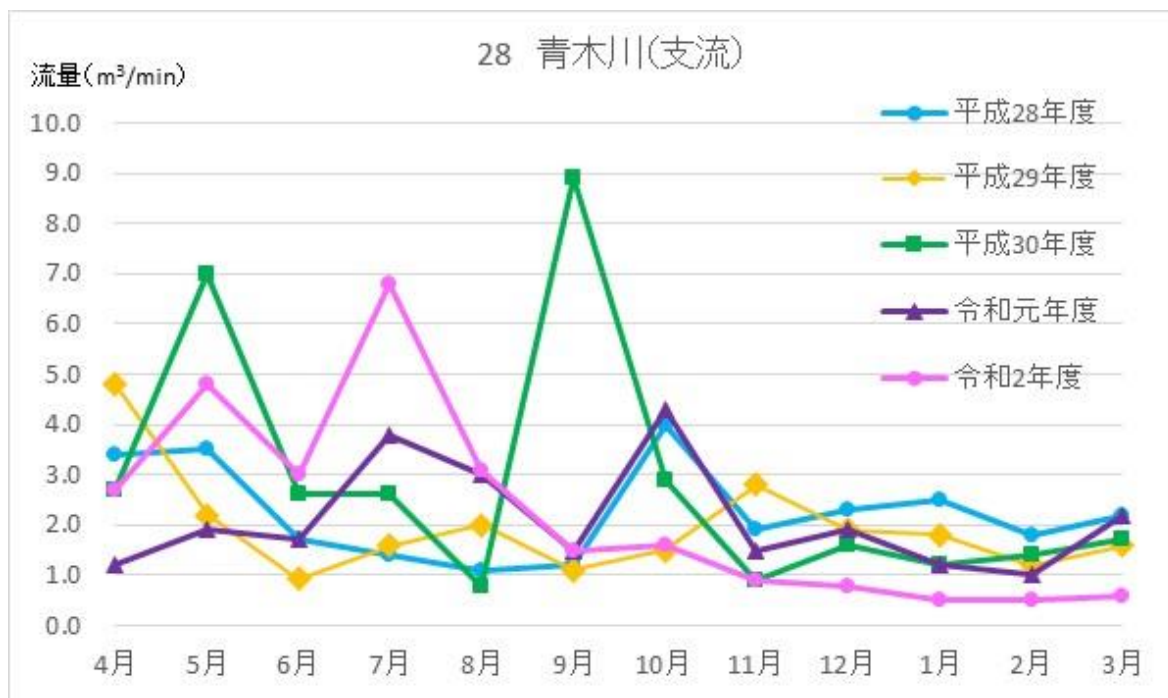


注1：平成30年度9月期は測定日の10日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (41) 地表水の流量の調査結果
(25 大鹿村 青木川 (支流))

測定方法：流速計測法

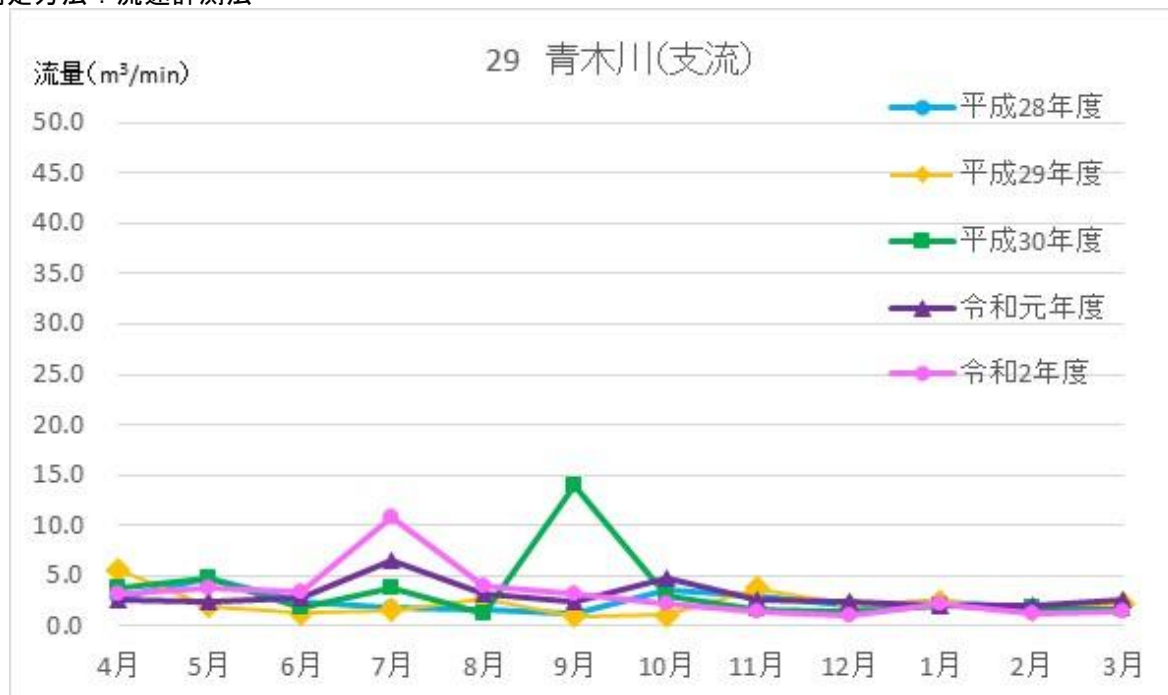


注1：平成30年度9月期は測定日の10日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (42) 地表水の流量の調査結果
(28 大鹿村 青木川(支流))

測定方法：流速計測法

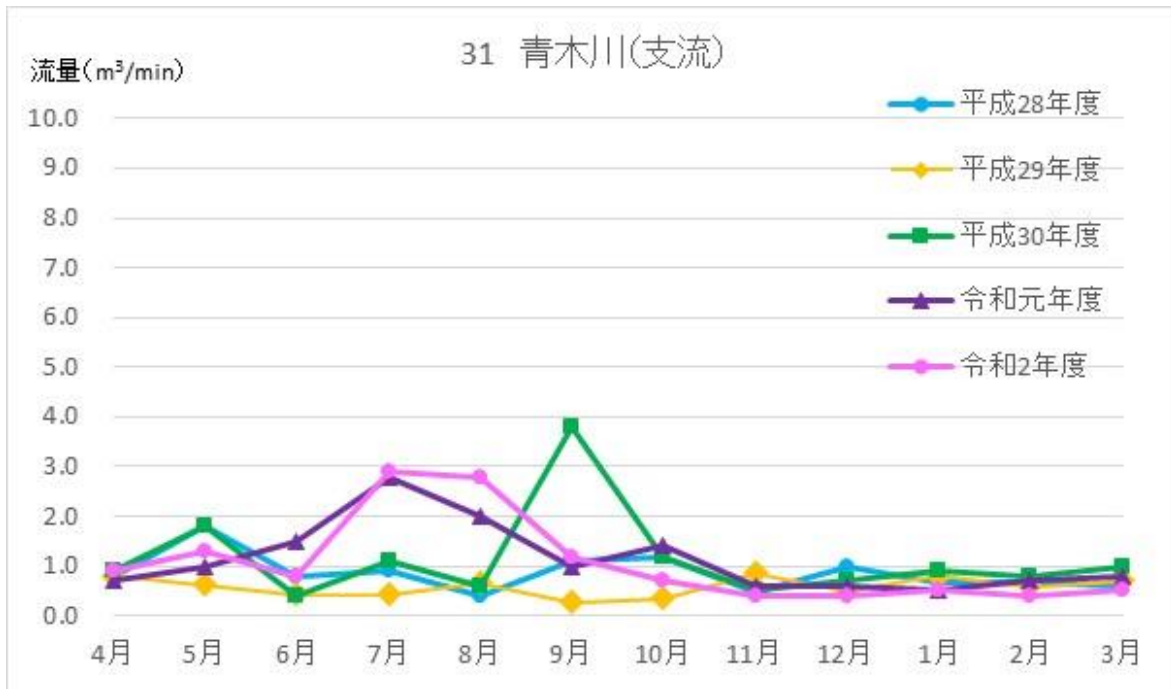


注1：平成30年度9月期は測定日の10日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (43) 地表水の流量の調査結果
(29 大鹿村 青木川(支流))

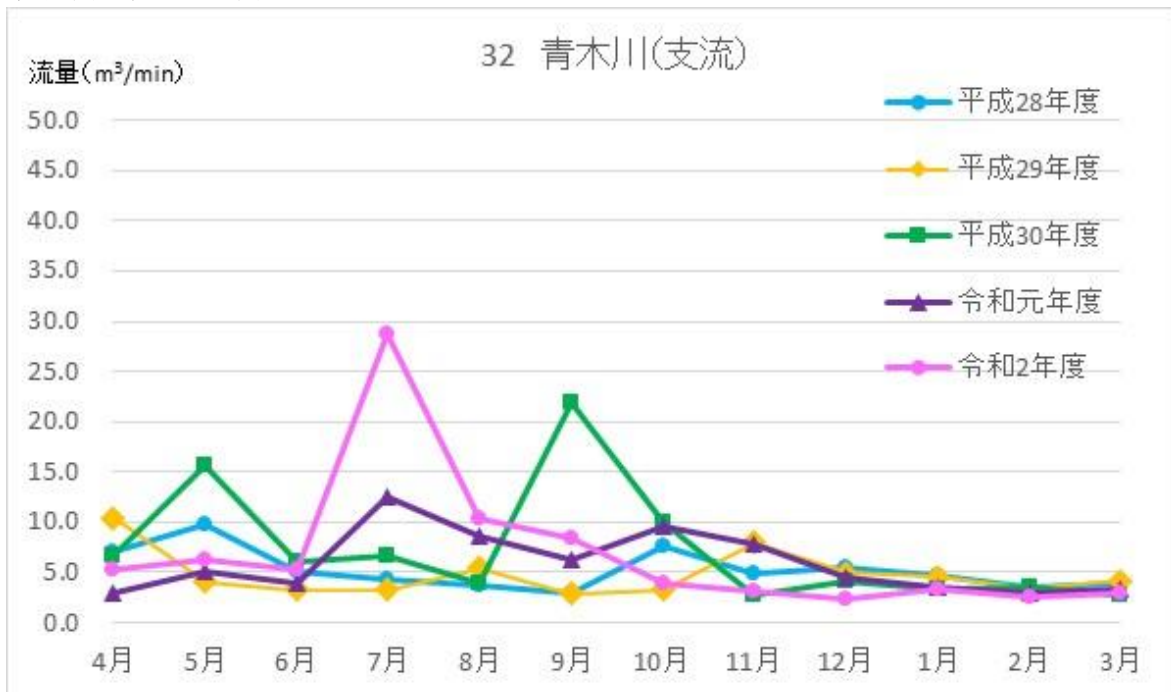
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度9月期は測定日の10日前から前日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (44) 地表水の流量の調査結果
 (31 大鹿村 青木川 (支流))

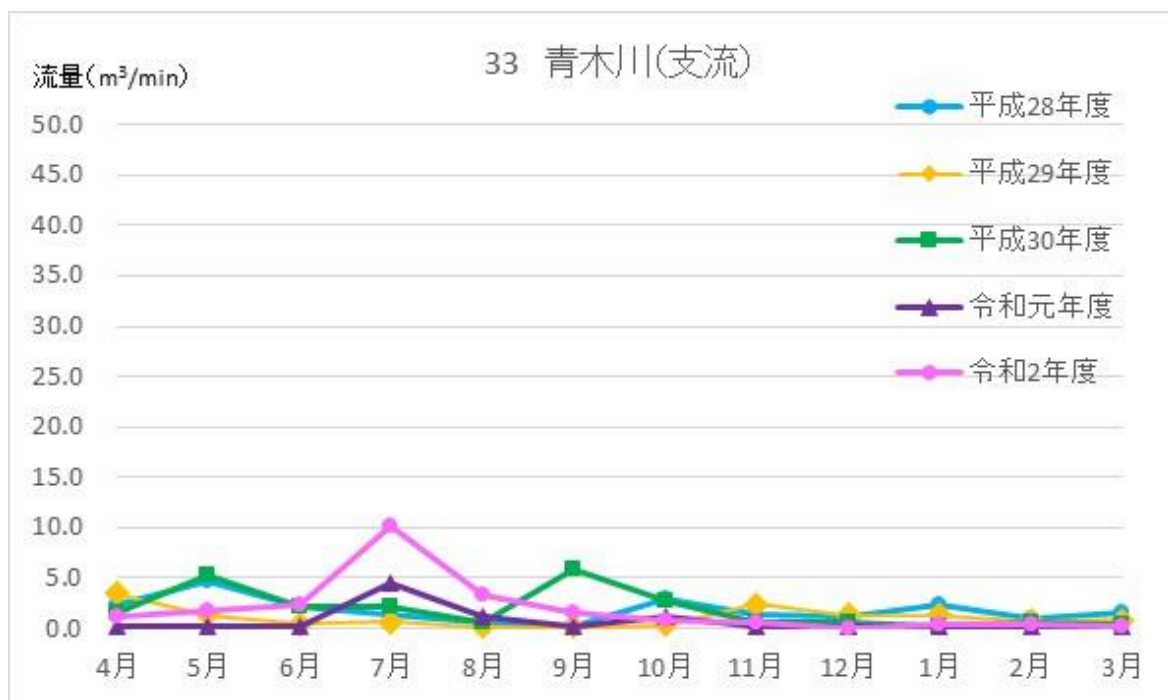
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度9月期は測定日の3日前から前日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (45) 地表水の流量の調査結果
 (32 大鹿村 青木川 (支流))

測定方法：流速計測法



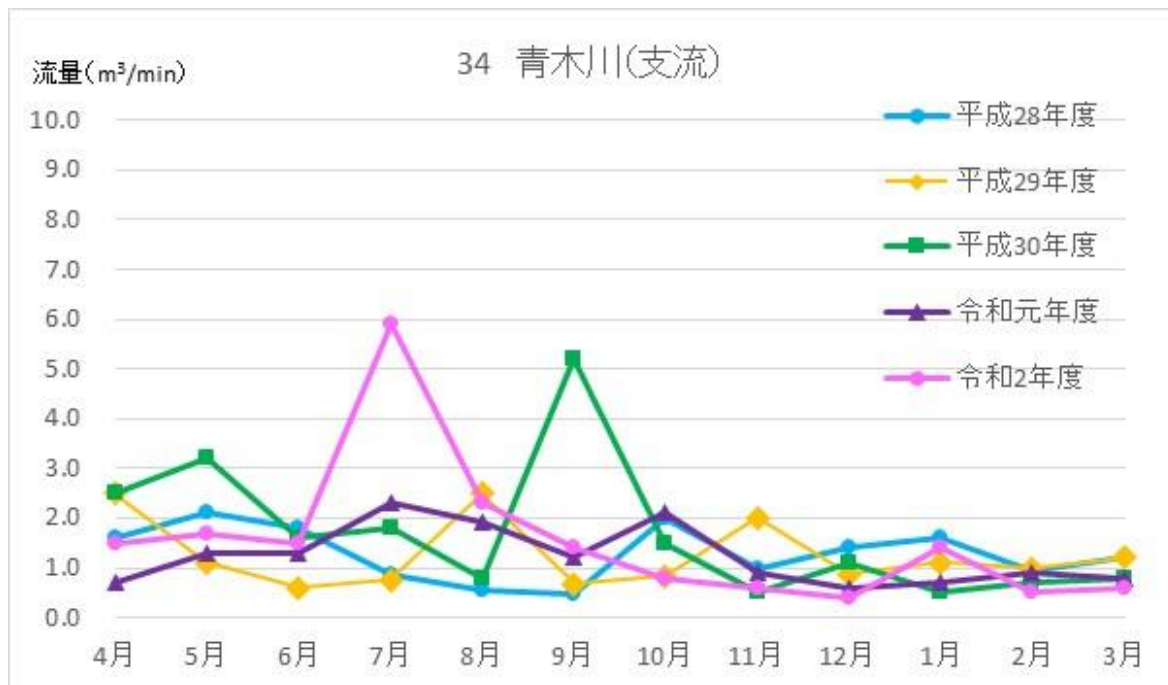
注1：平成30年度9月期は測定日の3日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (46) 地表水の流量の調査結果
(33 大鹿村 青木川(支流))

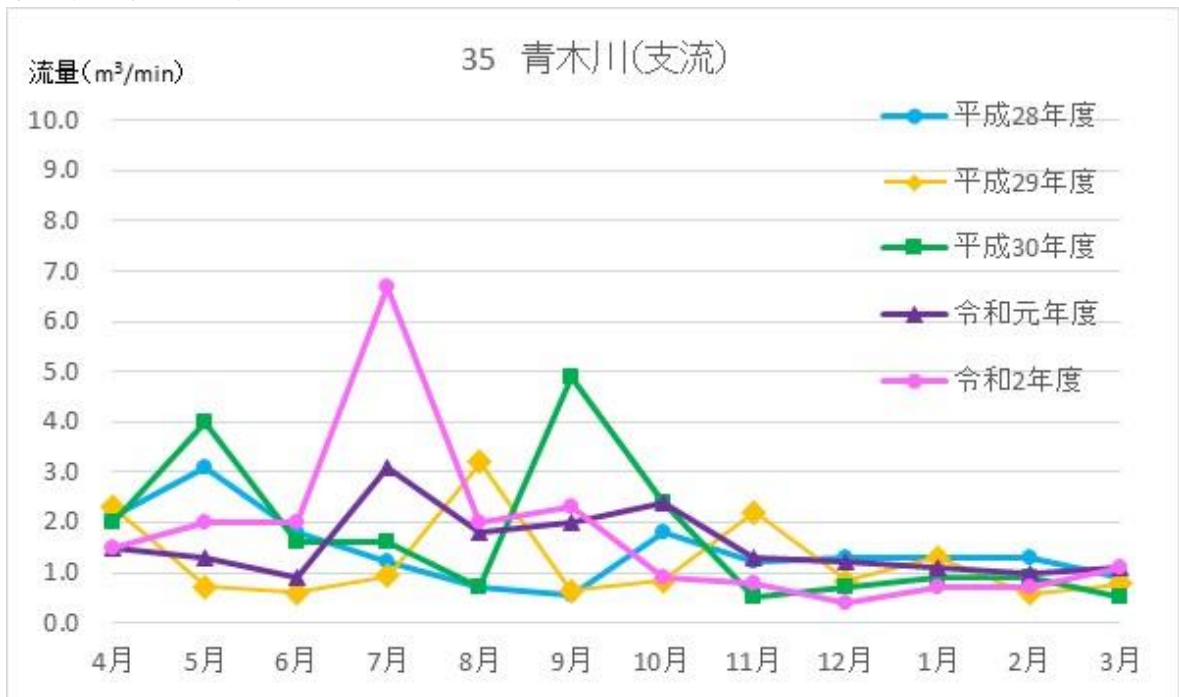
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (47) 地表水の流量の調査結果
(34 大鹿村 青木川(支流))

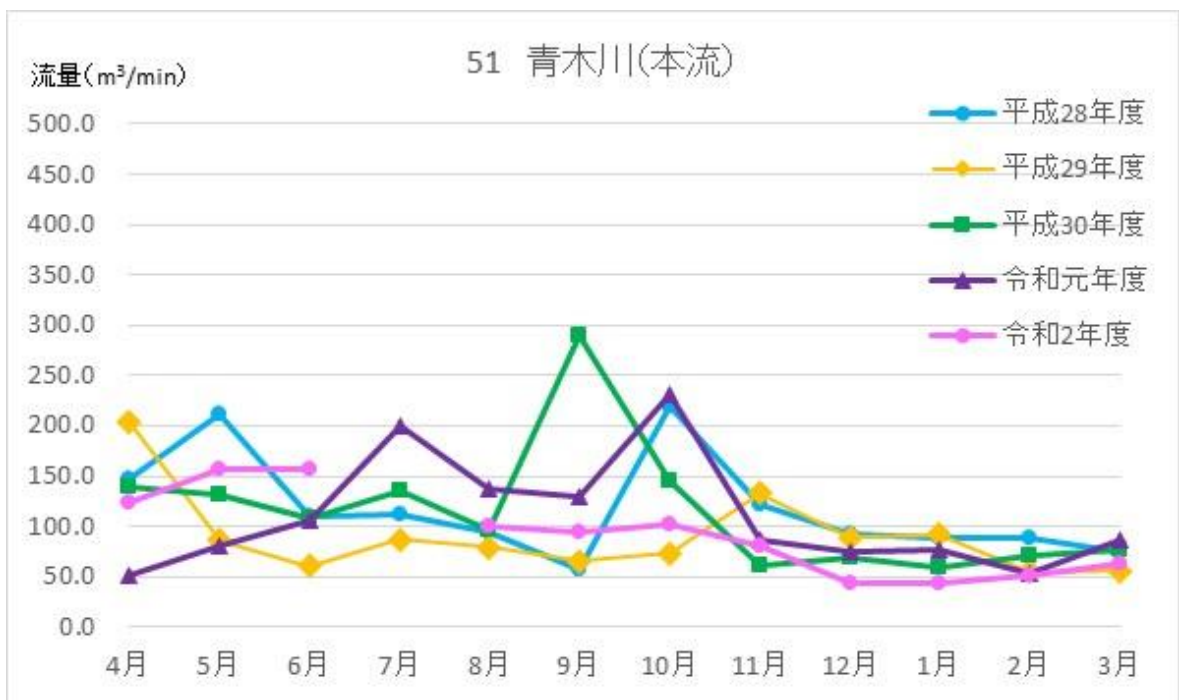
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (48) 地表水の流量の調査結果
(35 大鹿村 青木川 (支流))

測定方法：流速計測法

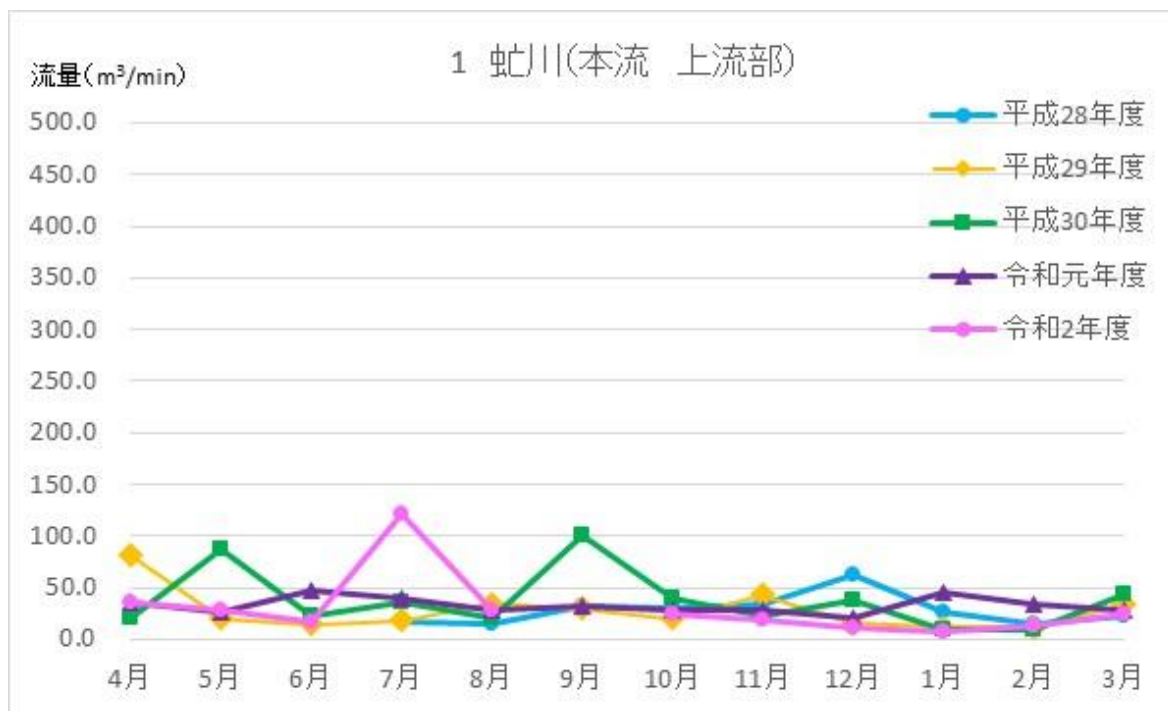


注1：平成30年度9月期は測定日の3日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。

図 2-1-4-1 (49) 地表水の流量の調査結果
(51 大鹿村 青木川 (本流))

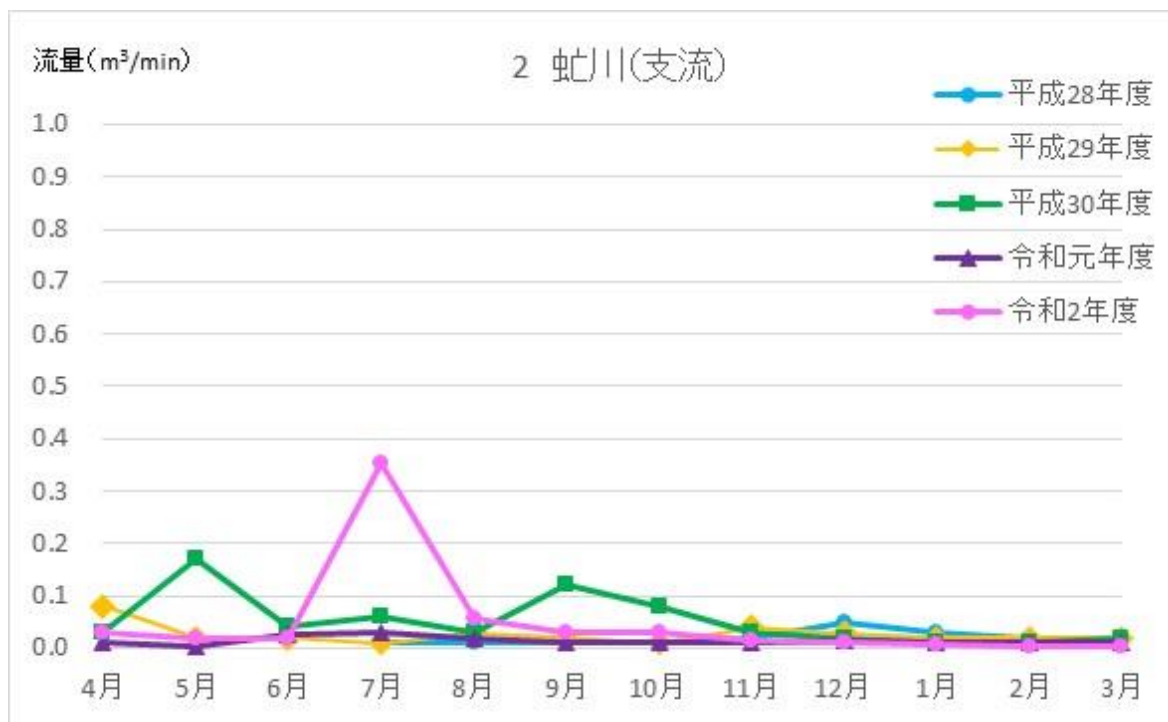
測定方法：流速計速法



注：令和2年度9月期は豪雨災害の復旧工事に伴う道路通行止めにより欠測。

図 2-1-4-1 (50) 地表水の流量の調査結果
(1 豊丘村 虻川(本流 上流部))

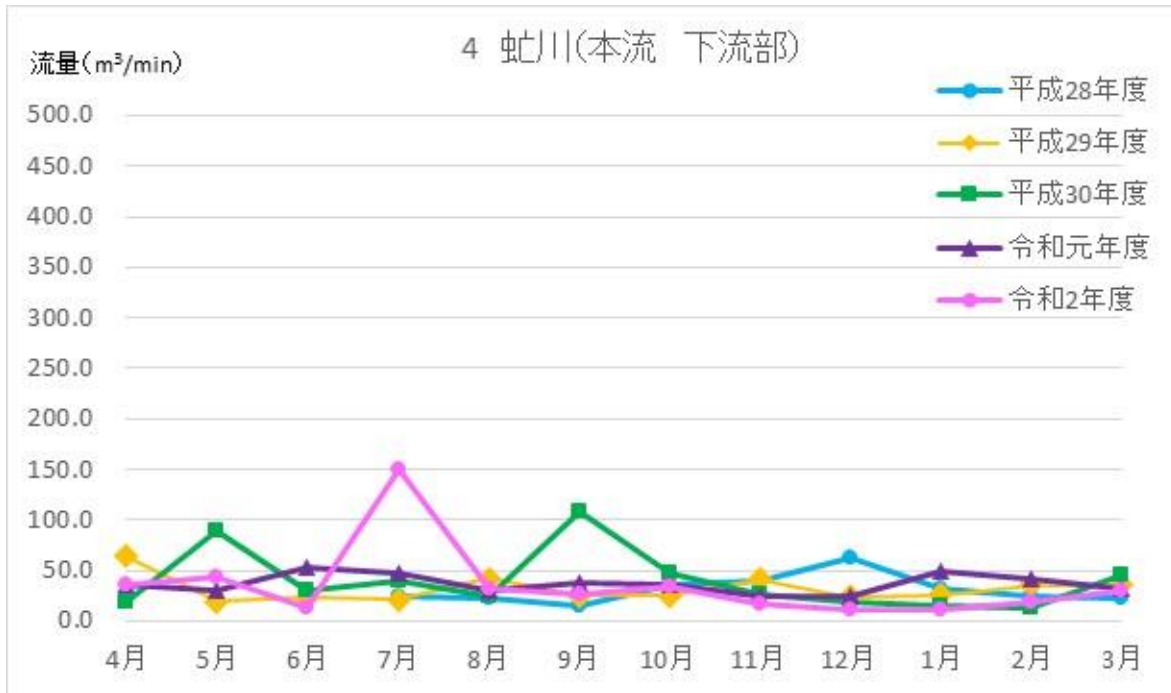
測定方法：容器法



注：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (51) 地表水の流量の調査結果
(2 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (52) 地表水の流量の調査結果
(4 豊丘村 虻川 (本流 下流部))

測定方法：流速計測法

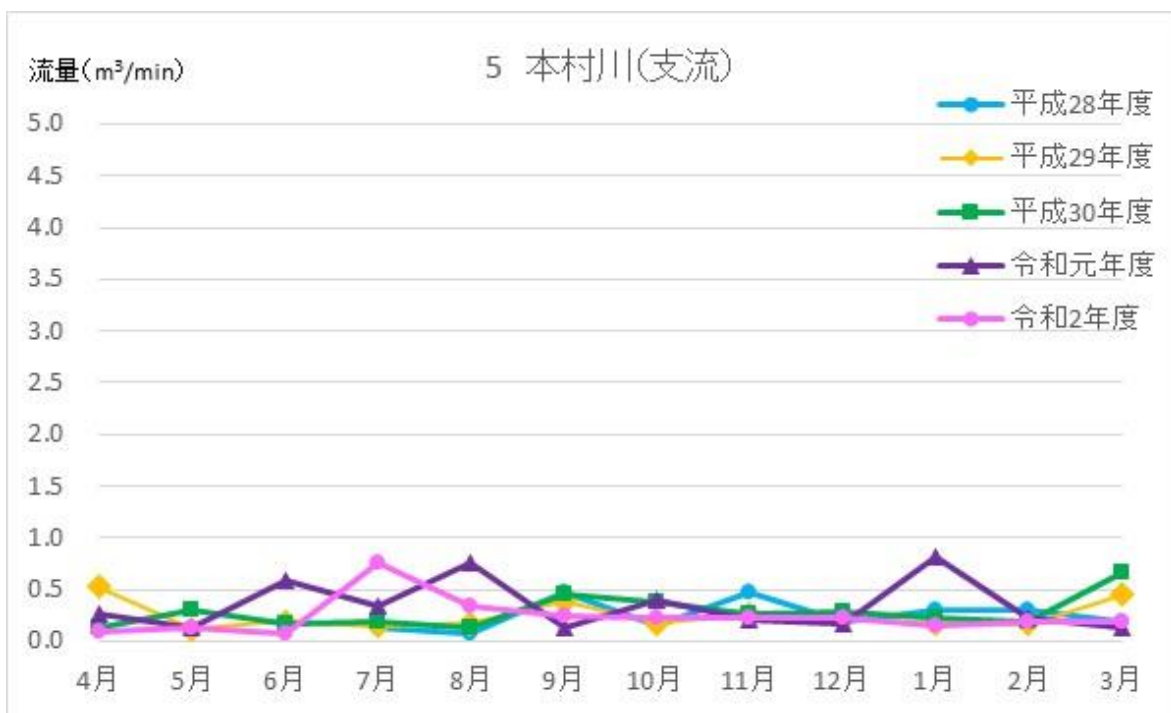


図 2-1-4-1 (53) 地表水の流量の調査結果
(5 豊丘村 本村川 (支流))

測定方法：流速計測法

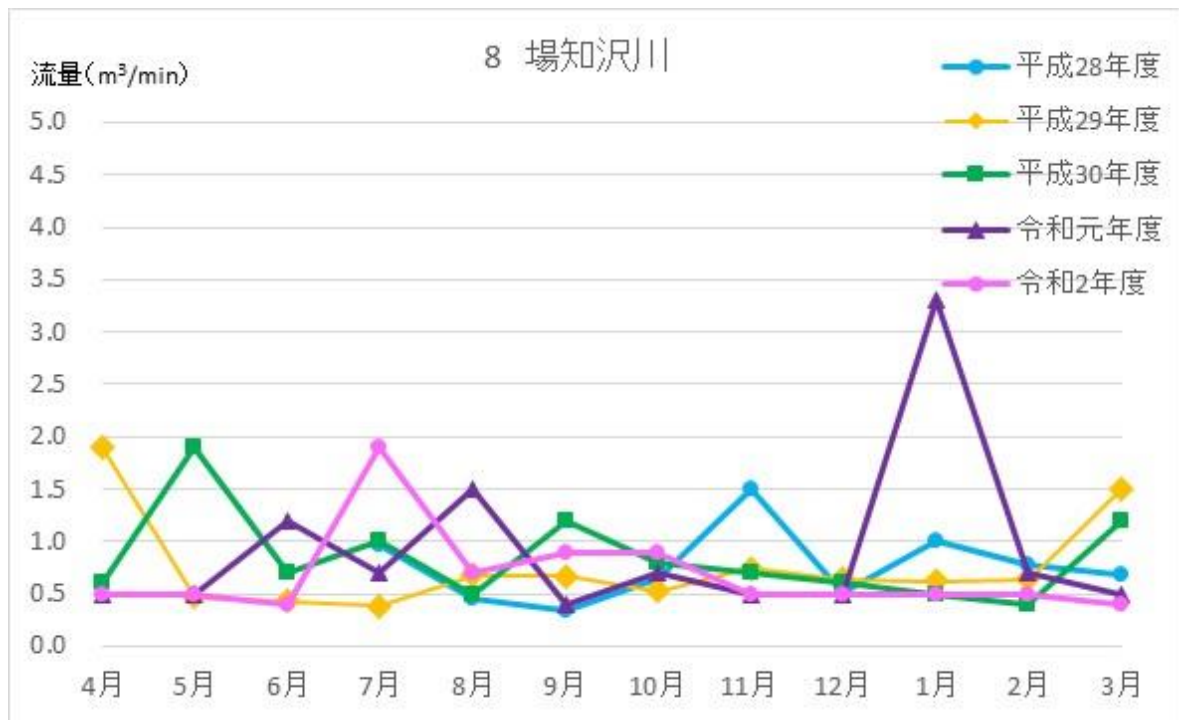


図 2-1-4-1 (54) 地表水の流量の調査結果
(8 豊丘村 場知沢川)

測定方法：流速計測法

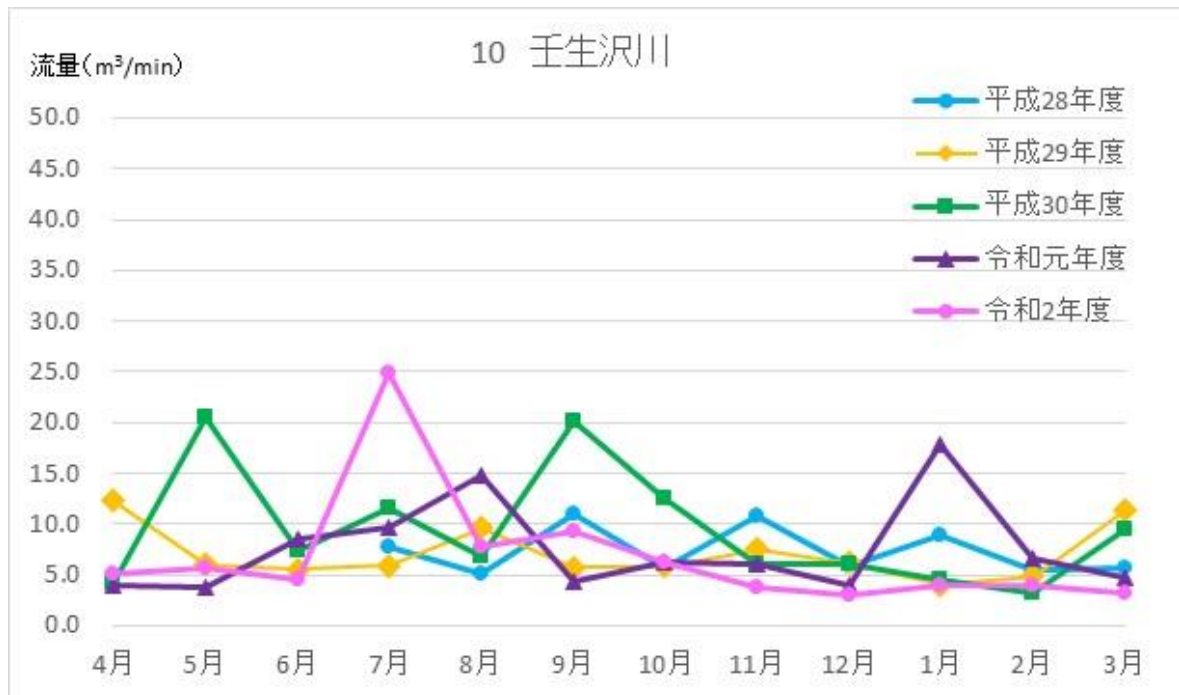


図 2-1-4-1 (55) 地表水の流量の調査結果
(10 豊丘村 壬生沢川)

測定方法：流速計測法及び容器法

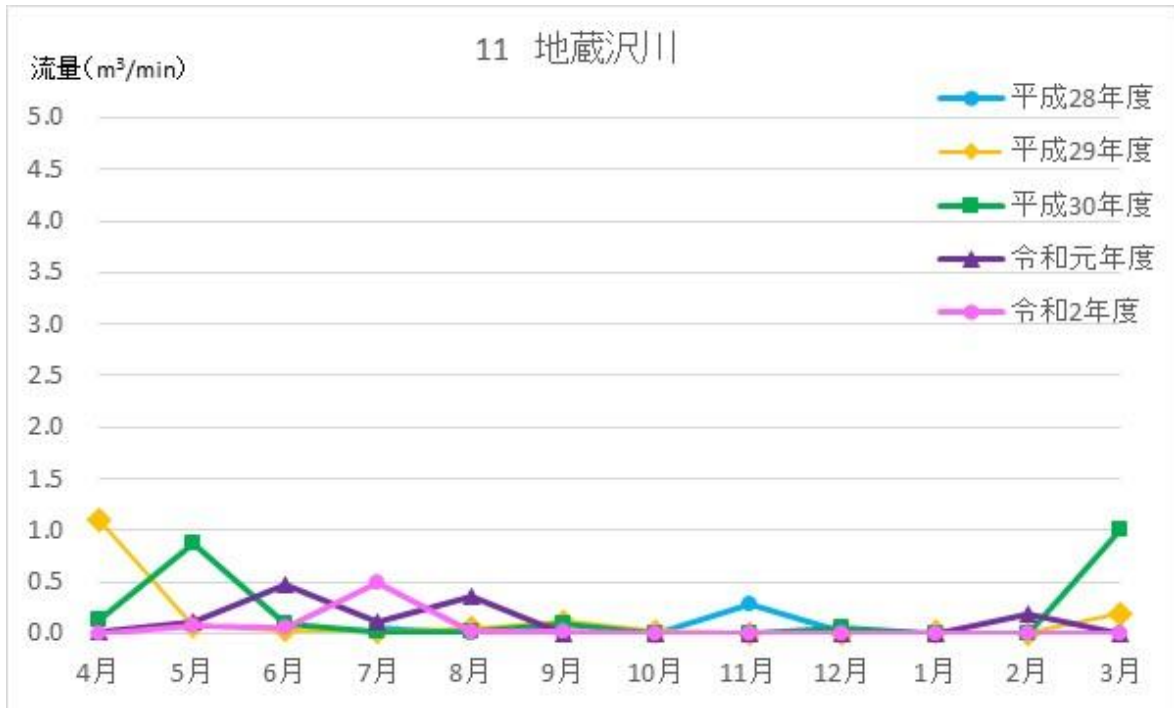


図 2-1-4-1 (56) 地表水の流量の調査結果
(11 豊丘村 地蔵沢川)

測定方法：流速計測法



- 注 1：令和元年度 7、11 月期は測定日当日に、2 月期は測定日の前々日から前日にかけてまとまった降雨があった。
 注 2：令和 2 年度 7 月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。
 注 3：令和 2 年度 8 月期は測定日前日に、9 月期は 5 日前から前々日に、10 月期は前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (57) 地表水の流量の調査結果
(1 飯田市 野底川下流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (58) 地表水の流量の調査結果
 (2 飯田市 松洞川下流)

測定方法：流速計測法及び容器法



注1：令和元年度7月期は測定日の8日前から当日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (59) 地表水の流量の調査結果
 (4 飯田市 王竜寺川下流)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (60) 地表水の流量の調査結果
(6 飯田市 滝の沢川下流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (61) 地表水の流量の調査結果
(8 飯田市 阿弥陀沢川下流)

測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (62) 地表水の流量の調査結果
(10 飯田市 西の原沢川下流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の4日前から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (63) 地表水の流量の調査結果
(13 飯田市 円悟沢川下流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度6月期は測定日の10日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により流量のみ欠測。

図 2-1-4-1 (64) 地表水の流量の調査結果
(14 飯田市 松川下流)

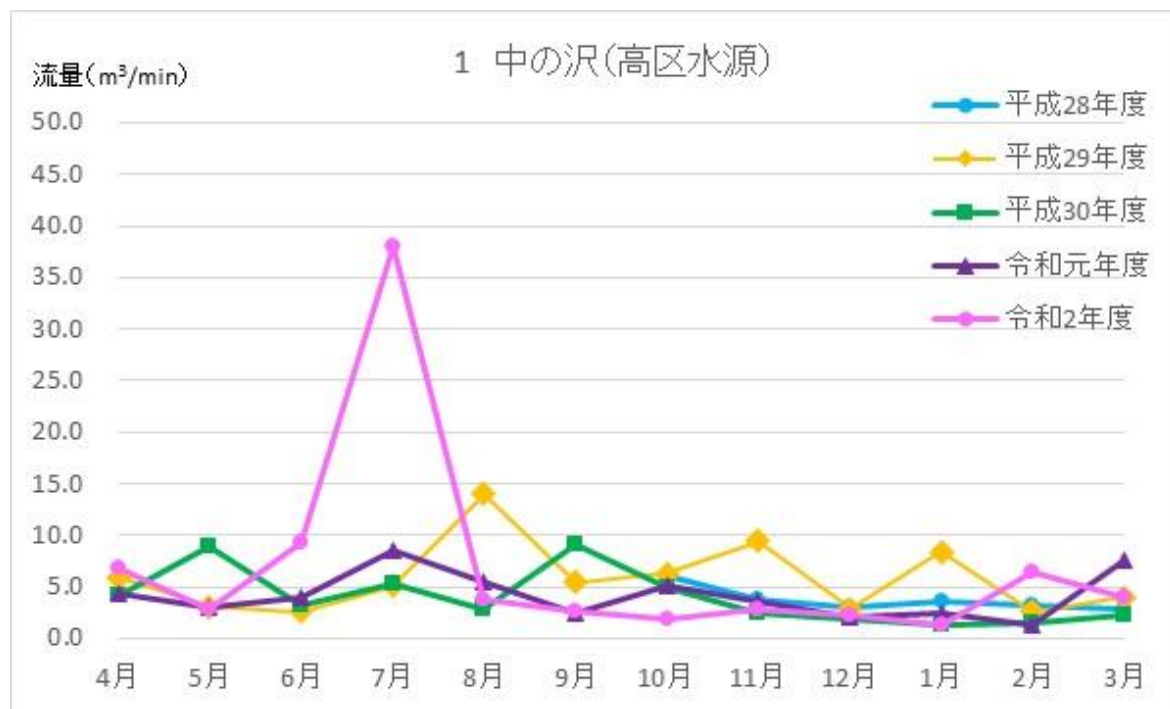
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う道路通行止めにより欠測。

図 2-1-4-1 (65) 地表水の流量の調査結果
(15 飯田市 清水沢水源)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (66) 地表水の流量の調査結果
(1 南木曾町 中の沢 (高区水源))

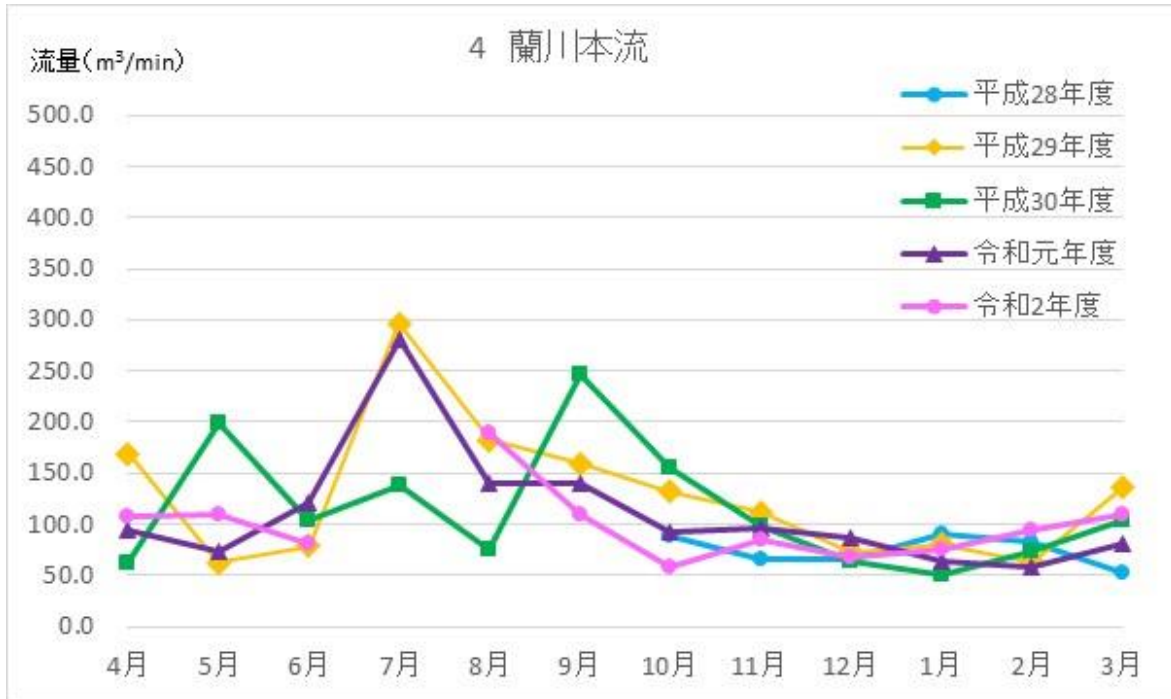
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (67) 地表水の流量の調査結果
(2 南木曾町 向ヶ原水源)

測定方法：流速計測法

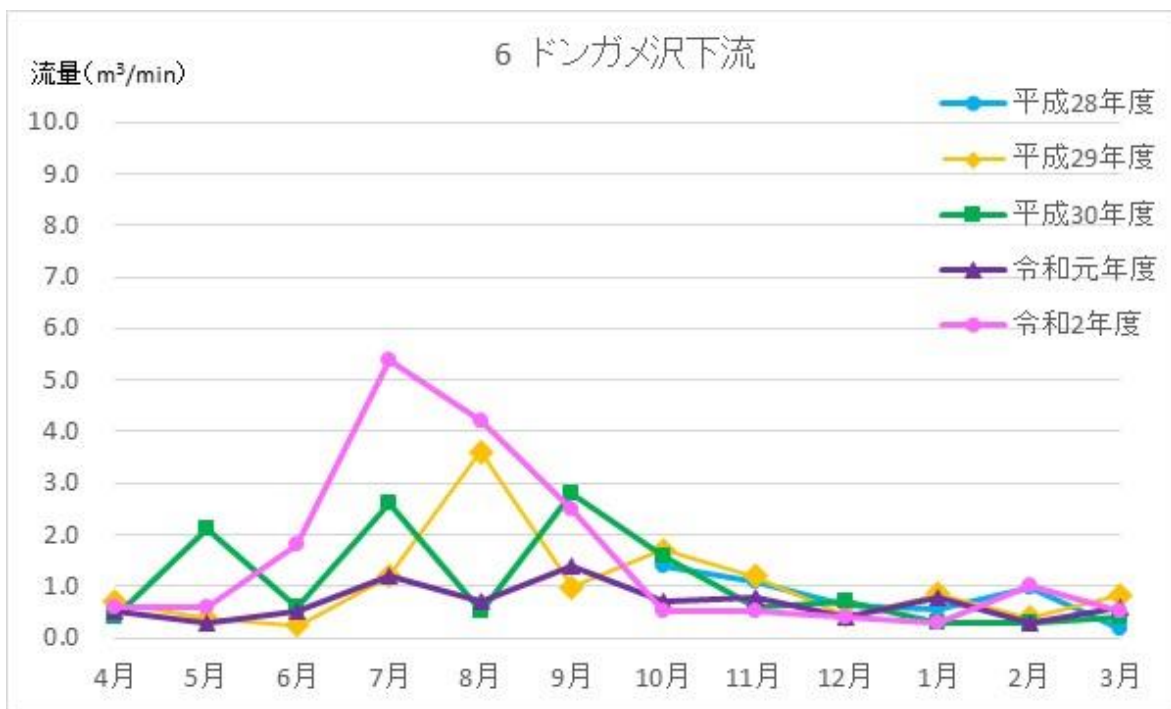


注1：令和元年度7月期は測定日の4日前から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。

図 2-1-4-1 (68) 地表水の流量の調査結果
(4 南木曾町 蘭川本流)

測定方法：流速計測法

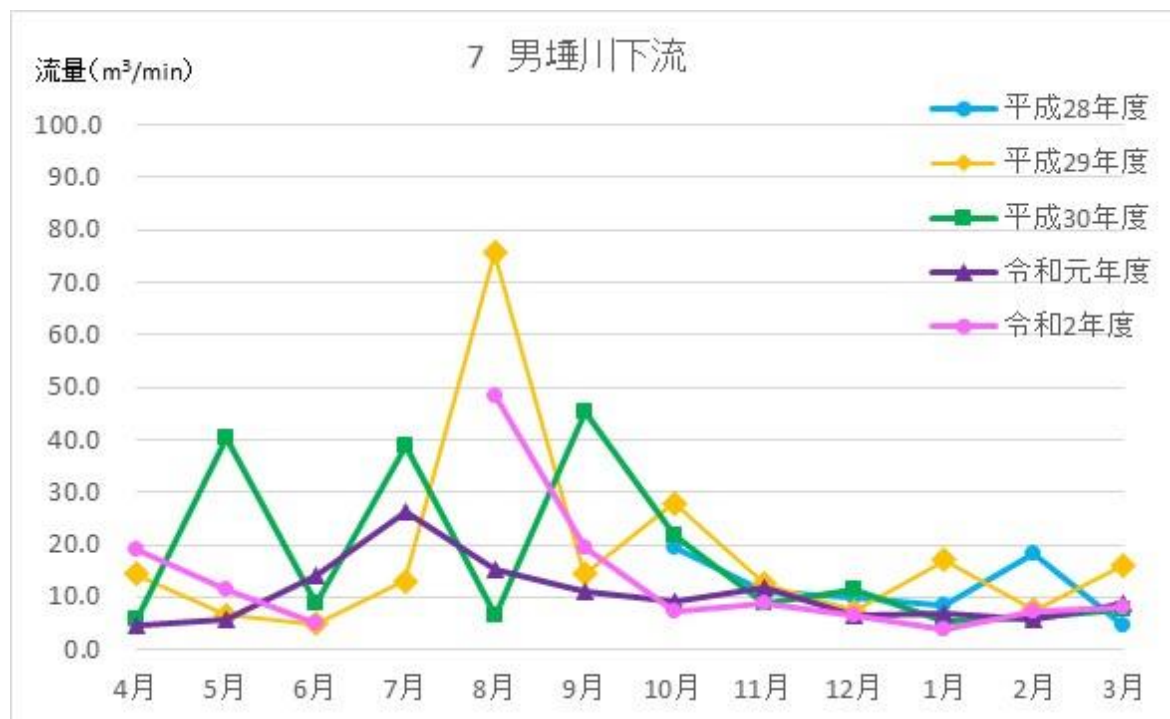


注1：平成29年度8月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (69) 地表水の流量の調査結果
(6 南木曾町 ドンガメ沢下流)

測定方法：流速計測法



注1：平成29年度8月期は測定日の前々日から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により欠測。

図 2-1-4-1 (70) 地表水の流量の調査結果
(7 南木曾町 男埴川下流)

測定方法：流速計測法

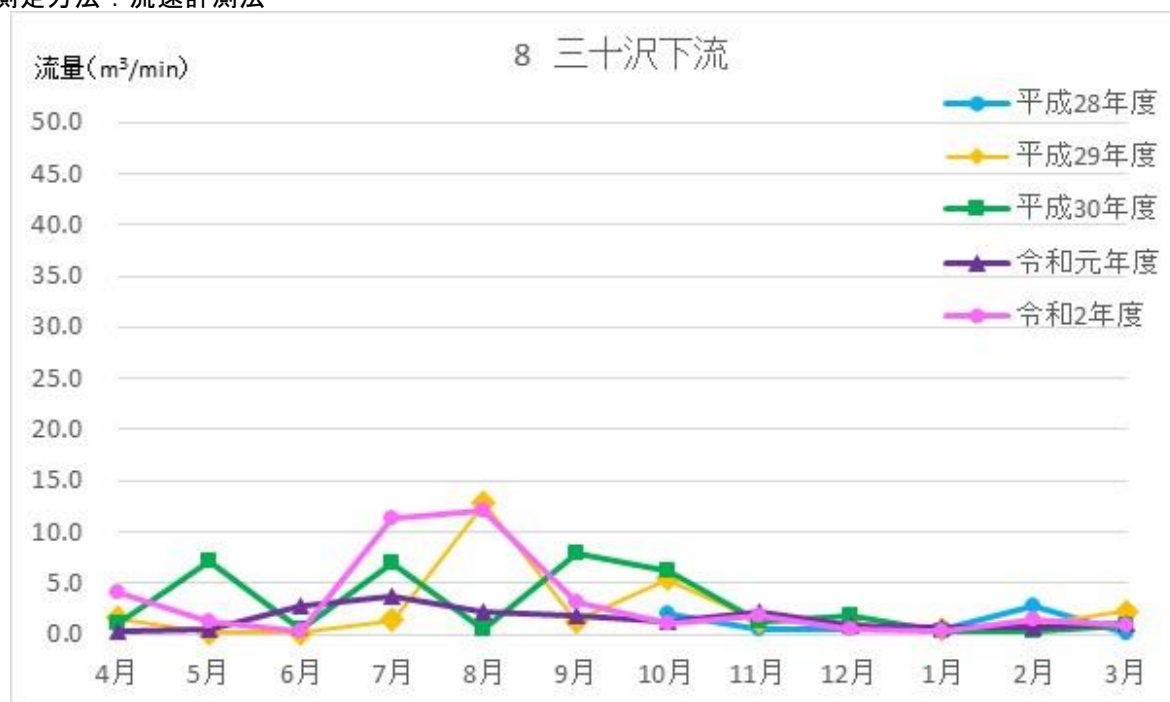


図 2-1-4-1 (71) 地表水の流量の調査結果
(8 南木曾町 三十沢下流)

測定方法：流速計測法及び容器法

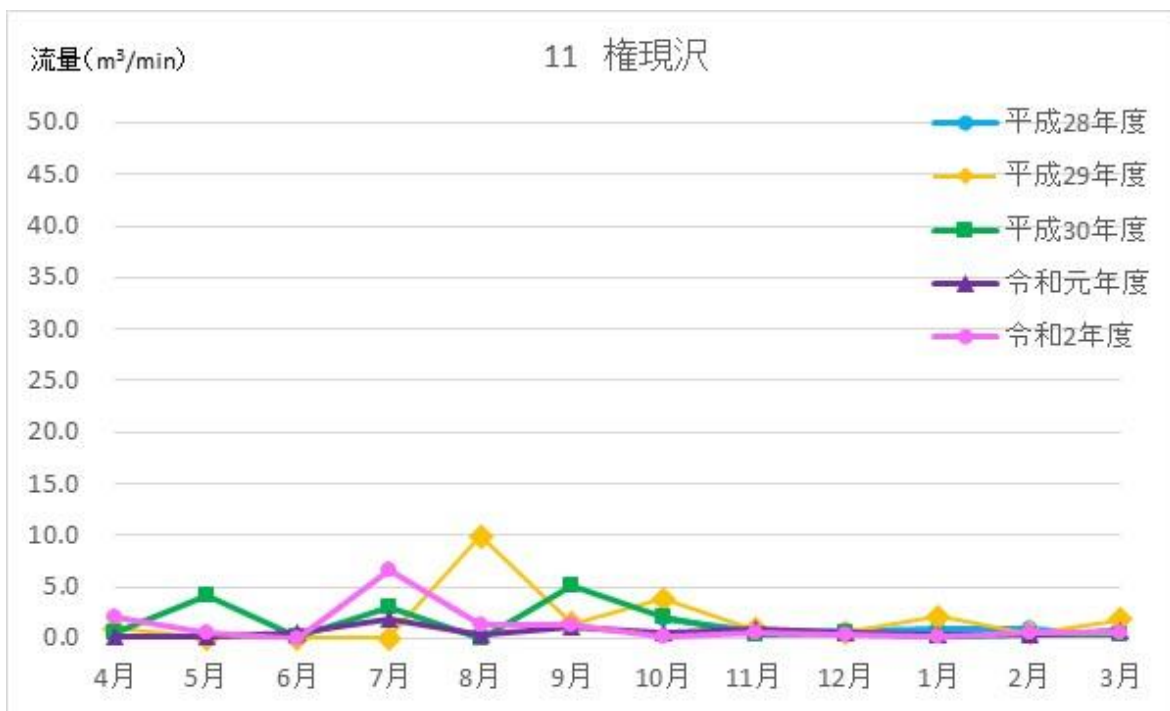


図 2-1-4-1 (72) 地表水の流量の調査結果
(11 南木曾町 権現沢)

2-2 動物

2-2-1 希少猛禽類の生息状況

評価書において事後調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、工事前、工事中における事後調査を実施した。なお、令和2年度に完了した繁殖期の調査結果を記載した。

(1) 調査項目

ノスリ（大鹿村 A ペア）、ノスリ（大鹿村 B ペア）、ノスリ（飯田市ペア）、クマタカ（大鹿村 B ペア）、クマタカ（大鹿村 C ペア）の生息状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 2-2-1 に示すとおりである。

表 2-2-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目	調査方法	
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事前又は工事中の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において 8～10 倍程度の双眼鏡及び 20～60 倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索した。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録した。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査した。巣の見える位置から 8～10 倍程度の双眼鏡及び 20～60 倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察した。

(3) 調査地点

現地調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように工事施工ヤードなど事業地周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

(4) 調査期間

調査期間は、表 2-2-2 に示すとおりである。

表 2-2-2 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査 繁殖確認調査	繁殖期	令和元年12月22日～令和元年12月24日 令和2年1月19日～令和2年1月21日 令和2年2月16日～令和2年2月21日 令和2年3月14日～令和2年3月19日 令和2年6月7日～令和2年6月9日、13日、24日～30日 令和2年7月5日～令和2年7月10日、28日 令和2年8月2日～令和2年8月7日、23日～25日

注：令和2年4月・5月期は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止した。

(5) 調査結果

調査結果は、表 2-2-3 に示すとおりである。

表 2-2-3 希少猛禽類の確認状況（令和元年12月～令和2年8月）

ペア名	確認状況
ノスリ（大鹿村 A ペア）	昨年の営巣地周辺にて新たな繁殖巣での営巣を確認したが、その後、繁殖活動は確認できなかったことから、本年の繁殖は失敗したと考えられる。今後も継続的に調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ（大鹿村 B ペア）	平成 26 年に設置した代替巣での造巣等を確認後、昨年の営巣地周辺にて新たな繁殖巣での営巣、繁殖を確認した。今後も継続的に調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ（飯田市ペア）	昨年と同じ繁殖巣での営巣、繁殖を確認した。今後も継続的に調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
クマタカ（大鹿村 B ペア）	昨年と同じ繁殖巣での営巣を確認したが、その後、繁殖活動は確認できなかったことから、本年の繁殖は失敗したものと考えられる。今後も継続的に調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
クマタカ（大鹿村 C ペア）	昨年と同じ繁殖巣での営巣及び抱卵を確認したが、その後、繁殖活動や当年生まれの幼鳥は確認できなかったことから、本年の繁殖は失敗したものと考えられる。今後も継続的に調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。

2-2-2 照明漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況

評価書において事後調査の対象とした夜間における工事中の昆虫類等の誘引効果が少ない照明設備の効果を確認するため、照明の漏れ出し範囲における走光性昆虫類等の生息状況について調査を実施した。なお、生態系区分ごとに今後も調査箇所を追加していく。

(1) 調査項目

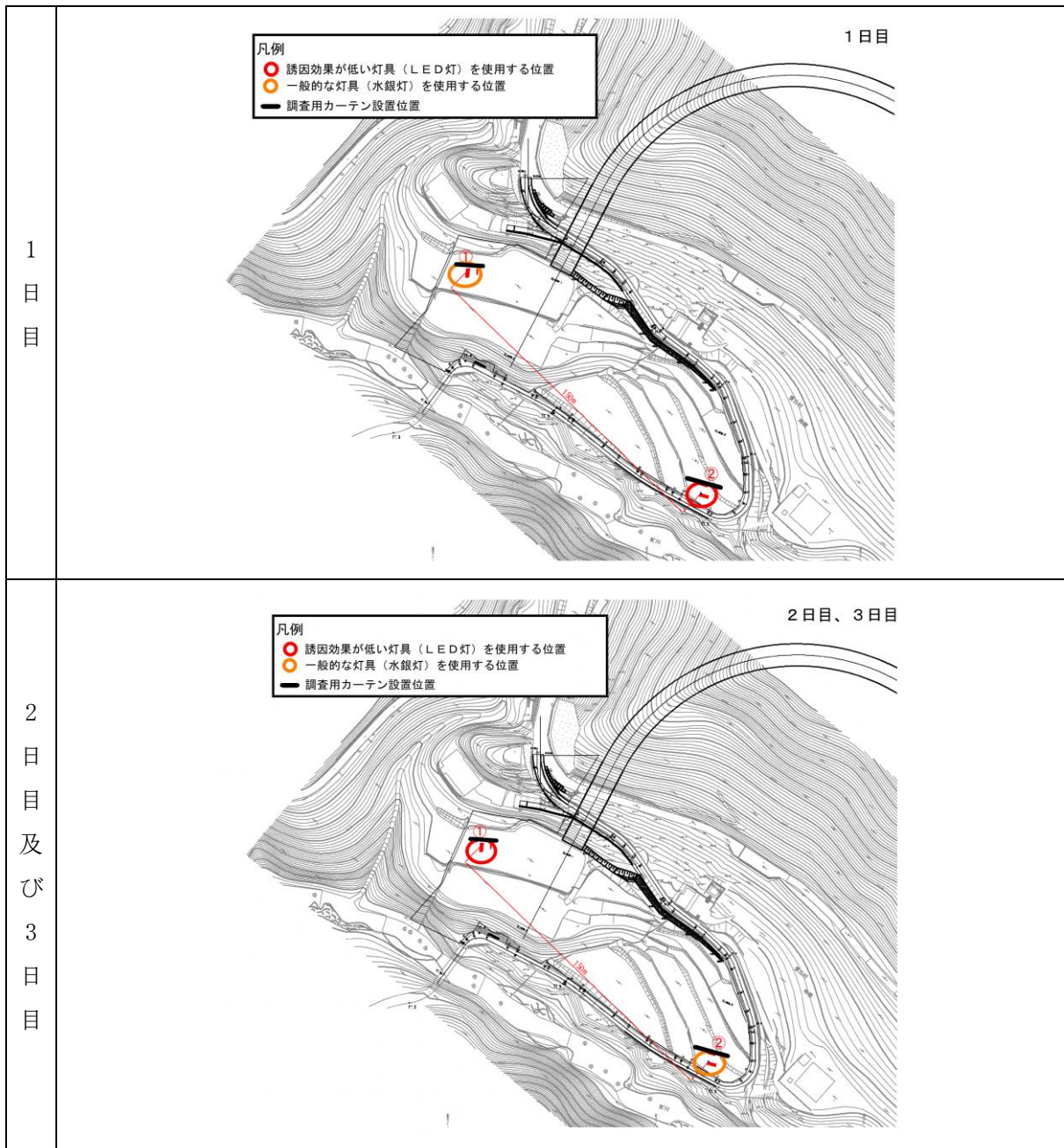
照明の漏れ出し範囲における走光性の昆虫類等の生息状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 2-2-4 に、また灯具の配置図は図 2-2-1 に示すとおりである。なお、従前より工事用照明として採用されている水銀灯と、今回環境保全措置として採用した昆虫類の誘引効果が少ないと言われている LED 灯について、専門家の意見も踏まえ双方の昆虫類の誘引効果を確認できる方法とした。

表 2-2-4 走光性昆虫類等の調査方法

調査項目	調査方法	
走光性の昆虫類等	ライト トラップ法	夜間の光に誘引されるコウチュウ類、ガ類等の確認を目的として、使用灯具別（水銀灯、LED 灯）に、ライトトラップ法（カーテン法）により、照明の後ろに白い布を垂直に張って飛来した昆虫類を捕獲したほか、照明に飛来した昆虫類を捕虫網等で採取した。光源の位置による影響がないよう、水銀灯と LED 灯の離隔を取り、設置位置を入れ替えて調査を行った。 設置は夕刻に行い、日没前に点灯を開始し、調査時間は日没後約 3 時間とした。



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 2-2-1 灯具配置図

(3) 調査地点

評価書の調査において、走光性昆虫の重要な種が確認されており、また、里地・里山の生態系（天竜川・飯田地域）において最初に照明設備を設置して工事を始める、中央新幹線伊那山地トンネル（戸中・壬生沢工区）の戸中非常口工事施工ヤードを調査地点とした。

(4) 調査期間

調査期間は、表 2-2-5 に示すとおりである。

表 2-2-5 走光性の昆虫類等の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日
走光性の昆虫類等	ライトトラップ法	令和2年9月16日～令和2年9月18日

(5) 調査結果

照明の漏れ出し範囲における走光性の昆虫類等の確認状況は、表 2-2-6 に示すとおりである。

表 2-2-6 走光性の昆虫類等の確認状況

確認状況	灯具別の確認種数
LED 灯と比較し、水銀灯により多くの個体が飛来した。確認種数は右記のとおり、水銀灯よりも LED 灯の方が昆虫類の誘引効果は少ないことが確認された。 また、重要種は、水銀灯にノギカワゲラ（1 個体）、ガムシ（2 個体）、ヒメシロシタバ（8 個体）の 3 種の飛来が確認され、LED 灯では確認されなかったことから、水銀灯よりも LED 灯の方が昆虫類の重要種の誘引効果は少ないことが確認された。	水銀灯
	1 日目 11 目 82 科 183 種
	2 日目 12 目 101 科 222 種
	3 日目 12 目 87 科 185 種
	計 13 目 128 科 338 種
	LED 灯
	1 日目 8 目 28 科 45 種
	2 日目 9 目 32 科 54 種
	3 日目 7 目 19 科 29 種
	計 10 目 52 科 100 種

以上の結果より、専門家等の意見も踏まえ、LED 灯の方が飛来した種数が少なく環境保全措置としての効果があることを確認した。

工事中は、昆虫類の誘引効果が少ない照明設備を継続して使用するとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行い、工事完了後に昆虫類の生息状況について調査を行う。

2-3 植物

重要な種の移植の効果に不確実性があることから、移植を実施した植物の生育状況の事後調査を実施した。

2-3-1 調査項目

調査項目は、移植した植物の生育状況とした。

2-3-2 調査方法

調査方法は、現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

2-3-3 調査地点

調査地点は、移植を実施した地点とし、対象は表2-3-1に示すとおりである。

表 2-3-1 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
シラチャウメノキゴケ	ウメノキゴケ科	飯田市鼎切石	飯田市鼎切石	平成30年6月12日 ～6月13日 (多数移植)
タナカウメノキゴケ	ウメノキゴケ科	飯田市鼎切石	飯田市鼎切石	平成30年6月12日 平成30年10月4日 (2塊移植)
ヒカゲウチキウメノキゴケ	ウメノキゴケ科	飯田市鼎切石	飯田市鼎切石	平成30年6月13日 (1塊移植)
オオキゴケ	キゴケ科	飯田市鼎切石	飯田市鼎切石	平成30年6月11日 (約10塊移植)
コムラサキ	クマツヅラ科	喬木村阿島	喬木村阿島	令和2年11月27日 (1個体移植)
オキナグサ	キンポウゲ科	阿智村清内路	阿智村清内路	令和2年10月3日 (19個体移植)
アオフトバラン	ラン科	阿智村清内路	阿智村清内路	令和2年9月30日 (6個体移植)

2-3-4 調査期間

移植後の生育状況の調査は、表2-3-2に示す時期に実施した。なお、移植後の生育状況調査は、移植作業後1か月以内及び移植後1年間は開花期と結実期1回ずつ、それ以降は移植後3年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年1回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、必要により調査期間の再検討を行う。

表 2-3-2 生育状況の現地調査の時期

調査地点	調査日
シラチャウメノキゴケ	令和2年11月11日
タナカウメノキゴケ	令和2年11月11日
ヒカゲウチキウメノキゴケ	令和2年11月11日
オオキゴケ	令和2年11月11日
コムラサキ	令和2年12月4日、21日
オキナグサ	令和2年10月9日、19日
アオフタバラン	令和2年10月9日、19日

2-3-5 移植後の生育状況

(1) シラチャウメノキゴケ

令和元年度においては、生育が確認されていた。令和2年度の確認（11月11日）においては、移植した多数の個体の生育状況が良好であることを確認した。（移植から3年確認したため、事後調査は終了する。）



移植後の生育状況（全景）（令和2年11月11日）



移植後の生育状況（令和2年11月11日）

(2) タナカウメノキゴケ

令和元年度においては、生育が確認されていた。令和2年度の確認（11月11日）においては、移植した2塊の生育状況が良好であることを確認した。（移植から3年確認したため、事後調査は終了する。）



移植後の生育状況（令和2年11月11日）

(3) ヒカゲウチキウメノキゴケ

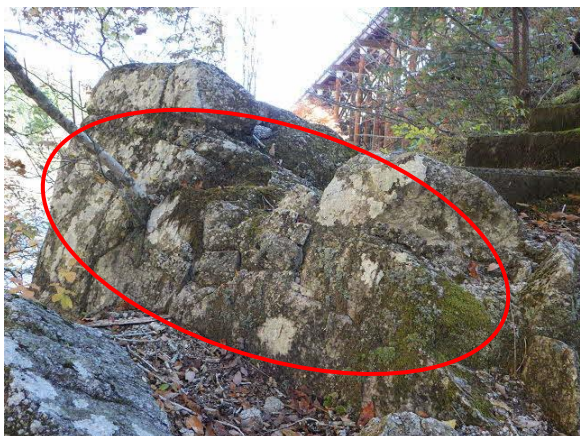
令和元年度においては、生育が確認されていた。令和2年度の確認（11月11日）においては、移植した1塊の生育状況が良好であることを確認した。（移植から3年確認したため、事後調査は終了する。）



移植後の生育状況（令和2年11月11日）

(4) オオキゴケ

令和元年度においては、生育が確認されていた。令和2年度の確認（11月11日）においては、移植した約10塊の生育状況が良好であることを確認した。（移植から3年確認したため、事後調査は終了する。）



移植後の生育状況（全景）（令和2年11月11日）



移植後の生育状況（令和2年11月11日）

(5) コムラサキ

移植後の確認（12月4日、21日）では、移植した1個体の生育状況に変化はなく、良好に生育していることを確認した。なお、今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（令和2年11月27日）



移植後の生育状況（令和2年12月4日）



移植後の生育状況（令和2年12月21日）

(6) オキナグサ

移植後の確認（10月9日、19日）では、移植した19個体の生育状況に変化はなく、良好に生育していることを確認した。なお、今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（全景）（令和2年10月3日）



移植後の状況（令和2年10月3日）



移植後の生育状況（令和2年10月9日）



移植後の生育状況（令和2年10月19日）

(7) アオフトバラン

移植後の確認（10月9日、19日）では、移植した6個体の生育状況に変化はなく、良好に生育していることを確認した。なお、今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。



移植後の状況：東側移植地
(令和2年9月30日)



移植後の状況：西側移植地
(令和2年9月30日)



移植後の生育状況（令和2年10月9日）



移植後の生育状況（令和2年10月19日）

2-4 その他（発生土置き場等）

評価書公告以降に新たに当社が計画した発生土置き場等について、環境保全措置の内容を詳細にするための調査及び影響検討を、事後調査として実施し、長野県及び関係市町村に送付するとともに当社ホームページにて掲載している。これまでに公表した発生土置き場等における調査及び影響検討は以下に示す。

- ・大鹿村内発生土仮置き場……………（平成28年9月）
- ・豊丘村内発生土置き場（本山）……………（平成29年2月）
- ・大鹿村内発生土置き場（旧荒川荘）……………（平成30年2月）
- ・豊丘村内発生土仮置き場（坂島）……………（平成30年12月）
- ・喬木村内発生土置き場（堰下）……………（平成31年1月）
- ・豊丘村内発生土置き場（本山）その2……………（令和元年8月）
- ・大鹿村内発生土置き場（青木川）……………（令和2年2月）
- ・豊丘村内発生土置き場（戸中）……………（令和2年7月）
- ・飯田市内発生土置き場（下久堅）……………（令和2年12月）

また加えて、以上の影響検討において、事後調査の対象とした項目の調査結果等について、記載している。

2-4-1 大鹿村内発生土仮置き場

工事中における事後調査として動物、植物について調査を実施した。

2-4-1-1 動物

令和2年度に完了する営巣期の調査で対象となるペアで、「大鹿村内発生土仮置き場における環境の調査及び影響検討の結果について」で対象としたペアについては、南アルプストンネル（長野工区）工事と同一のペアのため、「2-2 動物」に記載した。

2-4-1-2 植物

(1) 調査方法

現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

(2) 調査地点

現地調査地点は、移植を実施した地点であり、対象は表 2-4-1 のとおりである。

表 2-4-1 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
サナギイチゴ	バラ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和元年9月27日 (56個体移植)

(3) 調査期間

移植後の生育状況の現地調査は、表 2-4-2 に示す時期に実施した。なお、移植後の生育状況調査は、移植作業後 1 か月以内及び移植後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は移植後 3 年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、必要により調査期間の再検討を行う。

表 2-4-2 生育状況の現地調査の時期

調査地点	調査日
サナギイチゴ	令和 2 年 6 月 10 日、8 月 31 日

(4) 移植後の生育状況

①サナギイチゴ

移植後の生育状況の現地調査（令和 2 年 6 月 10 日、8 月 31 日）では、移植した 56 個体のうち開花期は 56 個体、結実期は 52 個体の生育を確認し、生育状況は概ね良好であった。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況【開花期】
（全景）（東側移植地）
令和 2 年 6 月 10 日



移植後の生育状況【開花期】
（全景）（西側移植地）
令和 2 年 6 月 10 日



移植後の生育状況【開花期】（移植地）
令和 2 年 6 月 10 日



移植後の生育状況【結実期】（移植地）
令和 2 年 8 月 31 日

2-4-2 豊丘村内発生土置き場（本山）

工事前における事後調査として動物、植物について調査を実施した。

2-4-2-1 動物

(1) 調査項目

ハイタカ（本山ペア）の生息状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 2-4-3 に示すとおりである。

表 2-4-3 鳥類（希少猛禽類）の調査方法

調査項目	調査方法	
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事前の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索した。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録した。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査した。巣の見える位置から8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察した。

(3) 調査地点

現地調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように発生土置き場周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

(4) 調査期間

調査期間は、表 2-4-4 に示すとおりである。

表 2-4-4 鳥類（希少猛禽類）の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査 繁殖確認調査	繁殖期	令和2年2月16日～令和2年2月18日
			令和2年3月15日～令和2年3月17日
			令和2年6月7日～令和2年6月9日
			令和2年6月26日～令和2年6月28日
			令和2年7月5日～令和2年7月7日、10日
			令和2年8月2日～令和2年8月4日

注：令和2年度4月・5月期は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止した。

(5) 調査結果

調査結果は、表 2-4-5 に示すとおりである。

表 2-4-5 鳥類（希少猛禽類）の確認状況（令和2年2月～8月）

ペア名	確認状況
ハイタカ（本山ペア）	改変の可能性のある範囲の近傍にある、昨年の営巣地周辺にて新たな繁殖巣での営巣、繁殖の成功を確認した。今後も継続的に調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。

2-4-2-2 植物

(1) 調査方法

現地調査（任意観察）により移植・播種を実施した植物の生育状況を確認した。

(2) 調査地点

現地調査地点は、移植・播種を実施した地点であり、対象は表 2-4-6 のとおりである。

表 2-4-6 移植・播種を実施した植物

種名	科名	移植・播種前の生育地	移植・播種の実施箇所	移植・播種の実施時期
フトボナギナタ コウジュ	シソ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	平成28年11月7日 （播種） 令和元年11月20日 （再播種）
センブリ	リンドウ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	平成28年11月7日 （播種） 平成29年4月21日 （44個体移植） 令和元年11月20日 （再播種） 令和2年11月26日 （再播種）
イブキキンモウ ゴケ	タチヒダ ゴケ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	令和元年11月28日 （5塊移植）
オオミズゴケ	ミズゴケ科	豊丘村神稲	喬木村阿島	令和元年11月28日 （2塊移植）

(3) 調査期間

移植・播種後の生育状況の現地調査は、表 2-4-7 に示す時期に実施した。なお、移植・播種後の生育状況調査は、移植・播種作業後 1 か月以内及び移植・播種後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は移植・播種後 3 年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、調査期間の見直しを検討する。

表 2-4-7 生育状況の現地調査の時期

調査地点	調査日
フトボナギナタコウジュ	令和 2 年 7 月 18 日、10 月 30 日、11 月 26 日
センブリ	令和 2 年 12 月 4 日、12 月 21 日
イブキキンモウゴケ	令和 2 年 11 月 26 日
オオミズゴケ	令和 2 年 11 月 25 日

(4) 移植・播種後の生育状況

①フトボナギナタコウジュ

令和元年の播種地における播種後の生育状況の現地調査(令和 2 年 7 月 18 日、10 月 30 日、11 月 26 日)では、発芽(約 15 株)、開花(4 株)、結実(3 株)を確認した。(一年草であり、令和元年の播種地において結実を確認したことから、事後調査は終了する。)



再播種後の生育状況【発芽期】(全景)
(再播種地：令和元年設置)
令和 2 年 7 月 18 日



再播種後の生育状況【発芽期】
(再播種地：令和元年設置)
令和 2 年 7 月 18 日



再播種後の生育状況【開花期】
(再播種地：令和元年設置)
令和 2 年 10 月 30 日



再播種後の生育状況【結実期】
(再播種地：令和元年設置)
令和 2 年 11 月 26 日

②センブリ

令和元年の播種地が土砂崩れにより埋没したため、再度播種（令和2年11月26日）を行った。令和2年の再播種後の生育状況の現地調査（令和2年12月4日、12月21日）では、再播種地の環境に大きな変化は見られなかった。今後も生育状況を確認する予定である。



再播種後の状況
(再播種地：令和2年設置)
令和2年11月26日



再播種後の生育状況
(再播種地：令和2年設置)
令和2年12月4日



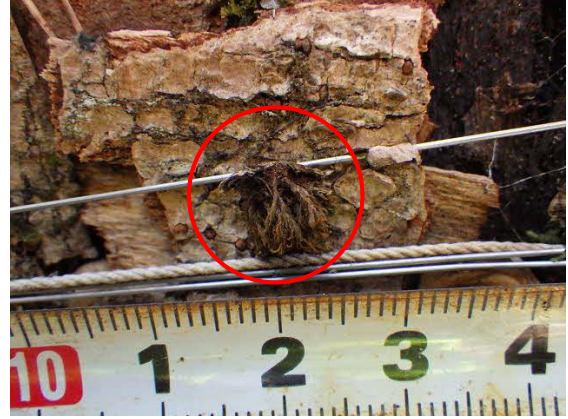
再播種後の生育状況
(再播種地：令和2年設置)
令和2年12月21日

③イブキンモウゴケ

移植後の生育状況の現地調査（令和2年11月26日）では移植したキンモウゴケ属（5塊）のうち3塊を確認した。確認した移植個体3塊のうち2塊は変色しており、生育状況は良くなかった。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況（全景）（移植地）
令和2年11月26日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年11月26日

④オオミズゴケ

移植後の生育状況の現地調査（令和2年11月25日）では、移植した2塊のうち1塊の生育を確認し、生育状況は概ね良好であった。生育が確認できなかった1塊は、豪雨による土砂の流入により埋没していた。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の生育状況（全景）（移植地）
令和2年11月25日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年11月25日

2-4-3 大鹿村内発生土置き場（旧荒川荘）

工事完了後における事後調査として動物、植物について調査を実施した。

2-4-3-1 動物

令和2年度に完了する繁殖期の調査で対象となるペアで、「大鹿村内発生土置き場（旧荒川荘）における環境の調査及び影響検討の結果について」で対象としたペアについては、南アルプストンネル（長野工区）工事と同一のペアのため、「2-2 動物」に記載した。

2-4-3-2 植物

(1) 調査方法

現地調査（任意観察）により環境保全措置を実施した植物の生育状況を、現地調査（任意確認）により確認した。

(2) 調査地点

環境保全措置を実施した地点であり、対象は表2-4-8のとおりである。

表 2-4-8 対象植物

種名	科名
トキワトラノオ	チャセンシダ科

(3) 調査期間

環境保全措置実施後の生育状況の現地調査は、当該種の生活史及び生育特性等に応じて表2-4-9に示す時期に実施した。

表 2-4-9 生育状況の現地調査の時期

種名	調査日
トキワトラノオ	令和2年8月7日、10月16日、令和3年3月4日

(4) 環境保全措置実施後の生育状況

① トキワトラノオ

環境保全措置実施後の生育状況に大きな変化はなく、生育状況は概ね良好であった。今後も専門家の技術的助言等を踏まえつつ、生育状況を確認する予定である。



トキワトラノオの生育状況
令和2年8月7日



トキワトラノオの生育状況
令和2年10月16日



トキワトラノオの生育状況
令和3年3月4日

2-4-4 大鹿村内発生土置き場（青木川）

工事前及び工事中における事後調査として動物、植物について調査を実施した。

2-4-4-1 動物

2-4-4-1-1 希少猛禽類の生息状況

(1) 調査項目

クマタカ（大鹿村Dペア）の生息状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 2-4-10 に示すとおりである。

表 2-4-10 鳥類（希少猛禽類）の調査方法

調査項目	調査方法	
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事前の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索した。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録した。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査した。巣の見える位置から8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察した。

(3) 調査地点

現地調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように発生土置き場周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

(4) 調査期間

調査期間は、表 2-4-11 に示すとおりである。

表 2-4-11 鳥類（希少猛禽類）の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査 繁殖確認調査	繁殖期	令和元年12月22日 ～ 令和元年12月24日
			令和2年1月19日 ～ 令和2年1月21日
			令和2年2月16日 ～ 令和2年2月18日
			令和2年3月14日 ～ 令和2年3月16日
			令和2年6月7日 ～ 令和2年6月9日
			令和2年7月5日 ～ 令和2年7月7日
			令和2年8月8日 ～ 令和2年8月10日

注：令和2年4月・5月期は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止した。

(5) 調査結果

調査結果は、表 2-4-12 に示すとおりである。

表 2-4-12 鳥類（希少猛禽類）の確認状況（令和元年12月～令和2年8月）

ペア名	確認状況
クマタカ（大鹿村Dペア）	繁殖初期には繁殖の兆候を確認したが、その後の確認状況から、繁殖失敗または非繁殖年の可能性が考えられる。今後も継続的に調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。

2-4-4-1-2 移設後の生息状況

(1) 調査方法

移設先の水域を現地調査（任意観察）することにより、移設を実施した動物の生息状況を確認した。

(2) 調査地点

現地調査地点は、移設を実施した地点であり、対象は表2-4-13のとおりである。

表 2-4-13 移設を実施した動物

種名	科名	移設前の生息地	移設の実施箇所	移設の実施時期
モリアオガエル	アオガエル科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	移設（卵塊、成体3個体）：令和2年6月18日～19日、7月2日～3日 室内飼育（卵塊）：令和2年6月19日～9月1日 飼育個体の放流（約450個体）：令和2年8月6日～7日、8月20日～21日、8月31日～9月1日
アカハライモリ	イモリ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	移設（成体8個体）：令和2年6月18日～19日、7月2日～3日

(3) 調査期間

移設後の生息状況の現地調査は、表 2-4-14 に示す時期に実施した。なお、移設後の生息状況調査は、移設作業後 1 か月以内に 1 回、それ以降は移設後 3 年まで繁殖期に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、調査期間の見直しを検討する。

表 2-4-14 生息状況の現地調査の時期

調査地点	調査日
モリアオガエル	令和2年7月2日～3日、7月23日、 8月6日～7日、8月31日～9月1日、 9月10日～11日、9月30日～10月1日
アカハライモリ	令和2年7月2日～3日、7月23日

(4) 移設後の生息状況

①モリアオガエル

移設後の生息状況の現地調査（令和2年7月2日～3日、7月23日、8月6日～7日、8月31日～9月1日、9月10日～11日、9月30日～10月1日）では、移設地において7月23日に幼生3個体、8月31日～9月1日に幼生約25個体、9月10日～11日に幼生・幼体併せて約50個体、9月30日～10月1日に幼生3個体を確認した。幼生・幼体のほとんどは上陸分散したものと考えられる。今後も環境の変化や対象種の生息状況を把握し、必要により、状況に応じた追加的な措置や管理を行い、対象種の保全に努める。



移設後の状況（移設地）
令和2年7月23日



移設後の生息状況（移設地）
令和2年7月23日



移設後の生息状況（移設地）
令和2年8月31日



移設後の生息状況（移設地）
令和2年9月10日



移設後の生息状況（移設地）
令和2年9月30日

②アカハライモリ

アカハライモリは成体8個体を移設したが、移設後の生息状況の現地調査（令和2年7月2日～3日、7月23日）では、移設地において個体は確認できなかった。今後も環境の変化や対象種の生息状況を把握し、必要により、状況に応じた追加的な措置や管理を行い、対象種の保全に努める。



移設後の状況（移設地）
令和2年7月23日

2-4-4-2 植物

(1) 調査方法

現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

(2) 調査地点

現地調査地点は、移植を実施した地点であり、対象は表 2-4-15 のとおりである。

表 2-4-15 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
モメンヅル	マメ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年6月10日 (7個体移植)
トダイアカバナ	アカバナ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年6月18日 (約30個体移植)
イブキキンモウゴケ	タチヒダゴケ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年7月2日 (3塊移植)
テリハヨロイゴケ	カブトゴケ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年6月19日 (1塊移植)
シャジクモ*	シャジクモ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年7月2～3日 (底泥を移設)

※移植前に発生した豪雨により自生地の池に大量の土砂が流入するとともに、大部分の水が流出し、個体を確認・移植できなかったため、藻体や埋土卵孢子が存在する可能性を念頭に底泥を移設した。

(3) 調査期間

移植後の生育状況の現地調査は、表 2-4-16 に示す時期に実施した。なお、移植後の生育状況調査は、移植作業後1か月以内及び移植後1年間は開花期と結実期1回ずつ、それ以降は移植後3年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年1回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、調査期間の見直しを検討する。

表 2-4-16 生育状況の現地調査の時期

調査地点	調査日
モメンヅル	令和2年6月19日、7月18日、8月31日、10月20日
トダイアカバナ	令和2年6月25日、7月18日、9月10日、11月10日
イブキキンモウゴケ	令和2年7月18日、8月1日、10月20日
テリハヨロイゴケ	令和2年6月25日、7月18日、11月10日
シャジクモ	令和2年7月18日、8月1日、9月25日～26日

(4) 移植後の生育状況

①モメンヅル

移植後の生育状況の現地調査（令和2年6月19日、7月18日、8月31日、10月20日）では、移植した7個体の生育状況は概ね良好であった。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（全景）（移植地）
令和2年6月10日



移植後の状況（移植地）
令和2年6月10日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年6月19日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年7月18日



移植後の生育状況【開花期】
（移植地）
令和2年8月31日



移植後の生育状況【結実期】
（移植地）
令和2年10月20日

②トダイアカバナ

移植後の生育状況の現地調査（令和2年6月25日、7月18日）では、移植した約30個体の生育状況は概ね良好であった。令和2年9月10日の調査では、移植した約30個体のうち、確認された個体は1個体で、残りの個体は枯死し、結実後に枯死したと考えられる個体も確認された。8月の記録的な少雨と高温が原因と考えられる。令和2年11月10日の調査では、地上部に生育個体は確認されなかったが、これは季節的な要因と考えられる。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（全景）（移植地）
令和2年6月18日



移植後の状況（移植地）
令和2年6月18日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年6月25日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年7月18日



移植後の生育状況【開花期】
（移植地）
令和2年9月10日



移植後の生育状況【結実期】
（移植地）
令和2年11月10日

③イブキキンモウゴケ

移植後の生育状況の現地調査（令和2年7月18日、8月1日、10月20日）では、移植した3塊の生育状況は概ね良好であった。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（全景）（移植地）
令和2年7月2日



移植後の状況（移植地）
令和2年7月2日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年7月18日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年8月1日



移植後の生育状況【盛夏後】（移植地）
令和2年10月20日

④テリハヨロイゴケ

移植後の生育状況の現地調査（令和2年6月25日、7月18日、11月10日）では、移植した1塊の生育状況は良好であった。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（移植地）
令和2年6月19日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年6月25日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年7月18日



移植後の生育状況【盛夏後】（移植地）
令和2年11月10日

⑤ シャジクモ

底泥移設後の生育状況の現地調査（令和2年7月18日、8月1日、9月25日～26日）では、生育は確認されなかった。今後も生育状況を確認する予定である。



底泥移設後の状況（移設地）
令和2年7月3日



底泥移設後の生育状況（移設地）
令和2年7月18日



底泥移設後の生育状況（移設地）
令和2年8月1日



底泥移設後の生育状況【成長期】（移設地）
令和2年9月26日

2-4-5 豊丘村内発生土置き場（戸中）

工事中における事後調査として植物について調査を実施した。

2-4-5-1 植物

(1) 調査方法

現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

(2) 調査地点

現地調査地点は、移植を実施した地点であり、対象は表 2-4-17 のとおりである。

表 2-4-17 移植を実施した植物

種名	科名	移植種前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
コムラサキ	クマツヅラ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	令和2年10月29日 (2個体移植)
ミスミソウ	キンポウゲ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	令和2年10月30日 (10個体移植)

(3) 調査期間

移植後の生育状況の現地調査は、表 2-4-18 に示す時期に実施した。なお、移植後の生育状況調査は、移植作業後 1 か月以内及び移植後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は移植後 3 年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、必要により調査期間の再検討を行う。

表 2-4-18 生育状況の現地調査の時期

調査地点	調査日
コムラサキ	令和2年11月4日、11月25日
ミスミソウ	令和2年11月4日、11月25日

(4) 移植後の生育状況

①コムラサキ

移植後の生育状況の現地調査（令和2年11月4日、25日）では、移植した2個体の生育状況は概ね良好であった。令和2年11月25日の調査では、落葉していたが、これは季節的な要因と考えられる。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（移植地）
令和2年10月29日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年11月4日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年11月25日

②ミスミソウ

移植後の生育状況の現地調査（令和2年11月4日、25日）では、移植した10個体の生育状況は概ね良好であった。今後も生育状況を確認する予定である。



移植後の状況（全景）（移植地）
令和2年10月30日



移植後の状況（移植地）
令和2年10月30日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年11月4日



移植後の生育状況（移植地）
令和2年11月25日

3 モニタリング

令和2年度は、大気質、水質、水底の底質、水資源（山岳トンネル、切土工等）、土壌汚染、また発生土置き場等においては対象とした環境要素について、モニタリングを実施した。

3-1 大気質

建設機械の稼働に係る大気質について、工事最盛期となる工区におけるモニタリングを実施した。

3-1-1 調査項目

調査項目は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん等とした。

3-1-2 調査方法

調査方法は、表 3-1-2-1 に示すとおりである。

表 3-1-2-1 調査方法

調査項目	調査方法	測定高さ
二酸化窒素 (NO ₂)	「二酸化窒素に係る環境基準について」 (昭和 53 年環境庁告示第 38 号) に定める測定方法	地上 1.5m
浮遊粒子状物質 (SPM)	「大気の汚染に係る環境基準について」 (昭和 48 年環境庁告示第 25 号) に定める測定方法	地上 3.0m
粉じん等 (降下ばいじん量)	「衛生試験法・注解(2015)」(2015、日本薬学会) に基づくダストジャー法	地上 1.5m

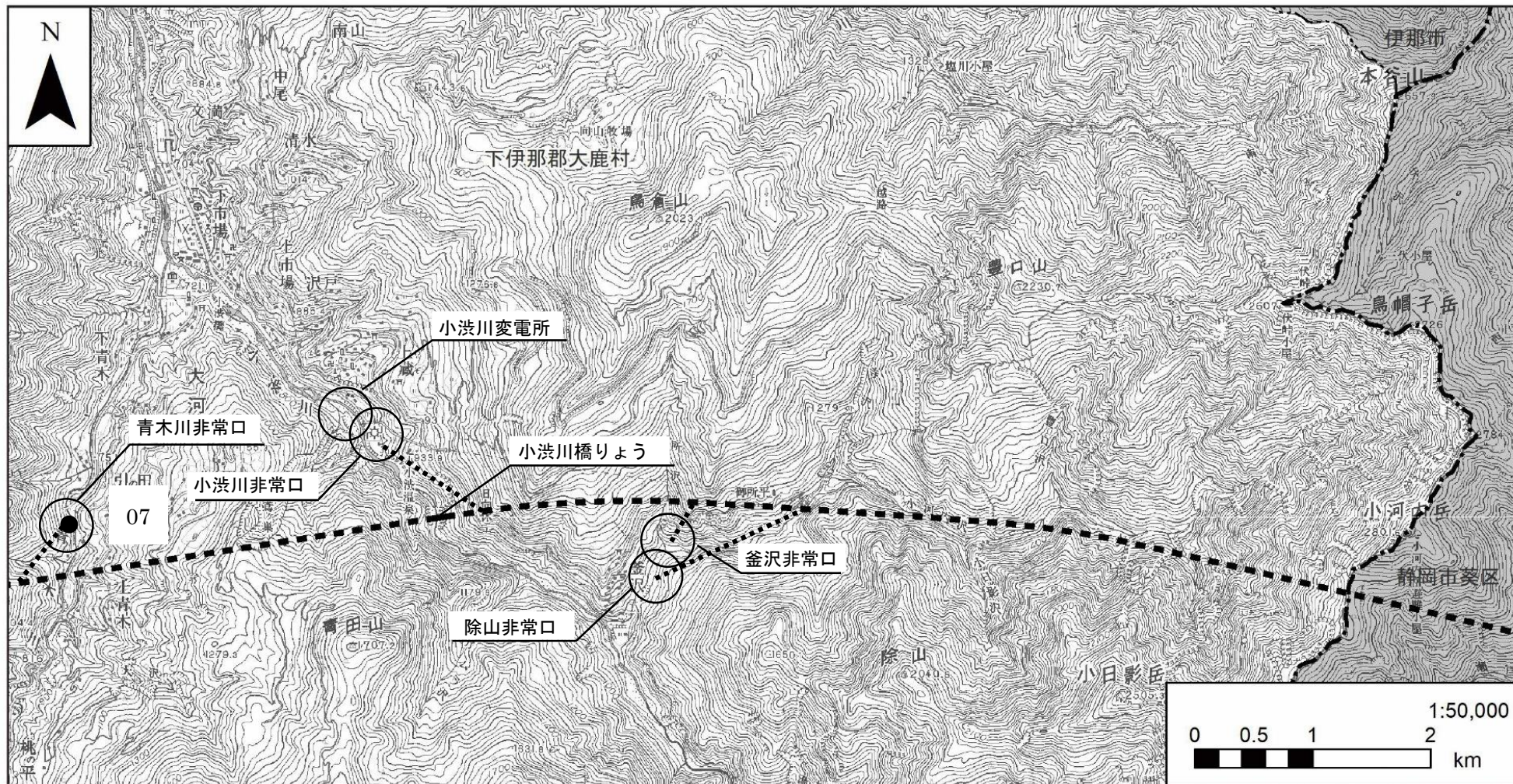
3-1-3 調査地点

調査地点は、表 3-1-3-1 及び図 3-1-3-1 に示すとおりである。

表 3-1-3-1 調査地点

調査項目	地点 番号	市町 村名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働	07	大鹿村	大河原	青木川非常口

注：地点番号は評価書での地点番号と同様とした。



凡例

- 計画路線（トンネル区間）
- 計画路線（地上区間）
- 県境
- 市町村境
- 調査地点
- 非常口トンネル（斜坑）

注：本調査は07地点で実施した。

図 3-1-3-1(1) 調査地点（建設機械の稼働）

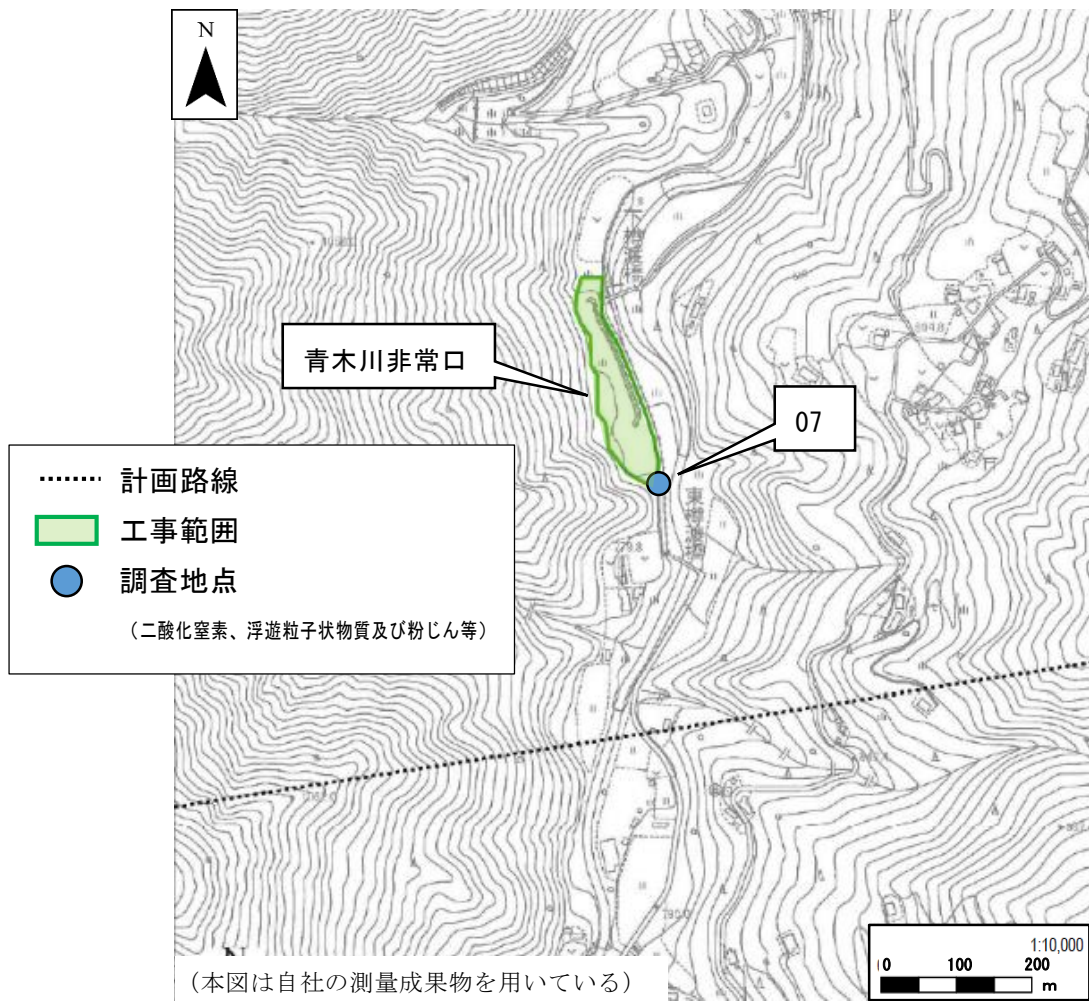


図 3-1-3-1(2) 調査地点 (建設機械の稼働)

3-1-4 調査期間

調査期間は、表 3-1-4-1 に示すとおりである。二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については四季調査を実施するものとし、各季 7 日間連続測定を、粉じん等については、四季調査を実施するものとし、各季 1 か月間連続測定を行った。なお、地点 07 の春季分の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じん等の調査については、令和 3 年度に実施する計画である。

工事最盛期の対象工事は、評価書の予測対象工事を基本として工事期間全体の中で工事内容を勘案し、調査項目ごとに工事による影響が最大となる時期を選定した。

表 3-1-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容	備考
建設機械の稼働 (二酸化窒素及び 浮遊粒子状物質)	07	夏季	令和 2 年 8 月 18 日～24 日	掘削工	今回 調査
		秋季	令和 2 年 10 月 20 日～26 日	掘削工	
		冬季	令和 3 年 1 月 13 日～19 日	掘削工	
建設機械の稼働 (粉じん等)	07	夏季	令和 2 年 8 月 18 日～ 令和 2 年 9 月 17 日	掘削工	今回 調査
		秋季	令和 2 年 10 月 20 日～ 令和 2 年 11 月 19 日	掘削工	
		冬季	令和 3 年 1 月 13 日～ 令和 3 年 2 月 12 日	掘削工	

3-1-5 調査結果

調査結果は、表 3-1-5-1 に示すとおりである。

地点 07 は四季調査の三季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.009ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の最高値は 0.023mg/m³ であった。

また、降下ばいじん量については、地点 07 で最大 3.8t/km²/月であった。

表 3-1-5-1(1) 調査結果（二酸化窒素）

地点 番号	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた 日数とその割合		日平均値が0.04ppm 以上0.06ppm以下の 日数とその割合		基準 ^注
	日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%	
07	21	504	0.003	0.036	0.009	0	0	0	0	日平均値の 年間 98%値が 0.06ppm 以下

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (2) 調査結果（浮遊粒子状物質）

地点 番号	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数と その割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数と その割合		基準 ^注
	日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³	時間	%	日	%	
07	21	504	0.010	0.072	0.023	0	0	0	0	日平均値の 年間 2%除外値 が 0.10mg/m ³ 以下

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (3) 調査結果（降下ばいじん量）^{注1}

地点 番号	春季	夏季	秋季	冬季	指標値 ^{注2}
	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
07	—	1.90	3.80	2.10	20t/km ² /月

注 1：調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計となる。

注 2：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成 2 年環大自 84 号）を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。

なお、評価書では、建設機械の稼働による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月（平成 5 年～平成 9 年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位 2%除外値）を差し引いた 10t/km²/月を、整合を図るべき基準等の参考値とした。

3-2 水質

公共用水域（河川）の水質について、工事前及び工事中のモニタリングを実施した。

3-2-1 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-2-2 調査方法

調査方法は、表 3-2-2-1 に示すとおりである。

表 3-2-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年建設省河川局）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成 22 年 3 月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	

3-2-3 調査地点

調査地点は、表 3-2-3-1 及び図 3-2-3-1 に示すとおりである。

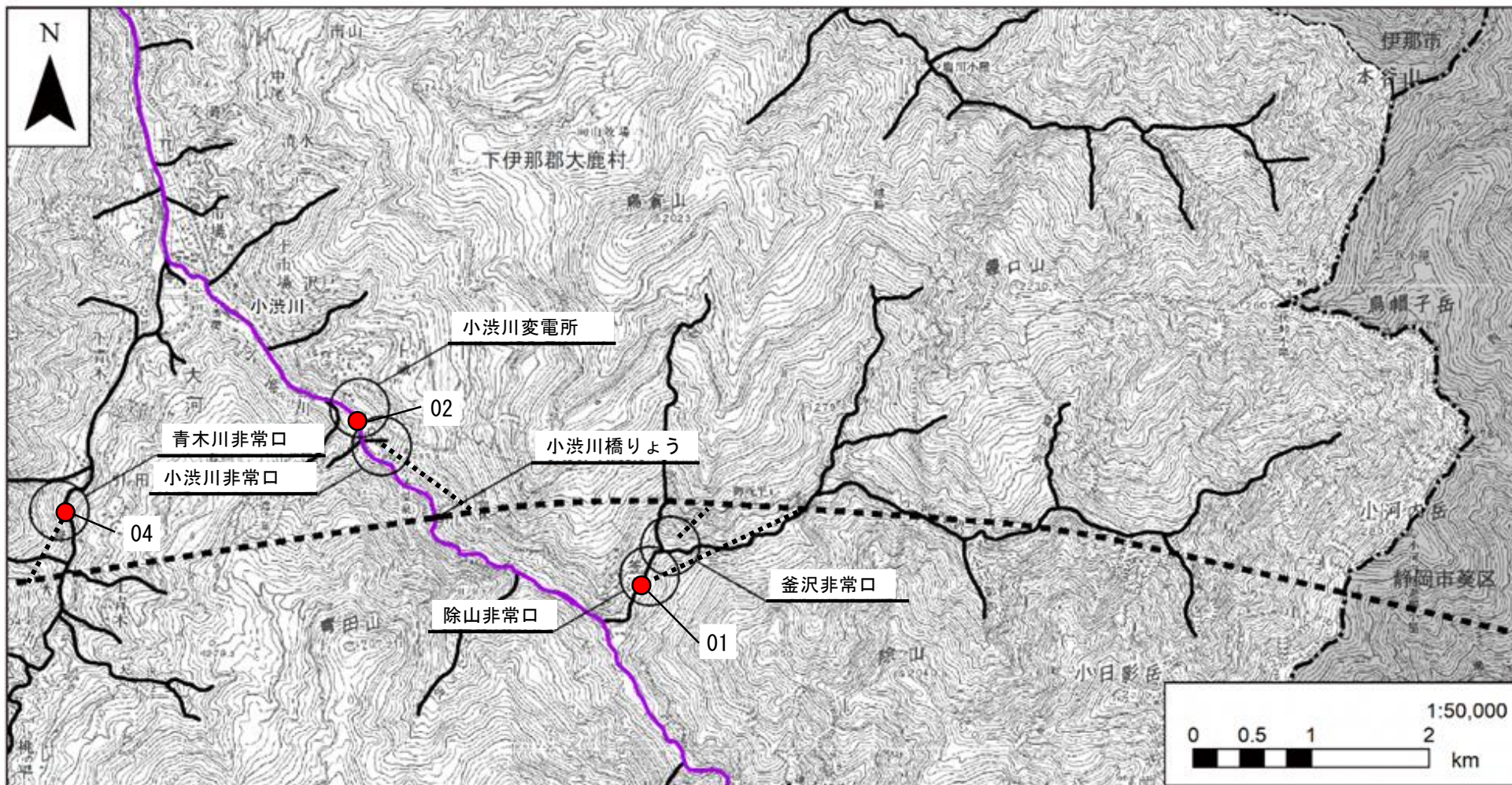
表 3-2-3-1 調査地点

地点番号 注1 注2	市町村名	水系	対象河川	実施箇所	調査項目			
					浮遊物質 質量(SS)	水温	水素イオン 濃度(pH)	自然由来の 重金属等
01	大鹿村	天竜川	小河内沢川	釜沢非常口 除山非常口	○	○	○	○
02			小渋川	小渋川非常口 小渋川橋りょう	○	○	○	○
04			青木川	青木川非常口注3	○	○	○	○
05	豊丘村		虻川	坂島非常口	○	○	○	○
06			虻川	戸中非常口	○	○	○	○
11	飯田市		天竜川	天竜川橋りょうほか	○	○	○	○
15			松川	中央アルプス トンネル 松川橋りょう	○	○	○	○
16			黒川	萩の平非常口	○	○	○	○
17	南木曾町		木曾川	蘭川	広瀬非常口	○	○	○

注1：地点番号は評価書での地点番号と同様とした。

注2：地点番号 01、02、05、17 は、排水計画の深度化により、調査地点を変更した。

注3：その他、青木川非常口工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る公共用水域（河川）の水質として、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行った。



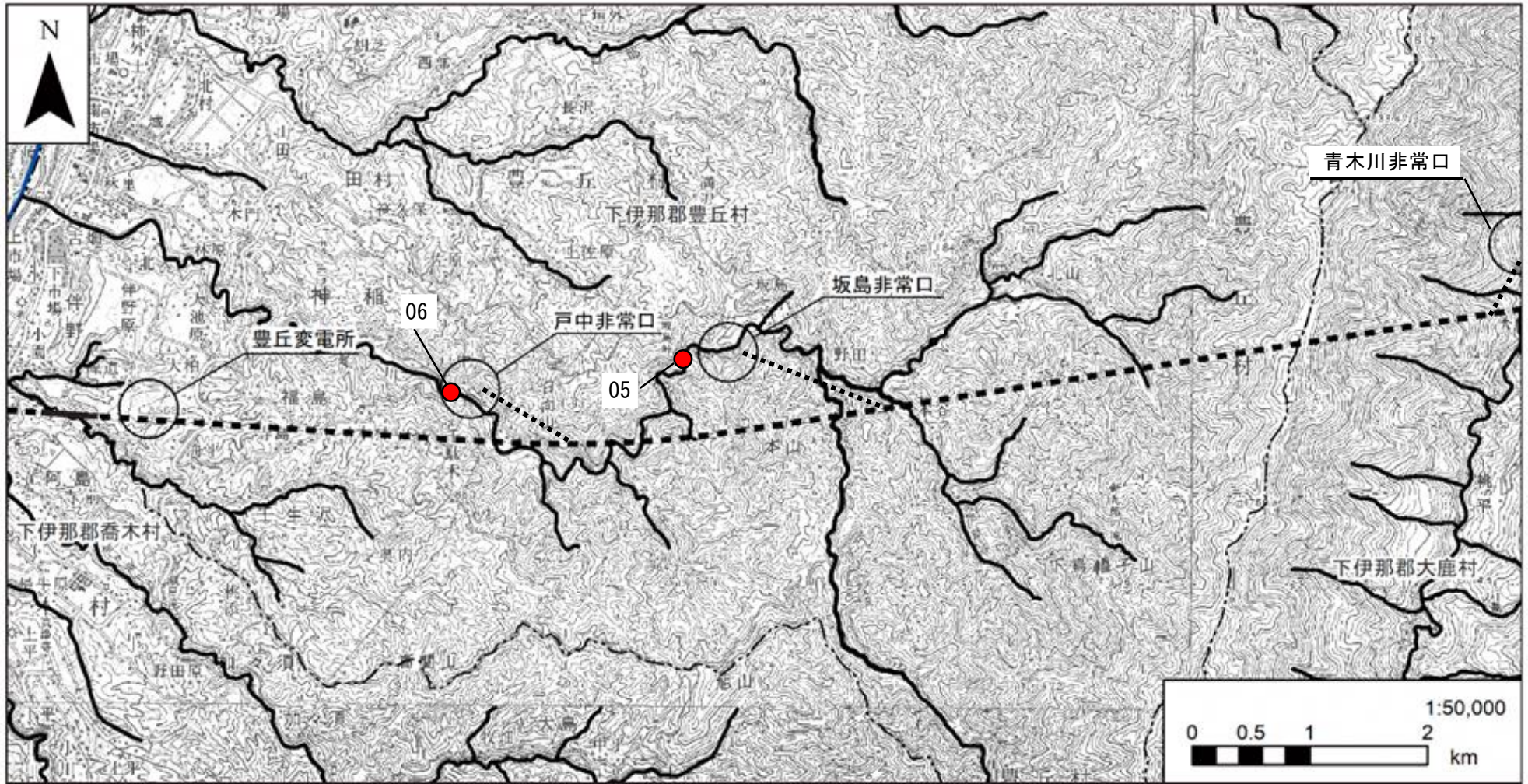
凡例

- 計画路線（トンネル区間）
- 計画路線（地上区間）
- 県境
- 市町村境

- 水質汚濁に係る環境基準
の類型指定
- 類型AA
 - 類型A
 - 指定なし

- 水質調査地点
- 非常口トンネル（斜坑）

図 3-2-3-1(1) 調査地点図



凡例

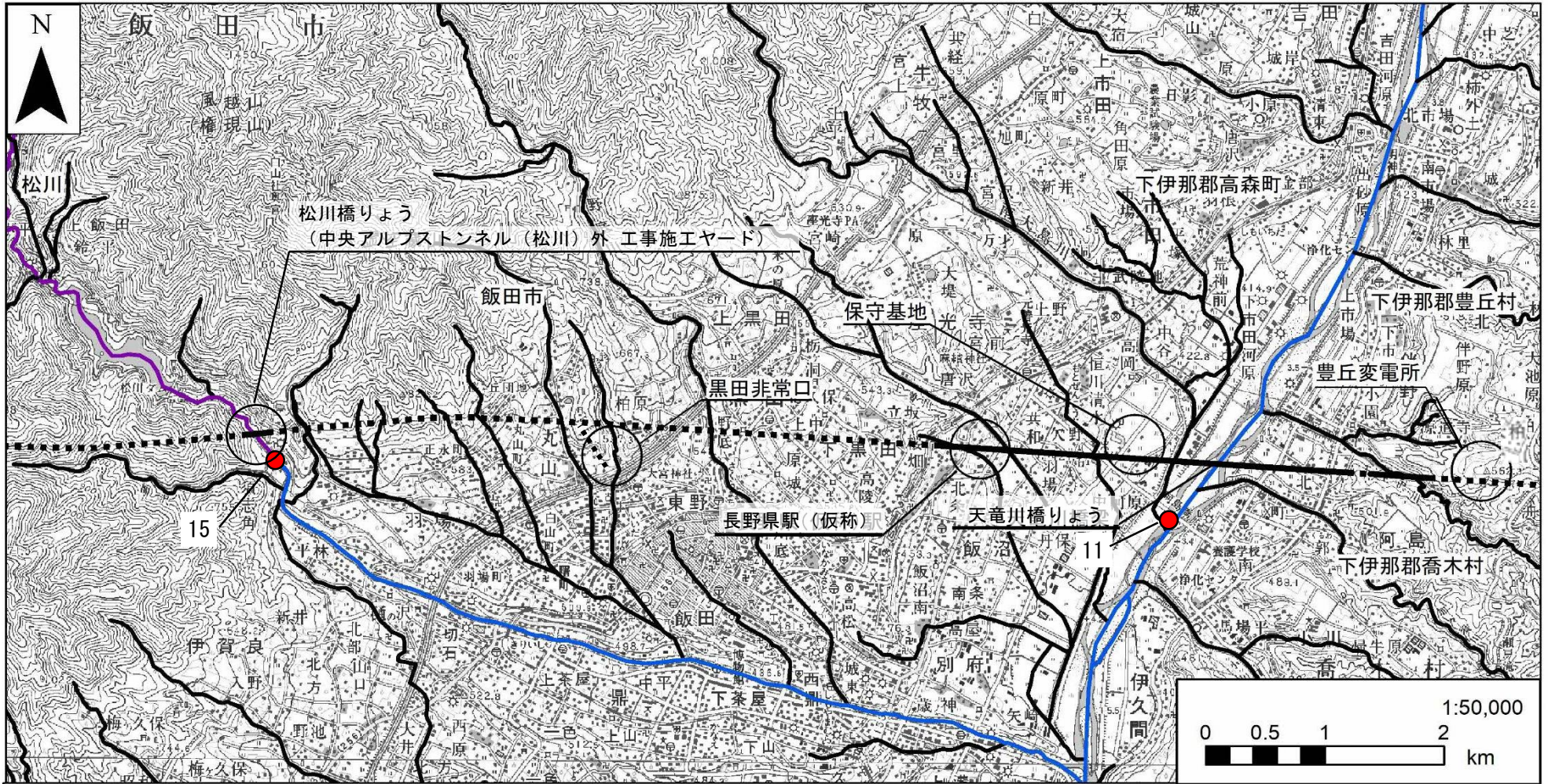
- 計画路線（トンネル区間）
- 計画路線（地上区間）
- 市町村境

水質汚濁に係る環境基準の類型指定

- 類型AA
- 類型A
- 指定なし

- 水質調査地点
- 非常口トンネル（斜坑）

図 3-2-3-1(2) 調査地点図



凡例

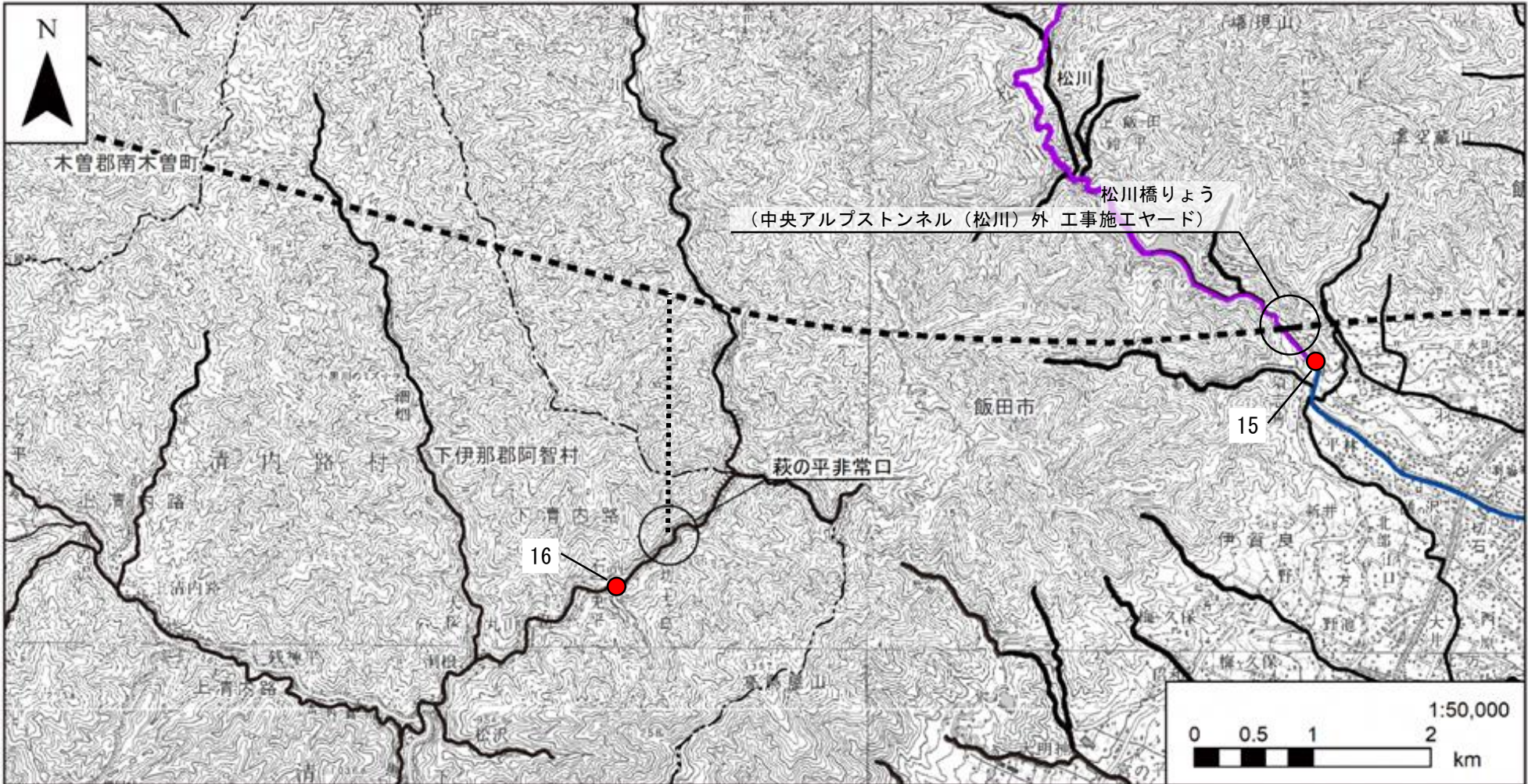
- 計画路線（地上区間）
- 計画路線（トンネル区間）
- 市町村境

水質汚濁に係る環境基準の類型指定

- 類型AA
- 類型A
- 指定なし

- 水質調査地点
- 非常口トンネル（斜坑）

図 3-2-3-1(3) 調査地点図



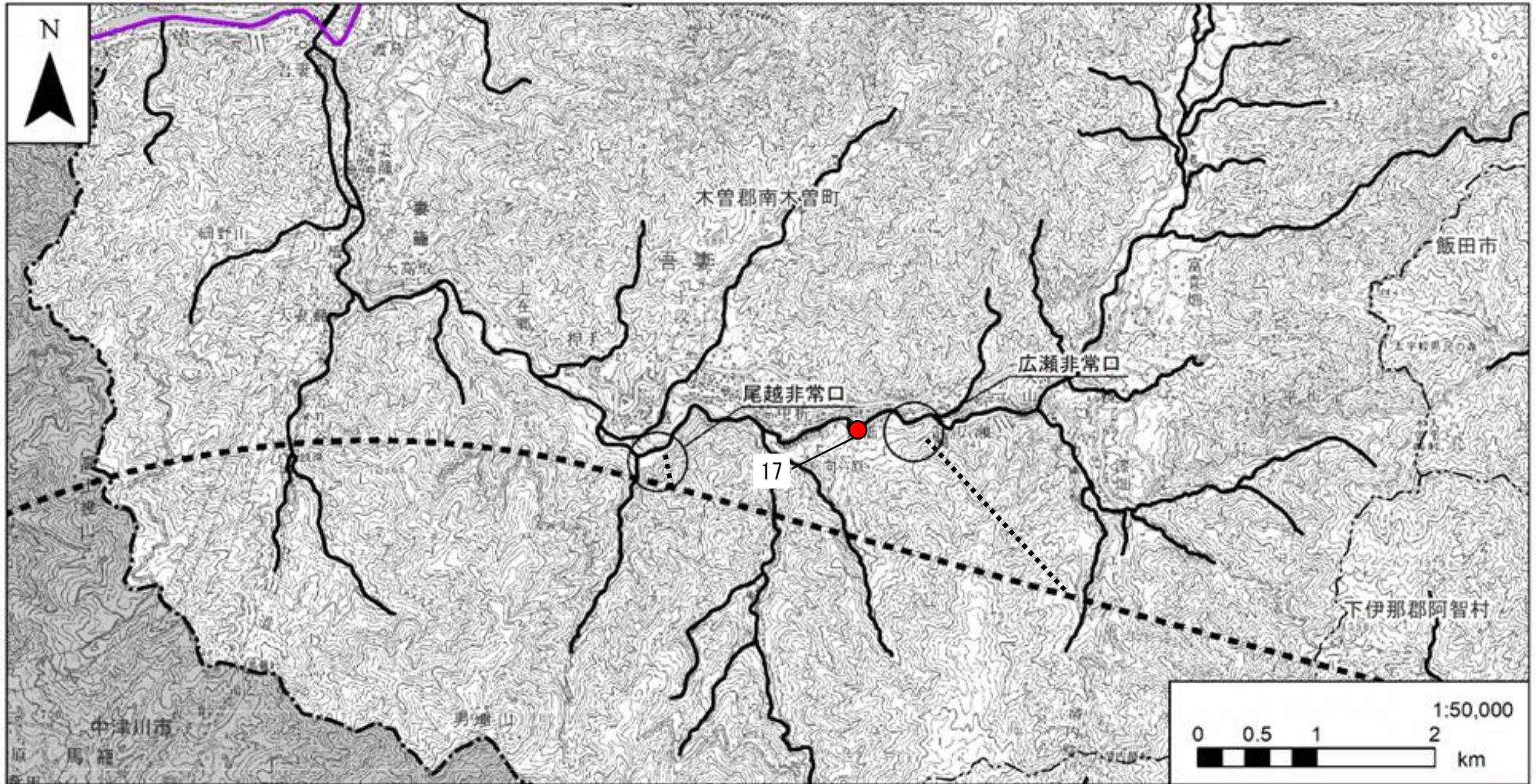
凡例

- 計画路線 (トンネル区間)
- 計画路線 (地上区間)
- 市町村境

- 水質汚濁に係る環境基準
の類型指定
- 類型AA
 - 類型A
 - 指定なし

- 水質調査地点
- 非常口トンネル (斜坑)

図 3-2-3-1(4) 調査地点図



凡例

- 計画路線（トンネル区間）
- 計画路線（地上区間）
- 県境
- 市町村境

水質汚濁に係る環境基準の類型指定

- 類型AA
- 類型A
- 指定なし

- 水質調査地点
- 非常口トンネル（斜坑）

図 3-2-3-1(5) 調査地点図

3-2-4 調査期間

調査期間は、表 3-2-4-1 に示すとおりである。

表 3-2-4-1 調査期間

地点番号	対象河川	実施時期の種別	調査時期	調査頻度
01	小河内沢川	工事中	令和2年12月15日	年1回
02	小渋川	工事中	令和2年12月15日	年1回
04	青木川 ^注	工事中	令和2年12月17日	年1回
05	虻川	工事中	令和2年12月25日	年1回
06	虻川	工事中	令和2年12月15日	年1回
11	天竜川	工事前	令和2年12月22日	1回
		工事中	令和3年3月1日	年1回
15	松川	工事中	令和2年12月14日	年1回
16	黒川	工事中	令和2年12月14日	年1回
17	蘭川	工事中	令和2年12月22日	年1回

注：その他、青木川非常口工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る公共用水域（河川）の水質として、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行った。頻度は、環境保全計画書では搬入前1回としたが、季節変動が考えられるため、四半期に1回調査を実施した。

3-2-5 調査結果

調査結果は、表 3-2-5-1～表 3-2-5-2 に示すとおりである。調査地点の全てにおいて、各項目とも環境基準等に適合していた。

表 3-2-5-1(1) 調査結果

地点番号	01	02	04	05	環境基準等 ^{注2}	
対象河川	小河内沢川	小渋川	青木川	虻川		
類型指定 ^{注1}	(AA)	AA	(AA)	(A)		
調査日	12/15	12/15	12/17	12/25		
流量 (m ³ /s)	2.2×10 ⁻¹	2.3	7.1×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻¹	—	
浮遊物質 量 (SS) (mg/L)	<1	2	<1	<1	A、AA : 25mg/L 以下	
水温 (°C)	3.5	4.8	4.4	3.1	—	
気象の状況	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	—	
土質の状況	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	—	
水素イオン濃度 (pH)	8.0	8.0	8.3	7.3	A、AA : 6.5 以上 8.5 以下	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.04	<0.005	0.05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.005	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	0.02	0.02	<0.1	<0.02	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注3：「<」は未満を示す。

表 3-2-5-1(2) 調査結果

地点番号	06	11	11	15	環境基準等 ^{注2}	
対象河川	虻川	天竜川	天竜川	松川		
類型指定 ^{注1}	(A)	A	A	AA		
調査日	12/15	12/22	3/1	12/14		
流量 (m ³ /s)	4.1×10 ⁻¹	5.0×10		2.0	—	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	<1	4	1	<1	A、AA : 25mg/L 以下	
水温 (°C)	3.2	4.0	6.7	4.0	—	
気象の状況	晴れ	晴れ	晴れ	曇り	—	
土質の状況	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	—	
水素イオン濃度 (pH)	7.7	8.4	7.7	7.6	A、AA : 6.5 以上 8.5 以下	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.02	<0.005	0.05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.02	0.06	<0.1	<0.02	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注3：「<」は未満を示す。

表 3-2-5-1(3) 調査結果

地点番号	16	17	環境基準等 ^{注2}	
対象河川	黒川	蘭川		
類型指定 ^{注1}	(A)	(AA)		
調査日	12/14	12/22		
流量 (m ³ /s)	1.2	5.9×10 ⁻¹	—	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	<1	<1	A、AA : 25mg/L 以下	
水温 (°C)	3.4	1.0	—	
気象の状況	曇り	曇り	—	
土質の状況	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	—	
水素イオン濃度 (pH)	7.4	7.3	A、AA : 6.5 以上 8.5 以下	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	0.11	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.02	<0.02	1mg/L 以下

注1 : 類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2 : 浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注3 : 「<」は未満を示す。

表 3-2-5-2 調査結果 注1

地点番号	04			環境基準等 ^{注2}	
対象河川	青木川				
類型指定 ^{注1}	(AA)				
調査日	9/1	12/17	3/1		
流量 (m ³ /s)		7.1×10 ⁻¹	6.6×10 ⁻¹	—	
浮遊物質 量 (SS) (mg/L)	3	<1	<1	A、AA : 25mg/L 以下	
水温 (°C)	21.3	4.4	7.1	—	
気象の状況	晴れ	晴れ	晴れ	—	
土質の状況	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	巨石、丸石、 小石、砂	—	
水素イオン濃度 (pH)	8.3	8.3	8.2	A、AA : 6.5 以上 8.5 以下	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	0.10	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下

注1：その他、青木川非常口工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る測定。

注2：類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注3：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注4：「<」は未満を示す。

なお、工事中における除山非常口、釜沢非常口、小渋川非常口及び青木川非常口からの工事排水中（トンネル湧水含む）の水質についても、浮遊物質量、水温、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行っている。調査結果は以下に示すとおりであり、いずれも排水基準等に適合していた。

表 3-2-5-3 工事排水中の水質の調査結果（年間最大値）

地点	除山非常口 排水路の流末	釜沢非常口 排水路の流末	小渋川非常口 排水路の流末	青木川非常口 排水路の流末	排水基準等	
浮遊物質量（SS） （mg/L）	50	50	50	5.0	50mg/L 以下	
水素イオン濃度（pH）	5.8～8.6	5.8～8.6	5.8～8.6	6.5～8.3	5.8 以上 8.6 以下	
水温（℃）	6.5～23.6	0.0～23.8	9.1～21.8	0.0～27.8	—	
自然由来の 重金属等	カドミウム （mg/L）	<0.0003	<0.0003	0.0003	<0.0003	0.03mg/L 以下
	六価クロム （mg/L）	<0.04	<0.04	<0.04	0.06	0.5mg/L 以下
	水銀 （mg/L）	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005mg/L 以下
	セレン （mg/L）	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.1mg/L 以下
	鉛 （mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.1mg/L 以下
	ヒ素 （mg/L）	0.004	0.002	0.006	0.012	0.1mg/L 以下
	ふっ素 （mg/L）	2.20	0.64	0.39	0.22	8mg/L 以下
	ほう素 （mg/L）	0.6	0.3	2.6	0.2	10mg/L 以下

注 1：水素イオン濃度及び水温は年間最大・最小値を記載。

注 2：浮遊物質量及び水素イオン濃度は「水質汚濁防止法第 3 条第 3 項に基づく上乗せ排水基準（公害の防止に関する条例第 16 条別表第 1）」を、自然由来の重金属等は「水質汚濁防止法第 3 条第 1 項に基づく一律排水基準」を記載した。

注 3：「<」は未満を示す。

3-3 水底の底質

河床の掘削を伴う河川における水底の底質について、モニタリングを実施した。

評価書において水底の底質の汚染が確認された箇所はなかったが、河川内工事時の河川の調査を実施した。

3-3-1 調査項目

河川及び水底の調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）とした。

3-3-2 調査方法

各項目の調査方法は表 3-3-2-1 に示すとおりである。

表 3-3-2-1 調査方法（河川）

調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（平成 5 年建設省河川局）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成 22 年 3 月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	

3-3-3 調査地点

調査地点は、表 3-3-3-1 及び図 3-3-3-1 に示すとおりである。

表 3-3-3-1 調査地点（河川）

地点 番号	市町村名	水系	対象河川	実施箇所
01	高森町	天竜川	天竜川	橋りょう
02	喬木村	天竜川	天竜川	橋りょう



凡例

- 計画路線 (トンネル区間) □ 現地調査地点 (河川)
- 計画路線 (地上区間) 非常口トンネル (斜坑)
- 市町村境

図 3-3-3-1 調査地点図

3-3-4 調査期間

調査期間は、表 3-3-4-1 に示すとおりである。

表 3-3-4-1 調査期間（河川）

地点番号	対象河川	実施時期の種別	調査時期	備考
01	天竜川	河川内工事時	令和2年12月8日	上流側
02	天竜川	河川内工事時	令和3年1月16日 令和3年3月1日	下流側

3-3-5 調査結果

調査結果は、表 3-3-5-1 に示すとおりである。河川内工事時の河川について、環境基準等に適合していた。

表 3-3-5-1 調査結果（河川）

地点番号	01	02		環境基準等 ^{注1}	
対象河川	天竜川	天竜川			
類型指定 ^{注1}	A	A			
調査時期	河川内 工事時 (R2. 12. 8)	河川内 工事時 (R3. 1. 16)	河川内 工事時 (R3. 3. 1)		
浮遊物質量 (SS) (mg/L)	4	3	1	A : 25mg/L 以下	
気象の状況	晴れ	晴れ	晴れ	—	
水素イオン濃度 (pH)	8. 5	7. 6	7. 7	A : 6. 5 以上 8. 5 以下	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0. 0003	<0. 0003	<0. 0003	0. 003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0. 02	<0. 02	<0. 02	0. 05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	0. 0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0. 001	<0. 001	<0. 001	0. 01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0. 001	<0. 001	<0. 001	0. 01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0. 001	0. 001	0. 001	0. 01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0. 08	0. 10	<0. 08	0. 8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0. 1	<0. 1	<0. 1	1mg/L 以下

注1. 浮遊物質量及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注2. 「<」は未満を示す。

3-4 水資源（切土工等）

切土工等（地上区間）の工事の実施に伴う水資源（井戸）について、工事前のモニタリングを実施した。

3-4-1 調査項目

調査項目は、水資源（井戸）の水位、水温、pH、電気伝導率及び透視度の状況とした。

3-4-2 調査方法

調査方法は、表 3-4-2-1 に示すとおりである。

表 3-4-2-1 水資源の調査方法

調査項目	調査方法
水位、水温、pH、電気伝導率、透視度	「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年、建設省河川局）に準拠する。

3-4-3 調査地点

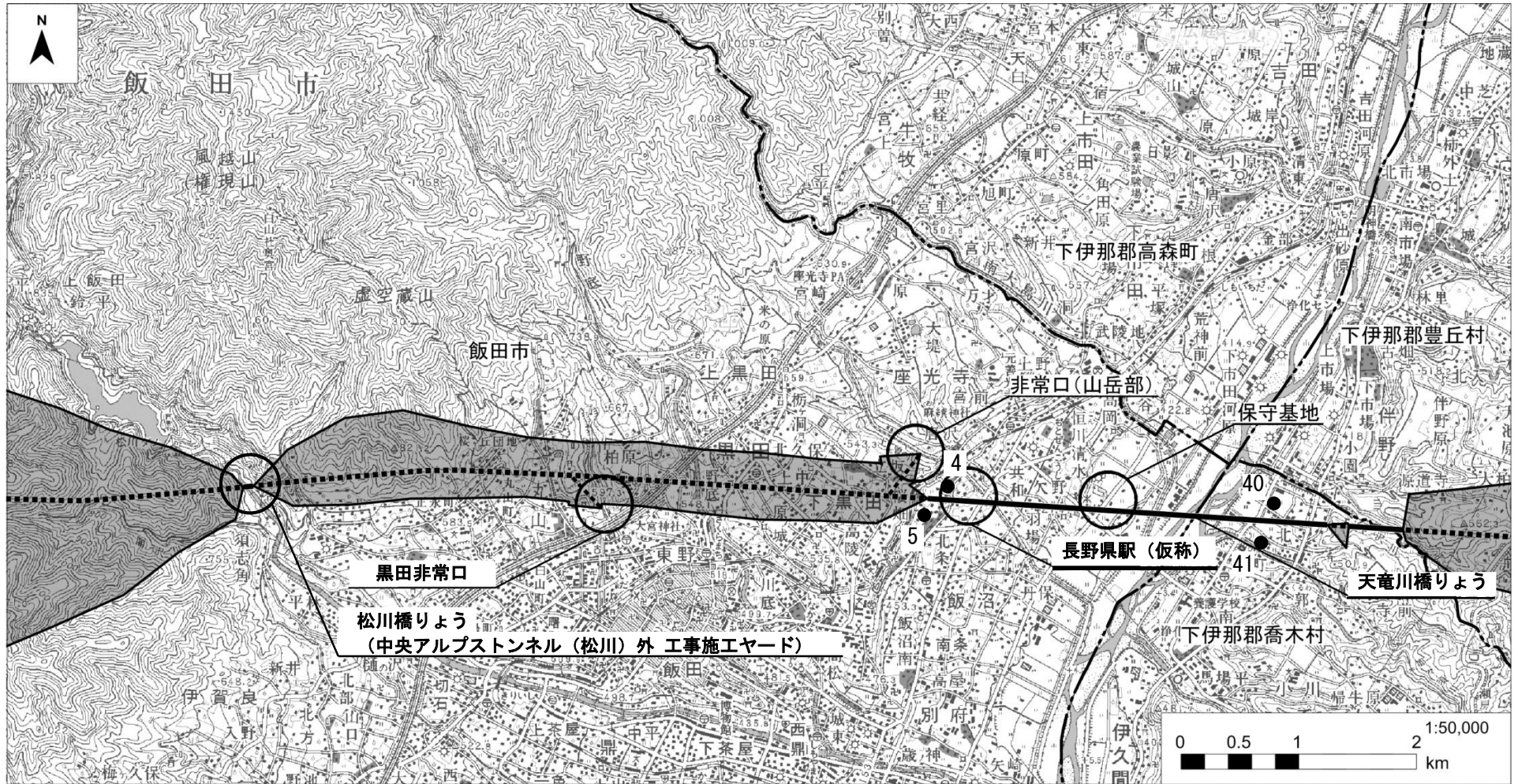
調査地点は、「豊丘村・喬木村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年4月）」、「飯田市（野底川以東）における水資源に係る具体的な調査の計画について（令和2年12月）」に示す場所とした。現地調査地点は、表 3-4-3-1、図 3-4-3-1 に示すとおりである。

表 3-4-3-1 井戸の水位の現地調査地点

地点番号	市町村名	地点	調査項目	備考
40	喬木村	個人水源（縦井戸）	・井戸の水位 ・水温 ・pH ・電気伝導率 ・透視度	図3-4-3-1 参照
41		田中下水源（縦井戸）		
4	飯田市	個人水源（縦井戸）		
5		個人水源（縦井戸）		

注1：地点番号については「豊丘村・喬木村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年4月）」、「飯田市（野底川以東）における水資源に係る具体的な調査の計画について（令和2年12月）」と同様としている。

注2：地点番号喬木40、41、飯田4、5については、工事前の調査を実施した。



凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 計画路線(地上区間)

- 予測検討範囲
- 非常口トンネル(斜坑)

凡例

- 井戸の水位

----- 市町村境

図 3-4-3-1 現地調査地点図(水資源)【喬木村、飯田市】

3-4-4 調査期間

現地調査期間は、表 3-4-4-1 に示すとおりである。

表 3-4-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	実施時期の種別	調査期間
40	井戸の水位、水温、pH、 電気伝導率、透視度	工事前	令和3年2月24日
41			令和3年2月24日
4			令和3年2月15日
5			令和3年2月15日

3-4-5 調査結果

現地調査結果は、表 3-4-5-1 に示すとおりである。

表 3-4-5-1 調査結果

調査項目	調査地点			
	40	41	4	5
	個人水源 (縦井戸)	田中下水源 (縦井戸)	個人水源 (縦井戸)	個人水源 (縦井戸)
水温 (°C)	13.7	15.1	12.9	-
pH	7.0	6.9	7.1	-
電気伝導率 (mS/m)	18.0	18.0	10.2	-
透視度 (cm)	>100	>100	>100	-
水位 (m) ^{注3}	-4.0	-29.5	-10.2	-8.3

注1：地点番号は図3-4-3-1を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値100cmを超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

「-」：地点番号5は、水位が浅く採水できなかったため測定不可。

3-5 水資源（山岳トンネル）

水資源（井戸・湧水及び地表水）について、事後調査に加え、環境管理を適切に進めるため、地点を選定し、モニタリングを実施した。

3-5-1 調査項目

調査項目は、水資源（井戸・湧水及び地表水）の水位又は水量及び流量、水温、pH、電気伝導率及び透視度、また、水資源（井戸・湧水）は、自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-5-2 調査方法

調査方法は、表3-5-2-1に示すとおりである。

表 3-5-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	
井戸・湧水	水位又は水量、水温、pH、電気伝導率、透視度	「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年、建設省河川局）に準拠する。	
	自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成22年3月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する。
		六価クロム	
		水銀	
		セレン	
		鉛	
		ヒ素	
		ふっ素	
ほう素			
地表水	流量、水温、pH、電気伝導率	「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年、建設省河川局）に準拠する。	

注：その他、地下水の水質として、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行った。

3-5-3 調査地点

調査地点は、「大鹿村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成26年12月）」、「豊丘村・喬木村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年4月）」、「南木曾町における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年10月）」、「飯田市（野底川以西）における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成29年10月）」に示す場所とした。現地調査地点は表3-5-3-1、図3-5-3-1に示すとおりである。

表 3-5-3-1(1) 水資源の現地調査地点（大鹿村）

対象	地点番号	市町村名	地点	調査項目		備考	
				【井戸・湧水】 水位又は水量、 水温、pH、電気 伝導率、透視度	自然由来 の重金属 等		
井戸・湧水	39	大鹿村	公共水源（湧水）	○		図3-5-3-1 (1)、(2) 参照	
	40		個人水源（湧水）	○			
	41		公共水源（湧水）	○			
	42		公共水源（湧水）	○			
	43		公共水源（湧水）	○			
	44		個人水源（湧水）	○			
	45		公共水源（湧水）	○			
	46		個人水源（湧水）	○			
	47		個人水源（湧水）	○			
	48		個人水源（湧水）	○			
	49		個人水源（湧水）	○			
	50		個人水源（湧水）	○			
	36		釜沢水源（湧水）		○		図3-5-3-1(6) 参照
	37		上青木水源（湧水）		○		
38	個人水源（井戸）		○				

注1：地点番号 大鹿村39については、水源の装置故障のため、測定不可。

注2：地点番号大鹿37、38については工事前の調査を平成26年度に実施しており、平成26年度の年次報告に結果を記載している。

注3：地点番号については「大鹿村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成26年12月）」と同様としている。

注4：その他、青木川非常口工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る公共用水域（地下水）の水質として、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行った。

表 3-5-3-1(2) 水資源の現地調査地点（豊丘村）

対象	地点番号	市町村名	地点	調査項目		備考
				【井戸・湧水】 水位又は水量、 水温、pH、電気 伝導率、透視度 【地表水】 流量、水温、 pH、電気伝導率	自然由来 の重金属 等	
井戸・湧水	9	豊丘村	個人水源（縦井戸）	—注3	—	図3-5-3-1 (2)、(3) 参照 図3-5-3-1(7) 参照
	19		村宮キャンプ場井戸（縦井戸）	○		
	29		個人水源（縦井戸）	○	—	
	32		観測井	○		
	36		豊丘村小園簡易水道水源（縦井戸）	○	—	
地表水	12		虻川（本流）	○		
	13		虻川（支流）	○		
	14		虻川（支流）	○		
	15		虻川（支流）	○		
	16		虻川（支流）	○		
	17		虻川（支流）	○		
	18		虻川（本流）	○		
	20		虻川（支流）	○		
	21		虻川（支流）	○		
	22		サースケ洞	○		
	23		虻川（支流）	○		
	24		虻川（支流）	○		
	25		虻川（支流）	○		
	26		本村川（支流）	○		
	27		本村川（支流）	○		
	28		場知沢川	○		
	30		本村川（本流）	○		
31	南沢		○			
33	牛草川		○			
34	壬生沢川		○			
35	地藏沢川		○			
37	壬生沢川		○			

注1：地点番号については「豊丘村・喬木村における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年4月）」と同様としている。

注2：地点番号豊丘9、29、36については工事前の調査を平成28年度に実施しており、平成28年度の年次報告に結果を記載している。また、令和2年度は工事中とならなかったため、実施していない。

注3：地点番号豊丘9における水位、水温、pH、電気伝導率、透視度は、事後調査として実施しており、調査結果等は「2-1水資源（山岳トンネル）」に記載している。

表 3-5-3-1(3) 水資源の現地調査地点（飯田市）

対象	地点番号	市町村名	地点	調査項目		備考
				【井戸・湧水】 水位又は水量、 水温、pH、電気 伝導率、透視度 【地表水】 流量、水温、 pH、電気伝導率	自然由来 の重金属 等	
井戸・湧水	16	飯田市	個人水源	○		図3-5-3-1 (3)、(4) 参照
	18		観測井	○		
	19		観測井	○		
	20		個人水源	○		
	21		観測井	○		
	23		郊戸八幡宮（湧水）	○		
	24		観測井	○		
	25		個人水源（湧水）	○		
	27		観測井	○		
	29		個人水源（湧水）	○		
	31		個人水源	○		
	35		草見の滝（湧水）	○		
	37		観測井	○		
	39		猿庫の泉（湧水）	○		
地表水	17	野底川上流	○			
	22	松洞川上流	○			
	26	王竜寺川上流	○			
	28	山の田沢川	○			
	30	滝の沢川上流	○			
	32	阿弥陀沢川上流	○			
	33	西の原沢川上流	○			
	34	熊ヶ洞沢川	○			
	36	円悟沢川中流	○			
	38	円悟沢川上流	○			
	40	闇沢川下流	○			
	41	松川上流	○			
	42	闇沢川上流	○			
43	押の沢川下流	○				
44	押の沢川上流	○				
45	黒川中流	○				
46	黒川上流	○				

注：地点番号については「飯田市（野底川以西）における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成29年10月）」と同様としている。

表 3-5-3-1(4) 水資源の現地調査地点（南木曾町）

対象	地点番号	市町村名	地点	調査項目		備考
				【井戸・湧水】 水位又は水量、水温、 pH、電気伝導率、透視度	自然由来 の重金属 等	
井戸・湧水	20	南木曾町	個人水源（湧水）	○		図3-5-3-1 (5)参照
	22		個人水源（湧水）	○		
	32		蘭温泉	○	—	
	34		南木曾温泉	○	—	
	55		観測井戸	○		
	56		個人水源（湧水）	○		
地表水	12		桂川	○		
	13		桂川（左岸）支流	○		
	14		梨の木沢	○		
	15		梨右ヶ門沢	○		
	16		ナシノキ沢	○		
	17		引助沢	○		
	18		水ヶ沢	○		
	19		蘭川（左岸）支流	○		
	21		夏虫沢	○		
	23		貝ヶ沢	○		
	24		南沢川中流	○		
	25		南沢川上流	○		
	26		蘭川中流	○		
	27		小谷場沢水路	○		
	28		蘭川中流	○		
	29		蘭川（左岸）支流	○		
	30		蘭川（左岸）支流	○		
	31		大沢川	○		
	33		蘭川（左岸）支流	○		
	35		大迷沢（右岸）支流	○		
	36		大迷沢下流	○		
	37		小迷沢	○		
	38		蘭川下流	○		
	39		男埴川（右岸）支流	○		
	40		ドンガメ沢上流	○		
	41		男埴川（右岸）支流	○		
	42		薬師沢	○		
	43		男埴川上流	○		

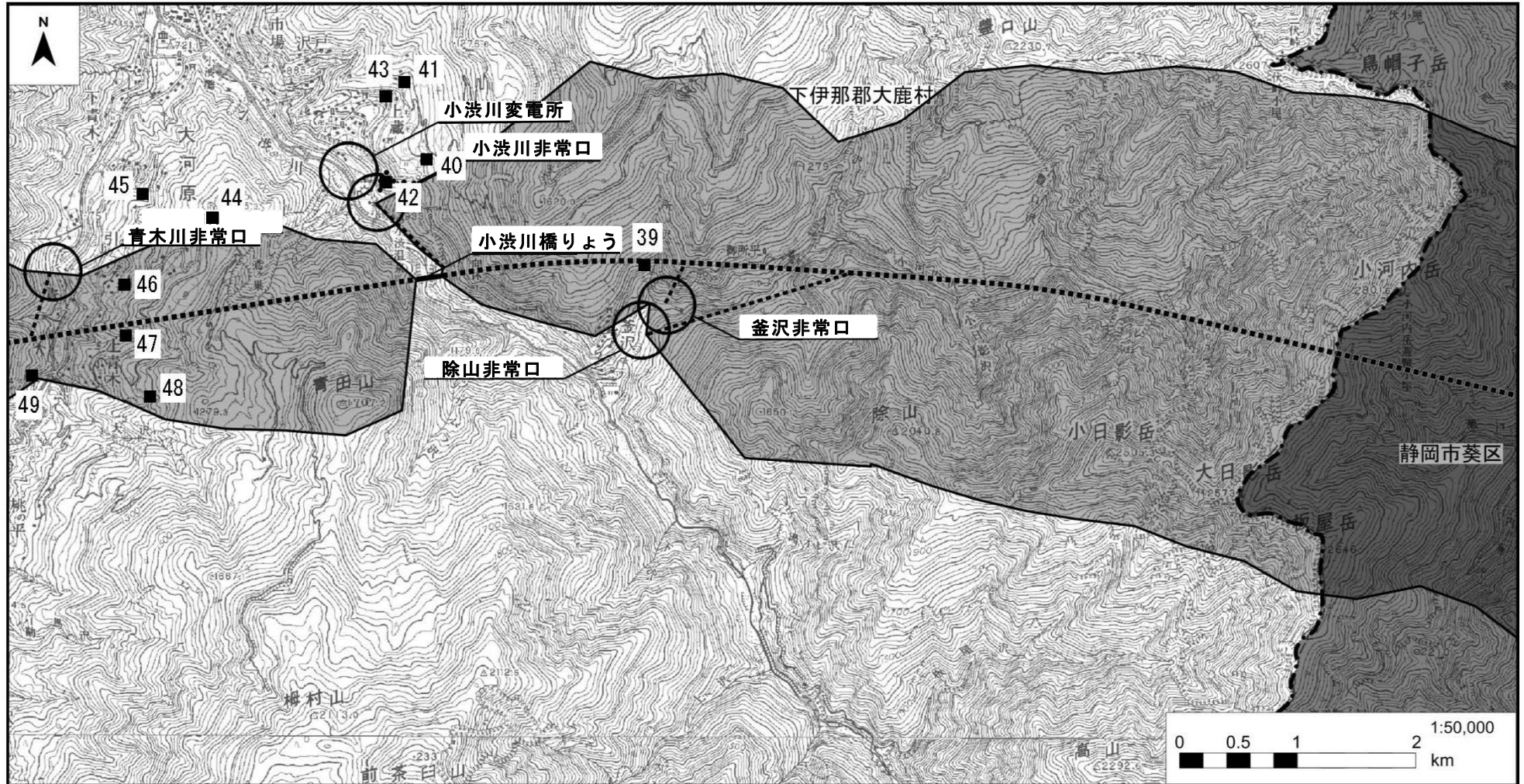
注1：地点番号については「南木曾町における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年10月）」、と同様としている。

注2：地点番号南木曾町32、34の自然由来の重金属等については、令和3年度に調査を実施する予定である。

表 3-5-3-1(5) 水資源の現地調査地点（南木曾町）

対象	地点番号	市町村名	地点	調査項目		備考
				【地表水】 流量、水温、 pH、電気伝導率	自然由来 の重金属 等	
地表水	44	南木曾町	井戸沢下流	○		図3-5-3-1 (5)参照
	45		男埴川（右岸）支流	○		
	46		男埴川（右岸）支流	○		
	47		男埴川（右岸）支流	○		
	48		男滝上流	○		
	49		男埴川（右岸）支流	○		
	50		男埴川（右岸）支流	○		
	51		男埴川中流	○		
	52		男埴川（左岸）支流	○		
	53		女滝上流	○		
	54		男埴川（左岸）支流	○		
	57		アニコ沢下流	○		
	58		三十沢上流	○		
	59		馬の背沢支流	○		
	60		アニコ沢上流	○		
	61		権現沢上流	○		
62	権現沢上流	○				
63	井戸沢上流	○				

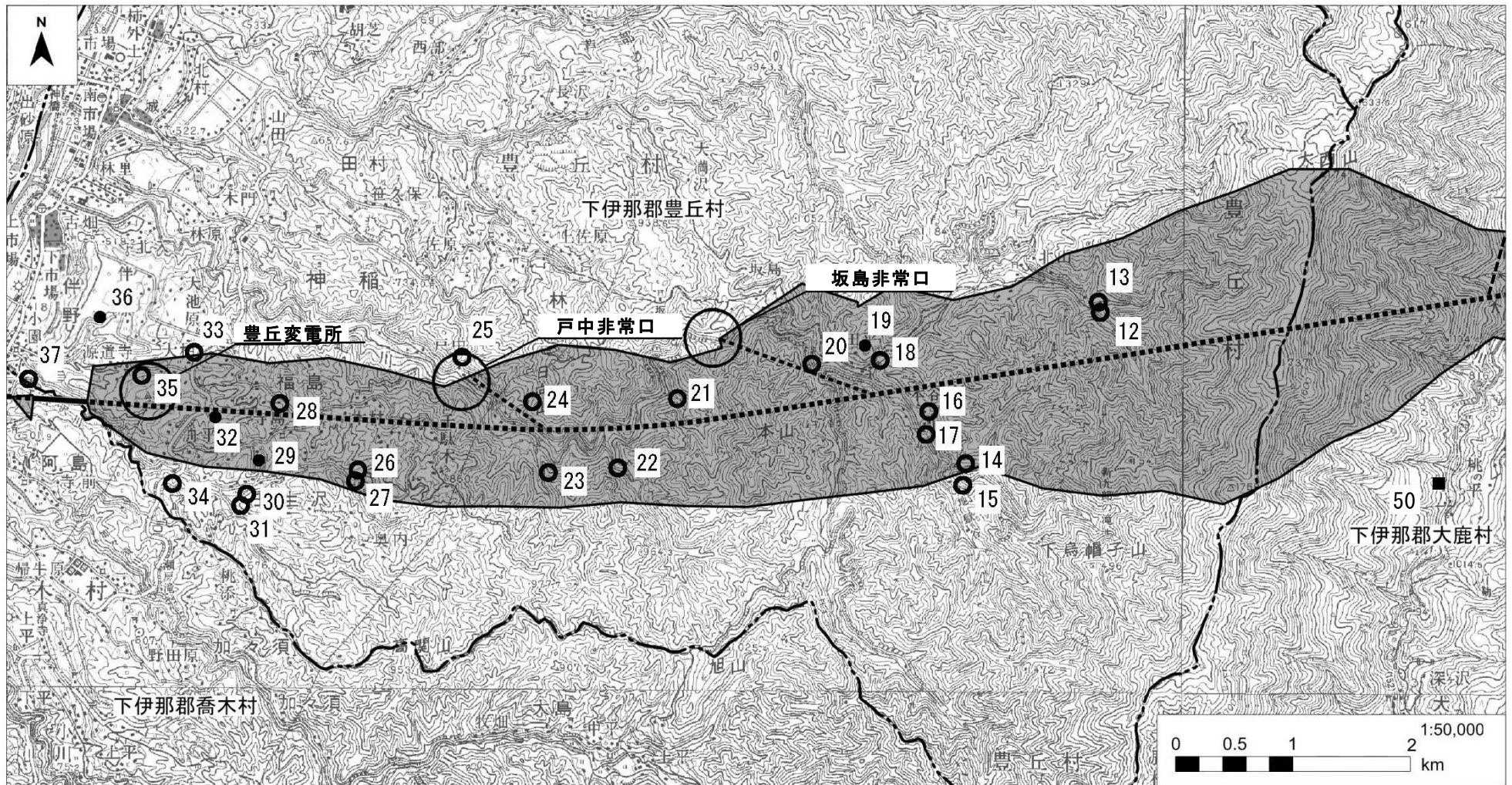
注：地点番号については「南木曾町における水資源に係る具体的な調査の計画について（平成28年10月）」と同様としている。



凡例

- 計画路線(トンネル区間) ■ 予測検討範囲 凡例
- 計画路線(地上区間) - - - - 非常口トンネル(斜坑) ■ 湧水の水量(湧水等)
- 工事用道路
- - - - 県境
- - - - 市町村境

図 3-5-3-1(1) 現地調査地点図(水資源)【大鹿村】



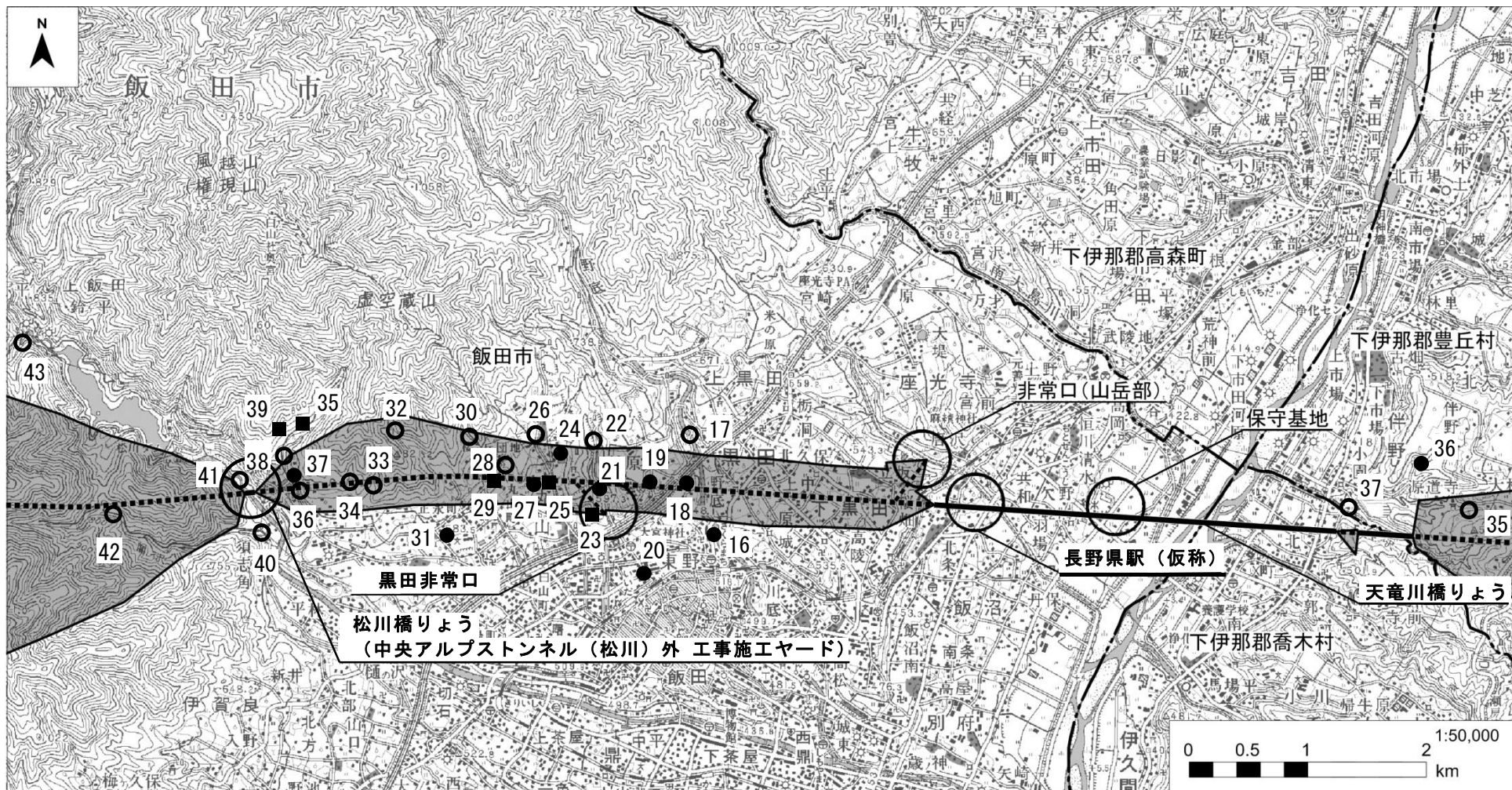
凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 予測検討範囲
- 計画路線(地上区間)
- 非常口トンネル(斜坑)
- 市町村境

凡例

- 地下水の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

図 3-5-3-1(2) 現地調査地点図(水資源)【豊丘村、大鹿村】



黒田非常口
 松川橋りょう
 (中央アルプストンネル(松川)外 工事施工ヤード)

長野県駅(仮称)

天竜川橋りょう

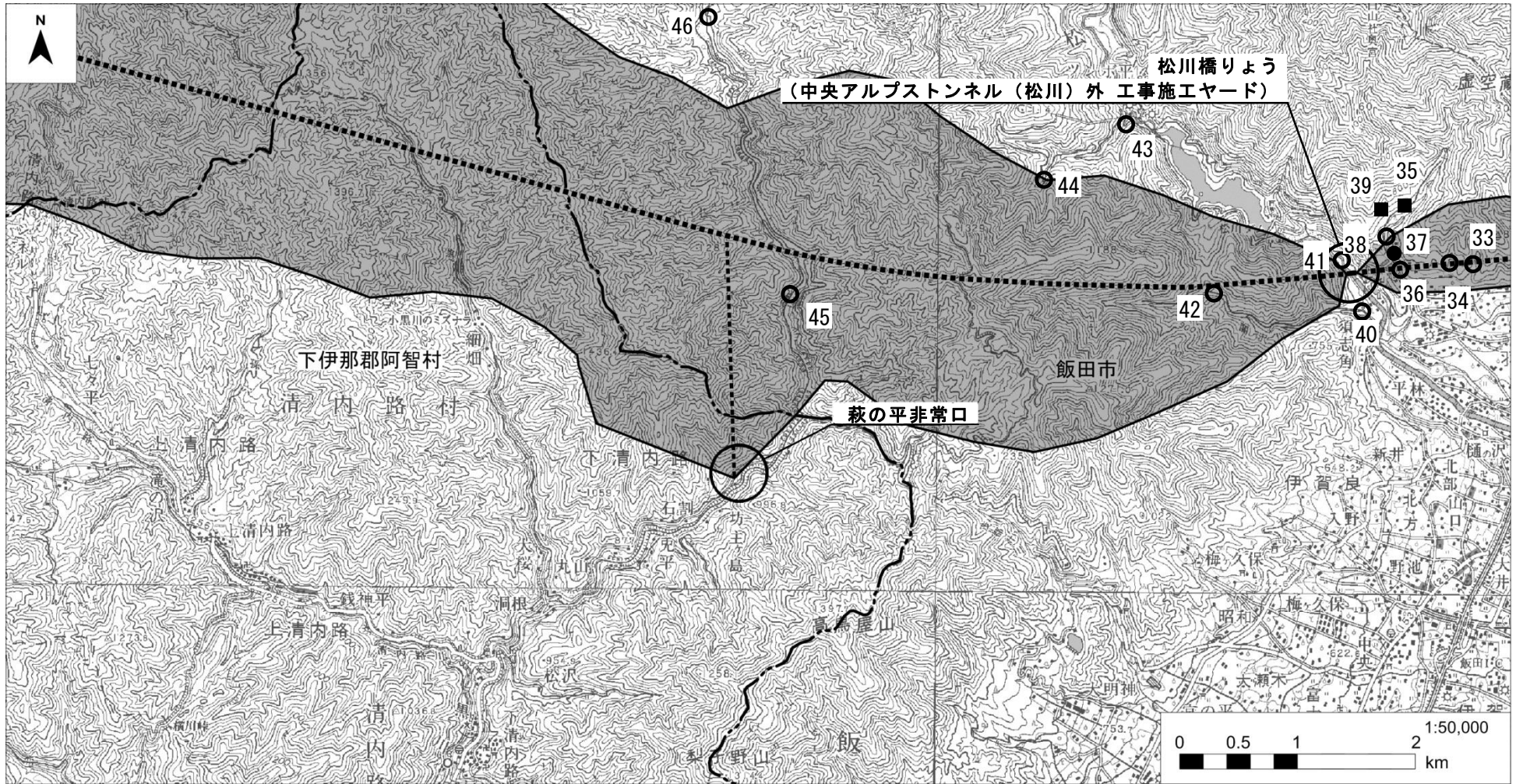
凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 計画路線(地上区間)
- 市町村境
- 予測検討範囲
- 非常口トンネル(斜坑)

凡例

- 地下水の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

図 3-5-3-1(3) 現地調査地点図(水資源)【飯田市、豊丘村】



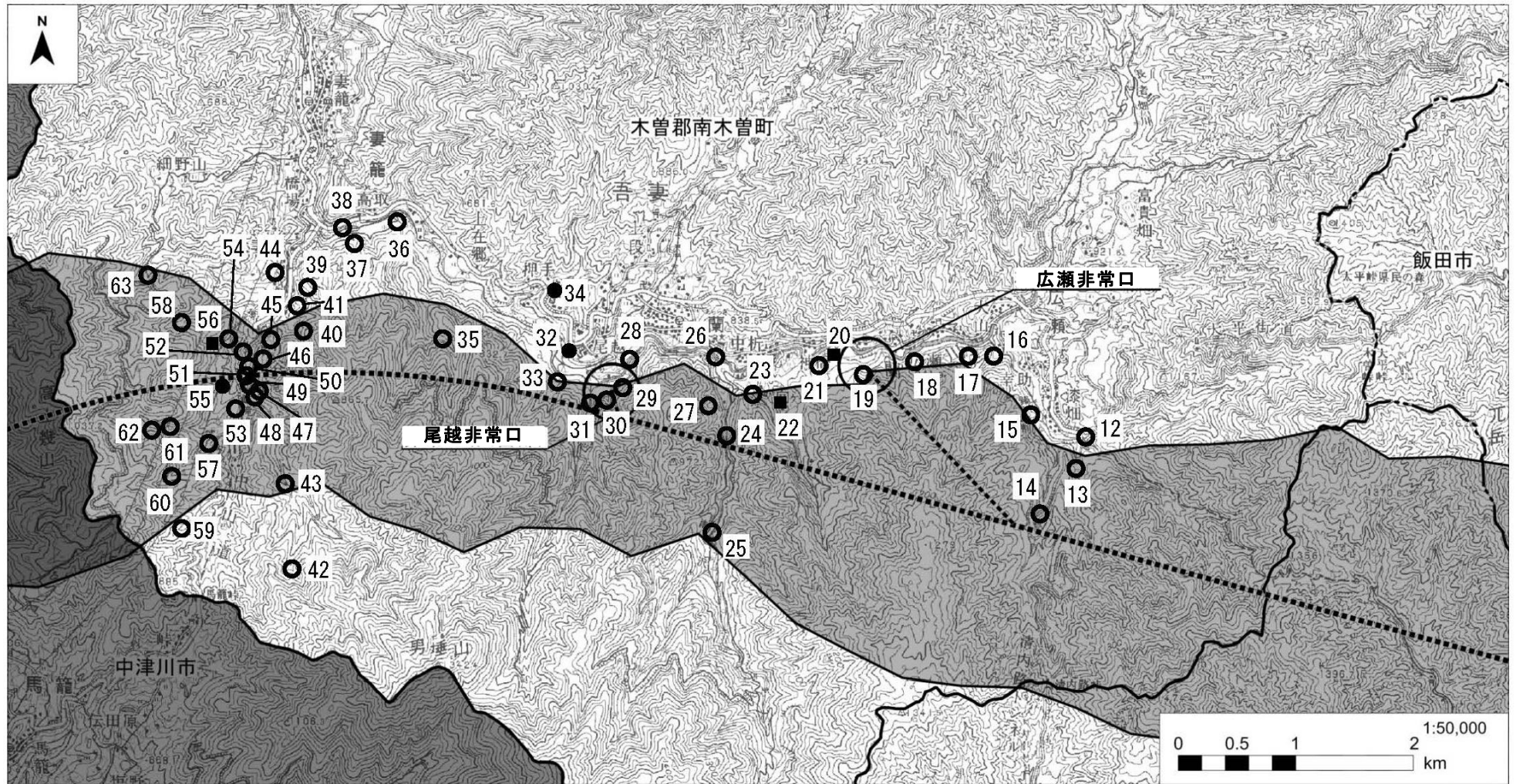
凡例

- 計画路線 (トンネル区間) ■■■■ 予測検討範囲
- 計画路線 (地上区間) - - - - 非常口トンネル (斜坑)
- - - - 市町村境

凡例

- 地下水の水位 (縦井戸)
- 湧水の水量 (湧水等)
- 地表水の流量

図 3-5-3-1(4) 現地調査地点図 (水資源)【飯田市】



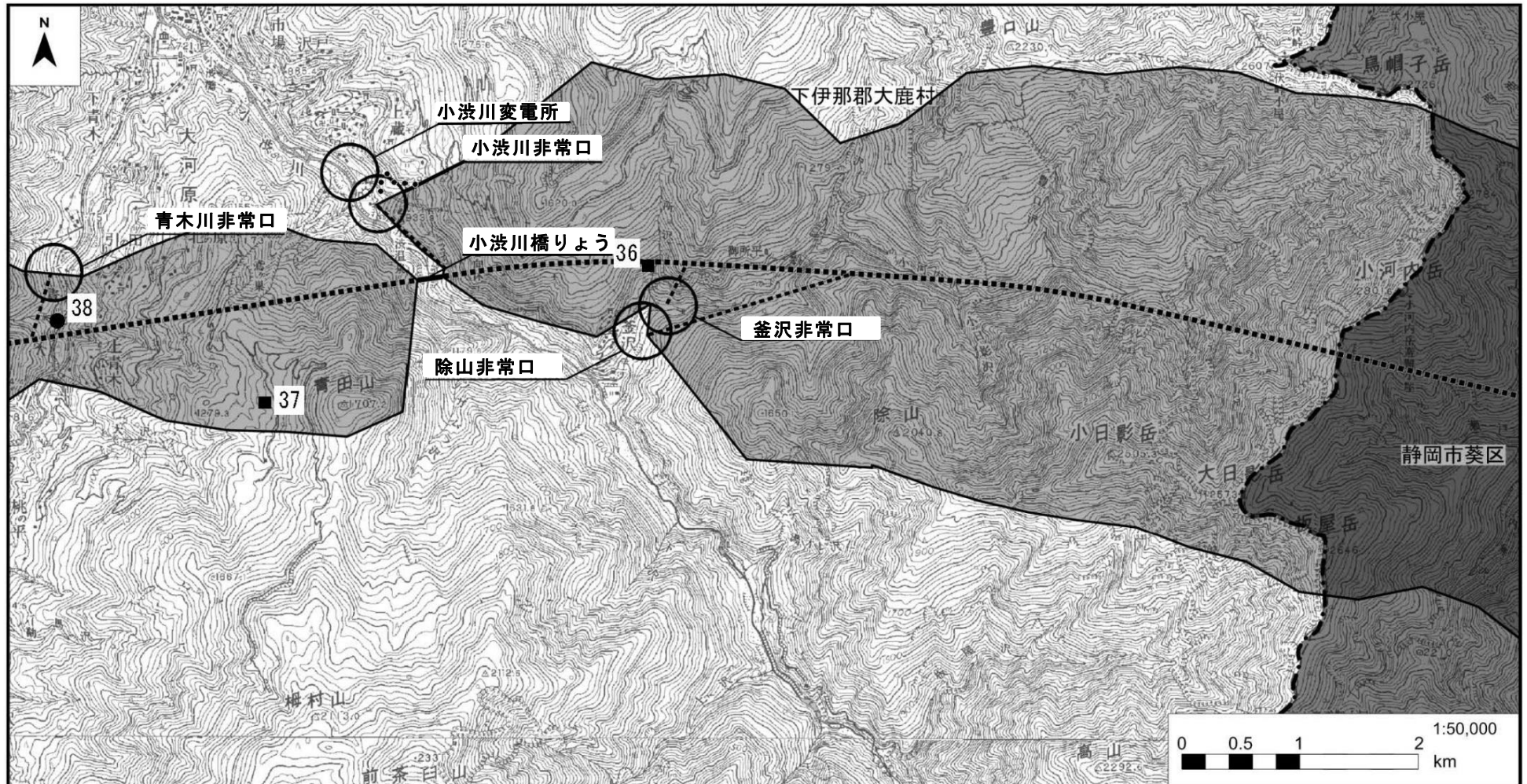
凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 計画路線(地上区間)
- 県境
- - - 市町村境
- 予測検討範囲
- 非常口トンネル(斜坑)

凡例

- 地下水の水位(縦井戸)
- 湧水の水量(湧水等)
- 地表水の流量

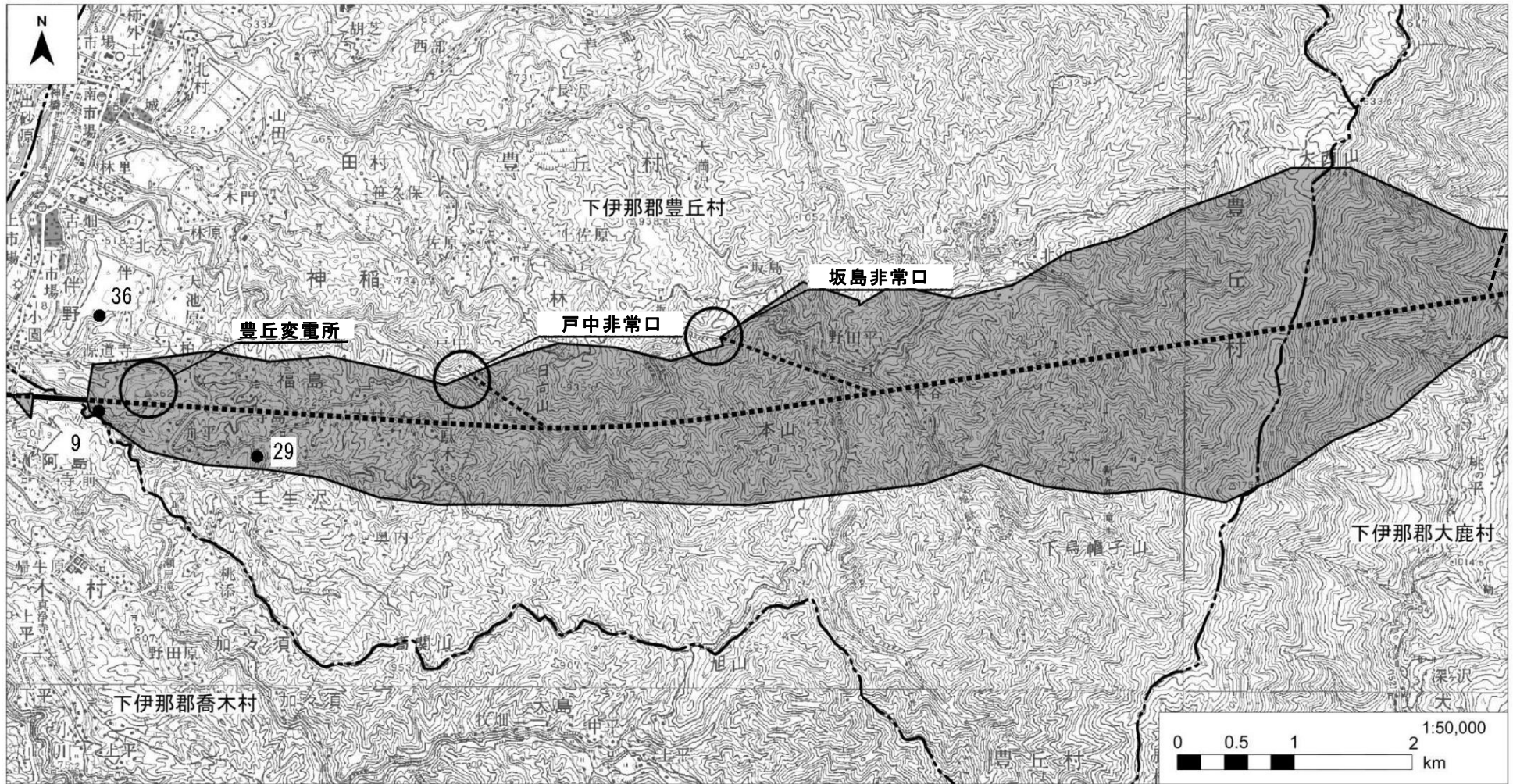
図 3-5-3-1(5) 現地調査地点図(水資源)【南木曾町】



凡例

- | | | |
|--------------------|-------------------|------|
| ■ ■ ■ 計画路線(トンネル区間) | ■ 予測検討範囲 | 凡例 |
| — 計画路線(地上区間) | ----- 非常口トンネル(斜坑) | ● 井戸 |
| 工事用道路 | ■ 湧水等 | |
| -.-.- 県境 | | |
| ----- 市町村境 | | |

図 3-5-3-1(6) 現地調査地点図 (自然由来の重金属等及び水素イオン濃度)【大鹿村】



凡例

- 計画路線(トンネル区間)
- 予測検討範囲
- 計画路線(地上区間)
- 市町村境

凡例

- 縦井戸
- 非常口トンネル(斜坑)

図 3-5-3-1(7) 現地調査地点図 (自然由来の重金属等及び水素イオン濃度)【豊丘村】

3-5-4 調査期間

現地調査の期間は、表 3-5-4-1 に示すとおりである。

表 3-5-4-1 水資源の現地調査期間

調査項目		調査期間	頻度
井戸・湧水	【大鹿村】 水量、水温、pH、 電気伝導率	(豊水期) 令和 2年 8月 17日、24～25日 (低水期) 令和 3年 1月 14日、20日	年 2回
	【豊丘村・喬木村・ 飯田市・南木曾町】 水位及び水量、 水温、pH、 電気伝導率、 透視度(温泉は除く)	令和 2年 4月 10日、14～17日、20～22日、27日 令和 2年 5月 8日、11～12日、14～15日、18～20日、25日 令和 2年 6月 4日、8～9日、15～16日、19日、22日、24～25日 令和 2年 7月 6日、14～15日、17日、20～22日 令和 2年 8月 4～5日、7日、19～20日、24～28日 令和 2年 9月 5日、9～10日、23～25日 令和 2年 10月 1日、7～8日、16日、19～22日、26日 令和 2年 11月 9日、11日、14日、17日、20～21日、24～26日 令和 2年 12月 2～3日、5日、14～18日、21～22日 令和 3年 1月 7日、9日、13日、15日、20日、22日、25～27日 令和 3年 2月 3～5日、9日、12日、15日、17日、19日 令和 3年 3月 9日、15～19日	月 1回
	自然由来の重金属等、 pH	令和 3年 1月 14日 令和 3年 2月 18日	年 1回
地表水	【豊丘村・飯田市 ・南木曾町】 流量、水温、pH、 電気伝導率	令和 2年 4月 10日、13～17日、20～23日、27～28日 令和 2年 5月 8日、11～12日、14～15日、18～21日 令和 2年 6月 2～4日、6日、8～10日、18～25日 令和 2年 7月 15～17日、19～22日、24日、26～31日 令和 2年 8月 3～7日、11～13日、19～20日、23～26日 令和 2年 9月 3～6日、9～11日、14～15日、22～25日、29日 令和 2年 10月 1～2日、5～7日、16日、20～22日、24日、26日 令和 2年 11月 9～14日、16日、19日、21日、23～26日 令和 2年 12月 1～6日、16～18日、20～22日 令和 3年 1月 6～9日、11～15日、20～22日、24～26日 令和 3年 2月 2～5日、8～10日、12日、16～19日、21日 令和 3年 3月 9日、15～20日、24日	月 1回

注：その他、青木川非常口工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る公共用水域（地下水）の水質として、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行った。頻度は、環境保全計画書では工事前1回としたが、季節変動が考えられるため、四半期に1回調査を実施した。

3-5-5 調査結果

調査結果は、表 3-5-5-1～表 3-5-5-2 及び図 3-5-5-1 に示すとおりである。なお、図 3-5-5-1 で示す平成 28 年度の結果は「平成 28 年度における環境調査の結果等について（平成 29 年 6 月）」に、平成 29 年度の結果は「平成 29 年度における環境調査の結果等について（平成 30 年 6 月）」に、平成 30 年度の結果は「平成 30 年度における環境調査の結果等について（令和元年 6 月）」に、令和元年度の結果は「令和元年度における環境調査の結果等について（令和 2 年 8 月）」に記載している。また、井戸・湧水における自然由来の重金属等において、いずれも環境基準等に適合していた。

表 3-5-5-1(1) 湧水の水量の調査結果（大鹿村）

地点 番号	調査地点	調査項目	令和 2 年度	
			豊水期	低水期
40	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	9.3	7.9
		pH	7.8	8.1
		電気伝導率 (mS/m)	8.4	9.1
		水量 (L/min)	23.4	0.7
41	公共水源 (湧水)	水温 (°C)	12.8	5.4
		pH	8.1	8.1
		電気伝導率 (mS/m)	9.8	10.4
		水量 (L/min)	6747.0	778.8
42	公共水源 (湧水)	水温 (°C)	10.5	10.0
		pH	7.4	7.3
		電気伝導率 (mS/m)	7.8	9.0
		水量 (L/min)	294.0	126.6
43	公共水源 (湧水)	水温 (°C)	10.8	7.9
		pH	7.8	8.3
		電気伝導率 (mS/m)	7.9	9.5
		水量 (L/min)	456.0	15.6
44	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	21.5	9.0
		pH	7.6	8.5
		電気伝導率 (mS/m)	15.8	15.0
		水量 (L/min)	1.1	1.2

注：地点番号39については、水源の装置故障のため、測定不可。

表 3-5-5-1(2) 湧水の水量の調査結果（大鹿村）

地点 番号	調査地点	調査項目	令和2年度	
			豊水期	低水期
45	公共水源 (湧水)	水温 (°C)	21.4	1.2
		pH	8.2	8.3
		電気伝導率 (mS/m)	26.5	34.7
		水量 (L/min)	7.8	1.6
46	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	19.2	3.8
		pH	8.1	8.7
		電気伝導率 (mS/m)	21.2	15.5
		水量 (L/min)	3.6	13.2
47	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	-	2.2
		pH	-	8.4
		電気伝導率 (mS/m)	-	17.5
		水量 (L/min)	0	36.0
48	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	11.8	9.4
		pH	8.4	9.6
		電気伝導率 (mS/m)	13.6	15.3
		水量 (L/min)	12.5	10.8
49	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	11.2	10.0
		pH	7.5	7.7
		電気伝導率 (mS/m)	8.0	8.4
		水量 (L/min)	30.0	10.1
50	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	17.0	6.5
		pH	6.8	7.6
		電気伝導率 (mS/m)	4.2	4.0
		水量 (L/min)	13.8	0.7

注：地点番号 47、令和2年度豊水期は、水量がないためデータなし。

測定方法：容器法

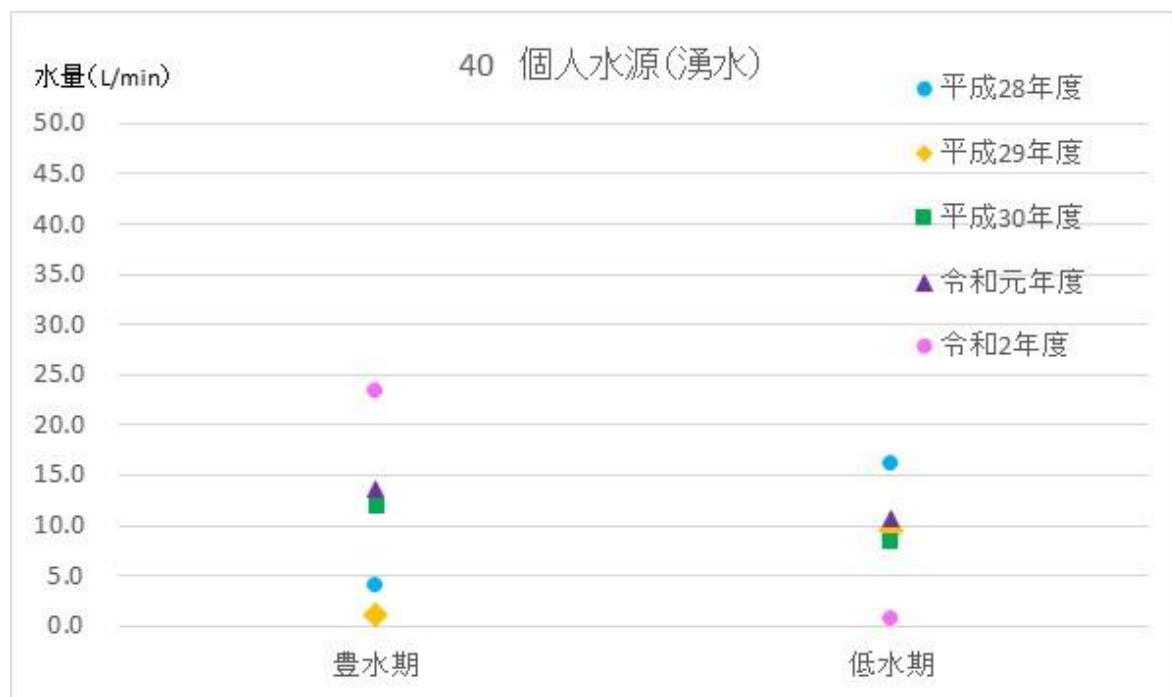


図 3-5-5-1(1) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(40 大鹿村 個人水源(湧水))

測定方法：流速計測法

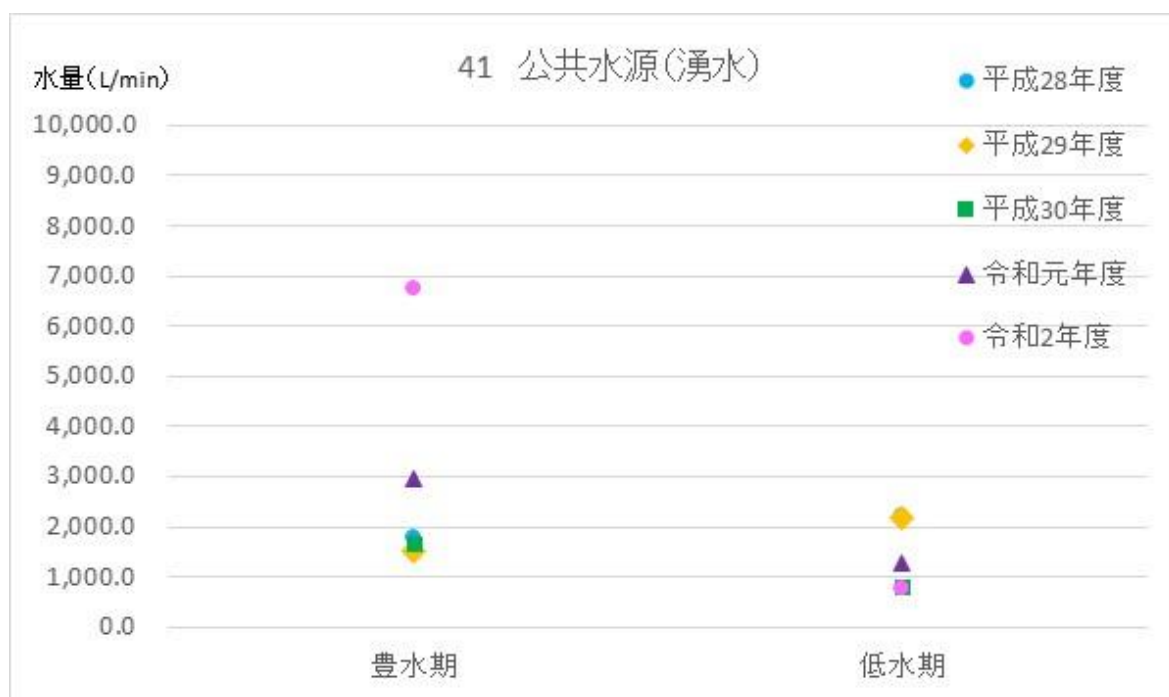


図 3-5-5-1(2) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(41 大鹿村 公共水源(湧水))

測定方法：容器法

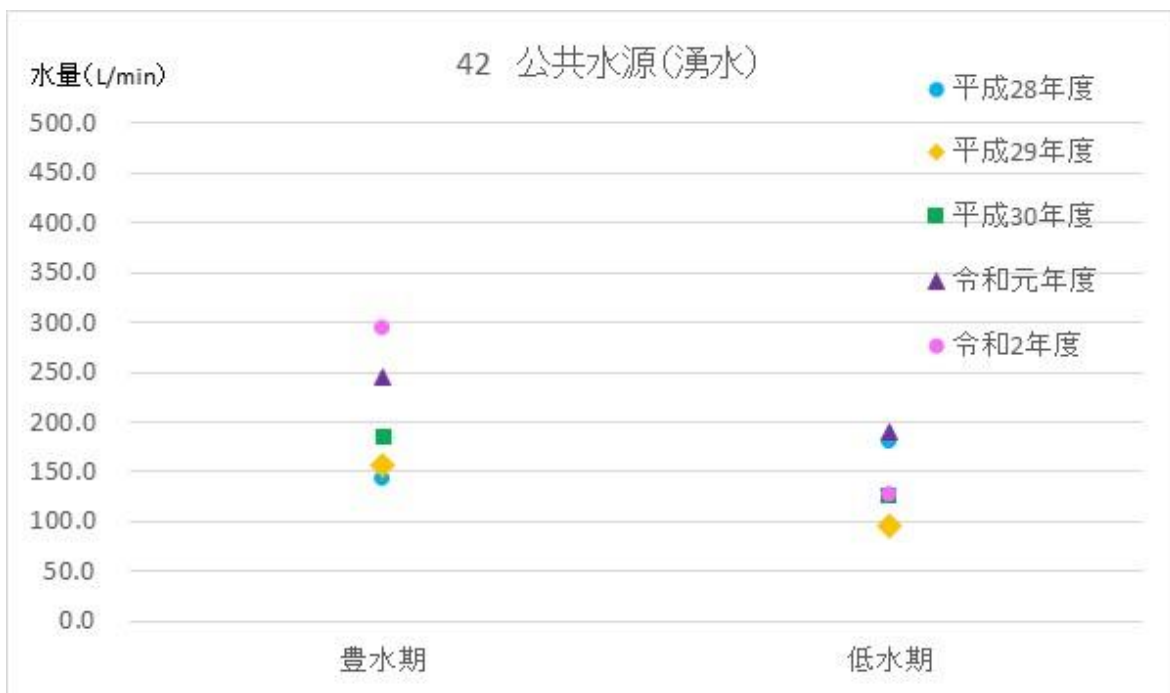


図 3-5-5-1 (3) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(42 大鹿村 公共水源 (湧水))

測定方法：容器法

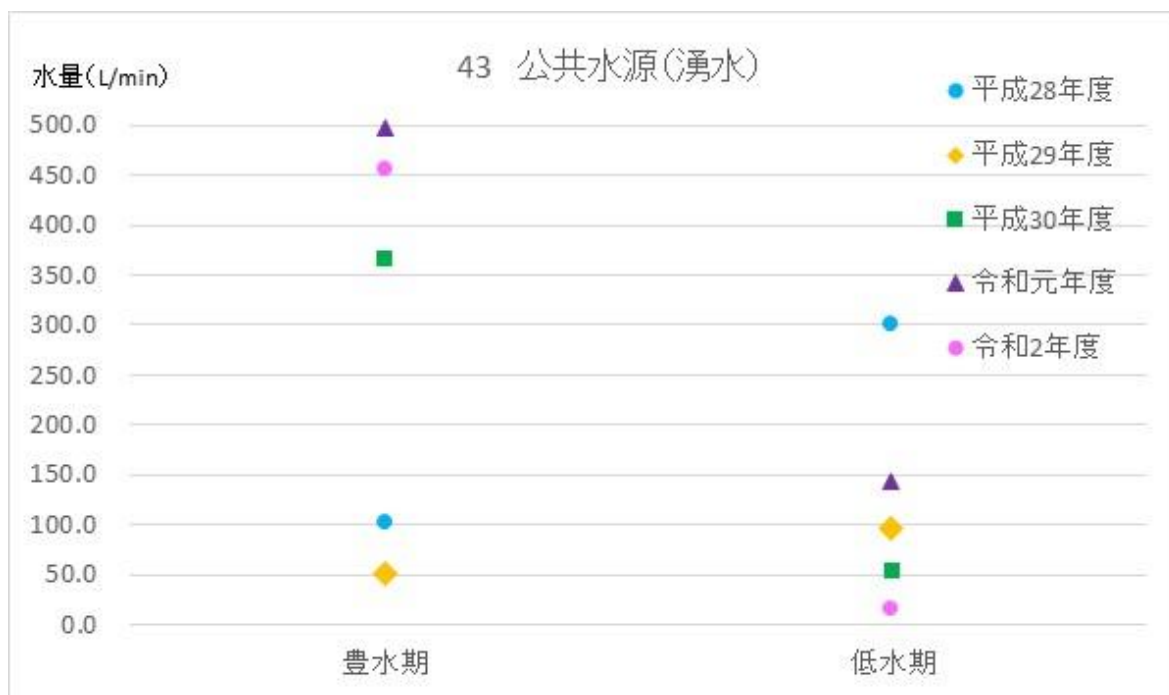


図 3-5-5-1 (4) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(43 大鹿村 公共水源 (湧水))

測定方法：容器法

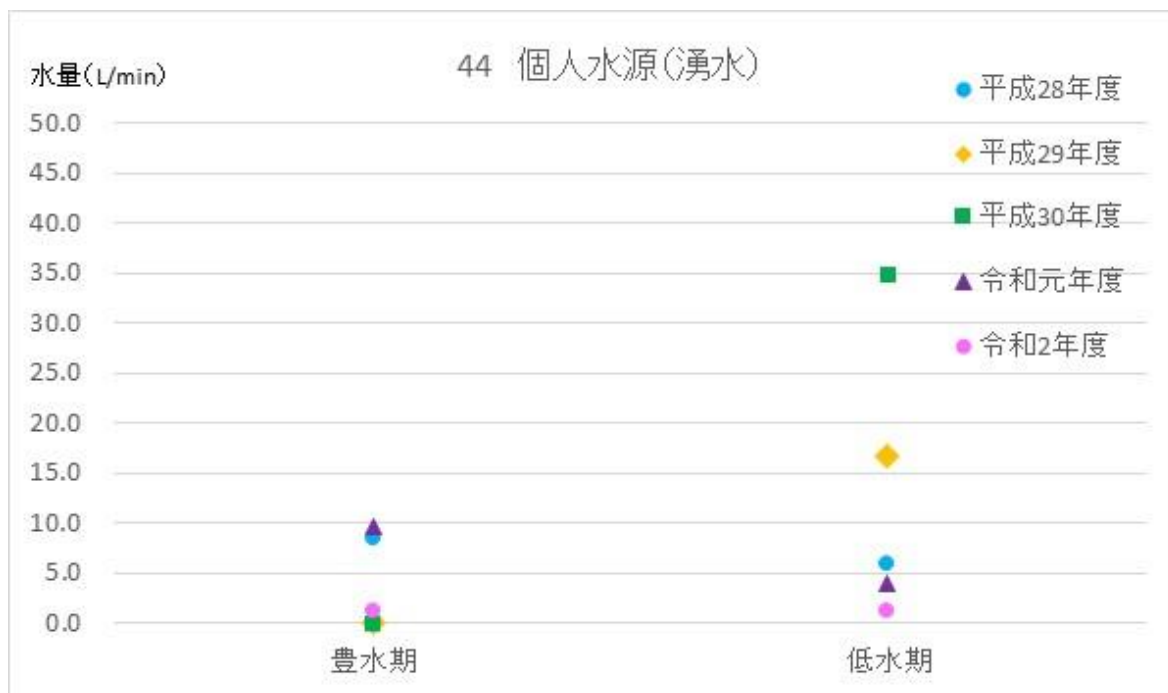


図 3-5-5-1 (5) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(44 大鹿村 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法



図 3-5-5-1 (6) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(45 大鹿村 公共水源 (湧水))

測定方法：容器法

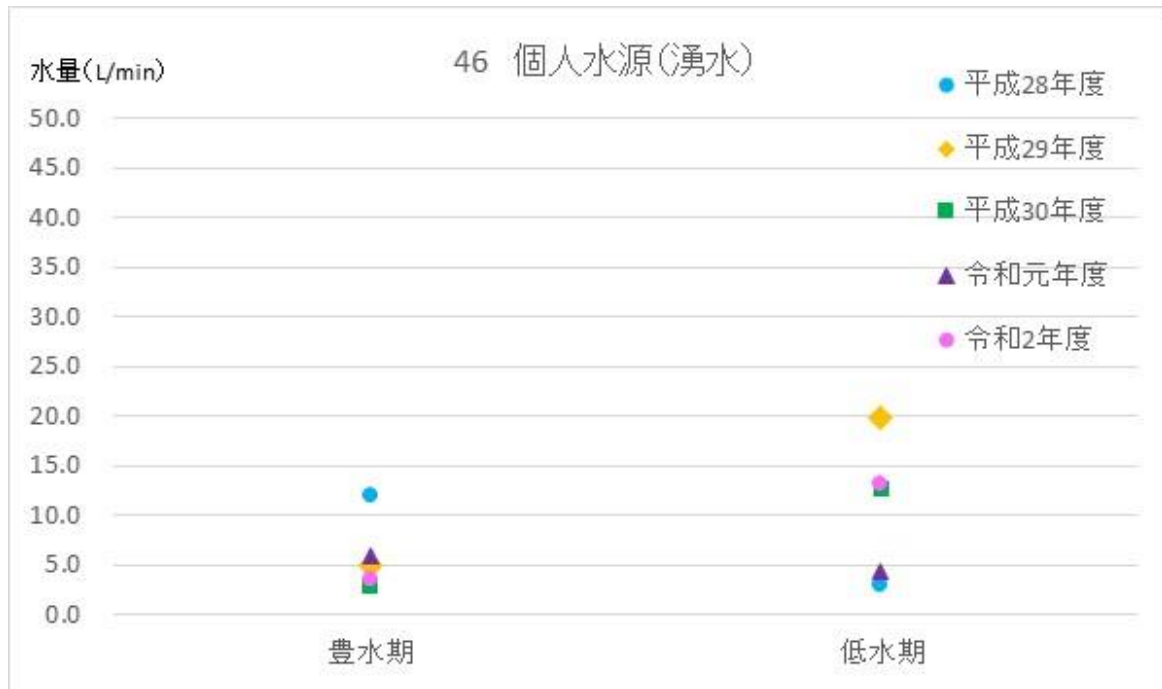
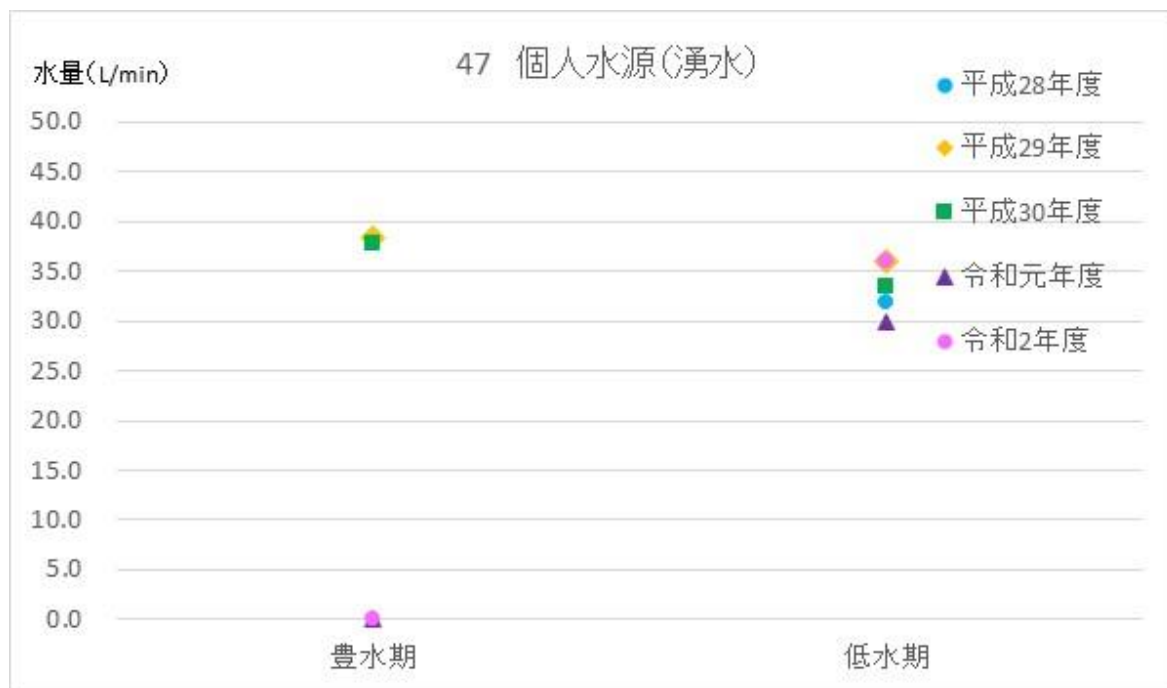


図 3-5-5-1(7) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(46 大鹿村 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法



注1：令和元年度8月期は水量がないためデータなし。別途、9月期に確認したところ、水量は31.2L/minであった。

注2：令和2年度豊水期は、水量がないためデータなし。

図 3-5-5-1(8) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(47 大鹿村 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法

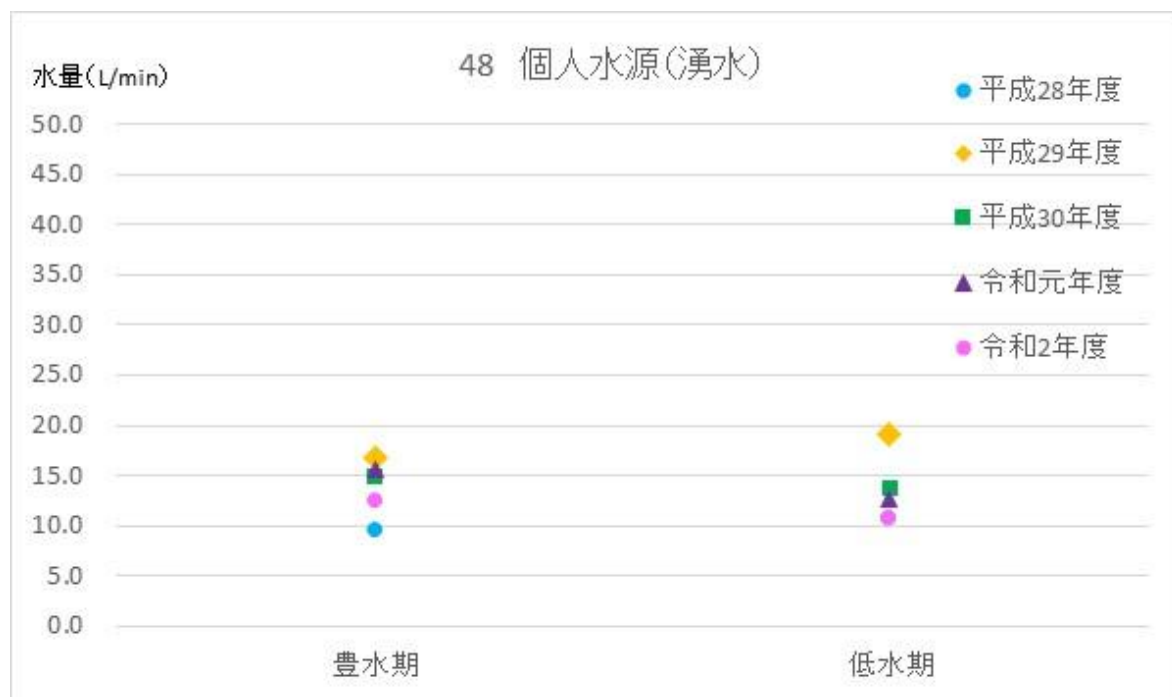


図 3-5-5-1 (9) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(48 大鹿村 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法

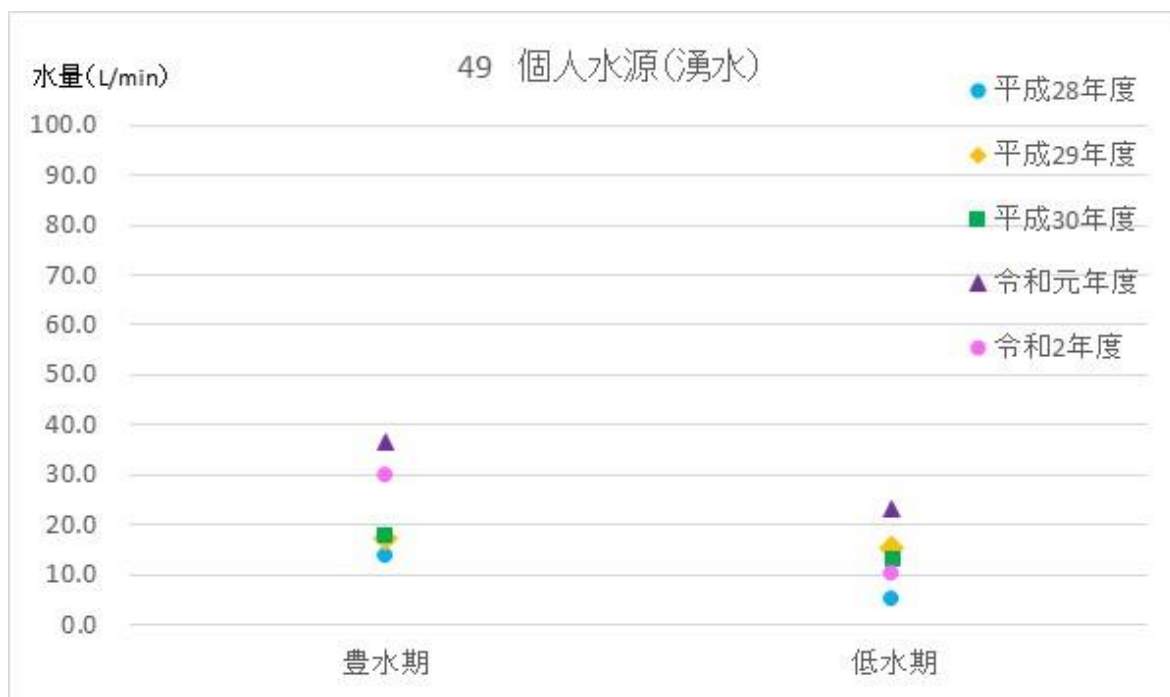


図 3-5-5-1 (10) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(49 大鹿村 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法

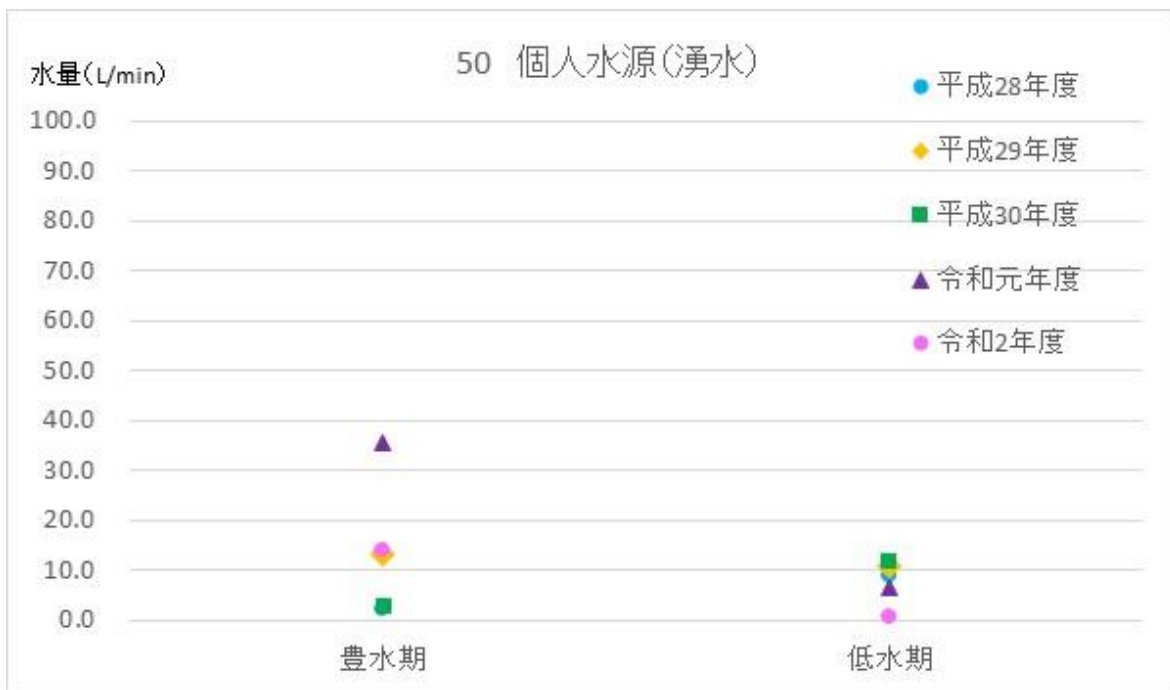


図 3-5-5-1(11) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(50 大鹿村 個人水源(湧水))

表 3-5-5-1 (3) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
19	豊丘村	村営 キャンプ場 井戸 (縦井戸)	水温 (°C)	-	-	-	-	-	-	-	14.9	-	-	-	-	
			pH	-	-	-	-	-	-	9.0	-	-	-	-	-	
			電気伝導率 (mS/m)	-	-	-	-	-	-	9.0	-	-	-	-	-	-
			透視度 (cm)	-	-	-	-	-	-	>100	-	-	-	-	-	-
			水位 (m) 注3	-	-7.6	-7.1	-	-	-	-7.7	-7.8	-7.7	-8.0	-7.8	-8.1	
29	豊丘村	個人水源 (縦井戸)	水温 (°C)	10.8	13.5	16.4	16.5	18.3	18.7	16.2	13.5	9.4	8.5	7.3	8.7	
			pH	6.9	6.6	6.7	6.5	6.9	6.7	6.5	6.6	6.9	6.6	6.9	6.8	
			電気伝導率 (mS/m)	24.0	23.8	24.5	22.4	22.5	24.1	23.6	25.2	26.8	24.4	25.3	23.6	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-1.3	-1.3	-1.3	-1.1	-1.2	-1.2	-1.2	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3

注1: 地点番号は図3-5-3-1(2)を参照。

注2: 「>100」は、透視度が、最大値100cmを超過したことを示す。

注3: 水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

「-」: 4月は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため欠測。

5~6月、11~3月はキャンプ場施設の閉鎖によりポンプが稼働しないため、水位調査のみ実施。

7~8月は、豪雨災害による土砂崩れにより測定不可。

9月は、キャンプ場の所有者事情により、測定不可。

表 3-5-5-1 (4) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
32	豊丘村	観測井	水温 (°C)	15.6	15.4	15.1	15.0	14.6	14.8	14.5	14.2	13.6	13.9	13.1	14.2	
			pH	8.1	7.8	8.0	7.9	7.9	7.6	7.9	7.9	7.9	7.6	7.7	7.6	
			電気伝導率 (mS/m)	14.2	13.9	13.7	13.4	13.6	14.1	13.7	13.9	14.4	14.0	13.6	13.7	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-4.0	-3.7	-3.8	-1.8	-2.5	-3.1	-3.4	-3.7	-3.9	-4.2	-4.2	-4.3	
36		豊丘村 小園簡易 水道水源 (縦井戸)	水温 (°C)	13.3	13.5	13.6	13.5	14.0	14.0	13.5	13.7	13.1	13.1	13.3	13.4	
			pH	6.8	6.8	6.7	6.8	7.0	7.1	6.2	6.7	6.8	6.7	6.9	6.8	
			電気伝導率 (mS/m)	14.7	14.9	14.8	14.7	15.1	15.0	15.0	15.6	14.9	14.7	15.9	15.8	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	
			水位 (m) 注3	-17.2	-17.3	-17.2	-16.8	-16.5	-16.3	-16.0	-15.9	-16.1	-16.4	-16.7	-17.0	

注1: 地点番号は図 3-5-3-1(2)を参照。

注2: 「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3: 水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 3-5-5-1 (5) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	飯田市	個人水源	水温 (°C)	14.0	16.3	16.7	14.5	15.5	15.5	15.7	15.7	13.4	15.2	15.3	15.3
			pH	6.0	6.0	6.0	6.0	6.1	6.0	6.0	5.9	5.9	5.9	5.8	6.0
			電気伝導率 (mS/m)	23.1	23.8	23.2	38.3	18.8	16.3	17.5	13.8	14.2	15.1	14.3	15.8
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-5.5	-5.6	-5.5	-4.0	-5.2	-5.5	-5.2	-5.7	-5.9	-6.1	-6.3	-6.2
18		観測井	水温 (°C)	14.0	16.5	16.0	16.2	16.4	15.6	9.3	13.8	11.7	13.0	12.3	14.6
			pH	6.5	6.5	6.4	6.3	6.4	6.4	6.4	6.5	6.4	6.6	6.4	6.3
			電気伝導率 (mS/m)	18.5	18.9	18.0	18.7	19.4	18.7	18.9	12.6	19.4	17.3	19.0	19.2
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-31.5	-31.3	-31.0	-30.0	-29.0	-28.3	-29.2	-29.5	-29.8	-30.1	-30.3	-30.9

注1：地点番号は図 3-5-3-1(3)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 3-5-5-1 (6) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
19	飯田市	観測井	水温 (°C)	13.9	14.9	14.0	15.8	16.9	14.5	12.5	11.8	11.0	13.7	8.9	12.4
			pH	6.6	6.6	6.7	6.6	6.9	6.8	6.7	6.9	7.2	7.2	7.2	7.1
			電気伝導率 (mS/m)	9.8	10.0	10.2	10.2	10.8	10.9	11.3	10.4	10.0	9.9	10.2	9.9
			透視度 (cm)	68	71	>100	55	50	51	50	40	36	21	26	30
			水位 (m) 注3	-52.7	-52.7	-52.5	-51.7	-50.4	-50.4	-50.3	-50.5	-50.8	-51.4	-51.7	-52.1
20		個人水源	水温 (°C)	12.7	13.8	15.7	16.2	18.9	18.8	17.5	16.6	14.8	11.7	12.3	11.8
			pH	6.3	6.3	6.2	6.4	6.3	6.1	6.2	6.1	6.1	6.4	6.3	6.4
			電気伝導率 (mS/m)	21.1	20.8	21.6	21.8	19.1	21.1	21.2	20.8	20.8	19.3	19.0	19.8
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	17.4	18.0	18.0	18.0	18.0

注1：地点番号は図3-5-3-1(3)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値100cmを超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 3-5-5-1 (7) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
21	飯田市	観測井	水温 (°C)	13.7	15.3	14.7	16.7	16.9	15.2	14.0	15.7	12.4	13.9	10.4	13.0	
			pH	7.5	7.3	7.5	7.5	7.5	7.3	7.3	7.6	7.7	7.6	7.6	7.6	
			電気伝導率 (mS/m)	3.4	3.5	3.6	3.4	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.8	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	3.9	3.7	3.5	2.3	4.8	4.4	3.6	4.3	4.1	4.2	4.1	4.2	
23		郊戸八幡宮 (湧水)	水温 (°C)	8.9	14.5	17.4	17.1	19.8	18.4	14.0	12.2	6.4	4.3	4.3	9.8	
			pH	7.0	6.6	6.5	6.4	6.4	6.3	6.8	7.0	7.1	7.0	7.1	6.8	
			電気伝導率 (mS/m)	4.9	4.9	5.0	4.6	4.3	5.5	4.3	4.3	4.3	4.8	4.7	4.6	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	
			水量 (L/min)	0.1	0.3	0.3	0.8	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	

注1：地点番号は図3-5-3-1(3)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値100cmを超過したことを示す。

表 3-5-5-1 (8) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
24	飯田市	観測井	水温 (°C)	15.6	15.6	17.0	16.1	17.3	17.0	14.1	14.5	12.5	13.0	11.7	17.6
			pH	10.4	10.3	10.1	10.3	10.4	10.3	10.6	10.5	10.7	10.6	10.6	10.4
			電気伝導率 (mS/m)	15.1	14.7	14.6	14.8	14.9	14.8	15.3	15.0	15.5	13.5	14.8	16.1
			透視度 (cm)	50	26	60	68	74	53	>100	37	63	65	80	84
			水位 (m) 注3	-2.1	-2.1	-2.1	-1.6	-1.8	-1.9	-1.8	-1.9	-2.0	-2.2	-2.1	-2.2
25		個人水源 (湧水)	水温 (°C)	15.7	14.9	17.1	16.1	17.2	17.0	14.5	15.4	12.4	13.9	13.6	13.7
			pH	7.1	7.1	6.5	6.1	6.5	6.6	6.5	6.8	7.0	7.2	6.7	6.8
			電気伝導率 (mS/m)	11.4	11.8	11.9	10.9	12.8	12.4	12.3	12.3	12.4	12.0	11.8	11.9
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	10.8	4.8	30.6	113.4	20.4	13.0	10.6	19.2	15.0	15.6	18.2	21.6

注1：地点番号は図3-5-3-1(3)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値100cmを超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 3-5-5-1 (9) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
27	飯田市	観測井	水温 (°C)	13.9	14.8	16.3	15.6	16.8	15.9	13.6	14.4	12.6	13.5	13.4	15.1
			pH	6.1	6.1	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.2	6.1	6.3	6.3	6.3
			電気伝導率 (mS/m)	13.4	13.1	12.9	14.2	13.0	13.0	13.9	14.4	14.3	13.3	14.3	14.1
			透視度 (cm)	12	15	>100	>100	5	20	>100	17	10	>100	16	40
			水位 (m) 注3	-3.5	-3.6	-3.5	-3.4	-3.8	-4.1	-4.2	-6.5	-6.8	-6.9	-6.6	-6.7
29	飯田市	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	15.1	16.6	16.6	16.7	17.0	17.0	15.2	15.3	13.8	15.2	14.6	15.2
			pH	5.7	5.7	5.6	5.2	5.6	5.7	5.6	5.7	5.8	6.0	5.9	6.0
			電気伝導率 (mS/m)	11.0	11.2	9.9	19.8	9.4	6.6	8.6	8.9	8.5	8.7	8.5	9.0
			透視度 (cm)	>100	67	>100	>100	>100	>100	>100	>100	77	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	10.8	9.0	7.8	72.0	9.0	5.0	13.2	5.7	3.3	1.4	2.7	3.0

注1：地点番号は図3-5-3-1(3)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値100cmを超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

注4：令和2年度11月～3月期は水位が低下している。しかし、トンネル工事の開始前の段階である。

表 3-5-5-1 (10) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果（飯田市）

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
31	飯田市	個人水源	水温 (°C)	15.6	16.4	16.5	16.0	16.6	16.3	16.2	16.3	14.4	16.2	15.9	16.2
			pH	5.9	5.9	5.8	5.8	5.9	5.8	5.7	5.8	5.8	5.8	6.0	5.9
			電気伝導率 (mS/m)	11.9	12.4	12.8	14.6	15.9	14.7	14.3	13.8	14.2	12.8	12.3	12.2
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注3	-12.3	-11.8	-11.9	-6.9	-10.4	-11.6	-11.1	-12.2	-12.7	-14.2	-14.0	-15.1
35	飯田市	草見の滝 (湧水)	水温 (°C)	10.4	12.7	15.3	15.9	17.3	16.7	11.9	11.4	7.4	7.7	6.3	10.0
			pH	7.4	7.5	7.2	7.2	7.4	7.4	7.3	7.2	7.2	7.3	7.5	7.3
			電気伝導率 (mS/m)	4.1	3.9	4.0	2.9	2.8	3.7	4.6	4.4	4.0	4.2	3.9	3.9
			透視度 (cm)	>100	>100	88	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	14.4	18.6	19.8	78.0	36.0	15.0	19.8	10.8	12.0	11.4	12.0	9.6

注1：地点番号は図 3-5-3-1(3) (4)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 3-5-5-1 (11) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果（飯田市）

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
37	飯田市	観測井	水温 (°C)	12.2	12.9	13.3	16.0	15.9	15.0	13.3	13.1	10.5	10.6	10.0	11.8
			pH	8.8	8.9	8.9	8.7	8.6	8.7	8.8	8.7	8.4	8.3	8.7	8.5
			電気伝導率 (mS/m)	8.3	8.0	7.9	8.0	8.0	7.9	7.8	7.9	8.0	8.3	8.0	8.2
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	39	53	53	>100	43
			水位 (m) 注3	-21.1	-21.1	-21.0	-19.6	-20.9	-21.1	-21.0	-21.2	-21.3	-21.3	-21.5	-21.5
39	飯田市	猿庫の泉 (湧水)	水温 (°C)	11.9	11.9	12.3	12.8	12.5	12.5	11.7	11.8	10.7	11.2	9.4	11.8
			pH	7.0	6.8	6.8	6.5	6.7	6.7	6.9	6.9	7.0	7.0	7.1	7.1
			電気伝導率 (mS/m)	5.3	5.2	6.0	4.3	4.3	4.7	5.4	5.0	4.9	5.3	5.4	5.5
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	11.8	9.1	12.7	127.8	59.4	28.8	22.4	13.8	7.2	3.8	2.3	1.8

注1：地点番号は図 3-5-3-1(3) (4)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

表 3-5-5-1 (12) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
20	南木曾町	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	11.3	12.0	11.7	11.7	12.1	12.3	11.8	10.7	9.2	6.5	9.2	10.0	
			pH	6.9	7.0	7.2	6.4	8.2	7.2	7.1	7.4	6.8	7.6	7.6	7.9	
			電気伝導率 (mS/m)	3.4	3.6	3.5	3.2	3.2	3.7	3.7	3.7	3.9	4.0	3.2	4.0	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	11.5	7.2	6.6	144.0	46.8	9.6	4.5	6.6	5.5	1.5	7.8	3.3	
22	南木曾町	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	11.6	12.4	12.4	13.9	14.0	14.6	13.4	12.1	10.9	9.1	8.0	10.1	
			pH	6.1	6.1	6.0	6.1	6.0	6.1	6.4	6.0	5.1	6.4	6.2	6.4	
			電気伝導率 (mS/m)	2.3	2.5	2.4	2.7	2.5	2.8	3.0	2.5	2.5	4.0	2.5	2.2	
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100	>100
			水量 (L/min)	19.0	17.4	18.0	83.4	59.1	20.1	17.2	17.3	13.6	9.4	17.9	16.4	

注1：地点番号は図 3-5-3-1(5)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値 100cm を超過したことを示す。

表 3-5-5-1 (13) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
32	南木曾町	蘭温泉	水温 (°C)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			pH	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			電気伝導率 (mS/m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			透視度 (cm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			水位 (m) 注3	-49.7	-55.8	-57.5	-49.2	-47.4	-47.1	-54.2	-46.8	-45.3	-46.1	-45.6	-47.8	
34	南木曾町	南木曾温泉	水温 (°C)	35.1	35.2	35.7	32.9	36.2	34.7	34.2	34.6	33.1	32.7	34.1	34.3	
			pH	9.5	9.3	9.6	9.2	9.2	9.3	9.3	9.3	9.4	9.4	9.4	9.4	
			電気伝導率 (mS/m)	82.6	85.4	85.3	94.3	103.3	83.6	82.7	83.1	85.6	88.9	82.2	83.2	
			透視度 (cm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			水位 (m)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注1：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

注2：温泉水は透視度は対象外。

注3：水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

注4：地点番号34の水位は、平成30年度以降、水位計撤去のため測定不可。ポンプにより取水が確認できた場合を○で表記している。

「-」：地点番号32は井戸が利用停止となり、採水手段が無くなったため測定不可。

表 3-5-5-1 (14) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
55	南木曾町	観測井戸	水温 (°C)	11.6	15.6	12.8	17.6	23.0	21.6	15.1	12.3	10.0	5.3	8.1	12.1
			pH	8.1	7.8	8.1	8.0	7.9	8.0	7.8	7.9	7.9	8.1	8.0	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	42.4	42.7	41.3	42.3	42.2	42.1	42.9	43.5	43.5	43.2	43.6	42.2
			透視度 (cm)	>100	>100	3	5	24	23	41	50	62	87	16	4
			水位 (m) 注3	1.4	1.3	0.8	1.0	1.1	1.1	0.9	0.7	0.6	-0.3	0.3	0.3
56	南木曾町	個人水源 (湧水)	水温 (°C)	10.3	13.1	13.4	13.8	15.9	15.9	14.8	10.0	9.5	0.2	6.5	8.8
			pH	6.9	7.4	7.4	7.3	7.7	7.6	7.6	7.9	7.4	7.2	7.4	7.0
			電気伝導率 (mS/m)	5.1	5.1	3.8	4.5	4.4	5.3	5.2	6.1	5.8	5.4	5.2	5.2
			透視度 (cm)	>100	>100	>100	25	3	70	74	>100	>100	>100	>100	>100
			水位 (m) 注4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-0.5

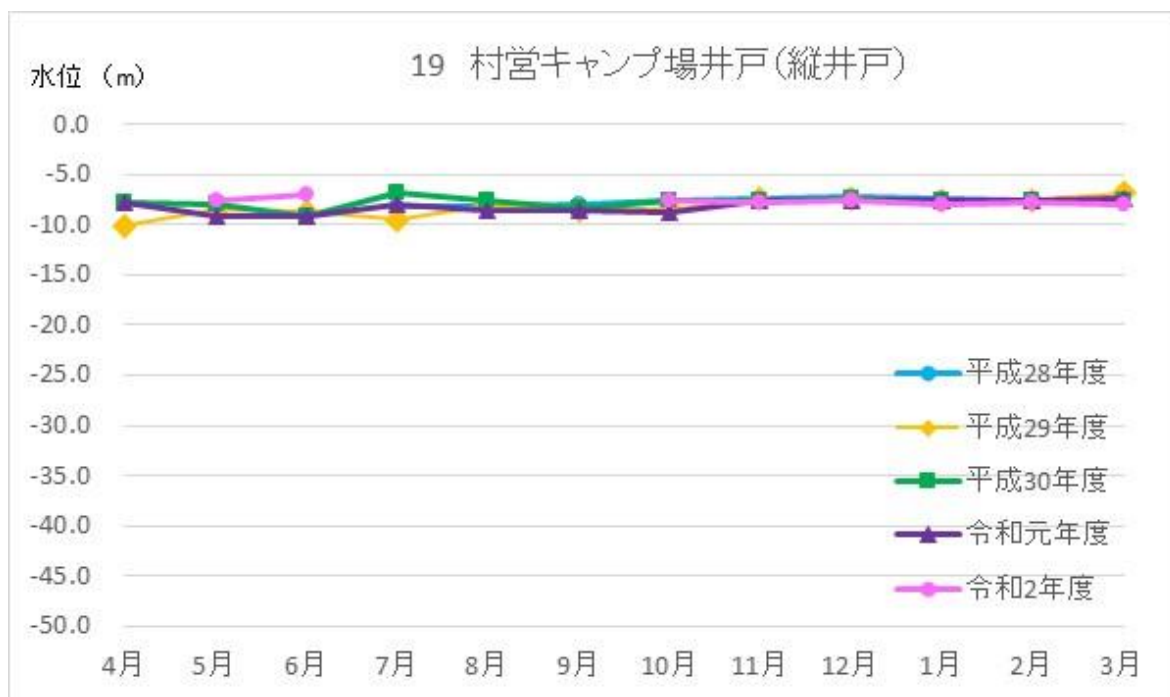
注1：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

注2：「>100」は、透視度が、最大値100cmを超過したことを示す。

注3：地点番号55の水位はGLからの高さ。(地下水位はGLより高い)

注4：地点番号56の水位は孔口(GL)からの深さを示す。

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。



注1：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。
 注2：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。
 注3：令和2年度9月期は所有者事情により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(12) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
 (19 豊丘村 村営キャンプ場井戸 (縦井戸))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

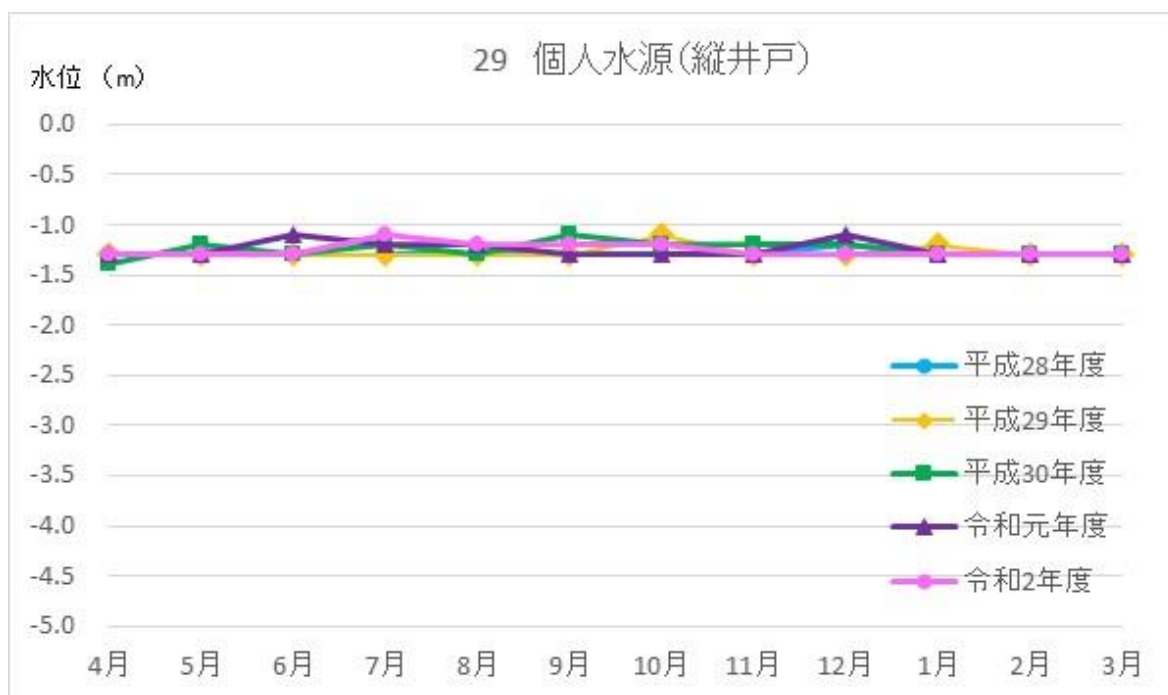


図 3-5-5-1(13) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
 (29 豊丘村 個人水源 (縦井戸))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

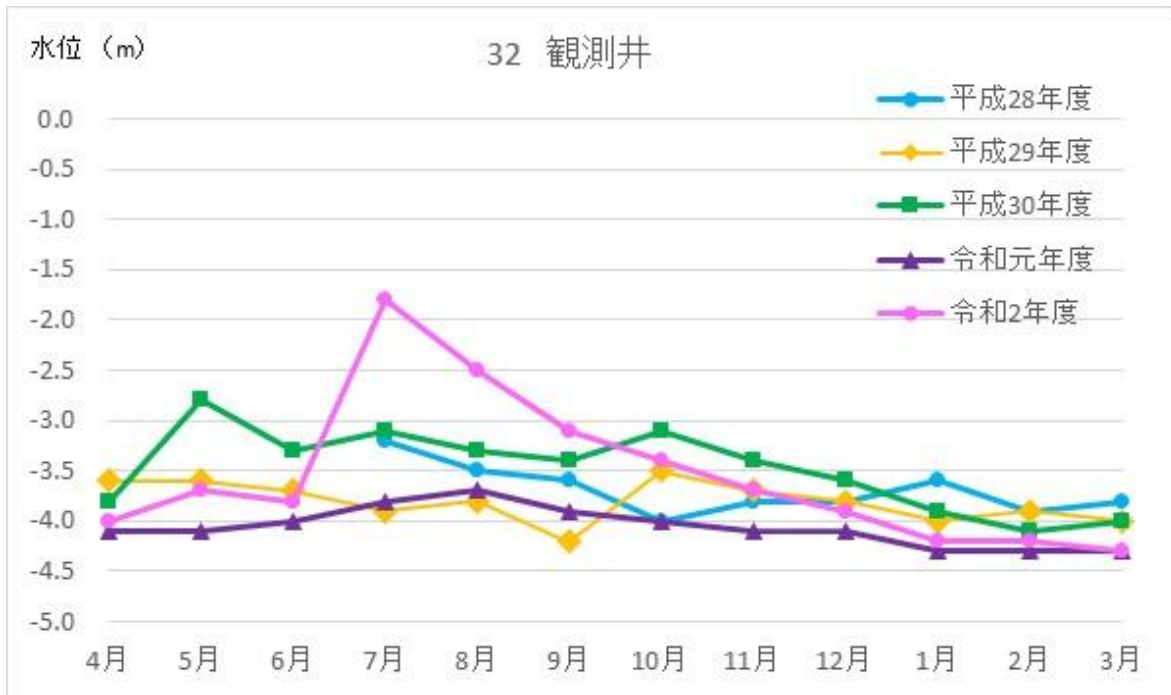


図 3-5-5-1(14) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(32 豊丘村 観測井)

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

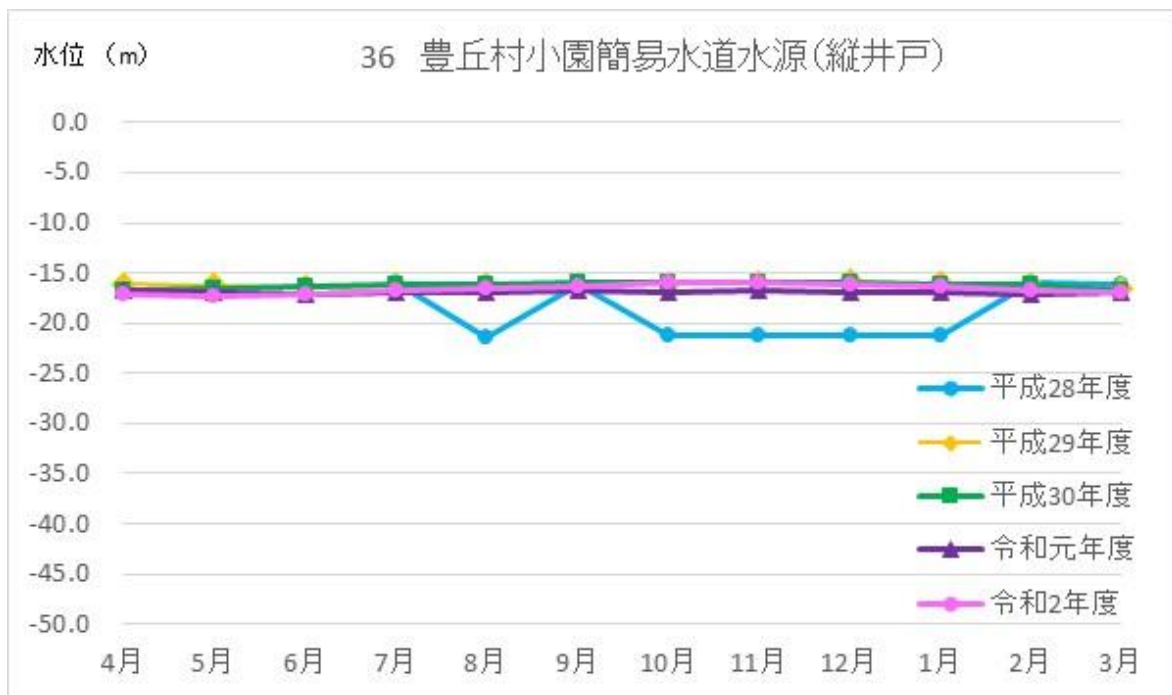


図 3-5-5-1(15) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(36 豊丘村 豊丘村小園簡易水道水源(縦井戸))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

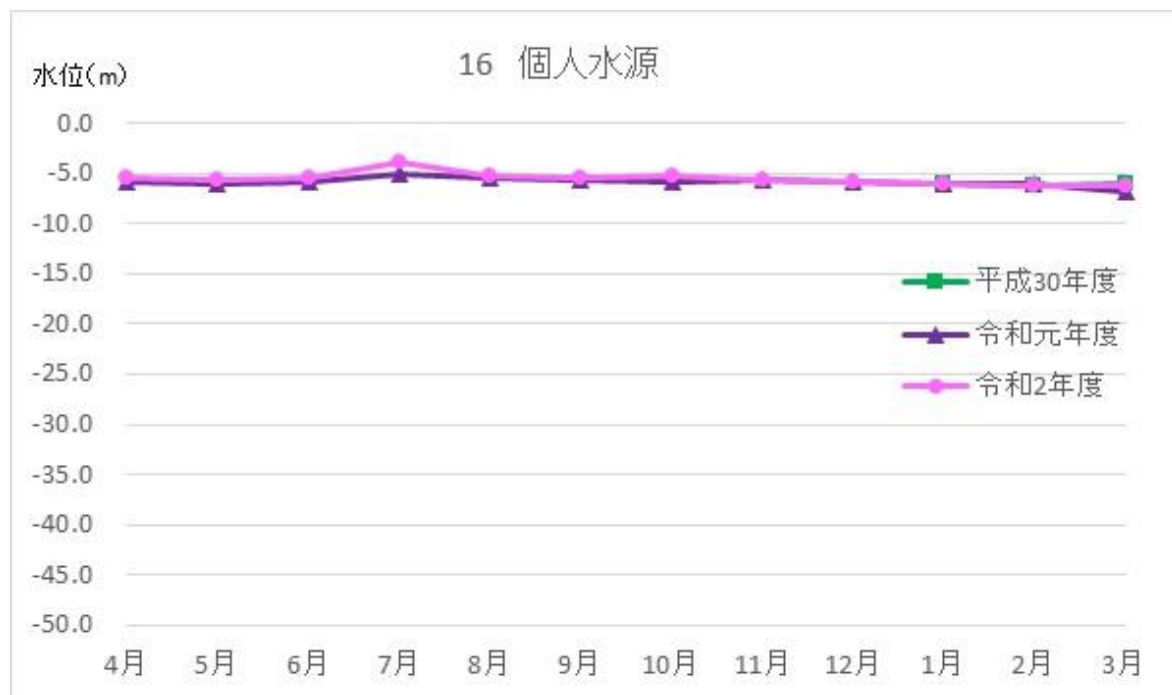


図 3-5-5-1(16) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(16 飯田市 個人水源)

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

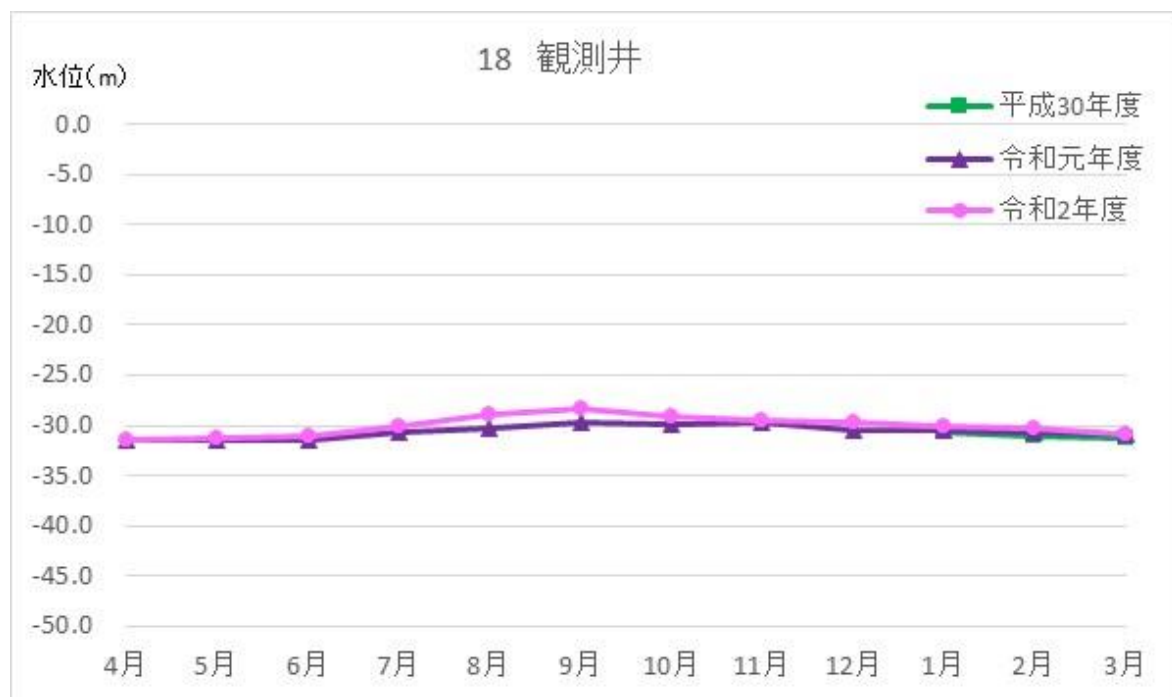


図 3-5-5-1(17) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(18 飯田市 観測井)

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。



図 3-5-5-1(18) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(19 飯田市 観測井)

測定方法：容器法

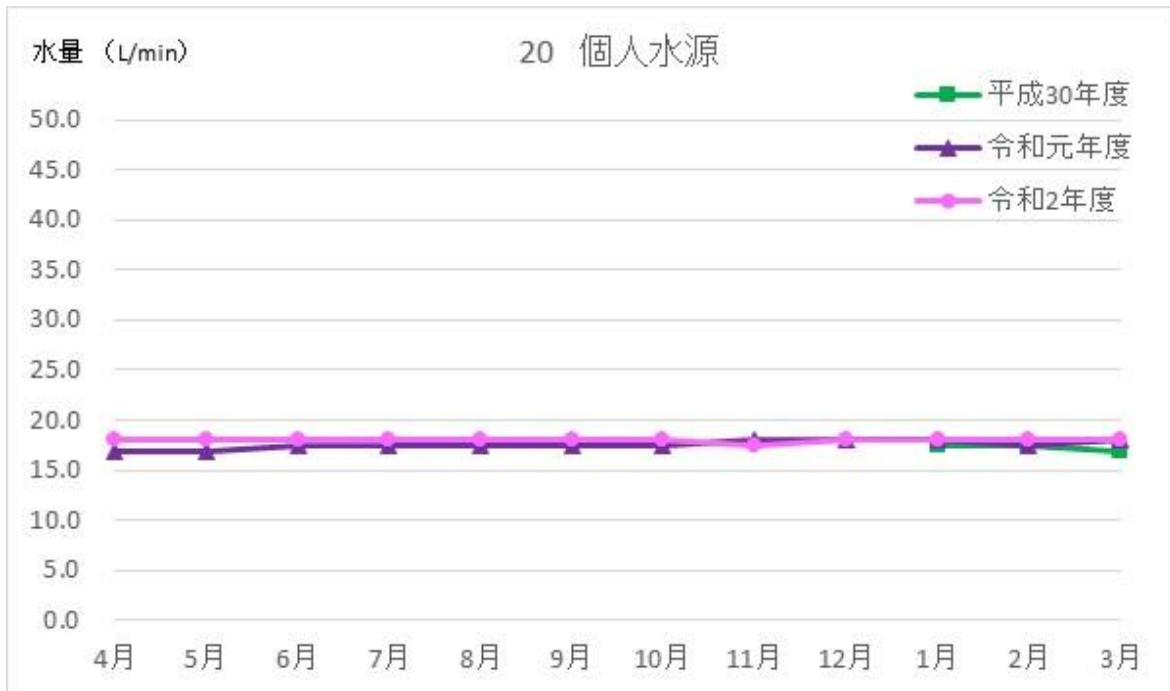


図 3-5-5-1(19) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(20 飯田市 個人水源)

測定方法：容器法

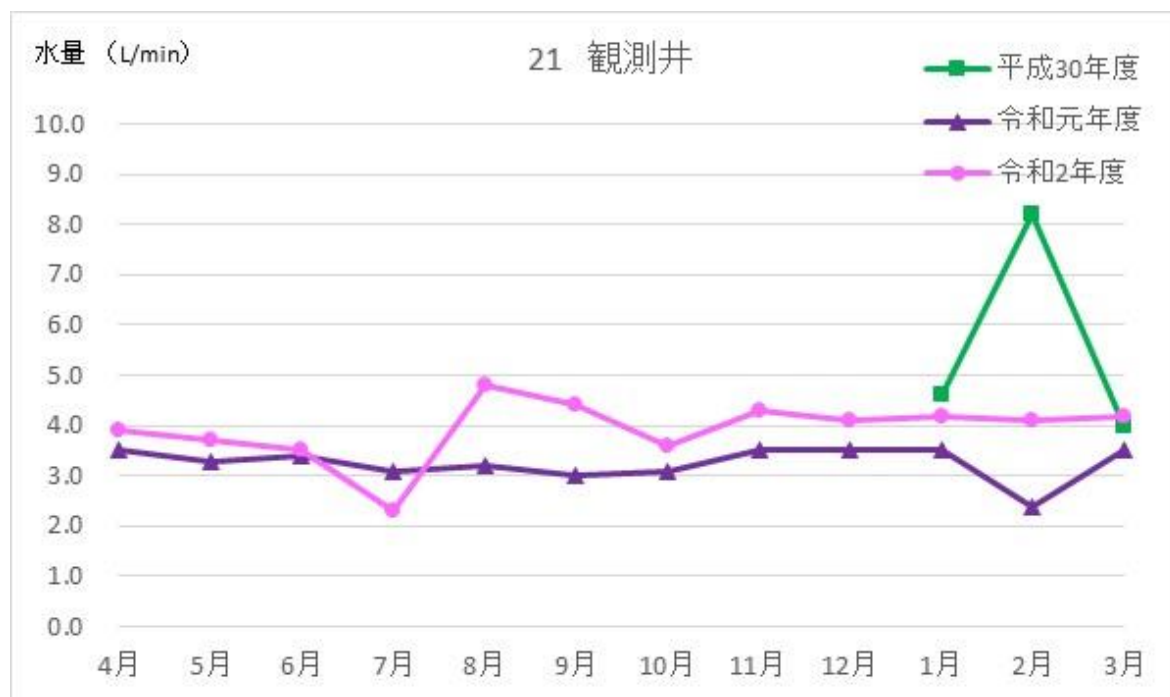


図 3-5-5-1 (20) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(21 飯田市 観測井)

測定方法：容器法

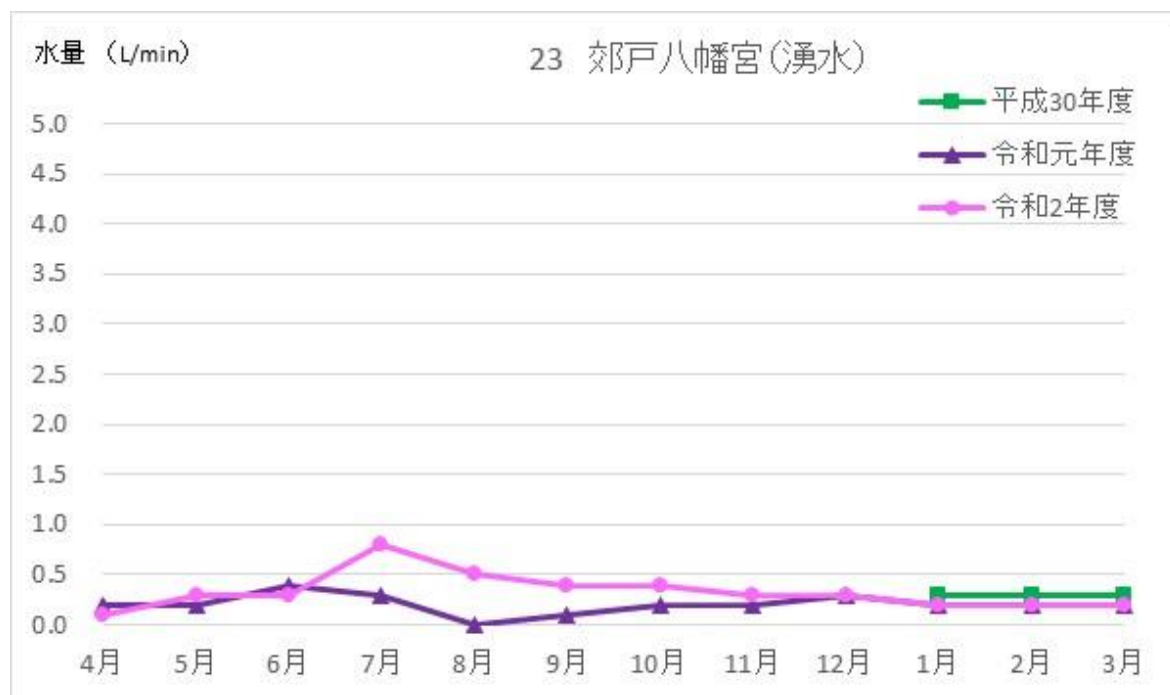


図 3-5-5-1 (21) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(23 飯田市 郊戸八幡宮 (湧水))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

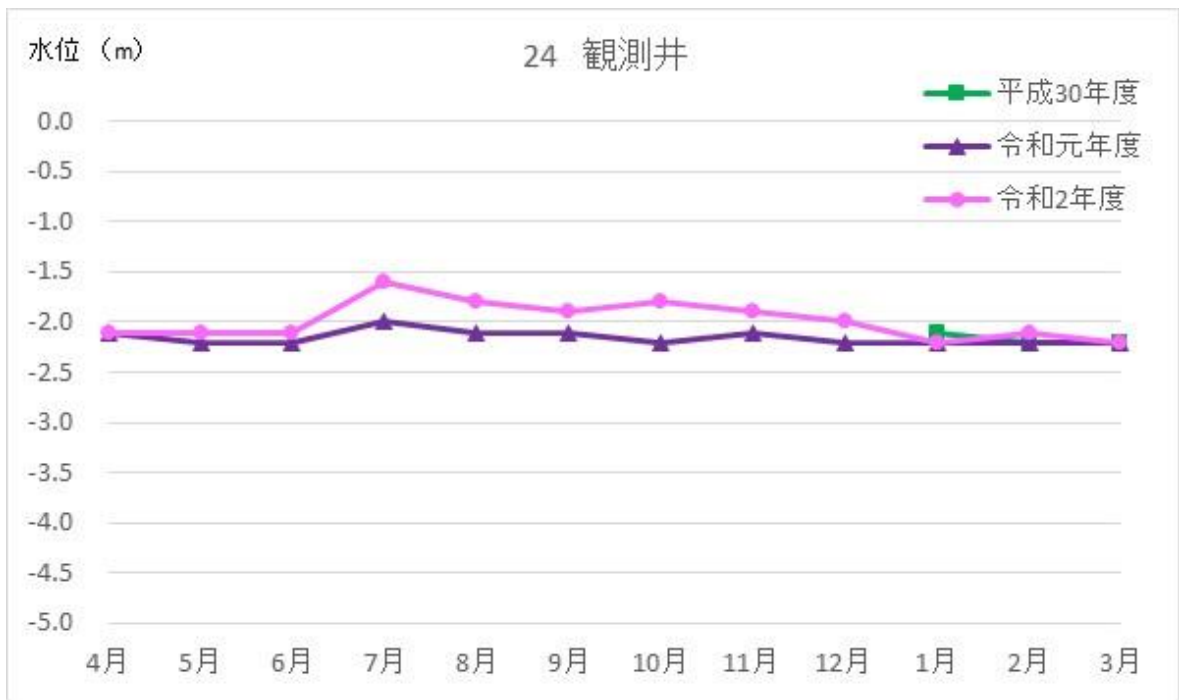


図 3-5-5-1 (22) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (24 飯田市 観測井)

測定方法：容器法

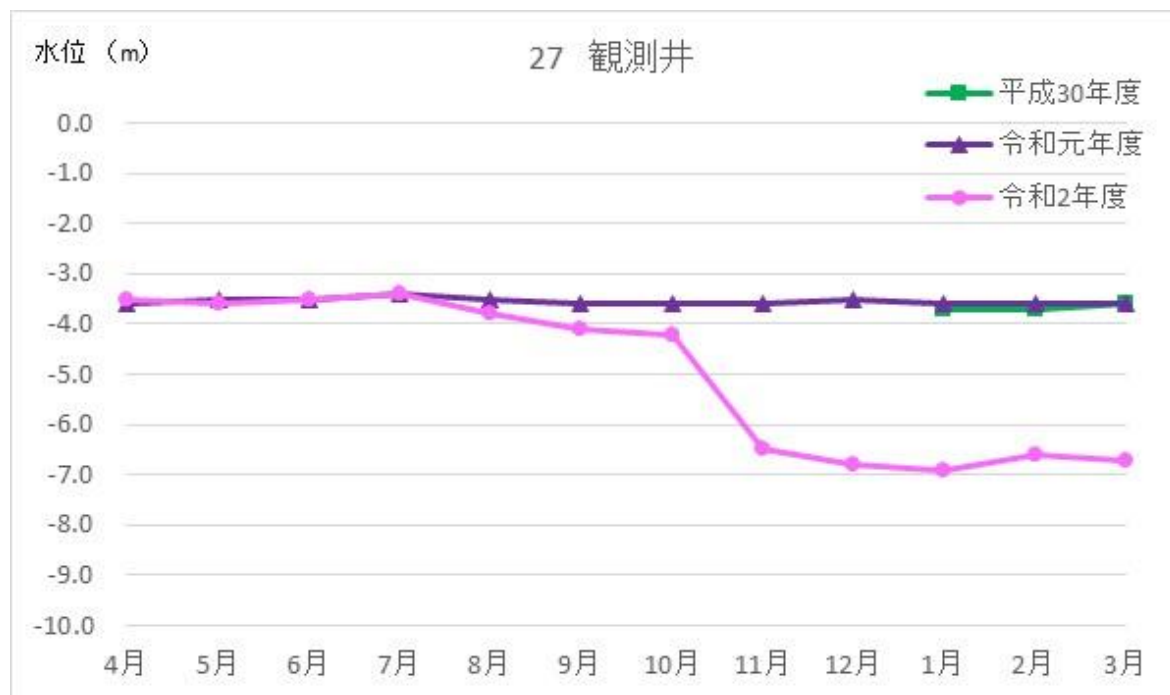


注1：令和元年度7月期は測定日の前々日にまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (23) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果 (25 飯田市 個人水源 (湧水))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。



注1：令和2年度11月～3月期は水位が低下している。しかし、トンネル工事の開始前の段階である。

図 3-5-5-1 (24) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(27 飯田市 観測井)

測定方法：容器法



注1：令和元年度7月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (25) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(29 飯田市 個人水源 (湧水))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

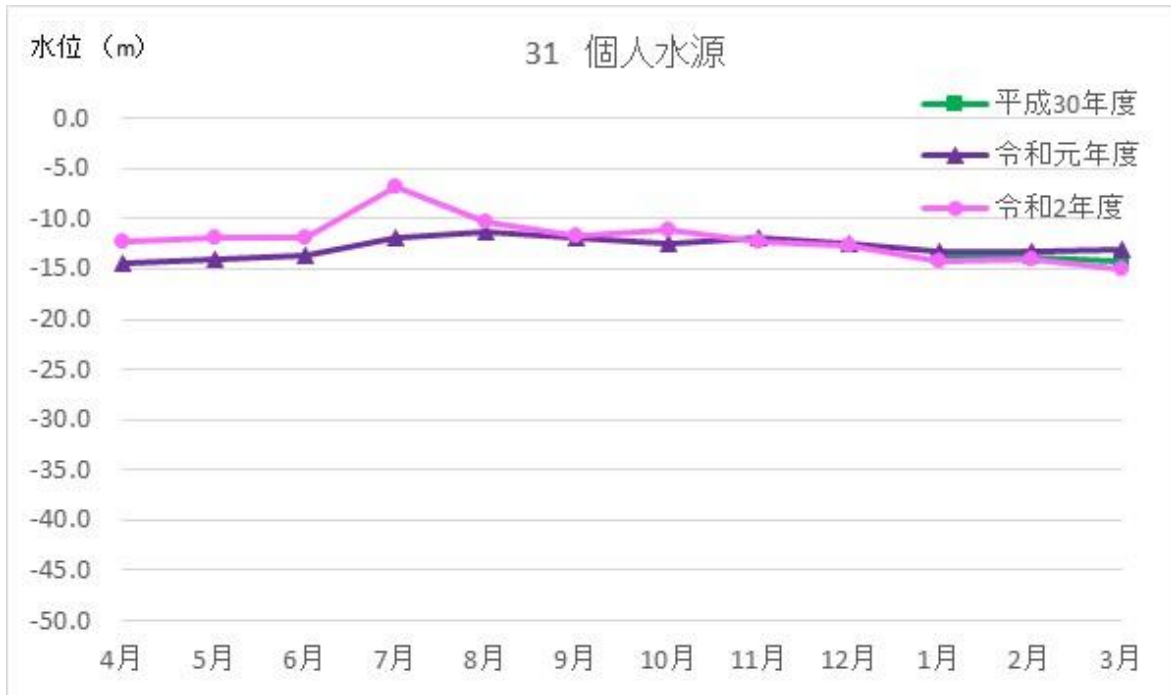
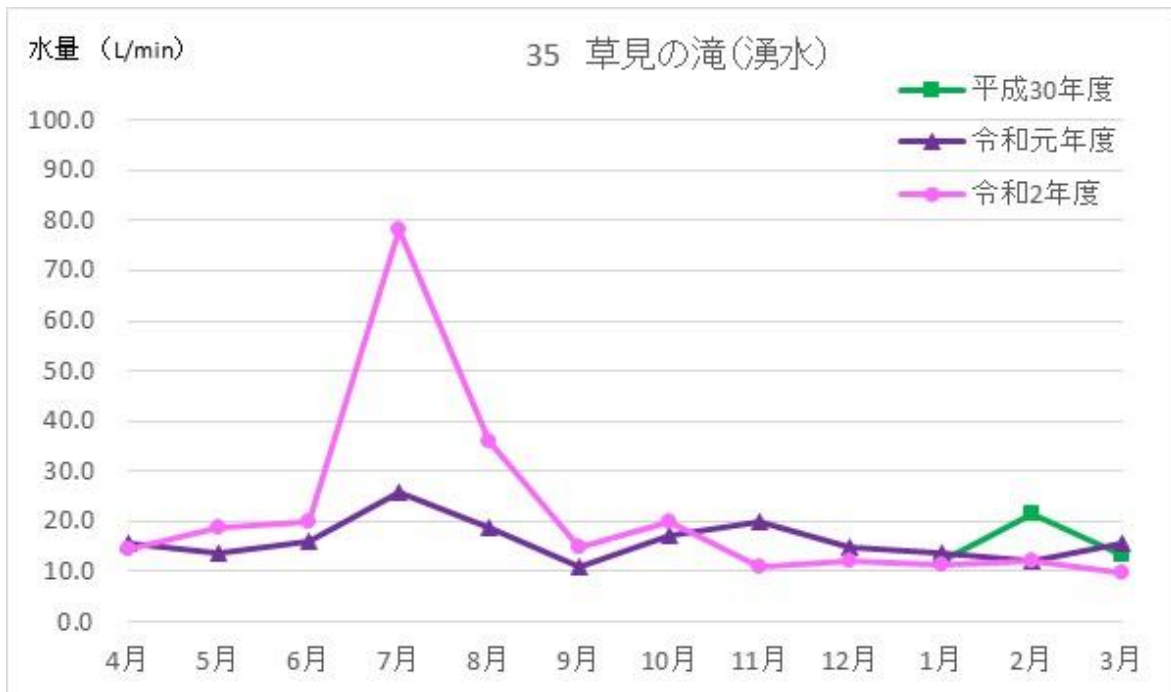


図 3-5-5-1 (26) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(31 飯田市 個人水源)

測定方法：容器法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (27) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(35 飯田市 草見の滝 (湧水))

測定方法：接触式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

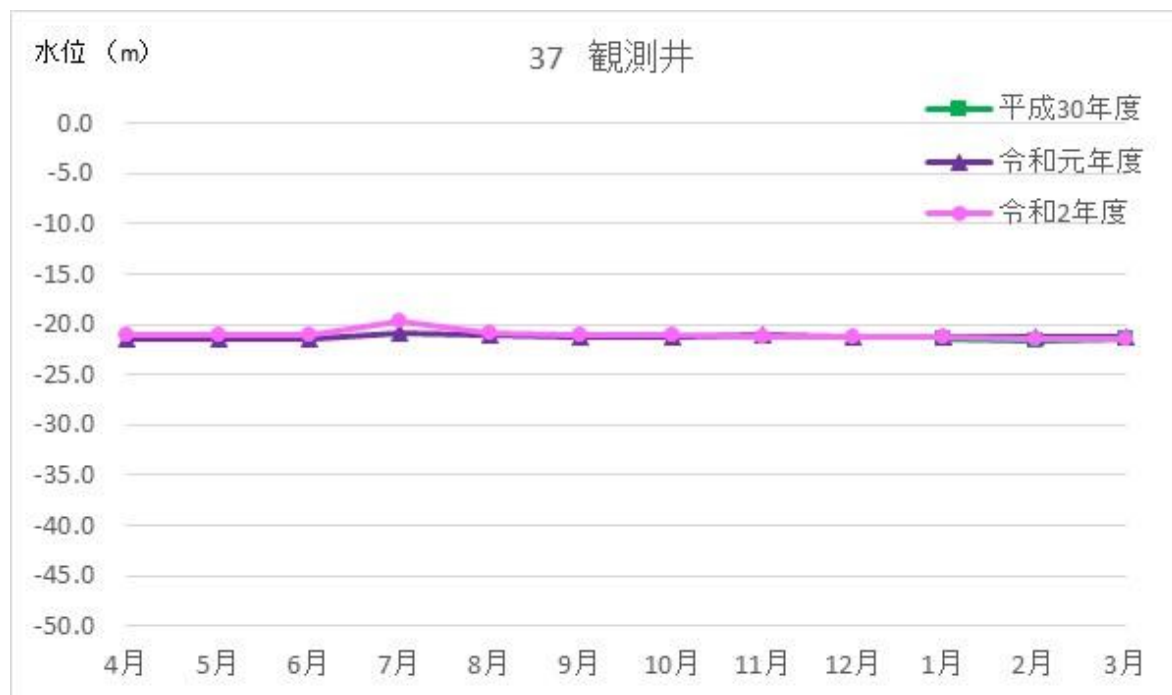


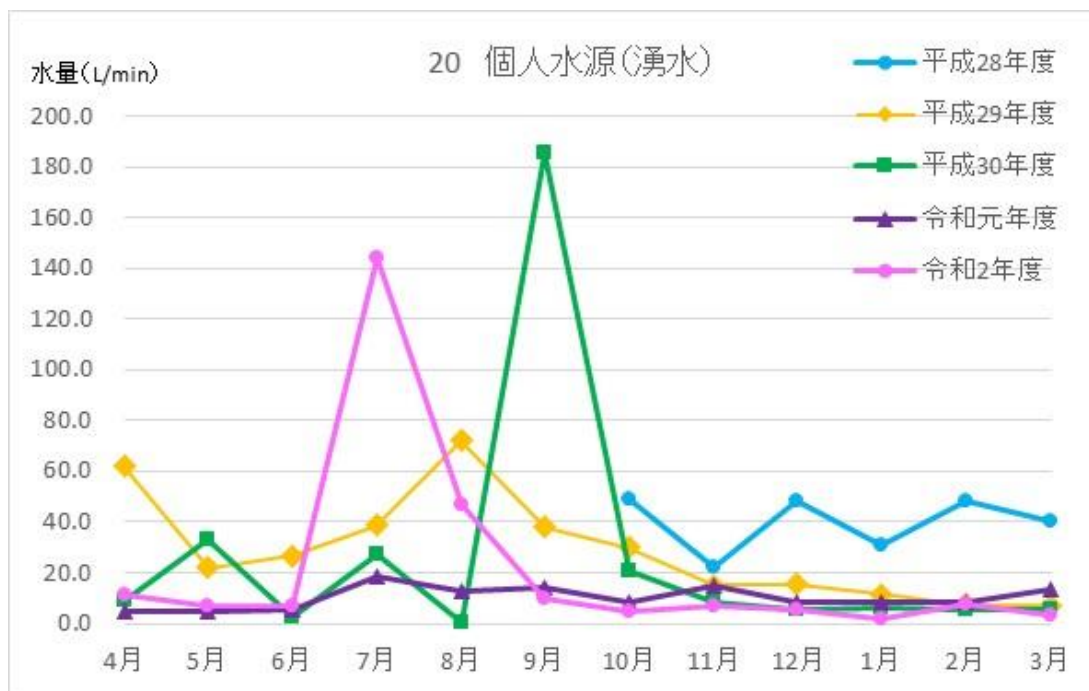
図 3-5-5-1 (28) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(37 飯田市 観測井)

測定方法：容器法



図 3-5-5-1 (29) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(39 飯田市 猿庫の泉(湧水))

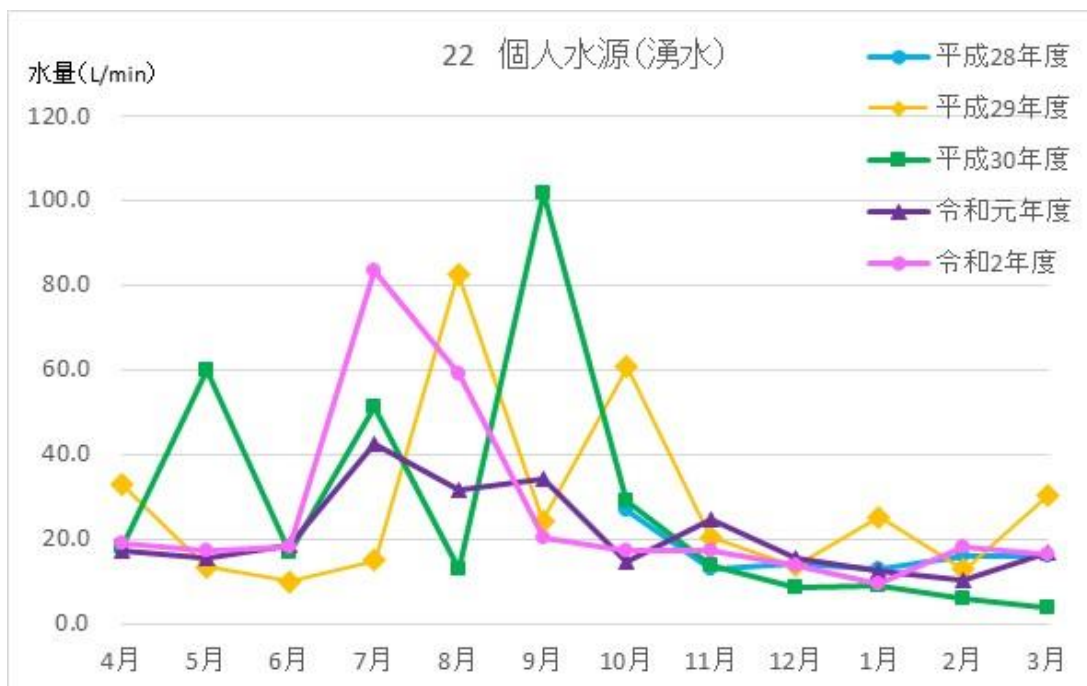
測定方法：容器法



注1：平成29年度8月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：平成30年度9月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (30) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
 (20 南木曾町 個人水源 (湧水))

測定方法：容器法



注1：平成29年度8月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：平成30年度9月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (31) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
 (22 南木曾町 個人水源 (湧水))

測定方法：圧力式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。

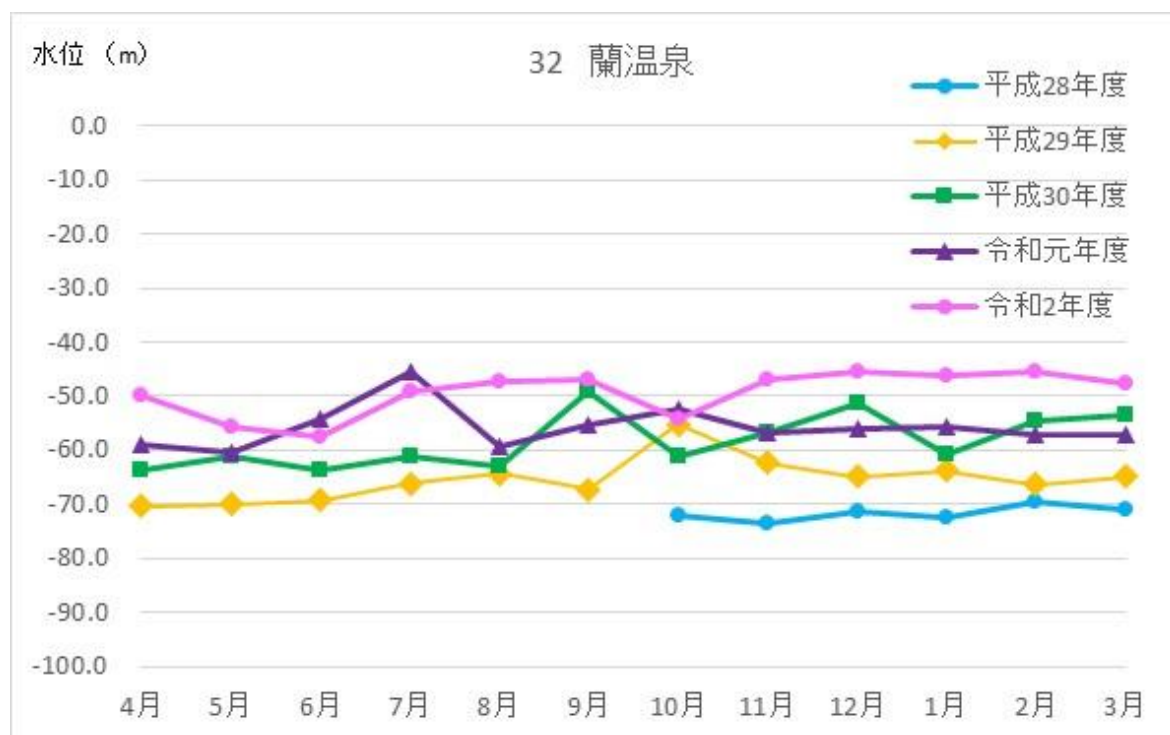
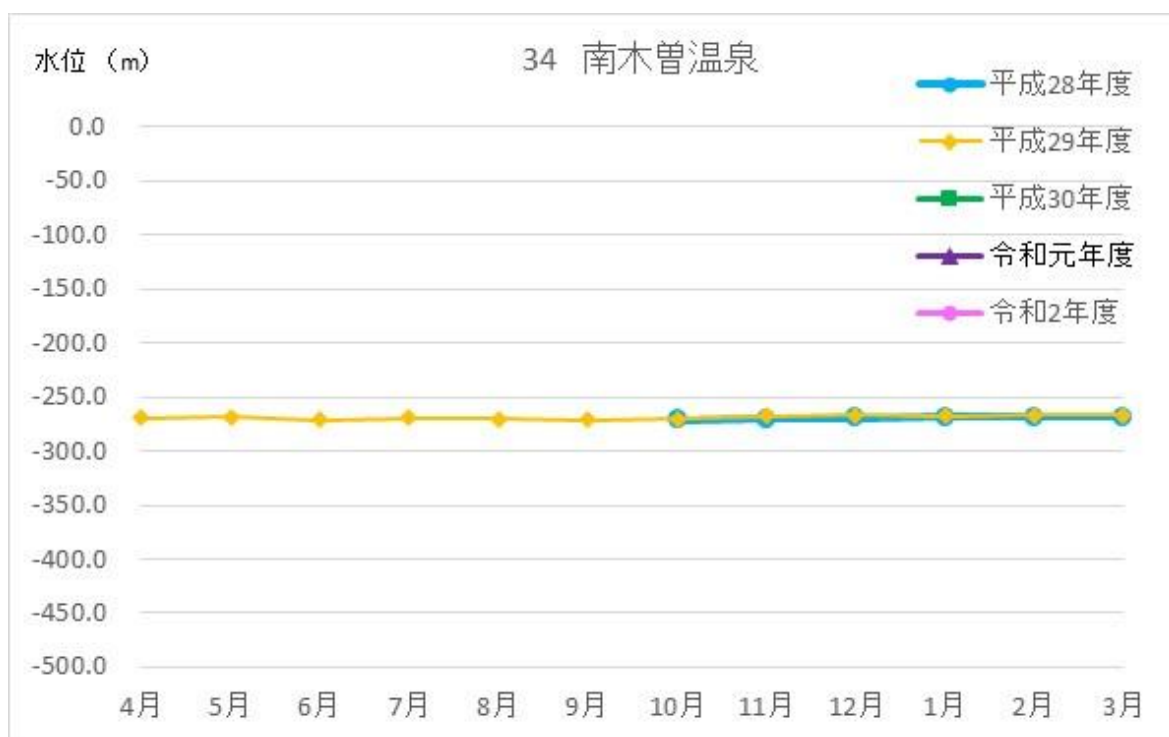


図 3-5-5-1 (32) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(32 南木曾町 蘭温泉)

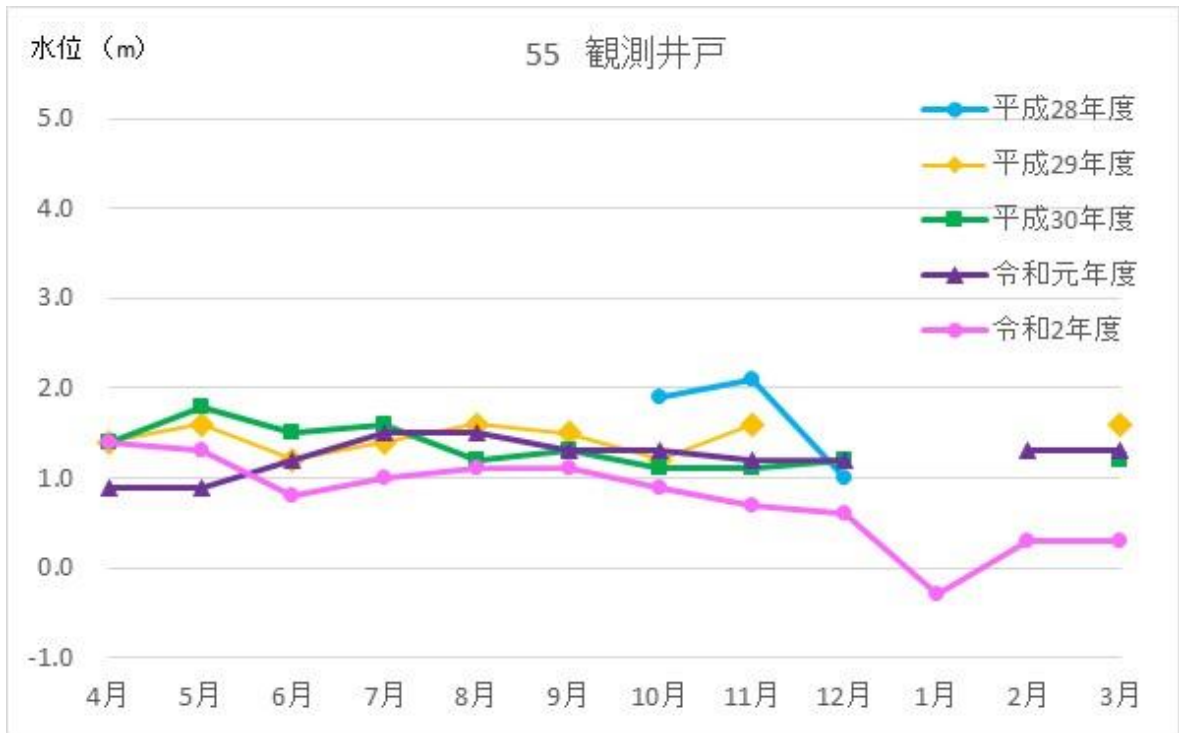
測定方法：圧力式水位計 水位は孔口（GL）からの深さを示す。



注：平成30年度以降、水位計撤去のため測定不可。

図 3-5-5-1 (33) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(34 南木曾町 南木曾温泉)

測定方法：接触式水位計 水位はGLからの高さ。(地下水位はGLより高い)



注：平成28年度1月期、2月期、平成29年度12月～2月期、平成30年度1月期、2月期、令和元年度1月期は凍結のため測定不可。

図 3-5-5-1 (34) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(55 南木曾町 観測井戸)

測定方法：接触式水位計 水位は孔口 (GL) からの深さを示す。

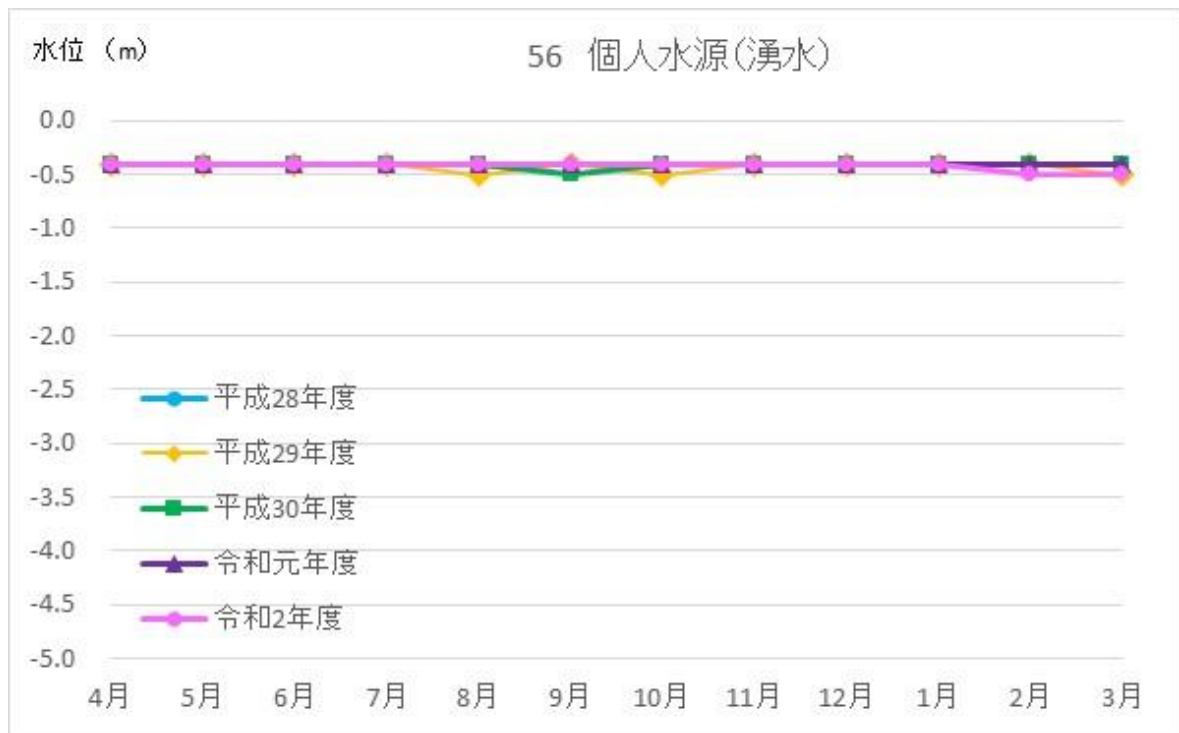


図 3-5-5-1 (35) 井戸の水位及び湧水の水量の調査結果
(56 南木曾町 個人水源 (湧水))

表 3-5-5-1(15) 自然由来の重金属等の調査結果（大鹿村）

調査項目	調査地点			基準値 ^{注1}	
	大鹿村				
	36 釜沢水源 (湧水)	37 上青木水源 (湧水)	38 個人水源 (井戸)		
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.00003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	0.8mg/L以下
	ほう素 (mg/L)	0.19	<0.02	0.12	1mg/L以下

注1： 地下水の水質汚濁に係る環境基準について（平成9年3月13日環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

表 3-5-5-1 (16) 地表水の流量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
12	豊丘村	虻川 (本流)	水温 (°C)	-	8.9	13.6	-	-	14.3	7.0	8.8	2.4	0.8	3.2	4.8
			pH	-	7.4	7.2	-	-	7.0	7.5	7.6	8.1	7.7	7.4	8.3
			電気伝導率 (mS/m)	-	3.1	3.1	-	-	3.6	3.9	3.4	3.3	3.4	3.3	3.1
			流量 (m ³ /min)	-	3.3	5.1	-	-	1.1	3.7	1.8	0.9	0.5	1.5	3.1
13		虻川 (支流)	水温 (°C)	-	9.8	14.1	-	-	13.8	11.5	8.1	1.2	0.6	2.0	5.2
			pH	-	7.7	7.4	-	-	7.0	7.9	7.7	7.9	7.7	7.7	8.4
			電気伝導率 (mS/m)	-	3.5	3.3	-	-	4.2	4.3	3.8	3.8	3.8	3.7	3.5
			流量 (m ³ /min)	-	1.8	3.7	-	-	1.2	2.2	0.7	0.7	0.7	0.9	1.6
14		虻川 (支流)	水温 (°C)	-	9.8	15.2	-	-	15.0	9.9	8.0	1.5	0.5	1.9	3.0
			pH	-	7.7	7.4	-	-	7.5	7.7	8.0	8.3	8.3	8.3	9.1
			電気伝導率 (mS/m)	-	2.6	2.4	-	-	3.9	2.6	3.4	3.5	3.9	3.1	2.7
			流量 (m ³ /min)	-	0.9	1.5	-	-	0.6	1.2	0.4	0.4	0.4	0.3	1.3

注：地点番号は図 3-5-3-1(2)を参照。

「-」：4月は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため欠測。

7~8月は、豪雨災害による土砂崩れにより測定不可。

表 3-5-5-1 (17) 地表水の流量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	豊丘村	虻川 (支流)	水温 (°C)	-	9.3	15.1	-	-	14.3	7.4	6.8	0.2	-	0.7	2.0
			pH	-	7.9	7.6	-	-	7.9	8.2	8.5	8.6	-	8.2	9.1
			電気伝導率 (mS/m)	-	3.6	3.3	-	-	3.8	3.5	3.8	4.1	-	3.9	3.6
			流量 (m ³ /min)	-	2.4	5.1	-	-	1.0	2.8	2.8	1.3	-	1.2	2.2
16		虻川 (支流)	水温 (°C)	-	9.9	15.7	-	-	15.8	11.3	8.9	2.5	1.3	2.6	3.6
			pH	-	7.7	7.4	-	-	7.4	7.6	7.8	8.3	8.1	7.7	8.5
			電気伝導率 (mS/m)	-	4.0	4.0	-	-	5.8	3.8	5.0	5.1	5.1	4.3	4.2
			流量 (m ³ /min)	-	0.44	0.29	-	-	0.32	0.17	0.28	0.04	0.04	0.20	0.12
17		虻川 (支流)	水温 (°C)	-	11.3	16.4	-	-	15.3	9.6	8.1	1.2	0.2	1.9	4.6
			pH	-	8.0	7.5	-	-	7.5	7.6	7.7	8.2	8.1	7.8	8.2
			電気伝導率 (mS/m)	-	3.6	3.4	-	-	4.6	3.5	4.2	4.4	4.5	4.1	3.6
			流量 (m ³ /min)	-	6.3	12.2	-	-	2.8	5.3	3.0	2.4	2.0	2.8	6.0

注：地点番号は図3-5-3-1(2)を参照。

「-」：4月は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため欠測。

7~8月は、豪雨災害による土砂崩れにより測定不可。

1月は、凍結により測定不可。

表 3-5-5-1 (18) 地表水の流量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18	豊丘村	虻川 (本流)	水温 (°C)	-	11.7	15.7	-	-	15.9	8.5	9.1	3.2	5.3	3.6	5.4
			pH	-	7.4	7.4	-	-	7.1	7.8	7.7	8.2	8.2	8.3	8.7
			電気伝導率 (mS/m)	-	2.9	2.9	-	-	3.4	3.5	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2
			流量 (m ³ /min)	-	10.5	15.5	-	-	2.5	4.4	3.2	2.0	1.9	2.4	2.7
20		虻川 (支流)	水温 (°C)	-	12.7	16.4	-	-	16.1	10.2	9.1	2.5	1.4	3.7	7.6
			pH	-	7.6	7.2	-	-	6.9	7.3	7.5	7.8	7.9	7.7	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	-	3.6	3.6	-	-	3.9	3.6	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7
			流量 (m ³ /min)	-	9.0	11.4	-	-	3.6	8.2	4.5	2.8	2.8	2.7	6.4
21		虻川 (支流)	水温 (°C)	6.8	10.7	13.2	16.8	19.1	-	14.5	10.2	6.2	3.8	3.5	4.6
			pH	7.7	7.5	7.5	7.3	7.1	-	7.6	7.5	7.4	7.4	7.7	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	3.7	4.3	4.8	2.9	4.2	-	3.8	4.1	4.8	4.7	3.6	4.1
			流量 (m ³ /min)	0.334	0.251	0.042	1.372	0.165	-	0.100	0.030	0.009	0.002	0.124	0.108

注：地点番号は図 3-5-3-1(2)を参照。

「-」：4月は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため欠測。

7~8月は、豪雨災害による土砂崩れにより測定不可。

9月は、豪雨災害の復旧工事に伴う道路通行止めのため測定不可。

表 3-5-5-1 (19) 地表水の流量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
22	豊丘村	サースケ洞	水温 (°C)	7.4	11.6	15.3	17.7	21.0	-	13.3	9.7	3.2	1.1	2.1	5.1		
			pH	7.6	7.4	7.4	7.6	7.6	-	7.7	7.7	7.3	7.5	7.4	7.4		
			電気伝導率 (mS/m)	4.3	4.7	5.5	3.3	5.0	-	4.9	5.3	6.1	6.1	5.6	5.7		
			流量 (m ³ /min)	1.5	1.6	0.6	10.2	1.4	-	1.7	1.0	0.4	0.4	0.8	1.5		
23		豊丘村	虻川 (支流)	水温 (°C)	8.7	12.0	16.2	17.7	22.1	18.9	12.7	11.8	1.5	0.2	2.2	6.1	
				pH	7.5	7.7	7.6	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.5	7.6	7.6	7.5	
				電気伝導率 (mS/m)	4.7	4.8	5.3	3.5	4.7	5.3	4.7	5.1	5.7	5.4	4.8	5.2	
				流量 (m ³ /min)	1.0	0.9	0.8	6.5	1.2	0.6	1.1	0.6	0.6	0.5	0.8	0.5	
24			豊丘村	虻川 (支流)	水温 (°C)	9.2	13.9	17.8	18.1	22.2	20.1	13.6	12.9	1.6	0.2	4.9	7.6
					pH	7.4	7.7	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.4	7.6	7.5	7.5
					電気伝導率 (mS/m)	3.7	4.3	5.6	3.4	4.3	5.1	4.3	5.0	5.1	4.9	3.4	4.9
					流量 (m ³ /min)	0.022	0.011	0.002	0.084	0.004	0.003	0.008	0.001	0.003	0.001	0.002	0.002

注：地点番号は図3-5-3-1(2)を参照。

「-」：豪雨災害の復旧工事に伴う道路通行止めのため測定不可。

表 3-5-5-1 (20) 地表水の流量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
25	豊丘村	虻川 (支流)	水温 (°C)	10.0	13.0	15.7	17.8	20.5	20.4	16.1	12.4	6.7	4.1	5.5	9.4		
			pH	7.3	7.3	7.5	7.3	7.5	7.6	7.8	7.8	7.6	7.2	7.5	7.3		
			電気伝導率 (mS/m)	5.6	6.1	6.3	4.2	5.2	5.9	5.5	6.1	6.3	5.7	6.6	7.7		
			流量 (m ³ /min)	0.5	0.5	0.3	2.8	0.6	0.4	0.7	0.2	0.3	0.3	0.7	0.2		
26		豊丘村	本村川 (支流)	水温 (°C)	7.2	10.4	16.6	17.0	18.8	19.9	13.8	10.4	3.7	0.7	4.1	6.2	
				pH	7.5	7.5	7.9	7.5	7.6	7.7	7.8	7.3	7.5	7.4	7.9	7.8	
				電気伝導率 (mS/m)	10.7	11.0	11.7	8.7	10.6	12.1	11.2	12.5	12.8	13.0	11.7	11.9	
				流量 (m ³ /min)	0.2	0.3	0.2	1.0	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	
27			豊丘村	本村川 (支流)	水温 (°C)	9.6	11.1	15.6	16.4	18.8	19.3	14.1	10.8	4.5	1.5	4.6	7.2
					pH	7.3	7.4	7.5	7.4	7.6	7.7	7.6	7.5	7.4	7.3	7.6	7.7
					電気伝導率 (mS/m)	7.7	7.8	8.5	6.1	7.2	8.0	8.1	8.5	8.4	8.5	8.3	8.2
					流量 (m ³ /min)	0.5	0.6	0.3	3.9	0.9	0.5	0.9	0.5	0.3	0.4	0.4	0.3

注：地点番号は図 3-5-3-1(2)を参照。

表 3-5-5-1 (21) 地表水の流量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
28	豊丘村	場知沢川	水温 (°C)	12.8	17.7	18.2	17.8	20.8	18.8	14.3	12.5	6.2	3.5	6.7	10.4	
			pH	7.8	8.1	7.9	7.8	7.8	7.8	7.0	7.9	7.6	7.4	7.6	7.9	
			電気伝導率 (mS/m)	16.4	17.7	17.9	13.1	13.2	16.3	16.6	17.0	18.2	18.5	19.6	16.4	
			流量 (m ³ /min)	0.07	0.07	0.06	0.26	0.15	0.10	0.11	0.07	0.07	0.07	0.06	0.07	
30		本村川 (本流)	水温 (°C)	8.3	11.3	18.8	17.4	19.8	21.4	14.5	10.8	3.9	1.1	5.0	6.9	
			pH	7.8	7.4	7.6	7.4	7.6	7.8	7.9	7.2	7.5	7.2	7.4	7.7	
			電気伝導率 (mS/m)	10.7	10.8	12.0	9.1	10.5	11.3	11.5	12.0	12.2	12.1	11.6	11.0	
			流量 (m ³ /min)	2.3	2.2	1.2	10.9	2.4	2.4	2.6	1.0	0.9	1.0	1.5	1.1	
31			南沢	水温 (°C)	10.1	12.0	18.0	17.6	20.6	21.4	14.0	11.0	4.1	0.9	4.5	7.2
				pH	7.7	7.7	7.7	7.6	7.7	7.8	8.0	7.5	7.4	7.3	7.4	7.5
				電気伝導率 (mS/m)	6.2	6.5	7.5	4.9	5.7	6.7	6.4	6.9	6.9	7.4	6.8	6.6
				流量 (m ³ /min)	2.4	2.3	0.8	20.5	5.7	3.0	4.2	3.0	1.5	1.8	2.0	1.7

注：地点番号は図 3-5-3-1(2)を参照。

表 3-5-5-1(22) 地表水の流量の調査結果（豊丘村）

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
33	豊丘村	牛草川	水温 (°C)	12.8	13.8	19.9	21.1	22.3	21.2	15.7	13.7	4.8	0.9	6.5	10.3
			pH	8.4	8.1	7.9	7.9	8.1	8.3	8.3	8.3	7.6	7.4	8.2	8.5
			電気伝導率 (mS/m)	32.2	27.5	25.9	29.2	22.9	34.7	36.7	33.6	33.1	20.7	37.0	34.2
			流量 (m³/min)	0.007	0.016	0.013	0.066	0.012	0.004	0.006	0.001	0.001	0.001	0.007	0.004
34		壬生沢川	水温 (°C)	8.7	12.2	18.5	18.3	20.7	21.0	14.2	10.8	3.7	1.3	4.8	6.7
			pH	7.8	7.6	7.6	7.6	7.6	7.7	7.9	7.6	7.6	7.3	7.3	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	9.0	9.1	10.2	7.3	8.7	9.2	9.3	9.8	9.7	10.0	9.4	9.3
			流量 (m³/min)	3.5	4.7	2.1	23.2	6.9	8.3	4.9	3.3	3.0	2.9	3.2	2.7
35		地藏沢川	水温 (°C)	9.2	12.3	17.6	20.0	21.0	20.6	14.4	12.0	4.0	0.9	4.6	6.5
			pH	7.8	7.7	7.7	7.9	7.8	7.9	7.7	7.8	7.3	7.3	7.5	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	13.8	14.7	16.4	10.7	13.0	13.7	14.8	15.6	16.9	16.7	15.0	15.3
			流量 (m³/min)	0.02	0.02	0.01	0.14	0.05	0.04	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01

注：地点番号は図 3-5-3-1(2)、(3)を参照。

表 3-5-5-1 (23) 地表水の流量の調査結果 (豊丘村)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
37	豊丘村	壬生沢川	水温 (°C)	8.8	14.8	19.7	20.3	23.3	23.6	14.7	10.6	3.3	0.5	6.3	6.3
			pH	7.7	7.7	8.0	7.7	7.8	7.8	7.7	7.9	7.7	7.3	7.6	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	10.1	10.4	11.9	8.1	9.6	10.2	10.3	10.9	10.4	11.5	10.5	10.4
			流量 (m ³ /min)	3.3	3.3	1.9	23.3	7.8	4.9	4.3	1.6	2.2	0.7	2.4	1.6

注：地点番号は図 3-5-3-1(2)、(3)を参照。

表 3-5-5-1 (24) 地表水の流量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
17	飯田市	野底川上流	水温 (°C)	10.5	12.7	16.2	-	18.9	17.9	11.2	11.4	2.0	5.2	5.5	6.9
			pH	7.4	7.4	7.6	-	7.6	7.5	7.3	7.6	7.0	7.4	7.7	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	4.7	4.9	5.2	-	4.6	4.8	4.7	4.9	5.1	4.9	5.0	5.0
			流量 (m ³ /min)	33.9	32.5	25.4	-	64.3	48.0	34.8	32.3	18.8	34.3	26.9	9.0
22		松洞川上流	水温 (°C)	9.8	13.1	16.9	19.7	20.4	18.3	13.0	11.8	4.2	2.5	8.0	10.3
			pH	7.7	7.3	7.6	7.6	7.4	7.7	7.7	7.7	7.6	7.1	7.6	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	8.6	8.7	9.1	6.5	7.0	8.9	8.4	10.3	8.9	9.1	8.7	8.9
			流量 (m ³ /min)	0.3	0.5	0.5	1.3	0.7	0.3	0.7	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3
26		王竜寺川上流	水温 (°C)	14.4	19.6	20.6	18.7	26.2	19.3	13.8	9.1	2.8	6.0	2.9	8.0
			pH	7.6	7.8	7.6	7.7	7.7	7.2	7.4	7.8	7.6	7.6	7.7	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	5.5	5.4	5.8	4.7	4.8	5.7	5.3	5.3	5.2	5.3	5.4	5.1
			流量 (m ³ /min)	1.3	1.7	1.5	6.1	2.6	1.2	1.1	0.7	0.4	0.4	0.6	0.5

3-5-56

注：地点番号は図3-5-3-1(3)を参照。

「-」：豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (25) 地表水の流量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
28	飯田市	山の田沢川	水温 (°C)	16.0	15.3	18.7	21.6	22.8	19.1	14.6	11.4	6.3	4.1	4.1	12.0	
			pH	7.4	7.4	7.7	7.4	7.4	7.4	7.4	7.4	7.4	7.4	7.1	7.3	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	15.3	17.0	19.4	17.3	14.8	14.5	15.5	14.2	12.8	13.1	14.7	14.7	
			流量 (m ³ /min)	0.10	0.15	0.20	0.47	0.16	0.11	0.17	0.10	0.09	0.06	0.09	0.08	
30		滝の沢川 上流	水温 (°C)	9.8	13.2	14.7	16.0	18.6	16.8	12.3	10.3	4.9	5.0	2.3	12.3	
			pH	7.7	7.4	7.5	7.3	7.7	7.6	7.7	7.6	7.4	7.5	7.4	7.9	
			電気伝導率 (mS/m)	5.3	5.2	6.0	5.0	4.6	5.3	5.1	5.2	5.3	5.3	5.2	5.5	
			流量 (m ³ /min)	0.6	0.6	0.9	4.4	1.1	0.6	0.6	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	
32		阿弥陀沢川 上流	水温 (°C)	10.4	13.4	14.4	14.8	17.7	15.6	11.3	8.9	4.9	2.3	3.0	6.9	
			pH	7.5	7.4	7.3	7.2	7.4	7.4	7.6	7.4	7.7	7.6	7.3	7.9	
			電気伝導率 (mS/m)	5.8	6.0	5.8	6.4	5.3	5.8	5.6	5.8	5.8	6.3	5.9	5.8	
			流量 (m ³ /min)	0.3	0.9	0.7	3.3	1.1	0.6	0.6	0.4	0.3	0.2	0.3	0.3	

注：地点番号は図3-5-3-1(3)を参照。

表 3-5-5-1 (26) 地表水の流量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
33	飯田市	西の原沢川 上流	水温 (°C)	11.1	12.9	14.7	16.4	18.7	15.3	11.7	11.3	4.7	5.8	4.5	8.8
			pH	7.5	7.3	7.3	7.3	7.4	7.4	7.5	7.5	7.5	7.1	7.7	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	5.0	5.1	5.2	4.0	4.2	4.5	4.4	4.3	4.3	4.4	4.6	4.5
			流量 (m ³ /min)	0.03	0.08	0.06	0.38	0.16	0.12	0.07	0.05	0.03	0.05	0.03	0.03
34		熊ヶ洞沢川	水温 (°C)	11.0	13.1	15.1	17.3	18.5	15.6	11.7	11.2	3.8	6.2	3.7	8.8
			pH	7.4	7.4	7.5	7.5	7.6	7.5	7.3	7.6	7.4	7.3	7.6	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	6.8	6.5	6.7	5.6	5.9	6.9	6.2	6.1	6.0	6.2	6.1	6.3
			流量 (m ³ /min)	0.10	0.12	0.17	0.65	0.20	0.12	0.09	0.13	0.08	0.07	0.07	0.06
36		円悟沢川 中流	水温 (°C)	7.7	12.3	14.7	16.0	17.8	16.6	12.2	9.5	3.3	5.6	5.8	7.9
			pH	7.3	7.2	7.3	7.2	7.5	7.4	7.4	7.5	7.3	7.5	7.7	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	3.9	3.7	4.0	3.3	3.7	4.2	4.0	4.0	4.2	4.0	3.9	3.9
			流量 (m ³ /min)	3.8	6.2	5.9	23.4	7.6	3.5	2.7	2.4	2.1	1.4	3.1	2.8

注：地点番号は図3-5-3-1(3)、(4)を参照。

表 3-5-5-1 (27) 地表水の流量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
38	飯田市	円悟沢川 上流	水温 (°C)	7.6	12.2	14.6	15.6	19.0	16.7	12.2	9.3	3.3	4.9	1.5	8.0
			pH	7.3	7.4	7.3	7.3	7.5	7.4	7.5	7.5	7.3	7.5	7.9	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	3.8	3.6	3.8	3.3	3.5	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.7
			流量 (m ³ /min)	2.7	5.3	6.5	19.0	5.0	2.5	3.4	2.2	2.1	2.0	2.4	2.0
40		闊沢川下流	水温 (°C)	8.6	13.0	14.9	17.0	17.5	15.8	11.5	7.5	2.0	3.4	0.3	5.9
			pH	7.3	7.2	7.3	7.4	7.4	7.4	7.2	7.4	7.2	7.5	8.0	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	5.0	5.3	5.6	4.0	4.4	5.1	4.8	4.9	5.0	5.4	5.4	5.0
			流量 (m ³ /min)	6.4	6.6	9.3	33.3	10.7	7.1	8.5	6.4	6.3	5.1	6.7	5.3
41		松川上流	水温 (°C)	7.7	12.2	14.6	15.8	19.0	18.0	12.1	11.5	7.3	6.8	7.1	4.7
			pH	7.5	7.3	7.5	7.1	7.2	7.2	7.3	7.4	7.2	7.2	7.2	7.1
			電気伝導率 (mS/m)	4.1	3.3	3.4	3.1	3.1	4.1	3.7	7.2	8.6	7.4	9.4	8.6
			流量 (m ³ /min)	59.3	83.8	159.7	-	191.0	119.2	283.2	9.6	15.6	14.7	5.1	15.9

注1：地点番号は図3-5-3-1(3)、(4)を参照。

「-」：地点番号41の7月期は、豪雨災害による増水により流量のみ欠測。

表 3-5-5-1 (28) 地表水の流量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
42	飯田市	闇沢川上流	水温 (°C)	9.0	12.1	14.0	16.8	16.2	15.0	11.1	7.4	2.9	3.4	1.4	5.3		
			pH	7.1	7.1	7.2	7.4	7.5	7.3	7.1	7.2	7.2	7.5	8.0	7.5		
			電気伝導率 (mS/m)	4.8	5.1	5.0	3.7	4.4	5.3	4.7	5.4	4.9	4.9	5.8	4.8		
			流量 (m³/min)	2.8	2.5	4.5	17.4	6.3	3.0	2.5	2.7	2.1	1.7	2.4	2.9		
43		飯田市	押の沢川下流	水温 (°C)	9.2	13.0	14.4	15.8	18.8	15.7	9.8	6.6	2.5	4.1	0.1	3.6	
				pH	7.3	7.2	7.4	7.2	7.4	7.3	7.5	7.2	7.5	7.6	7.3	7.7	
				電気伝導率 (mS/m)	3.9	4.1	3.9	3.1	3.7	4.3	3.9	4.1	4.1	4.0	2.7	3.9	
				流量 (m³/min)	6.0	7.2	9.0	38.1	7.5	5.9	6.6	4.7	3.4	5.8	5.2	5.1	
44			飯田市	押の沢川上流	水温 (°C)	9.7	13.2	14.4	15.6	18.9	15.1	9.2	6.8	1.9	2.4	0.2	3.2
					pH	7.3	7.2	7.1	7.2	7.1	7.1	7.5	7.3	7.6	7.3	7.2	7.5
					電気伝導率 (mS/m)	3.0	3.3	3.2	2.5	2.8	3.3	3.0	3.2	3.1	4.4	4.0	3.2
					流量 (m³/min)	2.4	2.5	5.7	13.8	4.3	2.3	1.6	1.5	0.7	1.3	3.2	1.8

3-5-60

注：地点番号は図3-5-3-1(3)、(4)を参照。

表 3-5-5-1 (29) 地表水の流量の調査結果 (飯田市)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
45	飯田市	黒川中流	水温 (°C)	8.4	10.0	13.2	-	15.0	16.2	11.1	5.3	4.3	0.6	2.3	3.8
			pH	7.0	7.5	7.2	-	7.5	7.3	7.3	7.5	7.3	7.6	7.2	7.4
			電気伝導率 (mS/m)	2.0	2.0	2.2	-	1.9	2.1	2.3	2.3	2.3	2.6	2.3	3.1
			流量 (m³/min)	90.5	79.6	65.6	-	122.5	99.0	47.0	57.7	43.9	34.3	91.9	65.0
46	飯田市	黒川上流	水温 (°C)	3.0	8.2	12.5	13.6	15.3	16.3	10.6	4.1	3.8	0.2	1.8	2.5
			pH	7.8	7.6	7.0	7.1	7.3	7.3	7.5	7.8	7.3	7.4	7.4	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	1.7	1.7	1.8	1.6	1.6	1.8	1.9	1.9	1.9	2.3	2.0	1.9
			流量 (m³/min)	44.4	33.3	17.0	317.0	70.2	30.6	13.8	17.9	15.8	10.6	39.0	24.0

注：地点番号は図3-5-3-1(4)を参照。

「-」：豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (30) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
12	南木曾町	桂川	水温 (°C)	6.0	11.8	13.4	14.6	15.7	16.7	12.6	6.5	5.4	1.8	0.5	5.7		
			pH	7.5	7.4	7.4	7.2	7.0	7.6	7.5	7.6	7.4	7.6	7.8	7.5		
			電気伝導率 (mS/m)	2.8	2.9	2.2	2.2	2.7	3.0	3.1	2.9	3.0	3.0	2.9	2.8		
			流量 (m³/min)	7.8	4.6	9.2	44.1	10.0	3.9	3.4	4.1	2.8	2.3	4.2	5.6		
13		南木曾町	桂川 (左岸) 支流	水温 (°C)	5.6	11.2	14.0	15.7	17.2	17.5	13.1	6.8	5.0	1.8	2.5	4.6	
				pH	7.3	7.4	7.4	7.4	7.2	7.5	7.5	7.8	6.9	7.7	7.6	7.6	
				電気伝導率 (mS/m)	3.5	3.9	2.8	2.7	3.5	4.3	4.7	4.1	4.2	4.4	4.1	4.0	
				流量 (m³/min)	3.5	1.9	2.7	13.3	4.4	1.4	1.0	1.7	1.3	0.8	3.0	1.6	
14			南木曾町	梨の木沢	水温 (°C)	5.4	11.0	13.1	15.2	16.9	16.6	11.5	6.1	4.8	1.1	2.4	4.3
					pH	7.5	7.5	7.5	7.2	7.3	7.7	7.6	7.8	6.9	7.6	7.6	7.6
					電気伝導率 (mS/m)	3.5	4.0	2.6	2.7	3.2	3.7	4.5	3.8	4.4	9.8	4.5	4.1
					流量 (m³/min)	10.5	6.1	10.5	33.3	8.7	5.5	5.0	4.8	2.7	2.8	7.7	5.4

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (31) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	南木曾町	梨右ヶ門沢	水温 (°C)	6.4	10.6	13.3	16.3	17.4	17.8	13.4	7.9	7.1	1.6	1.3	4.6
			pH	7.5	7.5	7.5	7.4	7.5	7.3	7.2	7.7	7.3	7.6	7.7	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	3.2	3.5	3.6	2.8	3.0	3.6	3.6	3.4	3.3	3.4	3.3	3.4
			流量 (m ³ /min)	0.8	0.4	0.3	3.2	1.4	1.2	0.4	0.4	0.2	0.2	0.5	0.4
16		ナシノキ沢	水温 (°C)	6.3	11.2	15.1	15.9	17.8	17.9	12.9	6.5	4.9	0.6	1.2	4.0
			pH	7.5	7.3	7.4	7.2	7.5	7.4	7.4	7.6	7.3	7.3	7.7	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	3.6	3.9	4.1	2.9	3.6	4.2	4.3	3.9	3.9	3.9	3.7	3.8
			流量 (m ³ /min)	0.3	0.1	0.1	2.0	1.1	0.7	0.1	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1
17		引助沢	水温 (°C)	7.7	11.8	12.3	13.7	15.2	17.4	12.5	7.3	6.3	2.3	1.5	5.1
			pH	7.1	7.3	7.4	6.8	7.2	7.3	7.2	7.6	7.8	7.6	7.8	7.2
			電気伝導率 (mS/m)	3.1	3.3	3.4	2.5	2.6	3.2	3.5	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3
			流量 (m ³ /min)	0.2	0.3	0.2	1.9	0.8	0.7	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (32) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
18	南木曾町	水ヶ沢	水温 (°C)	8.1	11.6	12.7	-	16.9	17.4	12.9	7.7	7.2	2.4	2.5	5.8		
			pH	7.2	7.4	7.5	-	7.4	7.6	7.5	7.3	7.7	7.8	7.5	7.0		
			電気伝導率 (mS/m)	3.9	4.1	4.4	-	3.8	4.2	4.8	4.1	4.3	4.2	3.7	3.9		
			流量 (m³/min)	0.5	0.6	0.3	-	1.3	0.7	0.3	0.4	0.4	0.2	0.6	0.4		
19		南木曾町	蘭川 (左岸) 支流	水温 (°C)	8.5	9.7	11.0	12.8	12.7	14.1	13.2	11.3	9.7	5.3	8.0	7.7	
				pH	7.2	7.4	7.3	7.0	7.1	7.1	7.8	7.2	6.8	7.7	7.8	8.1	
				電気伝導率 (mS/m)	4.0	4.1	4.2	3.0	3.2	3.8	3.9	3.6	3.9	4.2	3.6	4.2	
				流量 (m³/min)	0.04	0.04	0.08	0.66	0.27	0.07	0.03	0.06	0.05	0.04	0.08	0.06	
21			南木曾町	夏虫沢	水温 (°C)	7.7	11.2	12.8	15.4	15.9	17.5	13.2	7.9	6.2	1.6	2.6	4.6
					pH	7.4	7.3	7.5	6.8	6.9	7.2	7.2	7.5	7.1	7.1	7.4	7.5
					電気伝導率 (mS/m)	2.9	3.1	3.2	2.7	2.8	3.2	3.2	2.9	3.2	3.2	2.8	3.1
					流量 (m³/min)	0.6	0.5	0.6	3.8	4.0	0.4	0.4	0.6	0.4	0.3	1.6	0.9

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

「-」：豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (33) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
23	南木曾町	貝ヶ沢	水温 (°C)	7.8	11.5	12.4	15.1	15.7	18.2	13.4	8.7	6.1	2.3	2.4	4.9
			pH	6.8	7.1	7.2	7.4	6.7	7.2	7.3	7.5	6.4	6.1	6.8	7.3
			電気伝導率 (mS/m)	2.5	2.6	2.8	2.2	2.0	2.8	2.9	3.0	3.0	3.1	2.4	2.5
			流量 (m ³ /min)	2.8	3.8	2.3	9.6	8.6	3.1	1.7	2.9	1.9	0.8	5.5	3.8
24		南沢川中流	水温 (°C)	7.6	11.1	13.4	15.1	15.5	18.2	13.7	9.1	7.0	1.4	2.1	5.1
			pH	7.5	7.4	7.5	7.2	6.8	7.5	7.3	7.5	7.5	7.5	7.2	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	3.0	3.2	3.4	2.7	2.9	3.6	4.0	3.6	3.5	3.6	3.1	3.1
			流量 (m ³ /min)	18.9	20.2	14.0	73.5	44.4	33.6	12.7	15.8	10.6	8.6	22.0	30.6
25		南沢川上流	水温 (°C)	6.7	10.7	13.0	15.5	16.9	17.6	16.8	9.1	7.1	1.6	2.3	5.0
			pH	7.6	7.1	7.5	7.3	7.5	7.5	7.5	7.8	7.6	7.5	7.2	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	2.9	3.1	3.3	2.7	3.1	3.4	3.8	3.4	3.3	3.5	2.6	3.0
			流量 (m ³ /min)	15.7	20.5	10.8	65.6	23.8	21.6	10.0	12.9	9.0	6.5	20.2	27.6

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (34) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
26	南木曾町	蘭川中流	水温 (°C)	8.6	12.1	15.1	-	20.4	19.2	13.9	9.8	6.6	1.2	0.7	5.5
			pH	6.8	7.4	7.4	-	7.5	7.4	7.3	7.6	7.1	7.1	7.0	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	2.9	3.0	3.2	-	2.8	3.4	3.6	3.5	3.2	4.3	4.0	3.1
			流量 (m³/min)	71.8	83.8	70.0	-	102.7	116.2	55.9	64.1	52.5	46.8	62.0	81.1
27		小谷場沢水路	水温 (°C)	7.7	10.4	12.8	14.2	14.1	16.0	12.6	9.9	8.0	1.9	3.7	5.5
			pH	7.3	7.6	7.3	7.3	7.2	7.5	7.6	7.6	6.8	7.7	7.7	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	3.3	3.5	3.7	2.2	2.6	2.6	3.6	3.6	3.2	3.6	2.0	3.7
			流量 (m³/min)	0.04	0.03	0.03	0.64	0.36	0.12	0.05	0.02	0.02	0.03	0.08	0.05
28		蘭川中流	水温 (°C)	8.4	12.2	15.6	-	20.5	19.6	13.0	7.2	4.9	1.4	1.7	6.2
			pH	7.5	7.5	7.5	-	7.5	7.4	7.5	7.2	6.8	7.1	7.3	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	3.0	3.2	3.3	-	3.1	3.5	3.6	3.5	3.5	4.2	4.0	4.8
			流量 (m³/min)	97.8	125.4	83.0	-	128.6	131.3	60.6	81.6	61.2	62.1	113.4	115.9

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

「-」：豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (35) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
29	南木曾町	蘭川 (左岸) 支流	水温 (°C)	5.6	14.0	14.3	16.8	20.0	19.8	12.9	7.7	5.7	1.4	1.9	5.6
			pH	7.8	7.6	7.6	7.5	7.5	7.5	7.5	7.0	6.9	7.3	7.2	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	5.3	5.7	6.2	3.9	4.6	5.6	5.6	5.9	5.9	6.4	6.0	6.1
			流量 (m ³ /min)	0.05	0.09	0.05	0.22	0.18	0.11	0.06	0.06	0.04	0.08	0.04	0.03
30		蘭川 (左岸) 支流	水温 (°C)	7.0	13.4	13.9	16.0	18.2	19.0	13.7	8.0	5.7	1.8	1.6	6.3
			pH	7.4	7.5	7.6	7.6	7.7	7.5	7.6	7.0	6.8	7.4	6.9	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	4.7	4.7	5.2	3.5	3.7	4.3	4.9	5.0	5.0	5.5	5.1	5.1
			流量 (m ³ /min)	0.28	0.35	0.16	1.15	0.89	0.58	0.19	0.17	0.13	0.13	0.18	0.11
31		大沢川	水温 (°C)	7.8	12.9	13.4	16.1	17.0	18.3	13.9	8.7	6.5	1.6	1.6	5.0
			pH	7.8	7.6	7.6	7.3	7.4	7.3	7.6	7.5	7.5	7.4	7.1	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	4.1	4.2	4.5	2.9	3.8	4.5	4.4	4.2	4.3	4.7	4.3	4.2
			流量 (m ³ /min)	8.1	13.4	6.6	40.1	21.6	11.3	5.6	5.6	4.9	5.3	8.0	6.5

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (36) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
33	南木曾町	蘭川 (左岸) 支流	水温 (°C)	7.6	13.0	13.1	15.3	17.4	18.3	14.2	9.2	7.3	2.9	2.6	5.6
			pH	7.5	7.7	7.6	7.5	7.5	7.5	7.6	7.3	6.9	7.4	7.2	7.4
			電気伝導率 (mS/m)	6.0	6.2	6.6	5.1	5.4	6.4	6.3	6.1	6.2	6.4	6.3	6.3
			流量 (m ³ /min)	0.9	1.6	0.6	2.9	2.8	1.4	0.7	0.6	0.7	0.8	1.0	0.7
35		大迷沢 (右岸) 支流	水温 (°C)	-	13.3	13.7	16.1	17.6	18.4	12.5	8.3	7.2	1.2	2.0	5.4
			pH	-	7.4	7.4	7.3	7.2	7.4	7.8	7.3	7.8	7.7	7.1	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	-	3.8	3.1	2.6	2.3	3.8	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	4.0
			流量 (m ³ /min)	-	2.7	1.3	14.0	4.4	1.6	1.4	1.4	0.9	0.7	1.3	1.1
36		大迷沢下流	水温 (°C)	10.0	12.8	13.5	-	18.0	17.8	13.2	7.9	7.5	2.7	1.9	5.8
			pH	7.5	7.2	7.6	-	7.2	7.6	7.3	7.1	7.5	7.3	7.0	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	4.4	4.6	4.7	-	2.2	4.3	4.8	4.7	4.6	4.9	4.8	4.8
			流量 (m ³ /min)	2.6	3.3	2.7	-	9.6	4.1	3.5	2.7	1.8	2.7	2.4	1.8

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

「-」：地点番号35の4月はアクセス道路通行止めにより測定不可。

地点番号36の7月は豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (37) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
37	南木曾町	小迷沢	水温 (°C)	9.1	12.6	14.5	-	20.0	20.2	13.3	7.3	6.6	1.8	0.9	5.2
			pH	7.0	7.5	7.6	-	7.2	7.3	7.4	7.1	7.2	7.3	7.0	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	4.8	5.0	5.1	-	3.7	4.8	5.1	5.0	4.9	5.3	5.3	5.2
			流量 (m ³ /min)	0.5	0.6	0.4	-	2.0	1.6	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4
38		蘭川下流	水温 (°C)	10.3	14.2	16.7	-	23.1	19.8	14.1	7.4	7.6	4.2	1.1	5.3
			pH	7.0	7.4	7.7	-	7.2	7.4	7.4	7.2	6.7	7.5	7.2	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	3.9	4.7	4.8	-	5.0	4.1	5.2	4.2	4.7	5.9	4.0	4.2
			流量 (m ³ /min)	54.8	27.5	19.9	-	141.0	72.6	20.6	52.8	15.3	37.7	77.4	37.0
39		男埴川 (右岸) 支流	水温 (°C)	7.8	14.1	13.9	15.8	16.2	18.7	15.1	8.2	7.5	2.8	3.3	7.6
			pH	7.4	7.0	7.5	7.6	7.0	7.3	7.6	6.8	7.5	7.0	6.9	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	4.5	4.6	3.2	3.3	2.7	4.3	3.4	4.7	4.9	5.6	5.2	5.1
			流量 (m ³ /min)	0.10	0.07	0.19	0.38	0.52	0.08	0.06	0.06	0.05	0.03	0.07	0.04

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

「-」：豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (38) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
40	南木曾町	ドンガメ沢 上流	水温 (°C)	6.7	13.9	15.1	17.1	17.7	19.5	15.2	7.7	5.6	1.4	2.0	6.2	
			pH	6.7	7.5	7.4	7.2	7.6	7.3	7.5	6.9	7.1	7.1	7.1	7.1	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	4.1	4.4	3.0	3.3	2.8	3.5	4.4	4.3	4.7	4.7	4.5	4.4	4.4
			流量 (m ³ /min)	0.4	0.4	1.4	2.6	2.7	1.1	0.4	0.4	0.3	0.4	1.0	0.3	
41		男埴川 (右岸) 支流	水温 (°C)	11.4	13.5	13.8	13.7	14.1	15.2	14.0	11.5	10.7	9.3	0.3	11.4	
			pH	7.5	7.5	7.6	7.0	7.1	7.1	7.4	6.8	7.2	6.8	6.9	7.4	
			電気伝導率 (mS/m)	10.1	10.0	7.6	7.9	7.2	9.2	10.2	10.0	10.4	10.4	10.3	10.3	
			流量 (m ³ /min)	0.003	0.003	0.002	0.010	0.008	0.004	0.002	0.003	0.002	0.002	0.001	0.003	
42			薬師沢	水温 (°C)	4.3	13.4	13.9	15.4	17.0	18.4	14.0	7.3	4.1	0.2	0.4	5.1
				pH	7.3	7.5	7.5	7.4	7.6	7.5	7.6	7.8	7.7	7.6	7.5	7.6
				電気伝導率 (mS/m)	3.6	3.7	3.0	2.8	2.1	3.6	3.9	3.9	4.4	4.5	4.1	4.1
				流量 (m ³ /min)	0.8	1.0	2.1	6.9	3.8	1.1	0.7	0.5	0.5	0.6	1.1	0.6

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (39) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
43	南木曾町	男埴川上流	水温 (°C)	7.8	12.5	14.8	15.6	17.4	18.8	15.2	8.6	6.5	0.3	2.5	6.1		
			pH	7.1	6.6	7.5	7.6	7.2	7.5	7.5	7.0	7.1	7.0	7.5	7.6		
			電気伝導率 (mS/m)	3.8	3.9	3.0	3.1	2.8	3.9	4.0	3.9	4.2	4.2	4.1	4.0		
			流量 (m ³ /min)	6.1	5.3	12.5	29.0	15.1	5.0	4.7	5.1	3.3	2.8	4.2	3.8		
44		南木曾町	井戸沢下流	水温 (°C)	7.9	13.8	14.5	16.1	16.0	19.5	15.5	8.6	7.9	3.5	3.9	8.4	
				pH	7.0	7.3	7.5	7.2	7.2	7.5	7.6	6.8	7.5	7.1	7.0	7.6	
				電気伝導率 (mS/m)	4.0	4.8	3.4	3.9	3.3	4.2	5.0	4.7	5.1	5.1	4.7	4.8	
				流量 (m ³ /min)	1.9	0.4	3.7	6.5	8.0	3.6	0.3	0.5	0.4	0.2	1.3	0.3	
45			南木曾町	男埴川 (右岸) 支流	水温 (°C)	10.3	11.3	13.8	14.3	14.5	15.1	13.8	10.5	7.7	5.4	5.5	9.2
					pH	6.9	7.7	7.9	7.0	7.2	7.4	7.5	6.9	6.9	6.9	6.9	7.2
					電気伝導率 (mS/m)	4.4	4.3	3.9	3.2	3.1	3.5	4.0	4.7	4.5	4.5	4.4	4.2
					流量 (m ³ /min)	0.005	0.005	0.015	0.055	0.057	0.013	0.007	0.007	0.005	0.005	0.006	0.005

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (40) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
46	南木曾町	男埴川 (右岸) 支流	水温 (°C)	9.4	12.5	15.2	14.7	16.8	17.8	15.2	8.0	6.9	1.9	3.5	5.7
			pH	7.1	7.1	7.5	8.0	6.6	7.7	7.5	7.0	7.7	6.9	7.3	7.3
			電気伝導率 (mS/m)	4.3	4.4	3.3	3.1	3.4	4.2	4.7	4.5	4.6	4.7	4.4	4.3
			流量 (m ³ /min)	0.07	0.05	0.08	0.40	0.37	0.11	0.06	0.04	0.05	0.03	0.03	0.03
47		男埴川 (右岸) 支流	水温 (°C)	9.7	13.4	14.4	14.5	15.7	16.7	14.7	8.6	7.6	1.3	4.5	6.2
			pH	8.1	7.5	7.4	7.3	6.4	7.3	7.4	7.2	7.4	7.0	7.2	7.4
			電気伝導率 (mS/m)	4.2	4.6	3.2	3.5	3.6	4.2	4.6	4.9	4.6	4.7	4.4	4.4
			流量 (m ³ /min)	0.07	0.05	0.10	0.51	0.29	0.07	0.04	0.05	0.06	0.03	0.04	0.04
48		男滝上流	水温 (°C)	7.4	12.8	14.3	16.2	17.6	18.7	15.3	8.7	5.6	0.1	2.8	6.3
			pH	7.6	7.1	7.6	7.3	7.3	7.5	7.4	7.2	7.1	7.0	7.6	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	3.8	4.0	3.3	2.9	3.3	3.9	4.0	4.0	4.3	4.2	4.1	4.3
			流量 (m ³ /min)	9.5	5.7	3.7	66.0	23.2	7.6	4.3	5.2	4.1	2.5	3.3	3.9

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (41) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
49	南木曾町	男埴川 (右岸) 支流	水温 (°C)	11.0	17.3	17.0	16.5	18.8	19.4	16.3	6.6	4.9	-0.1	2.9	5.5
			pH	7.2	7.5	7.8	7.3	7.4	7.4	7.5	7.5	7.1	7.1	7.5	7.0
			電気伝導率 (mS/m)	4.7	4.1	3.0	2.9	2.9	3.7	4.1	4.3	4.0	4.9	3.8	3.8
			流量 (m ³ /min)	0.006	0.003	0.006	0.052	0.037	0.004	0.002	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003
50		男埴川 (右岸) 支流	水温 (°C)	8.4	11.6	14.7	14.7	16.5	19.4	14.9	8.2	6.5	1.0	2.3	5.4
			pH	7.1	7.1	7.4	6.7	6.9	7.9	7.3	7.1	7.6	7.2	7.1	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	4.1	4.3	3.9	3.4	3.4	4.5	4.5	4.9	4.5	5.1	5.0	5.0
			流量 (m ³ /min)	0.04	0.05	0.03	0.06	0.04	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02
51		男埴川中流	水温 (°C)	9.0	13.4	15.9	-	18.9	19.4	15.4	7.2	4.5	0.4	2.4	5.8
			pH	7.5	7.4	7.6	-	7.6	7.5	7.4	7.3	7.2	7.4	7.2	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	4.3	4.4	3.9	-	3.8	4.4	4.7	4.6	4.6	5.2	5.3	5.1
			流量 (m ³ /min)	14.5	12.0	4.6	-	17.6	16.7	7.5	6.1	5.0	3.1	7.3	7.7

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

「-」：豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (42) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
52	南木曾町	男埴川 (左岸) 支流	水温 (°C)	7.8	10.9	13.7	-	14.9	18.8	15.4	8.9	7.0	3.3	3.6	5.4
			pH	7.2	7.1	7.0	-	6.5	6.6	7.4	6.6	7.0	6.9	6.7	7.4
			電気伝導率 (mS/m)	4.1	4.4	3.7	-	5.1	4.4	4.7	4.5	4.1	4.9	4.9	4.8
			流量 (m³/min)	0.21	0.23	0.03	-	0.21	0.22	0.19	0.10	0.14	0.04	0.11	0.06
53		女滝上流	水温 (°C)	8.3	12.9	15.1	16.7	18.2	19.1	15.9	8.8	5.9	0.1	3.2	7.1
			pH	7.6	7.7	7.5	7.4	7.2	7.6	7.6	7.5	7.2	7.1	7.5	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	5.4	5.3	4.3	3.7	3.9	4.9	5.2	4.9	5.2	6.2	7.6	6.0
			流量 (m³/min)	6.5	3.8	1.7	26.2	9.3	3.4	2.1	2.1	1.6	1.2	2.8	2.2
54		男埴川 (左岸) 支流	水温 (°C)	11.8	12.7	11.9	12.2	12.6	13.8	13.4	10.7	11.4	7.1	8.8	10.0
			pH	7.5	7.5	7.4	7.3	7.1	7.7	7.5	7.3	7.5	7.6	7.5	7.2
			電気伝導率 (mS/m)	5.3	5.2	3.5	4.1	4.5	5.2	5.4	5.7	5.2	5.6	5.1	5.4
			流量 (m³/min)	0.04	0.03	0.06	0.36	0.69	0.08	0.02	0.01	0.03	0.02	0.02	0.02

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

「-」：豪雨災害による増水により測定不可。

表 3-5-5-1 (43) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
57	南木曾町	アンコ沢下流	水温 (°C)	6.8	12.3	14.2	14.5	16.7	19.5	15.7	7.7	6.0	1.8	2.6	6.1
			pH	7.1	6.8	7.4	7.3	7.5	7.5	7.4	7.1	7.0	7.0	7.7	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	3.5	3.9	2.7	2.9	2.4	4.3	4.3	3.9	4.0	3.9	3.7	3.7
			流量 (m ³ /min)	0.5	0.7	1.4	5.6	2.1	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.7	0.3
58		三十沢上流	水温 (°C)	9.4	13.5	15.1	16.7	17.1	17.9	15.2	7.5	6.9	0.7	1.4	5.9
			pH	7.7	7.0	7.6	7.4	6.8	7.5	7.4	7.3	7.2	7.7	7.7	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	3.9	4.4	3.9	3.4	3.4	4.3	5.1	4.6	4.7	4.5	4.1	4.6
			流量 (m ³ /min)	5.1	2.2	1.1	9.3	9.6	2.9	1.3	1.1	0.6	0.6	1.3	1.3
59		馬の背沢支流	水温 (°C)	6.3	13.1	14.1	14.3	16.3	18.8	15.2	8.0	6.1	2.3	3.5	7.2
			pH	7.2	7.4	7.4	7.2	7.0	7.6	7.5	7.0	7.5	7.0	7.0	7.7
			電気伝導率 (mS/m)	4.4	4.8	3.6	3.6	3.3	4.9	5.1	4.9	4.5	4.7	4.7	4.6
			流量 (m ³ /min)	0.3	0.4	0.7	2.3	1.2	0.2	0.1	0.3	0.1	0.2	0.6	0.2

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (44) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
60	南木曾町	アンコ沢上流	水温 (°C)	9.2	11.5	13.9	14.6	16.4	17.2	15.1	8.0	6.8	2.1	1.6	5.1
			pH	7.7	7.6	7.6	7.5	7.1	7.7	7.4	7.8	7.1	6.9	7.2	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	3.5	3.6	3.3	2.9	3.0	4.0	4.5	3.8	3.9	3.8	3.7	3.9
			流量 (m³/min)	0.4	0.8	0.2	3.7	3.0	0.3	0.2	0.4	0.2	0.1	0.2	0.3
61		権現沢上流	水温 (°C)	8.5	11.6	14.4	15.0	16.4	16.9	14.7	7.2	6.1	1.3	1.8	5.3
			pH	7.8	7.5	7.6	7.4	7.4	7.6	7.6	7.2	7.2	7.1	7.6	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	3.9	4.0	3.7	3.5	3.7	4.5	4.8	4.2	4.3	4.2	4.0	4.3
			流量 (m³/min)	0.8	1.5	0.2	9.4	3.8	0.6	0.4	0.6	0.4	0.2	0.5	0.6
62		権現沢上流	水温 (°C)	8.5	11.5	14.2	14.8	16.1	16.6	14.6	7.0	6.1	1.3	1.7	5.0
			pH	7.9	7.8	7.4	7.3	7.4	7.6	7.5	7.2	8.0	7.5	7.6	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	3.7	3.8	3.3	3.3	3.5	4.2	4.6	4.0	4.1	4.0	3.7	4.1
			流量 (m³/min)	0.65	1.54	0.30	9.51	4.01	0.77	0.32	0.38	0.23	0.05	0.43	0.46

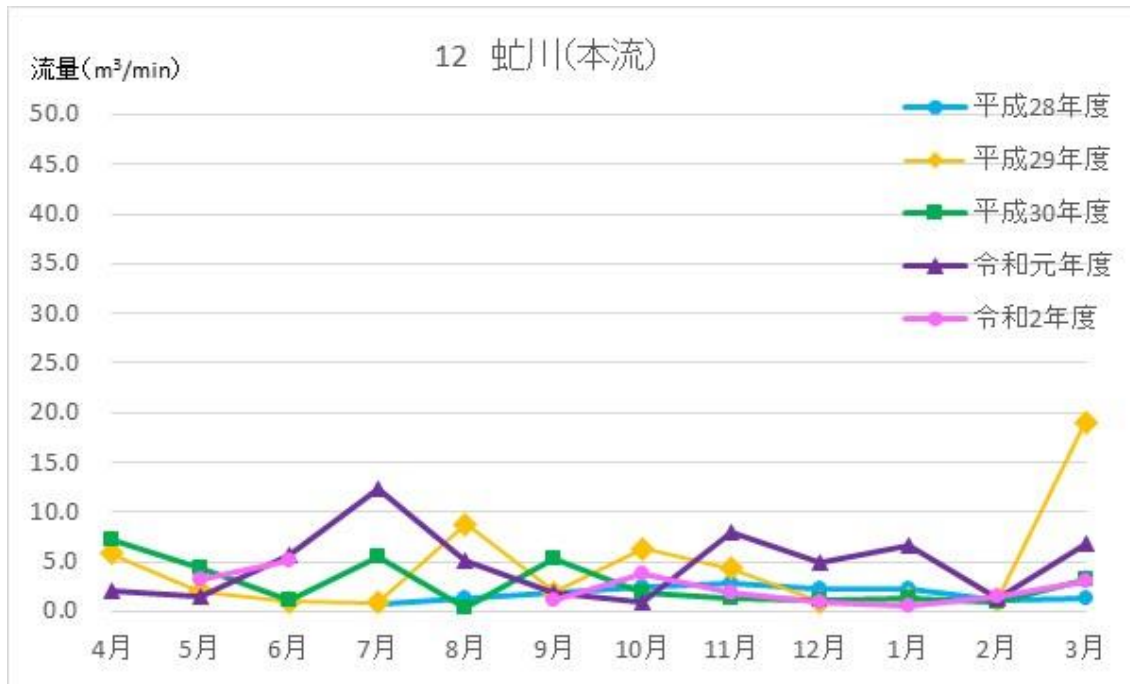
注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

表 3-5-5-1 (45) 地表水の流量の調査結果 (南木曾町)

地点番号	市町村名	調査地点	調査項目	令和2年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
63	南木曾町	井戸沢上流	水温 (°C)	7.7	11.9	12.2	13.3	14.4	16.9	14.4	10.3	7.9	3.0	5.1	7.6
			pH	7.8	7.6	7.8	7.2	7.4	7.6	7.6	7.8	7.5	7.2	7.7	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	3.4	3.7	2.8	3.5	2.8	4.1	4.3	3.8	3.7	3.6	3.5	3.5
			流量 (m ³ /min)	0.4	0.4	0.8	2.4	1.9	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2

注：地点番号は図3-5-3-1(5)を参照。

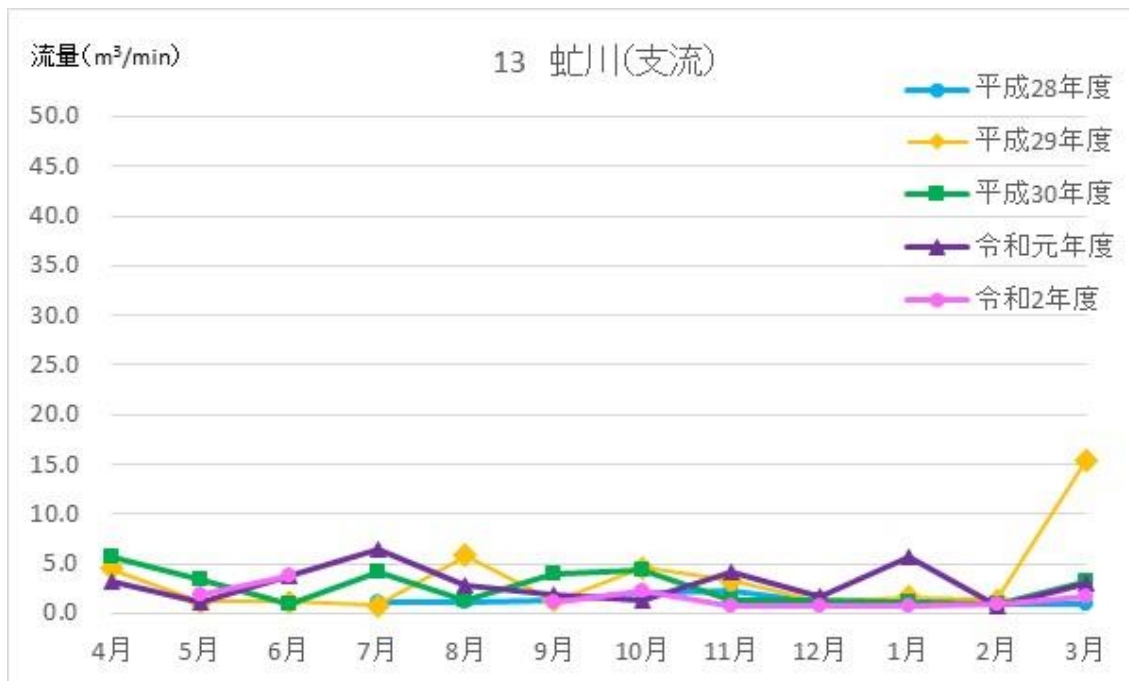
測定方法：流速計測法



注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。
 注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(36) 地表水の流量の調査結果
 (12 豊丘村 虻川(本流))

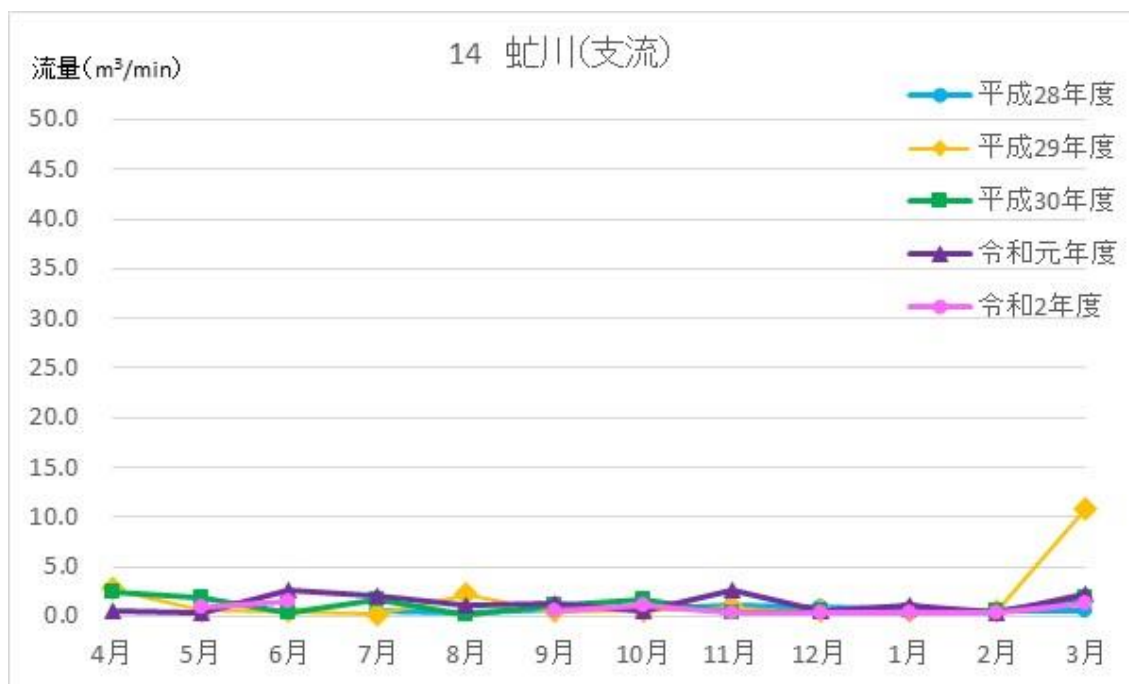
測定方法：流速計測法



注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。
 注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(37) 地表水の流量の調査結果
 (13 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：流速計測法



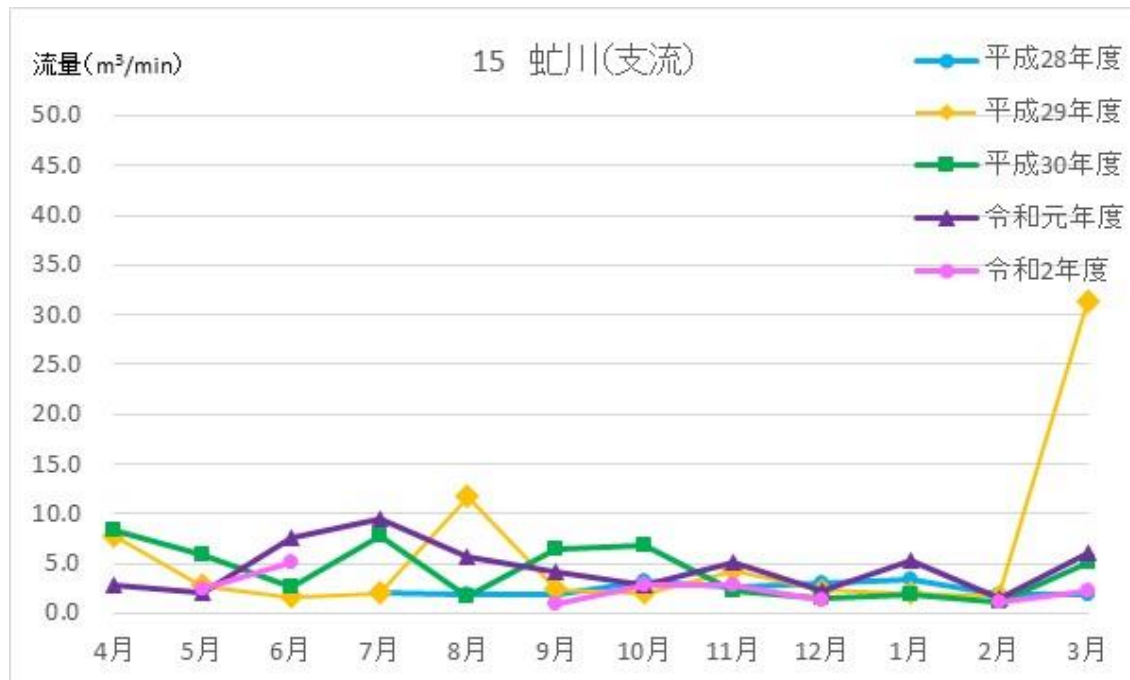
注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。

注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。

注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(38) 地表水の流量の調査結果
(14 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：流速計測法



注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。

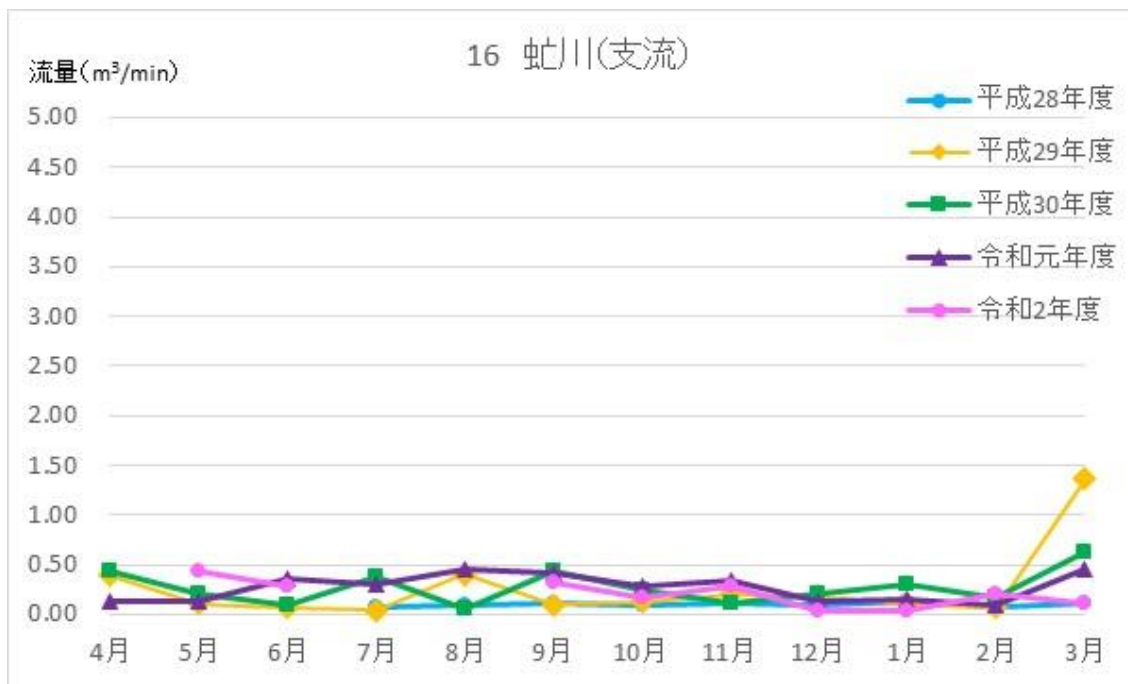
注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。

注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

注4：令和2年度1月期は凍結により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(39) 地表水の流量の調査結果
(15 豊丘村 虻川(支流))

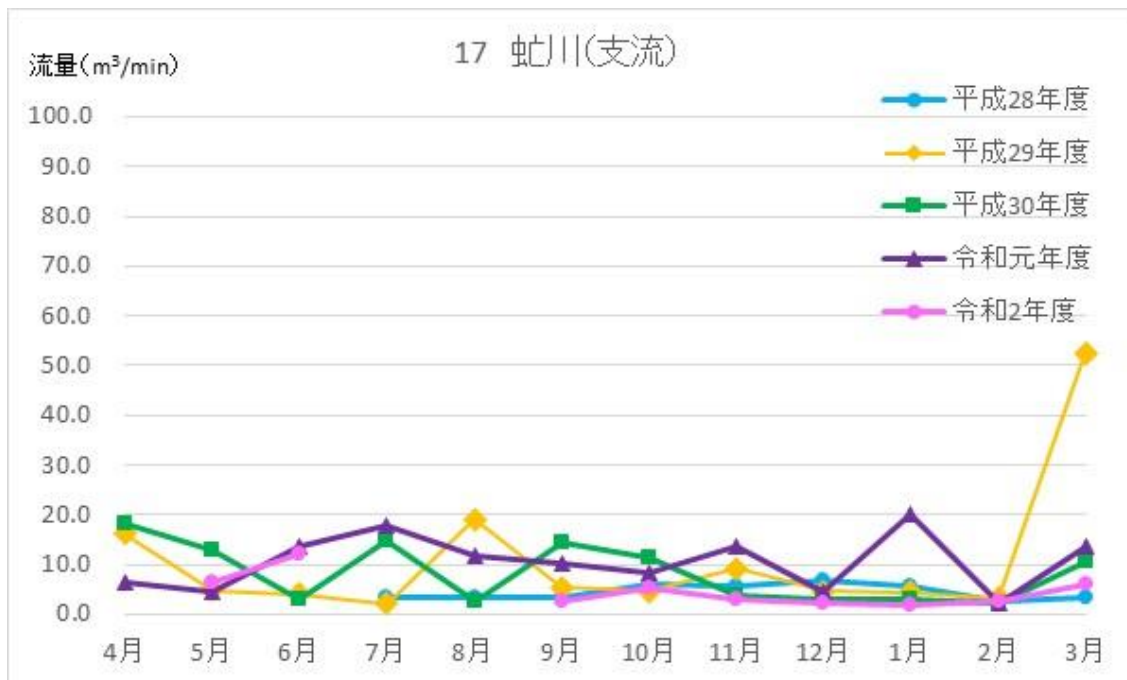
測定方法：流速計測法



注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。
注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。
注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(40) 地表水の流量の調査結果
(16 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：流速計測法



注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。
注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。
注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(41) 地表水の流量の調査結果
(17 豊丘村 虻川(支流))

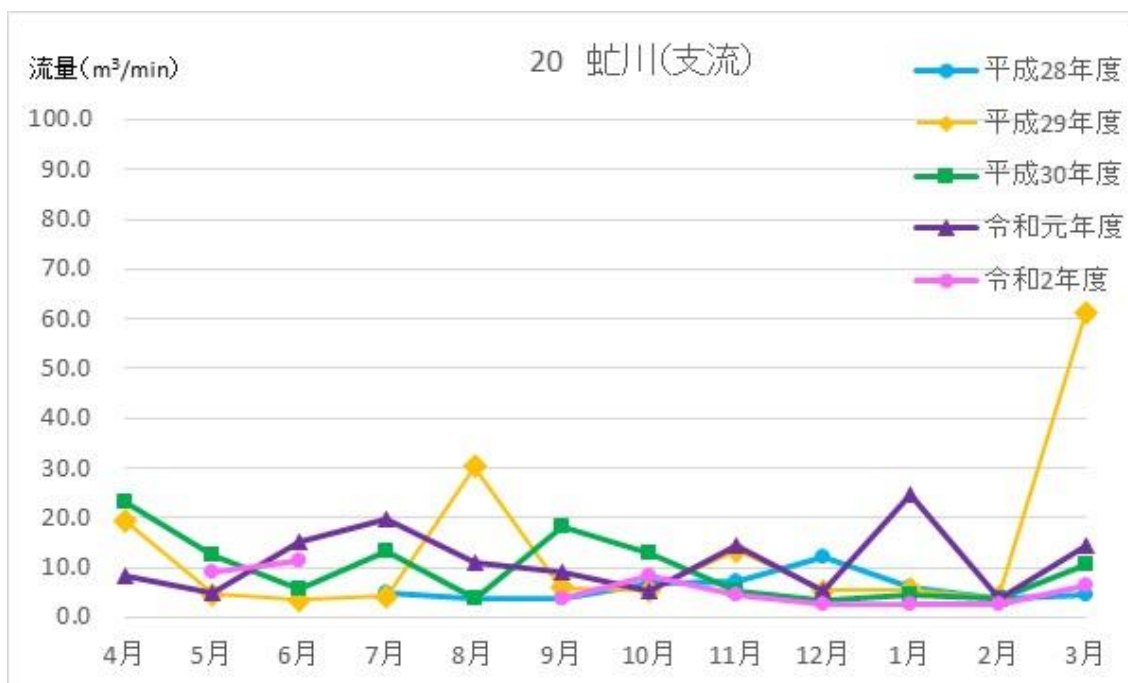
測定方法：流速計測法



注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。
注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。
注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (42) 地表水の流量の調査結果
(18 豊丘村 虻川(本流))

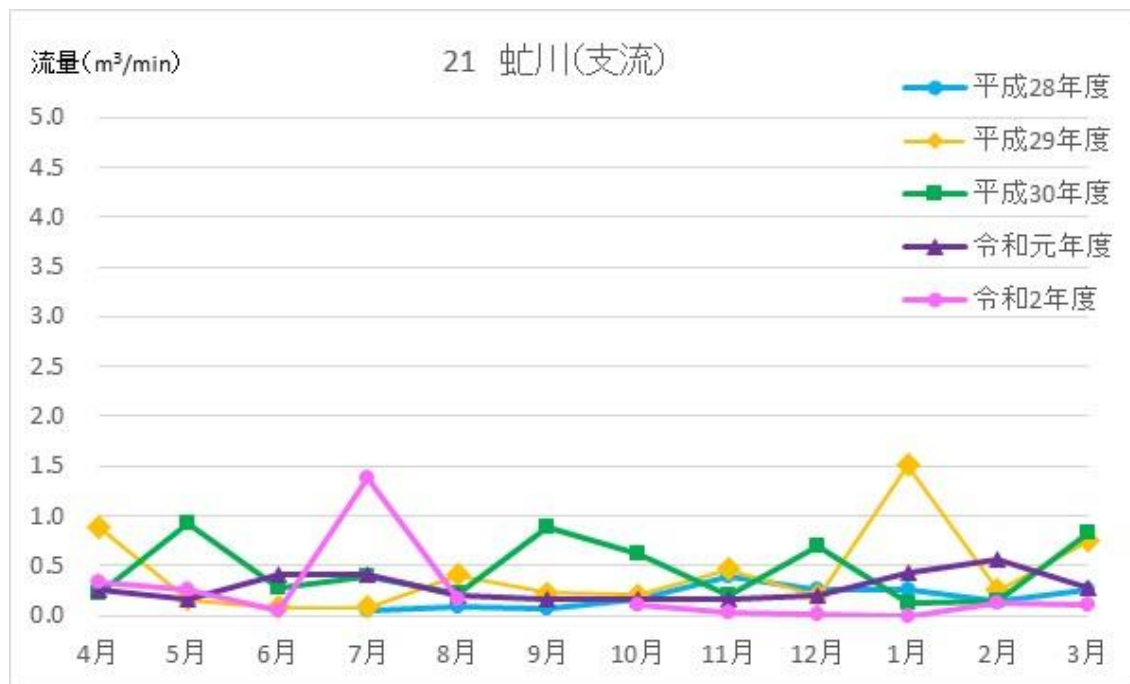
測定方法：流速計測法



注1：平成29年度3月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。
注2：令和2年度4月期は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止したため、欠測。
注3：令和2年度7～8月期は豪雨災害に伴う土砂崩れにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (43) 地表水の流量の調査結果
(20 豊丘村 虻川(支流))

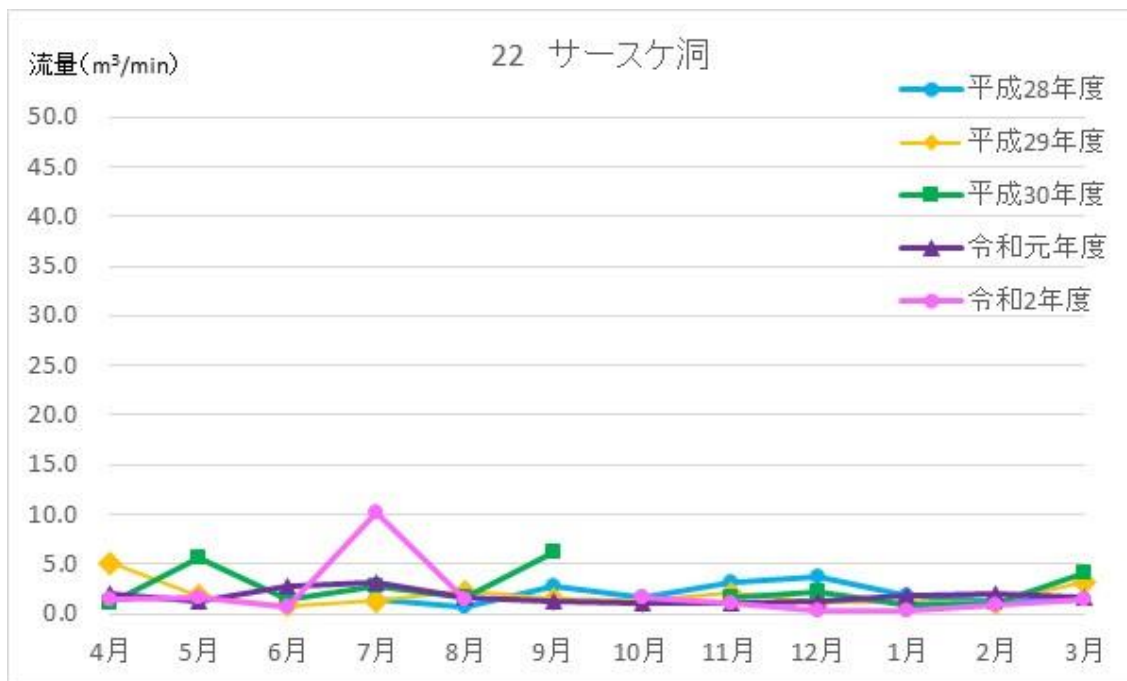
測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度9月期は豪雨災害の復旧工事に伴う道路通行止めにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(44) 地表水の流量の調査結果
(21 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

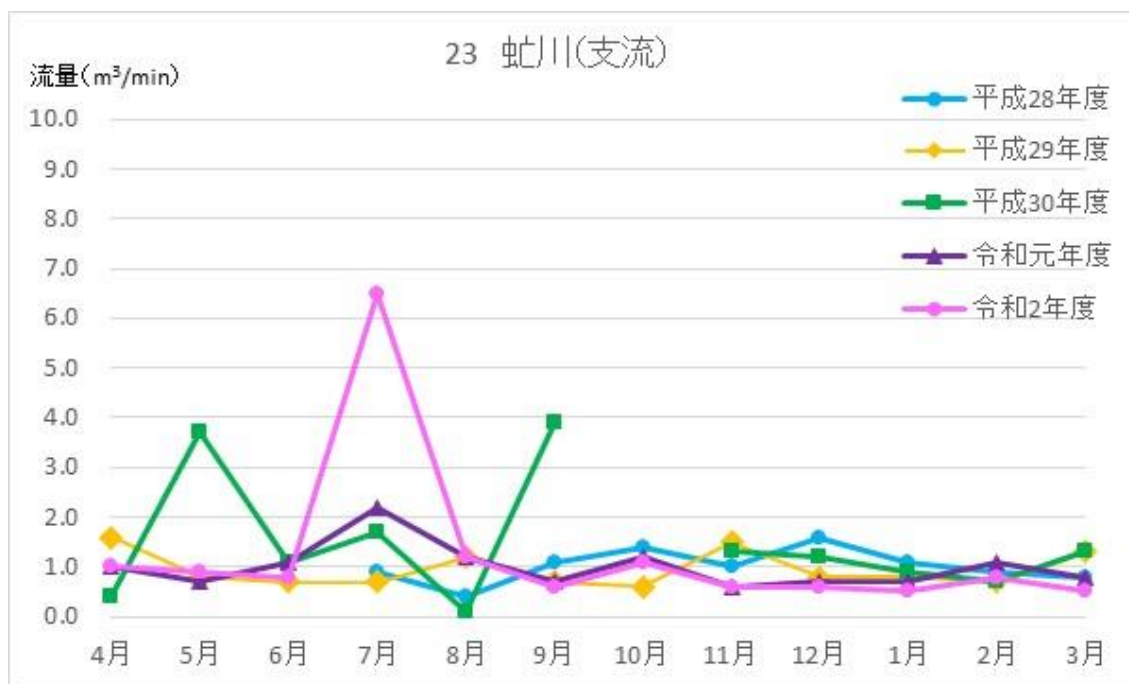
注2：平成30年度10月期は所有者事情により測定できなかったため、欠測。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注4：令和2年度9月期は豪雨災害の復旧工事に伴う道路通行止めにより測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(45) 地表水の流量の調査結果
(22 豊丘村 サースケ洞)

測定方法：流速計測法



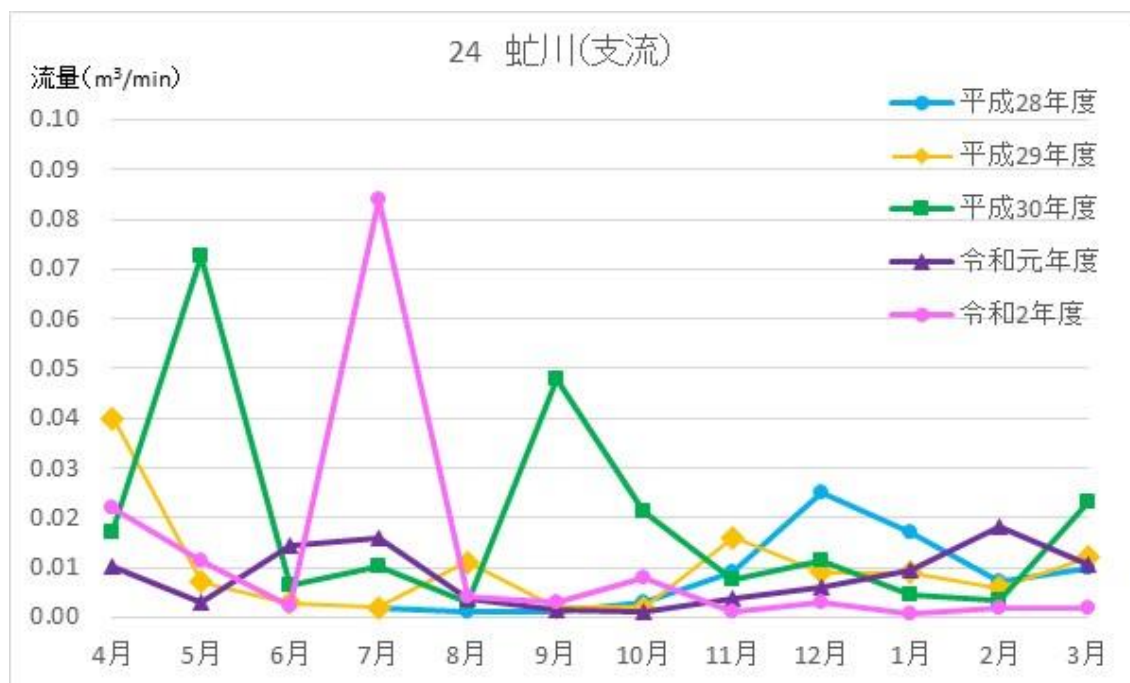
注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：平成30年度10月期は所有者事情により測定できなかったため、欠測。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (46) 地表水の流量の調査結果
(23 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：容器法

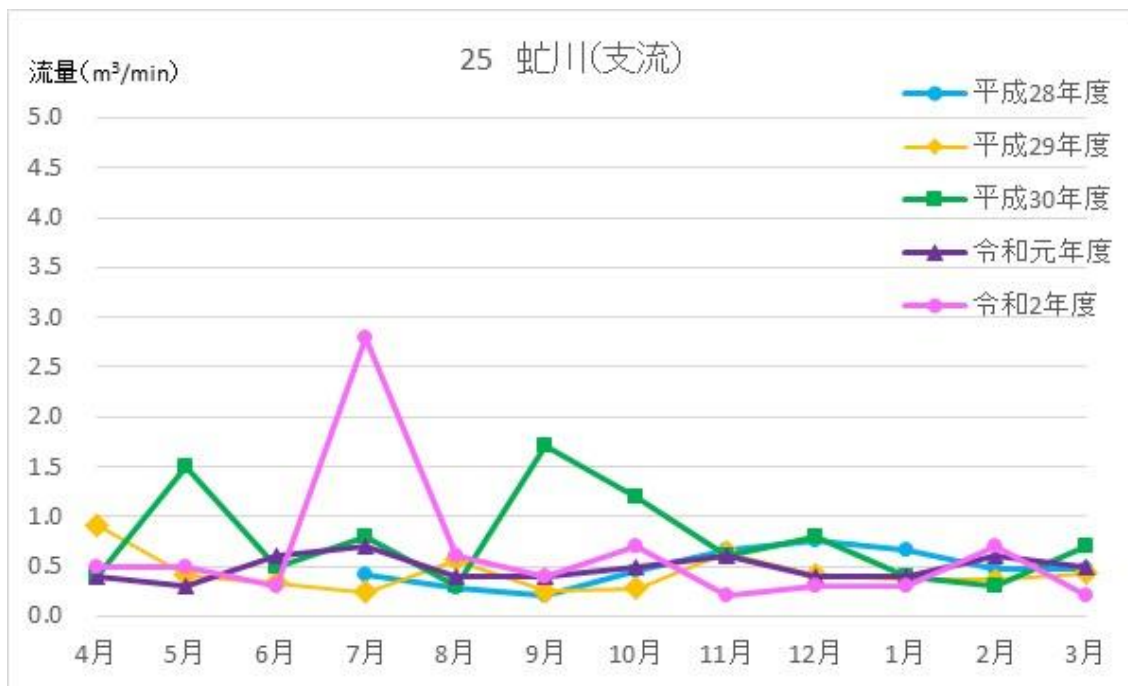


注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (47) 地表水の流量の調査結果
(24 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：流速計測法

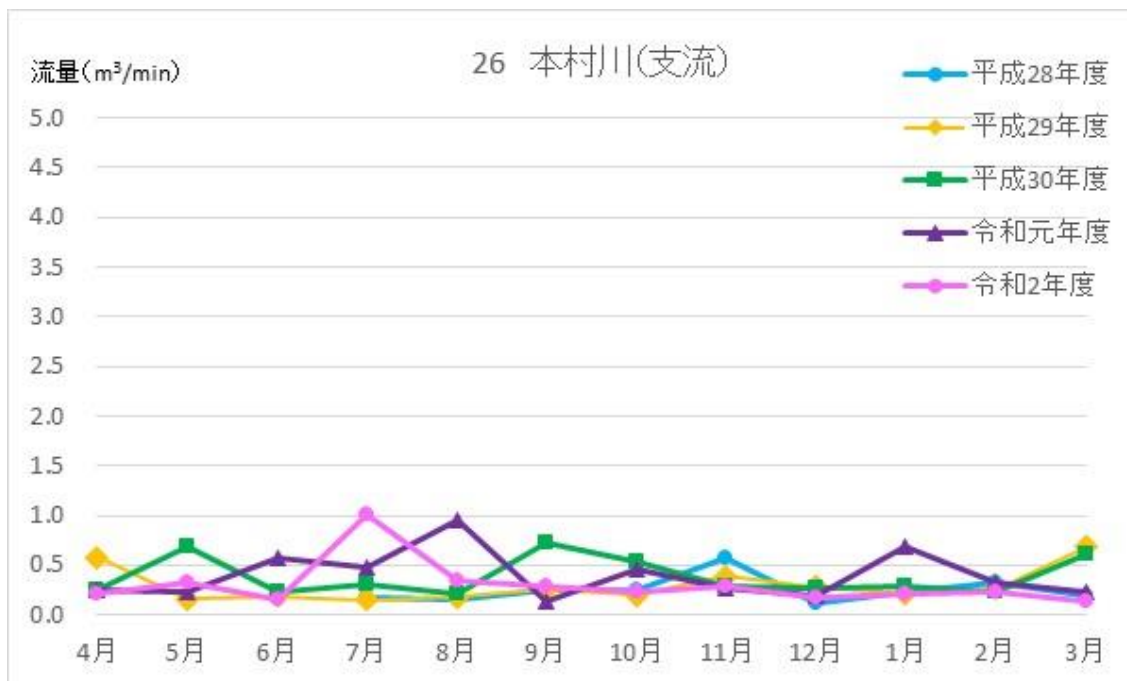


注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(48) 地表水の流量の調査結果
(25 豊丘村 虻川(支流))

測定方法：流速計測法



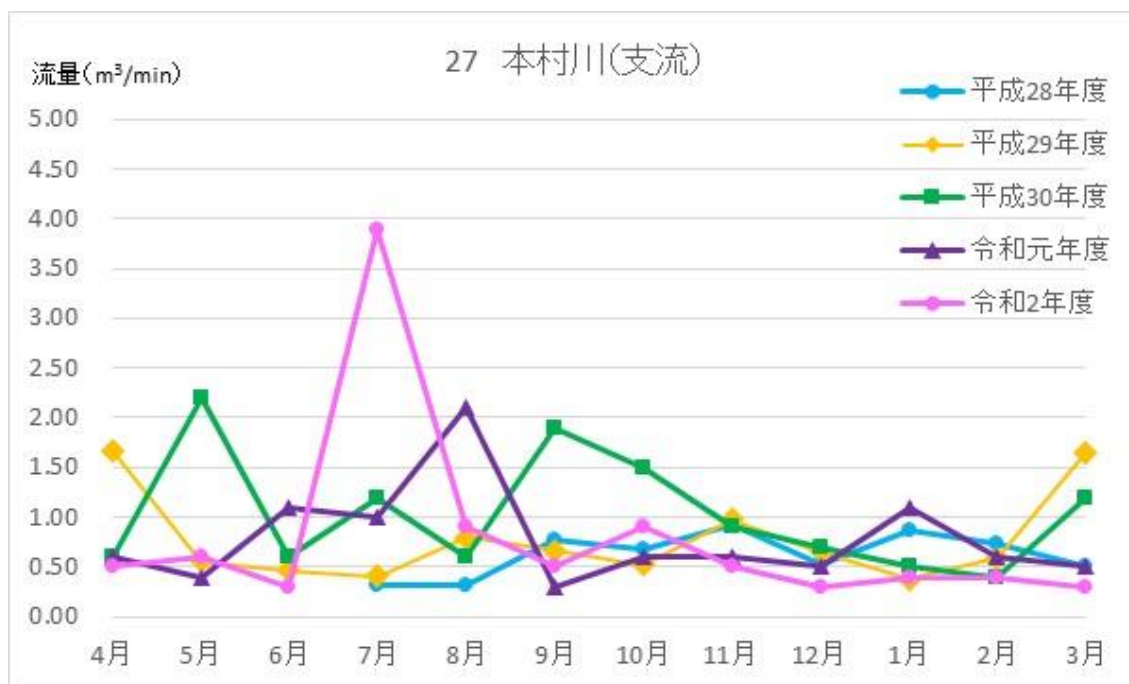
注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度8月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(49) 地表水の流量の調査結果
(26 豊丘村 本村川(支流))

測定方法：流速計測法



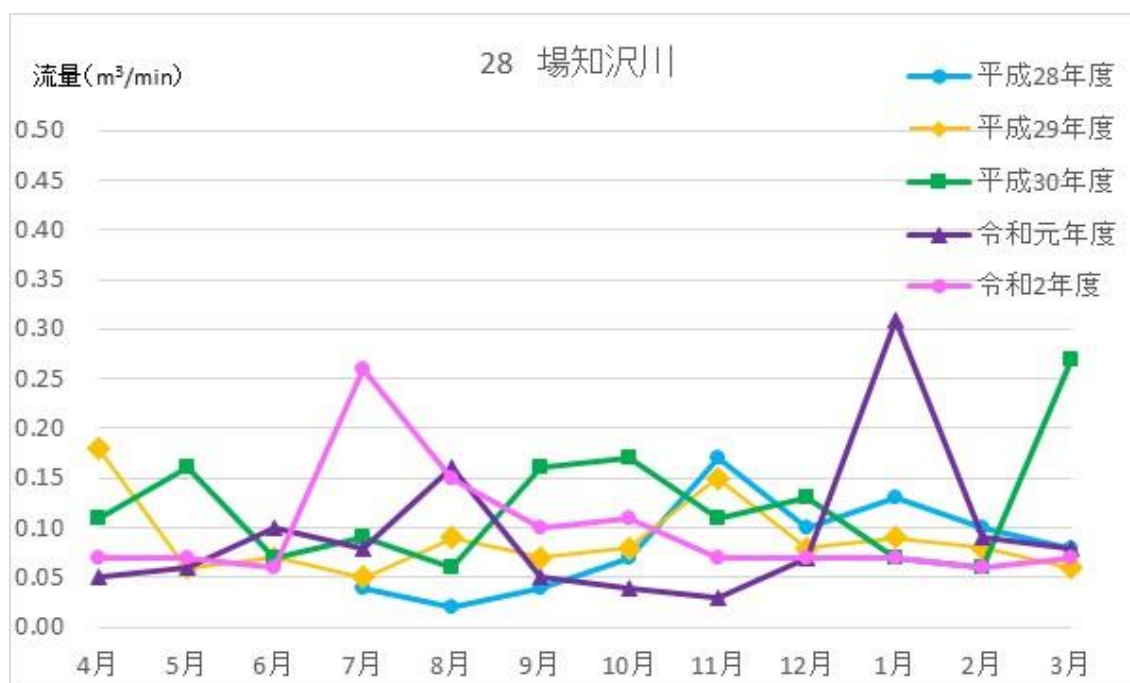
注1：平成30年度5月期は測定日の前々日から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度8月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (50) 地表水の流量の調査結果
(27 豊丘村 本村川(支流))

測定方法：容器法



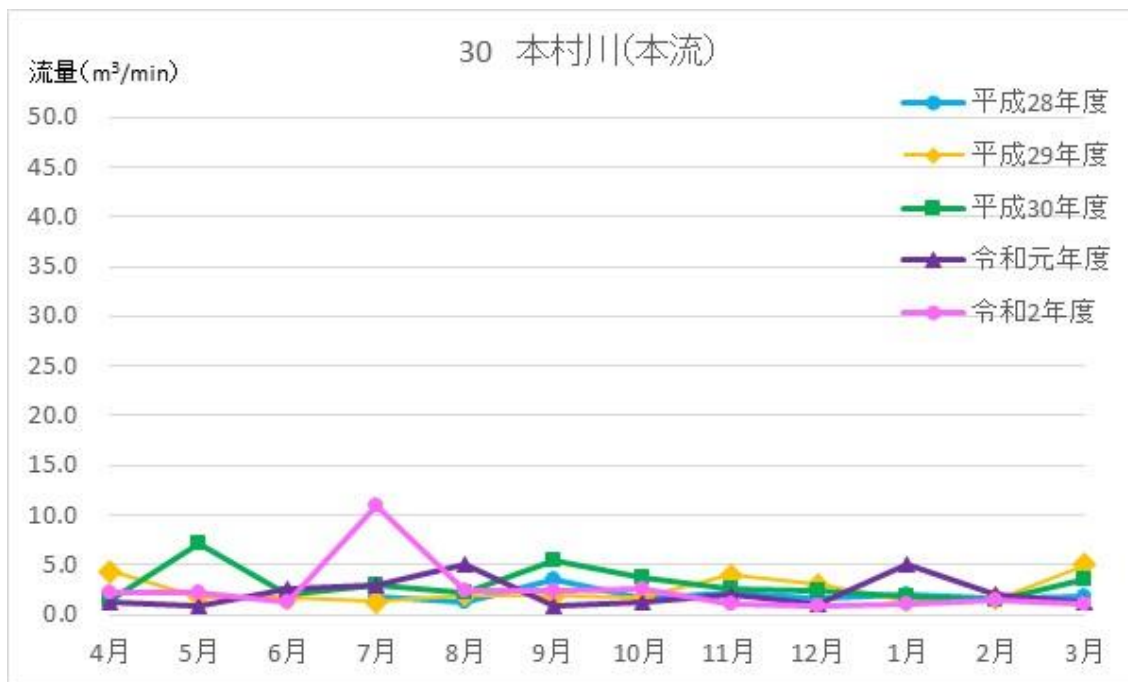
注1：平成30年度3月期は測定日の前日から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度1月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (51) 地表水の流量の調査結果
(28 豊丘村 場知沢川)

測定方法：流速計測法



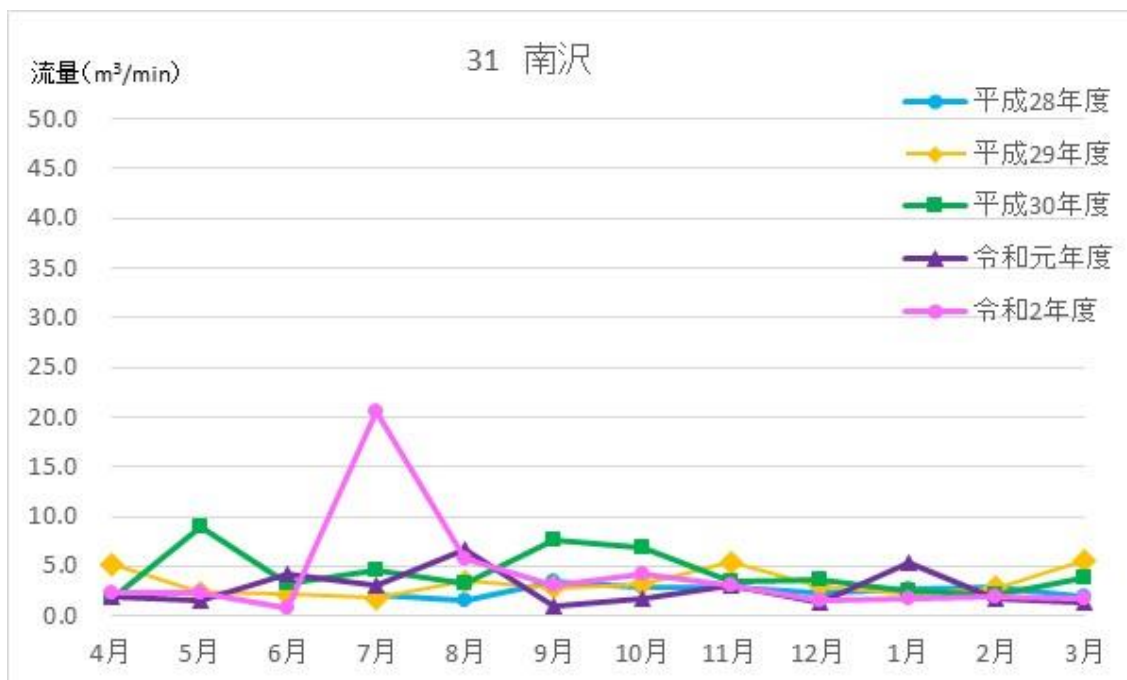
注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度8、1月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (52) 地表水の流量の調査結果
(30 豊丘村 本村川 (本流))

測定方法：流速計測法



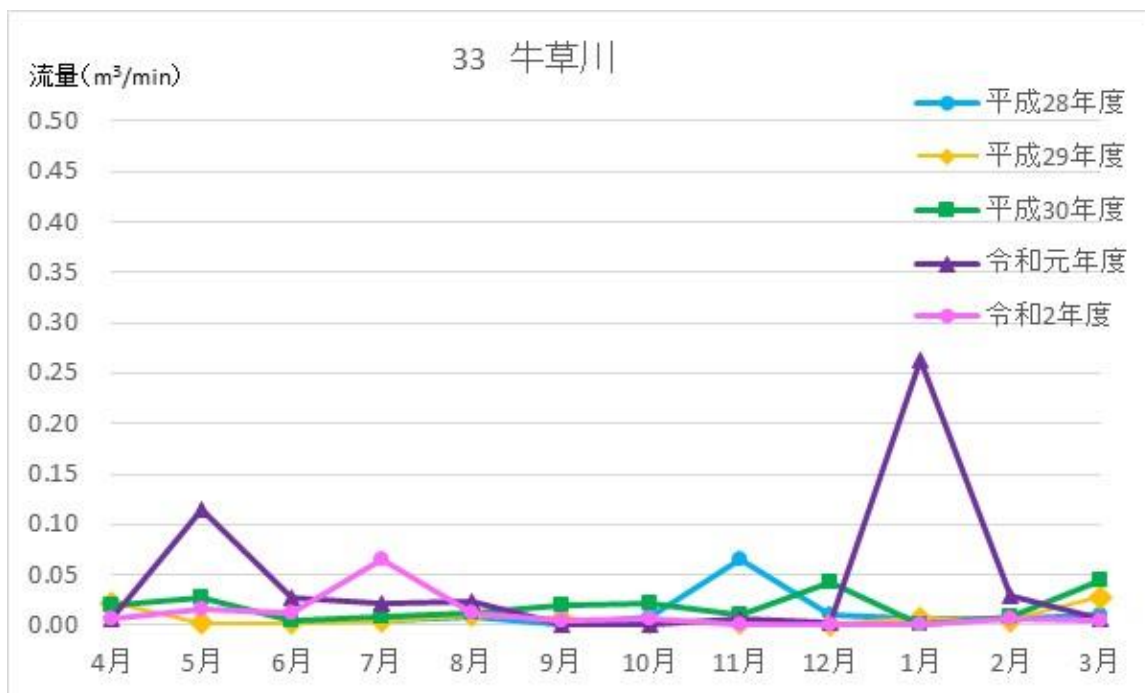
注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度8、1月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (53) 地表水の流量の調査結果
(31 豊丘村 南沢)

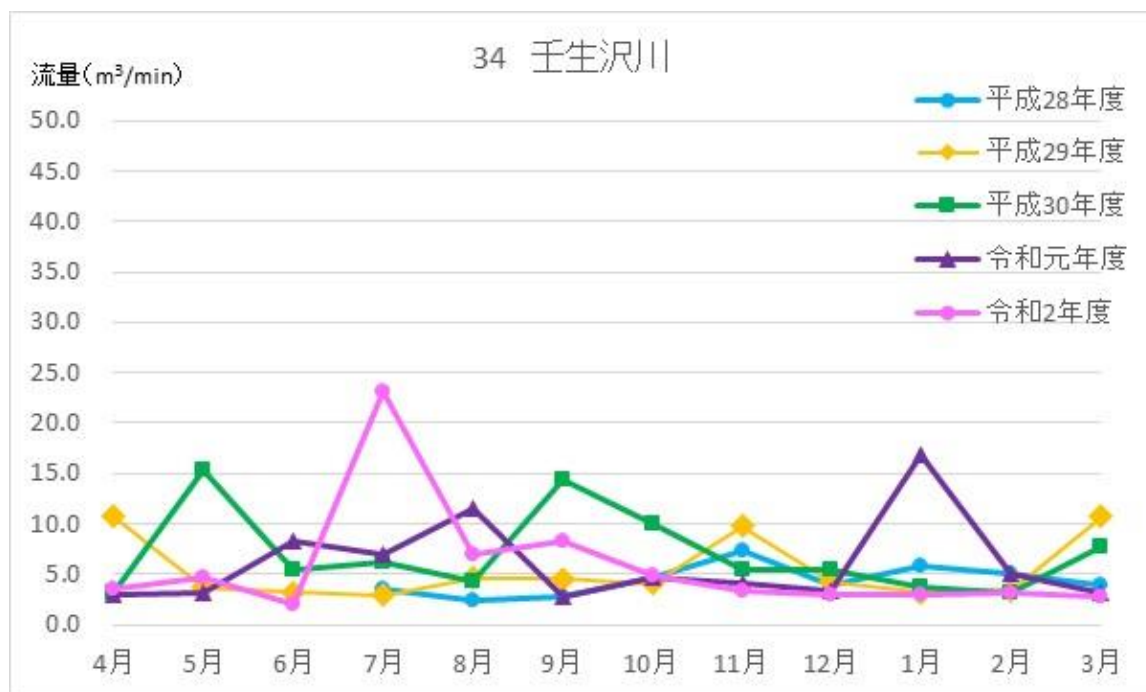
測定方法：容器法



注：令和元年度1月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (54) 地表水の流量の調査結果
(33 豊丘村 牛草川)

測定方法：流速計測法



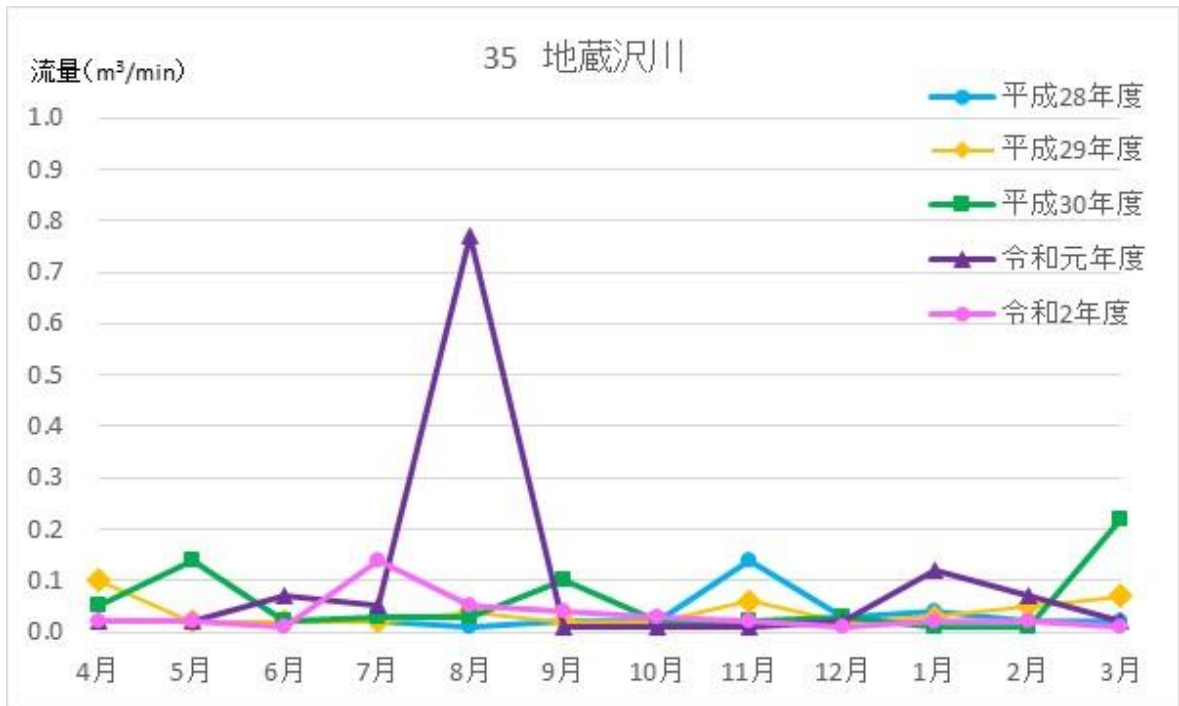
注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和元年度1月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (55) 地表水の流量の調査結果
(34 豊丘村 壬生沢川)

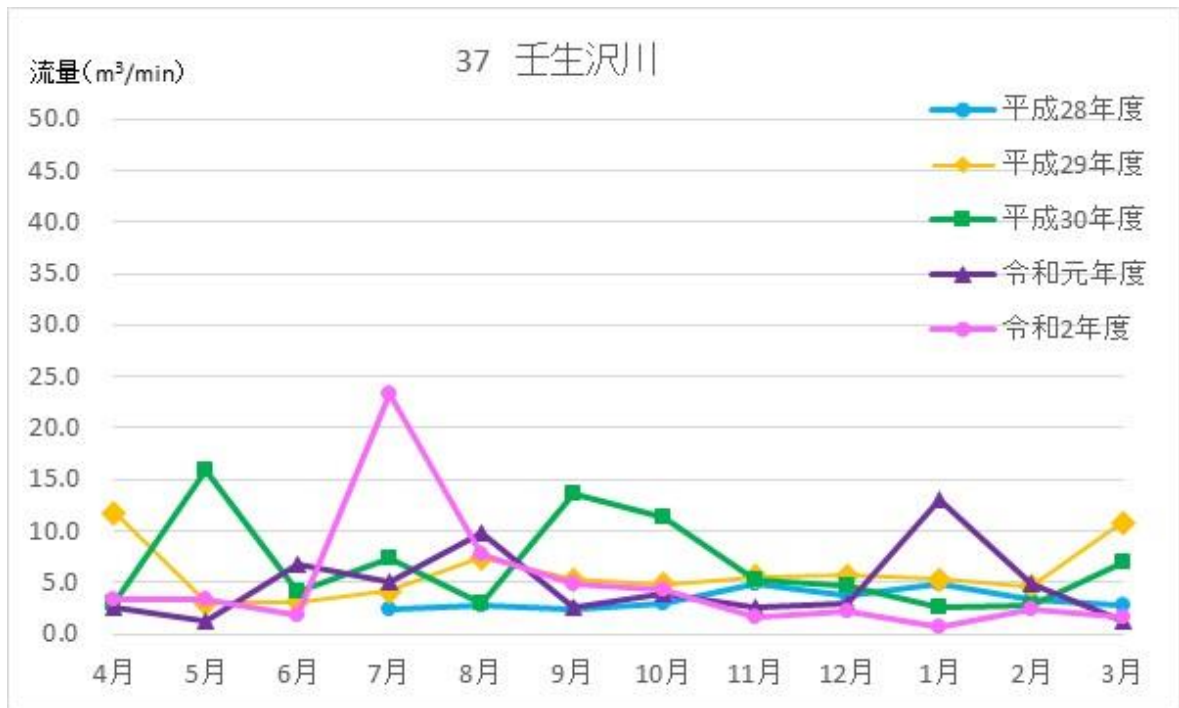
測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和元年度8月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (56) 地表水の流量の調査結果
(35 豊丘村 地蔵沢川)

測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5、9月期は測定日の1週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (57) 地表水の流量の調査結果
(37 豊丘村 壬生沢川)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7、11月期は測定日当日に、2月期は測定日の前々日から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

注3：令和2年度8月期は測定日前日に、9月期は測定日の5日前から前々日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (58) 地表水の流量の調査結果

(17 飯田市 野底川上流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (59) 地表水の流量の調査結果

(22 飯田市 松洞川上流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前日から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (60) 地表水の流量の調査結果
(26 飯田市 王竜寺川上流)

測定方法：容器法



注1：令和元年度8月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (61) 地表水の流量の調査結果
(28 飯田市 山の田沢川)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (62) 地表水の流量の調査結果
(30 飯田市 滝の沢川上流)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (63) 地表水の流量の調査結果
(32 飯田市 阿弥陀沢川上流)

測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (64) 地表水の流量の調査結果
(33 飯田市 西の原沢川上流)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (65) 地表水の流量の調査結果
(34 飯田市 熊ヶ洞沢川)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (66) 地表水の流量の調査結果
(36 飯田市 円悟沢川中流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日当日にまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (67) 地表水の流量の調査結果
(38 飯田市 円悟沢川上流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (68) 地表水の流量の調査結果
(40 飯田市 閻沢川下流)

測定方法：流速計測法



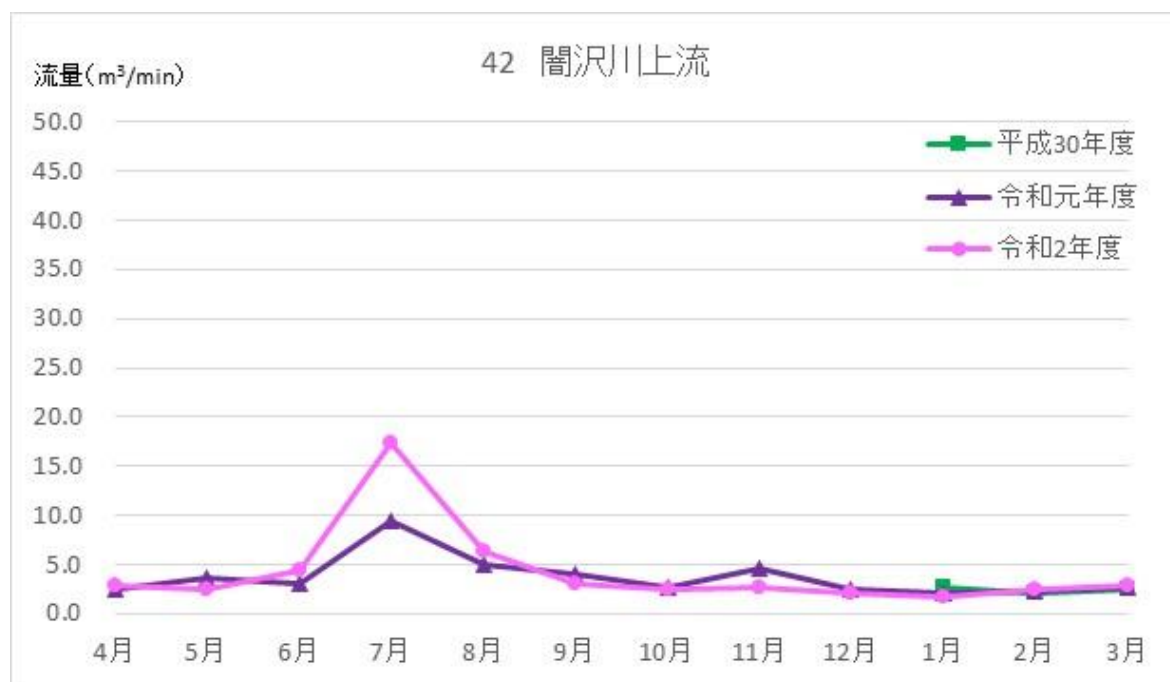
注1：令和元年度2月期は測定日の前々日から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により流量のみ欠測。

注3：令和2年度10月期は測定日の前日から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (69) 地表水の流量の調査結果
(41 飯田市 松川上流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (70) 地表水の流量の調査結果
(42 飯田市 閻沢川上流)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (71) 地表水の流量の調査結果
(43 飯田市 押の沢川下流)

測定方法：流速計測法及び容器法



注1：令和元年度7月期は測定日の前々日から当日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (72) 地表水の流量の調査結果
 (44 飯田市 押の沢川上流)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (73) 地表水の流量の調査結果
 (45 飯田市 黒川中流)

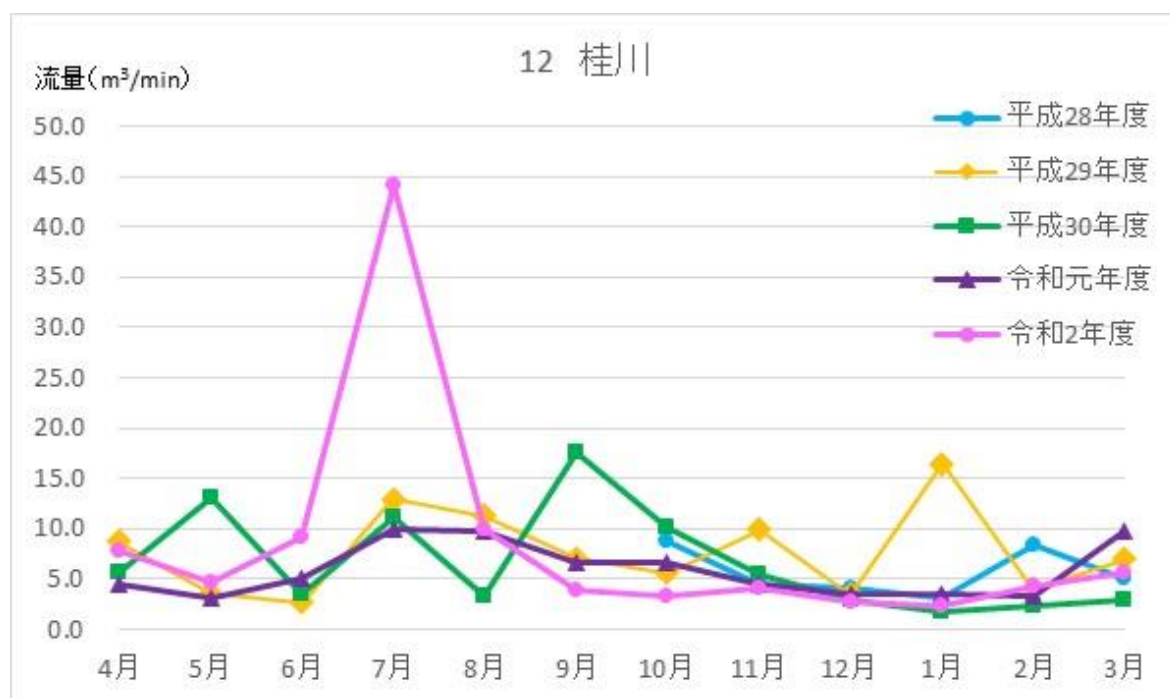
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (74) 地表水の流量の調査結果
(46 飯田市 黒川上流)

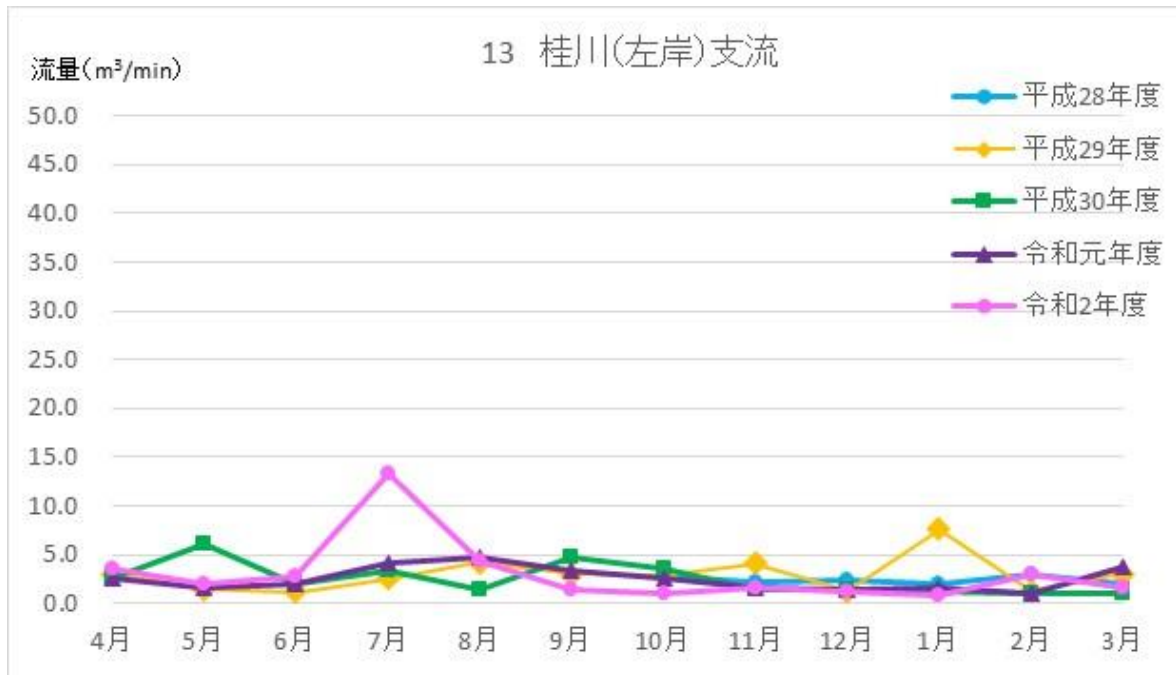
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (75) 地表水の流量の調査結果
(12 南木曾町 桂川)

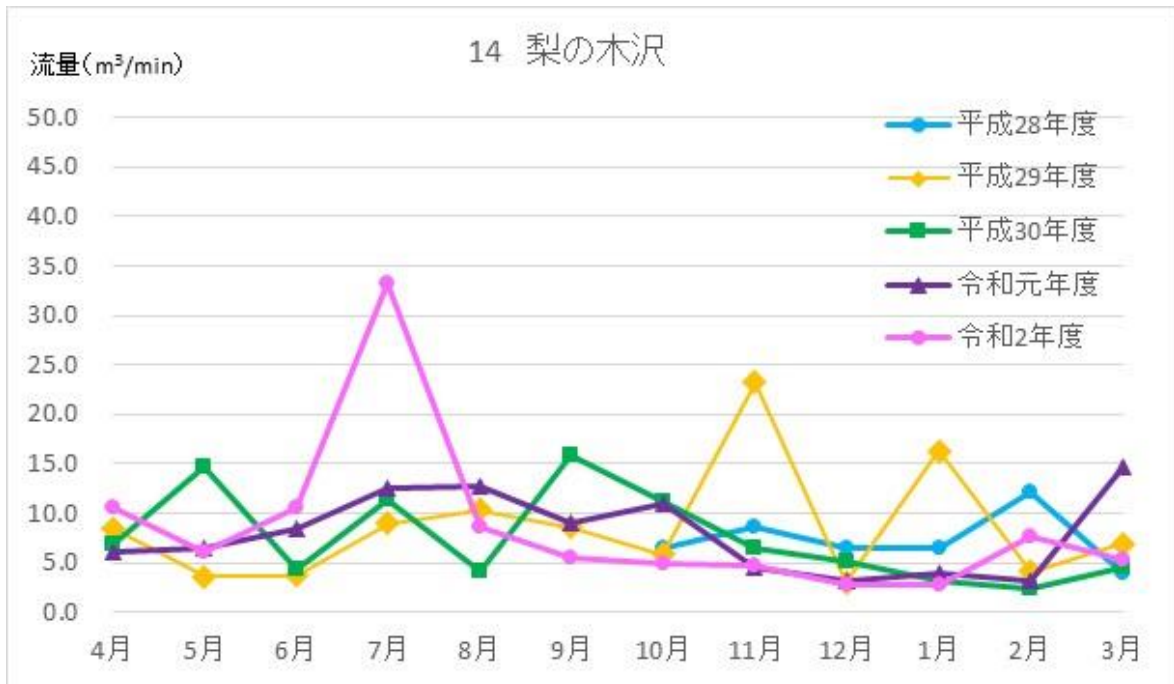
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(76) 地表水の流量の調査結果
 (13 南木曾町 桂川(左岸)支流)

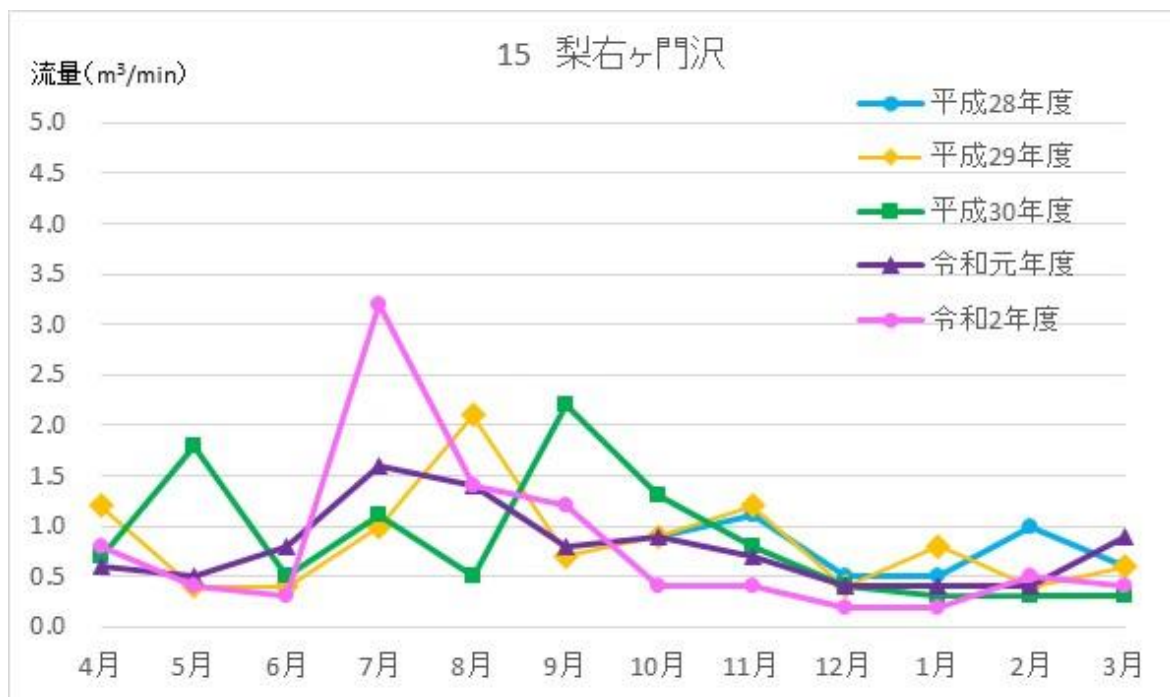
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(77) 地表水の流量の調査結果
 (14 南木曾町 梨の木沢)

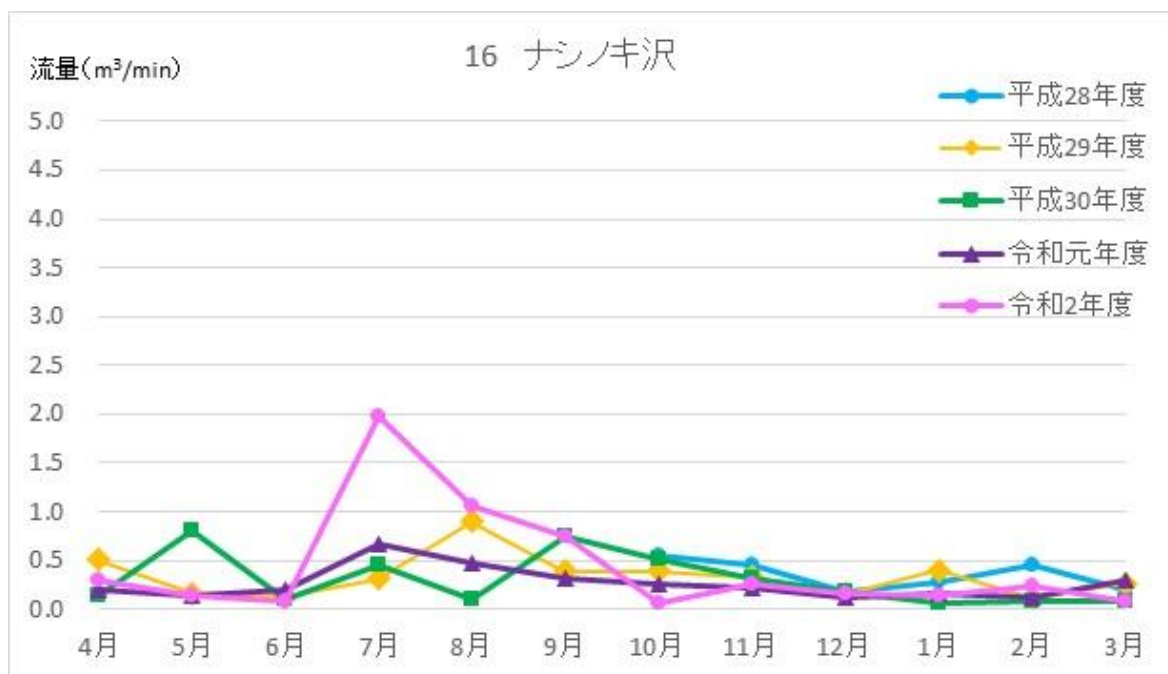
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (78) 地表水の流量の調査結果
(15 南木曾町 梨右ヶ門沢)

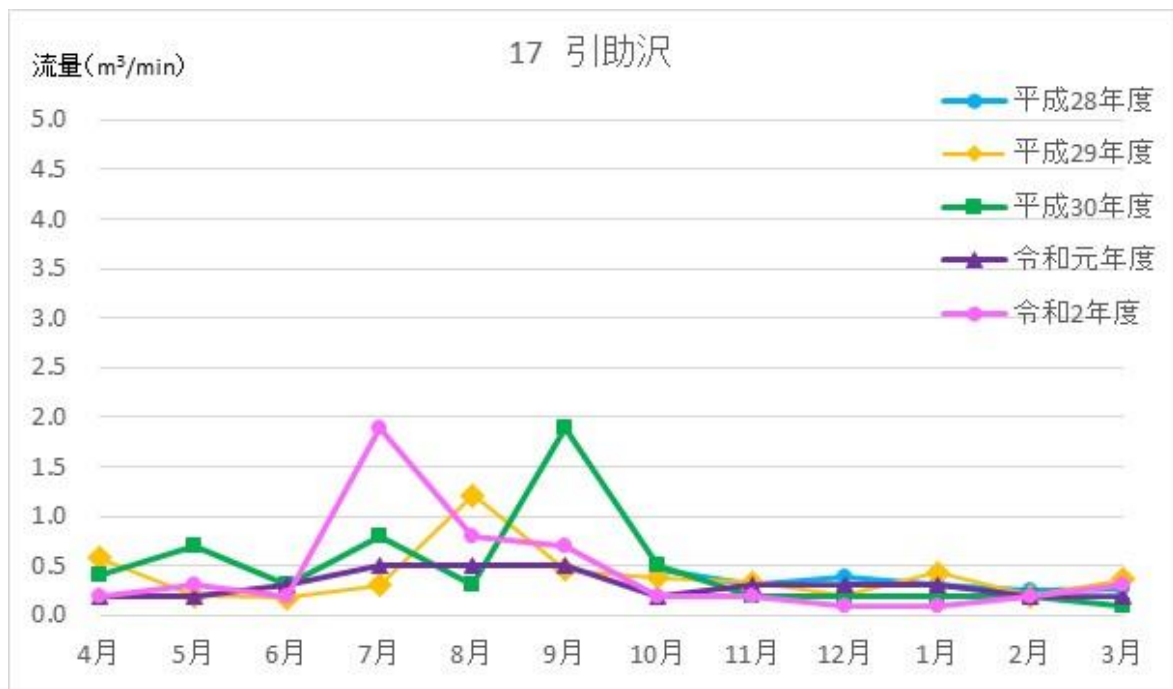
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (79) 地表水の流量の調査結果
(16 南木曾町 ナシノキ沢)

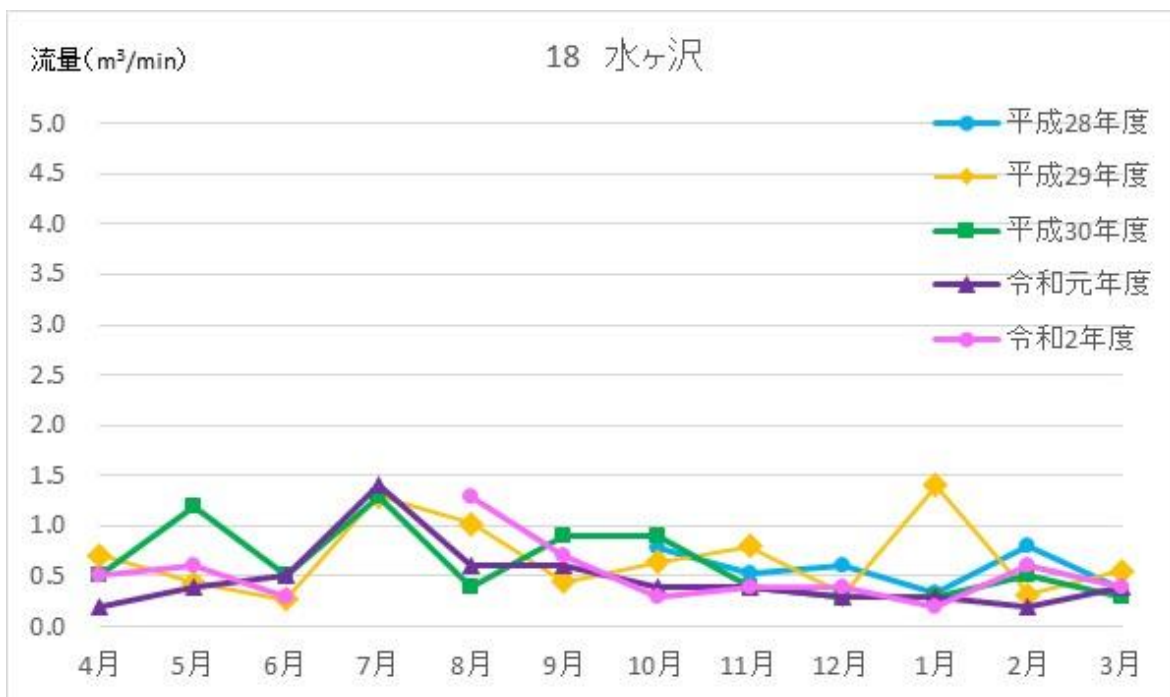
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度9月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (80) 地表水の流量の調査結果
 (17 南木曾町 引助沢)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (81) 地表水の流量の調査結果
 (18 南木曾町 水ヶ沢)

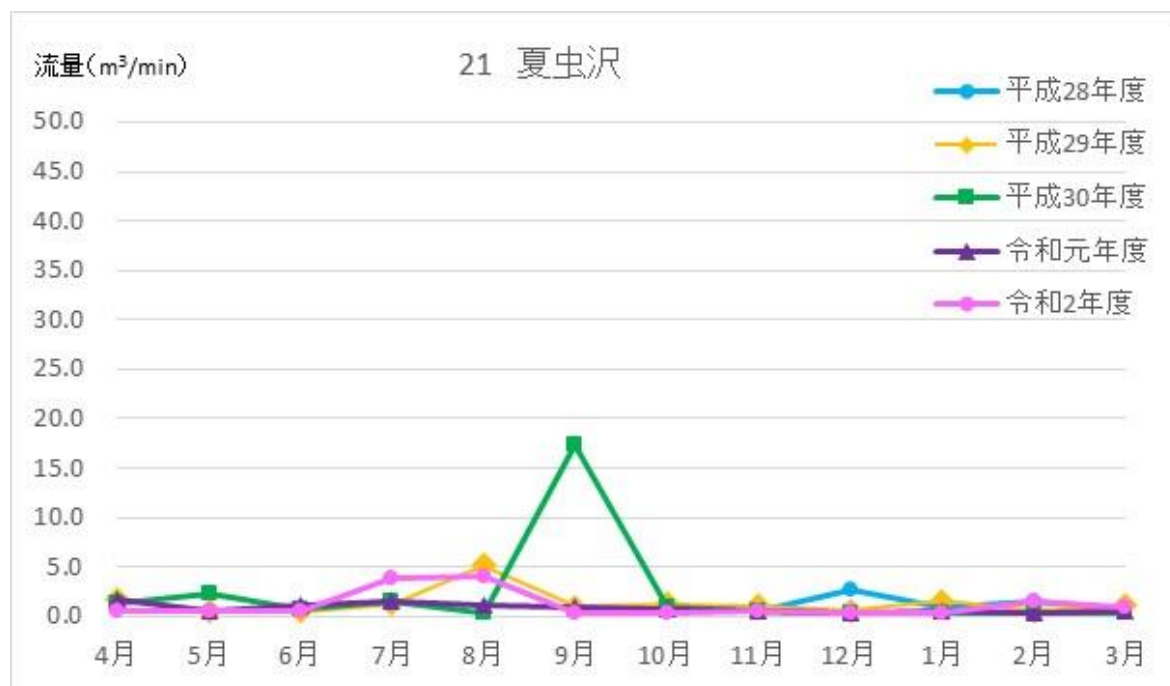
測定方法：流速計測法及び容器法



注1：平成29年度8月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：平成30年度9月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注3：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (82) 地表水の流量の調査結果
 (19 南木曾町 蘭川(左岸)支流)

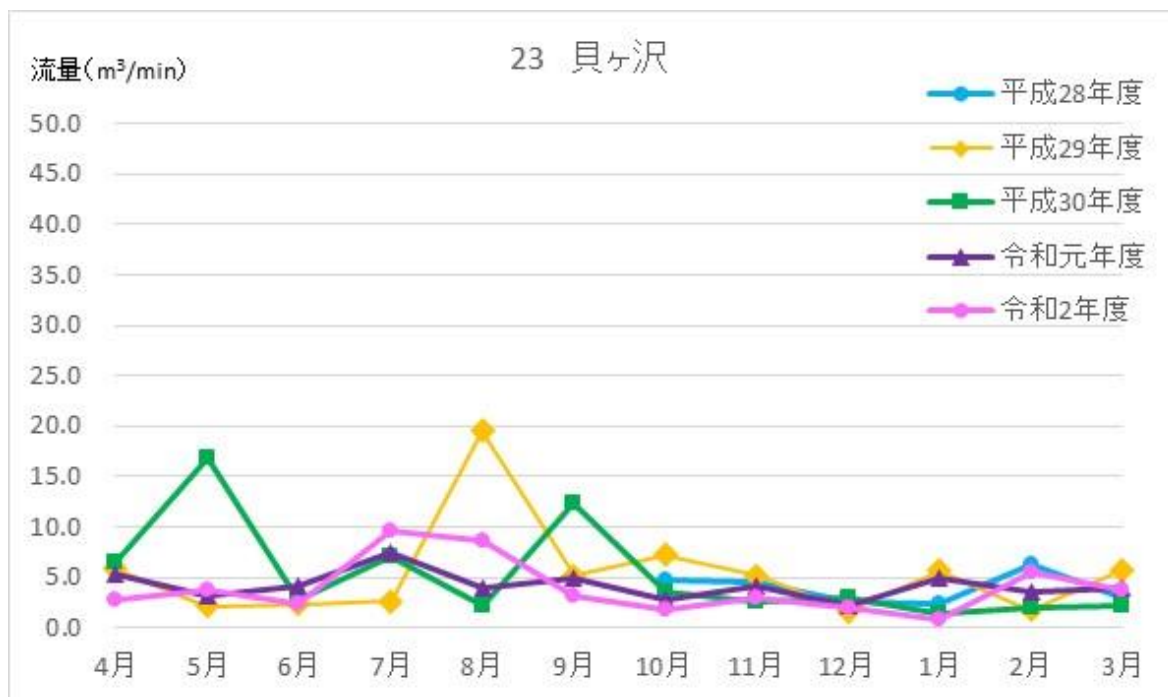
測定方法：流速計測法及び容器法



注1：平成29年度8月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：平成30年度9月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (83) 地表水の流量の調査結果
 (21 南木曾町 夏虫沢)

測定方法：流速計測法



注：平成30年度5月期は測定日の4日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

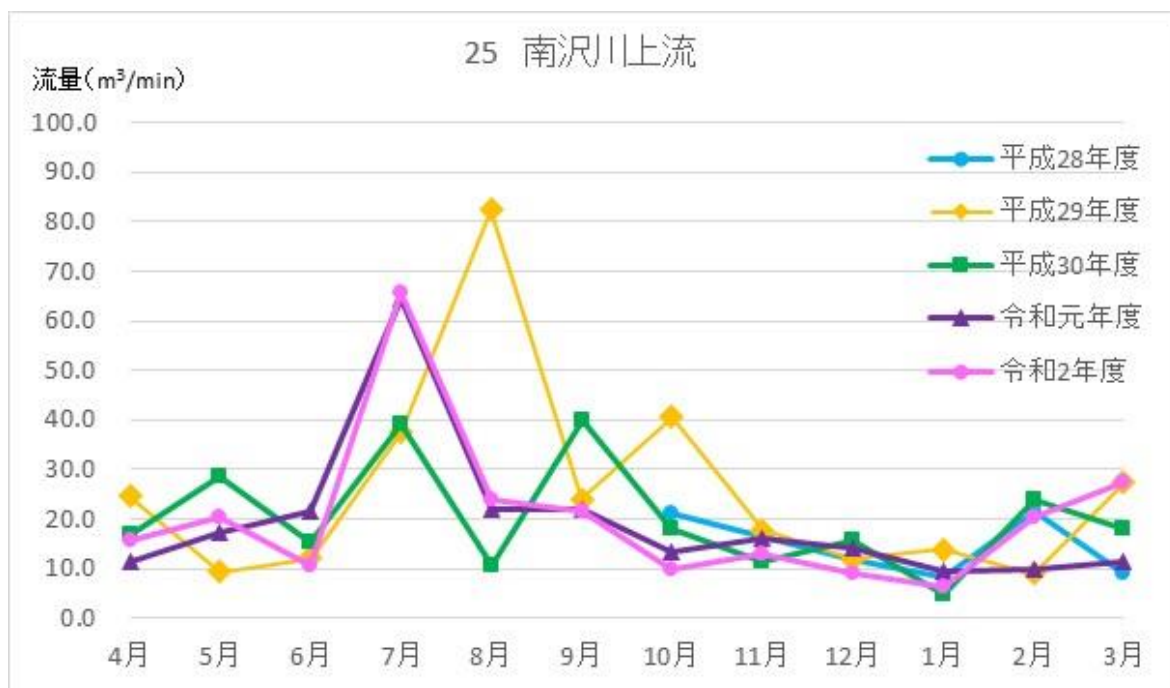
図 3-5-5-1 (84) 地表水の流量の調査結果
(23 南木曾町 貝ヶ沢)

測定方法：流速計測法



図 3-5-5-1 (85) 地表水の流量の調査結果
(24 南木曾町 南沢川中流)

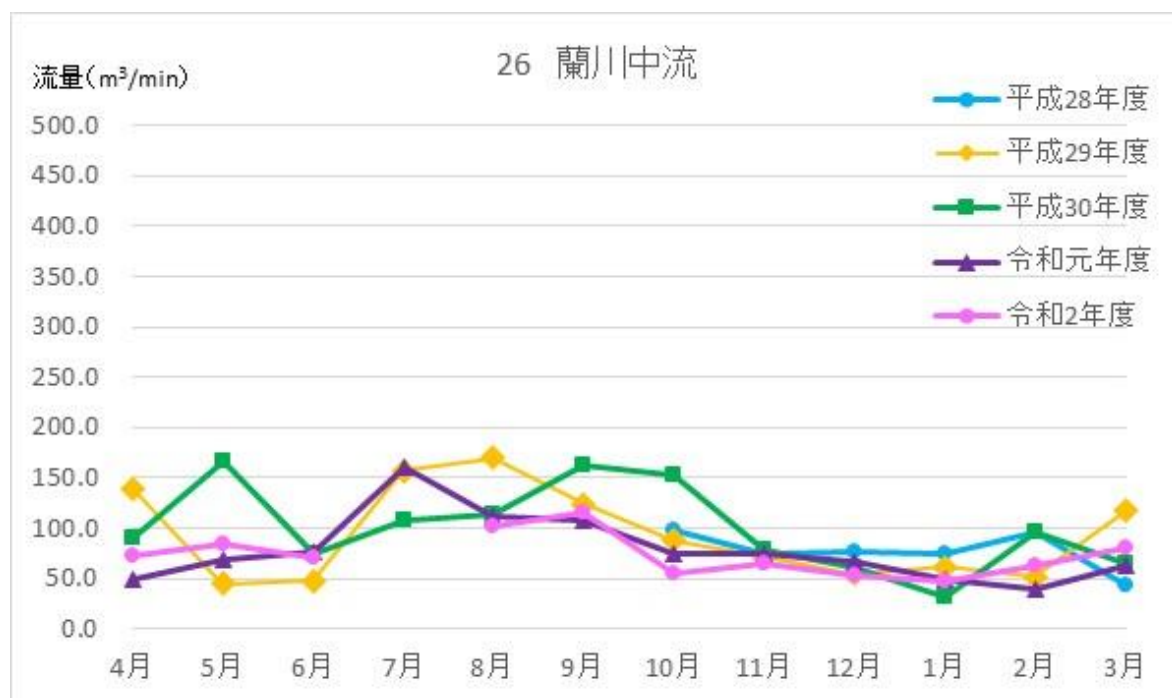
測定方法：流速計測法



注1：平成29年度8月期は測定日の4日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
注2：令和元年度7月期は測定日の前日にまとまった降雨があった。
注3：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (86) 地表水の流量の調査結果
(25 南木曾町 南沢川上流)

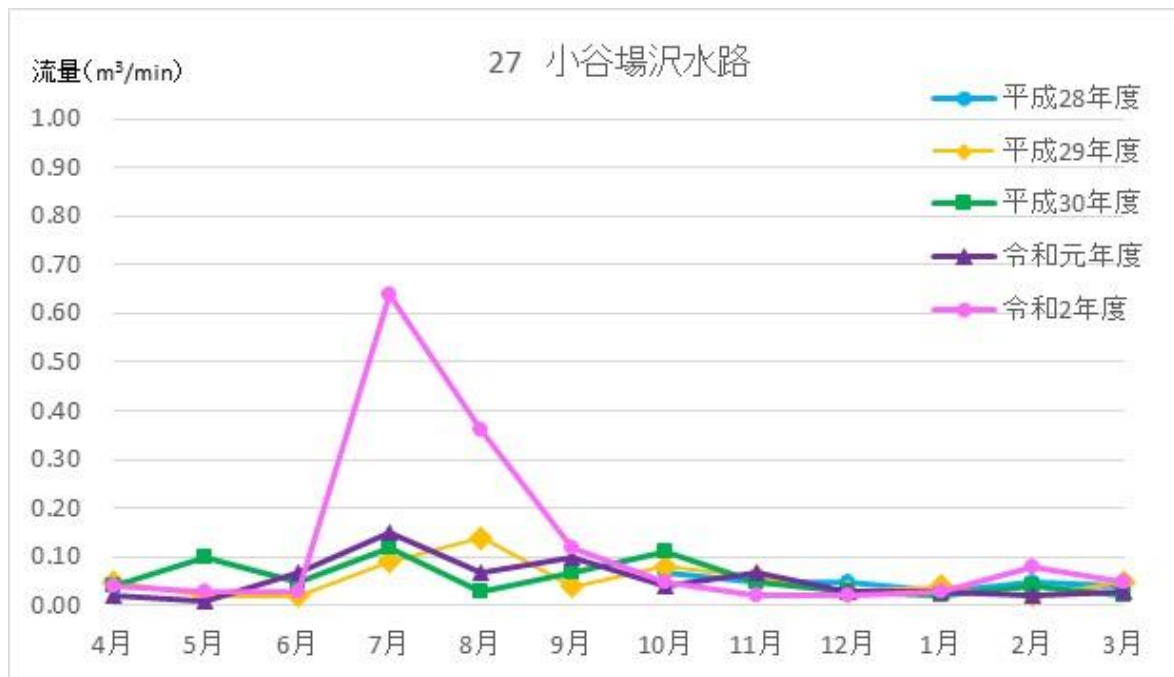
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (87) 地表水の流量の調査結果
(26 南木曾町 蘭川中流)

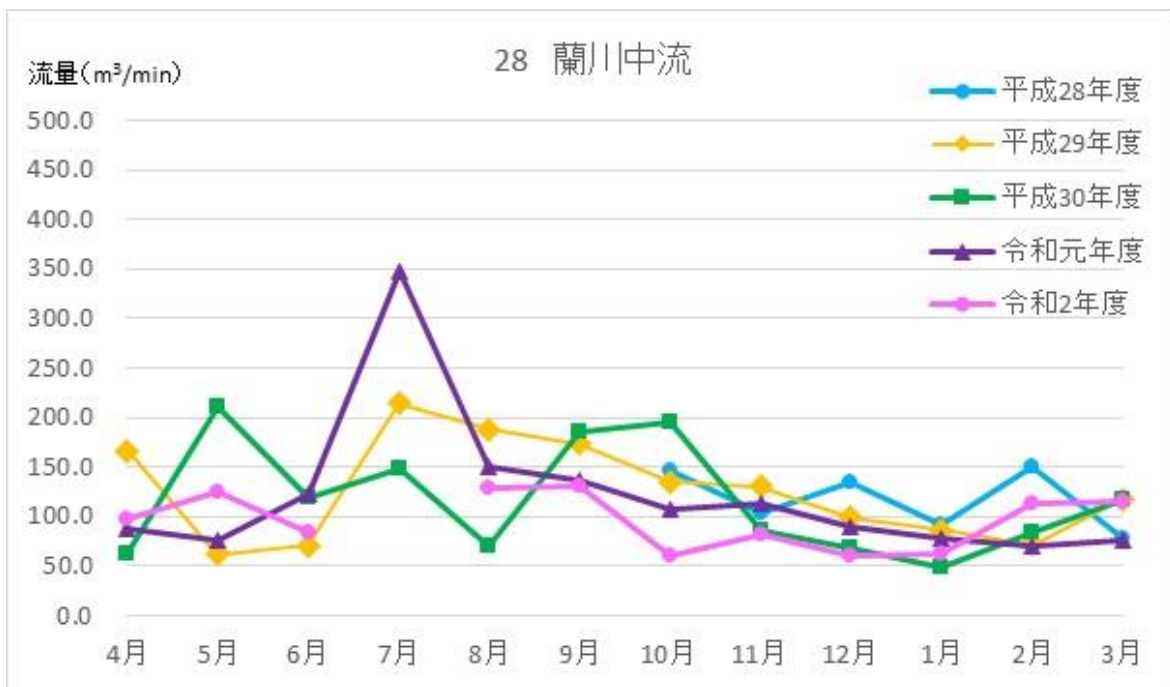
測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日に、8月期は測定日の5週間程前から1週間前にかけてまとまった降雨があった

図 3-5-5-1(88) 地表水の流量の調査結果
(27 南木曾町 小谷場沢水路)

測定方法：流速計測法



注1：令和元年度7月期は測定日の前日から当日にかけてまとまった降雨があった。
注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(89) 地表水の流量の調査結果
(28 南木曾町 蘭川中流)

測定方法：流速計測法

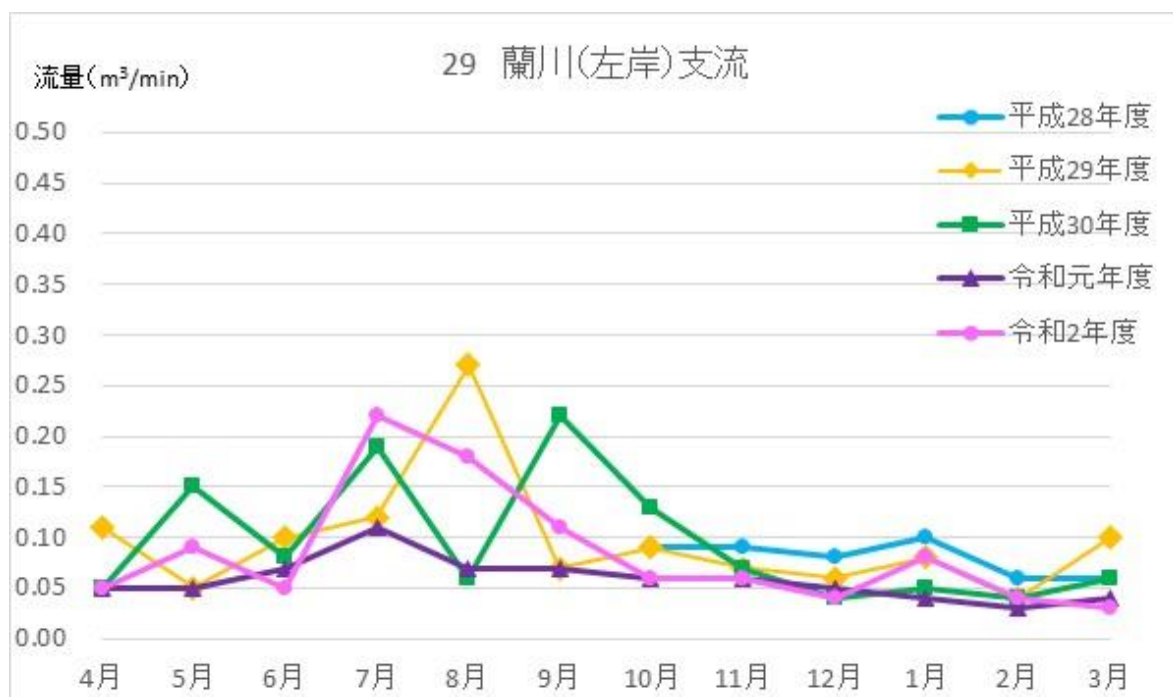
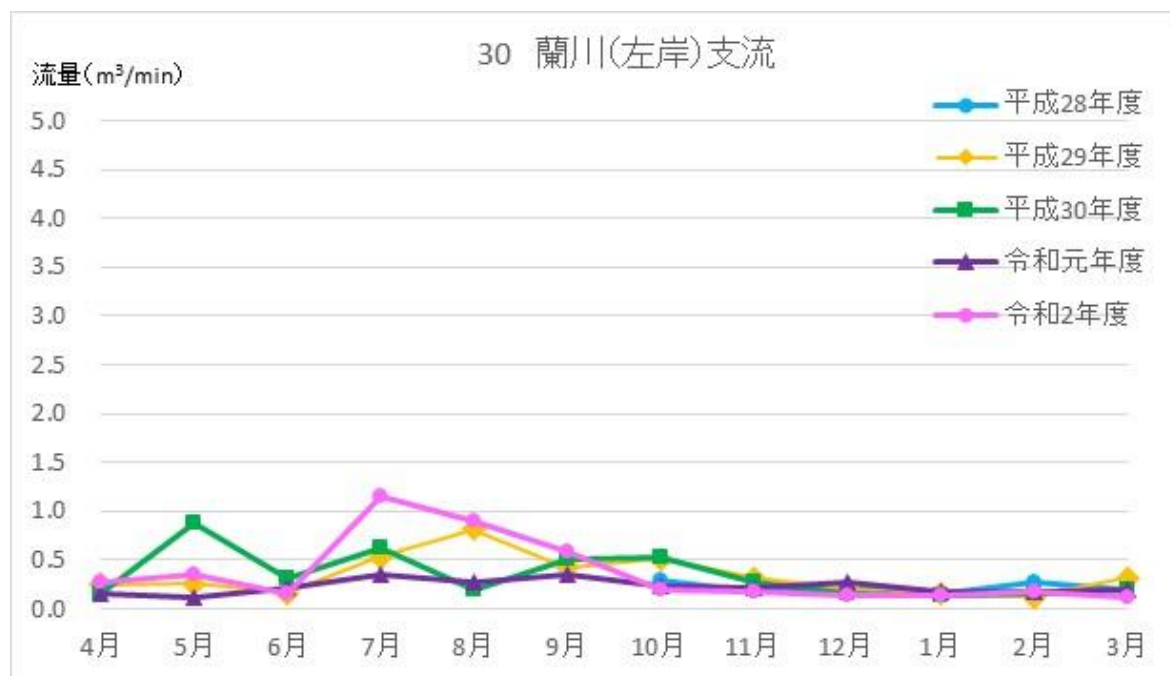


図 3-5-5-1 (90) 地表水の流量の調査結果
(29 南木曾町 蘭川 (左岸) 支流)

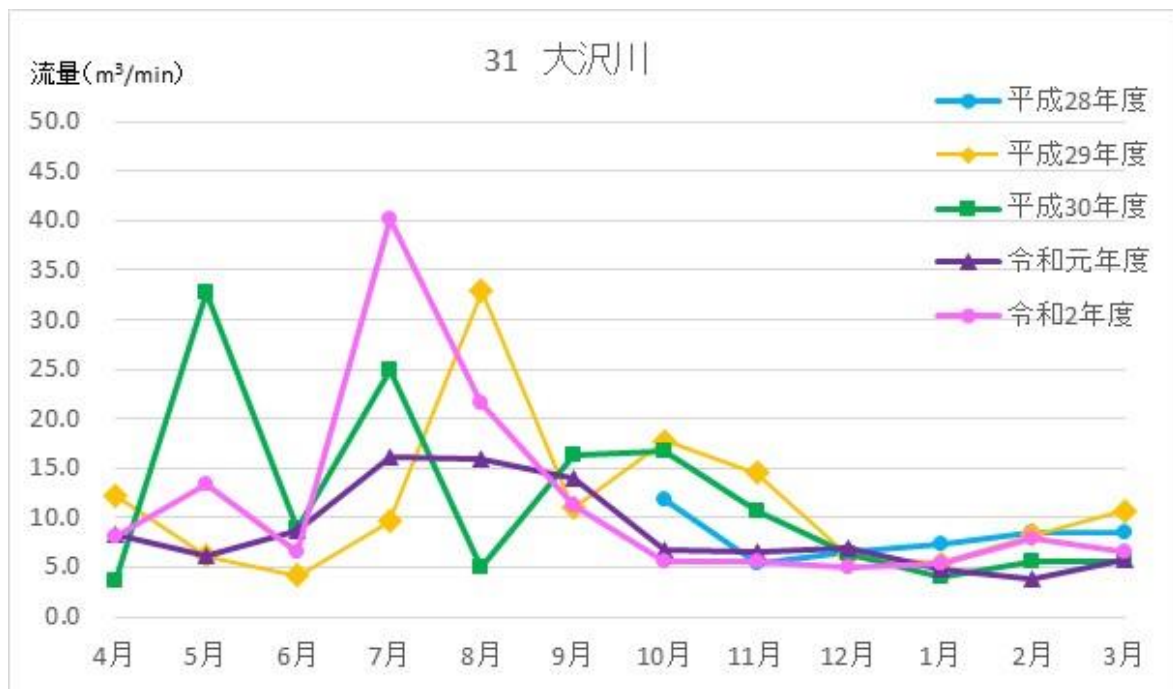
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (91) 地表水の流量の調査結果
(30 南木曾町 蘭川 (左岸) 支流)

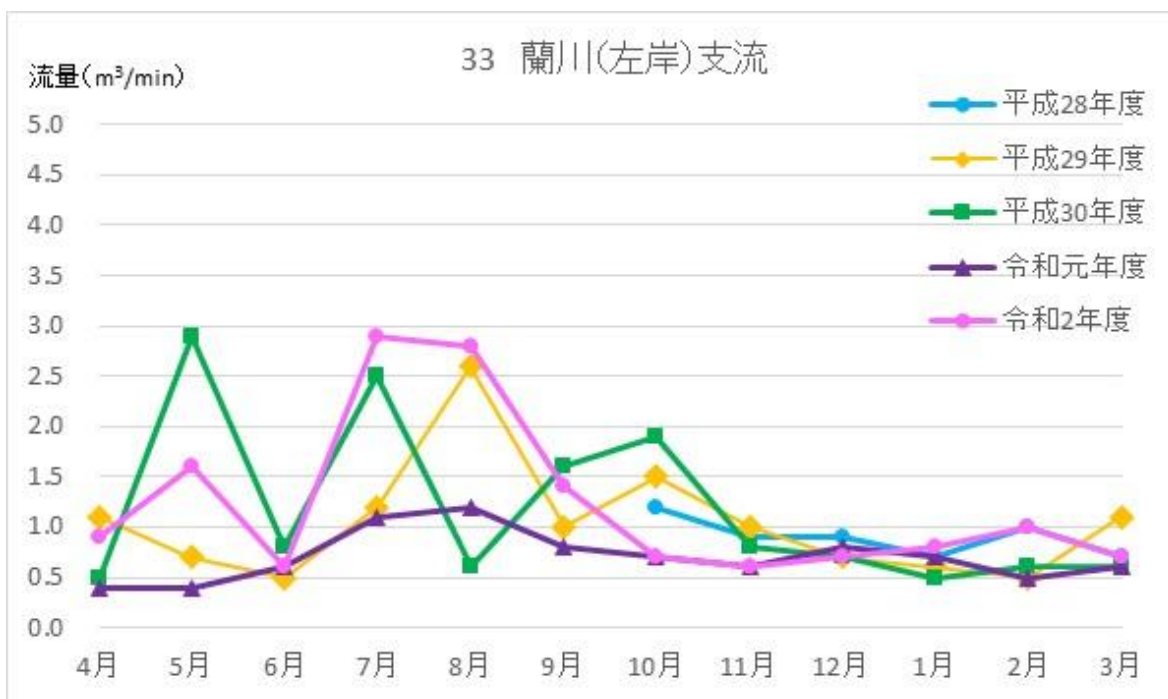
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (92) 地表水の流量の調査結果
 (31 南木曾町 大沢川)

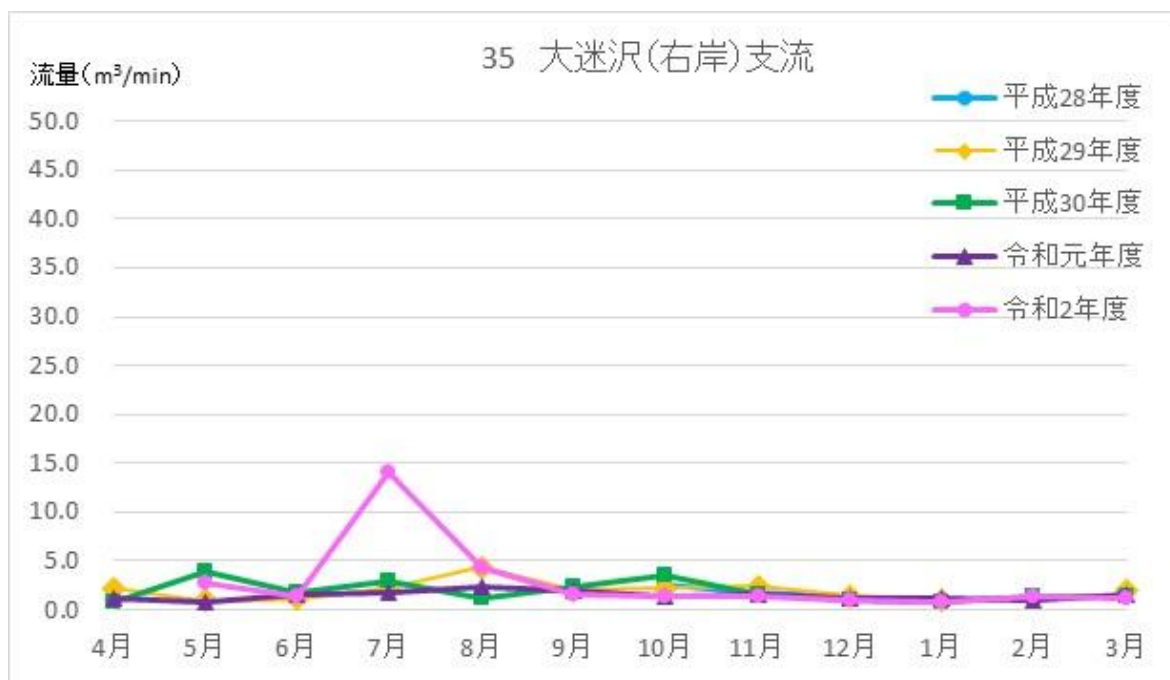
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (93) 地表水の流量の調査結果
 (33 南木曾町 蘭川(左岸)支流)

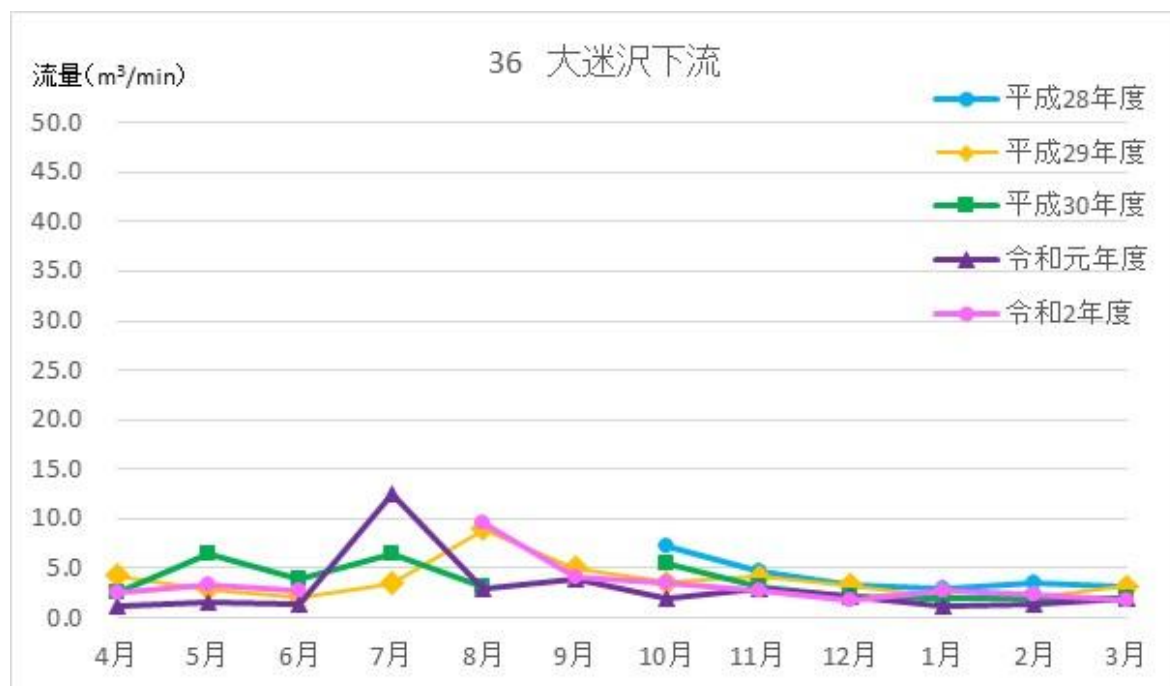
測定方法：流速計測法



注1：平成28年度1～2月期、平成29年度2月期については、積雪のため観測不可。
注2：令和2年度4月期はアクセス道路通行止めにより測定できなかったため、欠測。
注3：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (94) 地表水の流量の調査結果
(35 南木曾町 大迷沢(右岸)支流)

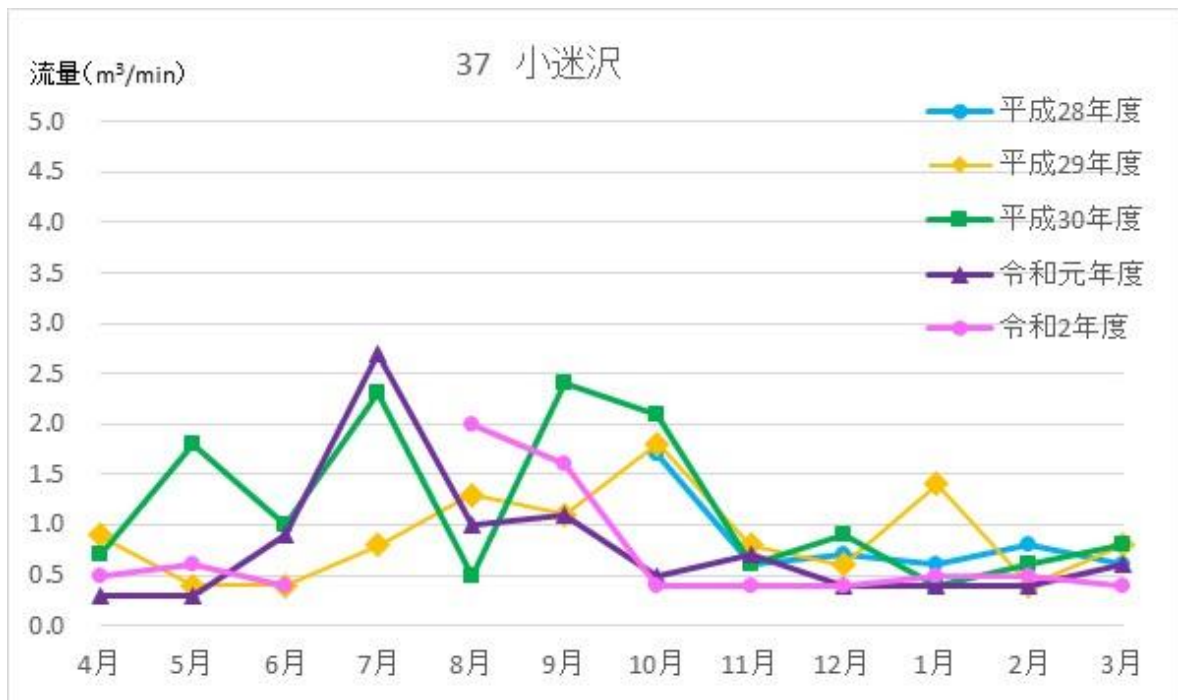
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度9月期については、増水のため観測不可。
注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (95) 地表水の流量の調査結果
(36 南木曾町 大迷沢下流)

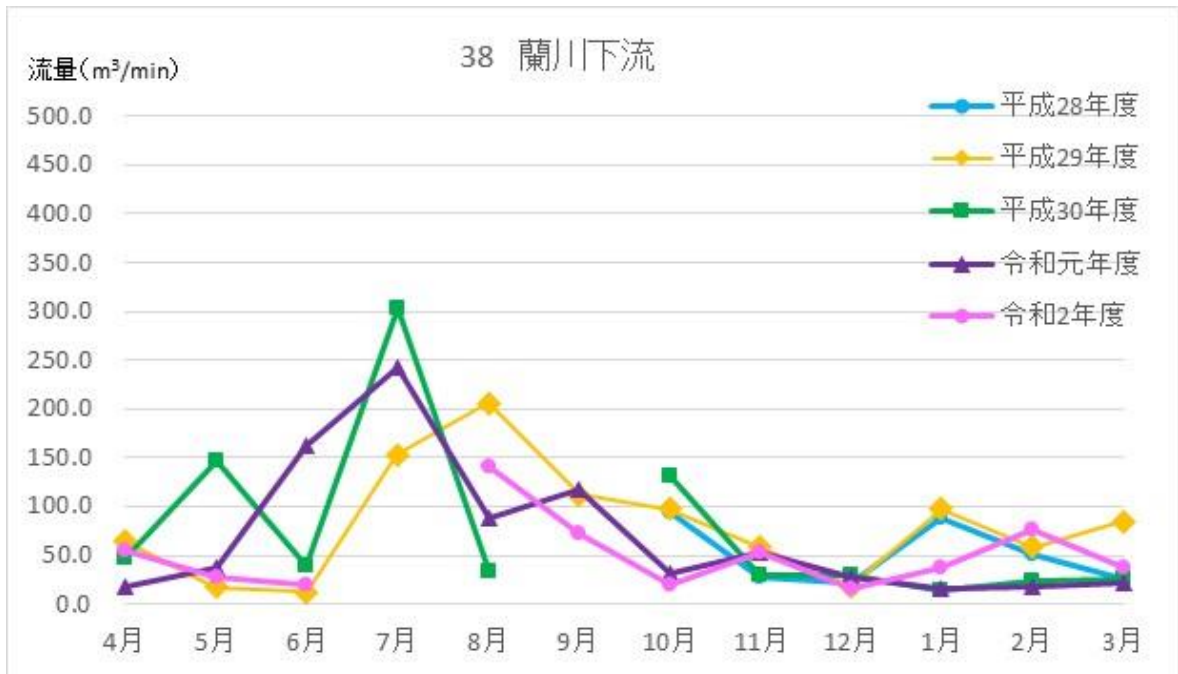
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (96) 地表水の流量の調査結果
(37 南木曾町 小迷沢)

測定方法：流速計測法



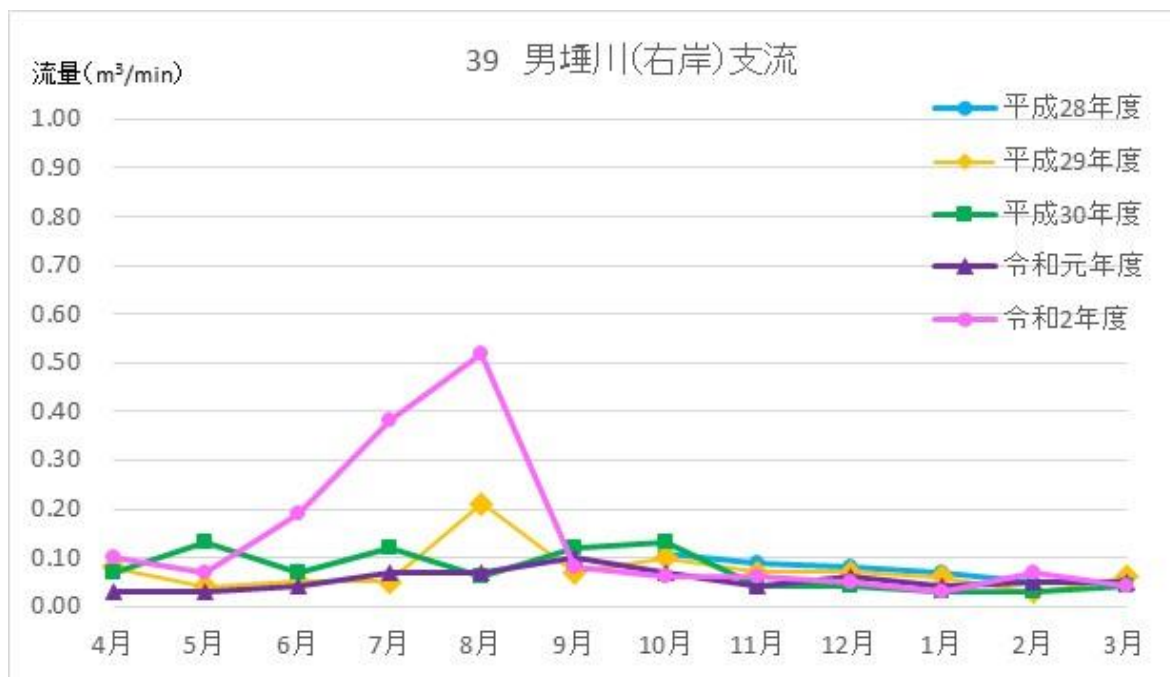
注1：平成30年度9月期については、増水のため観測不可。

注2：平成30年度7月期は、測定日の1週間程度前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1 (97) 地表水の流量の調査結果
(38 南木曾町 蘭川下流)

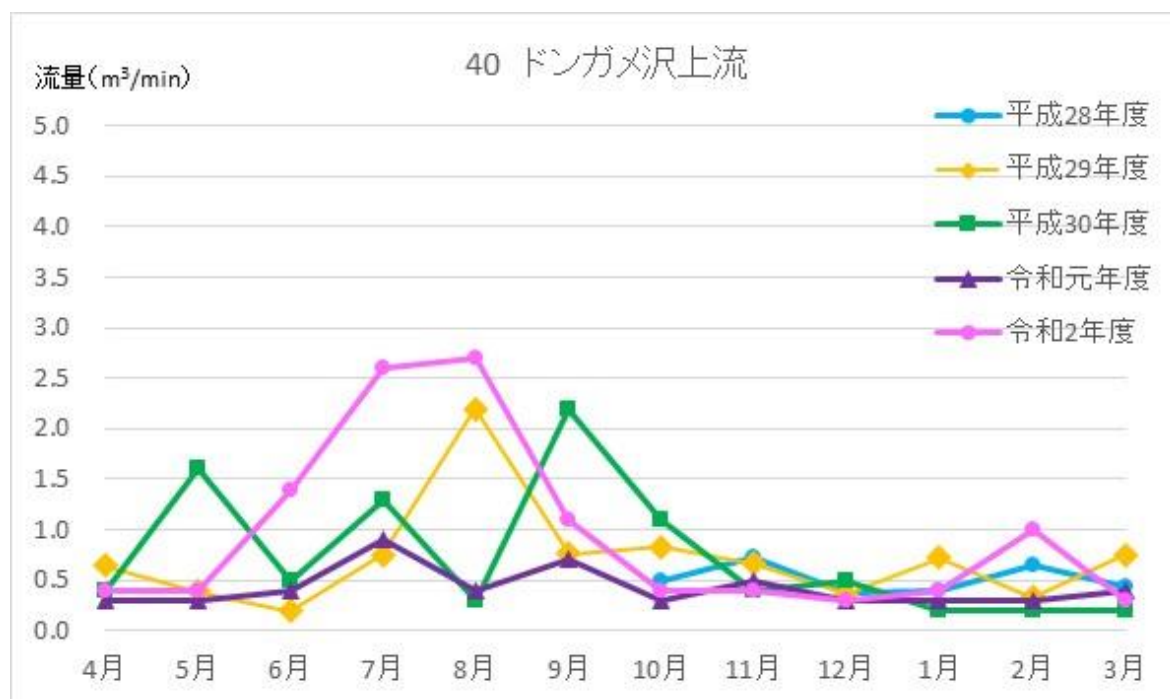
測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の4週間程前から3日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (98) 地表水の流量の調査結果
(39 南木曾町 男埴川(右岸)支流)

測定方法：流速計測法



注1：平成30年度9月期は、測定日の1週間程度前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の4週間程前から3日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1 (99) 地表水の流量の調査結果
(40 南木曾町 ドングメ沢上流)

測定方法：容器法

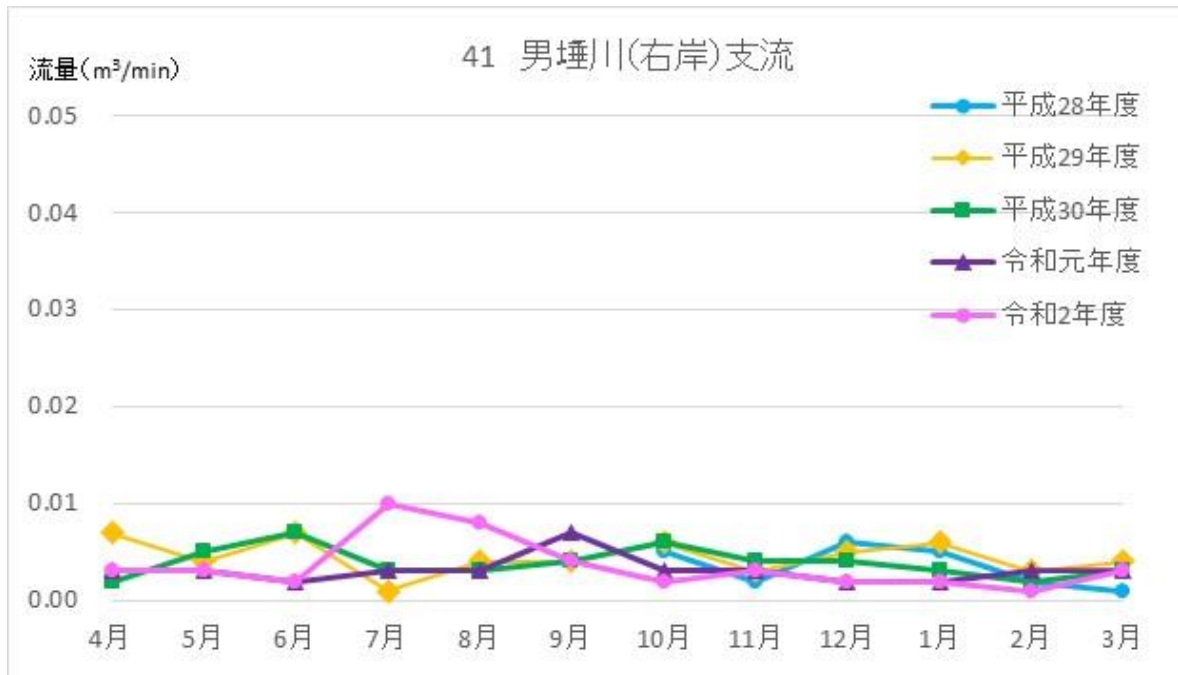
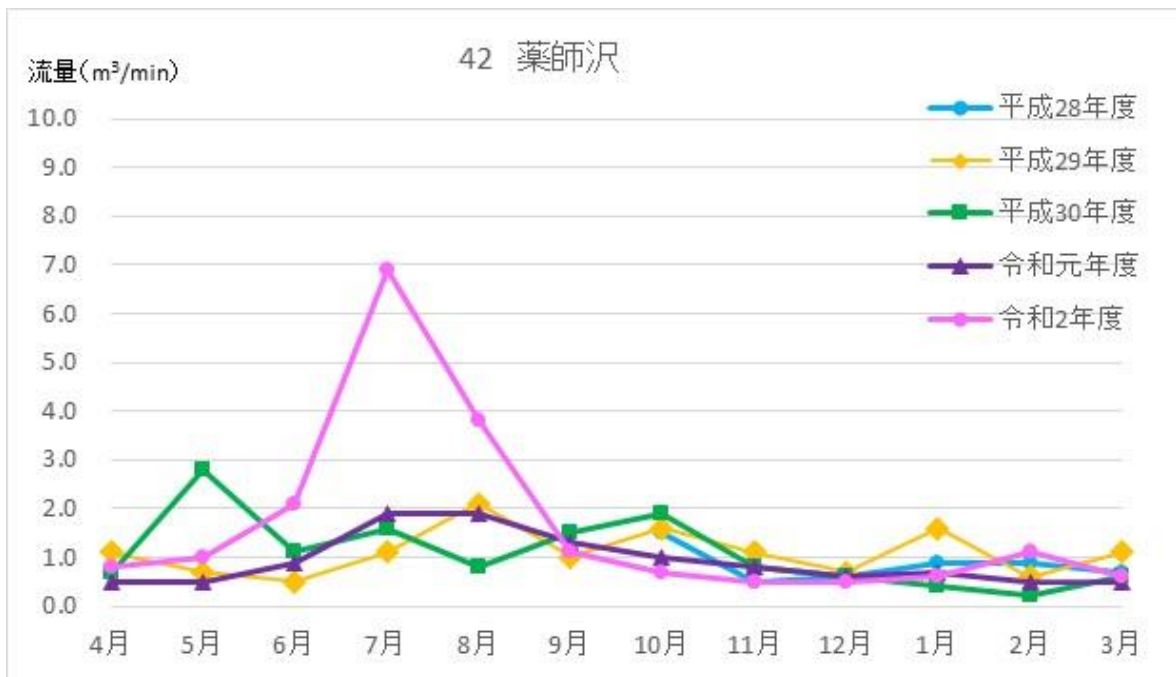


図 3-5-5-1(100) 地表水の流量の調査結果
(41 南木曾町 男埴川(右岸)支流)

測定方法：流速計測法

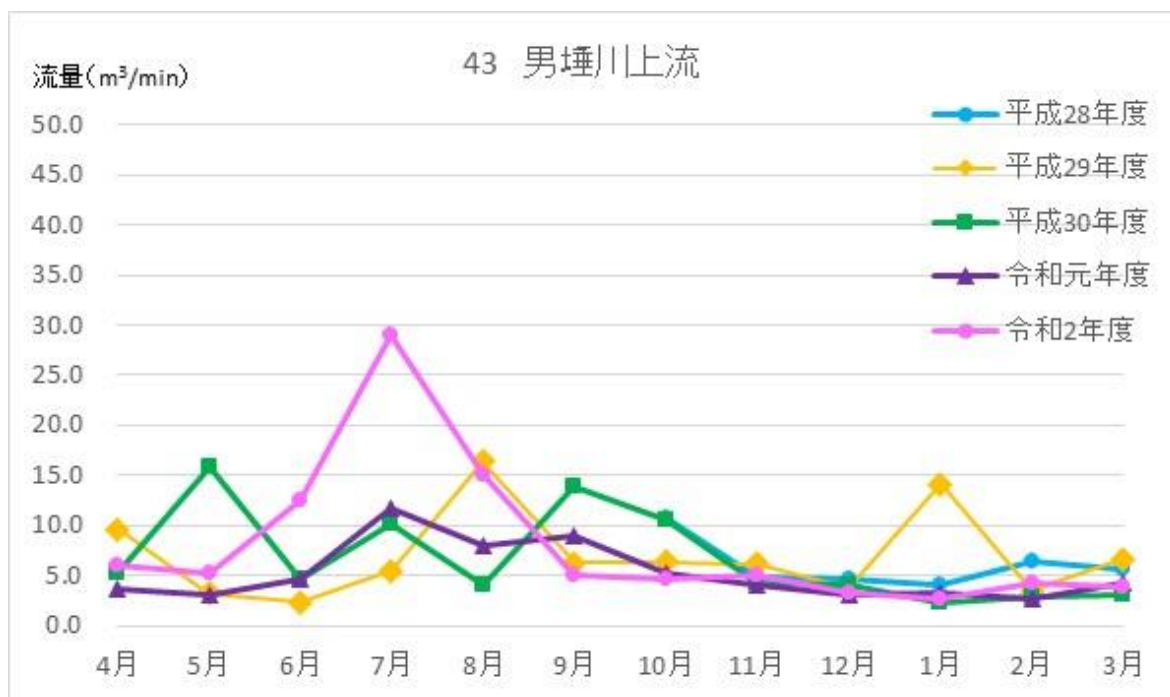


注1：平成30年度5月期は、測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の4週間程前から3日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(101) 地表水の流量の調査結果
(42 南木曾町 薬師沢)

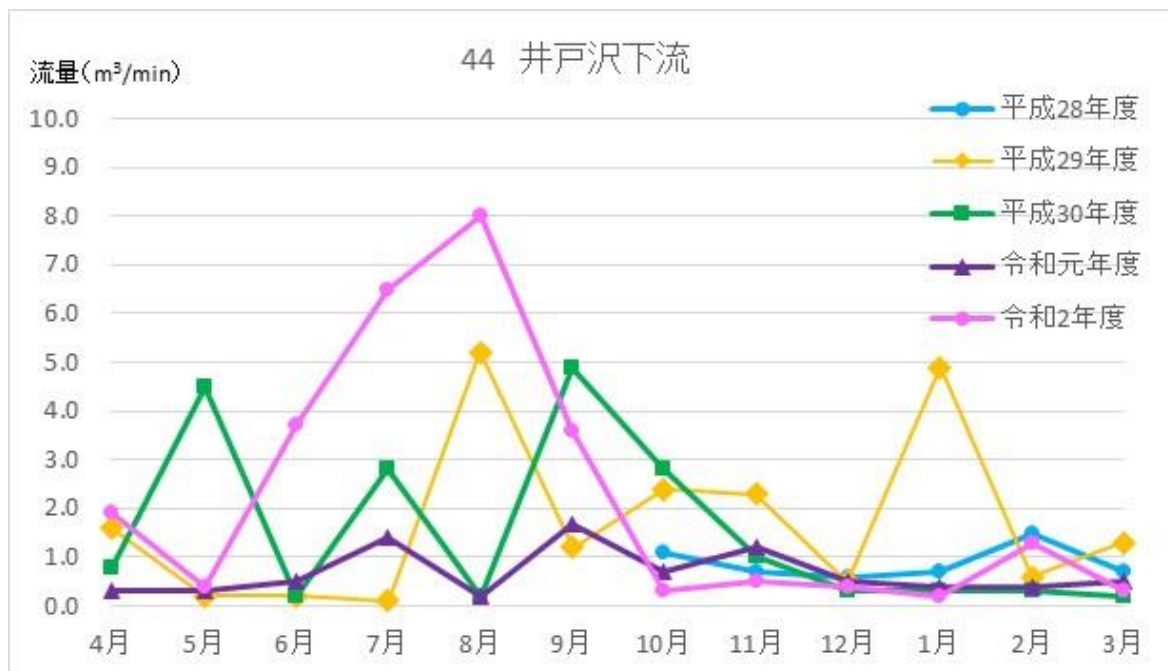
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(102) 地表水の流量の調査結果
(43 南木曾町 男埴川上流)

測定方法：流速計測法及び容器法

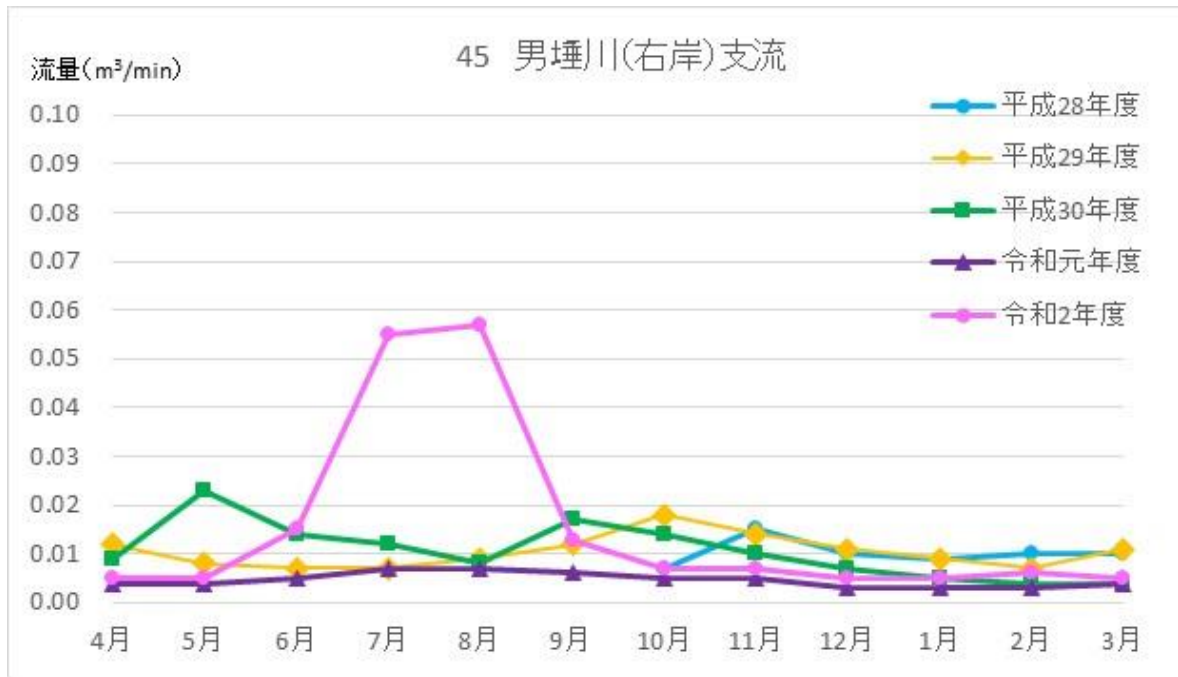


注1：平成30年度9月期は、測定日の1週間程前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の4週間程前から3日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(103) 地表水の流量の調査結果
(44 南木曾町 井戸沢下流)

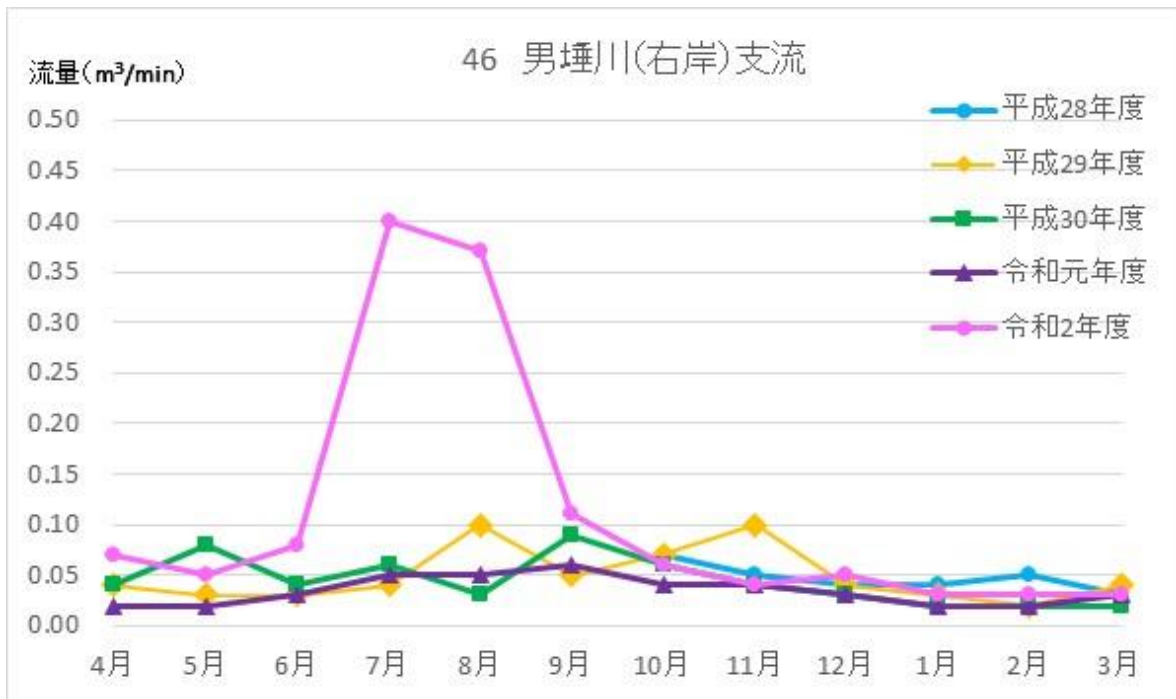
測定方法：容器法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から4日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(104) 地表水の流量の調査結果
(45 南木曾町 男埴川(右岸)支流)

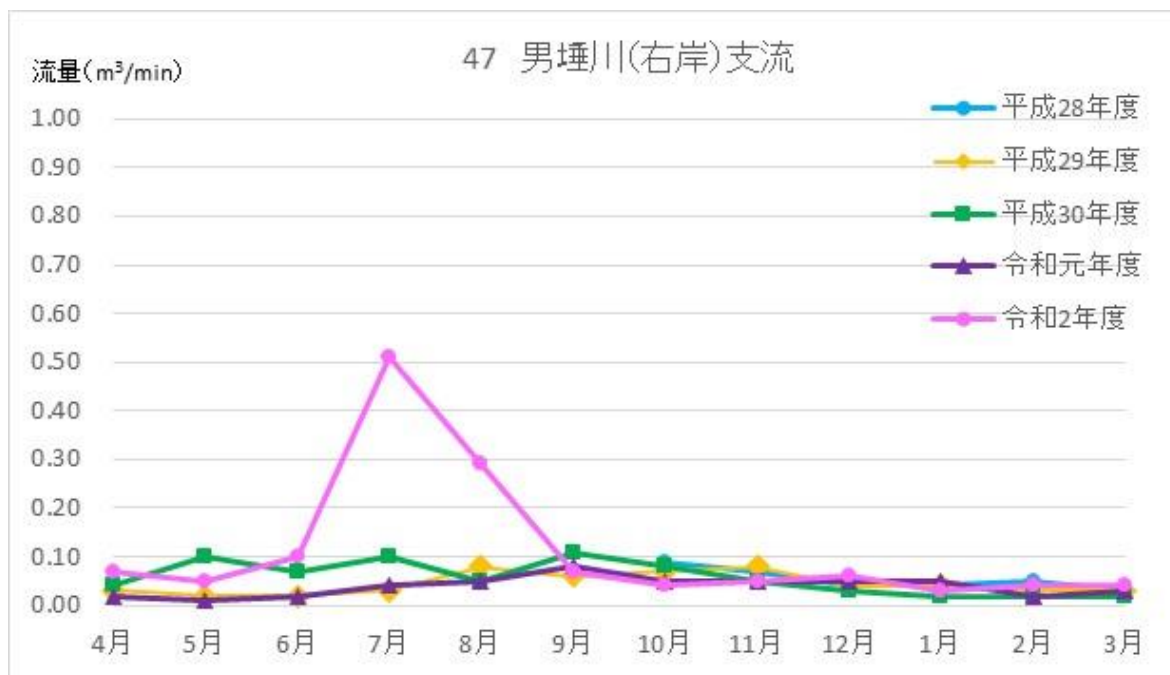
測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から4日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(105) 地表水の流量の調査結果
(46 南木曾町 男埴川(右岸)支流)

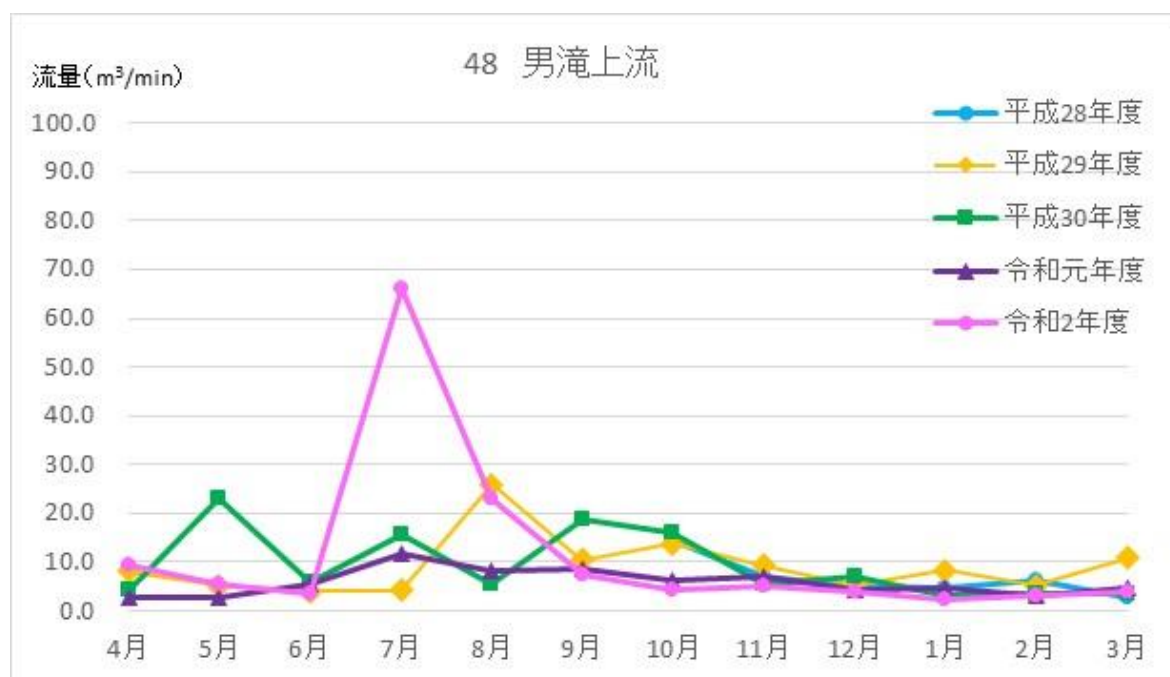
測定方法：流速計測法及び容器法



注：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から4日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(106) 地表水の流量の調査結果
(47 南木曾町 男埴川(右岸)支流)

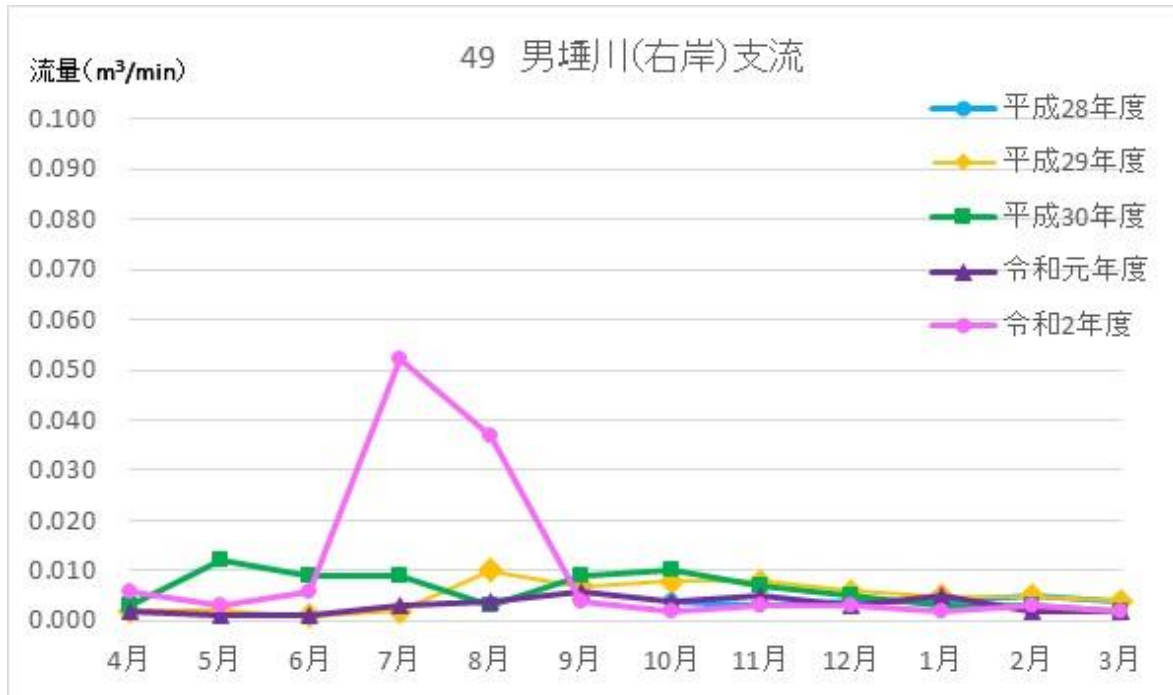
測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5月期は、測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
注2：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(107) 地表水の流量の調査結果
(48 南木曾町 男滝上流)

測定方法：容器法



注：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から4日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(108) 地表水の流量の調査結果
(49 南木曾町 男埴川(右岸)支流)

測定方法：容器法

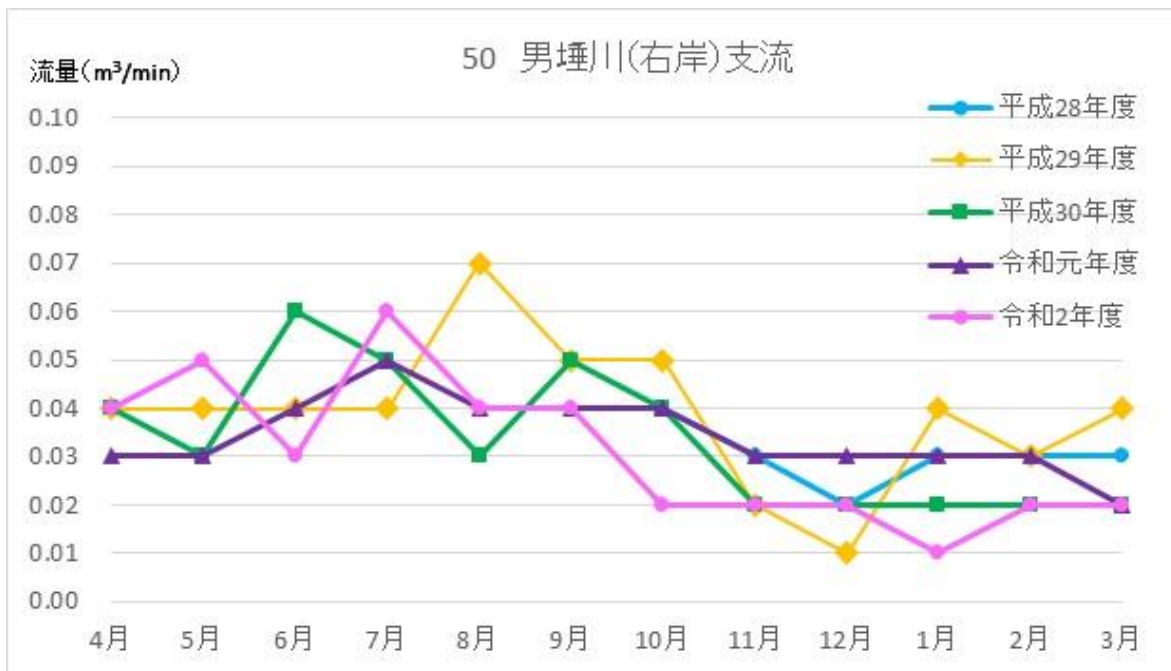
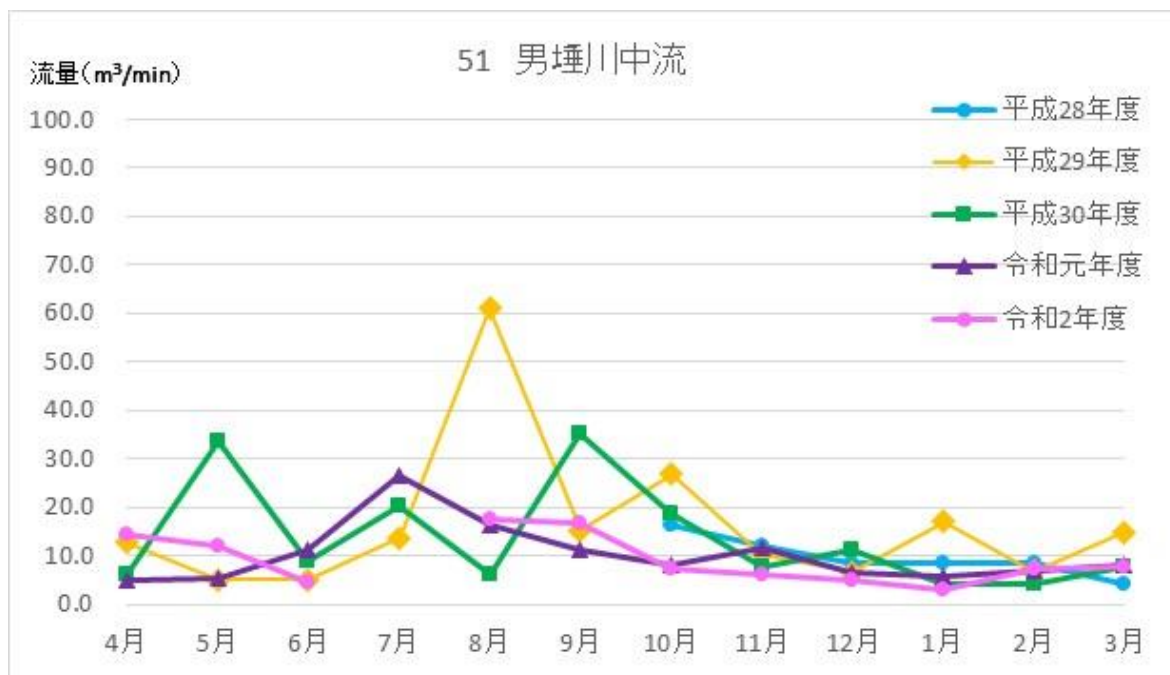


図 3-5-5-1(109) 地表水の流量の調査結果
(50 南木曾町 男埴川(右岸)支流)

測定方法：流速計測法

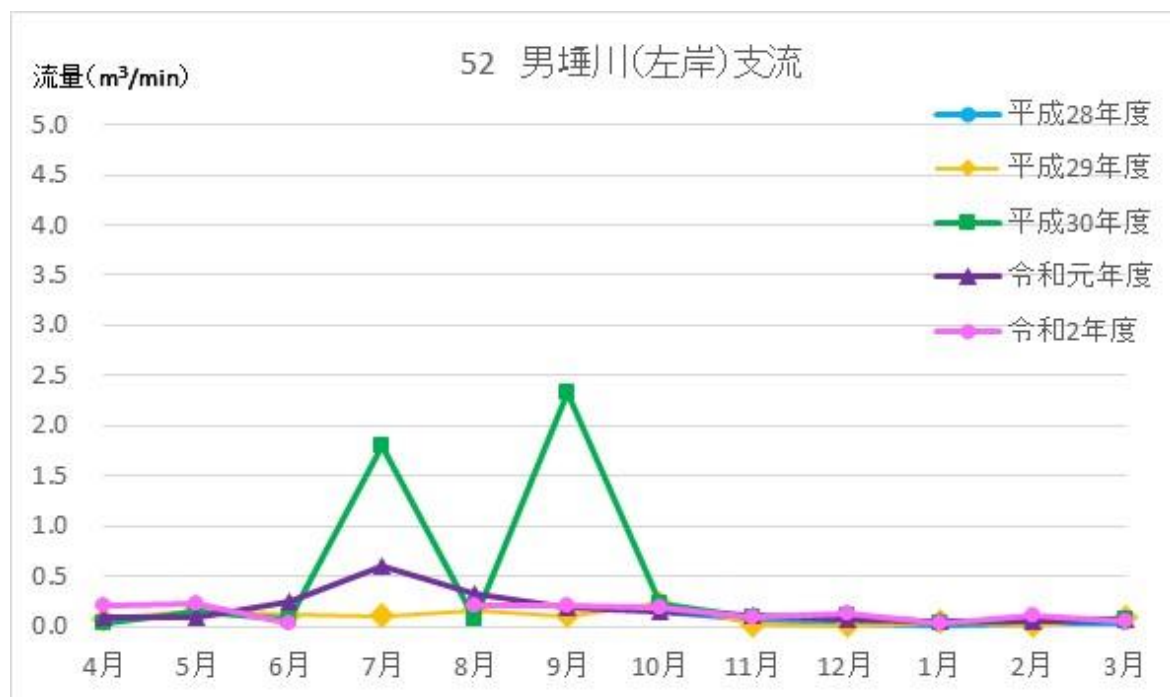


注1：平成29年度8月期は測定日の前々日から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(110) 地表水の流量の調査結果
(51 南木曾町 男埴川中流)

測定方法：流速計測法及び容器法



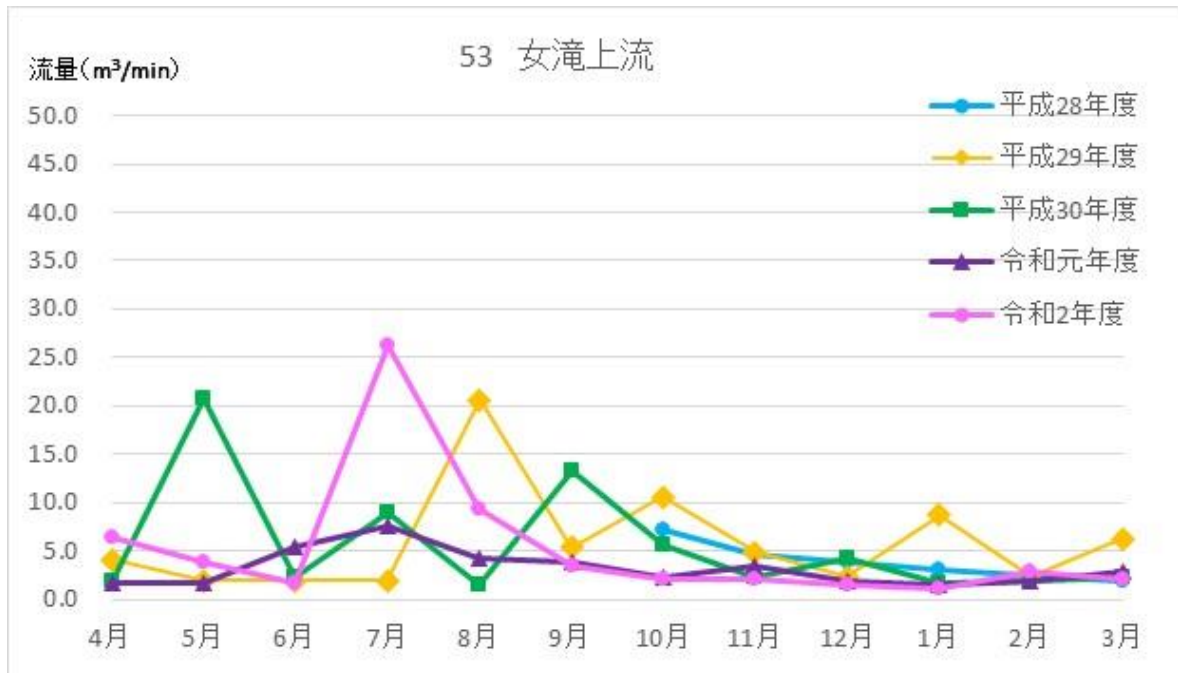
注1：平成30年度7月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：平成30年度9月期は測定日の6日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は豪雨災害に伴う増水により測定できなかったため、欠測。

図 3-5-5-1(111) 地表水の流量の調査結果
(52 南木曾町 男埴川(左岸)支流)

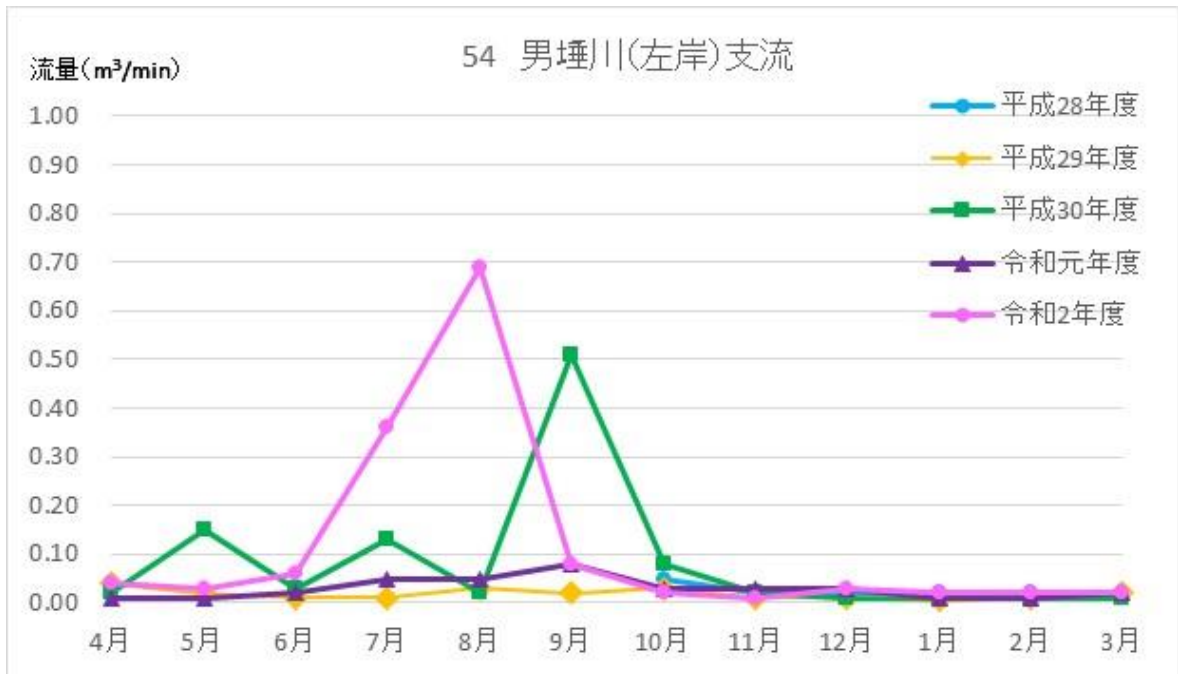
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(112) 地表水の流量の調査結果
(53 南木曾町 女滝上流)

測定方法：流速計測法及び容器法

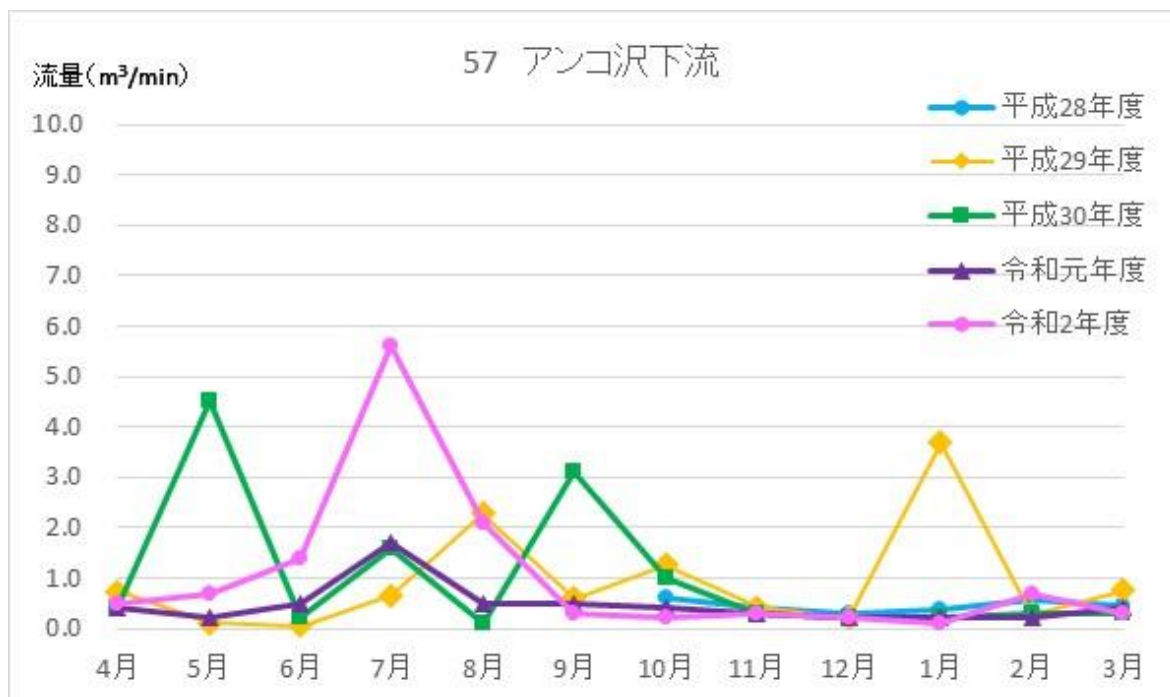


注1：平成30年度9月期は測定日の5日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から5日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(113) 地表水の流量の調査結果
(54 南木曾町 男埴川(左岸)支流)

測定方法：流速計測法



注1：平成30年度5月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。
 注2：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(114) 地表水の流量の調査結果
 (57 南木曾町 アンコ沢下流)

測定方法：流速計測法及び容器法

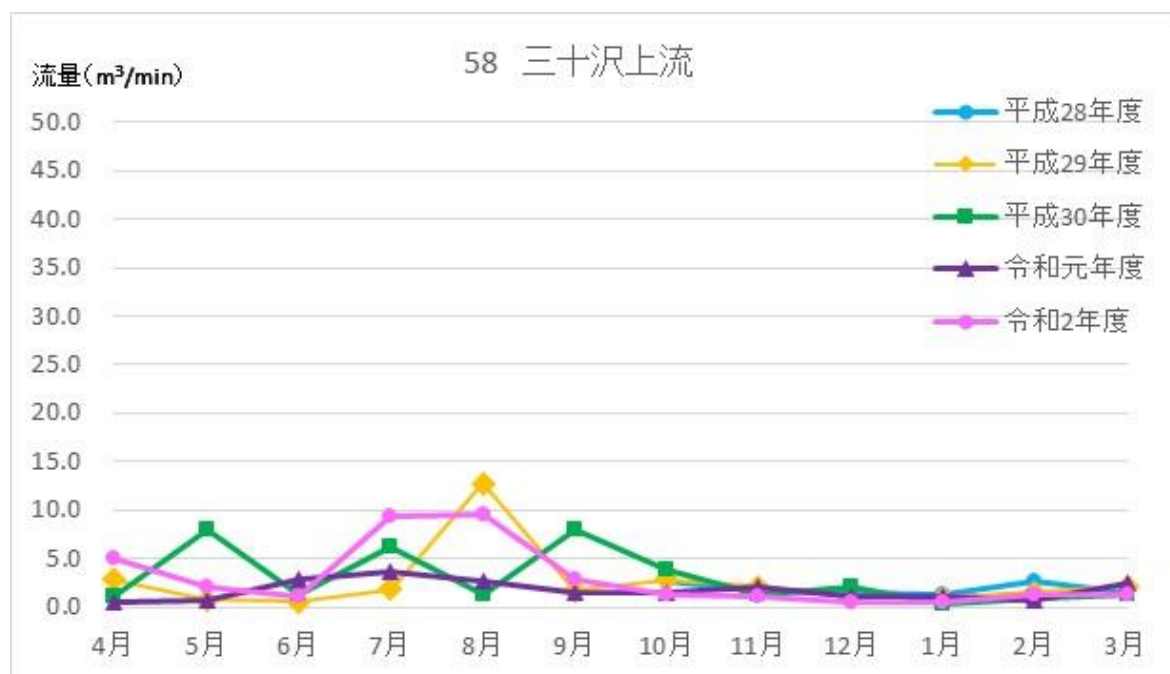
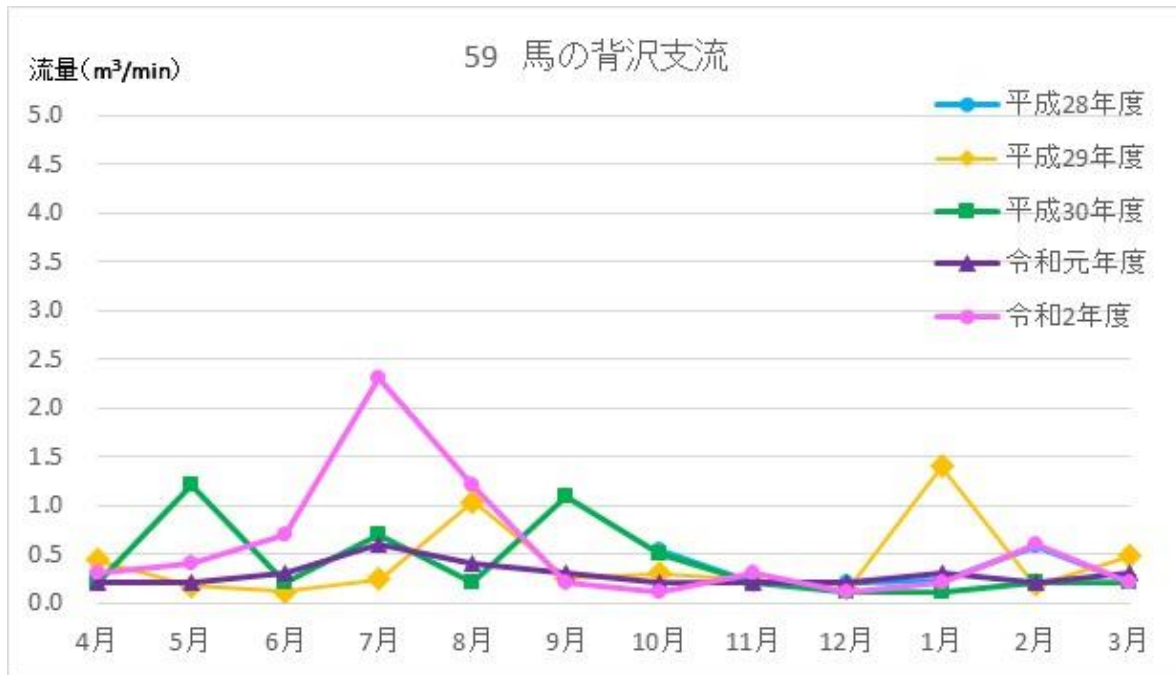


図 3-5-5-1(115) 地表水の流量の調査結果
 (58 南木曾町 三十沢上流)

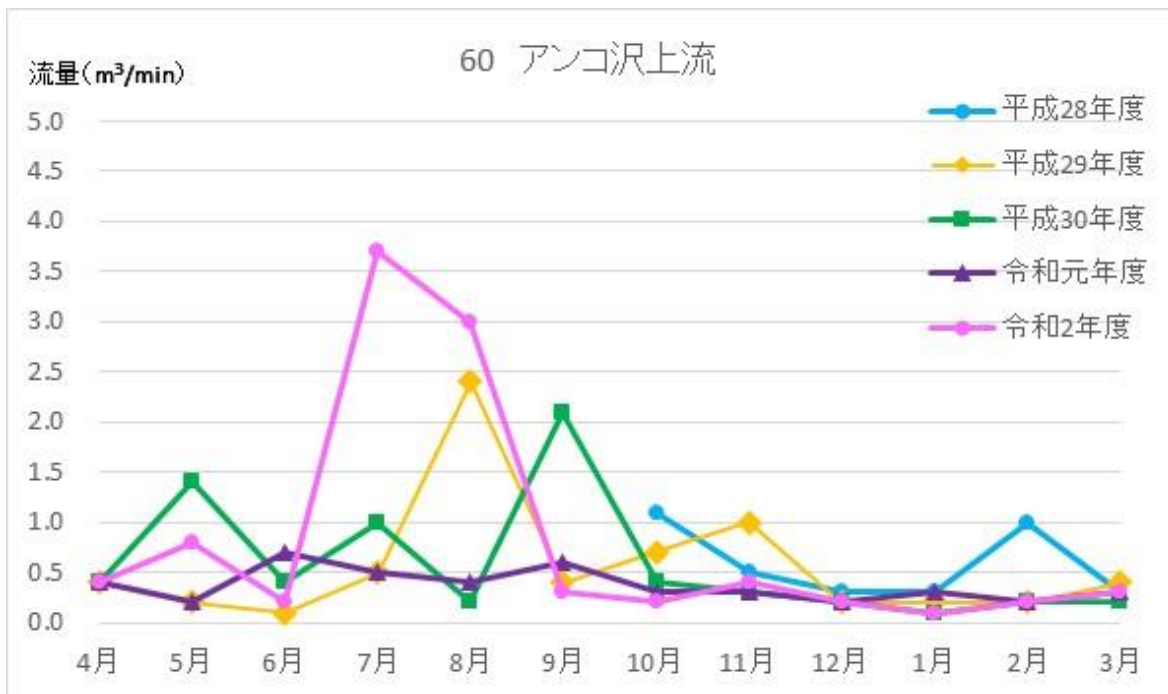
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の2週間程前から当日にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(116) 地表水の流量の調査結果
(59 南木曾町 馬の背沢支流)

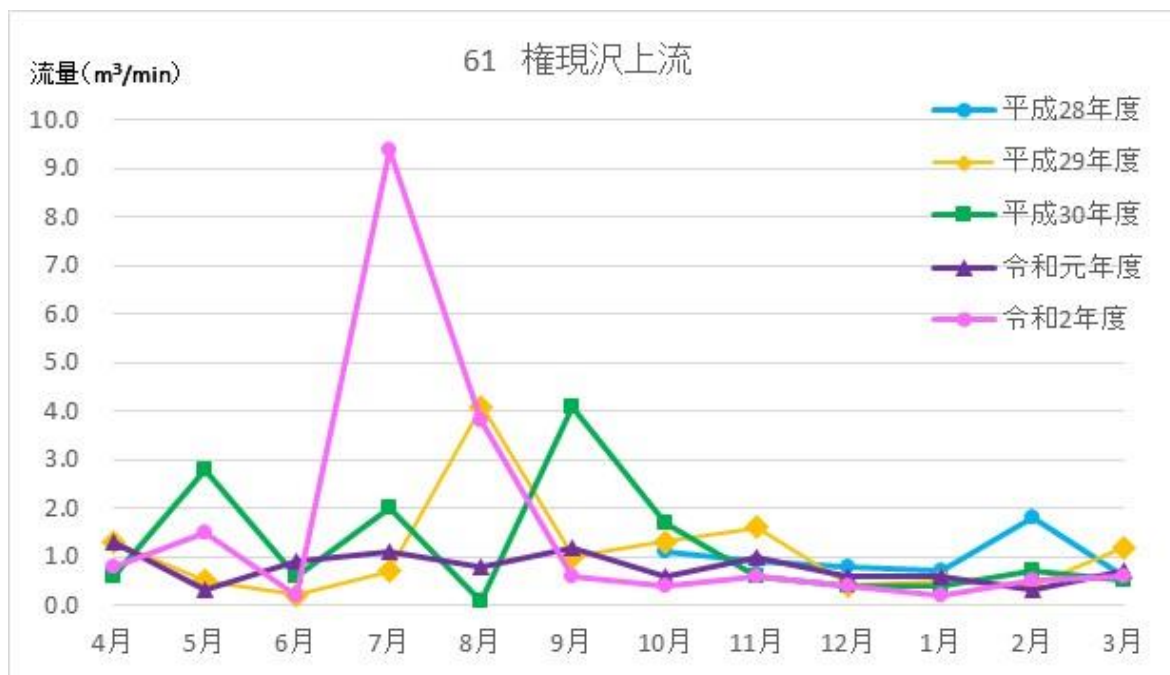
測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から5日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3--5-1(117) 地表水の流量の調査結果
(60 南木曾町 アンコ沢上流)

測定方法：流速計測法



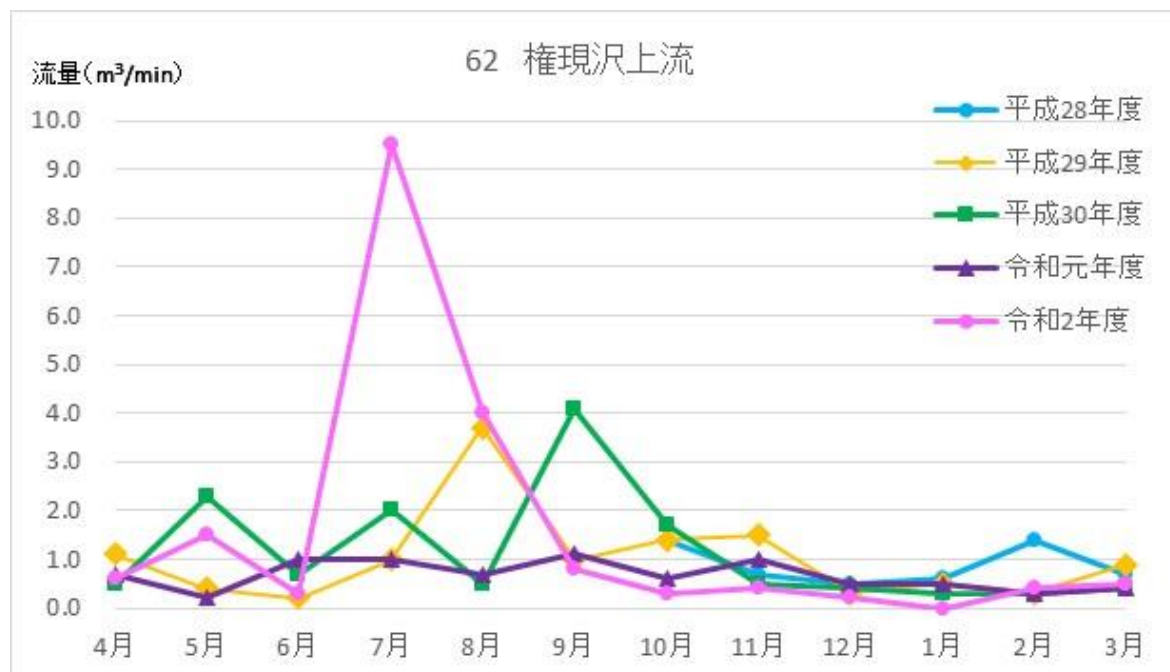
注1：平成29年度8月期は測定日の4日前から前日にかけてまとまった降雨があった。

注2：平成30年度9月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注3：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から5日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(118) 地表水の流量の調査結果
(61 南木曾町 権現沢上流)

測定方法：流速計測法

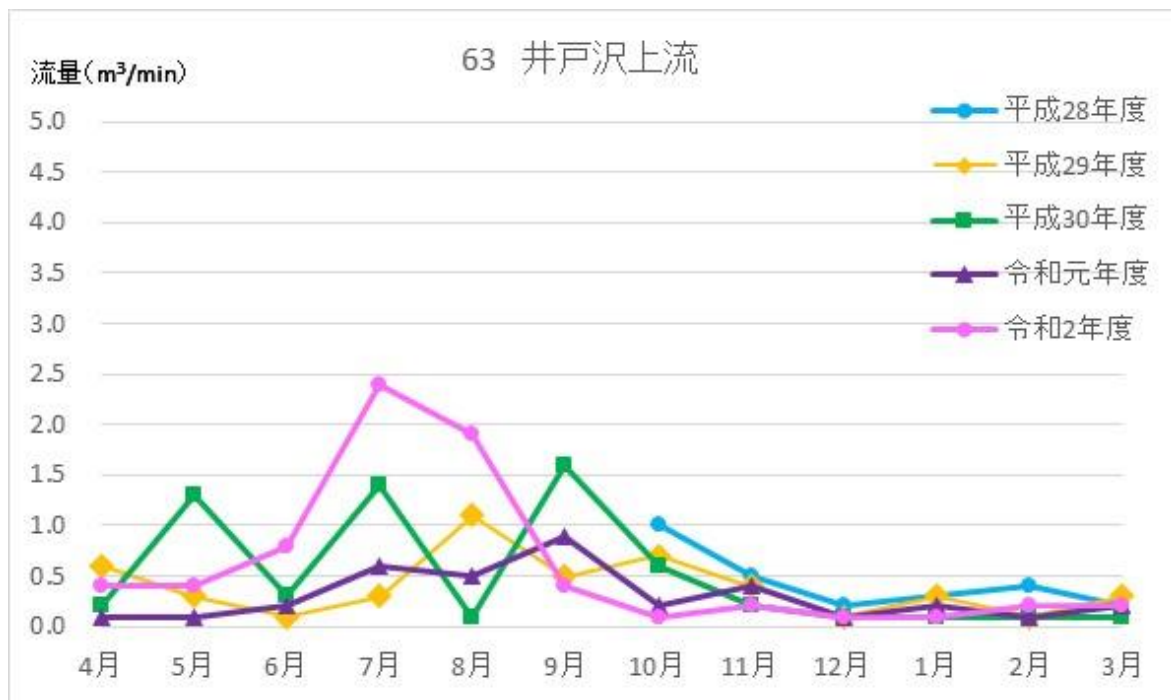


注1：平成30年度9月期は測定日の3日前から測定日にかけてまとまった降雨があった。

注2：令和2年度7月期は測定日の4週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から5日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(119) 地表水の流量の調査結果
(62 南木曾町 権現沢上流)

測定方法：流速計測法



注：令和2年度7月期は測定日の3週間程前から当日にかけて、8月期は測定日の5週間程前から5日前にかけてまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(120) 地表水の流量の調査結果
(63 南木曾町 井戸沢上流)

表 3-5-5-2 (1) 水資源の調査結果 (地下水の水質)

地点番号	青木川非常口 工事施工ヤード1			環境基準等 ^{注2}	
	9/1	12/17	3/1		
測定日	9/1	12/17	3/1	-	
水素イオン濃度 (pH)	7.7	7.7	7.8	-	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.23	0.34	0.29	0.8mg/L以下
	ほう素 (mg/L)	0.1	0.2	0.2	1mg/L以下

注1:「<」は、未満を示す。

注2:「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

表 3-5-5-2 (2) 水資源の調査結果 (地下水の水質)

地点番号	青木川非常口 工事施工ヤード2			環境基準等 ^{注2}	
	9/1	12/17	3/1		
測定日	9/1	12/17	3/1	-	
水素イオン濃度 (pH)	7.3	7.4	7.4	-	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.12	0.11	0.11	0.8mg/L以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L以下

注1:「<」は、未満を示す。

注2:「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

3-6 土壌汚染

工事実施箇所における発生土の土壌汚染について、工事中のモニタリングを実施した。

3-6-1 調査項目

調査項目は、土壌汚染の状況（自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び酸性化可能性）とした。

3-6-2 調査方法

調査方法は、表 3-6-1 に示すとおりである。

表 3-6-1 調査方法

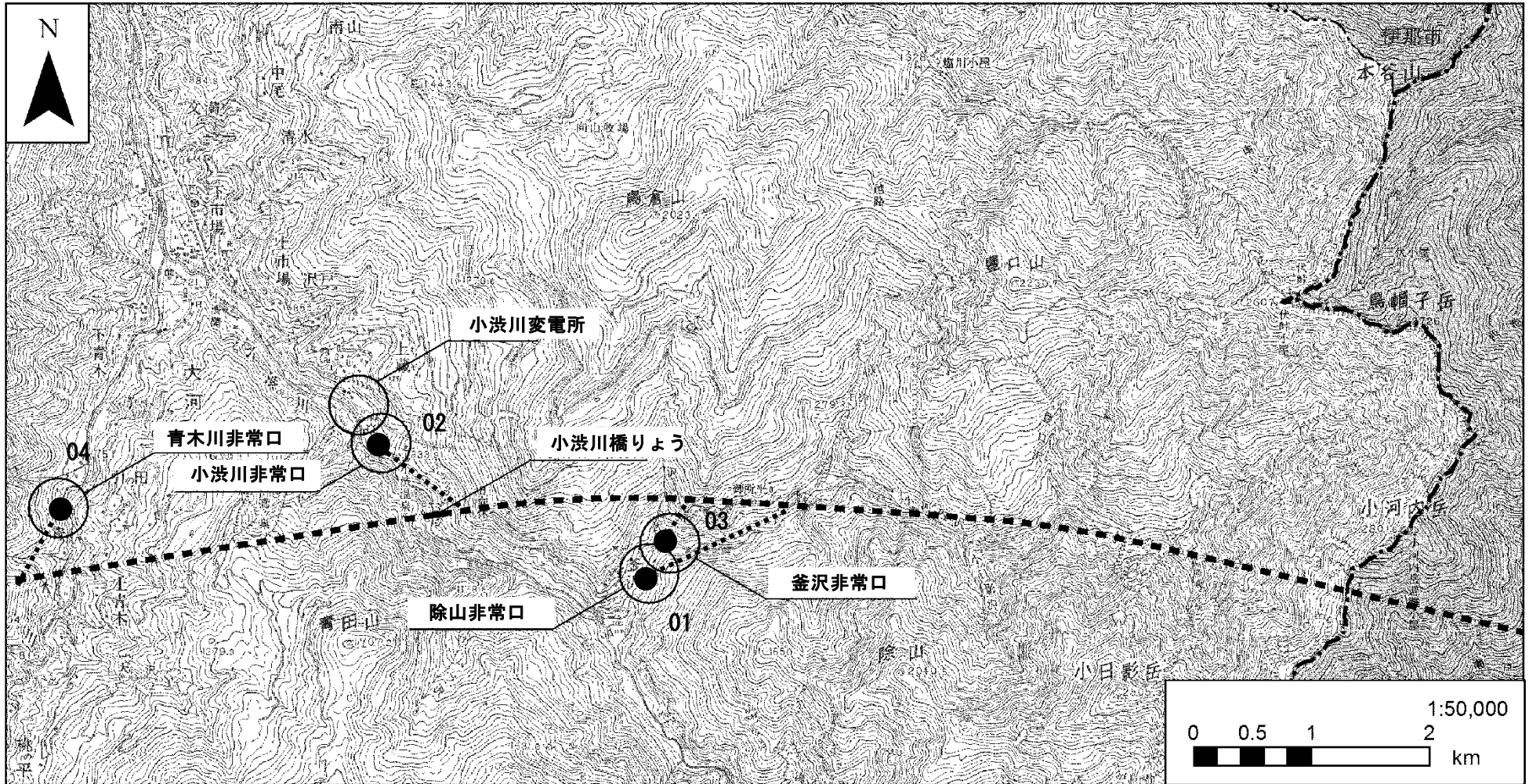
調査項目	調査方法
土壌溶出量試験	土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件 (平成 15 年環境省告示第 18 号)
酸性化可能性試験 pH(H ₂ O ₂)	JGS 0271-2016 過酸化水素水による土及び岩石の酸性化可能性試験方法

3-6-3 調査地点

調査地点は、表 3-6-2、図 3-6-1 に示すとおりである。

表 3-6-2 調査地点

地点 番号	市町村名	工区	実施箇所
01	大鹿村	南アルプストンネル（長野工区）	除山非常口
02			小渋川非常口
03			釜沢非常口
04		伊那山地トンネル（青木川工区）	青木川非常口



凡例

- 計画路線（トンネル部） ● 調査地点
- 計画路線（地上部） 非常口トンネル（斜坑）
- 県境
- 市町村境

図 3-6-1 調査地点図

3-6-4 調査期間

調査期間は、表 3-6-3 に示すとおりである。なお、地点番号 04 は青木川非常口の掘削を開始した令和 2 年 7 月から調査を開始した。

表 3-6-3 調査期間

地点番号	調査期間
01	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
02	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
03	令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日
04	令和 2 年 7 月 20 日～令和 3 年 3 月 31 日

3-6-5 調査結果

調査結果は、表 3-6-4、表 3-6-5 に示すとおりである。

地点番号 01 においては、土壤汚染対策法に定める基準値を超える土は確認されなかった。また、「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壤への対応マニュアル（暫定版）」（平成 22 年 3 月 建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）において長期的な酸性化可能性のある値として定められた pH3.5 以下の土は確認されなかった。

地点番号 02 においては、令和 2 年 8 月、9 月に土壤汚染対策法に定めるほう素の基準値を超える土、令和 2 年 10 月、11 月、12 月に土壤汚染対策法に定めるヒ素の基準値を超える土が確認された。また、長期的な酸性化可能性のある値として定められた pH3.5 以下の土は確認されなかった。

地点番号 03 においては、土壤汚染対策法に定める基準値を超える土は確認されなかった。また、長期的な酸性化可能性のある値として定められた pH3.5 以下の土は確認されなかった。

地点番号 04 においては、土壤汚染対策法に定める基準値を超える土は確認されなかった。また、長期的な酸性化可能性のある値として定められた pH3.5 以下の土は確認されなかった。

トンネル掘削による発生土は土壤汚染対策法の対象外であるが、これらの発生土（以下、「区分土」という。）については、土壤汚染対策法や「建設工事で発生する自然由来重金属等含有土対応ハンドブック」（平成 27 年 3 月 土木研究所編）等を参考に、発生土仮置き場（遮水型）に運搬し、適切に保管している。

なお、測定は日毎に実施しているが、表では月毎で整理した。

表 3-6-4(1) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果(月別最大値)(地点 01)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.010	0.05	0.0005	0.010	0.010	0.010	0.80	1.0
令和2年 4月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	0.005	0.005	0.15	<0.1
令和3年 1月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.002	0.19	<0.1
令和3年 2月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.003	0.33	<0.1
令和3年 3月	<0.001	<0.04	<0.0005	0.001	<0.005	0.003	0.22	<0.1

注1:「<」は、未満を表す。

注2:令和2年5月～令和2年12月はトンネル掘削を行っていないため調査をしていない。

表 3-6-4(2) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果(月別最大値)(地点 02)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.010	0.05	0.0005	0.010	0.010	0.010	0.80	1.0
令和2年 4月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.001	<0.08	<0.1
令和2年 5月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.001	<0.08	<0.1
令和2年 6月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.001	<0.08	0.1
令和2年 7月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.001	<0.08	0.4
令和2年 8月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.001	<0.08	2.9
令和2年 9月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.003	0.18	3.6
令和2年10月	<0.001	<0.04	<0.0005	0.001	<0.005	0.110	0.22	0.2
令和2年11月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.041	0.21	0.1
令和2年12月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.017	0.14	<0.1
令和3年 1月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.004	0.14	0.1
令和3年 2月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.003	0.12	0.1
令和3年 3月	<0.001	<0.04	<0.0005	0.001	<0.005	0.005	0.21	0.1

注:「<」は、未満を表す。

表 3-6-4(3) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果(月別最大値)(地点 03)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.010	0.05	0.0005	0.010	0.010	0.010	0.80	1.0
令和2年 4月	<0.001	<0.04	<0.0005	0.001	<0.005	0.006	0.15	<0.1
令和2年 5月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.003	0.29	<0.1
令和2年 6月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.007	0.31	<0.1
令和2年 7月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.003	0.13	<0.1
令和3年 1月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.001	0.09	<0.1
令和3年 2月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.003	0.53	<0.1
令和3年 3月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.004	0.23	<0.1

注1:「<」は、未満を表す。

注2:令和2年8月～令和2年12月はトンネル掘削を行っていないため調査をしていない。

表 3-6-4(4) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果(月別最大値)(地点 04)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.010	0.05	0.0005	0.010	0.010	0.010	0.80	1.0
令和2年 7月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.001	0.18	<0.1
令和2年 8月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.004	0.31	<0.1
令和2年 9月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.001	0.36	<0.1
令和2年 10月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.002	0.50	<0.1
令和2年 11月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.008	0.63	0.1
令和2年 12月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.002	0.24	<0.1
令和3年 1月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.002	0.21	<0.1
令和3年 2月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.002	0.18	<0.1
令和3年 3月	<0.001	<0.04	<0.0005	<0.001	<0.005	0.002	0.19	<0.1

注:「<」は、未満を表す。

表 3-6-5 酸性化可能性試験結果（月別 最小値）

調査時期	地点 01	地点 02	地点 03	地点 04
	pH (H ₂ O ₂)	pH (H ₂ O ₂)	pH (H ₂ O ₂)	pH (H ₂ O ₂)
	(pH)	(pH)	(pH)	(pH)
	最小値	最小値	最小値	最小値
参考値 ^{注1}	3.5			
令和2年 4月	4.2	3.9	10.2	—
令和2年 5月	—	7.9	10.4	—
令和2年 6月	—	9.6	9.5	—
令和2年 7月	—	9.6	10.9	10.9
令和2年 8月	—	8.6	—	10.2
令和2年 9月	—	8.1	—	10.4
令和2年 10月	—	9.4	—	10.1
令和2年 11月	—	10.5	—	8.9
令和2年 12月	—	10.7	—	11.0
令和3年 1月	11.3	10.8	11.1	11.1
令和3年 2月	9.9	10.7	11.0	10.9
令和3年 3月	4.3	9.4	11.0	10.9

注1：「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル(暫定版)(平成22年3月)」に示されている参考値であり、pH(H₂O₂)が3.5以下のものを長期的な酸性化の可能性があると評価する。

注2：地点01の令和2年5月～令和2年12月はトンネル掘削を行っていないため調査をしていない。

注3：地点03の令和2年8月～令和2年12月はトンネル掘削を行っていないため調査をしていない。

注4：地点04は令和2年7月からトンネル掘削を開始しているため、7月以降の調査結果を示す。

3-7 その他（発生土置き場等）

この節では、これまでに公表した発生土置き場等における調査及び影響検討において、モニタリングの対象とした項目の調査結果等について、記載している。

3-7-1 大鹿村内発生土仮置き場A、B、E

工事中のモニタリングとして、水質、水資源（地下水の水質）について調査を実施した。

3-7-1-1 水質

(1) 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水素イオン濃度（pH）、及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。なお、発生土仮置き場Eについては区分土を仮置きしており、発生土仮置き場Aについては今後、区分土を仮置きする可能性があるため、電気伝導率についても測定した。

(2) 調査方法

調査方法は、表 3-7-1 に示すとおりである。

表 3-7-1 調査方法

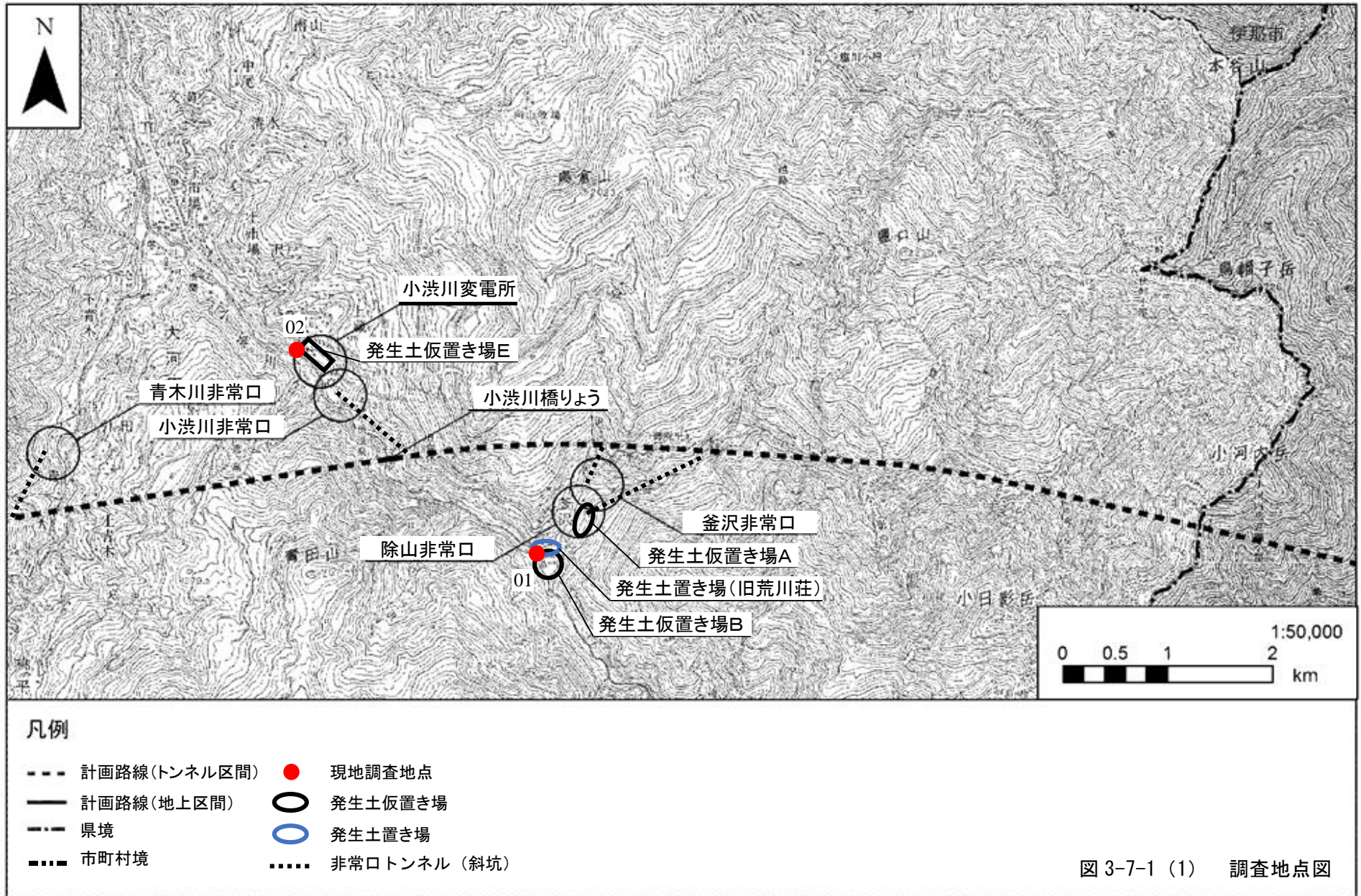
調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成22年3月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
ほう素		
電気伝導率		「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年建設省河川局）に定める測定方法

(3) 調査地点

調査地点は発生土仮置き場の工事に伴い、工事排水を放流する箇所の下流地点を選定した。調査地点は、表 3-7-2 及び図 3-7-1 に示すとおりである。

表 3-7-2 調査地点

地点番号	対象河川	実施箇所	調査項目				
			浮遊物 質量 (SS)	水温 (°C)	水素 イオン 濃度 (pH)	自然由来 の重金属 等	電気 伝導率 (mS/m)
01	小河内沢川	発生土仮置き場 A 発生土仮置き場 B (放流する箇所の下流地点)	○	○	○	○	○
02	小渋川	発生土仮置き場 E (放流する箇所の下流地点)	○	○	○	○	○



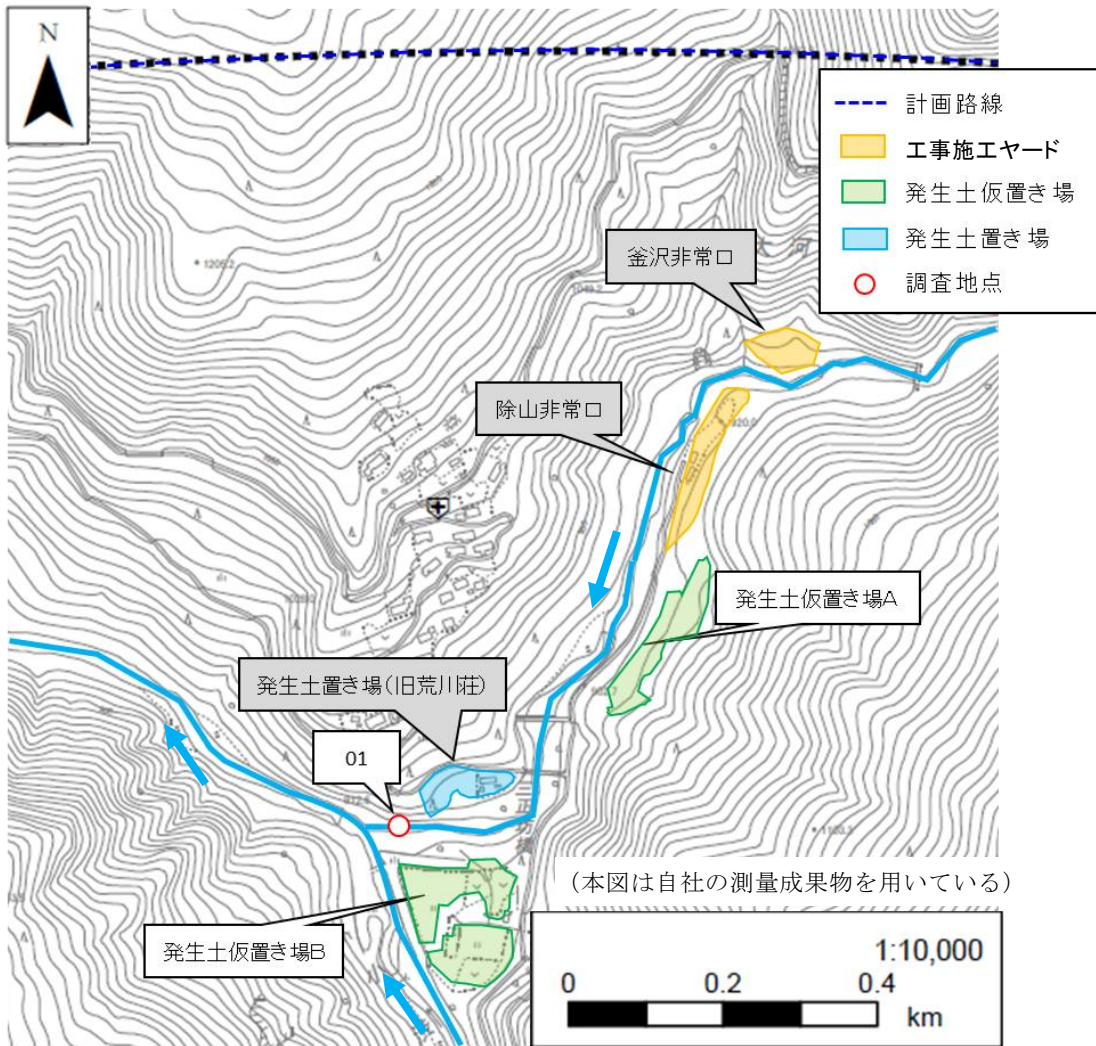


図 3-7-1(2) 調査地点図

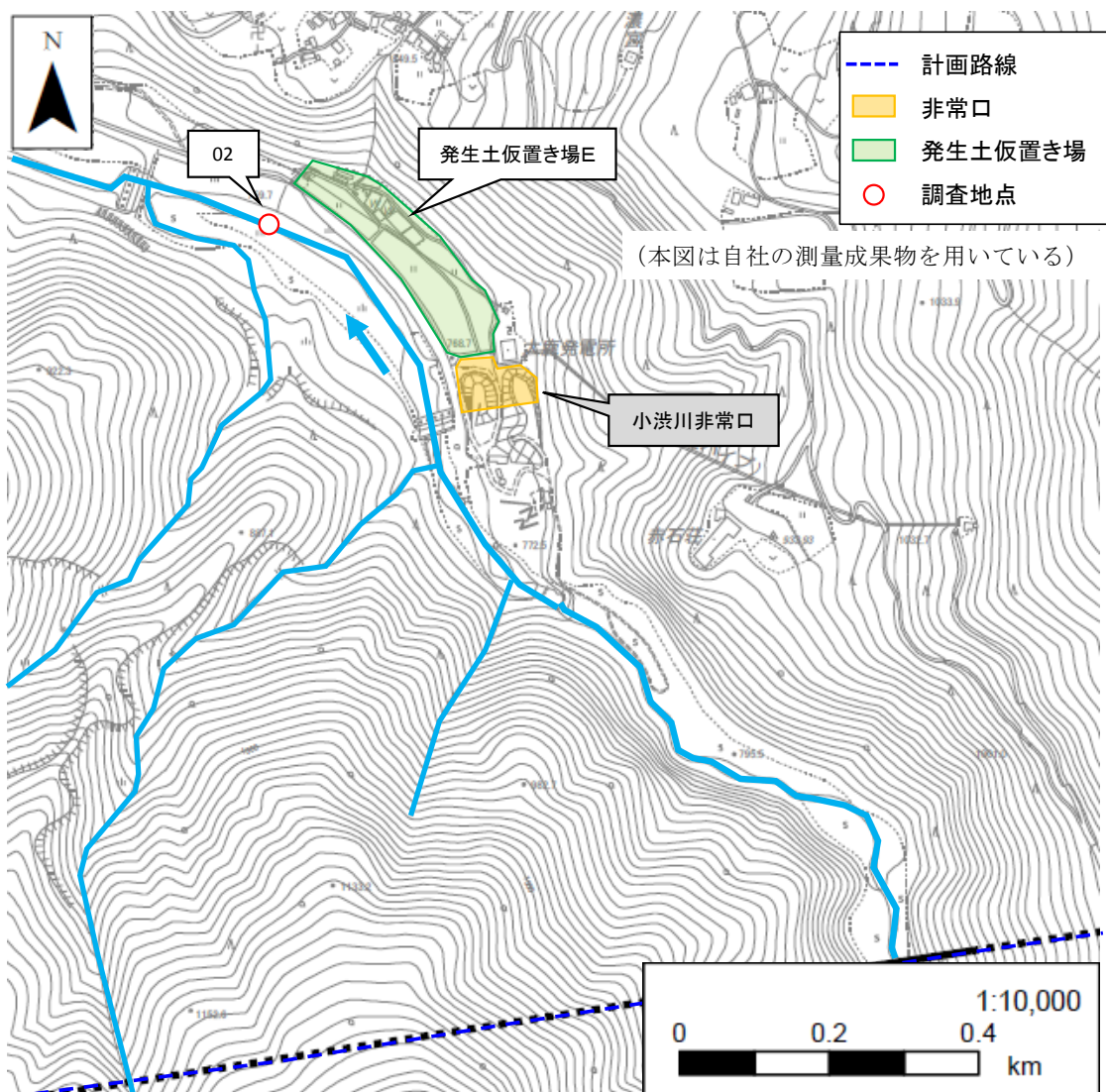


図 3-7-1 (3) 調査地点図

(4) 調査期間

現地調査の期間は、表 3-7-3 に示すとおりである。なお、発生土仮置き場 E については区分土を仮置きしており、発生土仮置き場 A については今後、区分土を仮置きする可能性があるため、頻度を月 1 回以上とした。

表 3-7-3 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	工事中	令和 2 年 4 月 16 日 ^{注1}	月1回以上
		令和 2 年 5 月 25 日、6 月 25 日、8 月 31 日、9 月 14 日、 10 月 21 日、11 月 11 日、12 月 7 日	
		令和 3 年 1 月 11 日、2 月 8 日、3 月 9 日	
02	工事中	令和 2 年 4 月 16 日 ^{注1}	月1回以上
		令和 2 年 5 月 25 日、6 月 25 日、8 月 18 日、9 月 14 日、 10 月 28 日、11 月 12 日、12 月 7 日	
		令和 3 年 1 月 11 日、2 月 8 日、3 月 9 日	

注1：地点01、02の浮遊物質量(SS)については年1回の調査のため、令和2年4月16日に調査を実施した。

注2：地点01及び02の令和2年7月は豪雨の影響により調査をしていない。

(5) 調査結果

調査結果は、表 3-7-4 に示すとおりである。

表 3-7-4(1) 調査結果

地点番号		01					環境基準等 ^{注1}	
対象河川		小河内沢川						
類型指定 ^{注3}		(AA)						
調査日		4/16	5/25	6/25	7/	8/31	9/14	
浮遊物質量 (SS) (mg/L)		<1	/	/	/	/	/	25mg/L以下
水素イオン濃度 (pH)		8.3	8.1	8.2	—	8.4	8.0	6.5以上 8.5以下
水温 (°C)		9.0	13.0	16.2	—	19.7	16.5	—
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	—	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	—	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	—	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	—	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	—	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.11	0.08	0.11	—	0.09	0.11	0.8mg/L以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	—	<0.1	<0.1	1mg/L以下
電気伝導率 (mS/m)		18	16	16	—	19	22	—

注1：浮遊物質量及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注2：「<」は、未満を示す。

注3：類型指定の無い河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注4：令和2年7月は豪雨の影響により調査をしていない。

表 3-7-4(2) 調査結果

地点番号		01					環境基準等 ^{注1}	
対象河川		小河内沢川						
類型指定 ^{注3}		(AA)						
調査日		10/21	11/11	12/7	1/11	2/8	3/9	
浮遊物質 (SS) (mg/L)		/	/	/	/	/	25mg/L以下	
水素イオン濃度 (pH)		8.3	8.3	8.0	8.2	8.3	8.5	6.5以上 8.5以下
水温 (°C)		13.0	6.0	6.0	2.0	2.5	5.2	—
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.08	0.10	0.12	0.17	0.12	0.08	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L以下	
電気伝導率 (mS/m)		18	19	22	25	23	30	—

注1：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注2：「<」は、未満を示す。

注3：類型指定の無い河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

表 3-7-4(3) 調査結果

地点番号	02						環境基準等 ^{注1}	
対象河川	小渋川							
類型指定	AA							
調査日	4/16	5/25	6/25	7/	8/18	9/14		
浮遊物質量 (SS) (mg/L)	1	/	/	/	/	/	25mg/L以下	
水素イオン濃度 (pH)	8.3	8.1	8.1	—	8.3	8.2	6.5以上 8.5以下	
水温 (°C)	7.9	11.1	11.8	—	14.8	17.4	—	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	—	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	—	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	—	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	—	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	—	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.17	<0.08	<0.08	—	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	—	<0.1	<0.1	1mg/L以下
電気伝導率 (mS/m)	15	14	14	—	10	21	—	

注1：浮遊物質量及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注2：「<」は、未満を示す。

注3：令和2年7月は豪雨の影響により調査をしていない。

表 3-7-4(4) 調査結果

地点番号		02					環境基準等 ^{注1}	
対象河川		小渋川						
類型指定		AA						
調査日		10/28	11/12	12/7	1/11	2/8	3/9	
浮遊物質 (SS) (mg/L)		/	/	/	/	/	25mg/L以下	
水素イオン濃度 (pH)		8.2	8.2	7.9	8.4	8.3	8.4	6.5以上 8.5以下
水温 (°C)		11.2	6.9	7.1	4.0	5.3	7.0	—
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	1mg/L以下	
電気伝導率 (mS/m)		16	24	21	21	28	22	—

注1：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注2：「<」は、未満を示す。

3-7-1-2 水資源（地下水の水質）

(1) 調査項目

調査項目は、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 3-7-5 に示すとおりである。

表 3-7-5 調査方法

調査項目		調査方法
水素イオン濃度(pH)		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法に準拠する。
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成22年3月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する。
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	

(3) 調査地点

調査地点は、図 3-7-2 に示すとおりである。

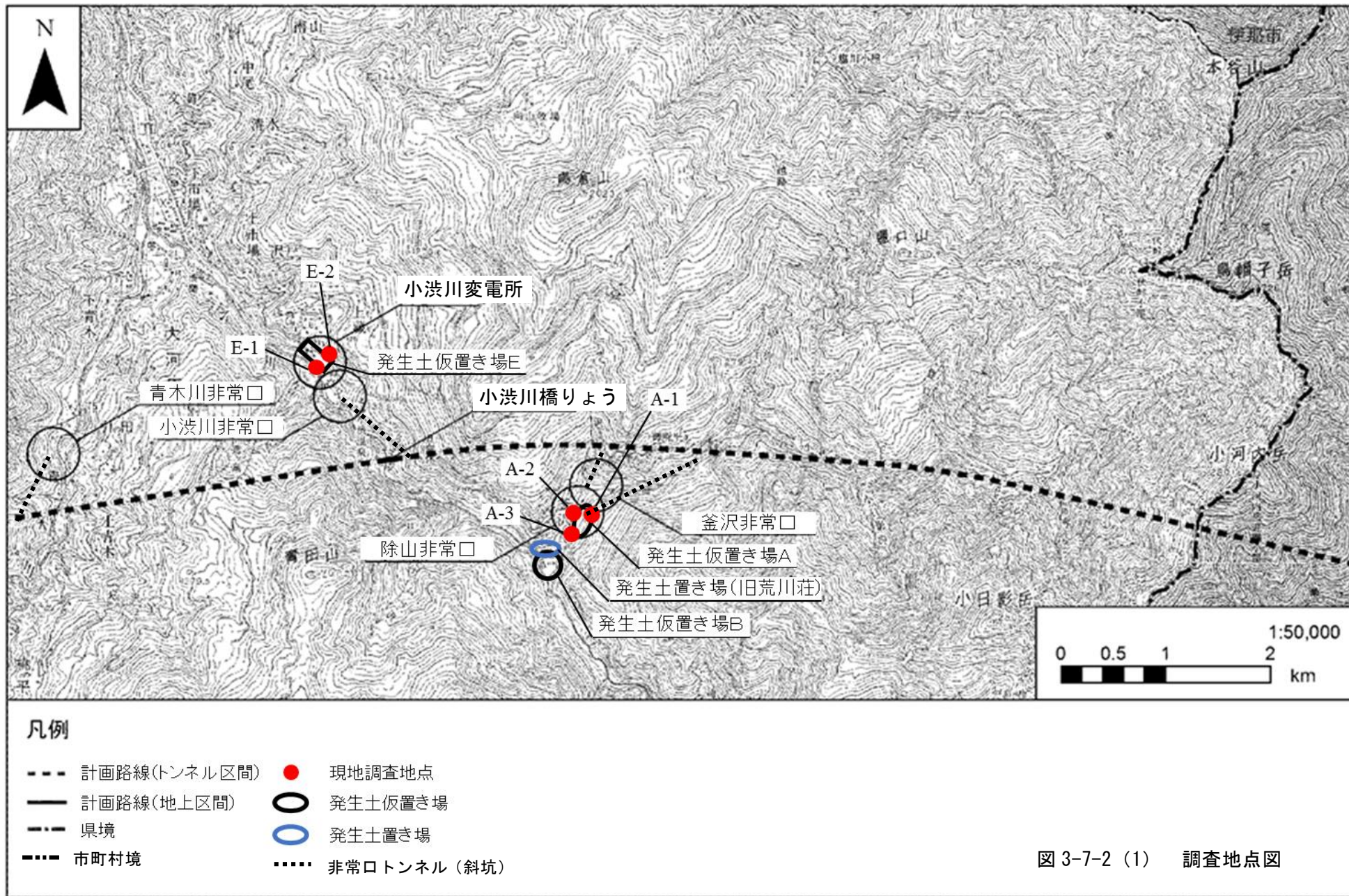


図 3-7-2 (1) 調査地点図

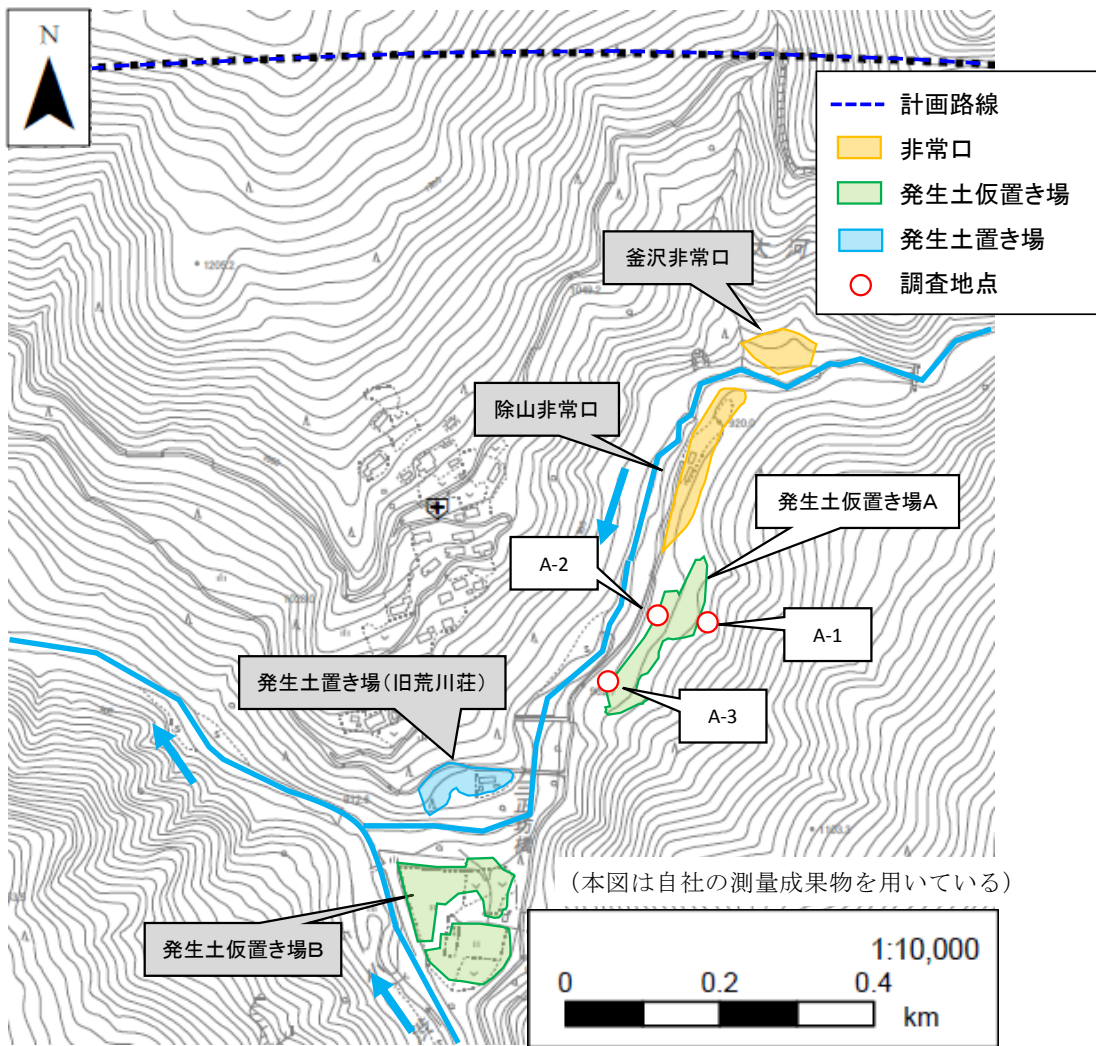


図 3-7-2(2) 調査地点図

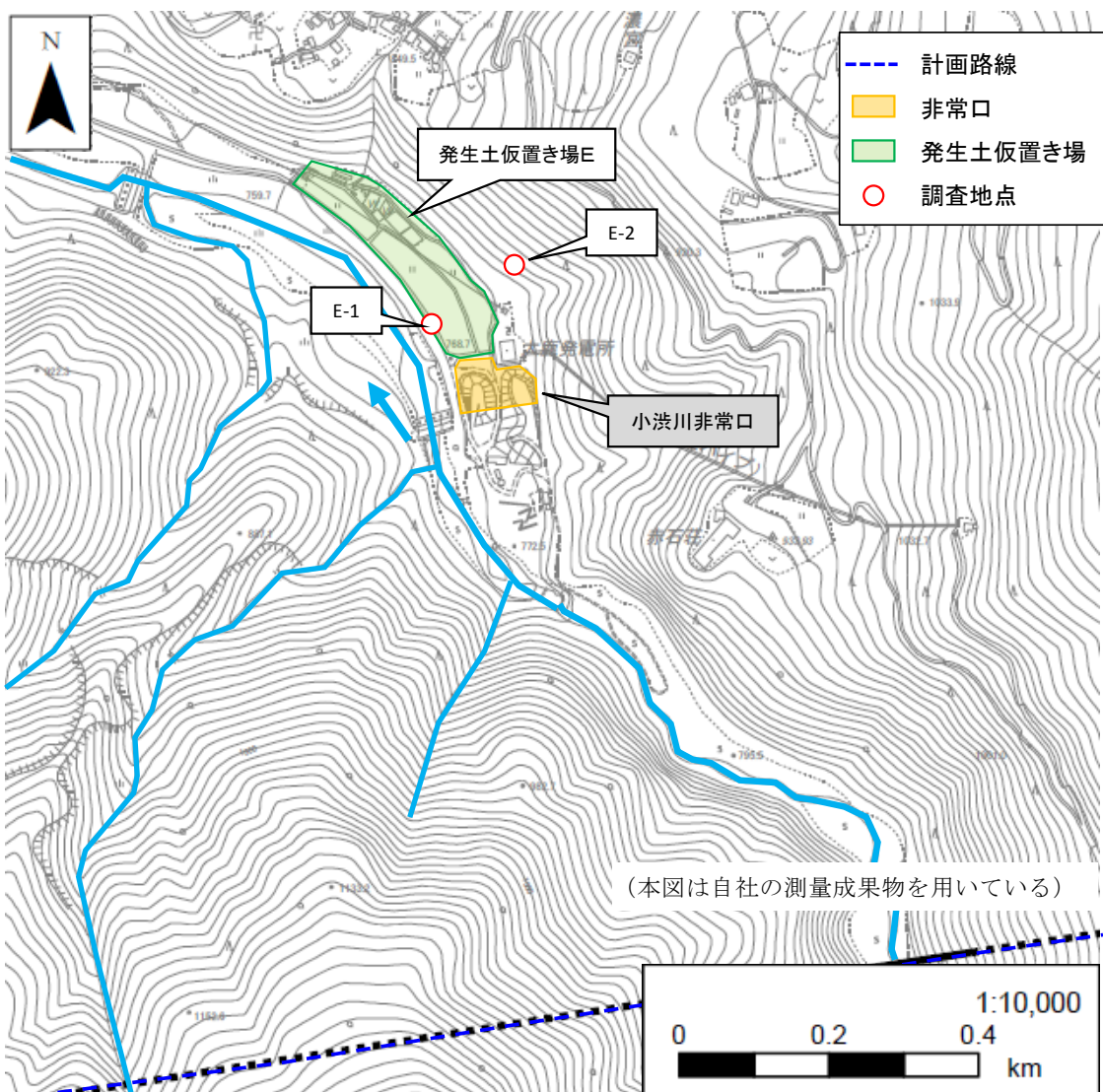


図 3-7-2(3) 調査地点図

(4) 調査期間

調査期間は、表 3-7-6 に示すとおりである。

表 3-7-6 調査期間

地点番号	調査期間	調査頻度
A-1	令和2年4月7日、5月12日、6月9日、8月31日、	月1回
A-2	9月23日、10月19日、11月10日、12月15日	
A-3	令和3年1月19日、2月8日、3月16日	
E-1	令和2年4月7日、5月12日、6月9日、7月16日、8月18日、	月1回
E-2	9月23日、10月19日、11月10日、12月15日	
	令和3年1月19日、2月8日、3月16日	

注：A-1、A-2、A-3の令和2年7月は豪雨の影響により調査をしていない。

(5) 調査結果

調査結果は、表 3-7-7 に示すとおりである。地点 A-3 において、ふっ素及び令和 2 年 4 月～6 月、9 月、11 月～12 月、令和 3 年 2 月にほう素が環境基準等を超過している。しかし、区分土の仮置き場として使用開始していない段階である。

表 3-7-7(1) 調査結果 (A-1)

地点番号	A-1												環境基準等 ^{注2}	
測定日	4/7	5/12	6/9	7/	8/31	9/23	10/19	11/10	12/15	1/19	2/8	3/16	-	
水素イオン濃度 (pH)	7.6	7.6	7.6	-	7.6	7.6	7.5	7.6	7.7	7.7	7.6	7.6	-	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	-	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	-	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	-	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.25	0.33	0.37	-	0.31	0.36	0.31	0.32	0.39	0.44	0.30	0.34	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	0.1	0.2	0.2	-	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	1mg/L以下	

注1: 「<」は、未満を示す。

注2: 「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

注3: 令和2年7月は豪雨の影響により調査をしていない。

表 3-7-7(2) 調査結果 (A-2)

地点番号	A-2												環境基準等 ^{注2}	
測定日	4/7	5/12	6/9	7/	8/31	9/23	10/19	11/10	12/15	1/19	2/8	3/16	-	
水素イオン濃度 (pH)	7.7	7.6	7.5	-	7.5	7.3	7.4	7.5	7.4	7.5	7.5	7.6	-	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	-	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	-	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	0.001	0.001	0.001	-	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.22	0.25	0.22	-	0.20	0.19	0.21	0.20	0.20	0.20	0.22	0.20	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	0.1	0.1	0.1	-	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1mg/L以下	

注1: 「<」は、未満を示す。

注2: 「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

注3: 令和2年7月は豪雨の影響により調査をしていない。

表 3-7-7(3) 調査結果 (A-3)

地点番号	A-3												環境基準等 ^{注2}	
測定日	4/7	5/12	6/9	7/	8/31	9/23	10/19	11/10	12/15	1/19	2/8	3/16	-	
水素イオン濃度 (pH)	7.8	7.7	7.6	-	7.6	7.4	7.3	7.4	7.3	7.3	7.3	7.5	-	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	-	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	-	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	-	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	-	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	-	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	1.5	1.4	1.5	-	1.3	1.5	1.3	1.4	1.3	1.1	1.3	1.1	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	1.3	1.1	1.1	-	1.0	1.4	0.9	1.1	1.1	0.9	1.5	1.0	1mg/L以下	

注1: 「<」は、未満を示す。

注2: 「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

注3: 令和2年7月は豪雨の影響により調査をしていない。

表 3-7-7(4) 調査結果 (E-1)

地点番号	E-1												環境基準等 ^{注2}	
測定日	4/7	5/12	6/9	7/16	8/18	9/23	10/19	11/10	12/15	1/19	2/8	3/16	-	
水素イオン濃度 (pH)	8.2	8.1	8.0	8.2	8.0	8.1	8.1	8.1	8.2	8.2	8.2	8.2	-	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下	
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下	
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下	
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下	
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下	
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	1mg/L以下	

注1: 「<」は、未満を示す。

注2: 「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

表 3-7-7(5) 調査結果 (E-2)

地点番号	E-2												環境基準等 ^{注2}	
測定日	4/7	5/12	6/9	7/16	8/18	9/23	10/19	11/10	12/15	1/19	2/8	3/16	-	
水素イオン濃度 (pH)	8.8	8.7	8.7	8.6	8.7	8.7	8.7	8.9	8.8	8.9	8.8	8.8	-	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下	
	六価クロム (mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.05mg/L以下	
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下	
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下	
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下	
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1mg/L以下	

注1: 「<」は、未満を示す。

注2: 「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

3-7-2 大鹿村内発生土置き場（青木川）

工事中のモニタリングとして、大気質、騒音、振動、水質について調査を実施した。

3-7-2-1 大気質

(1) 調査項目

調査項目は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん等とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 3-7-8 に示すとおりである。

表 3-7-8 調査方法

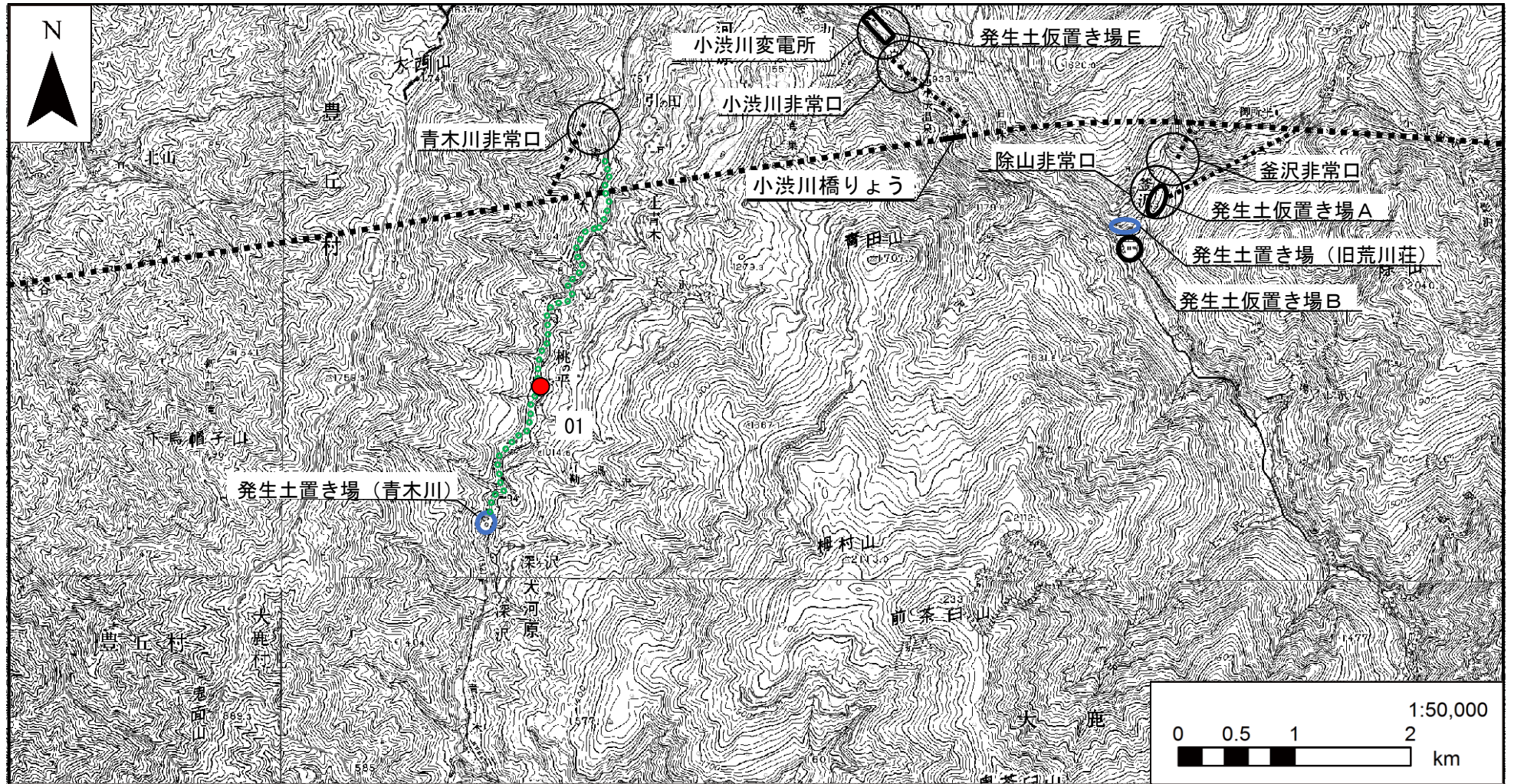
調査項目	調査方法	測定高さ
二酸化窒素 (NO ₂)	「二酸化窒素に係る環境基準について」 (昭和53年環境庁告示第38号) に定める測定方法	地上1.5m
浮遊粒子状物質 (SPM)	「大気の汚染に係る環境基準について」 (昭和48年環境庁告示第25号) に定める測定方法	地上3.0m
粉じん等 (降下ばいじん量)	「衛生試験法・注解(2015)」(2015、日本薬学会) に基づくダストジャー法	地上1.5m

(3) 調査地点

調査地点は、表 3-7-9 及び図 3-7-3 に示すとおりである。

表 3-7-9 調査地点

地点番号	調査種別	市町村名	所在地	実施箇所
01	資材及び機械の 運搬に用いる車 両の運行	大鹿村	大河原 深ヶ沢	発生土置き場 (青木川)



凡例

- 計画路線 (トンネル区間)
- 計画路線 (地上区間)
- - - 市区町村境
- 現地調査地点
- 発生土仮置き場
- 発生土置き場
- 非常口トンネル (斜坑)
- 工事に使用する道路

図 3-7-3 (1) 調査地点図

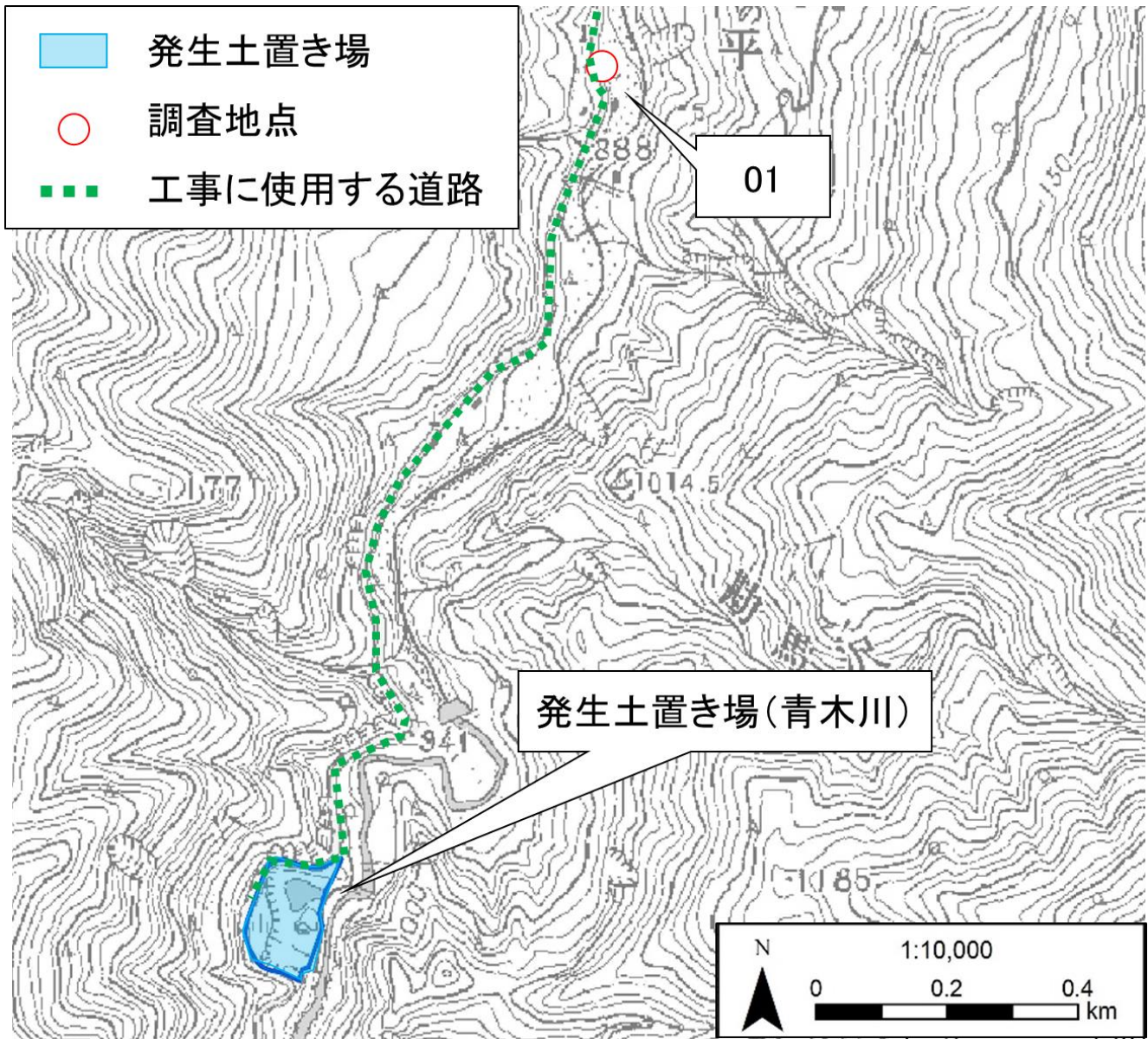


図 3-7-3(2) 調査地点図

(4) 調査期間

a) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査期間は、表 3-7-10 に示すとおりである。二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については四季調査を実施するものとし、各季 7 日間連続測定を、粉じん等については、四季調査を実施するものとし、各季 1 か月間連続測定を行った。地点 01 の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じん等の春季～冬季は、令和 3 年度に調査を実施する計画である。

表 3-7-10 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容	備考
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 (二酸化窒素及び浮遊粒子状物質)	01	冬季	令和3年1月13日～19日	盛土工	今回調査
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 (粉じん等)	01	冬季	令和3年1月13日～2月12日	盛土工	今回調査

(5) 調査結果

a) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査結果は、表 3-7-11 に示すとおりである。

地点 01 は四季調査の一季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.004ppm、浮遊粒子状物質の日平均値の最高値は 0.014mg/m³であった。

また、降下ばいじん量については、地点 01 で最大 1.1t/km²/月であった。

表 3-7-11(1) 調査結果（二酸化窒素）

地点番号	有効測定日数	測定時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が 0.06ppmを超えた 日数とその割合		日平均値が0.04ppm 以上0.06ppm以下の 日数とその割合		基準 ^注
	日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%	
01	7	168	0.002	0.025	0.004	0	0	0	0	日平均値の 年間98%値が 0.06ppm以下

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-7-11(2) 調査結果（浮遊粒子状物質）

地点番号	有効測定日数	測定時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	1時間値が0.20mg/m ³ を 超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を 超えた日数とその割合		基準 ^注
	日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³	時間	%	日	%	
01	7	168	0.006	0.027	0.014	0	0	0	0	日平均値の 年間2%除外値が 0.10mg/m ³ 以下

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-7-11(3) 調査結果（降下ばいじん量）注1

地点番号	春季	夏季	秋季	冬季	指標値注2
	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	20t/km ² /月
01	—	—	—	1.1	

注1：調査結果は、バックグラウンド濃度と資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与分の合計となる。

注2：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年環大自84号））を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。

なお、評価書では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である10t/km²/月（平成5年～平成9年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値）を差し引いた10t/km²/月を基準等の参考値とした。

3-7-2-2 騒音

(1) 調査項目

調査項目は、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る騒音（等価騒音レベル： L_{Aeq} ）とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表3-7-12に示すとおりである。

表 3-7-12 調査方法

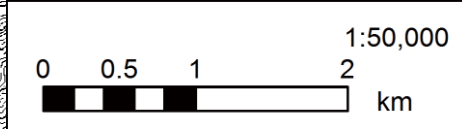
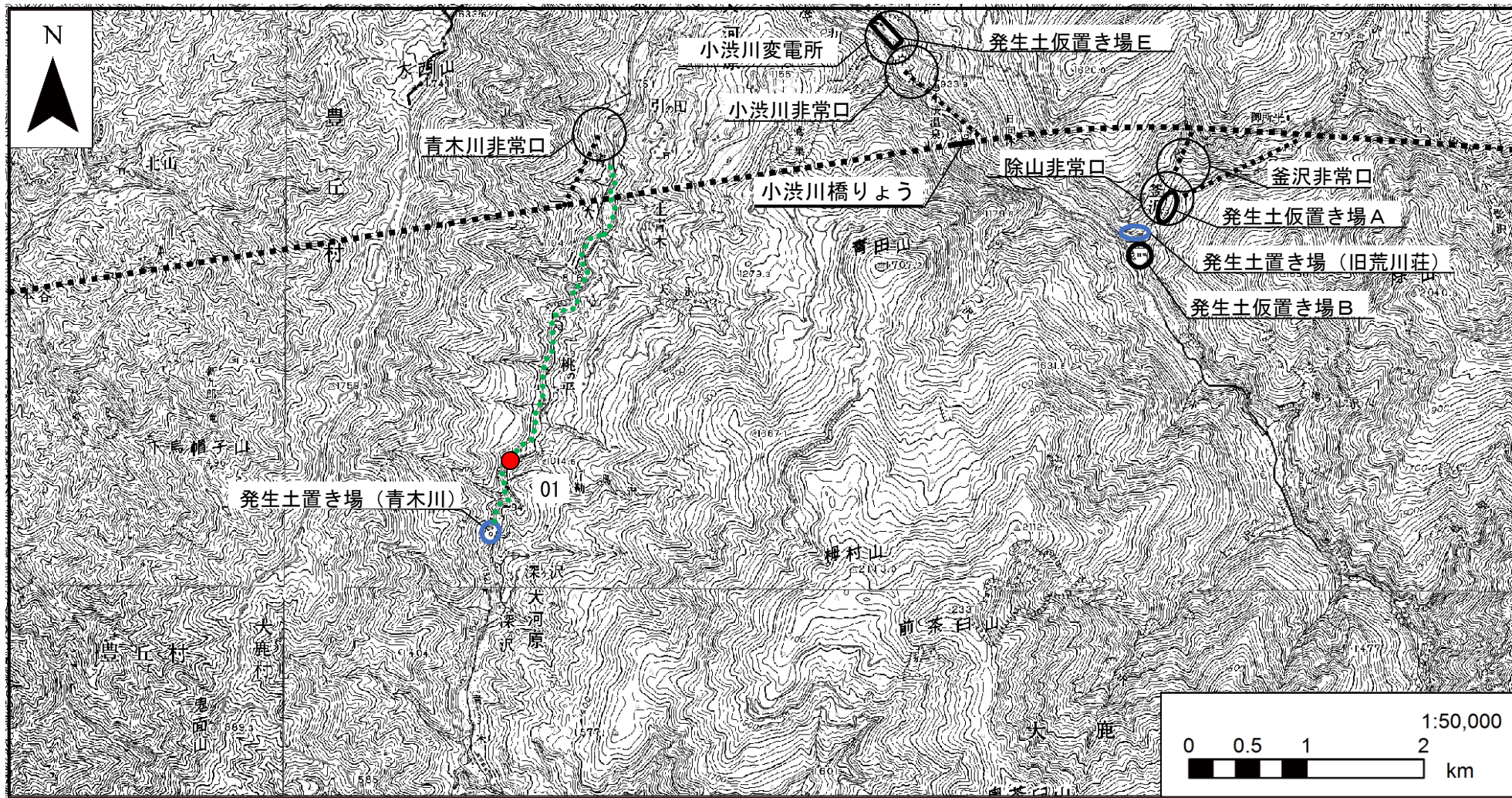
調査項目		調査方法	測定高さ
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る騒音	等価騒音レベル(L_{Aeq})	「騒音に係る環境基準について」(平成10年 環境庁告示第64号)	地上1.2m

(3) 調査地点

調査地点は、表3-7-13及び図3-7-4に示すとおりである。

表 3-7-13 調査地点

地点番号	調査種別	市町村名	所在地	実施箇所
01	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	大鹿村	大河原 深ヶ沢	発生土置き場 (青木川)



凡例

- 計画路線 (トンネル区間)
- 計画路線 (地上区間)
- - - 市区町村境
- 現地調査地点
- 発生土仮置き場
- 発生土置き場
- 非常口トンネル (斜坑)
- 工事に使用する道路

図 3-7-4 (1) 調査地点図

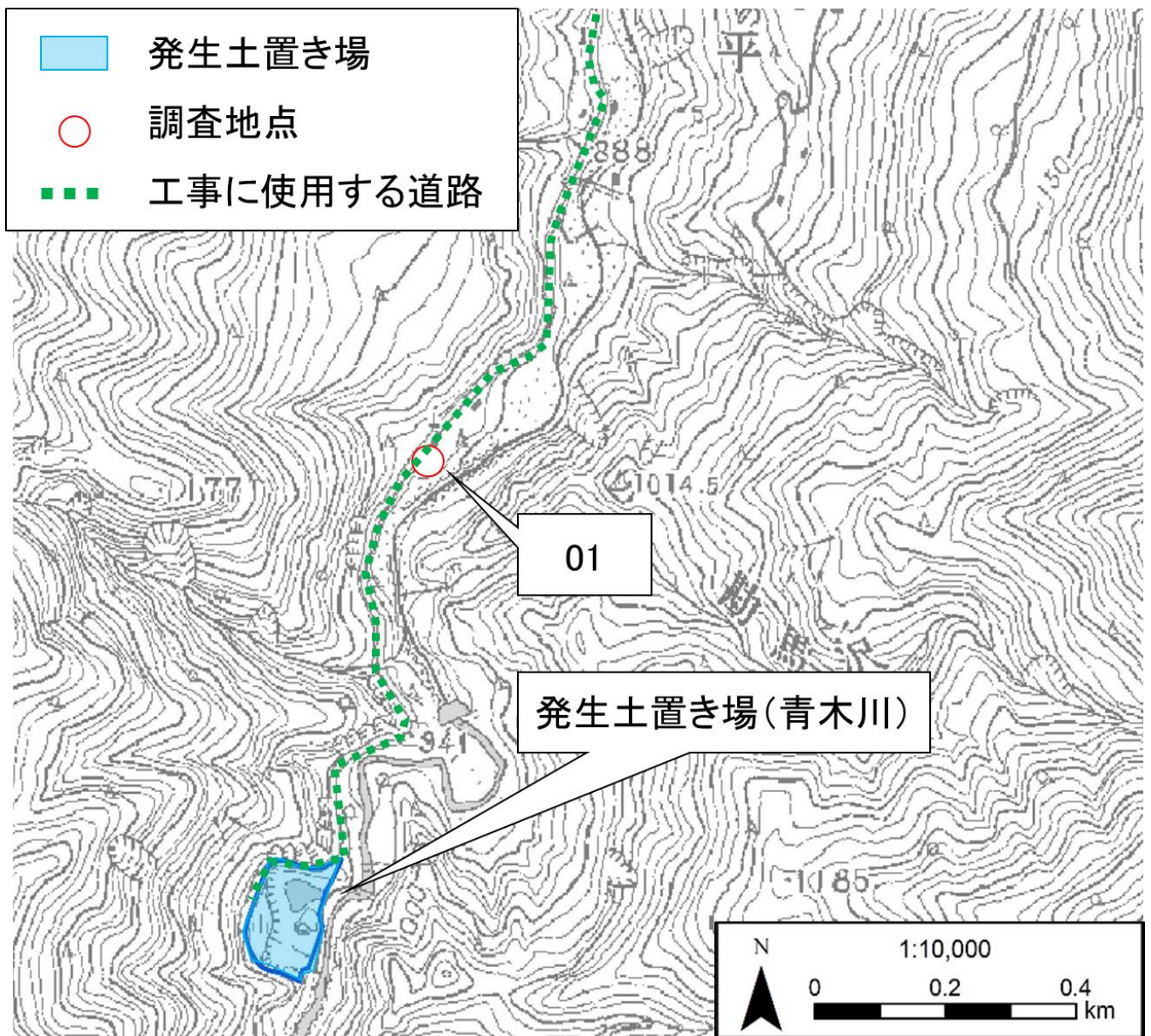


図 3-7-4(2) 調査地点図

(4) 調査期間

a) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査期間は、表 3-7-14 に示すとおりである。

表 3-7-14 調査期間

調査項目	地点番号	調査時期	調査時間帯	
			昼作業	6:00~22:00
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行 に係る騒音	01	令和2年12月8日	昼作業	6:00~22:00

(5) 調査結果

a) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査期間は、表 3-7-15 に示すとおりである。

資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る騒音については、「騒音に係る環境基準について」（平成10年環境庁告示第64号）に定める「道路に面する地域」の環境基準に対し、適合していた。

表 3-7-15 調査結果

調査項目	地点 番号	調査結果 (dB) ^{注1}		環境基準		
		昼間 L _{Aeq}	夜間 L _{Aeq}	基準値 (dB) ^{注2}		地域の類型
				昼間	夜間	
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行 に係る騒音	01	61	—	70	65	道路に面する地域 指定なし

注1：騒音に係る環境基準（平成10年環境庁告示第64号）に基づく時間区分は以下のとおりである。

昼間：午前6時から午後10時、夜間：午後10時から翌日の午前6時

注2：地域のタイプの指定が無い地域（地点番号01）については、幹線交通を担う道路に近接する空間とみなし環境基準をあてはめた。

3-7-2-3 振動

(1) 調査項目

調査項目は、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る振動（振動レベルの80%レンジの上端値： L_{10} ）とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表3-7-16に示すとおりである。

表 3-7-16 調査方法

調査項目		調査方法	測定高さ
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る振動	80%レンジ 上端値(L_{10})	「振動規制法施行規則」 (昭和51年 総理府令第58号)	地表面

(3) 調査地点

調査地点は、騒音と同様、表3-7-17及び図3-7-4に示すとおりである。

表 3-7-17 調査地点

地点番号	調査種別	市町村名	所在地	実施箇所
01	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	大鹿村	大河原 深ヶ沢	発生土置き場 (青木川)

(4) 調査期間

a) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査期間は、表 3-7-18 に示すとおりである。

表 3-7-18 調査期間

調査項目	地点番号	調査時期	調査時間帯	
			昼作業	6:00~22:00
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る振動	01	令和2年12月8日	昼作業	6:00~22:00

(5) 調査結果

a) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査期間は、表 3-7-19 に示すとおりである。

資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る振動については、「振動規制法施行規則」(昭和 51 年総理府令第 58 号) による道路交通振動の限度(要請限度)に定められる基準に対し、適合していた。

表 3-7-19 調査結果

調査項目	地点 番号	調査結果(dB)		環境基準		
		昼間 L ₁₀	夜間 L ₁₀	基準値(dB)		地域の類型
				昼間	夜間	
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行 に係る振動	01	<25 (15)	—	65	60	第 1 種区域

注1：昼間：午前8時から午後7時、夜間：午後7時から翌日の午前8時

注2：表中の<25は、振動レベル計での測定下限(25dB)未満であることを示す。

注3：()は25未満の数値を参考で表記した。

3-7-2-4 水質

(1) 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）の状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 3-7-20 に示すとおりである。

表 3-7-20 調査方法

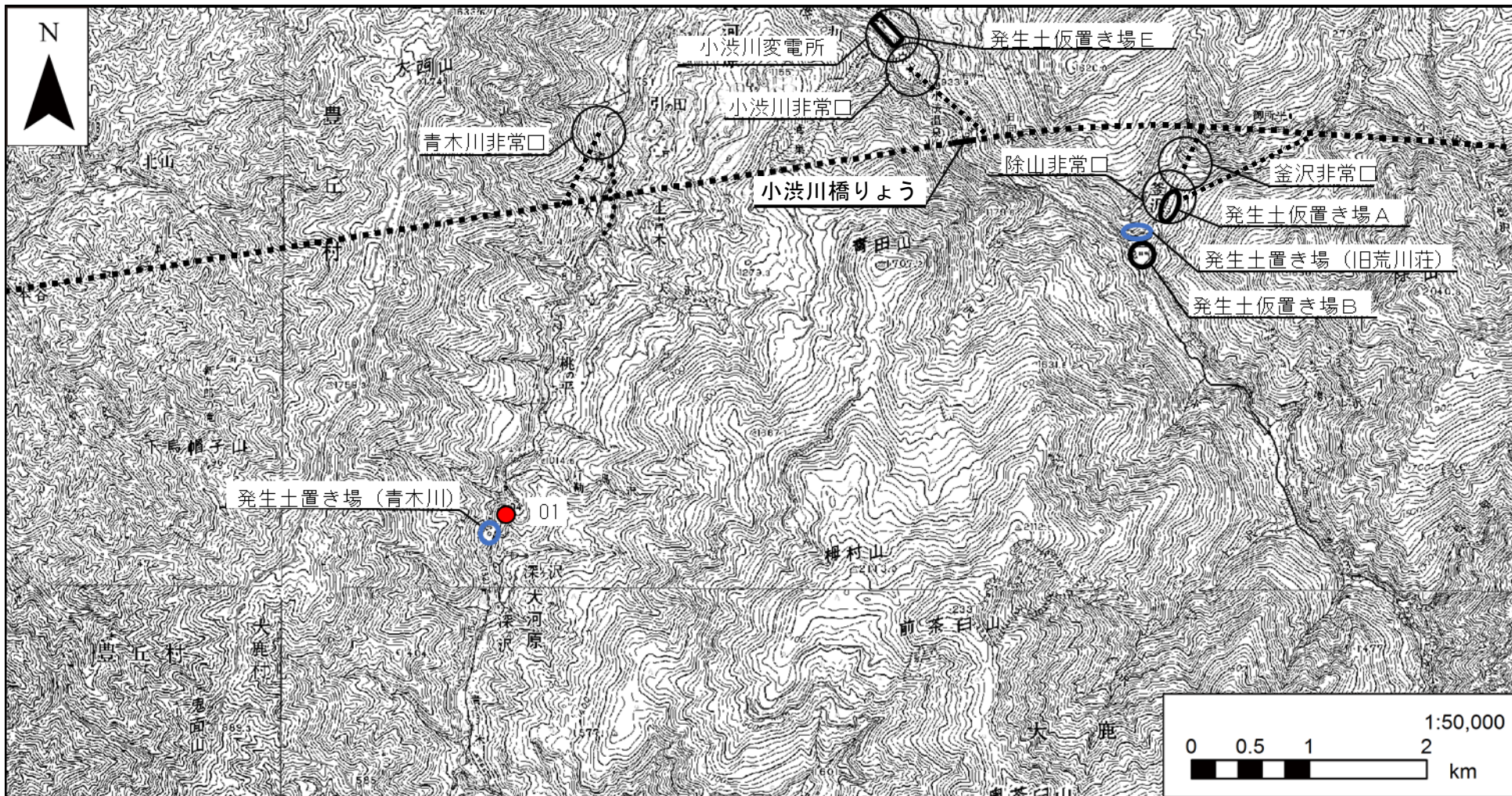
調査項目	調査方法
浮遊物質量（SS）	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法
水温	「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年建設省河川局）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法

(3) 調査地点

調査地点は発生土置き場の工事に伴い、工事排水を放流する箇所の下流地点を選定した。
調査地点は、表 3-7-21 及び図 3-7-5 に示すとおりである。

表 3-7-21 調査地点

地点番号	対象河川	実施箇所	調査項目		
			浮遊物質量（SS）	水温（℃）	水素イオン濃度（pH）
01	青木川	発生土置き場（青木川） （放流する箇所の下流地点）	○	○	○



凡例

- 計画路線 (トンネル区間)

— 計画路線 (地上区間)

--- 市町村境
- 現地調査地点

○ 発生土仮置き場

○ 発生土置き場
- 非常口トンネル (斜坑)

図 3-7-5 (1) 調査地点図

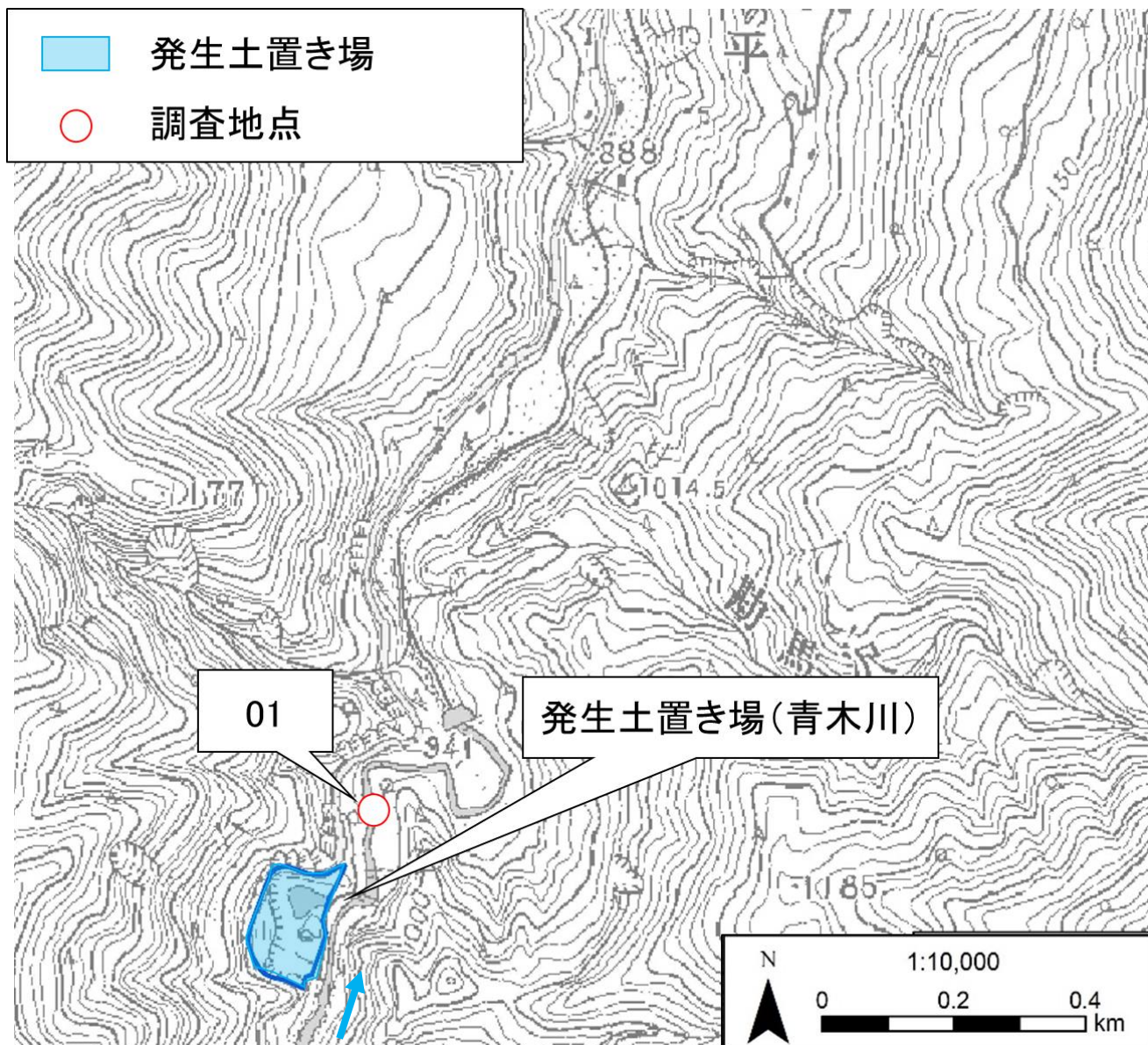


図 3-7-5 (2) 調査地点図

(4) 調査期間

現地調査の期間は、表 3-7-22 に示すとおりである。

表 3-7-22 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	工事中	令和 2 年 12 月 7 日	年1回

(5) 調査結果

調査結果は、表 3-7-23 に示すとおりである。

表 3-7-23 調査結果

地点番号	01	環境基準等 ^{注1}
対象河川	青木川	
類型指定 ^{注3}	(AA)	
調査日	12/7	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	<1	25mg/L以下
水素イオン濃度 (pH)	8.2	6.5以上 8.5以下
水温 (°C)	6.4	—

注 1：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を記載した。

注 2：「<」は、未満を示す。

注 3：類型指定の無い河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

3-7-3 豊丘村内発生土置き場（本山）

工事中のモニタリングとして、水質について調査を実施した。

3-7-3-1 水質

(1) 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）の状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 3-7-24 に示すとおりである。

表 3-7-24 調査方法

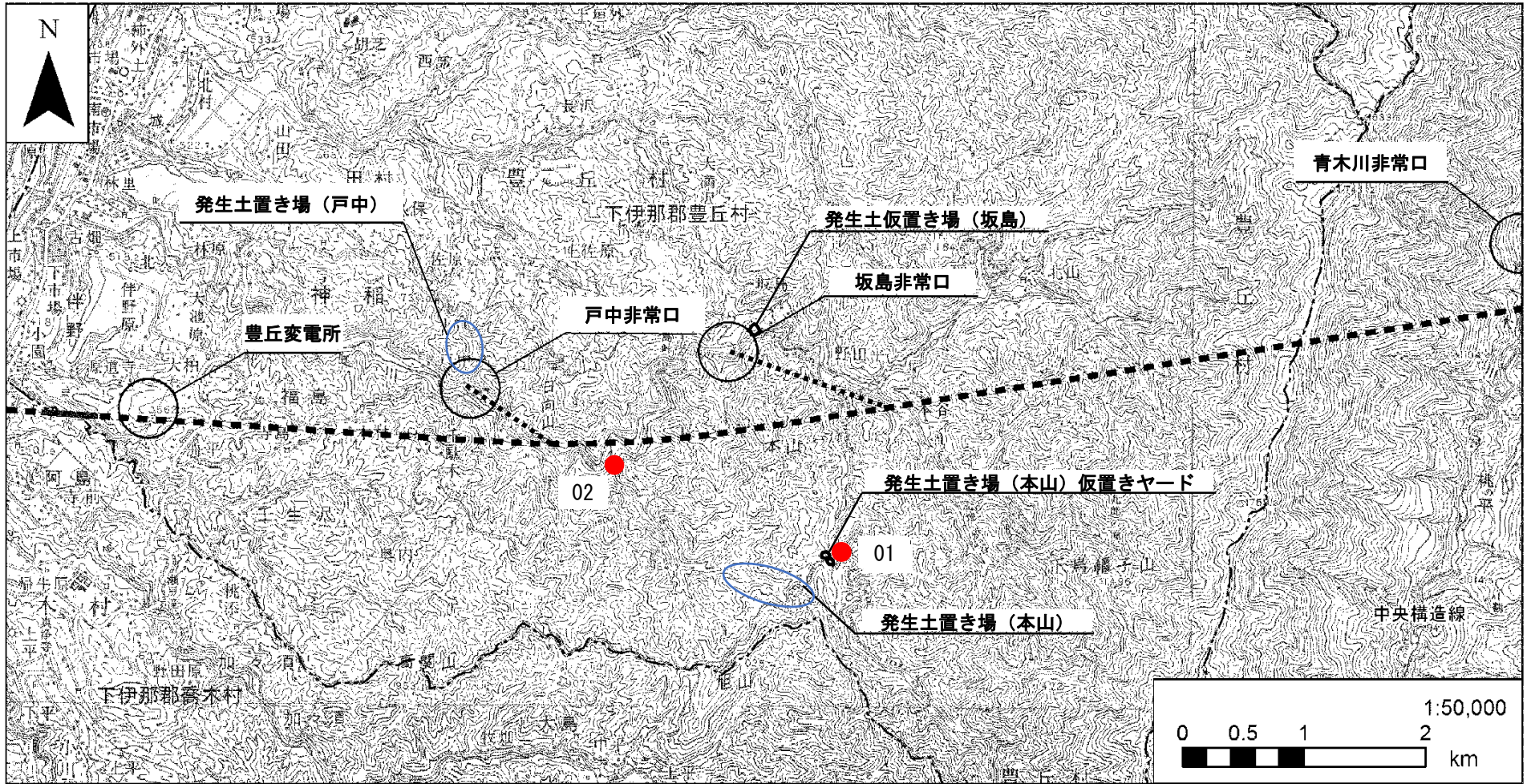
調査項目	調査方法
浮遊物質量（SS）	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法
水温	「地下水調査および観測指針（案）」（平成5年建設省河川局）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法

(3) 調査地点

調査地点は発生土置き場等の工事に伴い、工事排水を放流する箇所の下流地点を選定した。調査地点は、表 3-7-25 及び図 3-7-6 に示すとおりである。

表 3-7-25 調査地点

地点番号	対象河川	実施箇所	調査項目		
			浮遊物質量（SS）	水温（℃）	水素イオン濃度（pH）
01	萩野沢	発生土置き場（本山） 仮置きヤード (放流する箇所の下流地点)	○	○	○
02	サースケ洞	発生土置き場（本山） (放流する箇所の下流地点)	○	○	○



凡例

- 計画路線 (トンネル部)
- 計画路線 (地上部)
- 市区町村境
- 現地調査地点
- 発生土仮置き場
- 発生土置き場
- 非常口トンネル (斜坑)

図 3-7-6 (1) 調査地点図

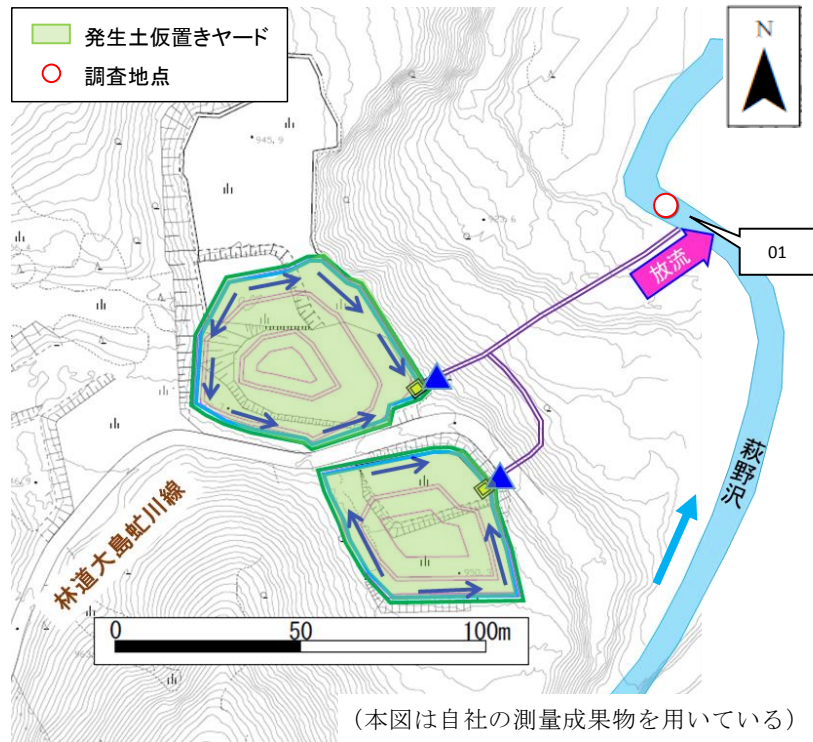


図 3-7-6 (2) 調査地点図

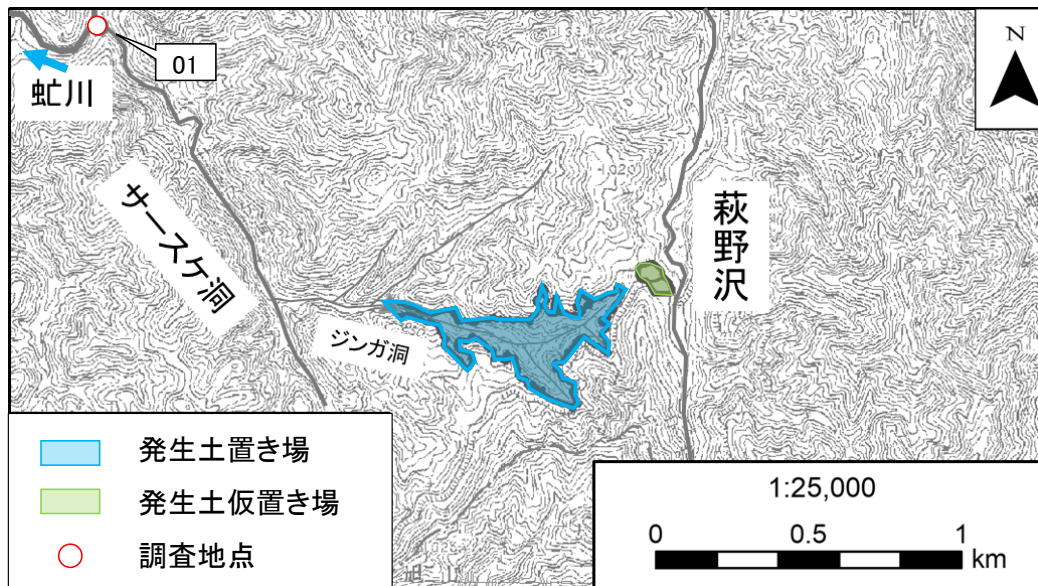


図 3-7-6 (3) 調査地点図

(4) 調査期間

現地調査の期間は、表 3-7-26 に示すとおりである。

表 3-7-26 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	工事中	令和 2 年 12 月 8 日	年 1 回
02	工事中	令和 2 年 12 月 8 日	年 1 回

(5) 調査結果

調査結果は、表 3-7-27 に示すとおりである。

表 3-7-27 調査結果

地点番号	01	02	環境基準等 ^{注1}
対象河川	萩野沢	サースケ洞	
類型指定 ^{注3}	(A)	(A)	
調査日	12/8	12/8	
浮遊物質量 (SS) (mg/L)	<1	<1	25mg/L以下
水素イオン濃度 (pH)	7.5	7.8	6.5以上 8.5以下
水温 (°C)	6.2	5.8	—

注 1：浮遊物質量及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を記載した。

注 2：「<」は、未満を示す。

注 3：類型指定の無い河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

3-7-4 豊丘村内発生土仮置き場（坂島）

工事中のモニタリングとして、水質、水資源（地下水の水質）について調査を実施した。

3-7-4-1 水質

(1) 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 3-7-28 に示すとおりである。

表 3-7-28 調査方法

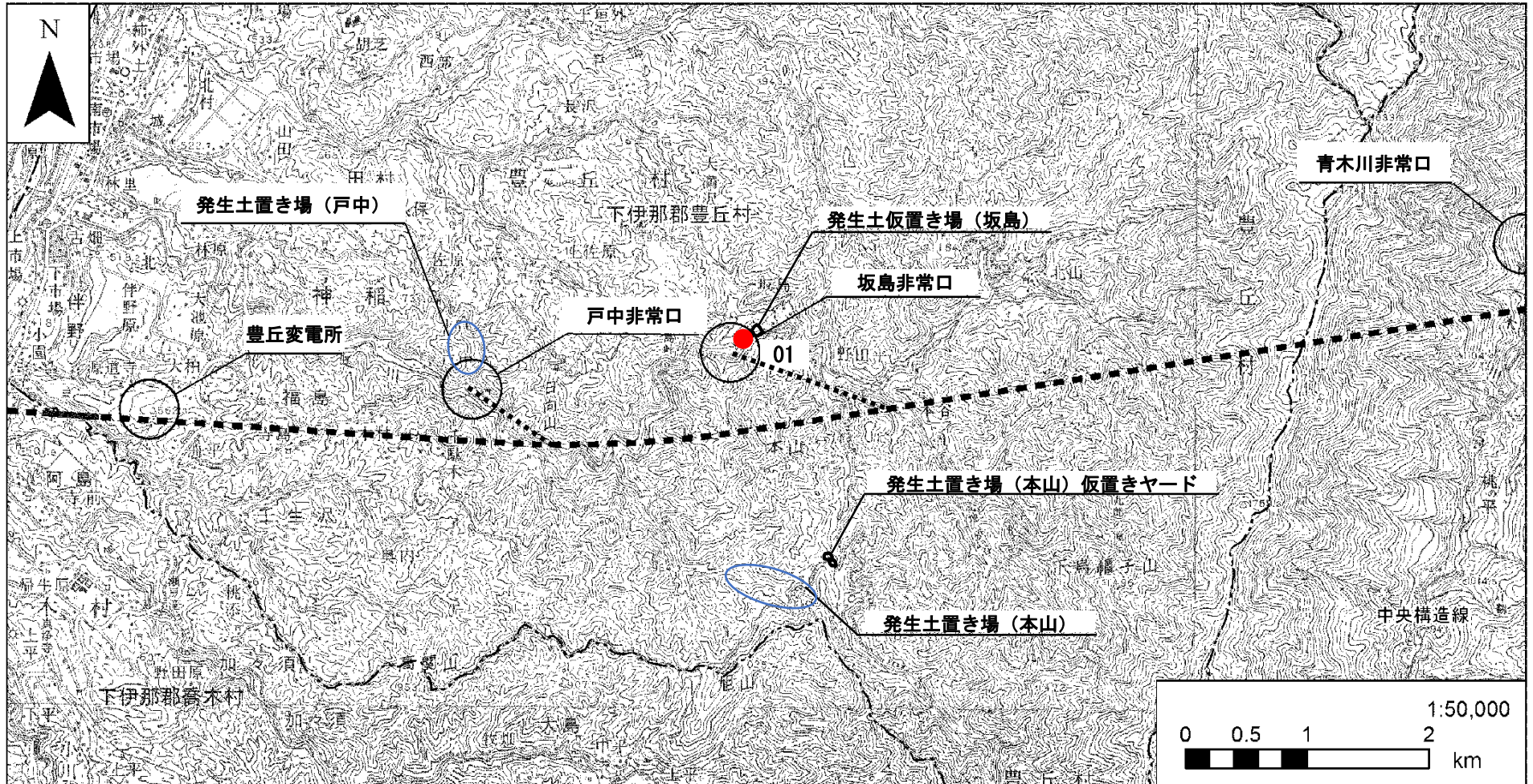
調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成22年3月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	

(3) 調査地点

調査地点は発生土置き場等の工事に伴い、工事排水を放流する箇所の下流地点を選定した。調査地点は、表 3-7-29 及び図 3-7-7 に示すとおりである。

表 3-7-29 調査地点

地点番号	対象河川	実施箇所	調査項目				
			浮遊物質量（SS）	水温（℃）	水素イオン濃度（pH）	自然由来の重金属等	電気伝導率（mS/m）
01	虻川	発生土仮置き場（坂島） （放流する箇所の下流地点）	○	○	○	○	○



凡例

- 計画路線 (トンネル部) ● 現地調査地点 非常口トンネル (斜坑)
- 計画路線 (地上部) ○ 発生土仮置き場
- 市町村境 ○ 発生土置き場

図 3-7-7 (1) 調査地点図

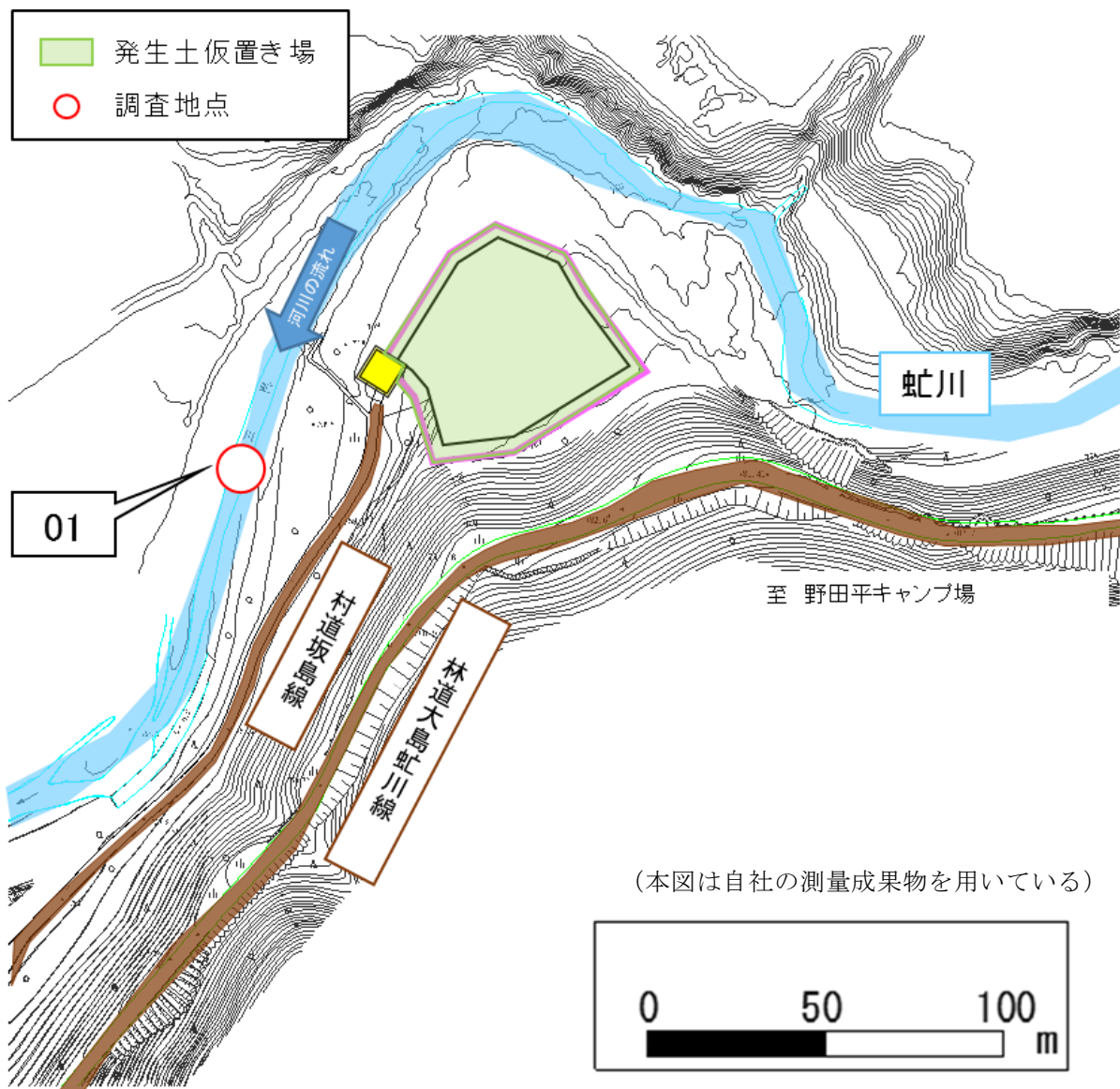


図 3-7-7 (2) 調査地点図

(4) 調査期間

現地調査の期間は、表 3-7-30 に示すとおりである。

表 3-7-30 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	搬入前	令和2年5月26日 ^注 令和2年6月30日、7月28日、8月24日、9月28日、 10月27日、11月25日、12月22日 令和3年1月29日、2月26日、3月29日	月1回以上

注：浮遊物質量(SS)については年1回の調査のため、令和2年5月26日に調査を実施した。

(5) 調査結果

調査結果は、表 3-7-31 に示すとおりである。

表 3-7-31 (1) 調査結果

地点番号	01						環境基準等 ^{注1}	
対象河川	虻川							
類型指定 ^{注3}	(A)							
調査日	5/26	6/30	7/28	8/24	9/28	10/27		
浮遊物質 (SS) (mg/L)	<1	/	/	/	/	/	25mg/L以下	
水素イオン濃度 (pH)	7.3	7.2	7.0	7.0	7.1	7.1	6.5以上 8.5以下	
水温 (°C)	15.0	15.2	16.6	20.2	15.9	9.8	—	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.1	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L以下	
電気伝導率 (mS/m)	3.2	3.2	2.7	3.5	3.9	3.3	—	

注1：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注2：「<」は、未満を示す。

注3：類型指定の無い河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

表 3-7-31 (2) 調査結果

地点番号	01					環境基準等 ^{注1}	
対象河川	虻川						
類型指定 ^{注3}	(A)						
調査日	11/25	12/22	1/29	2/26	3/29		
浮遊物質 (SS) (mg/L)						25mg/L以下	
水素イオン濃度 (pH)	7.3	7.2	7.2	6.8	7.5	6.5以上 8.5以下	
水温 (°C)	8.3	4.0	2.4	6.8	7.9	—	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.0003	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	0.11	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L以下	
電気伝導率 (mS/m)	3.5	3.5	3.6	3.5	3.2	—	

注1：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

注2：「<」は、未満を示す。

注3：類型指定の無い河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

3-7-4-2 水資源（地下水の水質）

(1) 調査項目

調査項目は、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

(2) 調査方法

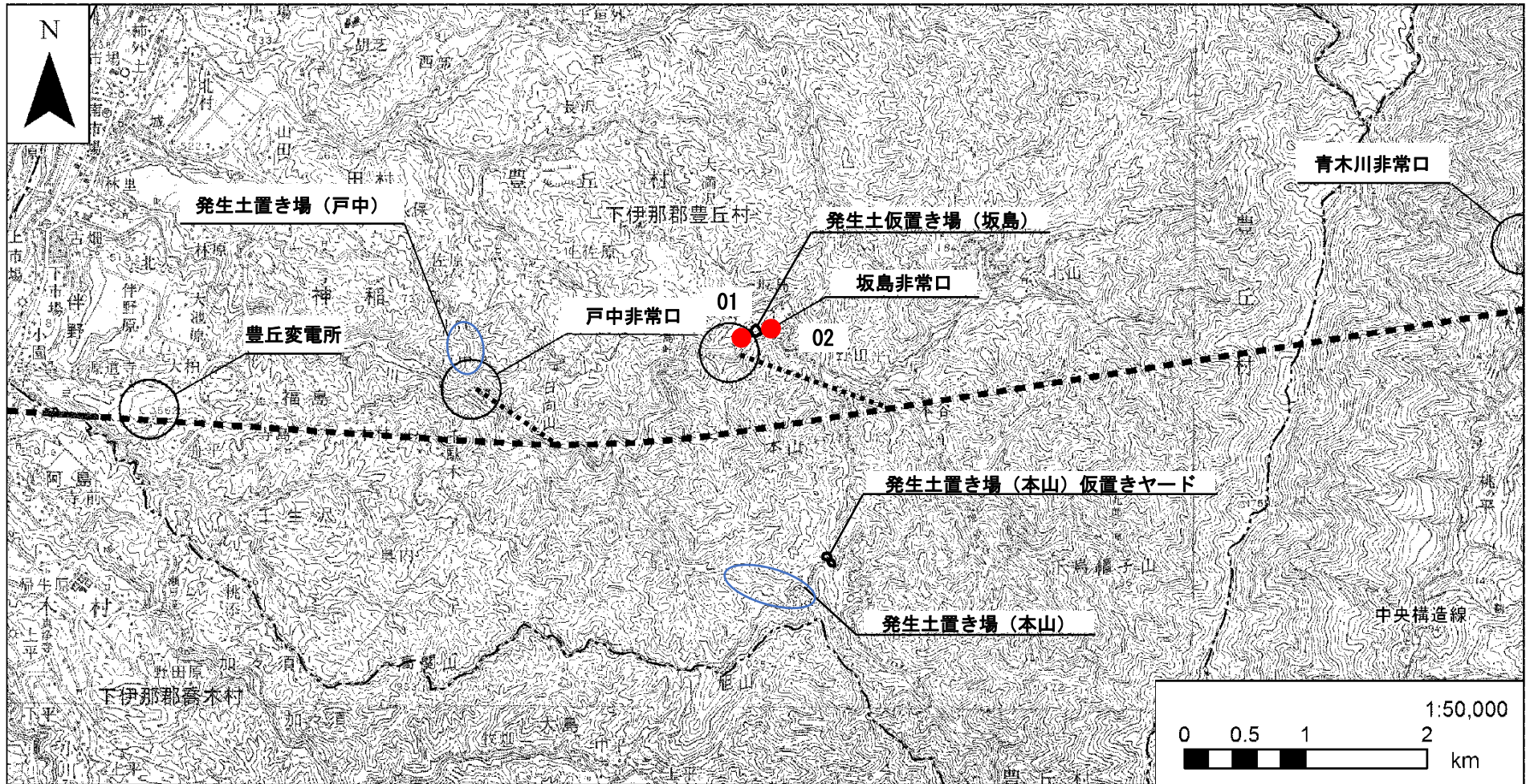
調査方法は、表 3-7-32 に示すとおりであるとおりであります。

表 3-7-32 調査方法

調査項目		調査方法
水素イオン濃度(pH)		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法に準拠する。
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」（平成22年3月建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する。
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
ほう素		

(3) 調査地点

調査地点は、図 3-7-8 に示すとおりである。



凡例

- | | | |
|------------------|-----------|--------------------|
| --- 計画路線 (トンネル部) | ● 現地調査地点 | 非常口トンネル (斜坑) |
| — 計画路線 (地上部) | ○ 発生土仮置き場 | |
| --- 県境 | ○ 発生土置き場 | |
| --- 市町村境 | | |

図 3-7-8 (1) 調査地点図

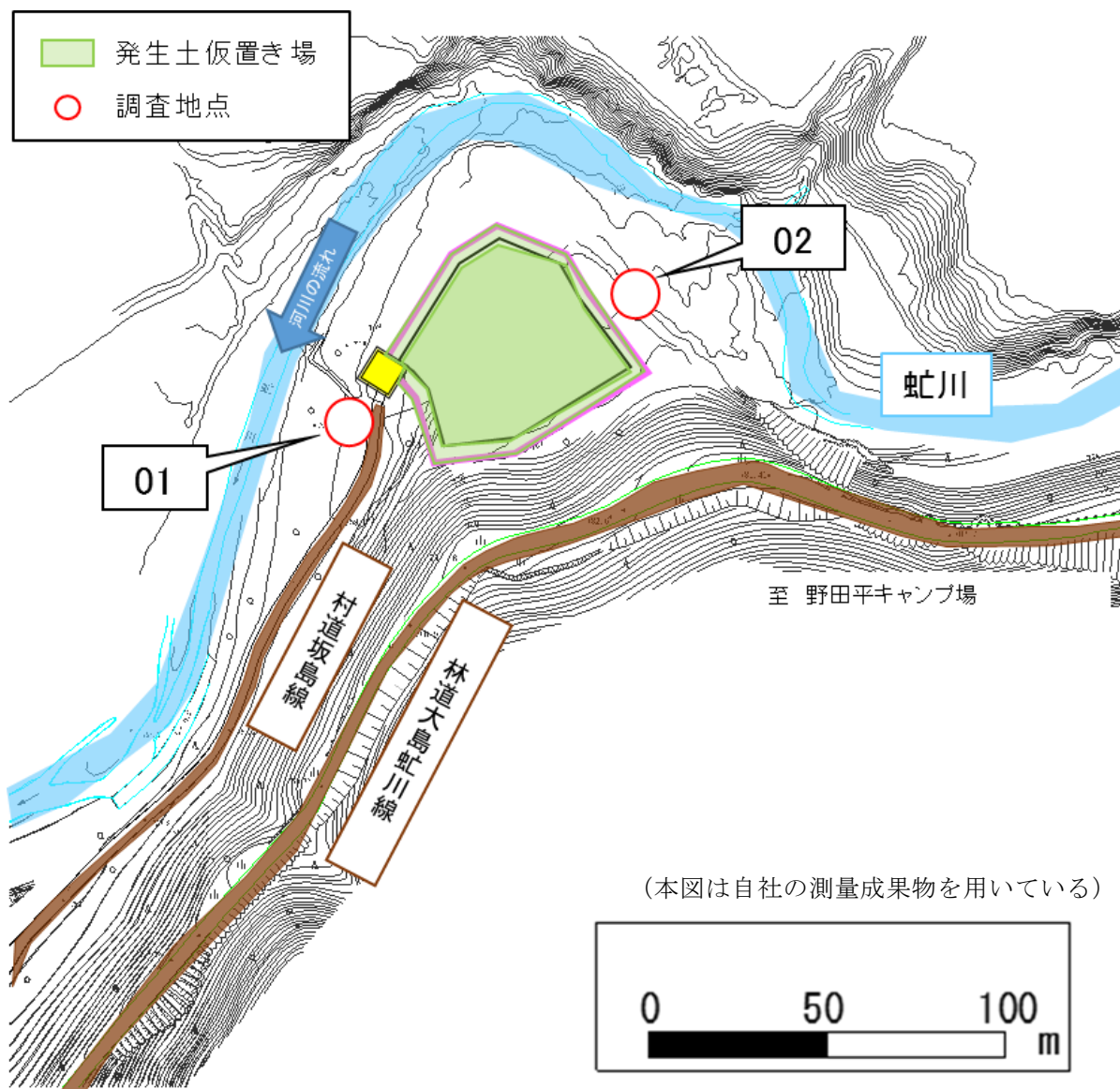


図 3-7-8 (2) 調査地点図

(4) 調査期間

調査期間は、表 3-7-33 に示すとおりである。

表 3-7-33 調査期間

地点番号	調査期間	調査頻度
01	令和 2 年 5 月 26 日、6 月 30 日、7 月 28 日、8 月 24 日、9 月 28 日、 10 月 27 日、11 月 25 日、12 月 22 日	月 1 回
02	令和 3 年 1 月 29 日、2 月 26 日、3 月 29 日	

(5) 調査結果

調査結果は、表 3-7-34 に示すとおりである。

表 3-7-34(1) 調査結果 (01)

地点番号	01											環境基準等 ^{注2}	
測定日	5/26	6/30	7/28	8/24	9/28	10/27	11/25	12/22	1/29	2/26	3/29	-	
水素イオン濃度 (pH)	6.8	7.1	6.8	6.9	7.0	6.0	7.0	7.2	7.1	6.7	7.4	-	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	0.004	0.006	0.003	0.003	0.003	0.004	0.005	0.004	0.004	0.004	0.003	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.12	0.12	<0.08	0.12	0.14	0.14	0.23	0.19	0.14	0.16	0.12	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L以下	

注1: 「<」は、未満を示す。

注2: 「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

表 3-7-34(2) 調査結果 (02)

地点番号	02											環境基準等 ^{注2}	
測定日	5/26	6/30	7/28	8/24	9/28	10/27	11/25	12/22	1/29	2/26	3/29	-	
水素イオン濃度 (pH)	6.9	6.9	6.6	6.7	6.5	6.7	7.0	7.1	7.0	6.7	7.3	-	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.12	0.14	<0.08	<0.08	<0.08	0.08	0.08	0.12	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L以下	

注1: 「<」は、未満を示す。

注2: 「地下水の水質汚濁に係る環境基準」を記載した。

3-7-5 豊丘村内発生土置き場（戸中）

工事中のモニタリングとして、水質について調査を実施した。

3-7-5-1 水質

発生土置き場の工事前のモニタリングとして、豊丘村内発生土置き場（戸中）にて調査を実施した。なお、豊丘村内発生土置き場（戸中）の測定結果は、戸中非常口と兼ねているため、「3-2 水質」に記載した。

3-7-6 喬木村内発生土置き場（堰下）

工事中のモニタリングとして、水質について調査を実施した。

3-7-6-1 水質

発生土置き場の工事中のモニタリングとして、喬木村内発生土置き場（堰下）にて調査を実施した。

(1) 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水素イオン濃度（pH）の状況とした。

(2) 調査方法

調査の方法は、表 3-7-35 に示すとおりである。

表 3-7-35 調査方法

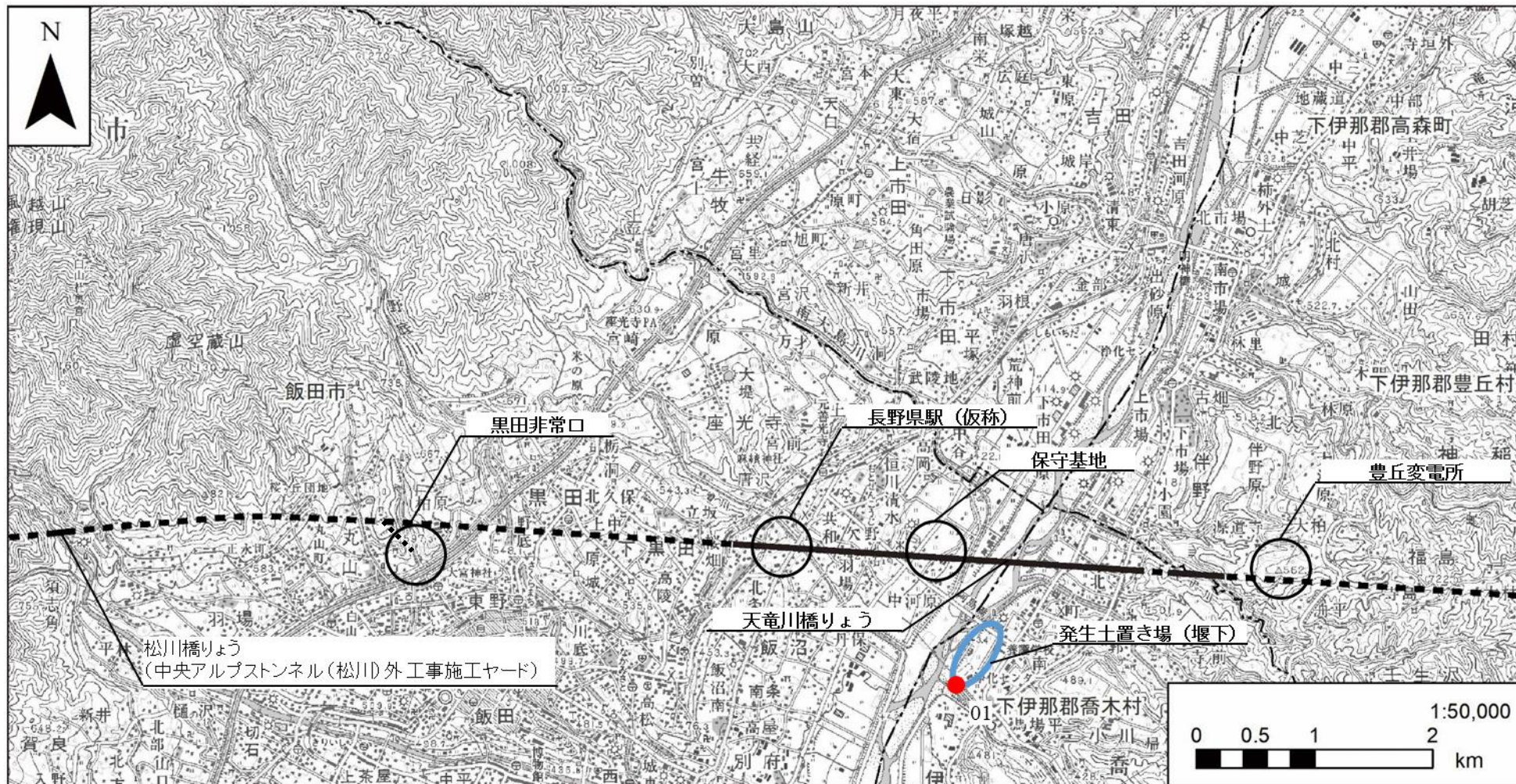
調査項目	調査方法
浮遊物質量（SS）	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）に定める測定方法

(3) 調査地点

調査地点は発生土置き場の工事に伴い、工事排水を放流する箇所の下流地点を選定した。
調査地点は、表 3-7-36 及び図 3-7-9 に示すとおりである。

表 3-7-36 調査地点

地点番号	対象河川	実施箇所	調査項目				
			浮遊物質量（SS）	水温（℃）	水素イオン濃度（pH）	自然由来の重金属等	電気伝導率（mS/m）
01	天竜川付近水路	発生土置き場（堰下） （放流する箇所の下流地点）	○	○	○	—	—



凡例

- 計画路線(トンネル区間) ● 現地調査地点 非常口トンネル(斜坑)
- 計画路線(地上区間) ○ 発生土置き場
- 市町村境

図 3-7-9 (1) 調査地点図

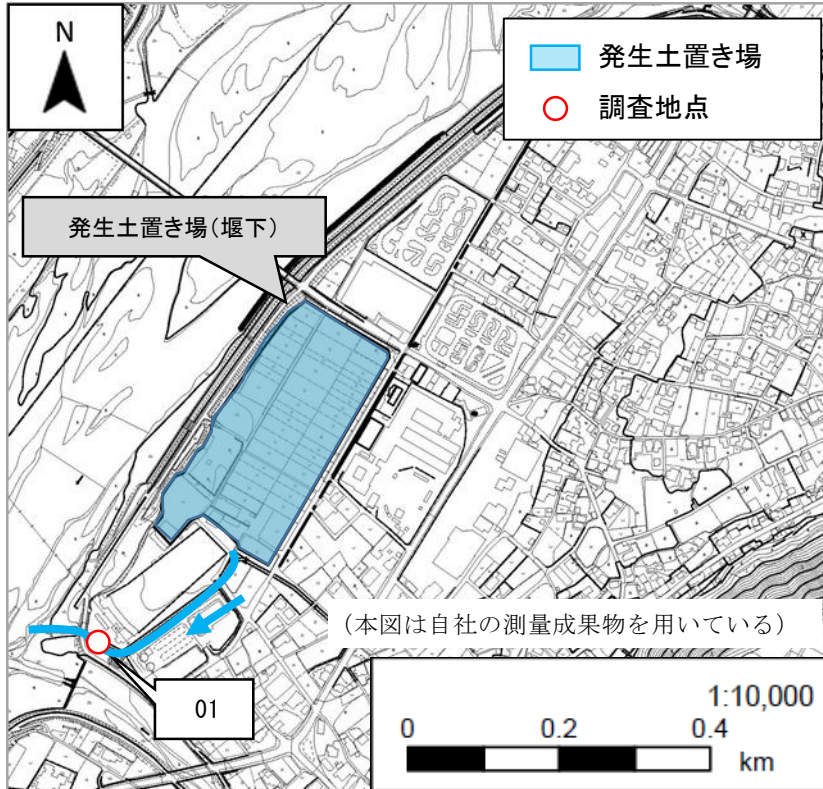


図 3-7-9 (2) 調査地点図

(4) 調査期間

現地調査の期間は、表 3-7-37 に示すとおりである。

表 3-7-37 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	工事中	令和2年12月8日	年1回

(5) 調査結果

調査結果は、表 3-7-38 に示すとおりである。

表 3-7-38 調査結果

地点番号	01	環境基準等 ^{注1}
対象河川	天竜川付近 水路	
類型指定 ^{注3}	(A)	
調査日	12/8	
浮遊物質質量 (SS) (mg/L)	<1	25mg/L以下
水素イオン濃度 (pH)	8.1	6.5以上 8.5以下
水温 (°C)	8.7	—

注1：浮遊物質質量及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を記載した。

注2：「<」は、未満を示す。

注3：類型指定の無い河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

4 環境保全措置の実施状況

令和2年度においては、以下の通り環境保全措置を実施した。

なお、動物、植物、生態系に係る環境保全措置の詳細については、希少種保護の観点から非公開とした。

4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置

4-1-1 南アルプストンネル（長野工区）

環境保全措置の実施状況を表4-1-1～表4-1-2、写真4-1-1～写真4-1-23及び図4-1-1に示す。なお、本工区の令和2年度の工事については、主にトンネル工事を実施しているため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-1(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-1
・大気質 (粉じん等)	仮囲いの設置	写真 4-1-1
・低周波音	防音扉の設置	写真 4-1-2
	機械掘削工法及び適切な火薬量による発破工法の採用、発破を行う時間帯の制限	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-3
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・文化財 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場	工事の平準化	—

表4-1-1(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-6 図 4-1-1
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (水質、水位) ・水資源 ・重要な地形及び地質 (土地の安定性) ・地盤沈下 	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-8
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	工事排水の監視	写真 4-1-9
	処理装置の点検・整備による性能維持	写真 4-1-10
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (水質、水位) ・水資源 ・土壌汚染 	薬液注入工法における指針の順守	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水資源 	地下水等の監視	写真 4-1-11
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	仮置き場における掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-12
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な地形及び地質 (土地の安定性) 	法面、斜面の保護	写真 4-1-13
	適切な施工管理	—

表4-1-1(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	写真 4-1-14
	有害物質の有無の確認と基準不適合土壌の適切な処理	—
	発生土を有効利用する事業者への情報提供	—
・ 生態系	小動物等の移動経路の確保	写真 4-1-15
・ 動物 ・ 生態系	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-3
・ 動物	照明の工夫	写真 4-1-16
・ 植物 ・ 生態系	外来種の拡大抑制	写真 4-1-17
・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の場	切土法面等の緑化による植生復元	—
	仮設物の色合いへの配慮	写真 4-1-18
・ 廃棄物	建設汚泥の脱水処理	写真 4-1-19
	建設発生土の再利用	—
・ 廃棄物 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-20
・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	—
・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の場	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	表 4-1-2
	発生集中交通量の削減	—
・ 文化財 ・ 動物 ・ 生態系	資材運搬等の適正化	—
・ 大気質 (粉じん等) ・ 文化財	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-21

表4-1-1(4) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (粉じん等)	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-22
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の 点検及び整備による性能維持	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運 搬計画の合理化による運搬距離の最 適化	写真 4-1-23

<p>写真4-1-1 仮囲いの設置状況 (一例)</p>	<p>写真4-1-2 防音扉の設置 (一例)</p>
<p>写真4-1-3 排出ガス対策型、低騒音型 建設機械の採用 (一例)</p>	<p>写真4-1-4 建設機械の点検状況 (一例)</p>



写真4-1-5 工事現場の散水状況
(一例)



写真4-1-6 工事従事者への講習・指導の
実施状況 (一例)



写真4-1-7 濁水処理設備の設置状況
(一例)



写真4-1-8 先進ボーリングの実施状況
(一例) (地盤の状況を把握し、適切な支保工
パターン等を選定)



写真4-1-9 工事排水監視状況
(一例)



写真4-1-10 濁水処理設備の整備状況
(一例)



写真4-1-11 湧水採水の状況
(一例)



写真4-1-12 重金属等判定用土砂ピットの
設置状況 (一例)



写真4-1-13 法面、斜面の保護の状況
(一例)



写真4-1-14 重金属等溶出試験試料採取の
状況 (一例)



写真4-1-15 小動物の移動経路の確保
(一例)



写真4-1-16 ナトリウム灯設置の状況
(一例)



写真4-1-17 タイヤ洗浄機設置の状況
(一例)



写真4-1-18 仮設物の色合いへの配慮
(一例)



写真4-1-19 脱水ケーキ搬出の状況
(一例)



写真4-1-20 建設副産物の分別
(一例)



写真4-1-21 タイヤ洗浄の実施状況
(一例)



写真4-1-22 荷台への防じんシート敷設
(一例)




現場ルール 車両編

- ・ 工事車両識別番号を掲示すること
- ・ 駐車は出船駐車、歯止めは助手席側後輪に設置すること
- ・ 坂道に停める際はハンドルを左に切っておくこと
- ・ 不要なアイドリングをしないこと
- ・ 安全運転・安全な速度での走行

ヤード内・坑内は30km/h以下
 県道・村道は幅員狭く、カーブが連続し見通しが悪い、30km/h以下 (ただし、上蔵集落内は20km/h以下)を基本としてください。
 県道・村道は落石に注意してください。

- ・ 冬期はスタッドレスタイヤもしくはチェーン装着
- ・ 一般車・歩行者を優先すること(地元優先)

交差点では必ず一旦停止し、地元車両が見える間は動かないでください



環境・近隣

大鹿村は清流が流れ、希少な動植物が生息する、自然あふれる静かな村です。

- ・ 動植物を勝手に採取しないこと
- ・ 沢や川を汚さないこと
- ・ ゴミを捨てないこと
- ・ 不要なアイドリングをしないこと
- ・ 不要な振動騒音をださないこと (クラクション・空吹かしなど)
- ・ 一般車・歩行者を優先すること

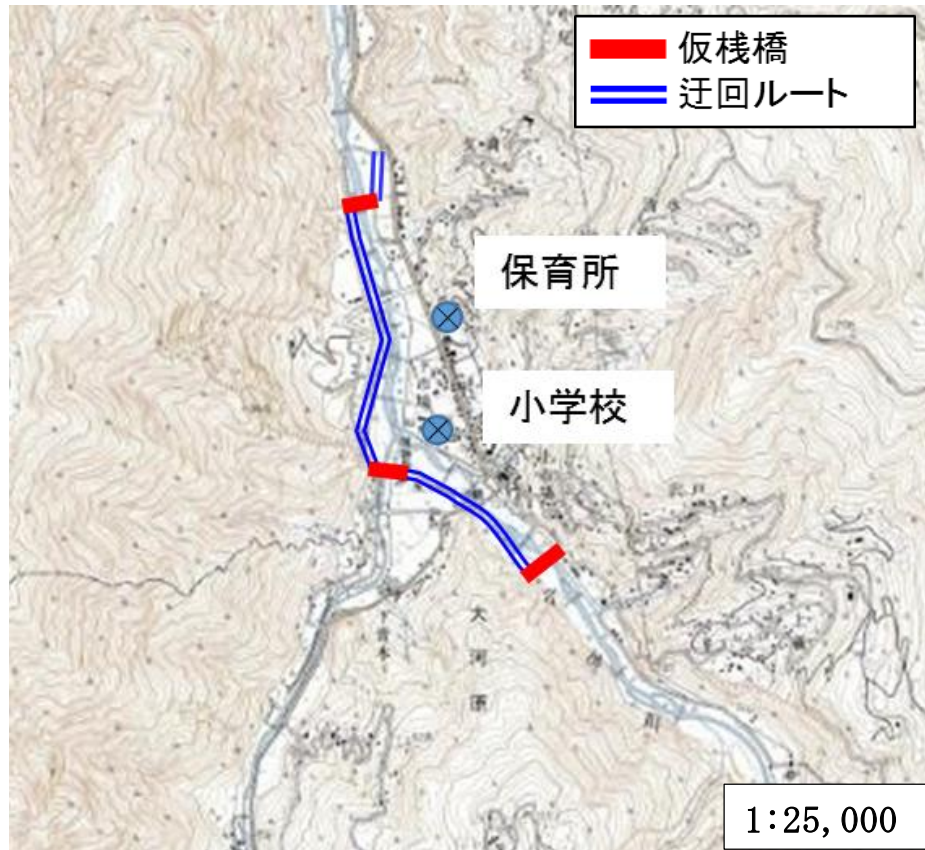
地元の方から苦情を受けた際は、丁寧に應對し、JVへすぐに連絡してください。

また、熊や猪に遭遇する恐れがあります。万が一、遭遇しても、あわてない、刺激しない(大声や威嚇)、安全な場所へ退避してください。

図 4-1-1 新規入場者教育資料 (一部抜粋)

表 4-1-2 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮

資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減するための環境保全措置として、大鹿村中心地を迂回する工事用車両ルートを構築し、運行を開始している。



迂回路運行状況

4-1-2 伊那山地トンネル（青木川工区）

環境保全措置の実施状況を表4-1-3～表4-1-4及び写真4-1-24～写真4-1-46に示す。なお、本工区の令和2年度の工事については、主にトンネル工事を実施しているため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-3(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-24
・大気質 (粉じん等)	仮囲いの設置	写真 4-1-24
・低周波音	防音扉の設置	写真 4-1-25
	機械掘削工法及び適切な火薬量による発破工法の採用、発破を行う時間帯の制限	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-26
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・文化財 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場	工事の平準化	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-27

表4-1-3(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-28
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-29
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-30
・地下水 (水質、水位) ・水資源 ・重要な地形及び地質 (土地の安定性) ・地盤沈下	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-31
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源	工事排水の監視	写真 4-1-32
	処理装置の点検・整備による性能維持	写真 4-1-33
・地下水 (水質、水位) ・水資源 ・土壌汚染	薬液注入工法における指針の順守	—
・水資源	地下水等の監視	写真 4-1-34
・土壌汚染	仮置き場における掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-35
・重要な地形及び地質 (土地の安定性)	法面、斜面の保護	写真 4-1-36
	適切な施工管理	—
・土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	写真 4-1-37
	有害物質の有無の確認と基準不適合土壌の適切な処理	—
・廃棄物	発生土を有効利用する事業者への情報提供	—
・生態系	小動物等の移動経路の確保	写真 4-1-38
・動物 ・生態系	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-26
・動物	照明の工夫	写真 4-1-39

表4-1-3(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・植物 ・生態系	外来種の拡大抑制	写真 4-1-40
・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場	切土法面等の緑化による植生復元	—
	仮設物の色合いへの配慮	写真 4-1-41
・廃棄物	建設汚泥の脱水処理	写真 4-1-42
	建設発生土の再利用	—
・廃棄物 ・温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-43
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	表 4-1-4
・文化財 ・動物 ・生態系	資材運搬等の適正化	—
・大気質 (粉じん等) ・文化財	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-44
・大気質 (粉じん等)	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-45
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-46



写真4-1-24 仮囲いの設置状況
(一例)



写真4-1-25 防音扉の設置
(一例)

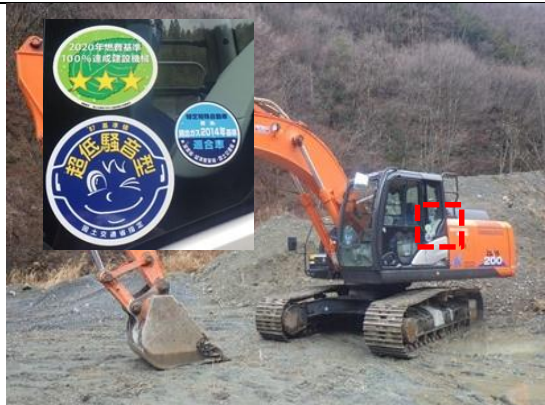


写真4-1-26 排出ガス対策型、低騒音型
建設機械の採用 (一例)



写真4-1-27 建設機械の点検状況
(一例)



写真4-1-28 工事現場の散水状況
(一例) (車両の運行ルート)



写真4-1-29 工事従事者への講習・指導の
実施状況 (一例)



写真4-1-30 濁水処理設備の設置状況
(一例)



写真4-1-31 水平調査ボーリングの実施状況
(一例) (地盤の状況を把握し、適切な支保工
パターン等を選定)



写真4-1-32 工事排水監視状況
(一例)



写真4-1-33 濁水処理設備の整備状況
(一例)



写真4-1-34 湧水調査状況
(一例)



写真4-1-35 重金属等判定用土砂ピットの
設置状況 (一例)



写真4-1-36 法面、斜面の保護状況



写真4-1-37 重金属等溶出試験試料採取の状況（一例）



写真4-1-38 小動物の移動経路の確保（一例）



写真4-1-39 LED灯設置の状況（一例）



写真4-1-40 タイヤ洗浄機設置の状況（一例）



写真4-1-41 仮設物の色合いへの配慮（一例）



写真4-1-42 濁水処理設備設置の状況
(一例)



写真4-1-43 建設副産物の分別
(一例)



写真4-1-44 周辺道路の散水状況
(一例)



写真4-1-45 荷台への防じんシート敷設
(一例)



写真4-1-46 工事用車両の低燃費車種の採用
(一例)

表 4-1-4 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮

資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減するための環境保全措置として、大鹿村中心地を迂回する工事用車両ルートを構築し、運行を開始している。



- : 仮栈橋
- : 迂回ルート



仮栈橋運行状況

4-1-3 伊那山地トンネル（坂島工区）

環境保全措置の実施状況を表4-1-5及び写真4-1-47～写真4-1-55及び図4-1-2に示す。なお、本工事は主にトンネル工事を実施予定としているが、令和2年度は工事施工ヤード整備、工事用道路改良工事を実施したため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-5(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-47
・大気質 (粉じん等)	仮囲いの設置	写真 4-1-47
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-48
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・文化財 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場	工事の平準化	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-49
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-50

表4-1-5(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-51 図 4-1-2
<ul style="list-style-type: none"> ・水資源 	地下水等の監視	写真 4-1-52
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な地形及び地質(土地の安定性) 	法面、斜面の保護	写真 4-1-53
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-47, 48
<ul style="list-style-type: none"> ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場 	切土法面等の緑化による植生復元	—
	仮設物の色合いへの配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 	建設発生土の再利用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-54
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適正化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・文化財 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-50

表4-1-5(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (粉じん等)	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-55
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の 点検及び整備による性能維持	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運 搬計画の合理化による運搬距離の最 適化	—



写真4-1-47 仮囲いの設置状況
(一例)



写真4-1-48 排出ガス対策型、低騒音型
建設機械の採用 (一例)



写真4-1-49 建設機械の点検及び整備に
よる性能維持 (一例)



写真4-1-50 工事現場の散水状況
(一例) (車両の運行ルート)



写真4-1-51 工事従事者への講習・指導の実施状況（一例）



写真4-1-52 河川水調査の状況（一例）



写真4-1-53 法面、斜面の保護の状況（一例）



写真4-1-54 副産物の分別、再資源化の状況（一例）



写真4-1-55 荷台への防じんシート敷設（一例）



4-2) 環境

- 空缶は、空缶入れにきちんと捨てましょう。。
- 作業中に生じたゴミは**分別**して捨てましょう。
- **アイドリングストップ**を徹底しましょう。
- 騒音、振動に注意を払い、**低減**に努めましょう。
- 漏れた油脂については、専用の回収材にて回収しまし
ょう。
- 泥水は場外に出さない、出させない。
- 道路の汚れは**速やかに清掃**しましょう。

※環境問題を起こすと企業として存続できなくなる危機感
をもって現場を進めましょう。

※当現場はISOの環境システムに準拠した施工、管理を
行っています。

図4-1-2 工事従事者への講習・指導資料（一部抜粋）

4-1-4 伊那山地トンネル（戸中・壬生沢工区）

環境保全措置の実施状況を表4-1-6及び写真4-1-56～写真4-1-61に示す。なお、本工事は主にトンネル工事を実施予定としているが、令和2年度は工事施工ヤード整備、道路改良工事を実施したため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-6(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-56
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・文化財 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-57
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-58

表4-1-6(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-59
<ul style="list-style-type: none"> ・水資源 	地下水等の監視	写真 4-1-60
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-56
<ul style="list-style-type: none"> ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場 	仮設物の色合いへの配慮	写真 4-1-61
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適正化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真4-1-56 排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用 (一例)



写真4-1-57 建設機械の点検及び整備による性能維持 (一例)



写真4-1-58 工事現場の散水状況 (一例) (車両の運行ルート)



写真4-1-59 工事従事者への講習・指導の実施状況 (一例)



写真4-1-60 湧水調査状況 (一例)



写真4-1-61 仮設物の色合いへの配慮 (一例)

4-1-5 天竜川橋りょうほか

環境保全措置の実施状況を表4-1-7及び写真4-1-62～写真4-1-66に示す。なお、本工事は主に橋りょう工事を実施予定としているが、令和2年度は道路改良工事、伐採工及び瀬替工を実施したため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-7(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-62
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 文化財 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の場 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-63
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系 ・ 温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-64
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質(水の濁り) ・ 水底の底質 	汚濁防止膜の設置	写真 4-1-65

表4-1-7(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-62
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	写真 4-1-66
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適正化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・文化財 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-66
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真4-1-62 排出ガス対策型、低騒音型
建設機械の採用（一例）

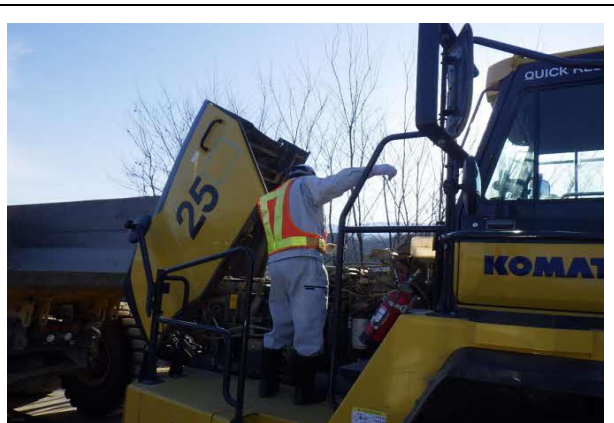


写真4-1-63 建設機械の点検状況
（一例）



写真4-1-64 工事従事者への講習・指導の
実施状況（一例）



写真4-1-65 汚濁防止膜の設置状況
（一例）



写真4-1-66 タイヤ洗浄の実施状況
（一例）

4-1-6 中央アルプストンネル（松川）外

環境保全措置の実施状況を表4-1-8及び写真4-1-67～写真4-1-77に示す。なお、本工事は主にトンネル工事を実施予定としているが、令和2年度は主に工事施工ヤード整備、工事用道路整備を実施したため、当該工事に関する報告となる。

表4-1-8(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-67
・大気質 (粉じん等)	仮囲いの設置	写真 4-1-67
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-68
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・文化財 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場	工事の平準化	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-69
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-70

表4-1-8(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-71
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な地形及び地質(土地の安定性) ・地盤沈下 	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-72
<ul style="list-style-type: none"> ・水質(水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・動物 ・植物 ・生態系 	放流時の放流箇所及び水温の調整	—
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な地形及び地質(土地の安定性) 	法面、斜面の保護	写真 4-1-73
	適切な施工管理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-67 写真 4-1-68
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	写真 4-1-74
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適正化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場 	切土法面等の緑化による植生復元	写真 4-1-75
	仮設物の色合いへの配慮	写真 4-1-76
<ul style="list-style-type: none"> ・人と自然とのふれ合いの活動の場 	妙琴公園の利用者に配慮した工事用道路計画	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 	建設発生土の再利用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-77
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	発生集中交通量の削減	—

表4-1-8(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・文化財 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-70, 74
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真4-1-67 仮囲いの設置状況（一例）



写真4-1-68 排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用（一例）



写真4-1-69 建設機械の点検及び整備による性能維持（一例）



写真4-1-70 工事現場の散水状況（一例）



写真4-1-71 工事従事者への講習・指導の実施状況（一例）

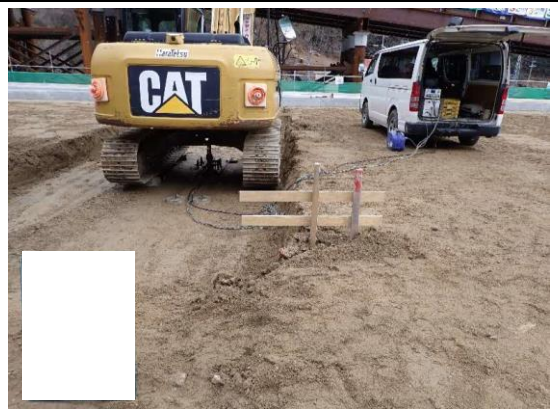


写真4-1-72 地耐力の確認状況（一例）



写真4-1-73 法面・斜面保護の状況（一例）



写真4-1-74 タイヤ洗浄の実施状況（一例）



写真4-1-75 切土法面等の緑化による植生復元の状況（一例）



写真4-1-76 仮設物の色合いへの配慮（一例）（周辺の景観に配慮）



写真4-1-77 建設副産物の分別（一例）

4-1-7 中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）

環境保全措置の実施状況を表4-1-9、写真4-1-78～写真4-1-84及び図4-1-3に示す。なお、本工事は主にトンネル工事を実施予定としているが、令和2年度は萩の平非常口の道路改良の準備工事、広瀬非常口の工事施工ヤードの整備工事及び工事用道路整備を実施したため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-9(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-78
・大気質 (粉じん等)	仮囲いの設置	写真 4-1-78
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-79
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・文化財 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場	工事の平準化	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	図 4-1-3
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-80

表4-1-9(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-81
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-82 図 4-1-3
<ul style="list-style-type: none"> ・水資源 ・重要な地形及び地質(土地の安定性) ・地盤沈下 	適切な構造及び工法の採用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-79
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	写真 4-1-83
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-84
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財 ・動物 ・生態系 	資材運搬等の適正化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・文化財 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-81 写真 4-1-83

表4-1-9(3) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真4-1-78 仮囲いの設置状況
(一例)



写真4-1-79 排出ガス対策型、低騒音型
建設機械の採用 (一例)



写真4-1-80 建設機械の点検状況
(一例)



写真4-1-81 工事現場の散水状況
(一例) (車両の運行ルート)



写真4-1-82 工事従事者への講習・指導の実施状況（一例）



写真4-1-83 タイヤ洗浄の状況（一例）



写真4-1-84 副産物の分別、再資源化の状況（一例）



省燃費運転のポイント

油圧ショベル編

② 作業能率の向上

掘削力を発揮させよう

アームの最大掘削力は、シリンダと
連結ピンの角度が90度



2段掘削をしましょう



○アームシリンダーと連結ピン部分の直角になる位置が最大掘削力があります。

○2段掘削の方がムダな動きが少ないので燃料消費を少なくできます。

○2段掘削：
左図のように切羽の上部を先に掘削し次に下部を掘削する方法です。

図4-1-3 工事従事者への講習・指導資料（一部抜粋）

4-1-8 中央アルプストンネル（尾越）

環境保全措置の実施状況を表4-1-10、写真4-1-85～写真4-1-88及び図4-1-4に示す。なお、本工事は主にトンネル工事を実施予定としているが、令和2年度は工事用道路整備を実施したため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-10(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-85
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-86
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-87
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-88 図 4-1-4
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	—

表4-1-10(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・文化財 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-87
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—

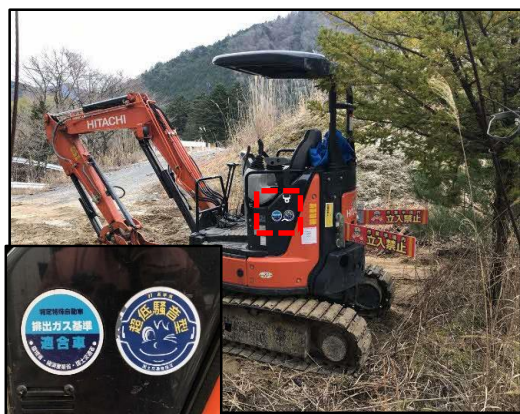


写真4-1-85 排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用 (一例)



写真4-1-86 建設機械の点検状況 (一例)



写真4-1-87 工事現場の散水状況 (一例) (車両の運行ルート)



写真4-1-88 工事従事者への講習・指導の実施状況 (一例)



図4-1-4 工事従事者への講習・指導資料（一部抜粋）

4-1-9 発生土置き場・仮置き場

大鹿村内の発生土仮置き場B、発生土置き場（青木川）、豊丘村内の発生土置き場（本山）、発生土仮置き場（坂島）、発生土置き場（戸中）、喬木村内の発生土置き場（堰下）における環境保全措置の実施状況を表4-1-11～表4-1-12及び写真4-1-89～写真4-1-97に示す。

表4-1-11(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-89
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動・温室効果ガス ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-90
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-91
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-92
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-93
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） 	工事排水の監視	—
	処理装置の点検・整備による性能維持	—

表4-1-11(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
・土地の安定性	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-94
	法面、斜面の保護	—
	適切な施工管理	写真 4-1-95
・動物 ・生態系	低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-89
	コンディショニングの実施	表 4-1-12
・植物 ・生態系	外来種の拡大抑制	写真 4-1-96
・景観 ・人と自然との触れ合いの活動 の場	仮設物の色合いへの配慮	写真 4-1-97
	工事従事者への安全運転教育	写真 4-1-91
・温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	環境負荷低減を意識した運転の徹底 (高負荷運転の抑制)	—
・温室効果ガス	副産物の分別・再資源化	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動	発生集中交通量の削減	—
・大気質 (粉じん等)	資材及び機械の運搬に用いる車両の 出入り口、周辺道路の清掃及び散水、 タイヤの洗浄	—
	荷台への防じんシート敷設及び散水	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の 点検及び整備による性能維持	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運 搬計画の合理化による運搬距離の最 適化	—



写真4-1-89 排出ガス対策型、低騒音型
建設機械の採用（一例）



写真4-1-90 建設機械の点検及び整備に
よる性能維持（一例）

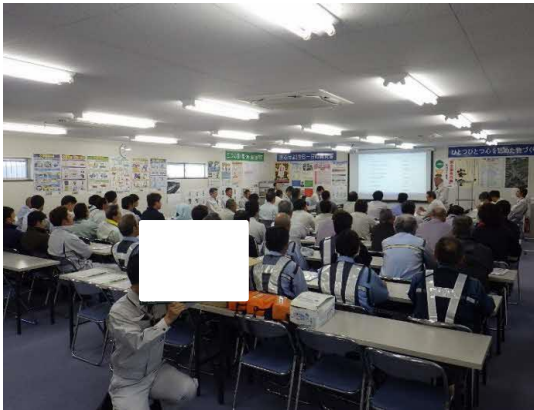


写真4-1-91 工事従事者への講習・指導の
実施状況（一例）



写真4-1-92 工事現場の散水状況
（一例）



写真4-1-93 排水処理の状況
（一例）



写真4-1-94 現地盤調査実施の状況
（一例）



写真4-1-95 盛土材の転圧状況（一例）



写真4-1-96 タイヤ洗浄装置の設置状況（一例）



写真4-1-97 仮設物の色合いへの配慮（一例）

表 4-1-12 コンディショニングの実施

工事の施工内容や規模等を段階的に拡大し、徐々に工事に伴う騒音等に慣れさせること等により、猛禽類等の重要な種への影響を低減するために、専門家等の助言を踏まえ、コンディショニングを実施した。

実施状況



クレーン設置状況

(対象工事)

- ・発生土置き場（青木川）の仮護岸工を対象に工事規模を段階的に大きくするコンディショニングを実施した。

(実施内容)

- ・クレーンの存在に馴化するよう、1日目は存置のみを行い、作業は2日目以降に行った。

(実施期間)

- ・クレーン作業 R2.9.9、 R2.9.10
 ※ R2.9.9にクレーンを設置して、ブームを伸ばした状態で存置し、10日に作業を行った。

(実施結果)

- ・コンディショニング実施時において、対象ペアの警戒行動は確認されず、作業による行動の変化が見られなかったことから作業中断はせず、作業を継続した。また、コンディショニング実施後の定点観察の調査においても、飛翔が引き続き確認されている。

4-1-10 仮置き場（遮水型）

大鹿村内の発生土仮置き場A・Eにおける環境保全措置の実施状況を表4-1-13及び写真4-1-98～写真4-1-102に示す。

表4-1-13(1) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-98
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械・資材運搬等に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-99
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-100
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	仮置き場における掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-101
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な地形及び地質（土地の安定性） 	適切な構造及び工法の採用	—
	法面、斜面の保護	—
	適切な施工管理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	—

表4-1-13(2) 令和2年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和2年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の場 	仮設物の色合いへの配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と自然との触れ合いの活動の場 	工事従事者への安全運転教育	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の場 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の場 	発生集中交通量の削減	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	環境負荷低減を意識した運転の徹底 (高負荷運転の抑制)	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	—
	荷台への防じんシート敷設及び散水	—
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-102
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水資源 	地下水等の監視	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真4-1-98 排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用（一例）



写真4-1-99 工事従事者への講習・指導の実施状況（一例）



写真4-1-100 排水溝（区分土）設置状況（一例）



写真4-1-101 仮置き場の適正管理（アスファルト舗装）（一例）



写真4-1-102 周辺道路の散水状況（一例）

4-2 代替巢の設置

生息環境の一部が保全されない可能性がある種を対象に、これまでに専門家に現地確認を頂いた上で、表 4-2-1 の通り代替巢を設置した。設置した代替巢においては状況を確認し、必要に応じてメンテナンスを実施している。令和 2 年度における代替巢の確認及び設置状況を写真 4-2-1～写真 4-2-10 に示す。平成 26 年に設置したオオタカ喬木村ペアの代替巢 B において、オオタカの営巣を確認した。

表 4-2-1 代替巢の設置状況

対象種	代替巢設置箇所	設置時期
オオタカ（喬木村ペア）	2箇所	平成 26 年 11 月 15 日
ノスリ（大鹿村 B ペア）	2箇所	平成 26 年 11 月 14 日
ノスリ（飯田市ペア）	2箇所	平成 26 年 11 月 16 日
クマタカ（大鹿村 A ペア）	2箇所	平成 26 年 11 月 15 日
ハイタカ（豊丘村ペア）	2箇所	平成 28 年 11 月 17 日





	
<p>写真 4-2-1 オオタカ喬木村ペア代替巢Aの状況（令和2年6月4日）</p>	<p>写真 4-2-2 オオタカ喬木村ペア代替巢Bの状況（令和2年6月4日）</p>
	
<p>写真 4-2-3 ノスリ大鹿村Bペア代替巢Aの状況（令和2年6月13日）</p>	<p>写真 4-2-4 ノスリ大鹿村Bペア代替巢Bの状況（令和2年6月13日）</p>



写真 4-2-5 ノスリ飯田市ペア代替巣Aの状況
(令和2年6月13日)



写真 4-2-6 ノスリ飯田市ペア代替巣Bの状況
(令和2年6月13日)



写真 4-2-7 クマタカ大鹿村Aペア代替巣Aの
状況 (令和2年8月25日)



写真 4-2-8 クマタカ大鹿村Aペア代替巣Bの
状況 (令和2年8月26日)



写真 4-2-9 ハイタカ豊丘村ペア代替巣Aの
状況 (令和2年7月10日)



写真 4-2-10 ハイタカ豊丘村ペア代替巣Bの
状況 (令和2年7月10日)

※クマタカ大鹿村Aペアの代替巣については、斜面の崩落、小渋川の増水により人が近づけな
かったため、観察可能な地点から確認した。

4-3 重要な種の移設

生息する箇所を回避することができなかった重要な動物を対象に令和2年度において表4-3-1の通り、重要な種の移設を実施した。

発生土置き場（青木川）において、モリアオガエルの卵塊及び成体を移設したほか、専門家の助言を踏まえ、危険分散のため、卵塊の一部を捕獲し、幼生を室内飼育した後、幼生及び幼体の放流も実施した。また、産卵場所確保のため、移設箇所と隣接した位置に低木を植栽した。アカハライモリは個体の移設を実施した。コオイムシは個体を確認できなかったため移設を実施しなかった。そのほか、移設時に移設箇所でもリアオガエルの幼生を捕食する可能性がある魚類（イワナ類）の生息が確認されたため、これを捕獲し周辺の水域に放流した。

発生土置き場（戸中）では、アカハライモリの生息箇所、個体を確認できなかったため、移設を実施しなかった。また、モリアオガエルやコオイムシなどの周辺で生息が確認されていた重要種も確認されなかった。

移設時の状況を写真4-3-1～写真4-3-8に示す。

表 4-3-1 令和2年度に移設を実施した動物

種名	科名	移設前の生息地	移設の実施箇所	移設の実施時期
モリアオガエル	アオガエル科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	移設（卵塊、成体3個体）：令和2年6月18日～19日、7月2日～3日 室内飼育（卵塊）：令和2年6月19日～9月1日 飼育個体の放流（約450個体）：令和2年8月6日～7日、8月20日～21日、8月31日～9月1日
アカハライモリ	イモリ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	移設（成体8個体）：令和2年6月18日～19日、7月2日～3日

注1：コオイムシの調査日 令和2年6月18日～19日、7月2日～3日（個体の確認なし）

注2：発生土置き場（戸中）のアカハライモリの調査日：令和2年8月27日～28日（個体の確認なし）

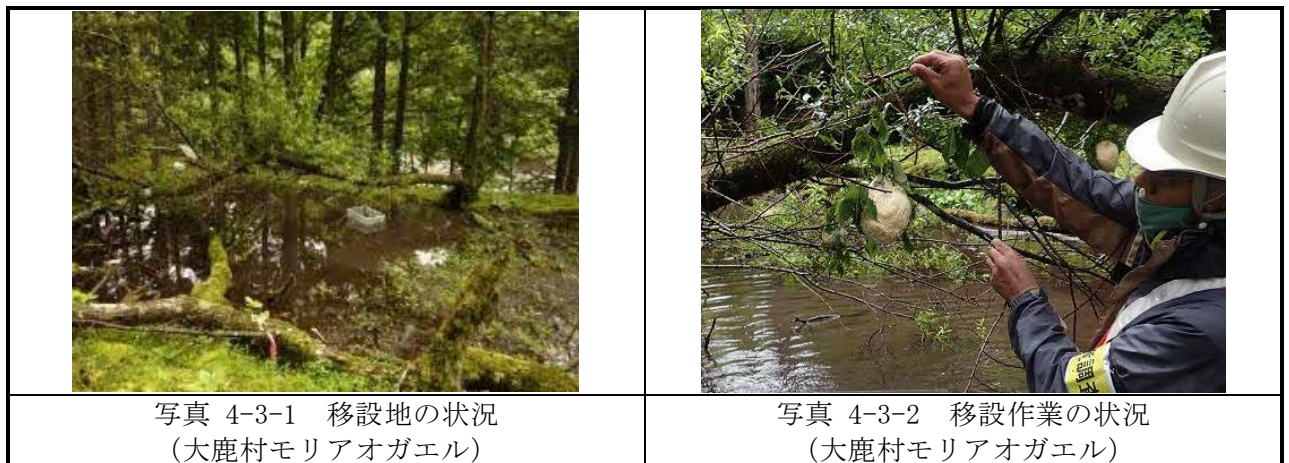




写真 4-3-3 飼育中の個体
(大鹿村モリアオガエル (卵塊からの孵化))



写真 4-3-4 飼育中の個体
(大鹿村モリアオガエル (幼生))



写真 4-3-5 室内飼育した幼生の放流
(大鹿村モリアオガエル)



写真 4-3-6 低木植栽の状況
(大鹿村モリアオガエル)



写真 4-3-7 移設個体
(大鹿村アカハライモリ)



写真 4-3-8 移設作業の状況
(大鹿村アカハライモリ)

4-4 重要な種の移植・播種

生育する箇所を回避することができなかった重要な植物を対象に令和2年度において表4-4-1の通り、重要な種の移植・播種を実施した。移植・播種時の状況を写真4-4-1～写真4-4-24に示す。

表 4-4-1 令和2年度に移植・播種を実施した植物

種名	科名	移植・播種前の生育地	移植・播種の実施箇所	移植・播種の実施時期
モメンヅル	マメ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年6月10日 (7個体移植)
トダイアカバナ	アカバナ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年6月18日 (約30個体移植)
イブキキンモウゴケ	タチヒダゴケ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年7月2日 (3塊移植)
テリハヨロイゴケ	カブトゴケ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年6月19日 (1塊移植)
シャジクモ ^注	シャジクモ科	大鹿村大河原	大鹿村大河原	令和2年7月2～3日 (底泥を移設)
フトボナギナタコウジュ	シソ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	令和2年11月26日 (再播種)
センブリ	リンドウ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	令和2年11月26日 (再播種)
コムラサキ	クマツヅラ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	令和2年10月29日 (2個体移植)
ミスミソウ	キンポウゲ科	豊丘村神稲	豊丘村神稲	令和2年10月30日 (10個体移植)
コムラサキ	クマツヅラ科	喬木村阿島	喬木村阿島	令和2年11月27日 (1個体移植)
オキナグサ	キンポウゲ科	阿智村清内路	阿智村清内路	令和2年10月3日 (19個体移植)
アオフタバラン	ラン科	阿智村清内路	阿智村清内路	令和2年9月30日 (6個体移植)

注：移植前に発生した豪雨災害により自生地 of 池に大量の土砂が流入するとともに、大部分の水が流出し、個体を確認・移植できなかったため、藻体や埋土卵胞子が存在する可能性を念頭に底泥を移設した。

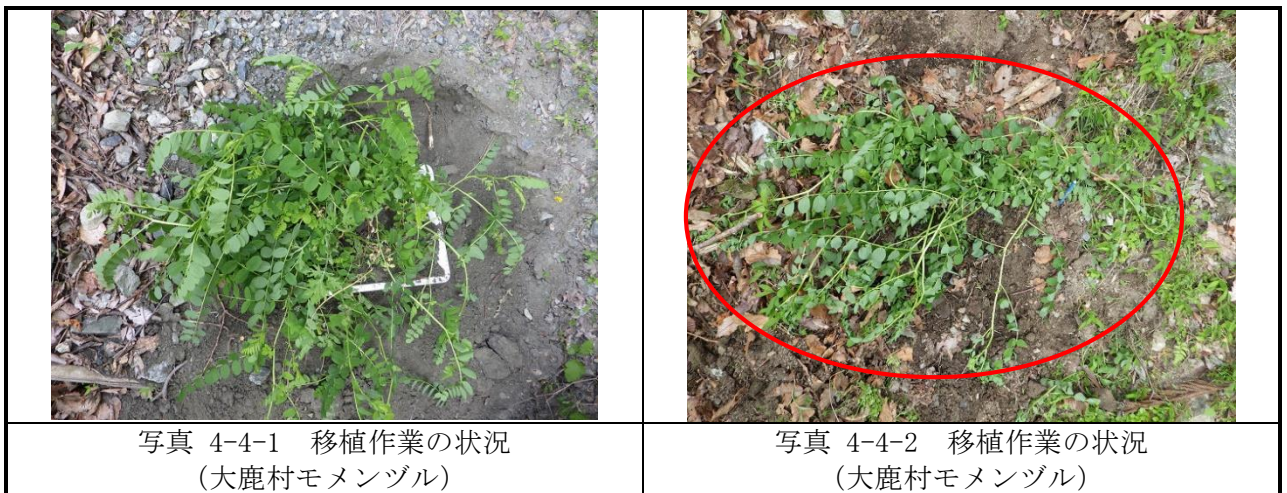




写真 4-4-3 移植作業の状況
(大鹿村トダイアカバナ)



写真 4-4-4 移植作業の状況
(大鹿村トダイアカバナ)



写真 4-4-5 移植作業の状況
(大鹿村イブキキンモウゴケ)



写真 4-4-6 移植作業の状況
(大鹿村イブキキンモウゴケ)



写真 4-4-7 移植作業の状況
(大鹿村テリハヨロイゴケ)



写真 4-4-8 移植作業の状況
(大鹿村テリハヨロイゴケ)



写真 4-4-9 移設作業の状況
(大鹿村シャジクモ)



写真 4-4-10 移設作業の状況
(大鹿村シャジクモ)



写真 4-4-11 再播種作業の状況
(豊丘村フトボナギナタコウジュ)



写真 4-4-12 再播種作業の状況
(豊丘村フトボナギナタコウジュ)



写真 4-4-13 再播種作業の状況
(豊丘村センブリ)



写真 4-4-14 再播種作業の状況
(豊丘村センブリ)



写真 4-4-15 移植作業の状況
(豊丘村コムラサキ)



写真 4-4-16 移植作業の状況
(豊丘村コムラサキ)



写真 4-4-17 移植作業の状況
(豊丘村ミスミソウ)



写真 4-4-18 移植作業の状況
(豊丘村ミスミソウ)



写真 4-4-19 移植作業の状況
(喬木村コムラサキ)



写真 4-4-20 移植作業の状況
(喬木村コムラサキ)



写真 4-4-21 移植作業の状況
(阿智村オキナグサ)



写真 4-4-22 移植作業の状況
(阿智村オキナグサ)



写真 4-4-23 移植作業の状況
(阿智村アオフタバラン)



写真 4-4-24 移植作業の状況
(阿智村アオフタバラン)

5 その他特に実施した調査

5-1 希少猛禽類の継続調査

評価書において事後調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、工事着手までの間の生息状況を把握するため、継続調査を実施した。既往調査でペアの生息が確認された大鹿村、喬木村、飯田市の高架橋・橋梁、非常口（山岳部）、変電所付近を対象に調査範囲を設定した。なお、本調査では、令和2年度に完了する繁殖期の調査結果を記載した。

なお、ノスリ（大鹿村Aペア）、ノスリ（大鹿村Bペア）、ノスリ（飯田市ペア）、クマタカ（大鹿村Bペア）、クマタカ（大鹿村Cペア）については、工事中の事後調査として「2-2 動物」に記載した。

5-1-1 調査項目

オオタカ（喬木村ペア）、クマタカ（大鹿村Aペア）の生息状況とした。

5-1-2 調査方法

調査方法は、表 5-1-2-1 に示すとおりである。

表 5-1-2-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事着手前の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において8から10倍程度の双眼鏡及び20から60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索した。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録した。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査した。巣の見える位置から8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察した。

5-1-3 調査地点

調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように工事施工ヤードなど事業地周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

5-1-4 調査期間

調査期間は表 5-1-4-1 に示すとおりである。

表 5-1-4-1 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査 繁殖確認調査	繁殖期	令和元年12月22日～令和元年12月24日 令和2年1月19日～令和2年1月21日 令和2年2月16日～令和2年2月21日 令和2年3月14日～令和2年3月19日 令和2年6月4日 令和2年6月7日～9日 令和2年6月24日 令和2年6月28日～令和2年6月30日 令和2年7月5日～令和2年7月10日 令和2年7月27日～令和2年7月28日 令和2年8月2日～令和2年8月4日 令和2年8月25日～令和2年8月26日

注：令和2年4月・5月期は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため調査員の移動ができなかったことから、調査を中止した。

5-1-5 調査結果

希少猛禽類の継続調査における確認状況を表 5-1-5-1 に示す。なお、当該ペアについては事後調査を実施するまでの間、調査を継続的に行う予定である。

表 5-1-5-1 希少猛禽類の確認状況（令和元年12月～令和2年8月）

ペア名	確認状況
オオタカ（喬木村ペア）	平成26年に設置した代替巣での営巣、繁殖を確認した。今後も継続調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
クマタカ（大鹿村Aペア）	昨年と同じ繁殖巣での造巣行動を確認したが、その後、繁殖活動は確認できなかったことから、本年の繁殖は失敗したものと考えられる。今後も継続調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次の通りである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等により確認した。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、令和2年度に廃棄物等が発生した南アルプストンネル（長野工区）、伊那山地トンネル（青木川工区）、伊那山地トンネル（坂島工区）、伊那山地トンネル（戸中・壬生沢工区）、天竜川橋りょうほか、中央アルプストンネル（松川）外、中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）とした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、令和2年度に発生した廃棄物等を集計した。

6-1-5 集計結果

集計結果は、表 6-1-5-1 に示すとおりである。

表 6-1-5-1(1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量
建設発生土 ^注	102,373m ³

注：発生土は、ほぐし土量である。

表 6-1-5-1(2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量	再資源化等の率
建設廃棄物	建設汚泥	639m ³	110m ³	17%
	コンクリート塊	2,711m ³	2,711m ³	100%
	アスファルト・コンクリート塊	809m ³	809 m ³	100%
	建設発生木材	4,191t	4,178t	100%

注1：「再資源化等の量」の定義は以下の通りとする。

- ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計
- ・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計

なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

注2：「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次の通りである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等により確認し、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、令和2年度に工事を実施した南アルプストンネル（長野工区）、伊那山地トンネル（青木川工区）、伊那山地トンネル（坂島工区）、伊那山地トンネル（戸中・壬生沢工区）、喬木村内発生土置き場（堰下）、天竜川橋りょうほか、中央アルプストンネル（松川）外、中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）、中央アルプストンネル（尾越）とした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、令和2年度に発生した温室効果ガスの排出の状況を集計した。

6-2-5 集計結果

集計結果は、表 6-2-5-1 に示すとおりである。

表 6-2-5-1 温室効果ガス（CO₂換算）排出量の状況

区分		温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量（tCO ₂ ）		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費（CO ₂ ）	4,955	6,870	
	燃料消費（N ₂ O）	37		
	電力消費（CO ₂ ）	1,878		
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行	CO ₂	1,427	1,437	
	CH ₄	1		
	N ₂ O	9		
建設資材の使用	CO ₂	12,055	12,055	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	63	64
		N ₂ O	1	
	埋立	CH ₄	—	
CO ₂ 換算排出量の合計			20,426	

注：排出がない場合は「—」と記載した。

7 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 7-1 に示す者に委託して実施した。なお、委託した業務の内、長野県においては、主に株式会社復建エンジニアリング及び国際航業株式会社が担当した。

表 7-1 事後調査及びモニタリングに係る業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海 コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 岩田 眞	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目 33 番 10 号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 小川 紀一朗	東京都新宿区 西新宿六丁目 14 番 1 号
パシフィック コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 重永 智之	東京都千代田区 神田錦町三丁目 22 番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 土方 聡	東京都千代田区 六番町 2 番地
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目 13 番 3 号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 川村 栄一郎	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目 11 番 12 号

注：令和 3 年 6 月時点の情報

表 7-1 のほか、工事中の環境調査等に係る業務の内、工事の実施に関わる一部の測定は、表 7-2 に示す工事請負業者が実施した。なお、発生土置き場（堰下）については、喬木村に工事を委託している。また、中央アルプストンネル（松川）外、中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）及び中央アルプストンネル（尾越）については、鉄道・運輸機構に工事を委託している。

表 7-2 測定を実施した工事請負業者

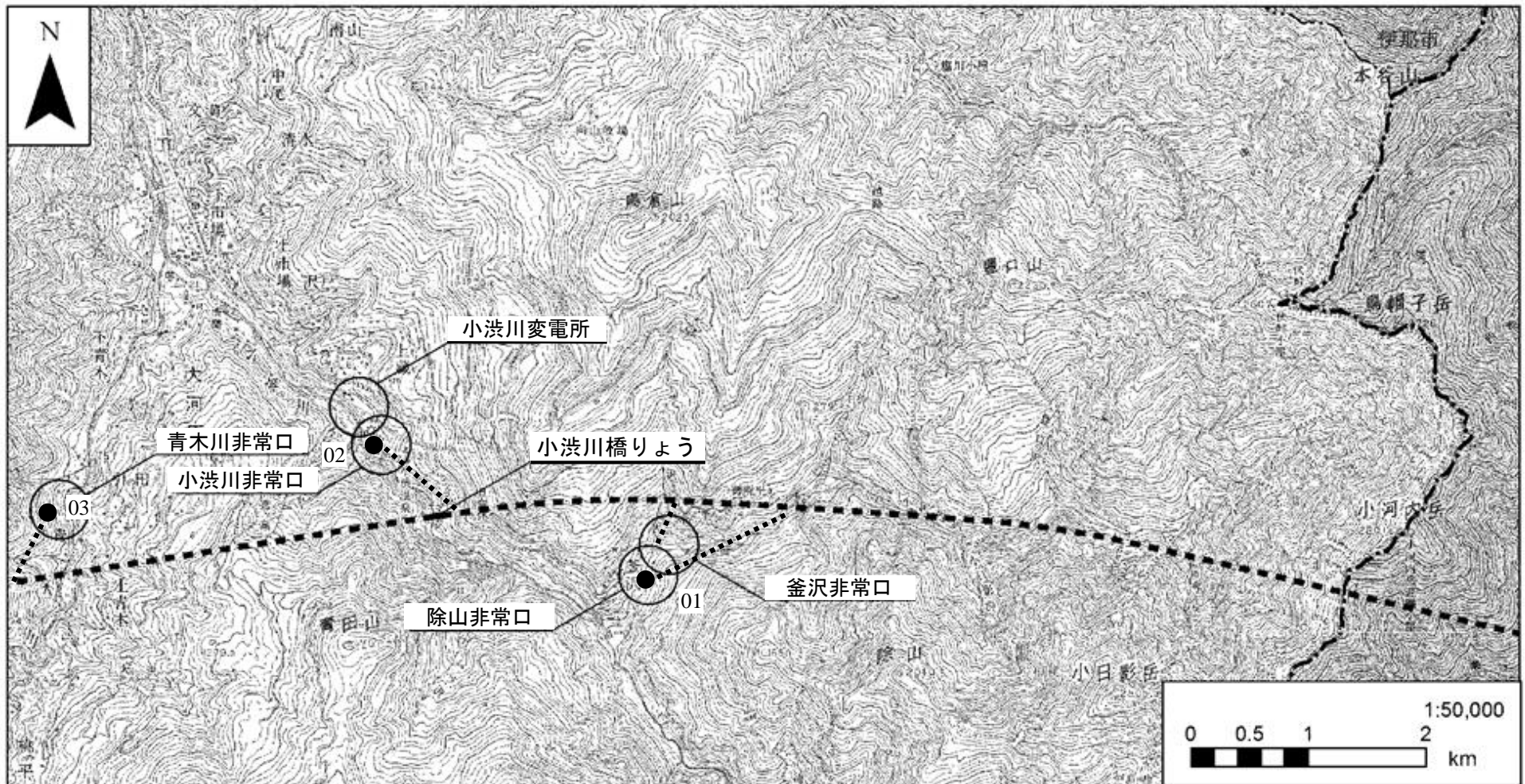
主な実施箇所	工事請負業者の名称
南アルプストンネル	中央新幹線南アルプストンネル新設（長野工区） 工事共同企業体
伊那山地トンネル	中央新幹線伊那山地トンネル新設（青木川工区） 工事共同企業体
	中央新幹線伊那山地トンネル新設（坂島工区） 工事共同企業体
	中央新幹線伊那山地トンネル新設（戸中・壬生沢工区） 工事共同企業体
発生土置き場（堰下）	野島建設株式会社
天竜川橋りょうほか	中央新幹線天竜川橋りょうほか新設 工事共同企業体
中央アルプストンネル	戸田・あおみ・矢作 中央新幹線、中央アルプストンネル（松川）外 特定建設工事共同企業体
	清水・三井住友・東急 中央新幹線、中央アルプストンネル（萩の平・広瀬） 特定建設工事共同企業体
	大林・若築・株木 中央新幹線、中央アルプス、中央アルプス（尾越） 特定建設工事共同企業体

参考資料 1 : 騒音・振動の簡易計測

工事最盛期のモニタリングとは別に、各工区において、建設機械の稼働に係る騒音・振動の状況を確認するための簡易な計測を実施している。計測中は、周辺からも確認できる位置にモニターを設置して騒音・振動の値を常時表示するとともに、作業中は適宜、騒音・振動の状況を確認して作業騒音の低減に努めた。騒音・振動の計測地点は表 参 1-1 及び図 参 1-1～1-2 に示すとおりである。また、モニター表示例を写真 参 1-1 に示す。

表 参 1-1 簡易計測の実施地点

地点 番号	市町 村名	所在地	実施箇所
01	大鹿村	大河原	除山非常口
02	大鹿村	大河原	小渋川非常口
03	大鹿村	大河原	青木川非常口



凡例

- - - 計画路線(トンネル区間)
- 調査地点(簡易計測)
- 計画路線(地上区間)
- 非常口トンネル(斜坑)
- - - 県境
- 市町村境

図 参 1-1 簡易計測の実施地点(騒音・振動)

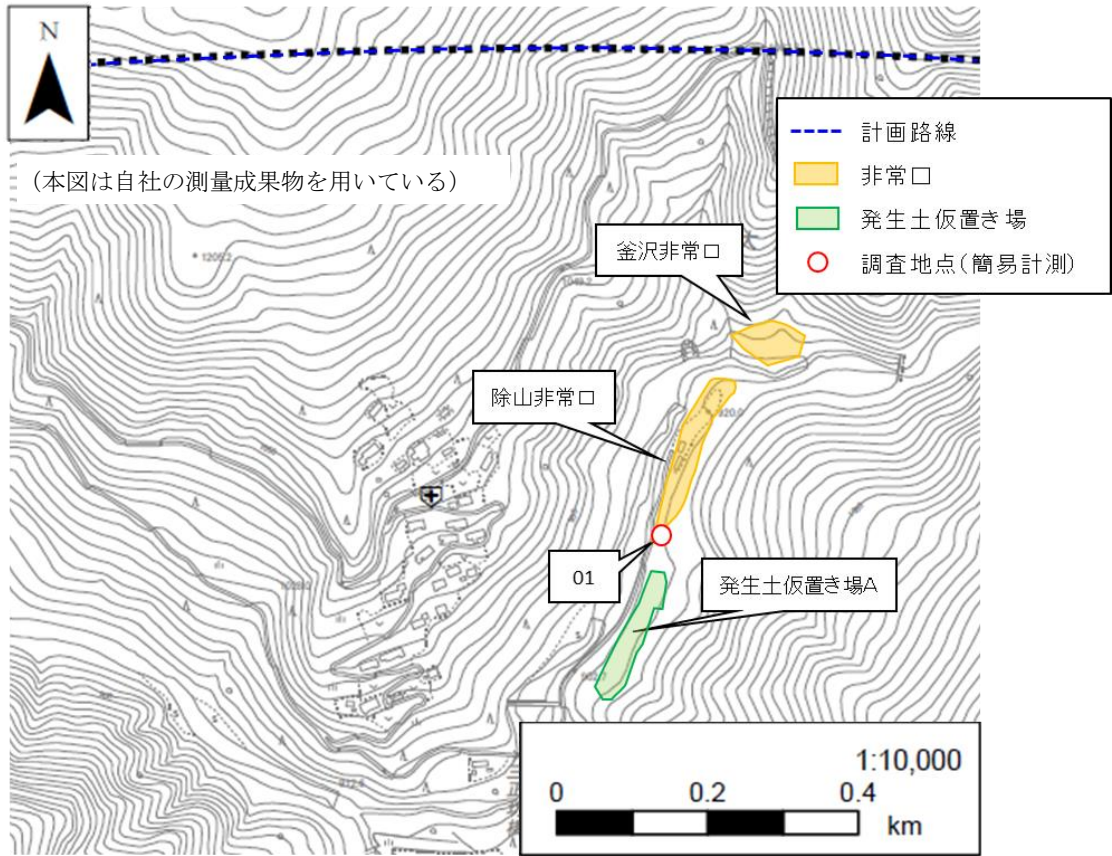
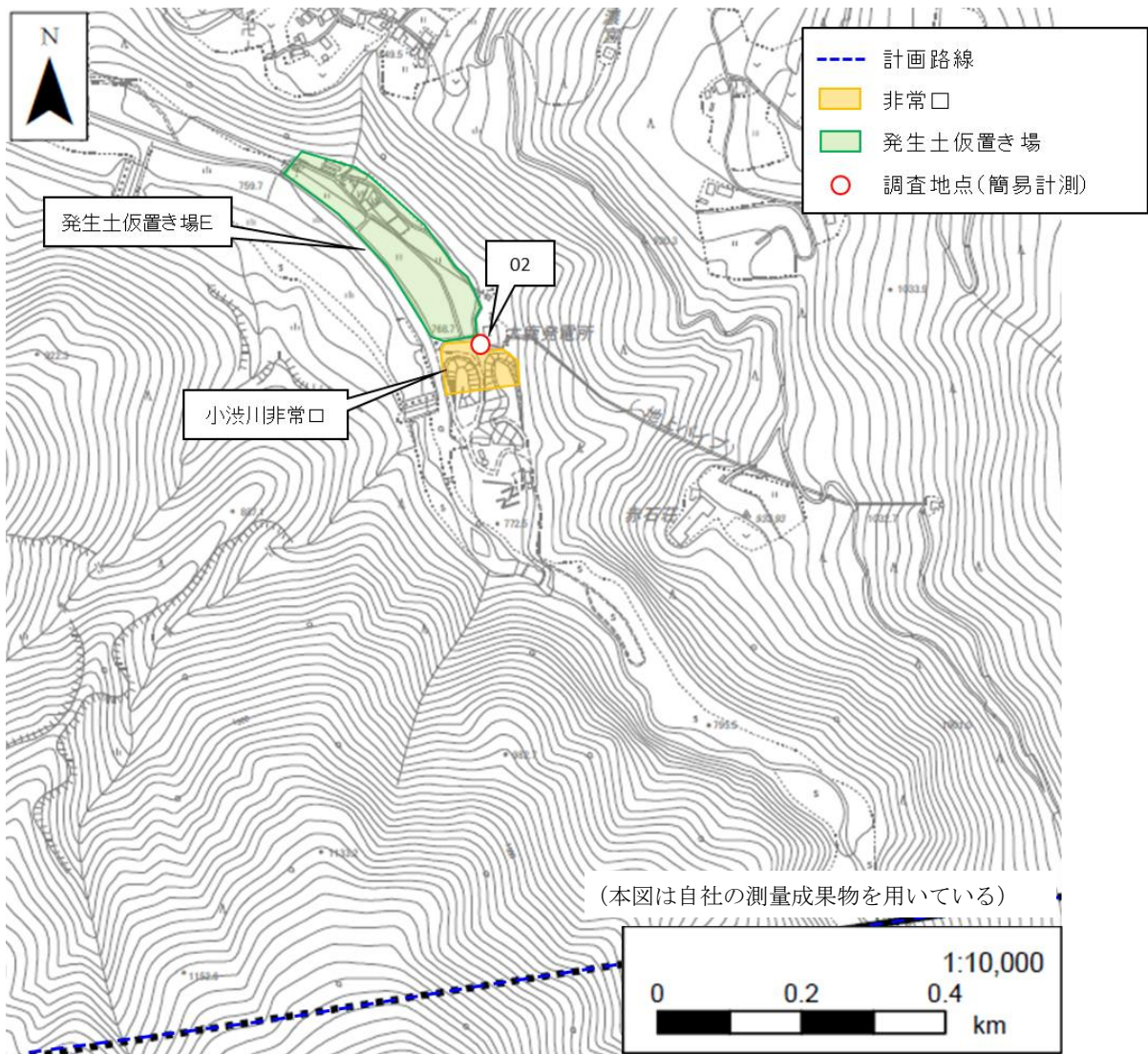


図 参 1-2 (1) 簡易計測の実施地点 (01 除山非常口)



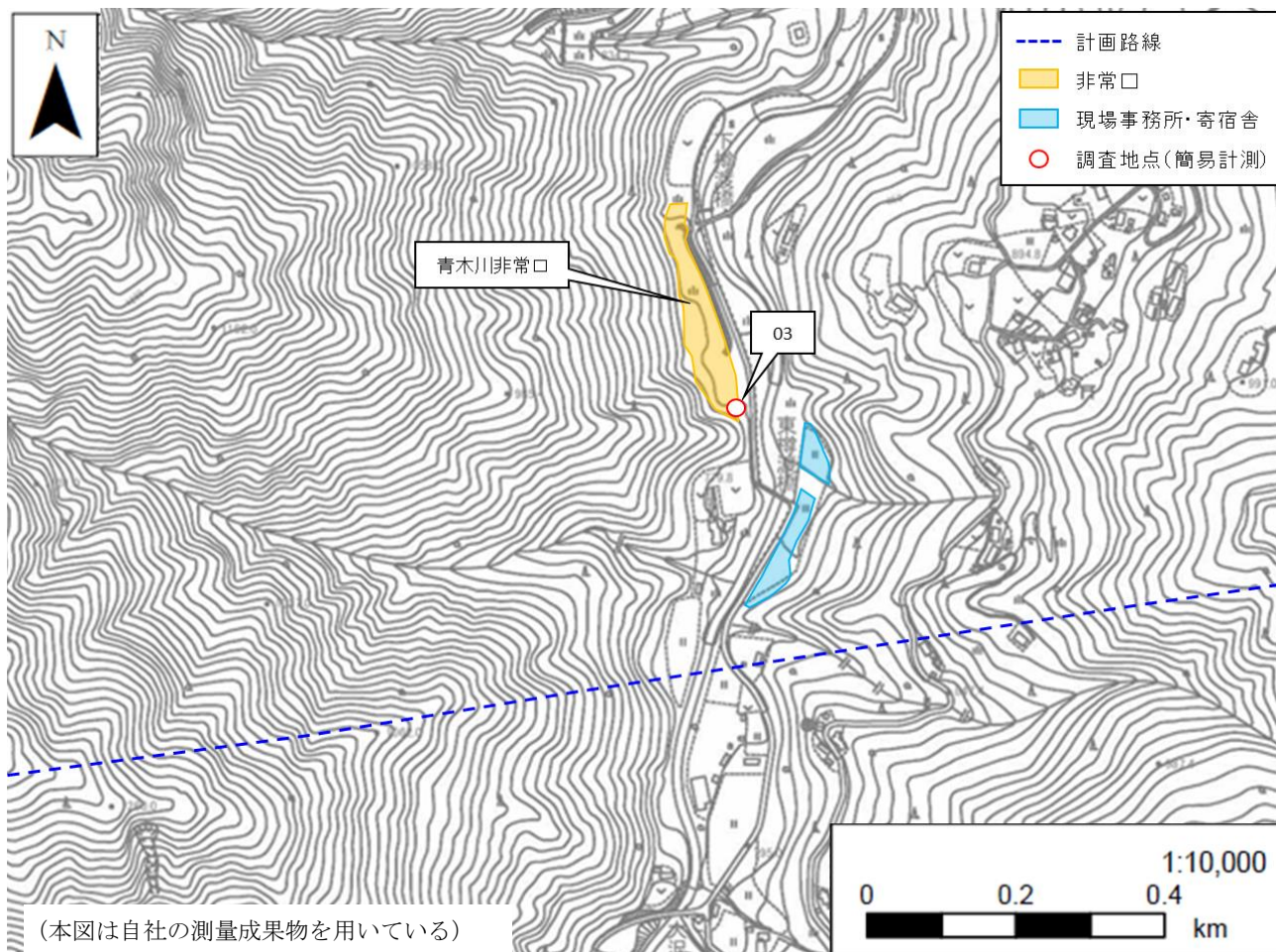


図 参 1-2 (3) 簡易計測の実施地点 (03 青木川非常口)



写真 参 1-1 モニター表示例 (02 小渋川非常口)

注：本モニターは騒音、振動を切り替えて表示している

参考資料 2：事業の実施状況

2-1 トンネルの施工状況

令和 2 年度までの工事の実施箇所におけるトンネルの施工状況を、以下に示す。

南アルプストンネルについて、除山非常口トンネルを 7 割程度（約 1,400m）掘削した。釜沢非常口トンネルを 3 割程度（約 100m）掘削した。小渋川非常口トンネル（約 1,100m）の掘削が令和元年度に完了した。先進坑は、小渋川非常口トンネル接続部から釜沢非常口トンネル接続部の間を 5 割程度（約 800m）掘削した。

伊那山地トンネルについて、青木川非常口トンネルを 6 割程度（約 400m）掘削した。

2-2 トンネル湧水等の状況

令和2年度までの山岳トンネル工事の実施箇所におけるトンネル湧水等^注の状況を、以下に示す。

2-2-1 南アルプストンネル（長野工区）

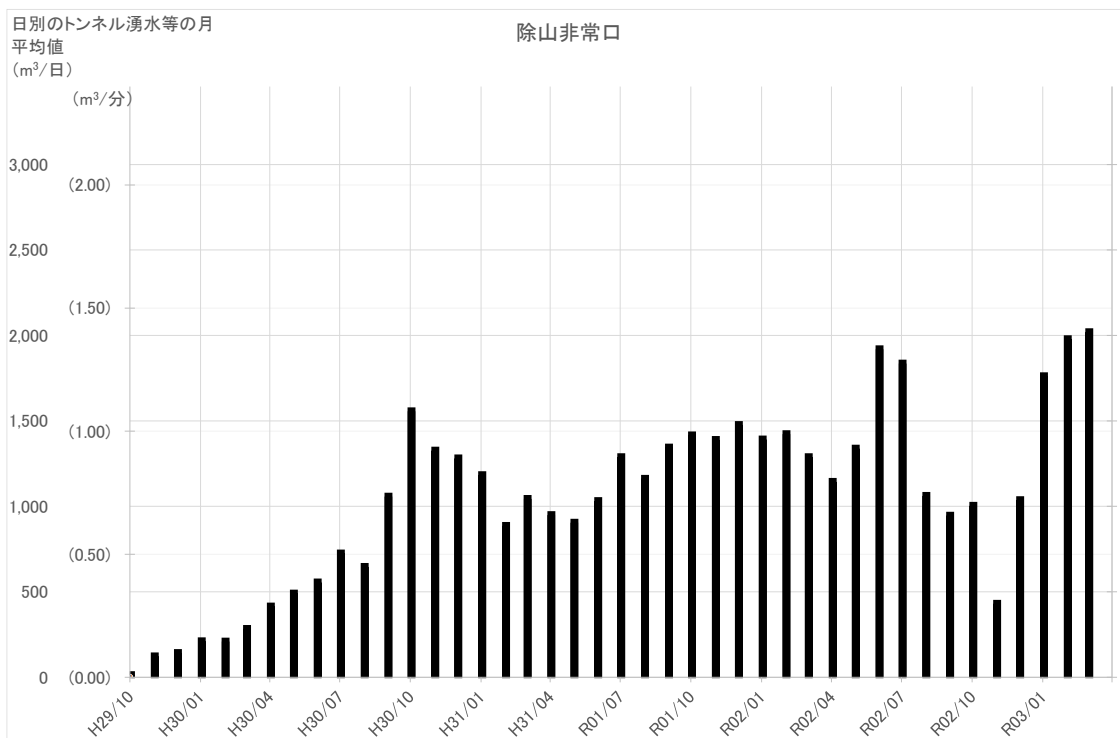


図 参 2-1 除山非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況（令和2年度まで）

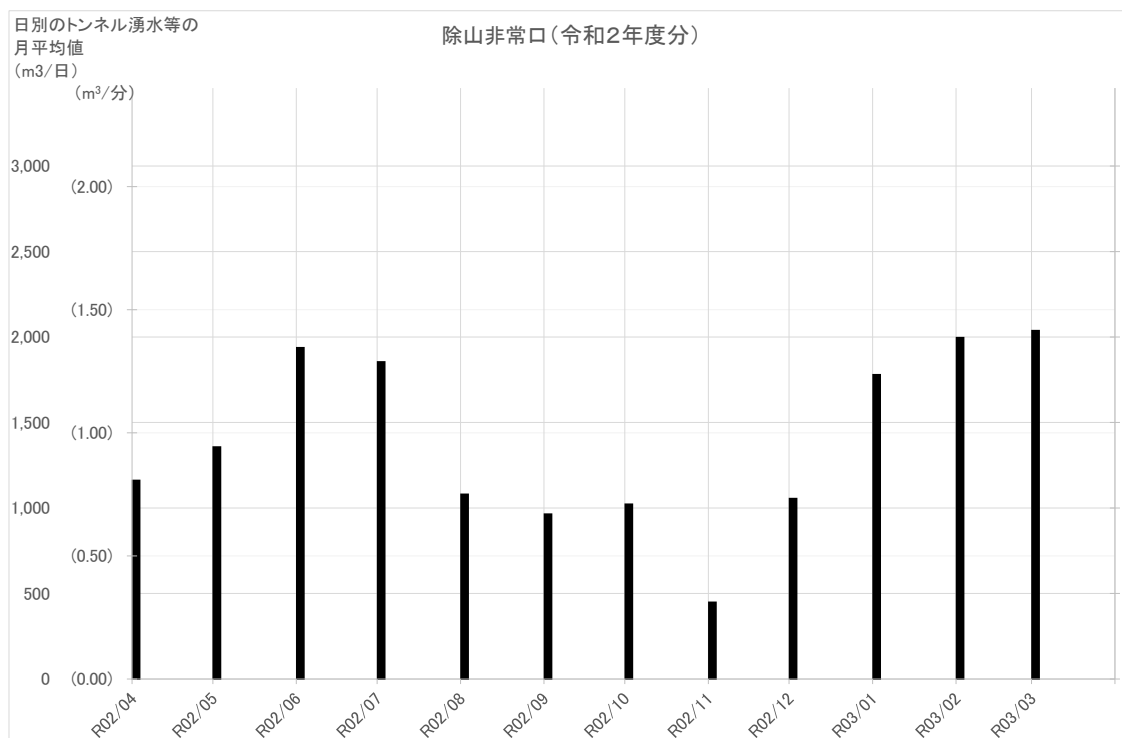


図 参 2-2 除山非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況（令和2年度分）

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

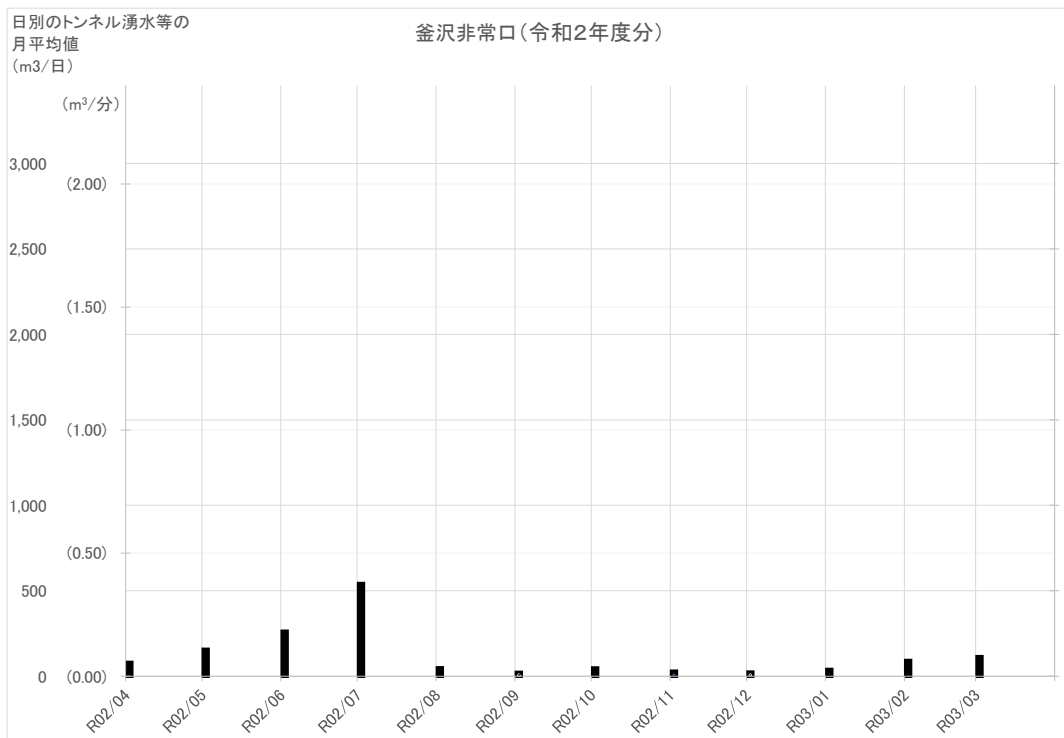


図 参 2-3 釜沢非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況 (令和2年度分)

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

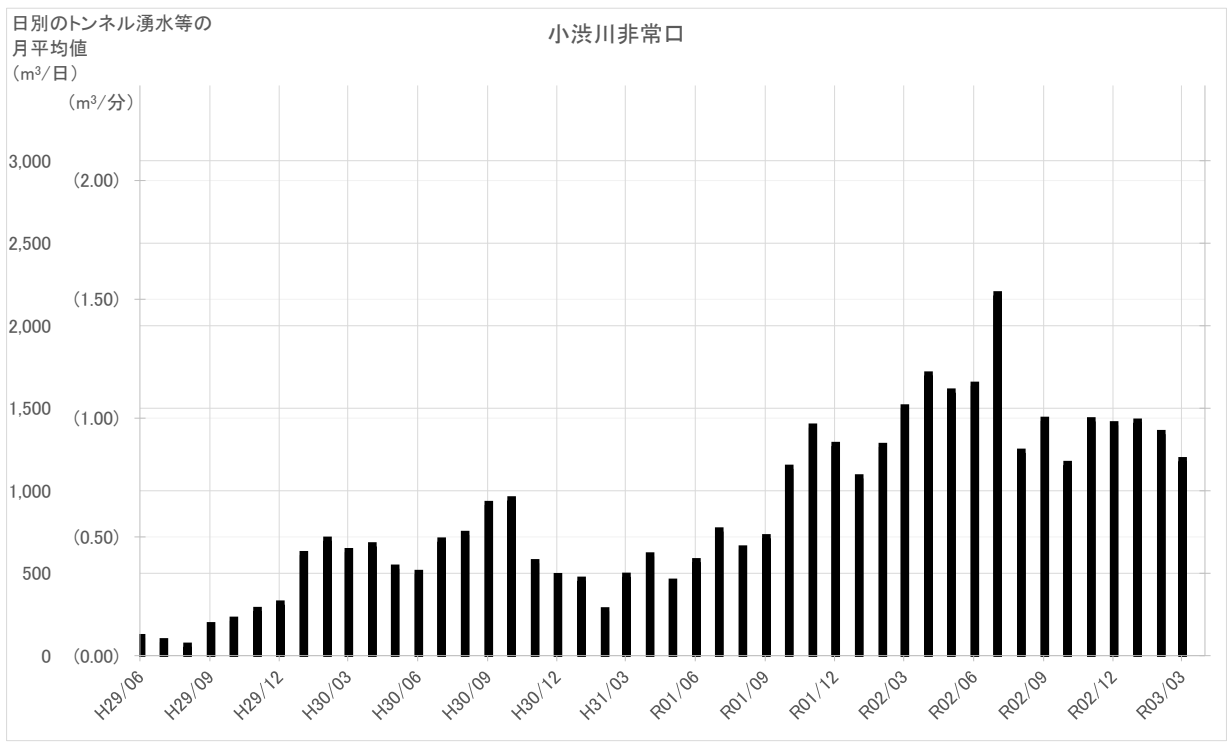


図 参 2-4 小渋川非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況 (令和2年度まで)

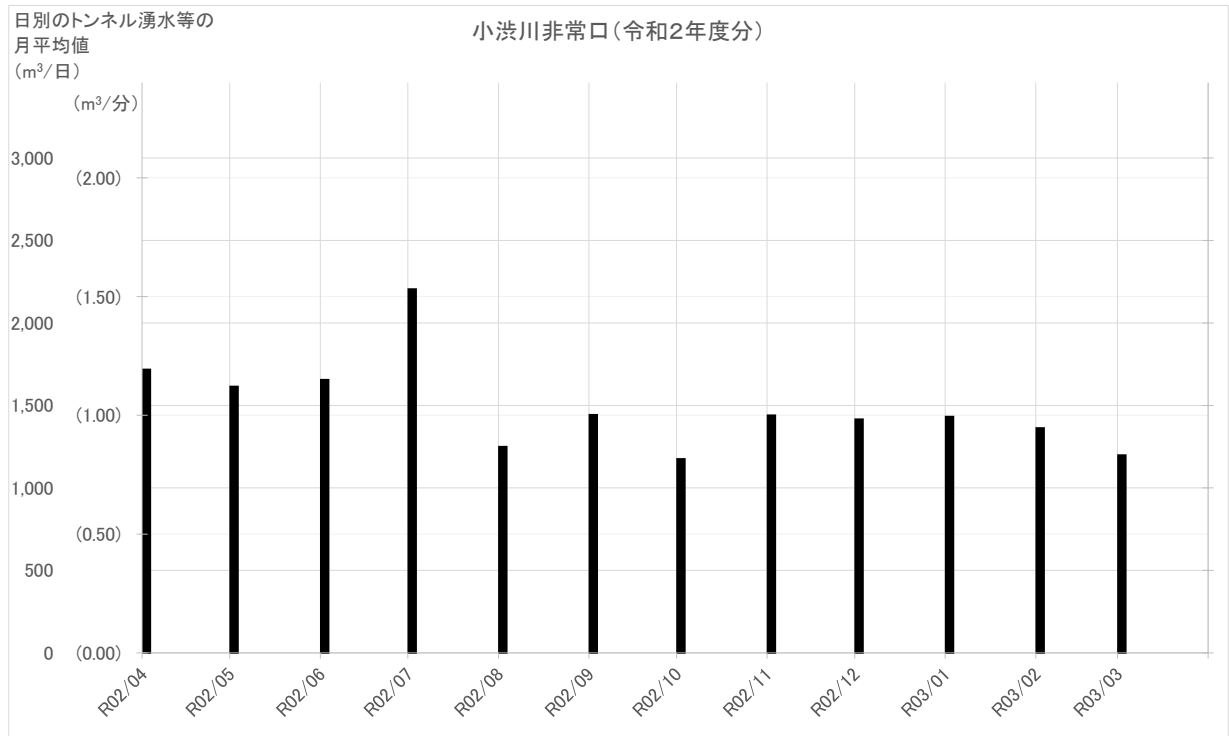


図 参 2-5 小渋川非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況 (令和2年度分)

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

2-2-2 伊那山地トンネル（青木川工区）

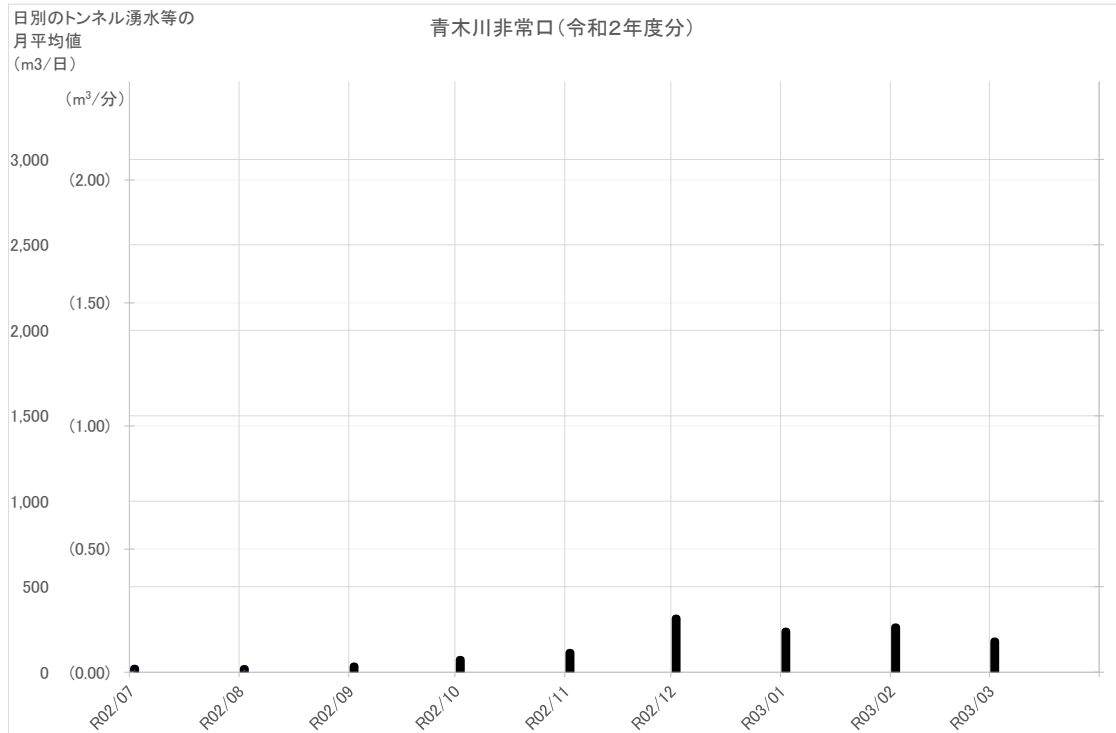


図 参 2-6 青木川非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等^注の状況（令和2年度分）

注：トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。

2-3 建設発生土の主な搬出先と土量

令和2年度の各工事実施箇所における建設発生土の主な搬出先と土量について、自治体等を窓口を活用しているものは、表 参 2-1 に、令和2年度末時点で、当社が計画・設置する発生土置き場に活用した土量^注は、表 参 2-2 に、発生土仮置き場等に存置している土量^注は、表 参 2-3 に示すとおりである。なお、土壤汚染対策法で定める土壤溶出量基準値を超える自然由来の重金属等を含む発生土または酸性化可能性試験により長期的な酸性化の可能性がある発生土^注（以下、「区分土」という。）は表 参 2-4 に示すとおりである。

注：締固めた土量で表記している。

表 参 2-1 建設発生土の主な搬出先と土量

市町村名	建設発生土の搬出元	主な搬出先	土量
大鹿村	小渋川非常口	飯田市が実施している 代替地整備事業	約7万 m ³
大鹿村	青木川非常口	喬木村が実施している 工場団地造成事業	

表 参 2-2 発生土置き場に活用した土量

市町村名	発生土置き場	土量
大鹿村	発生土置き場（旧荒川荘）	約3万 m ³
大鹿村	発生土置き場（青木川）	約1万 m ³
豊丘村	発生土置き場（本山）	約1万 m ³
喬木村	発生土置き場（堰下）	約1万 m ³

注：締固めた土量で表記している。

表 参 2-3 発生土仮置き場等に存置している土量

市町村名	発生土仮置き場等	土量
大鹿村	発生土仮置き場A	約8万 m ³
	発生土仮置き場B	
	発生土仮置き場E	
豊丘村	発生土置き場（本山） 仮置きヤード	約1万 m ³

注：締固めた土量で表記している。

注：発生土仮置き場 E の土量については、土壤汚染対策法で定める土壤溶出量基準値を超える自然由来の重金属等を含む発生土または酸性化可能性試験により長期的な酸性化の可能性がある発生土は含まない。

表 参 2-4 発生土仮置き場等に存置している区分土の土量

市町 村名	発生土仮置き場等	土量
大鹿村	発生土仮置き場E	1万 m ³ 未満

注：締固めた土量で表記している。

本書で利用した地図は、注記があるものを除き、国土地理院発行の数値地図50000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を加工して作成した。

本書は、再生紙を使用している。